



Tokushima University

ラーニングライフ

第6回学生の学修に関する実態調査報告書



令和3年8月
徳島大学

LEARNING LIFE

まえがき

ラーニングライバー第6回学生の学修に関する実態調査報告書－をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。徳島大学では、これまでほぼ2年ごとに「学生生活に関する実態調査」を行い、学生の生活全般にわたる状況を調査・報告し教育や学生指導に役立ててきました。これに加え、13年前から「学生の学習に関する実態調査」（平成28年度実施分からは「学生の学修に関する実態調査」に変更）を実施し、本年度は第6回目の調査結果のご報告となります。なお、本調査は前年度から実施形態を見直し、大学IRコンソーシアムの学生調査と合同して学部1年生及び3年生を対象に毎年実施することとしております。

さて本報告書には、学生自身のこと・全般的な学修状況・英語の学修状況・大学生活に対する考え方や満足度・入学前について（1年生）・将来について（3年生）等全体で143の質問により調査されたアンケート結果をまとめています。続いて、それらの結果の分析から明らかになった各学部の現状と課題、さらに全学的なまとめと提言により構成されています。学部のみならず、学科やコース等のオリエンテーションの際や、日頃の教育活動・学生指導においてこれらのデータや分析結果をご活用いただければ幸いです。

一昨年11月に初めて確認されて以来、なお制圧どころか収束の兆しそう見えない新型コロナウイルス禍は、学生や教職員の皆様に想定し難い非常態の大学生活や教育研究業務を強いています。こうした状況は申し訳なく、また大いに遺憾なことと存じます。今回のアンケート結果には、本感染症の影響も少なからず反映されていると感じます。またこの窮状から、大学での学びの現場にインターネットを利用した様々な形態の遠隔授業が一気に加速・浸透しました。今後は、こうした履修形態によるアウトプットやアウトカムに対する分析・検討も必須と思われます。

本調査の実施並びに報告書の作成にあたり、教育の質に関する専門委員会及び高等教育研究センター教育改革推進部門の先生方、及び学務部職員の皆様にはアンケート項目の設定にはじまり、調査の実施、集計、結果の分析まで、精力的に遂行し早期に報告書としておまとめいただきました。教育の質に関する専門委員会委員長 衣川 仁 教授をはじめとするそれらの皆様に厚く御礼申し上げます。併せて、調査にご協力下さいました学生の皆様に感謝いたします。結びとしまして、本報告書には現在の学部学生諸君の学びの実態と、調査結果の丁寧な分析に基づいた教育の質向上の手がかり、並びにFD活動の新たな取り組み事項も提案されています。より良い徳島大学の教育実現に、本報告書を大いに活用いただきますようお願い申し上げます。

令和3年8月

徳島大学理事（教育担当）・副学長

大学教育委員会委員長

河 村 保 彦

目 次

まえがき	1
序 章 学生の学修に関する実態調査の概要	
1 調査の目的	3
2 調査の組織	3
3 調査の対象及び方法	3
4 調査の時期	3
5 調査の内容	3
6 調査票の回収状況	4
7 図中の%表示	4
令和2年度 学生の学修に関する実態調査回収率	5
第1章 設問・調査結果	
1 1年生調査 設問	6
2 1年生調査 結果	19
3 3年生調査 設問	105
4 3年生調査 結果	118
第2章 学部等の現状と課題	
1 総合科学部	205
2 医学部医学科	207
3 医学部医科栄養学科	208
4 医学部保健学科	209
5 歯学部	210
6 薬学部	214
7 理工学部	217
8 生物資源産業学部	218
9 教養教育	219
10 F D (Faculty Development) の観点から	221
11 e ラーニング	222
12 附属図書館	224
第3章 まとめと提言	226

序章 学生の学修に関する実態調査の概要

1. 調査の目的

学生の学修意識や学修に関する実態を把握し、今後の教育改革並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の組織

教育の質に関する専門委員会委員の次の委員及び高等教育研究センター教育の質保証支援室を中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	部局	職名
委員長	衣川 仁	総合科学部	教授
委員	常山 幸一	医学部	教授
委員	馬場 麻人	歯学部	教授
委員	藤野 裕道	薬学部	教授
委員	馬場 俊孝	理工学部・工学部	教授
委員	中村 嘉利	生物資源産業学部	教授
委員	渡部 稔	教養教育院	教授
委員	吉田 博	高等教育研究センター	准教授
委員	松浦 健二	情報センター	教授
委員	二川 健	医学部	教授
委員	吉永 哲哉	医学部	教授
	塩川 奈々美	高等教育研究センター	助教

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学に在学する1年生（1,338人）及び3年生（1,373人）（令和2年10月1日在籍するもの）を調査対象とした。

調査方法は、各学部の学務（教務）係及び教育の質に関する専門委員会委員の協力を得て調査票を配布し、教務システム上（Web）で実施した。

4. 調査の時期

この調査は、令和2年10月1日から11月30日まで実施し、10月1日現在の実状について回答を依頼した。

5. 調査の内容

調査項目は、学生の学修意識や学修に関する実態を把握する目的に基づき、IRコンソーシアムの学生調査項目及び「教育の質に関する専門委員会」委員・高等教育研究センター教育改革推進部門が作成した、全143項目とした。

6. 調査票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者 1 年生 1,338 人及び 3 年生 1,373 人のうち回答数は、1 年生 901 人及び 3 年生 689 人で、回収率は 1 年生 67.3% 及び 3 年生 50.2% であった。学部・学科別の回収状況は次表のとおりである。

7. 図中の%表示

複数回答可の設問については、グラフ中に回答者数における回答数の割合を表示した。
択一の設問については、端数処理の関係で合計が 100% にならない場合がある。

令和2年度 学生の学修に関する実態調査回収率

1年生

学部・学科・コース・専攻	回答数	学生数	回収率
総合科学部	126	174	72.4%
医学部医学科	94	116	81.0%
医学部医科栄養学科	48	52	92.3%
医学部保健学科（看護）	72	73	98.6%
医学部保健学科（放射）	39	39	100.0%
医学部保健学科（検査）	18	19	94.7%
歯学部歯学科	25	41	61.0%
歯学部口腔保健学科	15	15	100.0%
薬学部共通学科	0	1	0.0%
薬学部薬学科	24	39	61.5%
薬学部創製薬科学科	35	42	83.3%
理工学部理工学科（社会基盤）	54	89	60.7%
理工学部理工学科（機械科学）	79	122	64.8%
理工学部理工学科（応用化学）	36	80	45.0%
理工学部理工学科（電気電子）	48	113	42.5%
理工学部理工学科（情報光）	90	155	58.1%
理工学部理工学科（応用理数）	37	69	53.6%
生物資源産業学部	61	100	61.0%
合計	901	1339	67.3%

3年生

学部・学科・コース・専攻	回答数	学生数	回収率
総合科学部	102	185	55.1%
医学部医学科	106	120	88.3%
医学部医科栄養学科	45	50	90.0%
医学部保健学科（看護）	72	73	98.6%
医学部保健学科（放射）	36	36	100.0%
医学部保健学科（検査）	18	18	100.0%
歯学部歯学科	33	44	75.0%
歯学部口腔保健学科	12	15	80.0%
薬学部共通学科	0	1	0.0%
薬学部薬学科	40	42	95.2%
薬学部創製薬科学科	30	35	85.7%
理工学部理工学科（社会基盤）	24	109	22.0%
理工学部理工学科（機械科学）	54	127	42.5%
理工学部理工学科（応用化学）	13	83	15.7%
理工学部理工学科（電気電子）	25	136	18.4%
理工学部理工学科（情報光）	23	142	16.2%
理工学部理工学科（応用理数）	17	61	27.9%
生物資源産業学部	39	97	40.2%
合計	689	1374	50.1%

※理工学部の学生数には、夜間主及び工学部の学生数も含まれています。

1年生調査 設問

I. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

[1] 徳島大学学習に関する実態調査（大学 IR コンソーシアム調査）の主旨を確認し、データ利用について同意してください。

1. 同意する

※徳島大学学習に関する実態調査の主旨

「徳島大学学習に関する実態調査」は、学生の学習の実態を把握し、教育活動の効果を検証し、今後の改善に活かすために実施します。調査データは統計的に処理され、成績等のデータとともに分析を行うことがあります、個人を特定したり、成績に影響させることはありません。ただし、回答率が低い場合は、回答を促す連絡を個人にする場合があります。

また、複数の大学の状況と比較するために、調査データを本学が加盟している大学 IR コンソーシアムの学生調査にも使用し、他の加盟校（約 50 校）と集計結果を共有しますが、その場合も個人を特定したり、成績に影響させることはありません。

[2] あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 30 分未満 | 2. 30 分以上－1 時間未満 |
| 3. 1 時間以上－1 時間 30 分未満 | 4. 1 時間 30 分以上－2 時間未満 |
| 5. 2 時間以上 | |

[3] あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 家族または親戚と暮らしている | 2. アパート・学生マンションでひとり暮らし |
| 3. 大学寮や合宿所 | 4. その他 |

II. 大学に入学してからのあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

	ひんぱん にあった	ときどき あった	あまり なかった	まったく なかった
[4] 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	4	3	2	1
[5] 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	4	3	2	1
[6] 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する	4	3	2	1
[7] 授業の一環でボランティア活動をする	4	3	2	1
[8] 学生自身が文献や資料を調べる	4	3	2	1
[9] 定期的に小テストやレポートが課される	4	3	2	1

[10] 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	4	3	2	1
[11] 学生が自分の考えや研究を発表する	4	3	2	1
[12] 授業中に学生同士が議論をする	4	3	2	1
[13] 授業で検討するテーマを学生が設定する	4	3	2	1
[14] 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	4	3	2	1
[15] 取りたい授業を履修登録できなかった	4	3	2	1
[16] 出席することが重視される	4	3	2	1
[17] TA や SA などの授業補助者から補助を受ける	4	3	2	1

[18] 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

1. 80%以上 2. 70%以上 3. 60%以上 4. 60%未満

[19] あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。（複数回答可）

1. 課題演習 2. 質疑応答 3. 振り返り※1 4. グループワーク
5. ディスカッション 6. 反転授業※2 7. ラーニング・ポートフォリオ※3

※1 学んだことについてまとめ、その内容を学生同士あるいは教員が確認しフィードバックを行う方法

※2 授業を受講する前に講義や説明の部分を事前に配付資料や動画で学修し、その内容に関する確認課題（簡単な復習テスト等）を行い、対面の授業時間内では講義以外の授業方法を取り入れて、学生の能動的な学修を促進する方法

※3 授業のある単元が終了した後で、学生が学修（実験、実習、演習等）に関する振り返りを行い、その内容を記述し、他者と共有できる形で蓄積し、フィードバックを受けることができるシステムまたは教材等を取り入れた方法

大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

	ひんぱんにした	ときどきした	あまりしなかつた	まったくしなかつた
[20] 授業課題のために図書館の資料を利用した	4	3	2	1
[21] 授業課題のために Web 上の情報を利用した	4	3	2	1
[22] インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	4	3	2	1
[23] 提出期限までに授業課題を完成できなかつた	4	3	2	1
[24] 授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした	4	3	2	1
[25] 授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	4	3	2	1
[26] 授業を欠席した	4	3	2	1
[27] 授業に遅刻した	4	3	2	1

[28] 授業をつまらなく感じた	4	3	2	1
[29] 授業中に居眠りをした	4	3	2	1
[30] 学内での学習支援を受けた（教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等）	4	3	2	1
[31] 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した	4	3	2	1
[32] 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）	4	3	2	1
[33] 教員に親近感を感じた	4	3	2	1

入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

	全然ない	1時間未満	1～2時間	3～5時間	6～10時間	11～15時間	16～20時間	20時間以上
[34] 授業や実験に出る	1	2	3	4	5	6	7	8
[35] 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[36] 授業時間外に、授業に関連しない勉強をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[37] オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する	1	2	3	4	5	6	7	8
[38] 部活動や同好会に参加する	1	2	3	4	5	6	7	8
[39] 大学外でアルバイトや仕事をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[40] 読書をする（マンガ・雑誌を除く）	1	2	3	4	5	6	7	8
[41] 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）	1	2	3	4	5	6	7	8

入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく増えた	増えた	変化なし	減った	大きく減った
[42] 一般的な教養	5	4	3	2	1
[43] 分析力や問題解決能力	5	4	3	2	1
[44] 専門分野や学科の知識	5	4	3	2	1
[45] 批判的に考える能力	5	4	3	2	1
[46] 異文化の人々に関する知識	5	4	3	2	1
[47] リーダーシップの能力	5	4	3	2	1
[48] 人間関係を構築する能力	5	4	3	2	1
[49] 他の人と協力して物事を遂行する能力	5	4	3	2	1
[50] 異文化の人々と協力する能力	5	4	3	2	1

[51]	地域社会が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[52]	国民が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[53]	文章表現の能力	5	4	3	2	1
[54]	外国語の運用能力	5	4	3	2	1
[55]	コミュニケーションの能力	5	4	3	2	1
[56]	プレゼンテーションの能力	5	4	3	2	1
[57]	数理的な能力	5	4	3	2	1
[58]	コンピュータの操作能力	5	4	3	2	1
[59]	時間を効果的に利用する能力	5	4	3	2	1
[60]	グローバルな問題の理解	5	4	3	2	1
[61]	卒業後に就職するための準備の度合い	5	4	3	2	1

[62] 大学における教育に対して、何を期待しますか。（複数回答可）

1. 社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能
2. 人生を支える幅広い教養
3. 資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位
4. 特に期待するものはない

[63] 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. 一般知識・教養 | 2. 専門的知識 |
| 3. 課題発見・解決力 | 4. チームで目標を達成するマネージメント能力 |
| 5. コミュニケーション能力 | 6. 討論する能力 |
| 7. 語学力 | 8. 情報機器を活用する力 |
| 9. 論理的な文章を書く能力 | |

[64] 徳島大学では「GPA（自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値）」を成績表に記載しています。自身の「GPA」について確認していますか。

1. 確認している
2. 確認していない

[65] レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。（複数回答可）

1. 教科書・参考書・授業での配付資料
2. インターネット
3. 教員
4. 友人・先輩
5. 図書館の書籍・文献（電子版含む）
6. 講義ノート

[66] 教科書を購入していない場合の理由は何ですか。（複数回答可）

1. 必要な教科書は全て購入している
2. 教科書がなくても授業内容が理解できる
3. 教科書が高価である
4. 先輩、友人の本を使う
5. 図書館などの本を利用する
6. 購入しても、読まない。内容が理解できない
7. 講義資料・試験対策プリントで学修する

[67] 大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)

1. 大学の授業以外で、実行や計画していることはない
2. 教養や社会問題の理解に役立つ読書
3. 語学など自分の将来を考えたスキルの修得
4. 数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
5. 自分の興味あるテーマの探究
6. 資格取得や受験に備えた学修
7. 卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等

[68] 高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)

1. 高校の教科書、参考書を使い、勉強した
2. 教養教育で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
3. HP 上の徳島大学 LMS (リメディアル教材) を利用して勉強した
4. 勉強の必要性を感じたが、LMS (リメディアル教材) の存在を知らず何もしていない
5. 支障を感じないので何もしていない

III. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の 5 つの観点から自己評価した場合に、「①入学時」と「②現在」それぞれについて、到達していると思うレベルを、1つ答えてください。

レベル
低

高

[69] 聞く力

	①入学時	②現在
A1 はっきりと、ゆっくり話してもらえば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。	1	1
A2 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。	2	2
B1 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。	3	3
B2 テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。	4	4
C1 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。	5	5
C2 母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。	6	6

[70] 読む力

レベル
低

高

	①入学時	②現在
A1 掲示やポスター、カタログなどの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	1	1
A2 ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。	2	2
B1 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。	3	3
B2 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	4	4
C1 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的記事も理解できる。	5	5
C2 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	6	6

[71] 会話力		①入学時	②現在
レベル 低 高	A1. 1 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	↓ 1	↓ 1
	A1. 2 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	2	2
	A2. 1 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくいが、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。	3	3
	A2. 2 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。	4	4
	B1 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。	5	5
	B2 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	6	6
	C1 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	7	7
	C2 いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	8	8

[72] 表現力		①入学時	②現在
レベル 低 高	A1 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	↓ 1	↓ 1
	A2 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	2	2
	B1 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。	3	3
	B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	4	4
	C1 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	5	5
	C2 論理的な会話で聞き手に重要な点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。	6	6

[73] 書く力		①入学時	②現在
レベル 低 高	A1 お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	↓ 1	↓ 1
	A2 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	2	2
	B1 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	3	3
	B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	4	4
	C1 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	5	5
	C2 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	6	6

[74] どのように、英語の勉強を行っていますか。（複数回答可）

1. 毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
2. 英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
4. TOEIC、TOEFLや英検などの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
5. TOEIC、TOEFLや英検などの英語能力試験を定期的に受験している
6. 授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している
7. 留学生と交流している

[75] アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外（インド、シンガポール等）などへの渡航経験（期間）についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを目指した渡航経験があれば、その期間（複数回の経験がある場合は最長のもの）について1つ選んで回答してください。

1. 渡航したことではない
2. 10日未満
3. 10日以上1ヶ月未満
4. 1ヶ月以上6ヶ月未満
5. 6ヶ月以上

[76] 徳島大学における英語教育についてどう思いますか。（複数回答可）

1. 教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
2. もっと授業数を増やしてほしい
3. もっと授業数を減らしてほしい
4. もっと少人数のクラスにしてほしい
5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
6. 専門英語の時間を増やしてほしい
7. 専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

IV. 次に、大学生活に対するあなたの考え方や満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいうまくいきましたか。

	とても うまく いった	いくらか うまく いった	あまり うまくいか なかつた	まったく うまくいか なかつた
[77] 大学の学生向けサービスを上手に利用する	4	3	2	1
[78] 大学教員の学問的な期待を理解する	4	3	2	1
[79] 効果的に学習する技能を修得する	4	3	2	1
[80] 大学が求める水準に応えて学習する	4	3	2	1
[81] 時間を効果的に使う	4	3	2	1
[82] 大学教員と顔見知りになる	4	3	2	1
[83] 他の学生との友情を深める	4	3	2	1

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

	非常にそう思う	そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない
[84] 自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組めている	5	4	3	2	1
[85] 日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている	5	4	3	2	1
[86] 現在の自分の学修時間や学修態度に満足している	5	4	3	2	1

[87] あなたの学生生活は充実していますか。

- | | |
|---------------|---------------|
| 4. 充実している | 3. まあまあ充実している |
| 2. あまり充実していない | 1. 充実していない |

あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
[88] 共通教育あるいは教養教育の授業	5	4	3	2	1
[89] SIH 道場～アクティブラーニング入門～の授業	5	4	3	2	1
[90] 初年次生を対象とした教育プログラム内容（フレッシュセミナー、基礎ゼミなど）	5	4	3	2	1
[91] 授業の全体的な質	5	4	3	2	1
[92] 日常生活と授業内容との関連	5	4	3	2	1
[93] 将来の仕事と授業内容の結びつき	5	4	3	2	1
[94] 教員と話をする機会	5	4	3	2	1
[95] 学習支援や個別の学習指導	5	4	3	2	1
[96] 他の学生と話をする機会	5	4	3	2	1
[97] 大学のなかでの学生同士の一体感	5	4	3	2	1
[98] 多様な考え方を認め合う雰囲気	5	4	3	2	1
[99] 大学での経験全般について	5	4	3	2	1
[100] 1つの授業を履修する学生数					

[101] 教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。（複数回答可）

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 広い教養を身に付けるため | 2. 専門の基礎を築くため |
| 3. 好きな科目や面白そうな科目を選択した | 4. 単位をとりやすい授業を選択した |
| 5. 授業科目を選択する余地がなかった | 6. 特に基準はない |

[102] 教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。（複数回答可）

1. 「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
2. 教員からの助言や情報
3. 事務職員からの助言や情報
4. 先輩からの助言や情報
5. 友人からの助言や情報

[103] 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。（複数回答可）

1. 専門分野の体験学習
2. 文章（レポート）の書き方
3. プレゼンテーションの仕方
4. 他者と協働して学修や活動に取り組むこと
5. 学修の振り返りを行い次の学修に活かすこと
6. 大学における学修の仕方・取り組み方
7. 主体的な学修習慣を身につけること

[104] 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると思いますか。（複数回答可）

1. 専門の知識を身に付けるのに役立った
2. 自分の進路について考えることができるようになった
3. 学問・研究に興味が湧いた
4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
5. 特に得るものはないかった

[105] 授業内容の難易度についてどう思いますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
[106] 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）	5	4	3	2	1
[107] 実験室の設備や器具	5	4	3	2	1
[108] コンピュータの施設や設備	5	4	3	2	1
[109] コンピュータの訓練や援助	5	4	3	2	1
[110] インターネットの使いやすさ	5	4	3	2	1
[111] 奨学金など学費援助の制度	5	4	3	2	1
[112] 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）	5	4	3	2	1
[113] レクリエーション施設（ジムの設備など）	5	4	3	2	1
[114] キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）	5	4	3	2	1
[115] クラス担任制度	5	4	3	2	1

[116] 図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。（複数回答可）

1. 教員・学修支援アドバイザーによる学修相談 (SSS)
2. 授業サポートナビ (各講義の参考図書, 関連情報提供サービス)
3. 学修に関するイベント (講習会等)
4. 文献複写サービス
5. 本の購入リクエスト
6. グループ学修スペースの利用
7. 調べもの相談
8. 利用していない

[117] あなたは、読書についてどのように考えていますか。

1. 読書は習慣として身に付いている
2. もっと読書したいが、現在読みたい書籍はない
3. もっと読書したいが、時間がない
4. 読書の必要性を感じない

[118] 徳島大学では、履修者が11名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか。

1. 知っており、確認したことがある。また、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っている。
2. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っていない。
3. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っているかどうかわからない。
4. 知っているが確認したことがない
5. 知らない

[119] 徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[120] 徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[121] シラバスはどのように利用していますか。

1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立てている
2. 気になった時に時々確認している
3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
5. 全く見ていない

[122] 徳島大学の e ラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください（複数選択可）。

1. Moodle (全学)
2. Manaba (全学)
3. Mahara (全学)
4. スーパー英語 (全学)
5. 各学部やコース内で提供されている e ラーニングサービス
6. 利用したことない

本学では、学生のみなさんに対して、上記のような e ラーニングサービスを提供しています。E ラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常こう思う	そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない
[123] 本学の e ラーニングサービスは、学修に役立つ	5	4	3	2	1
[124] 本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか	5	4	3	2	1

本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常こう思う	そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない
[125] 「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である	5	4	3	2	1

[126] 大学教育全体の満足度は 100 点満点で何点ぐらいですか。

1. 100-91
2. 90-81
3. 80-71
4. 70-61
5. 60-51
6. 50-0

[127] あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。1 つ選んで回答してください。

1. 就職する
2. 大学院に進学する
3. 留学する
4. 他大学に（編）入学する
5. 専門学校に入学する
6. まだわからない
7. その他

[128] 将来の見通しに関する以下の 2 つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたいという考え方）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを 1 つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかつていますか。また、それを実行していますか。

1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
4. 将来の見通しを持っていない

V. 最後に、大学に入学する前や高校時代のことについておうかがいします。

[129] あなたは現役で本学に入学しましたか、それとも浪人しましたか。

1. 現役
2. 浪人
3. その他（留学生、社会人など）

[130] あなたの志望大学の中で、本学は第 1 志望でしたか。

1. 第 1 志望だった
2. 第 1 志望ではなかった

[131] あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

1. 上位の方
2. 中の上くらい
3. 中くらい
4. 中の下くらい
5. 下位の方
6. その他（わからない、覚えていない、など）

あなたが高校 3 年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

	ひんぱん にした	ときどき した	あまり しなかった	まったく しなかった
[132] 授業中に質問した	4	3	2	1
[133] 自分の意見を論理的に主張した	4	3	2	1
[134] 問題の解決方法を探し、それを他の人に説明した	4	3	2	1
[135] 科学的研究の記事や論文を読んだ	4	3	2	1
[136] 自発的に作文の練習をした	4	3	2	1
[137] インターネット上の情報が事実かどうか確認した	4	3	2	1
[138] 授業の予習や復習、宿題をした	4	3	2	1
[139] 授業以外に興味のあることを	4	3	2	1

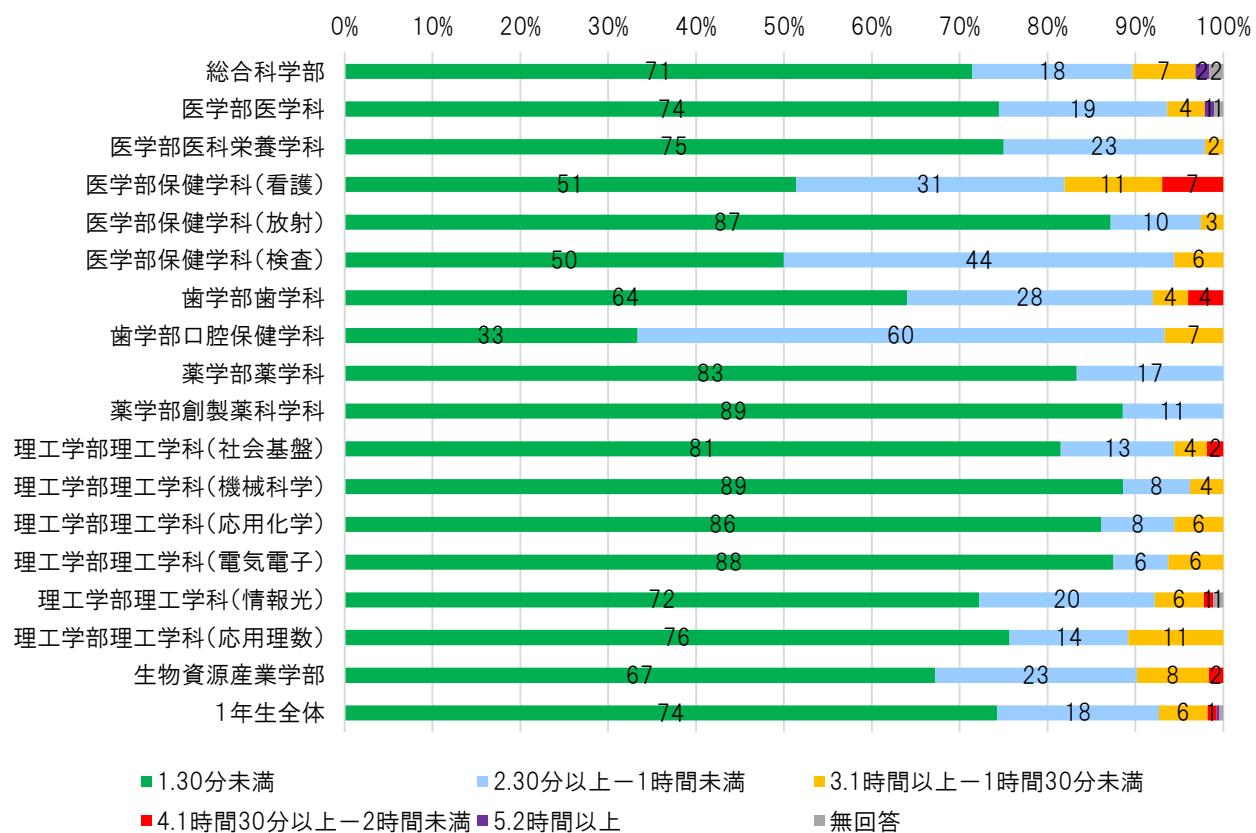
自分で勉強した				
[140] 自分の失敗から学んだ	4	3	2	1
[141] 困難なことにあえて挑戦した	4	3	2	1
[142] 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた	4	3	2	1
[143] 読書をした（マンガ・雑誌を除く）	4	3	2	1

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。

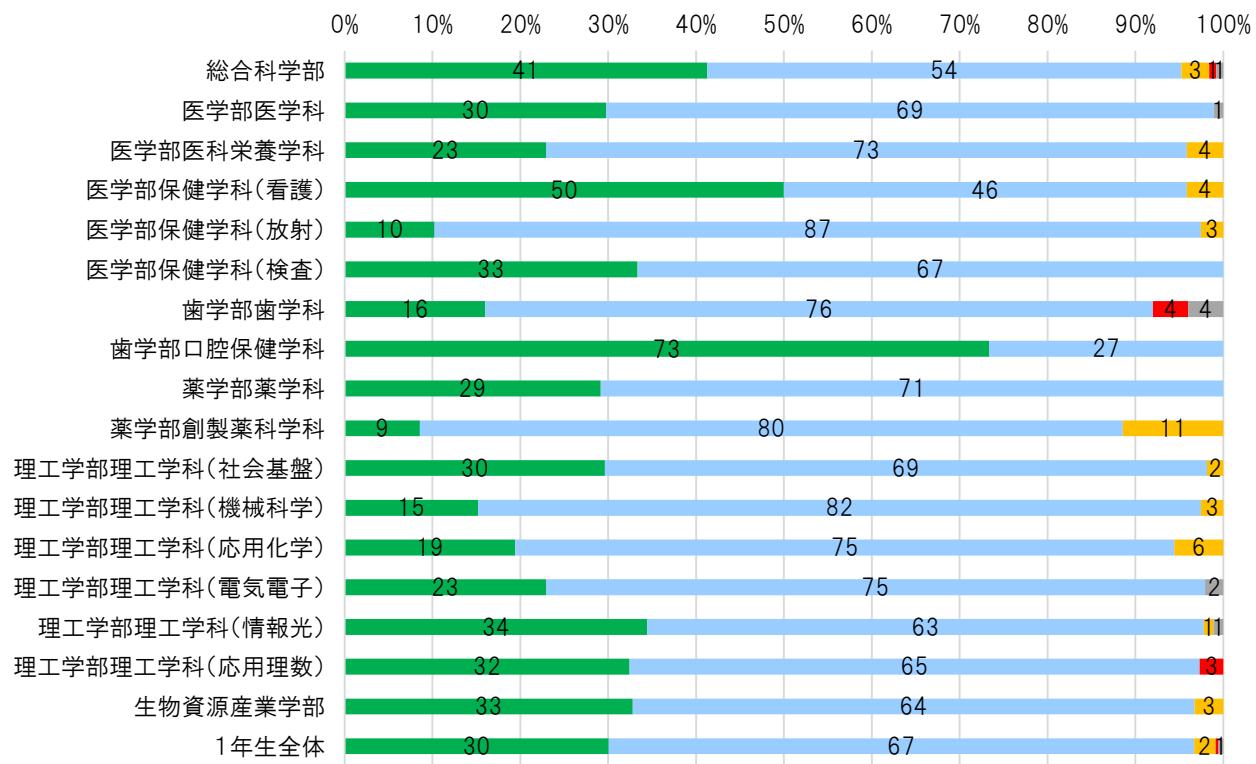
1年生調査結果

I. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

[2]あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



[3]あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

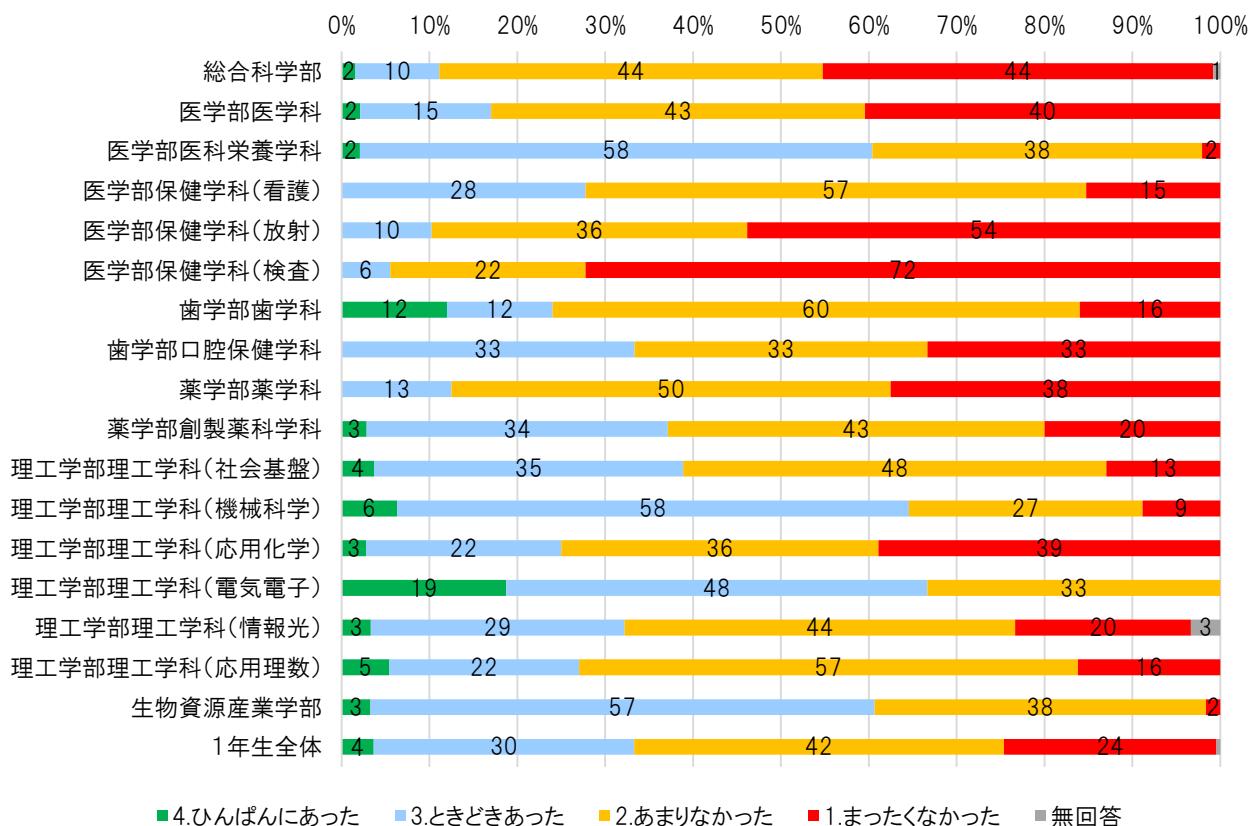


■ 1.家族または親戚と暮らしている ■ 2.アパート・学生マンションでひとり暮らし ■ 3.大学寮や合宿所 ■ 4.その他 ■ 無回答

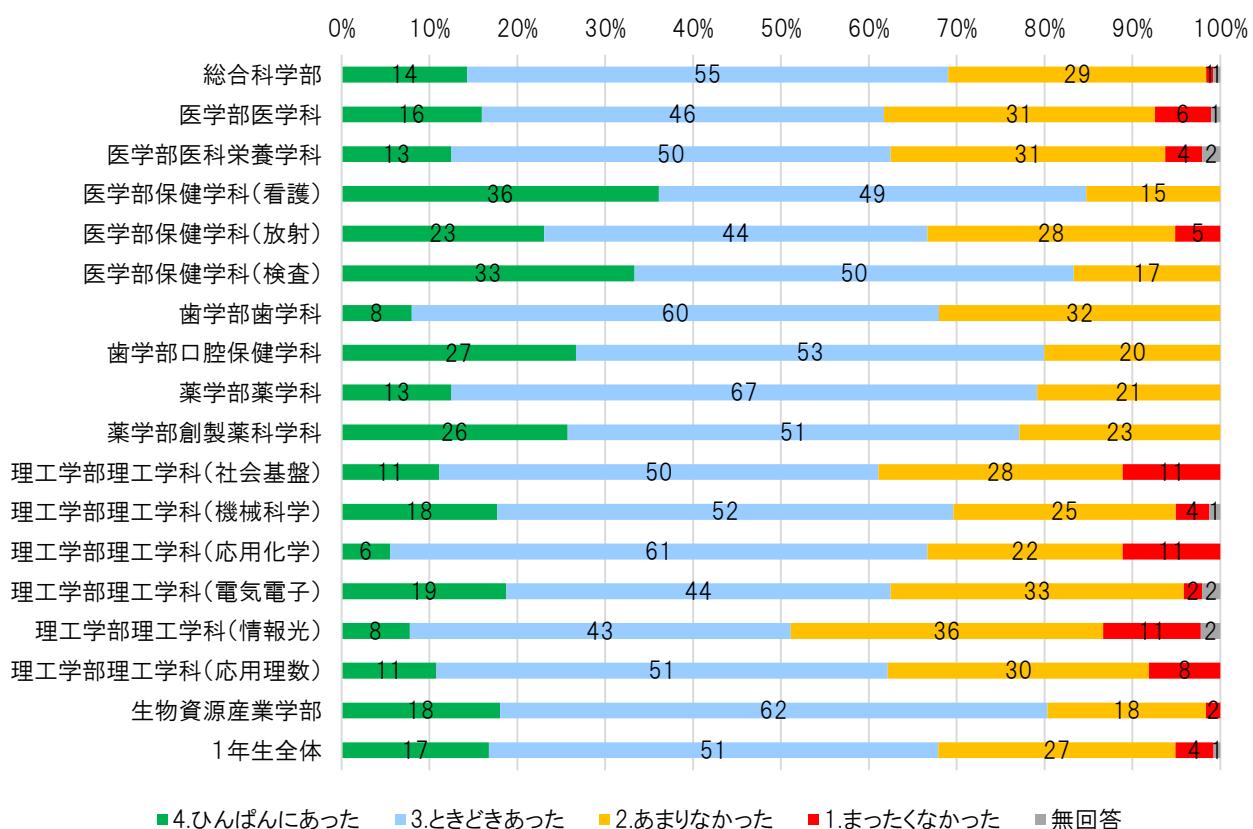
II. 大学に入学してからのあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

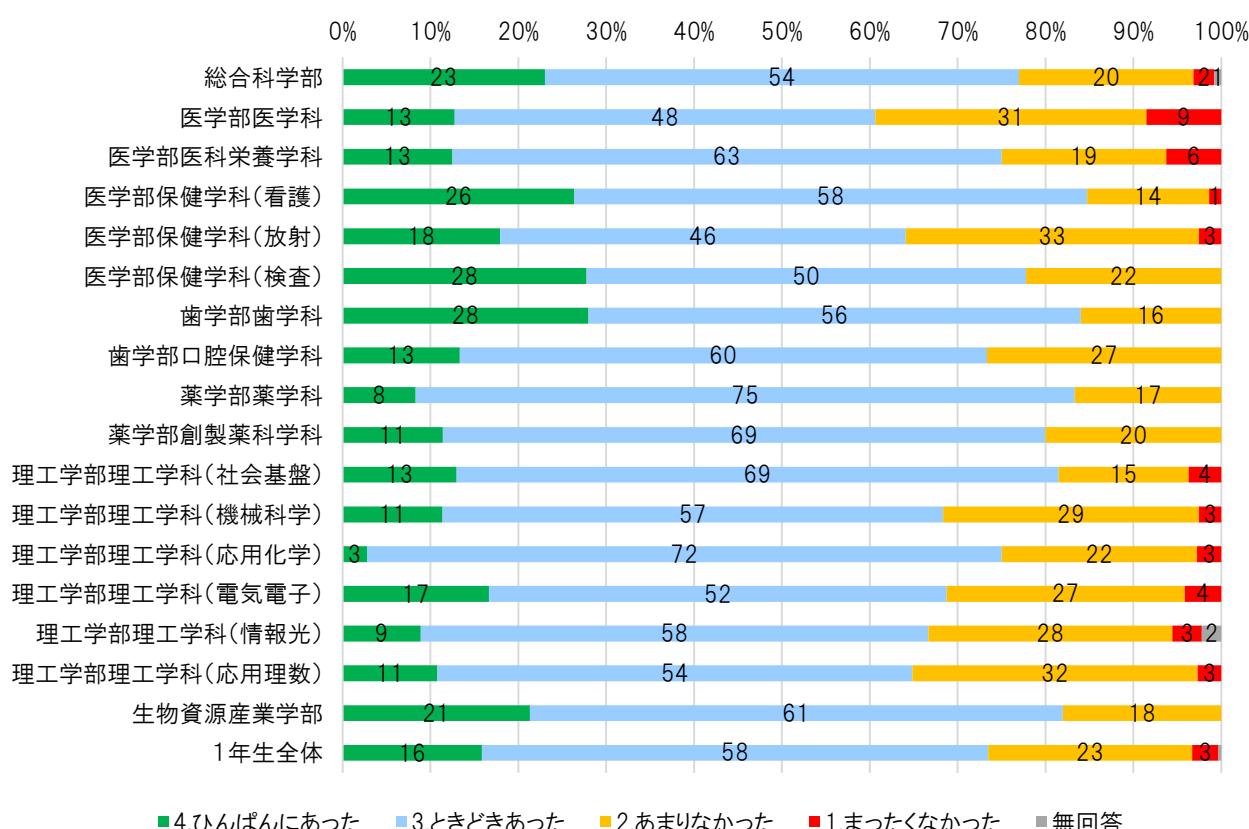
[4]実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



[5]仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ

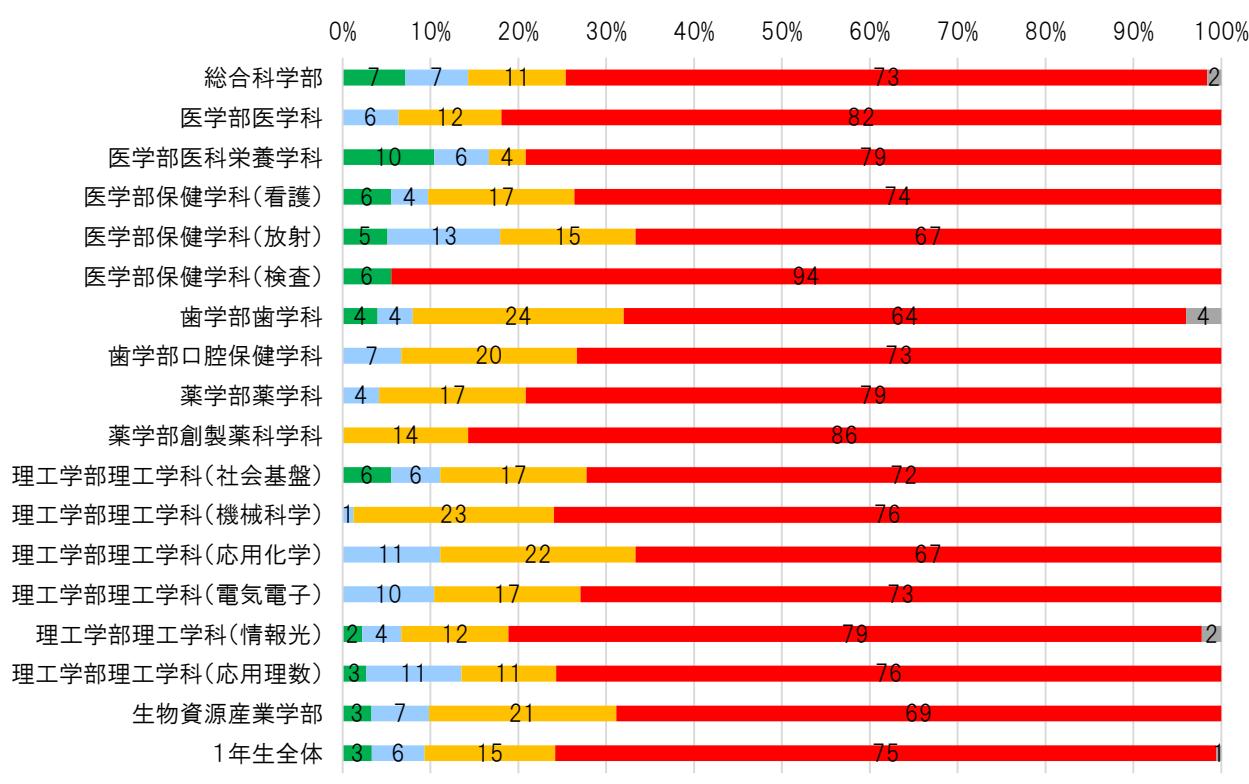


[6]授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する



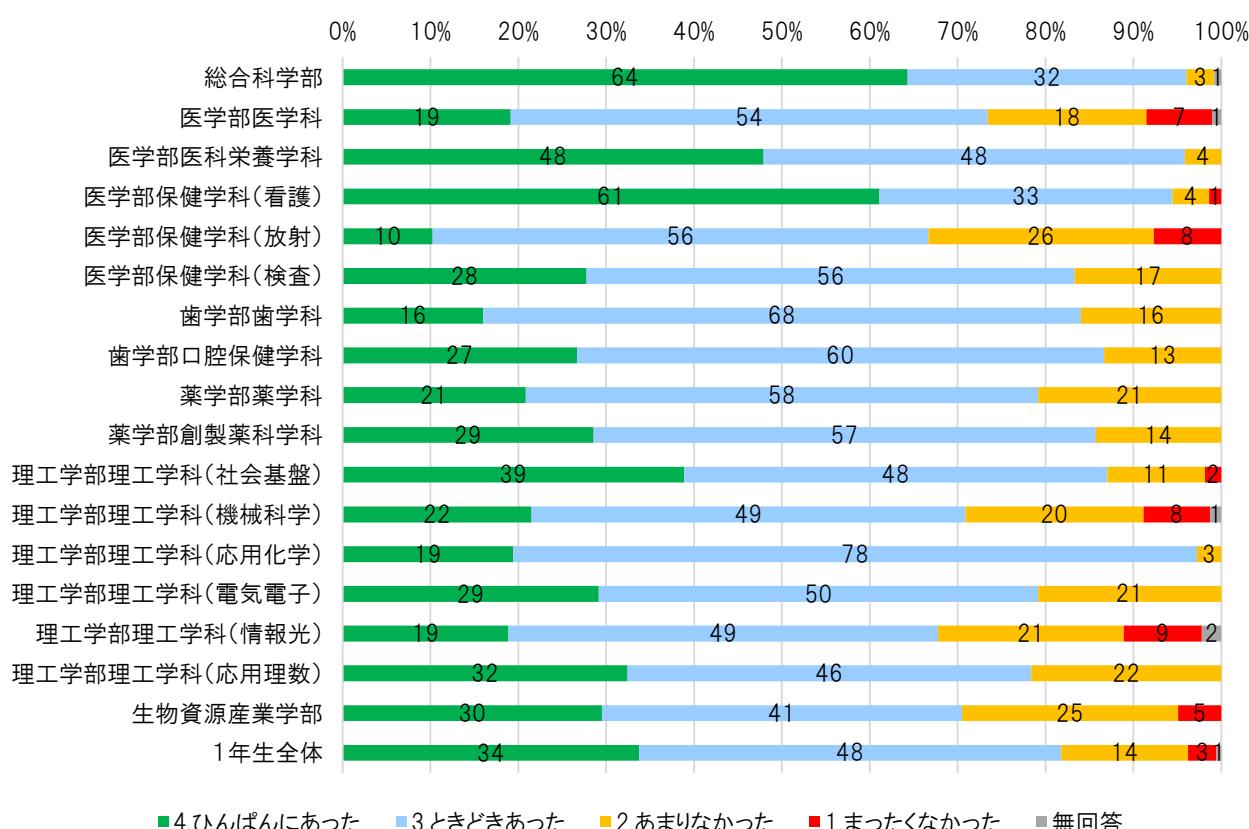
■4.ひんぱんにあった ■3.ときどきあった ■2.あまりなかった ■1.まったくなかった ■無回答

[7]授業の一環でボランティア活動をする

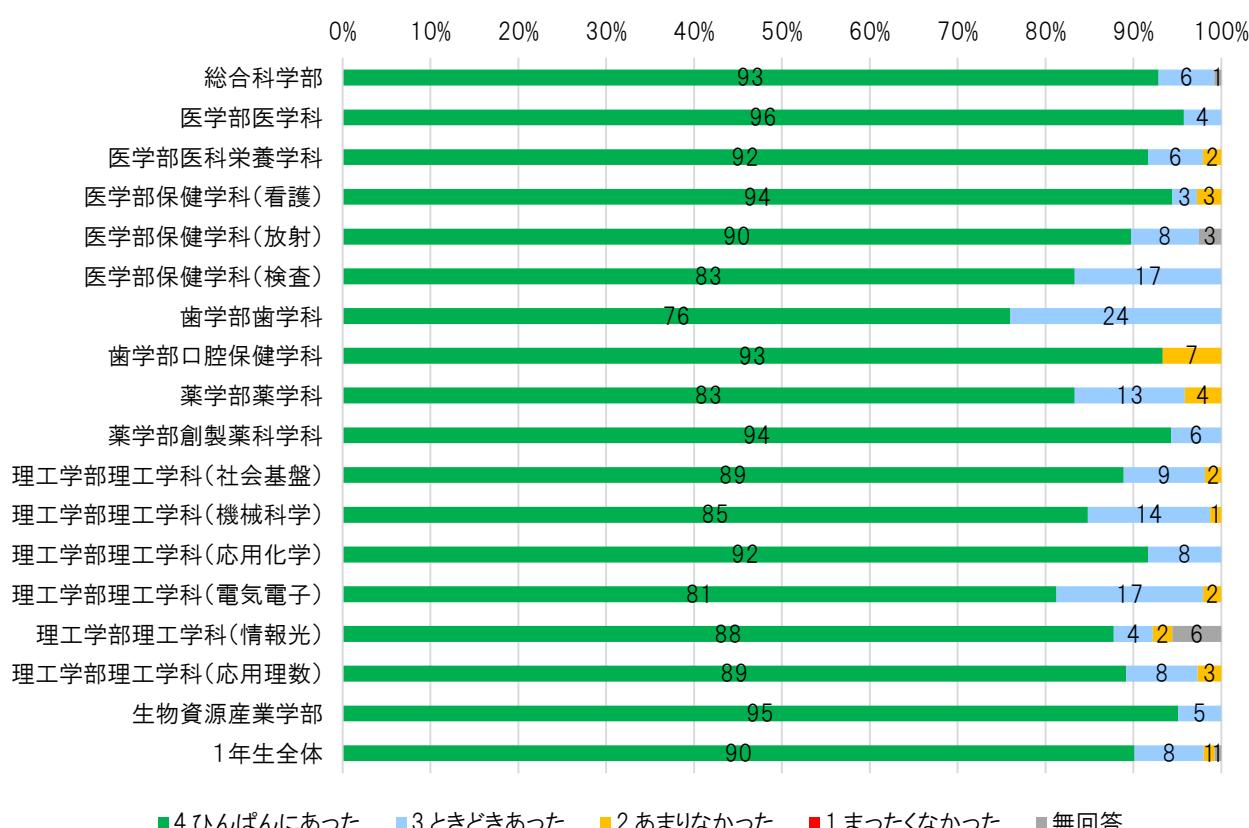


■4.ひんぱんにあった ■3.ときどきあった ■2.あまりなかった ■1.まったくなかった ■無回答

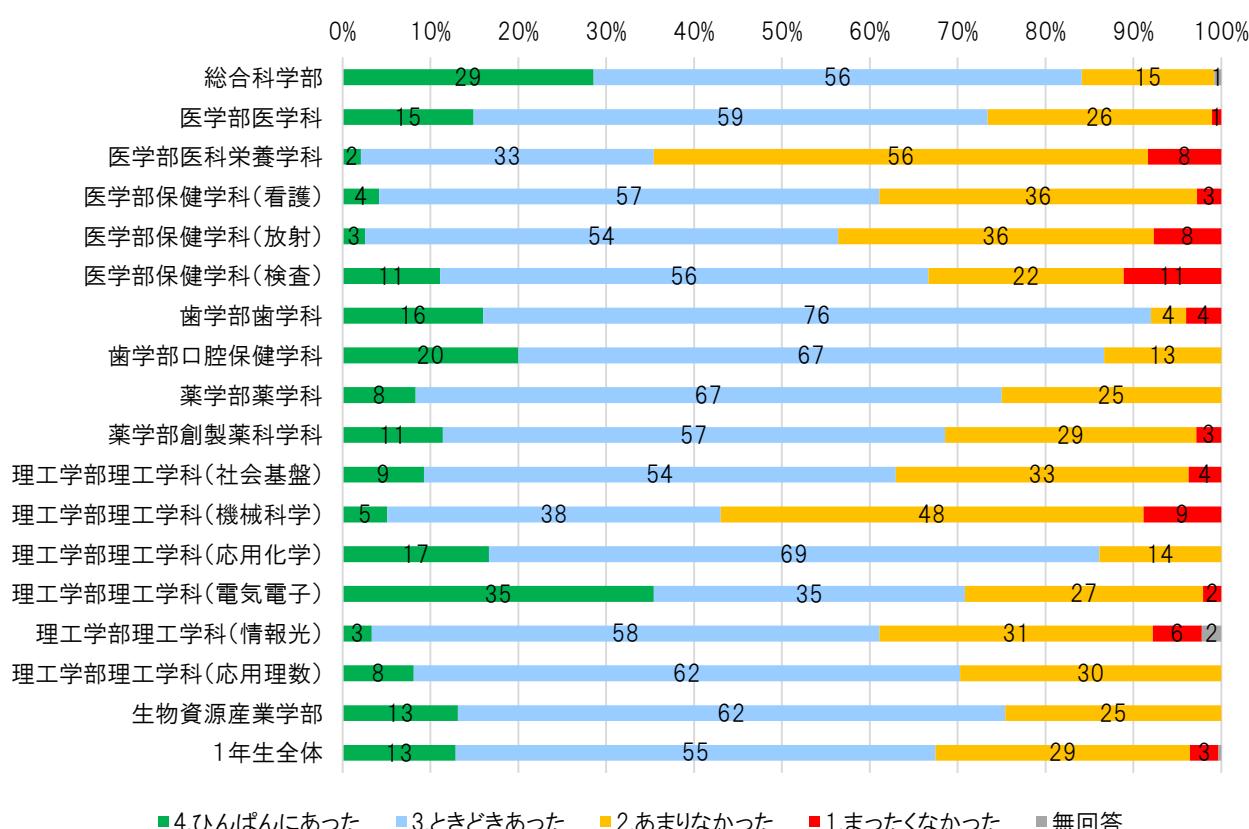
[8]学生自身が文献や資料を調べる



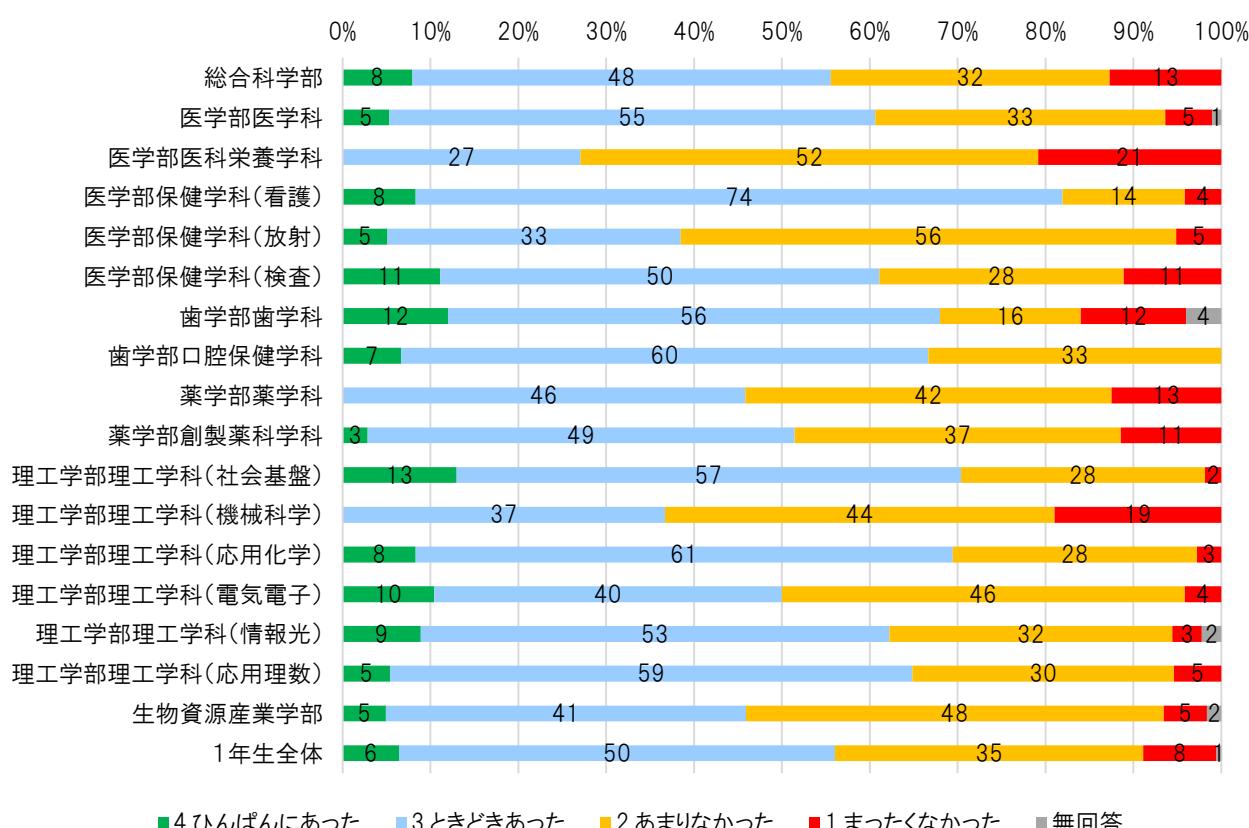
[9]定期的に小テストやレポートが課される



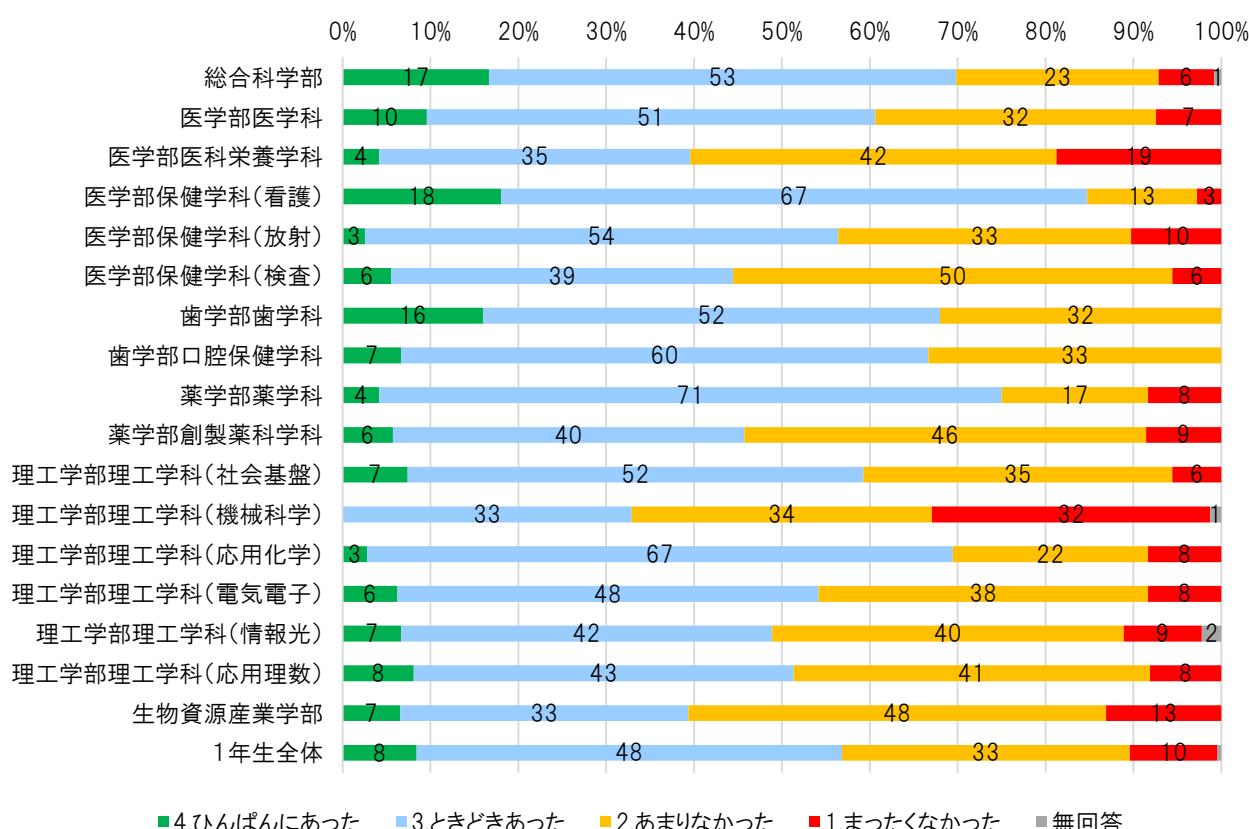
[10] 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



[11] 学生が自分の考え方や研究を発表する

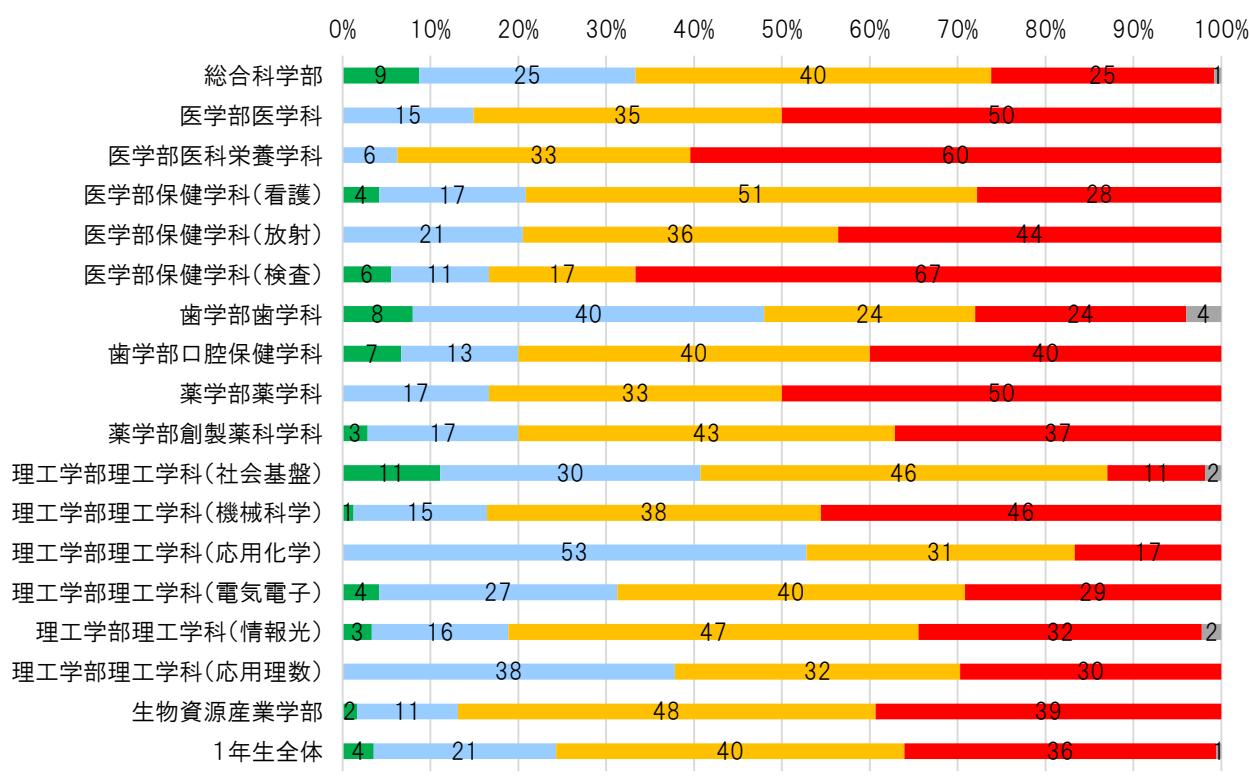


[12] 授業中に学生同士が議論をする



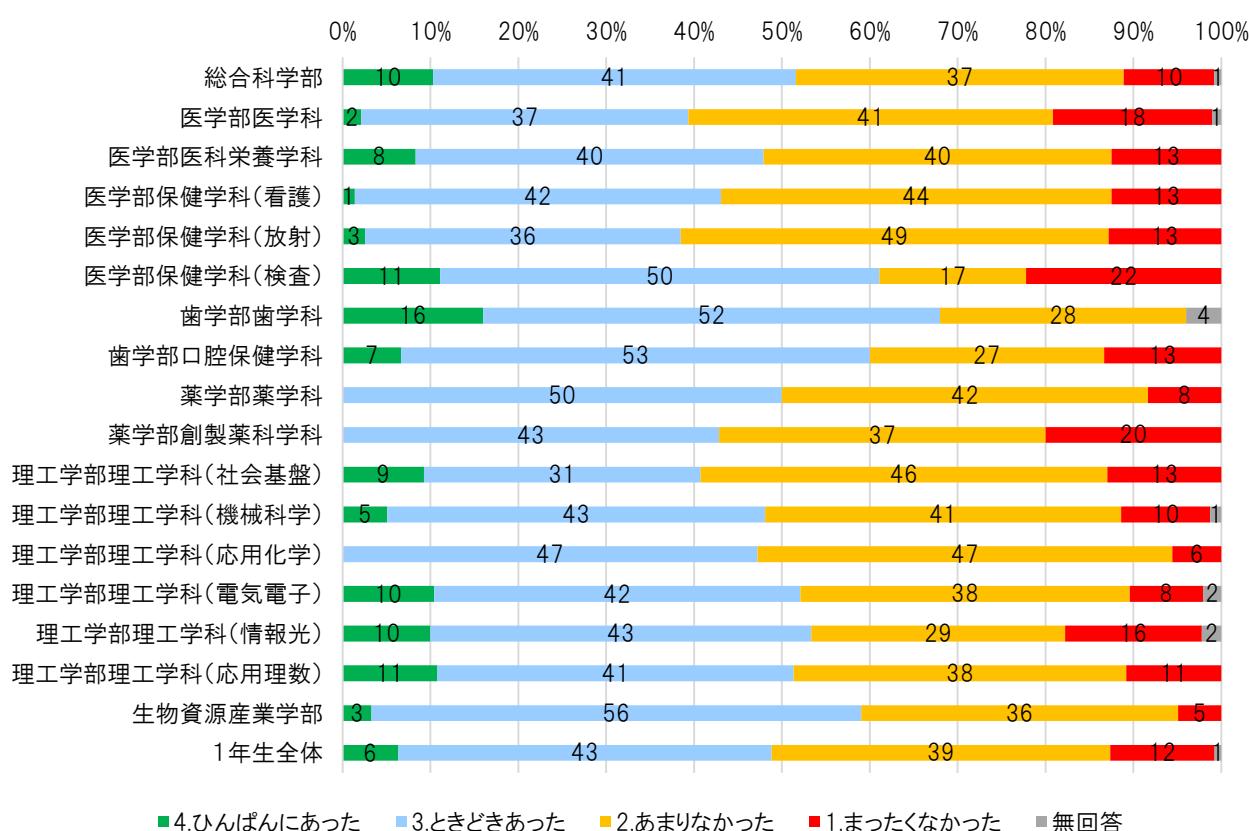
■4.ひんぱんにあった ■3.ときどきあった ■2.あまりなかった ■1.まったくなかった ■無回答

[13] 授業で検討するテーマを学生が設定する

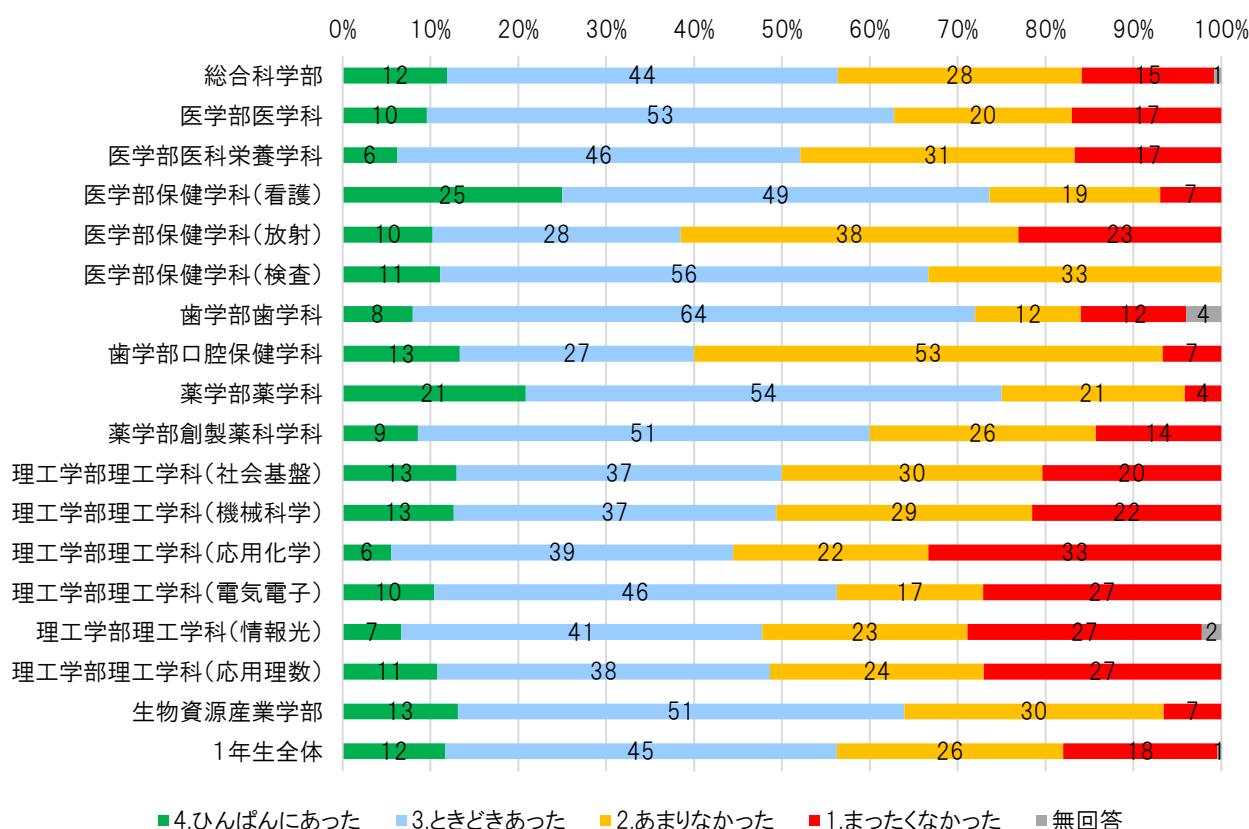


■4.ひんぱんにあった ■3.ときどきあった ■2.あまりなかった ■1.まったくなかった ■無回答

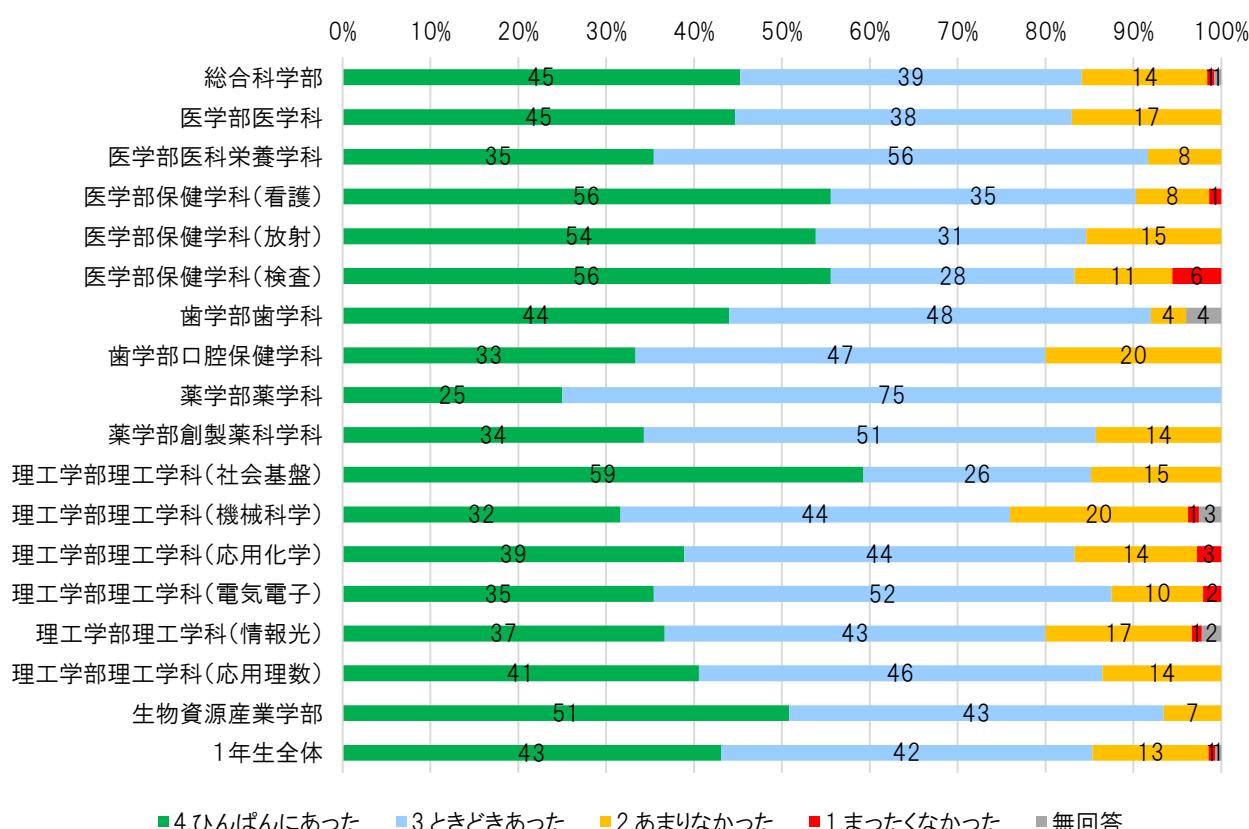
[14]授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



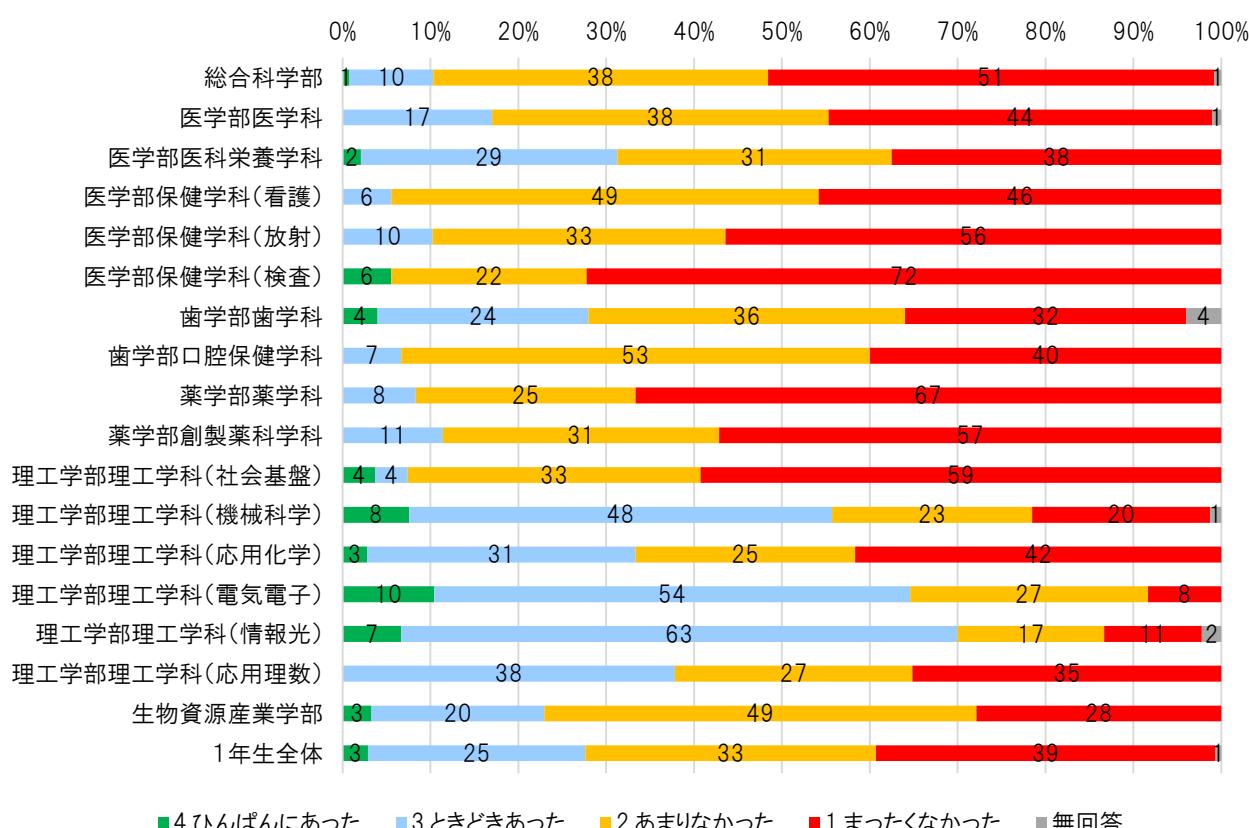
[15]取りたい授業を履修登録できなかつた



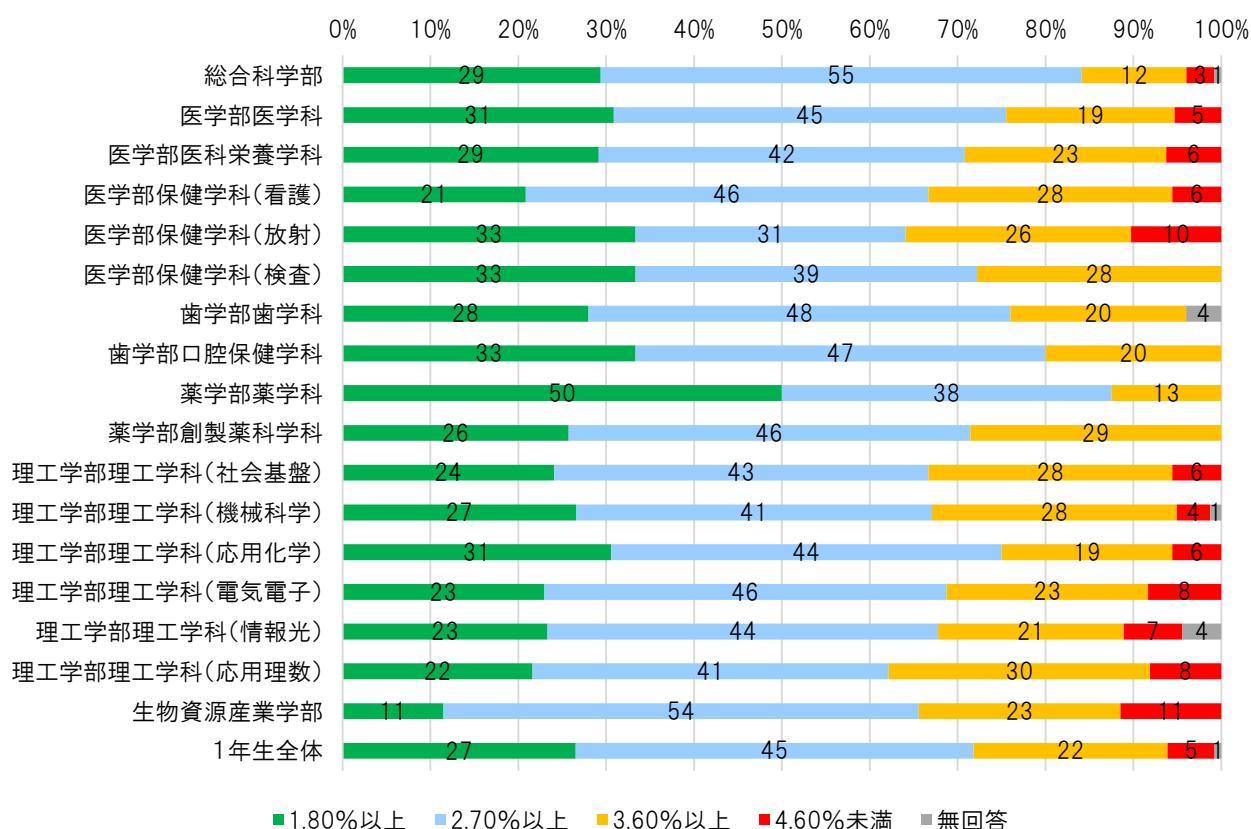
[16]出席することが重視される



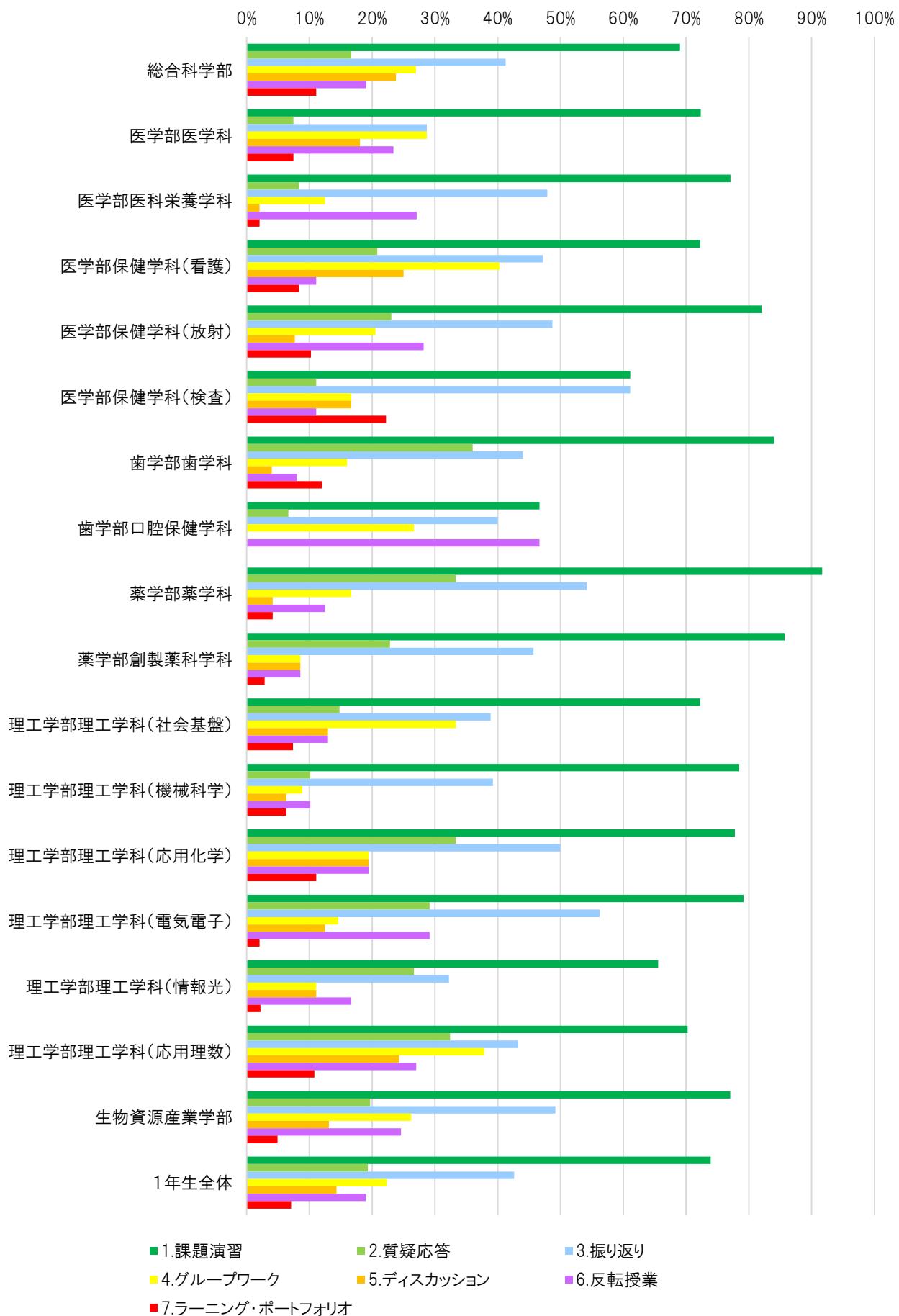
[17]TA や SAなどの授業補助者から補助を受ける



[18]授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

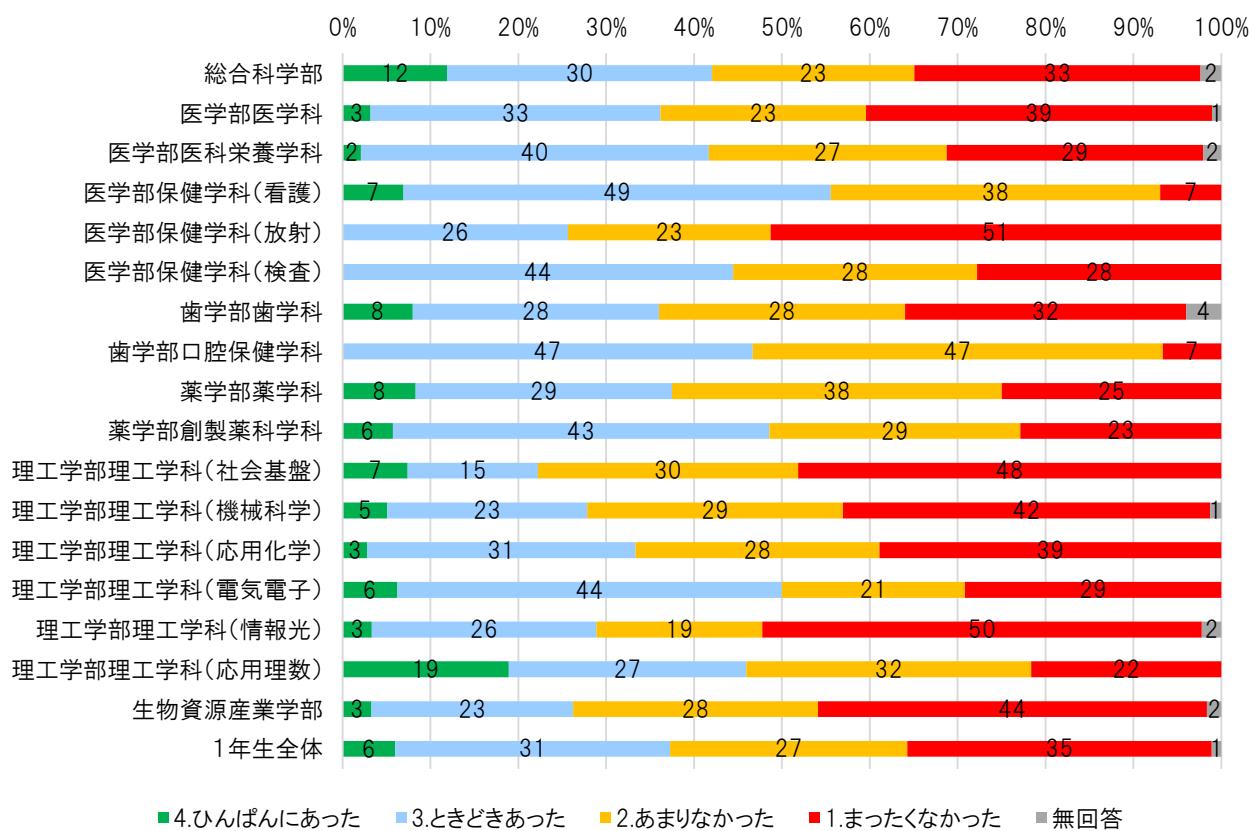


[19]あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

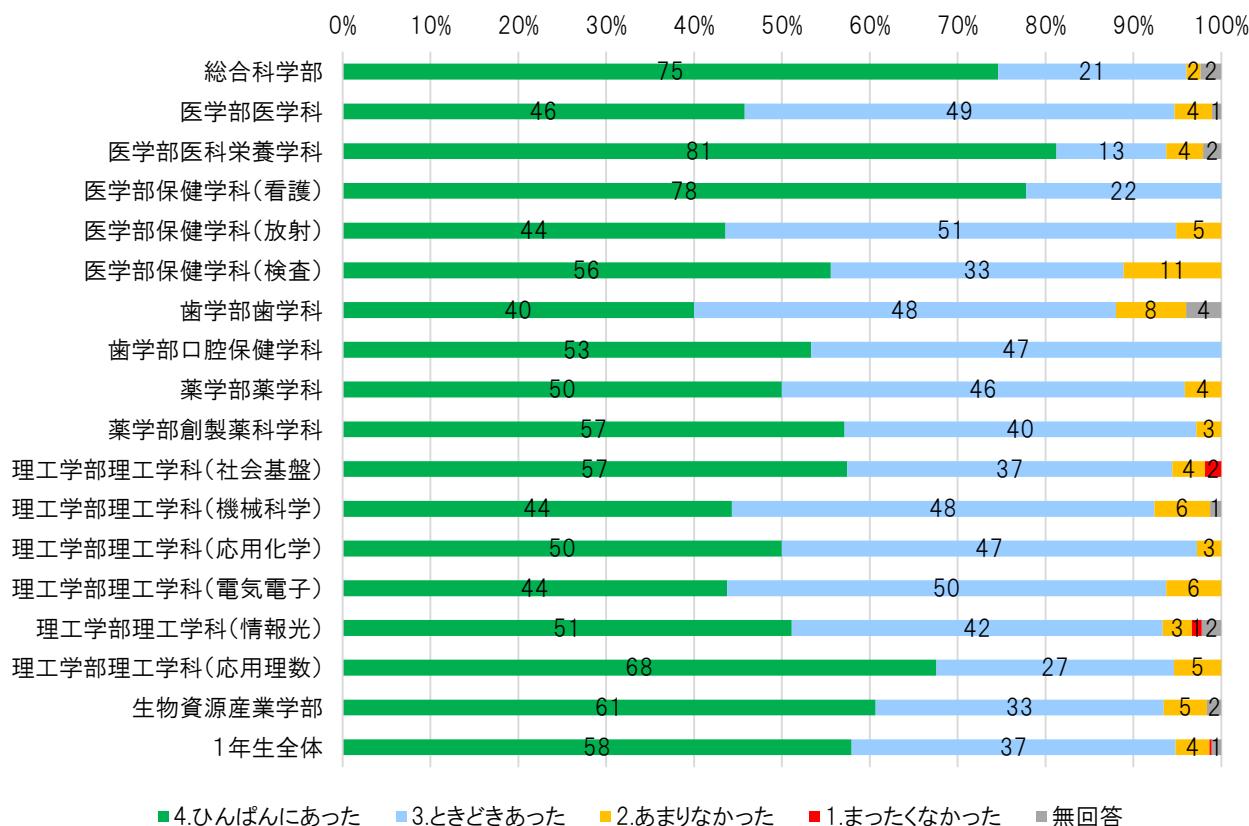


大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

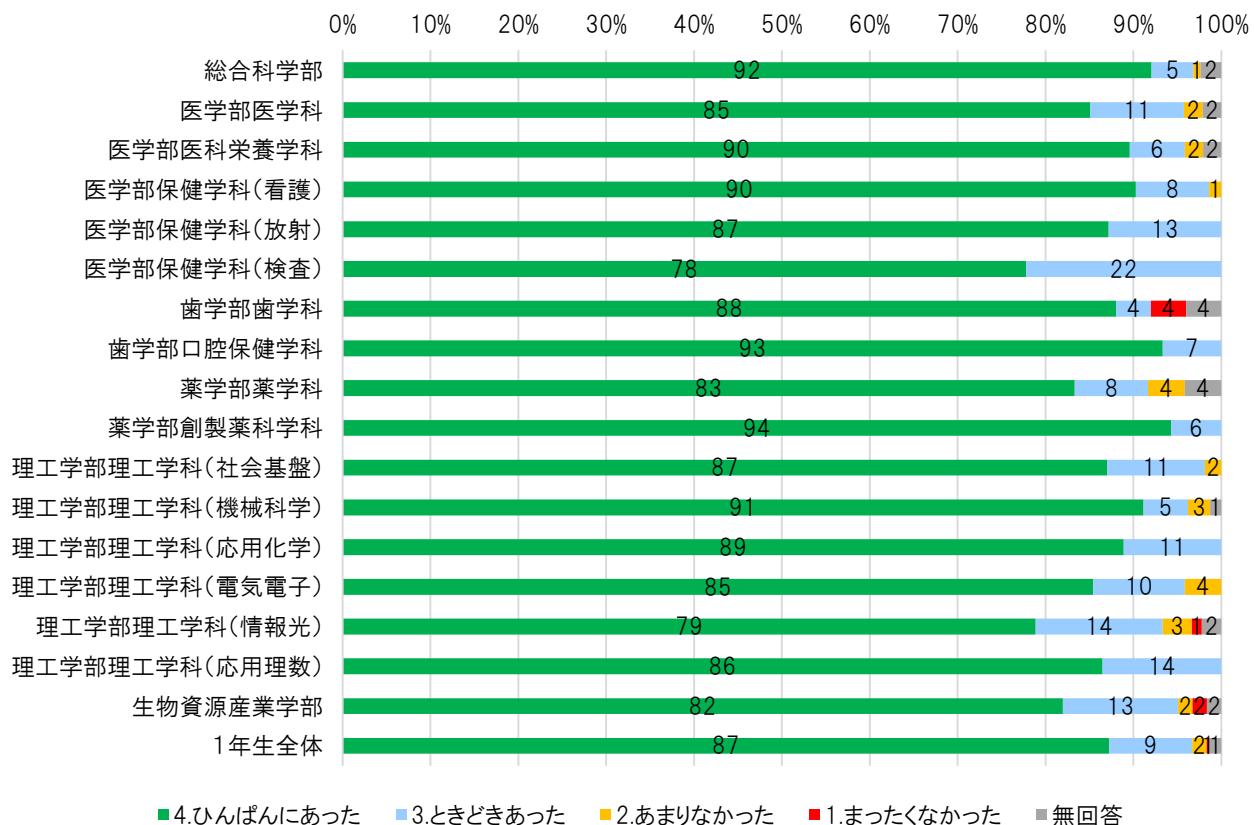
[20]授業課題のために図書館の資料を利用した



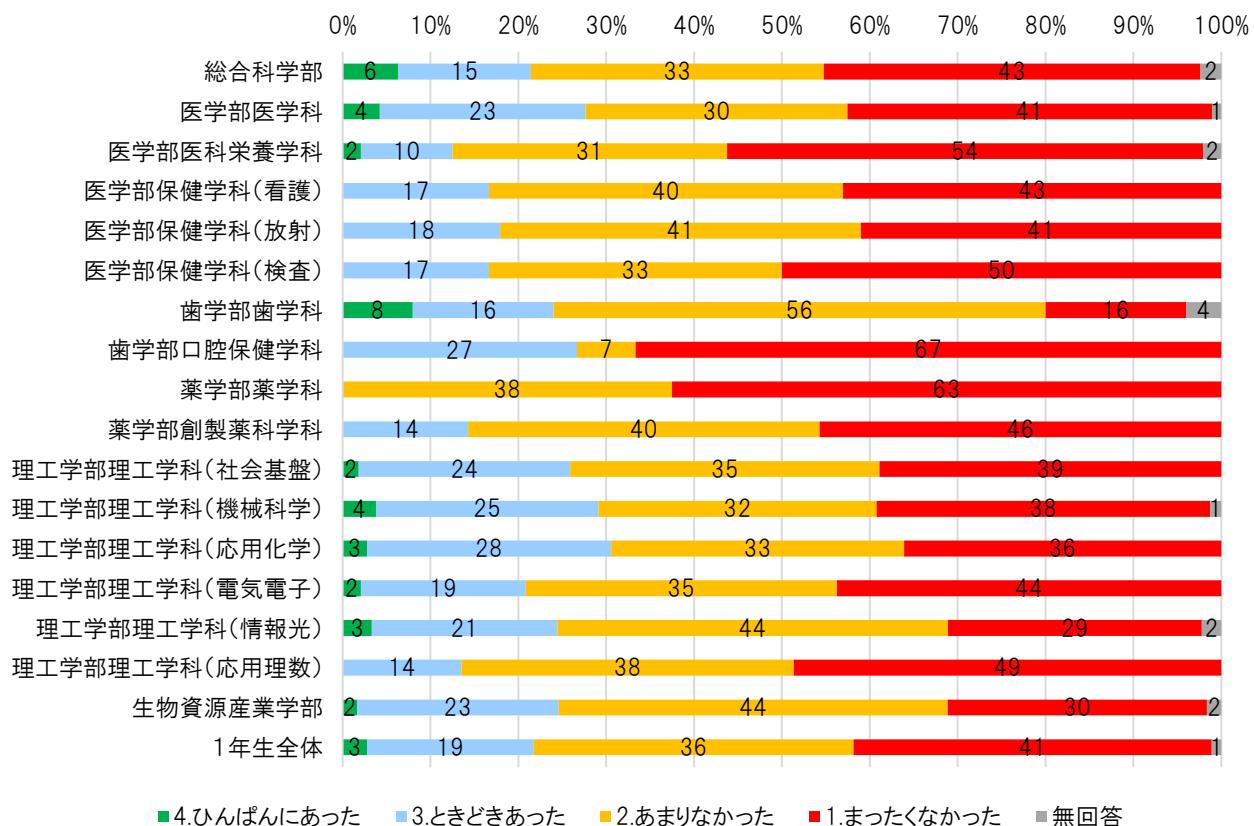
[21]授業課題のためにWeb上の情報を利用した



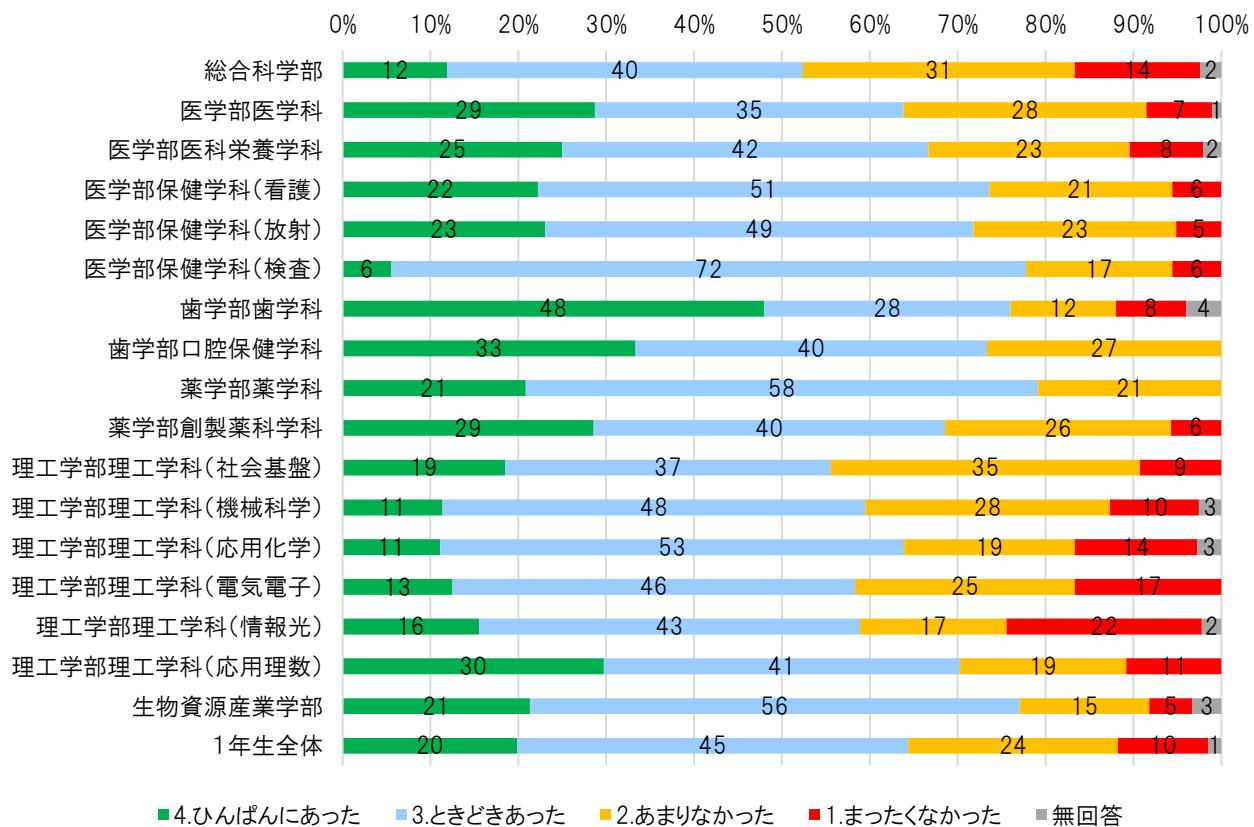
[22]インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



[23]提出期限までに授業課題を完成できなかつた

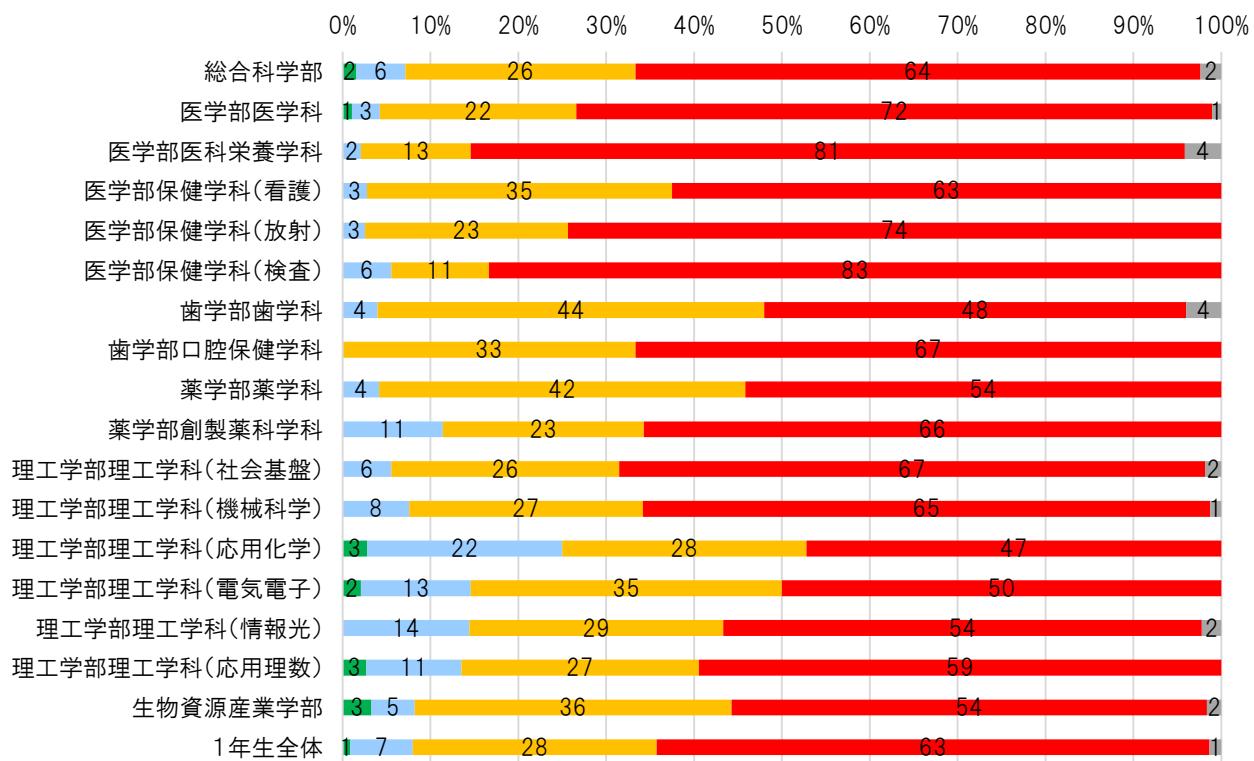


[24]授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした



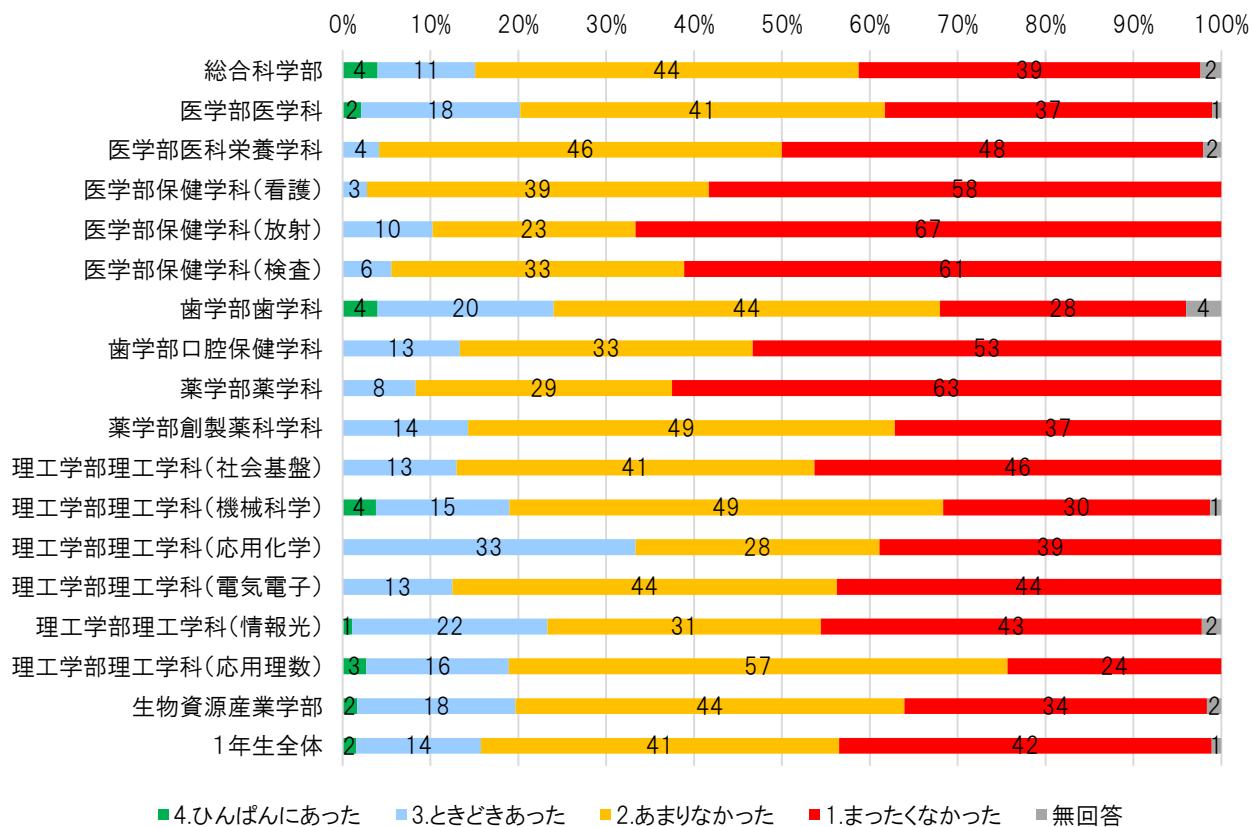
■4.ひんぱんにあった ■3.ときどきあった ■2.あまりなかった ■1.まったくなかった ■無回答

[25]授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



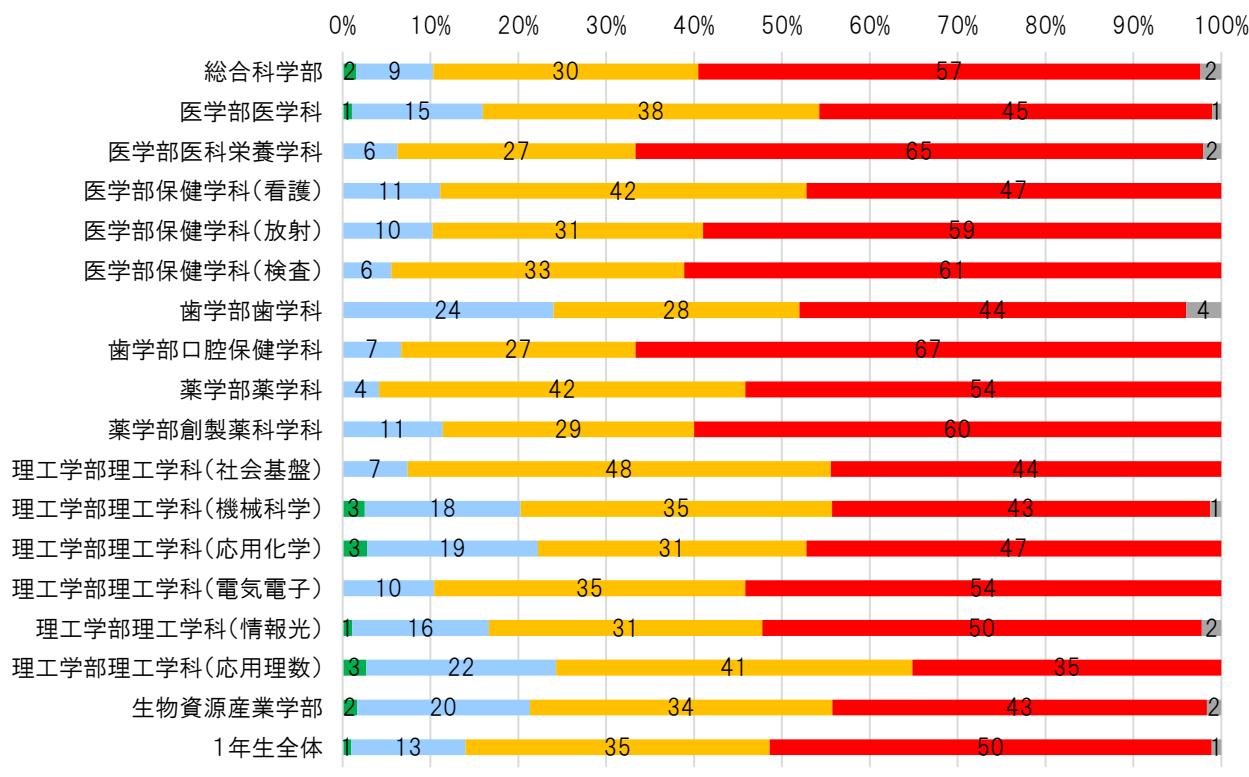
■4.ひんぱんにあった ■3.ときどきあった ■2.あまりなかった ■1.まったくなかった ■無回答

[26]授業を欠席した



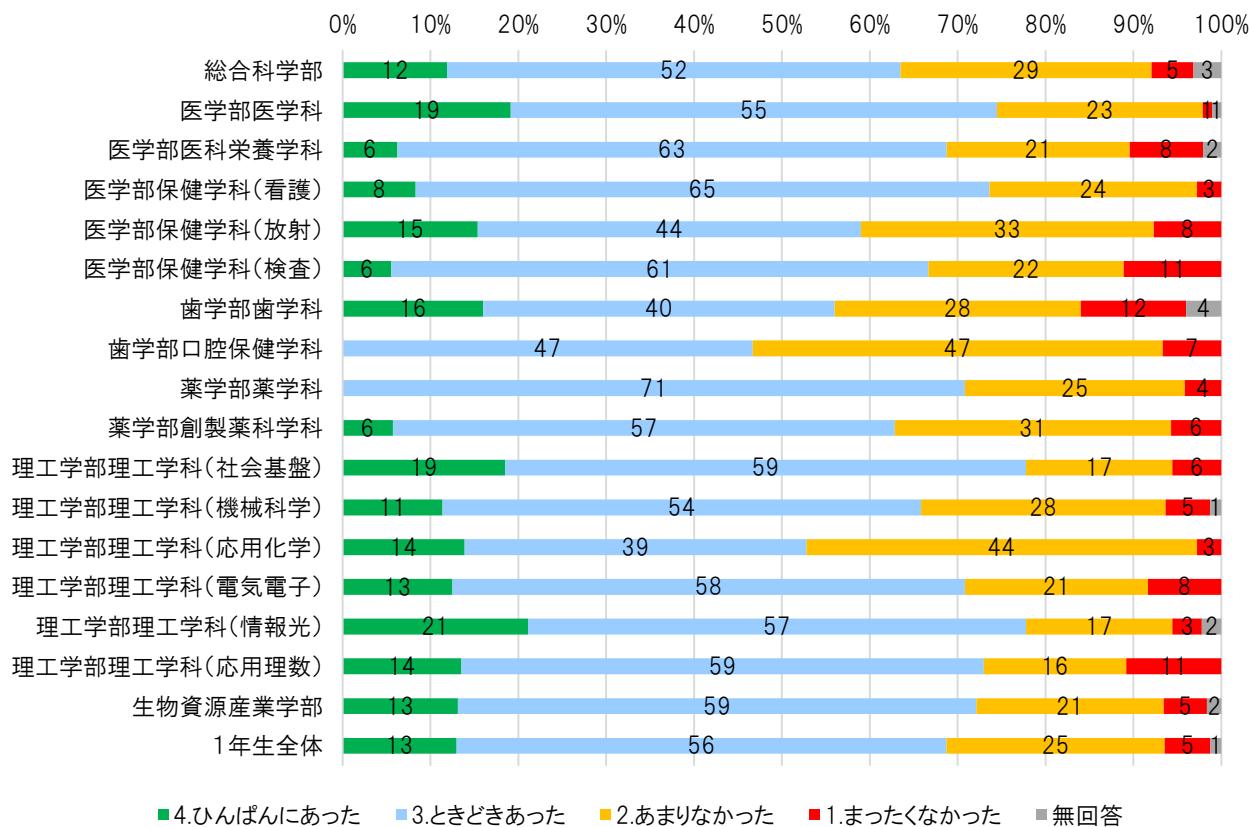
■4.ひんぱんにあった ■3.ときどきあった ■2.あまりなかった ■1.まったくなかった ■無回答

[27]授業に遅刻した

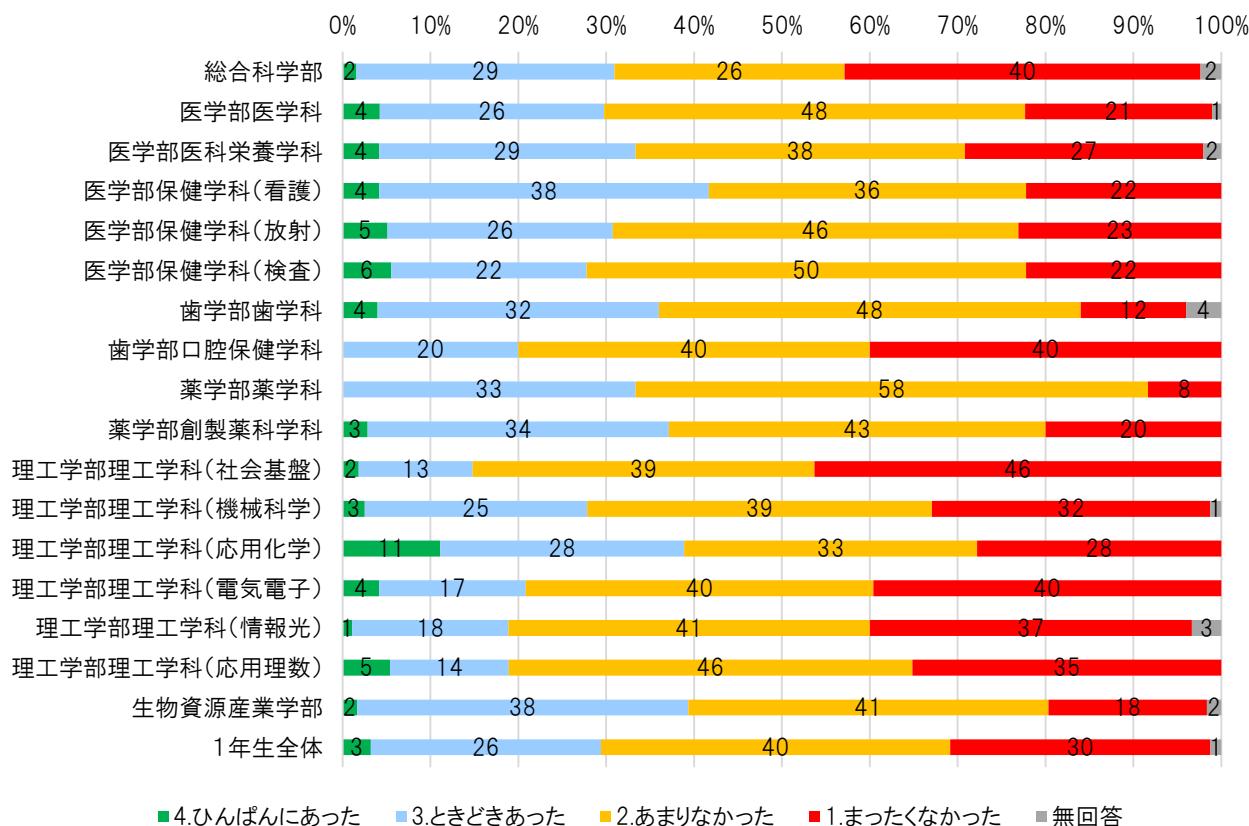


■4.ひんぱんにあった ■3.ときどきあった ■2.あまりなかった ■1.まったくなかった ■無回答

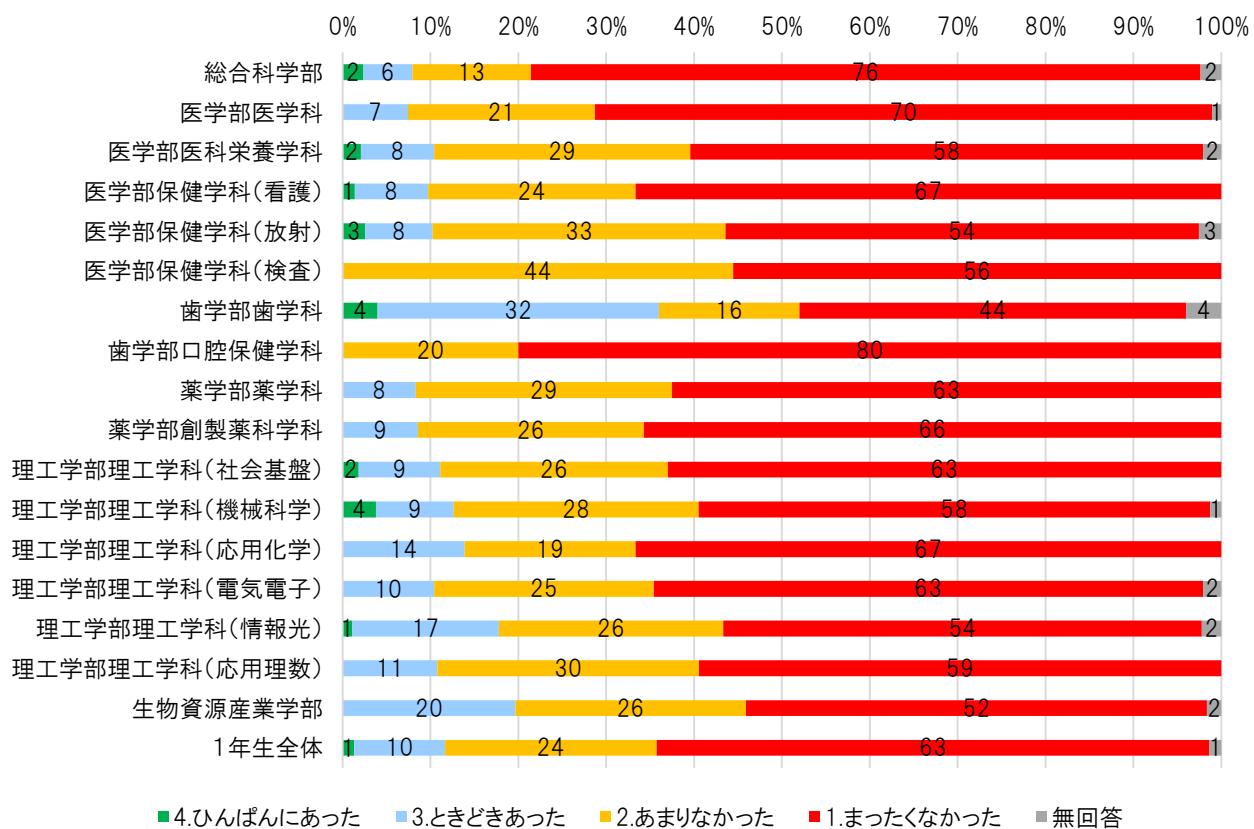
[28]授業をつまらなく感じた



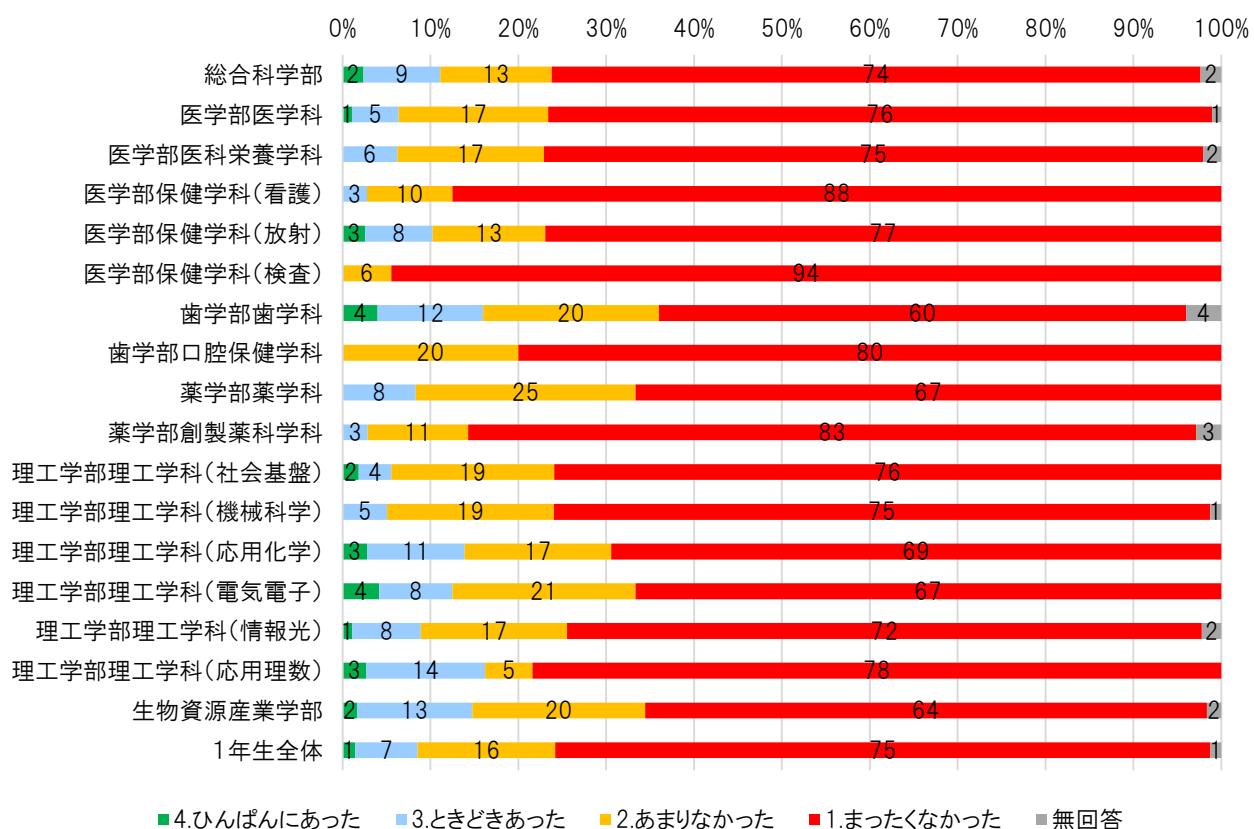
[29]授業中に居眠りをした



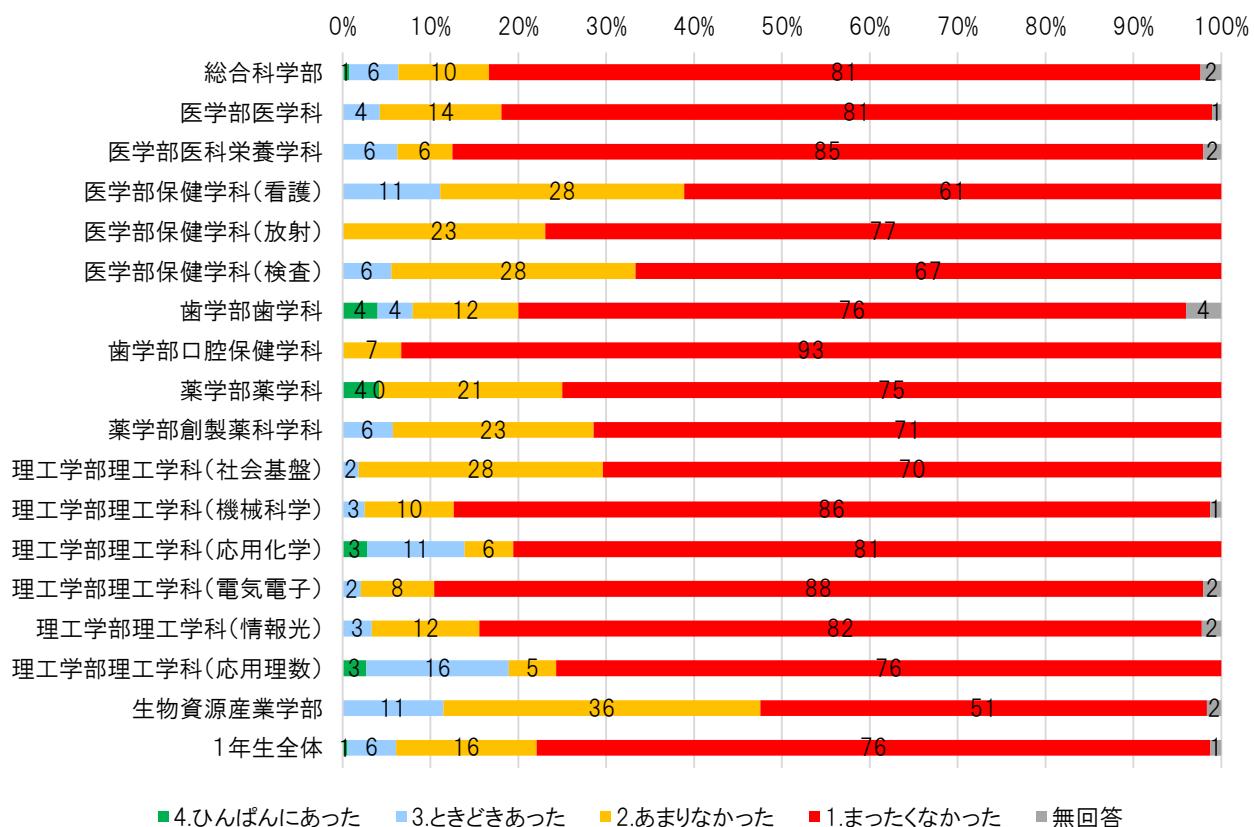
[30]教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした



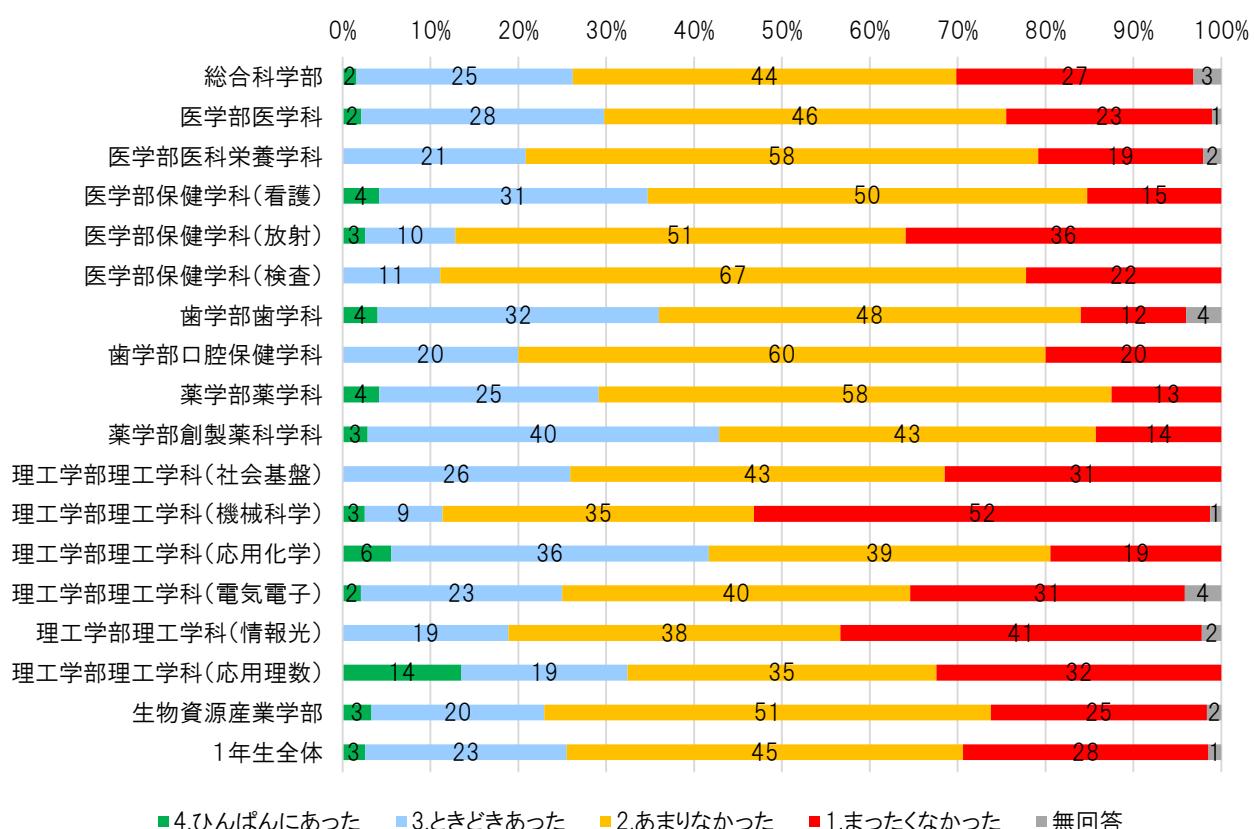
[31]単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



[32]大学の教職員に将来のキャリアの相談をした(卒業後の進路や職業選択など)

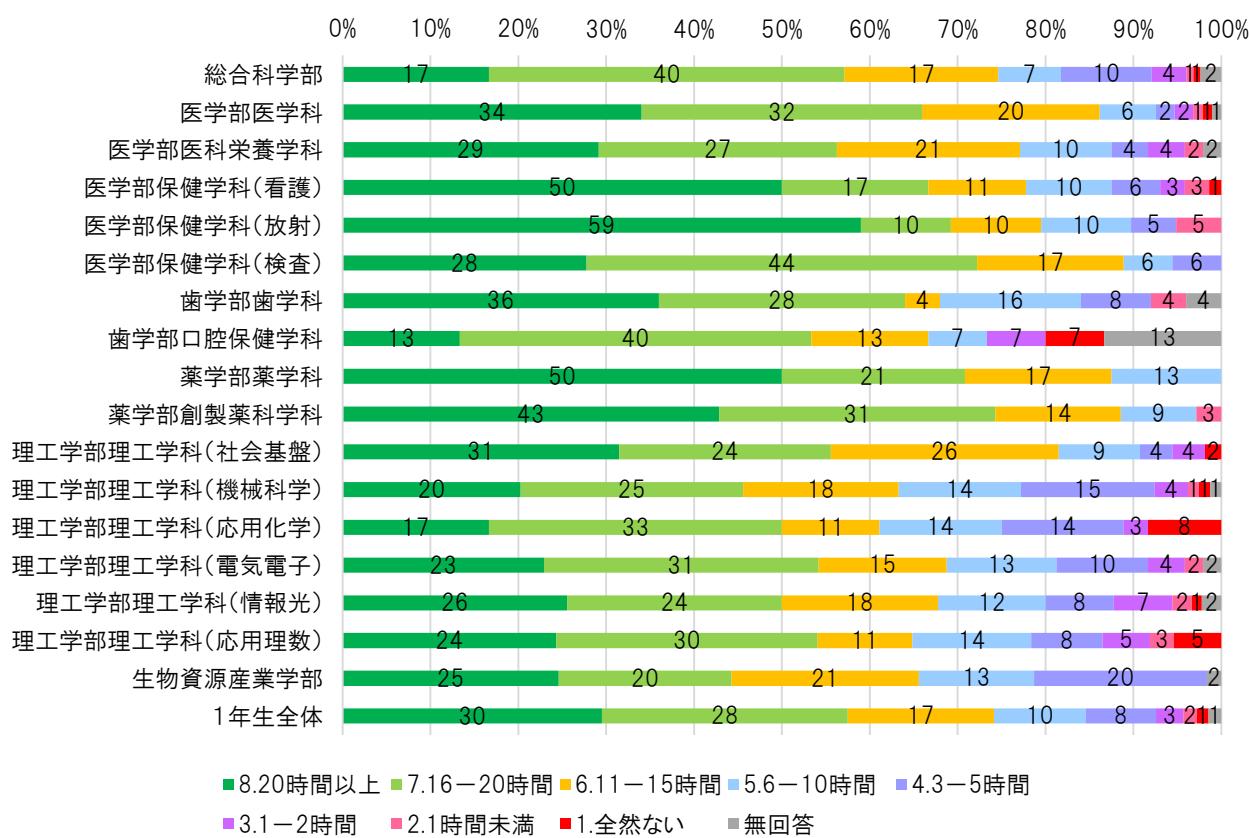


[33]教員に親近感を感じた

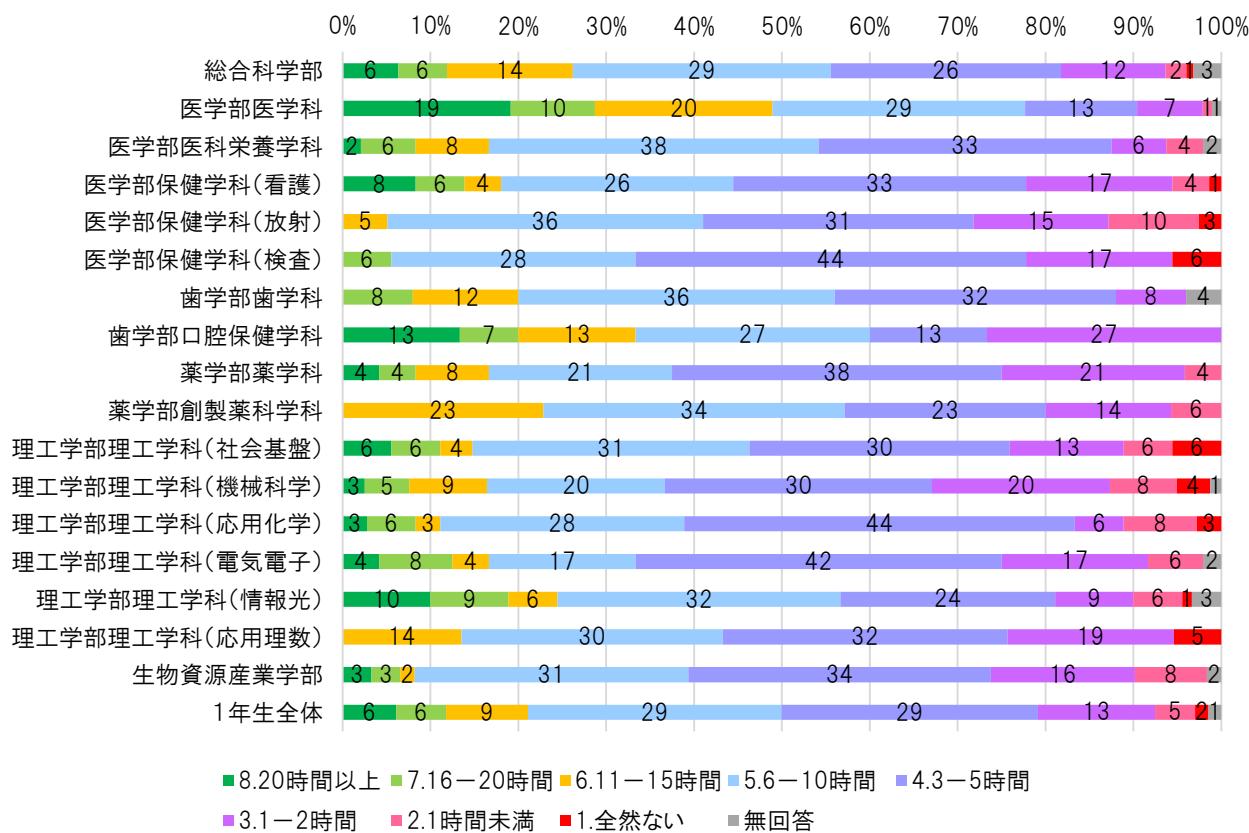


入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

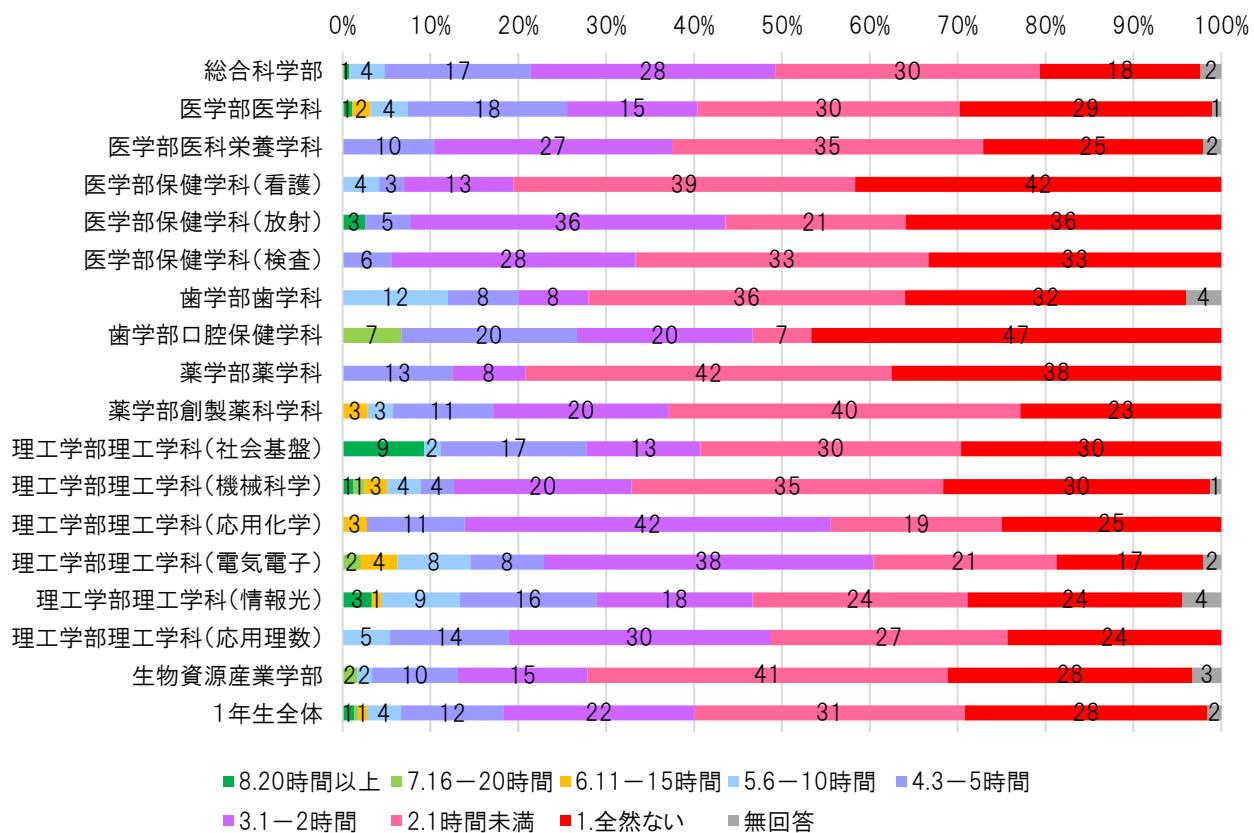
[34] 授業や実験に出る



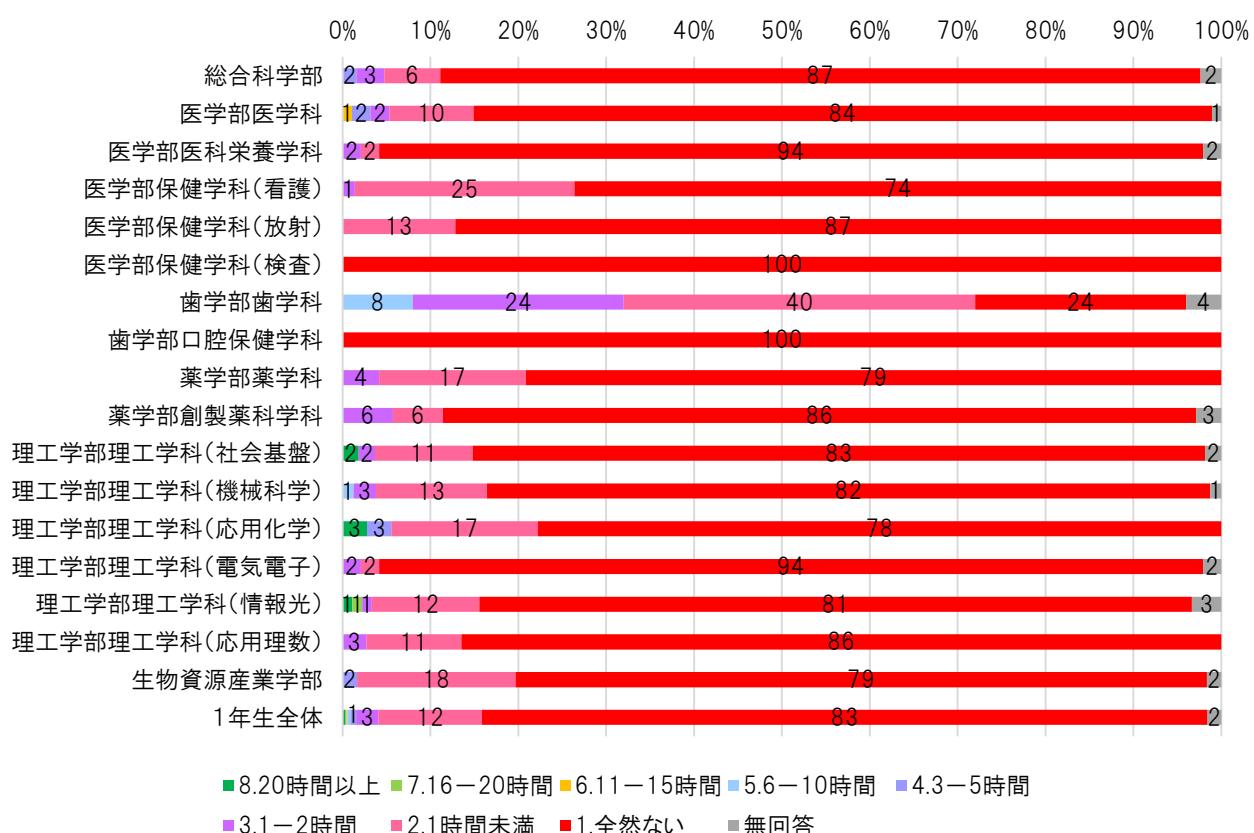
[35] 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする



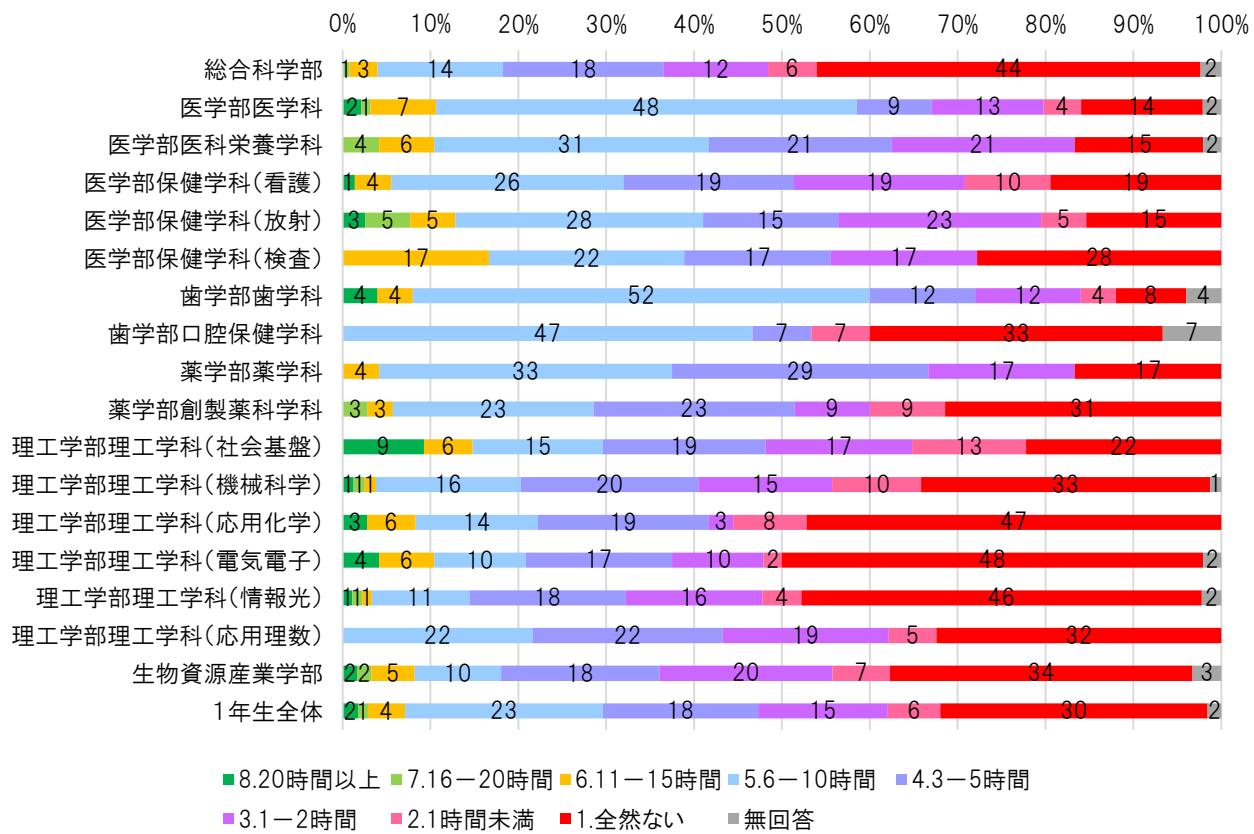
[36]授業時間外に、授業に関連しない勉強をする



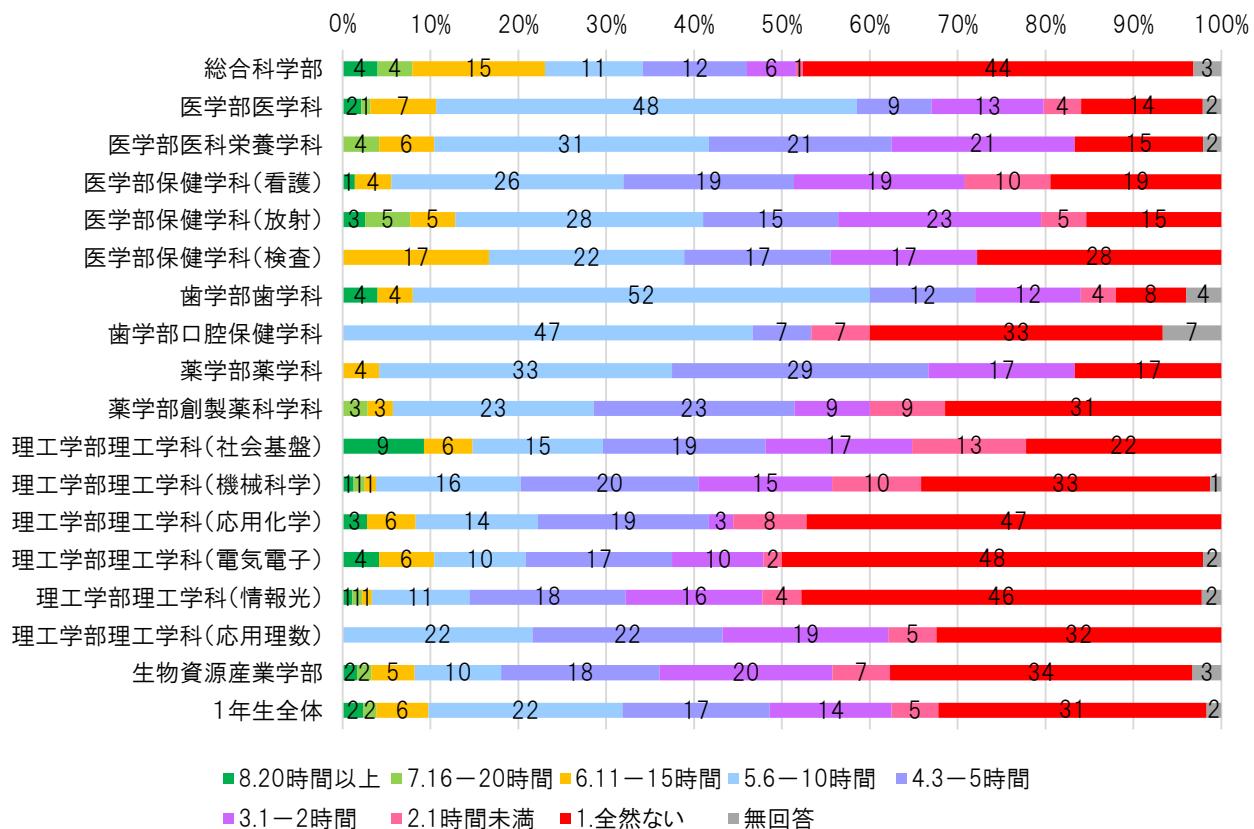
[37]オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する



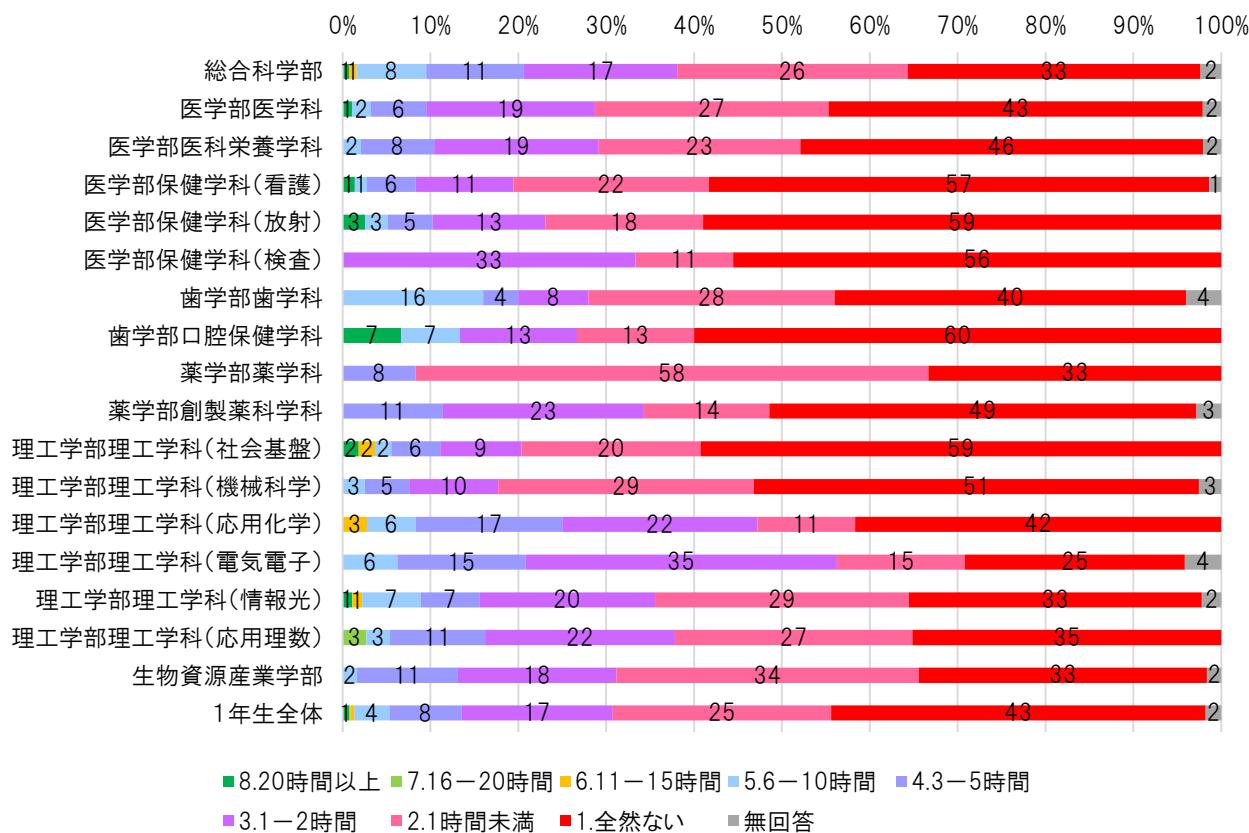
[38]部活動や同好会に参加する



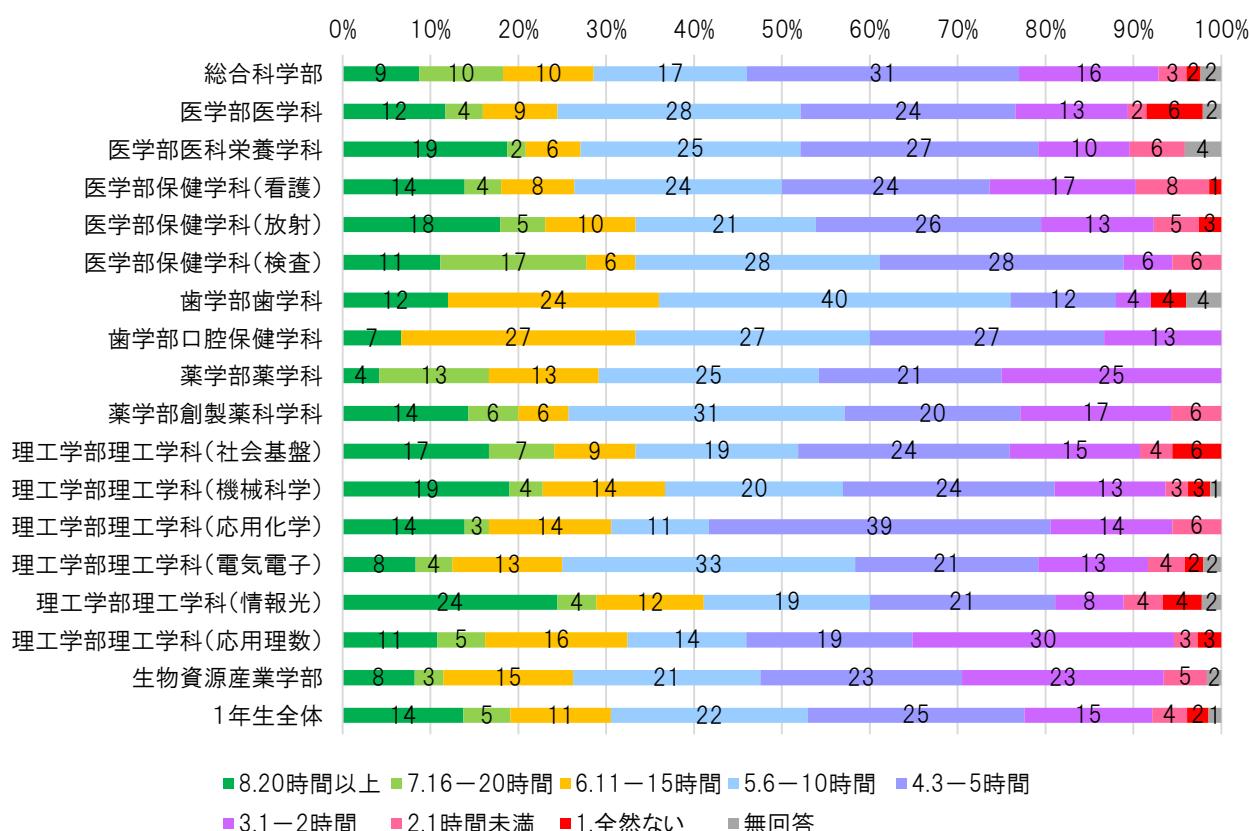
[39]大学外でアルバイトや仕事をする



[40]読書をする(マンガ・雑誌を除く)

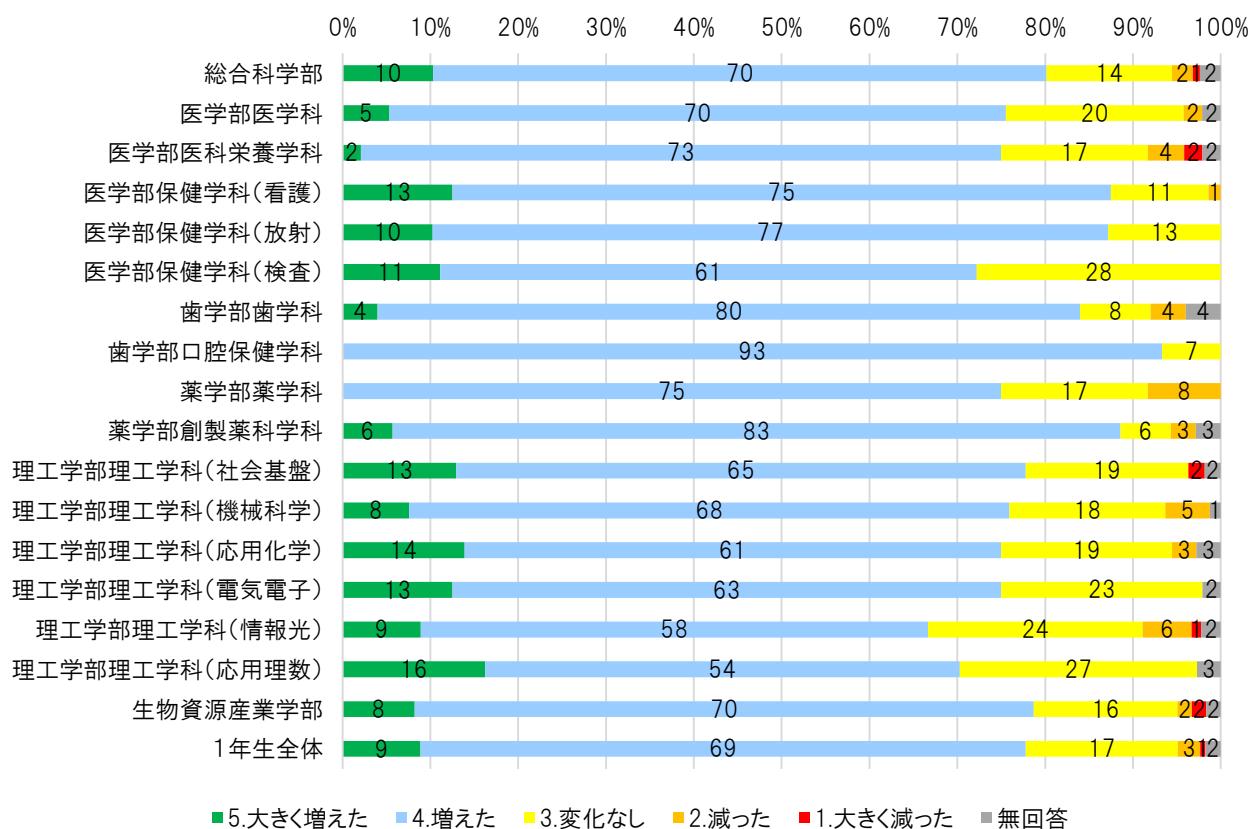


[41]個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)

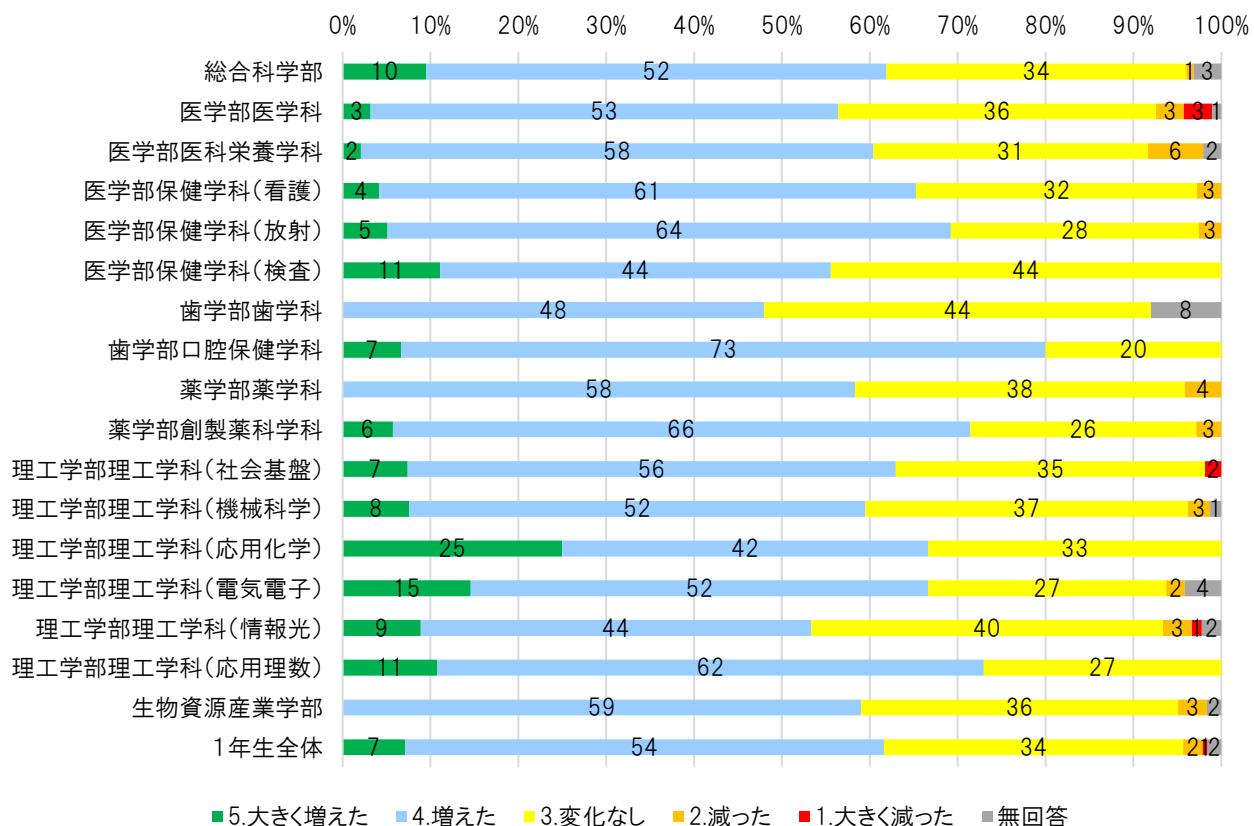


入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

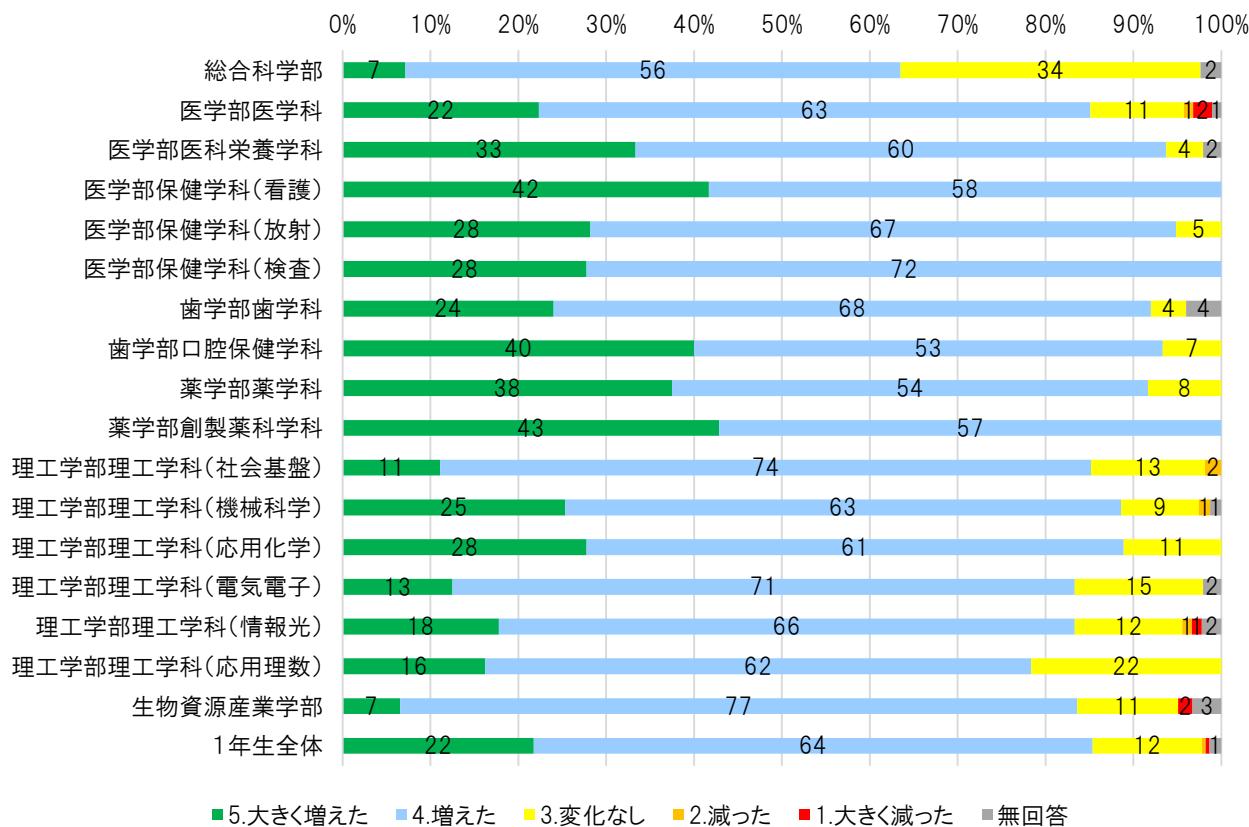
[42]一般的な教養



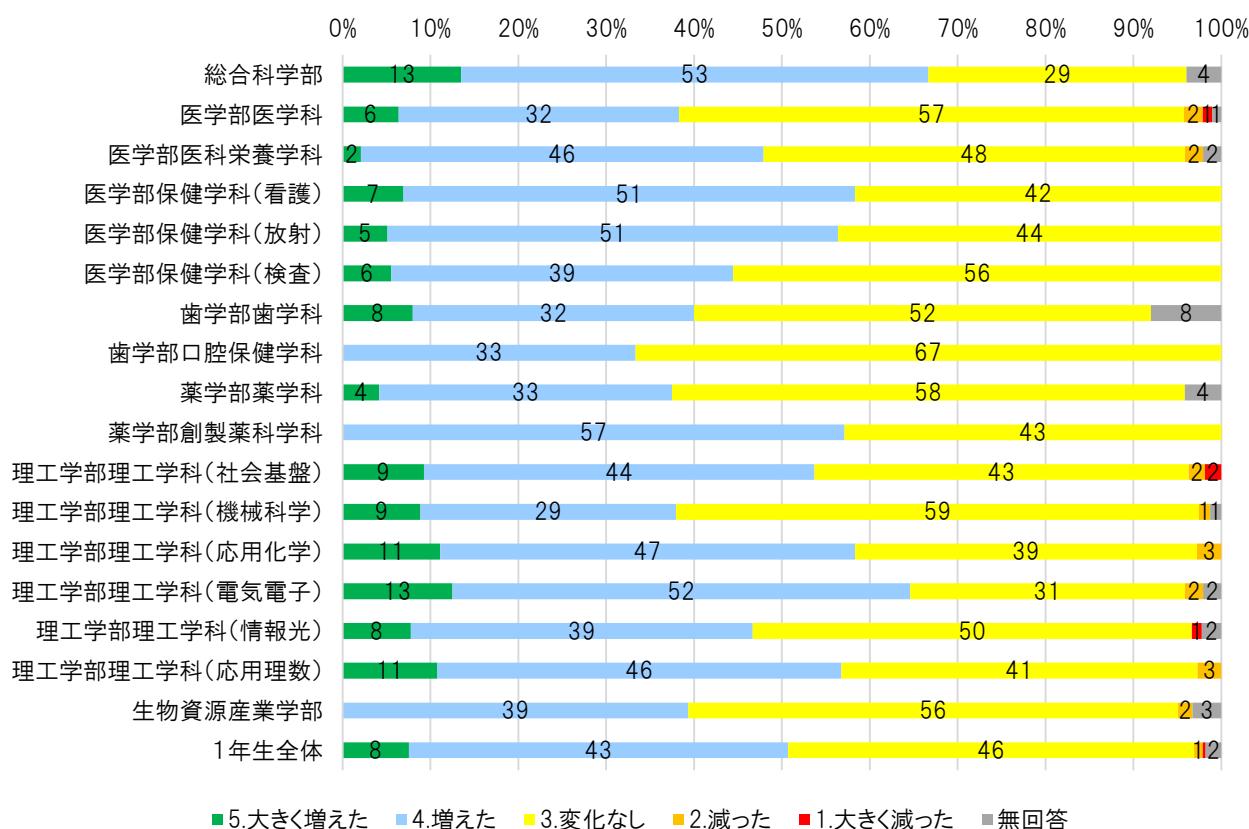
[43]分析力や問題解決能力



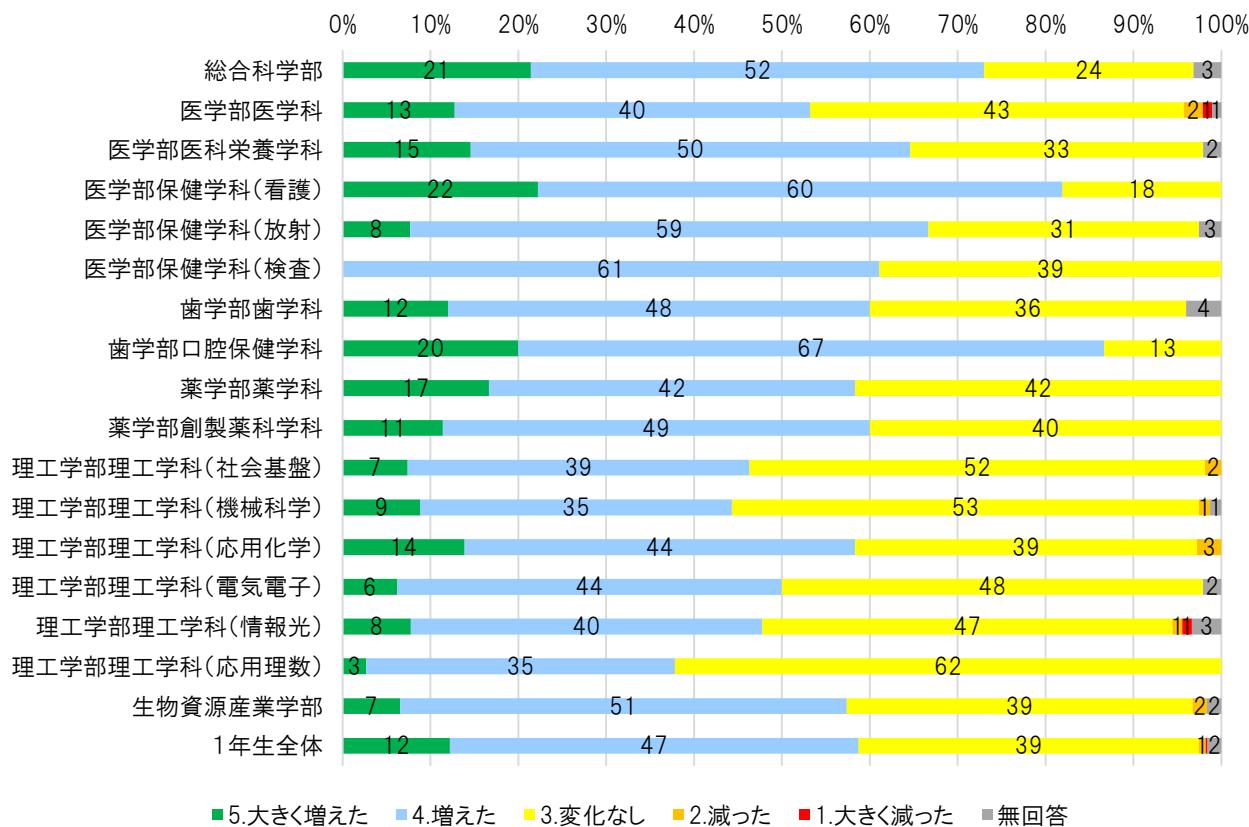
[44]専門分野や学科の知識



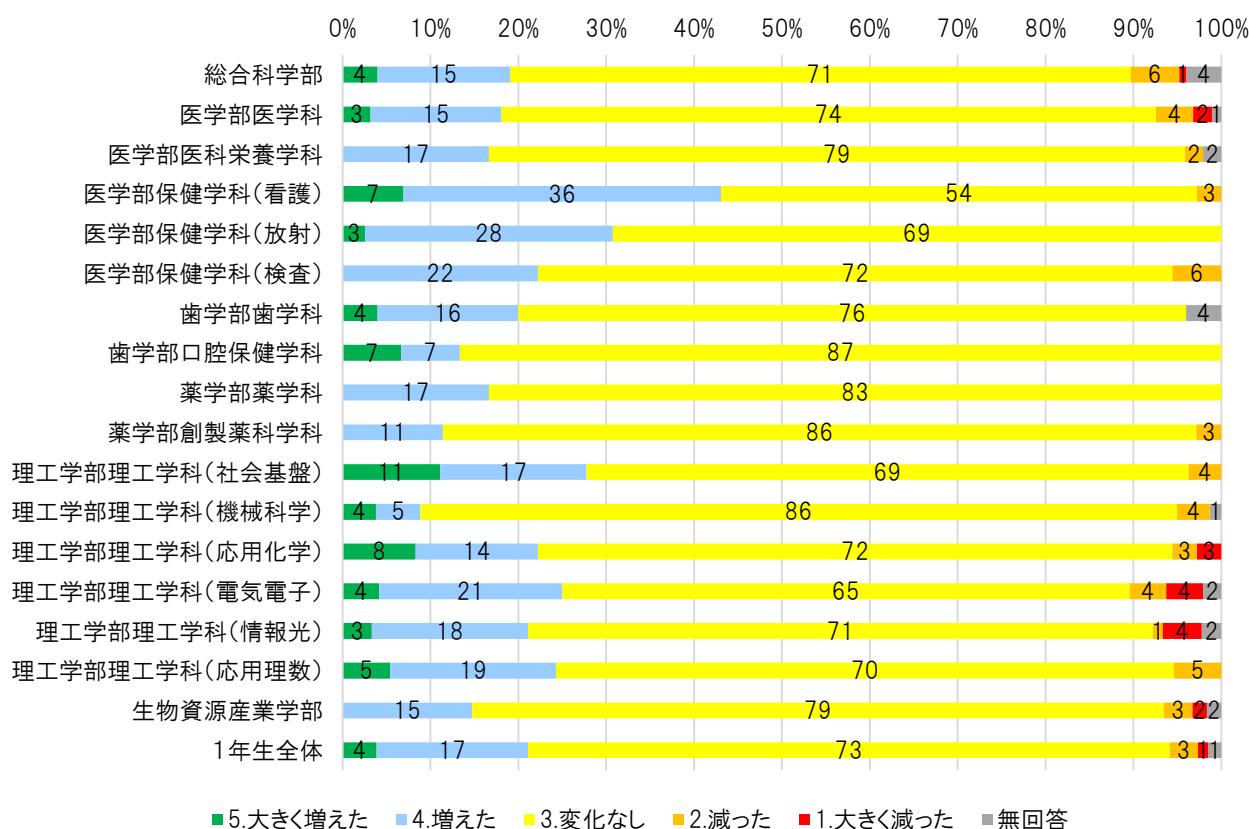
[45]批判的に考える能力



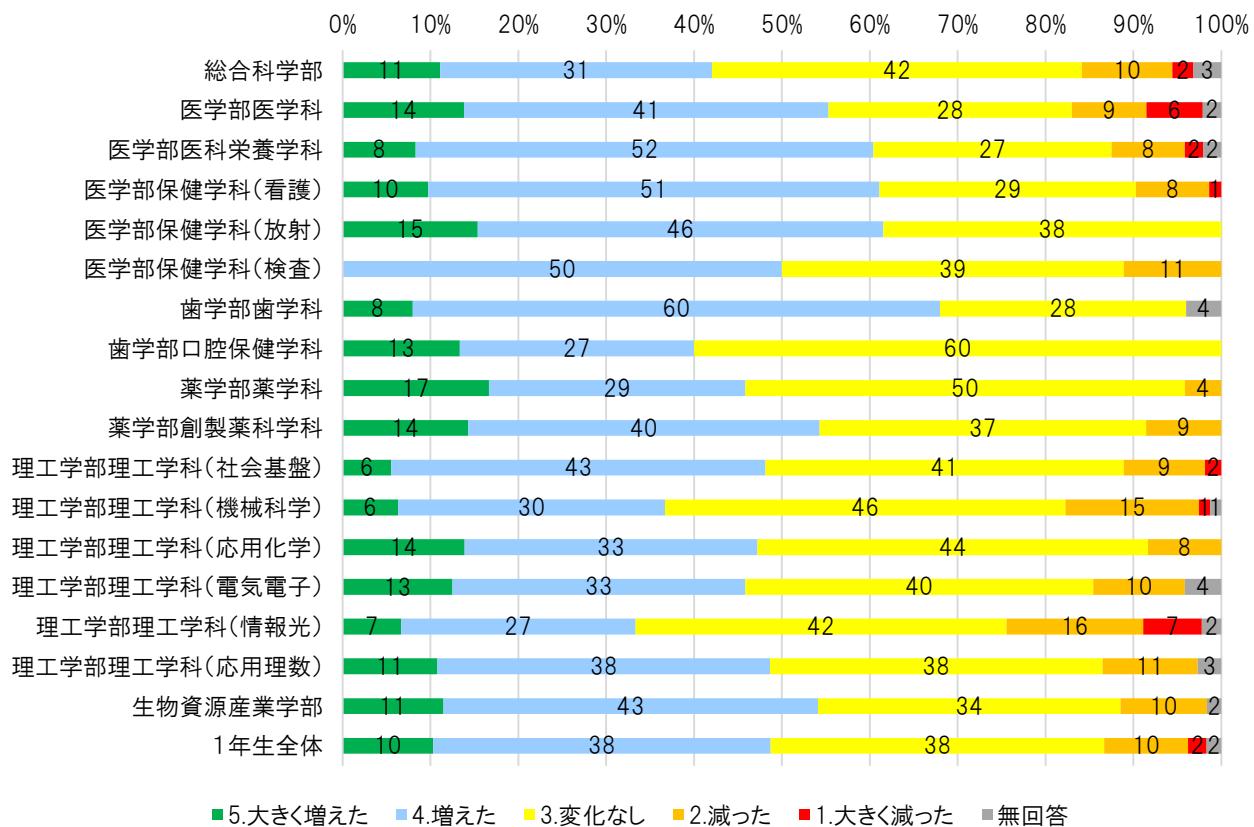
[46]異文化の人々に関する知識



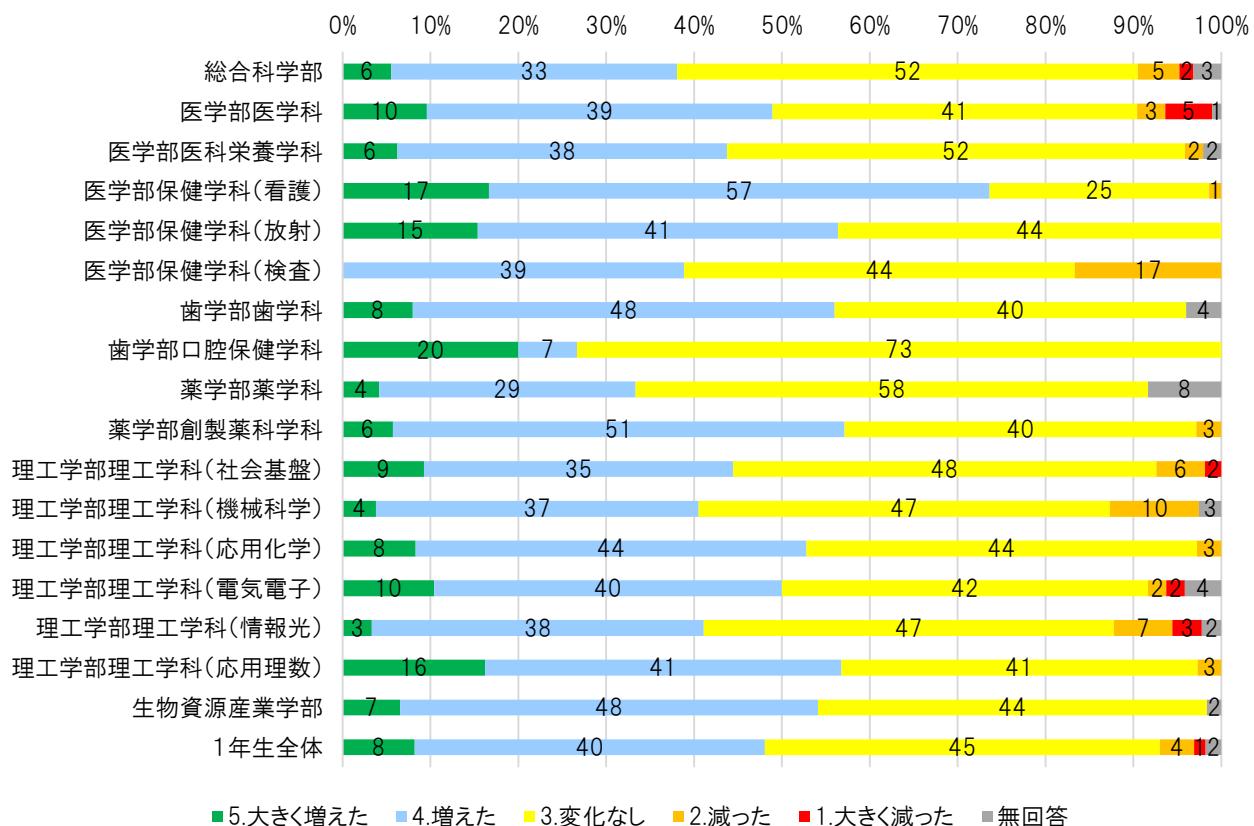
[47]リーダーシップの能力



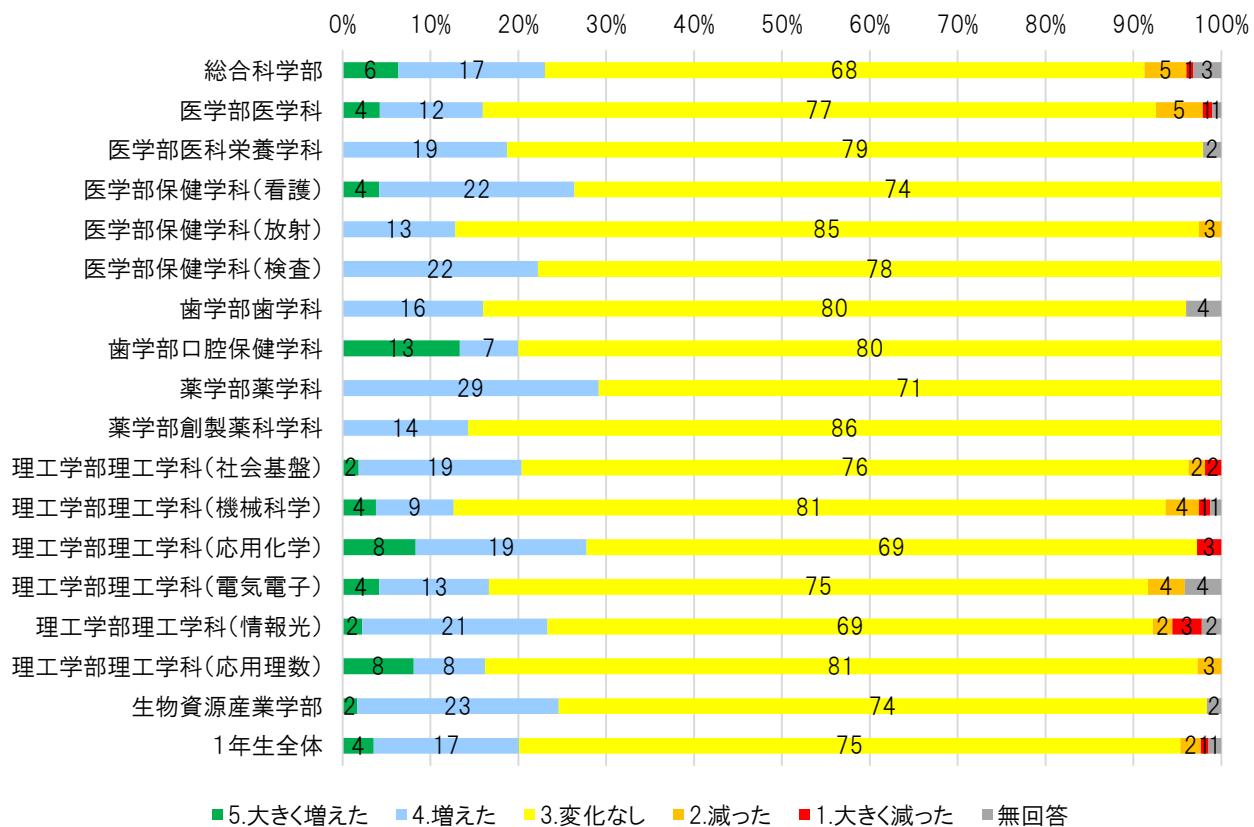
[48]人間関係を構築する能力



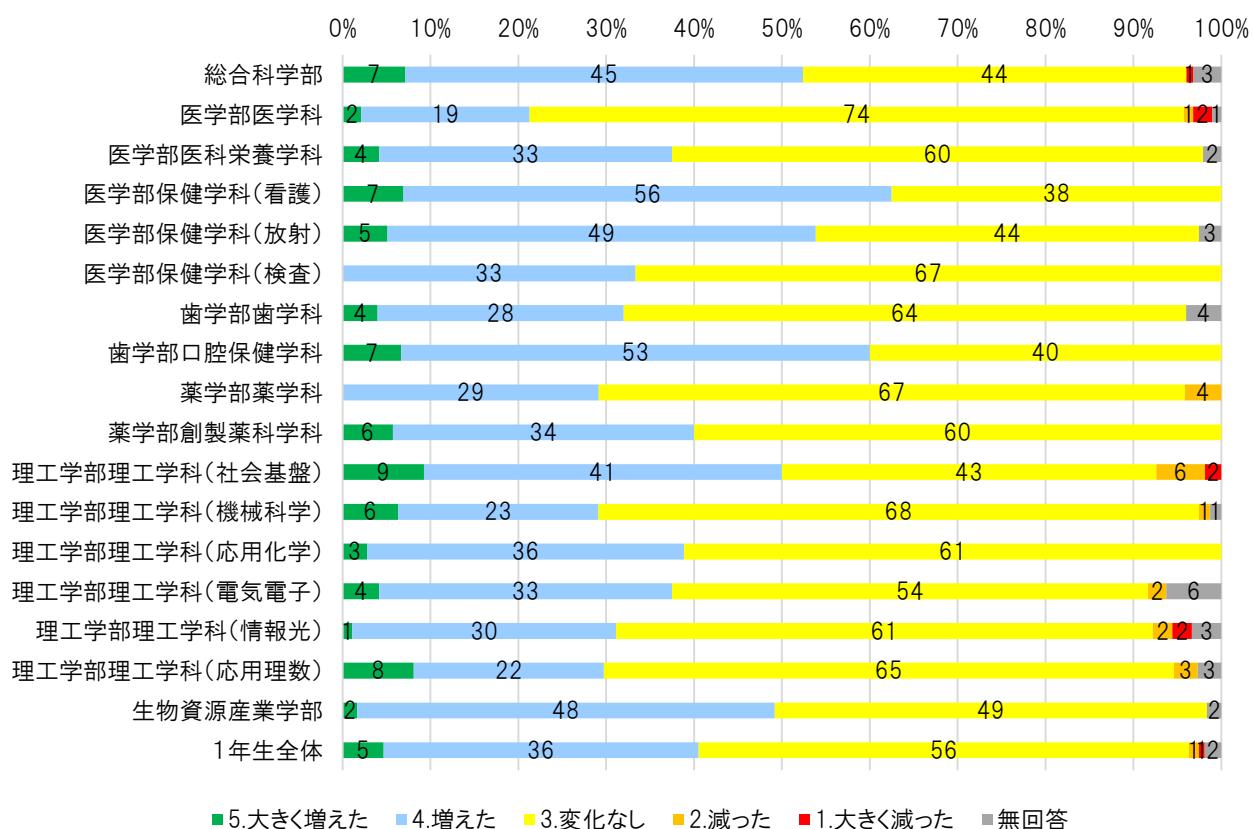
[49]他の人と協力して物事を遂行する能力



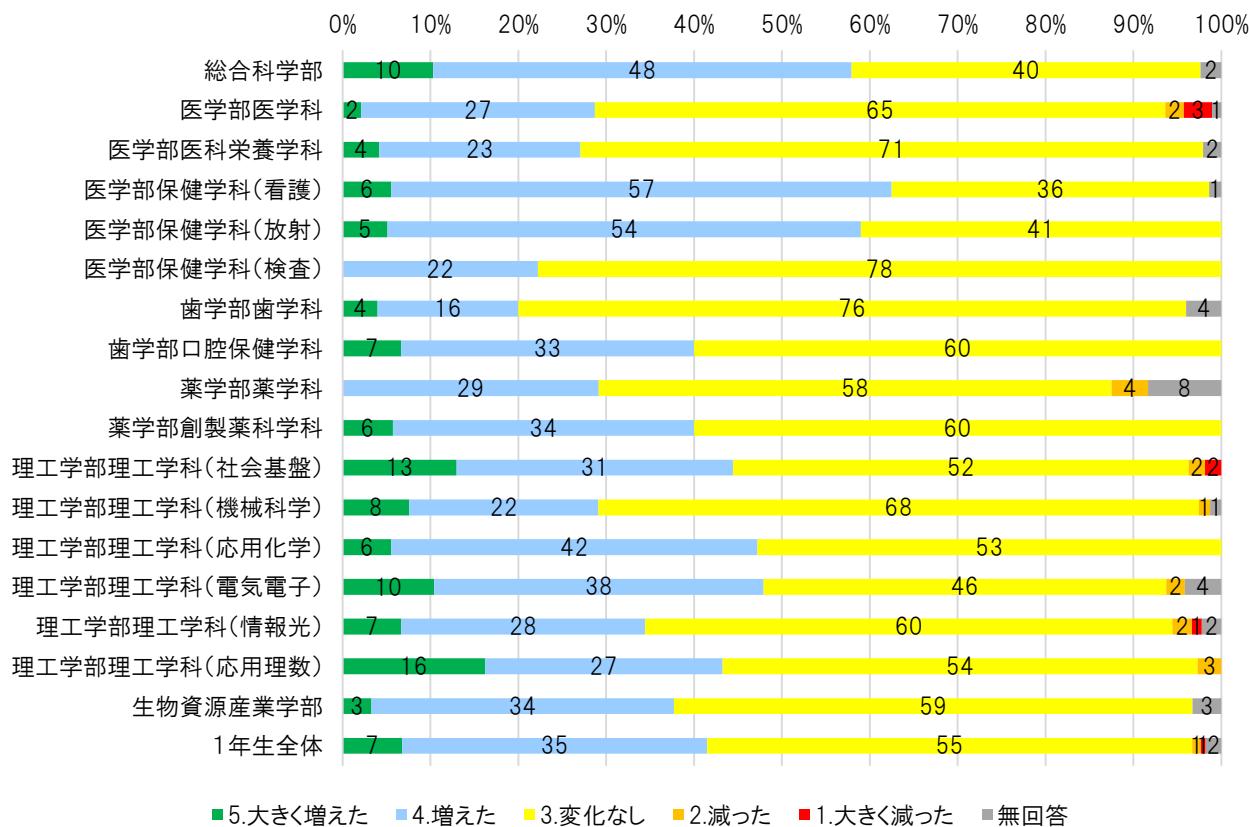
[50]異文化の人々と協力する能力



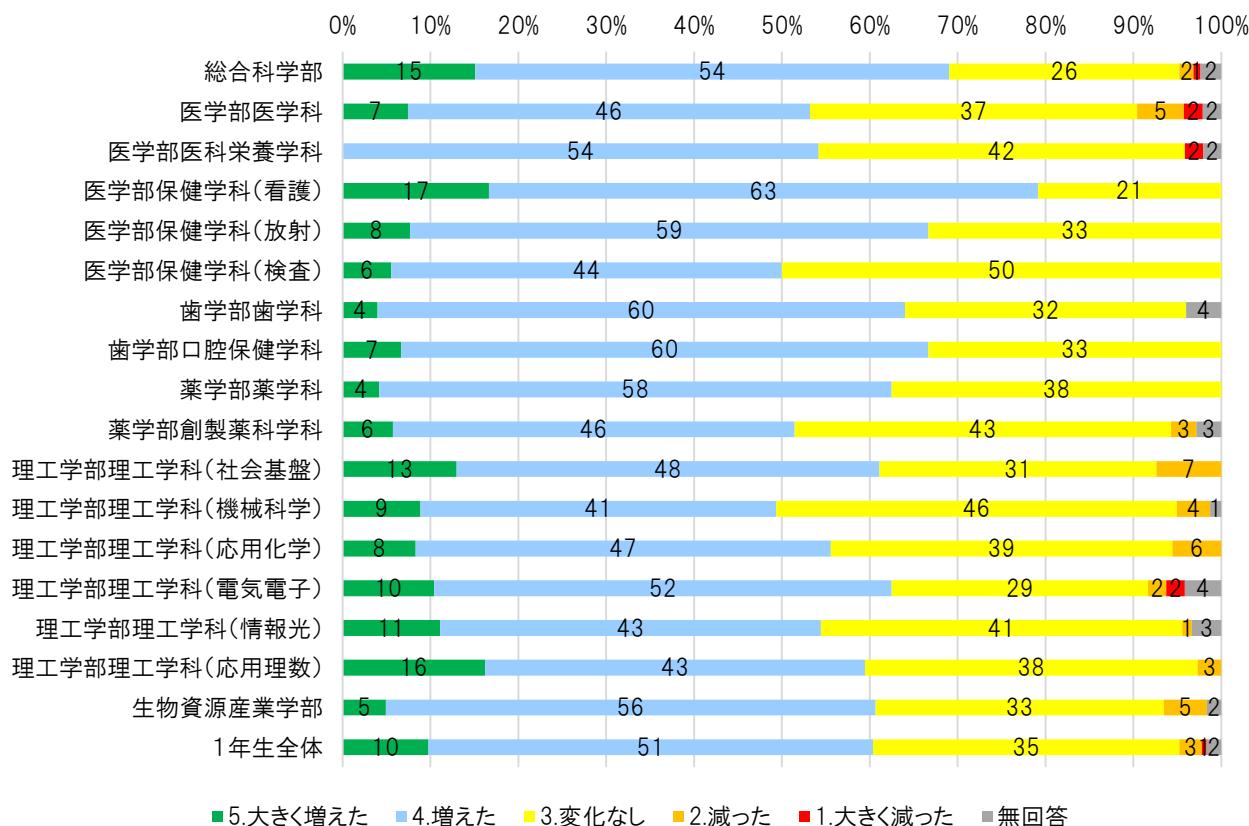
[51]地域社会が直面する問題を理解する能力



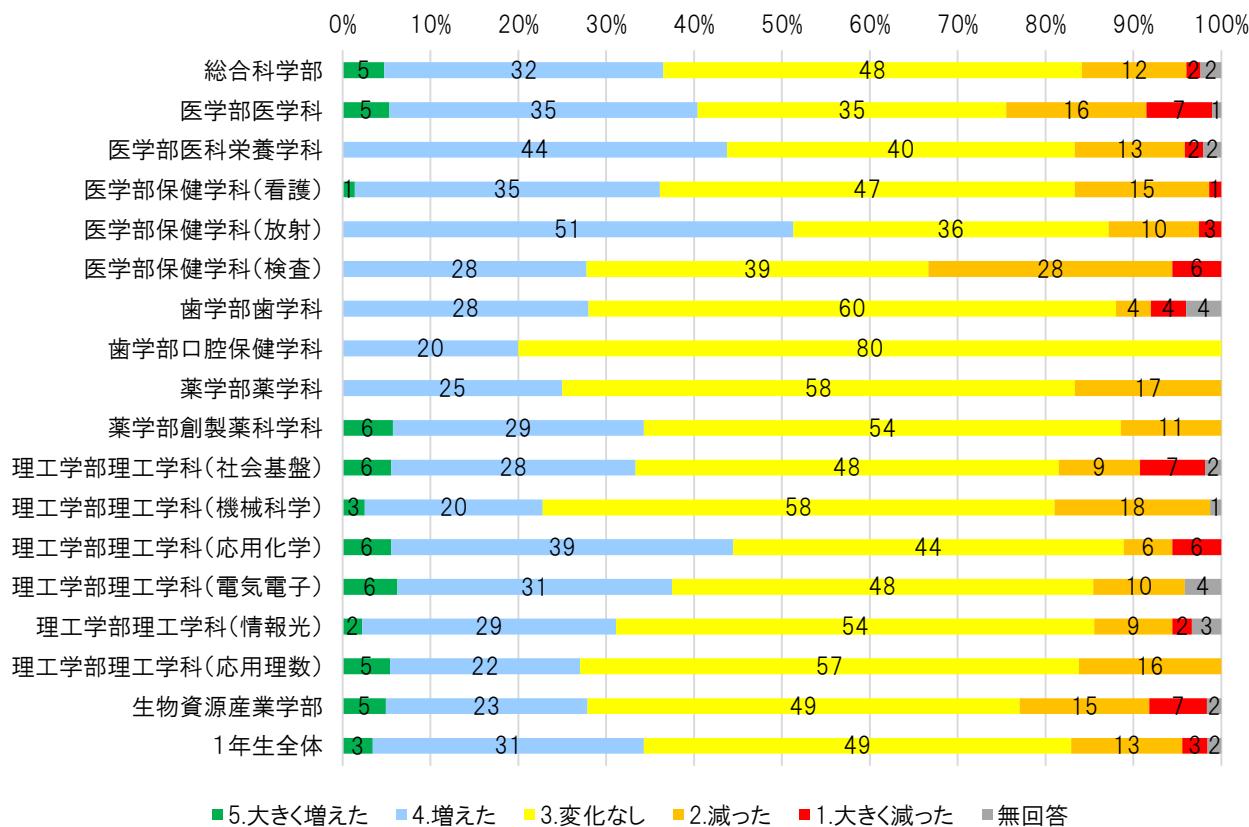
[52]国民が直面する問題を理解する能力



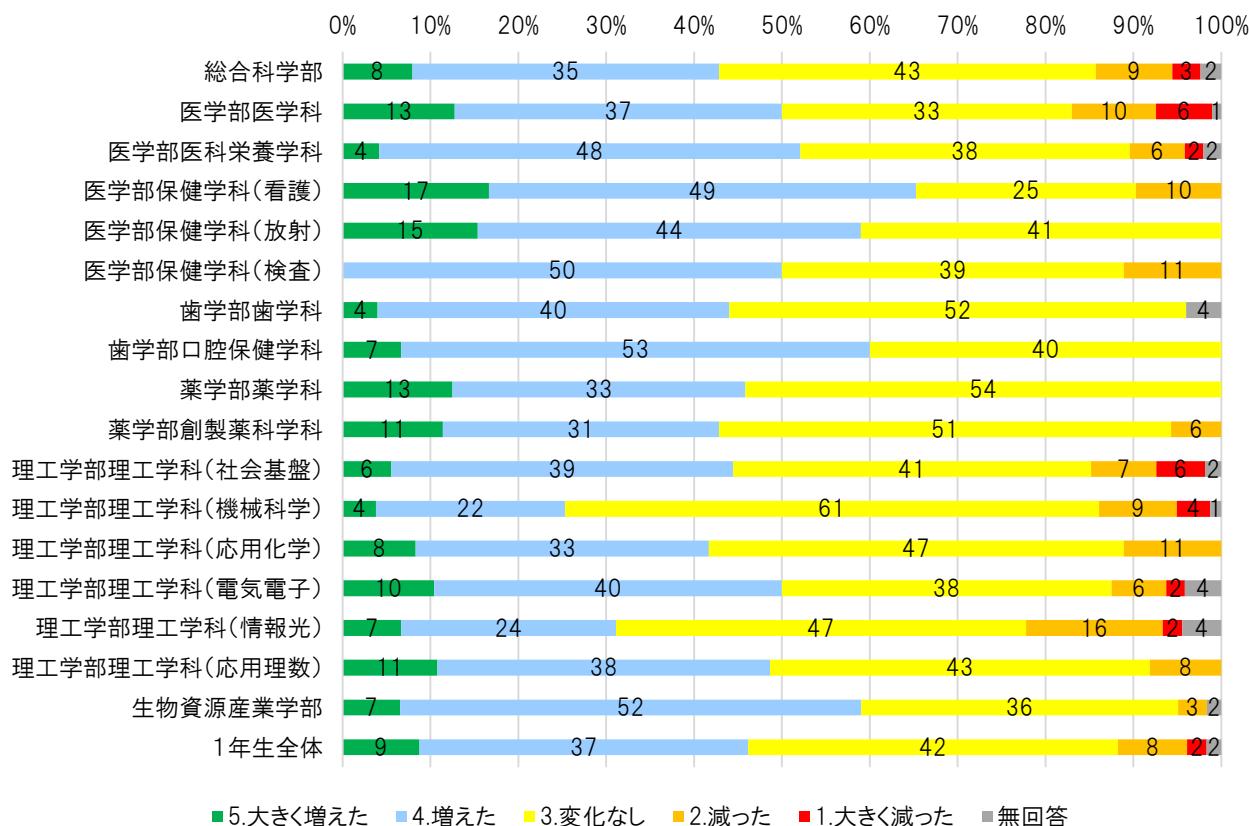
[53]文章表現の能力



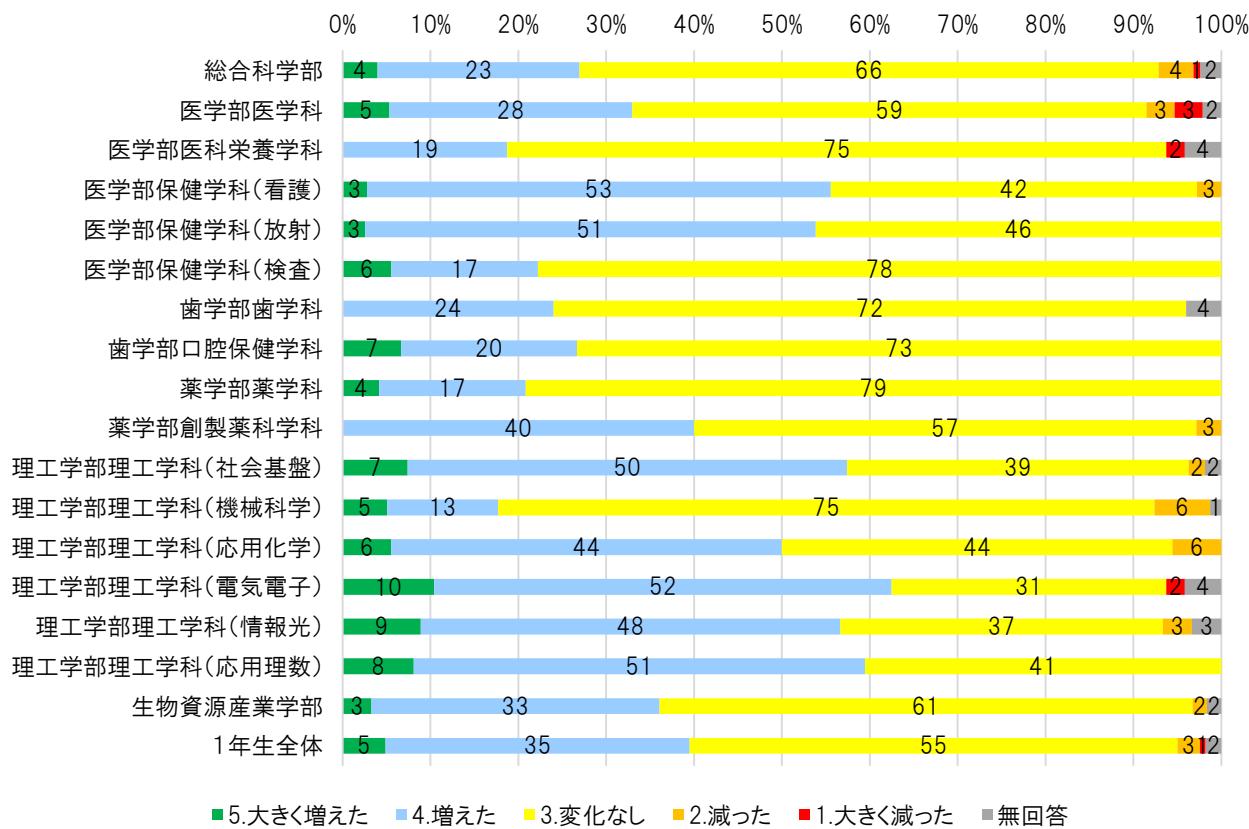
[54]外国語の運用能力



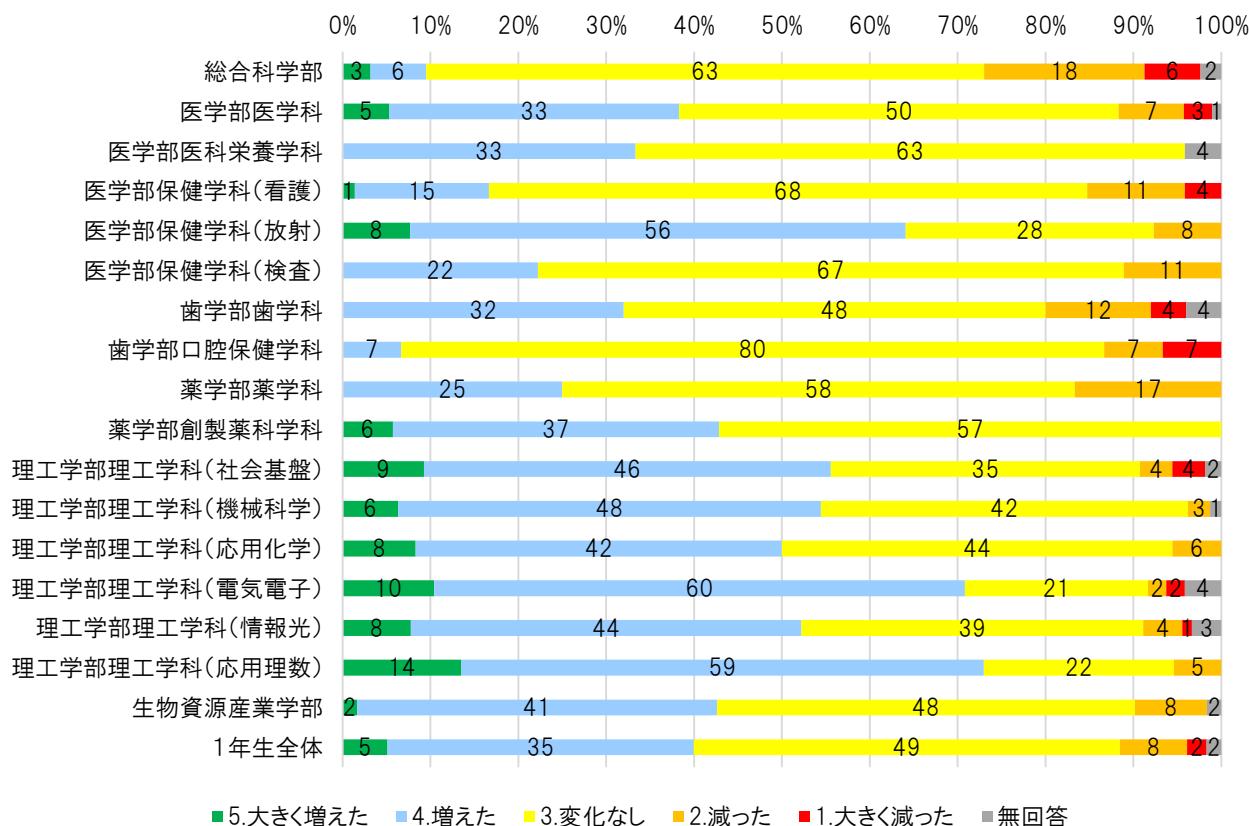
[55]コミュニケーションの能力



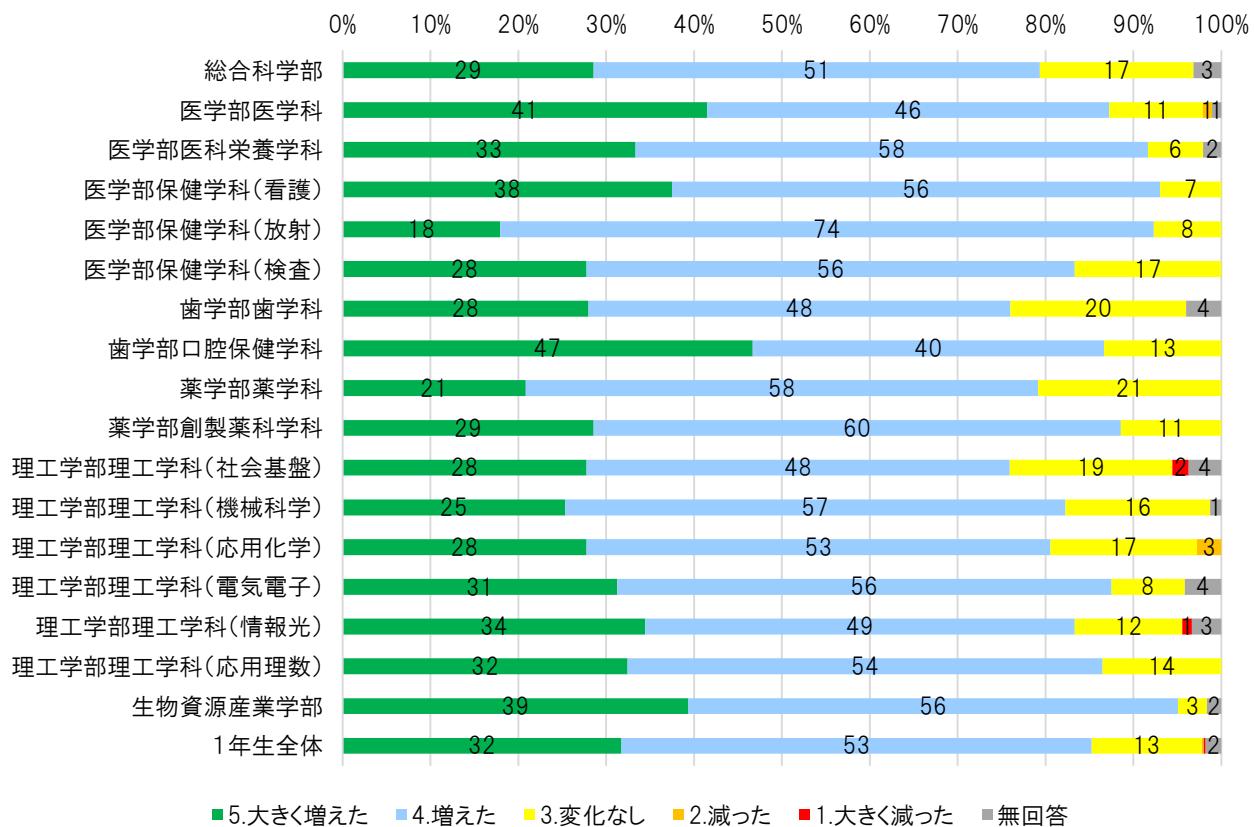
[56]プレゼンテーションの能力



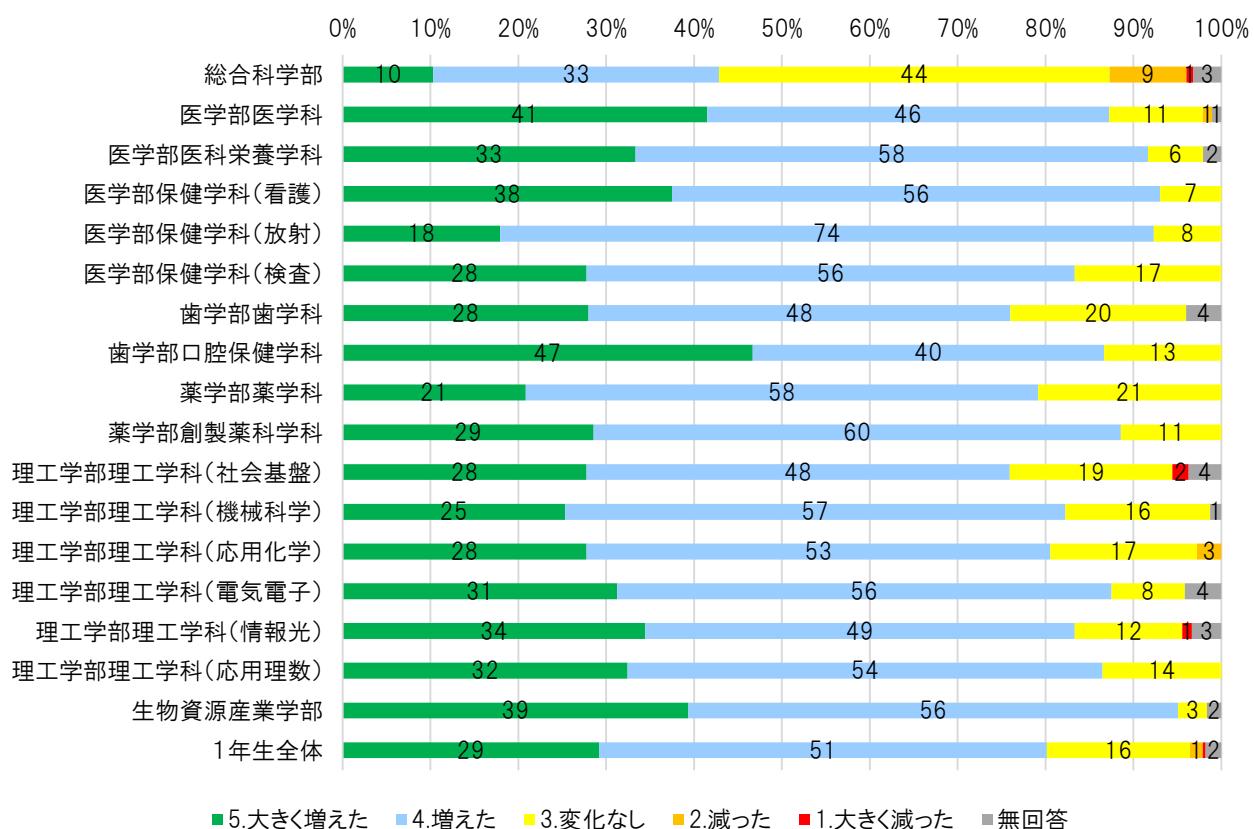
[57]数理的な能力



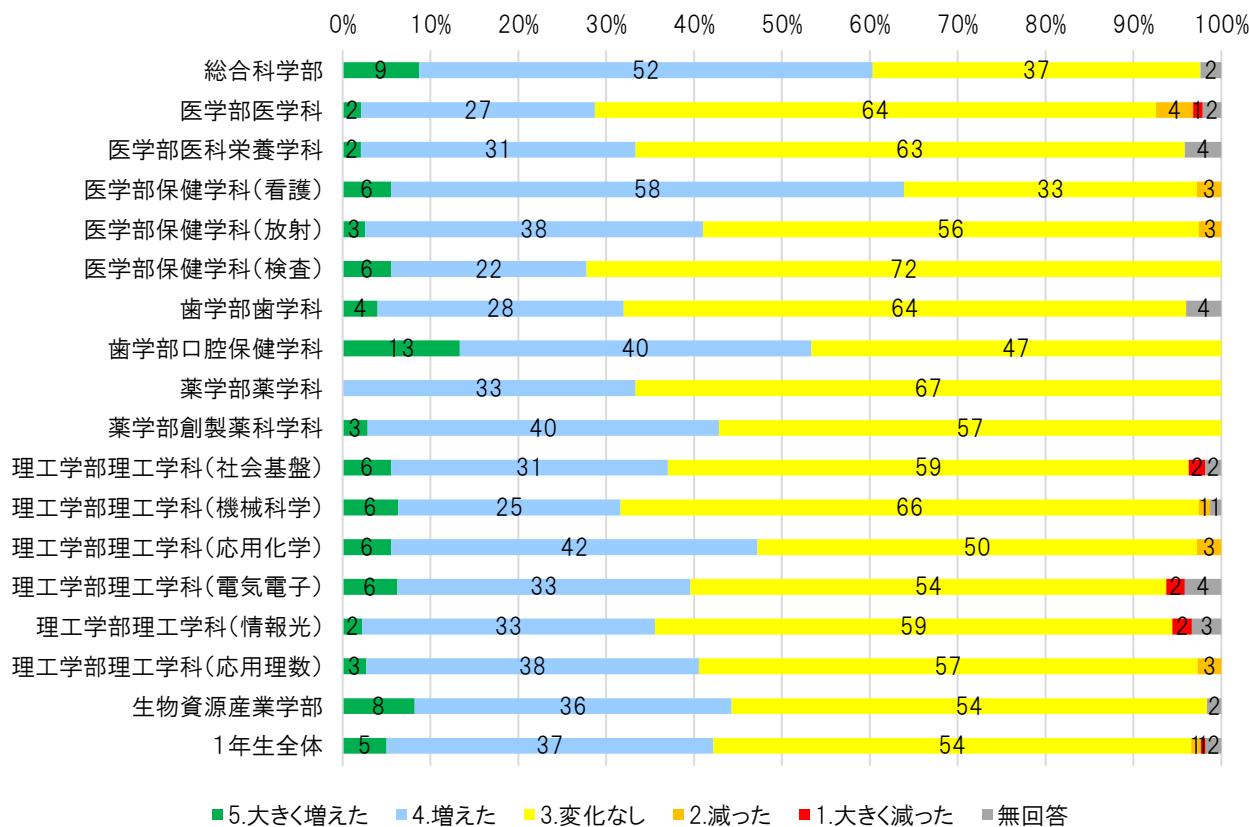
[58]コンピュータの操作能力



[59]時間を効果的に利用する能力

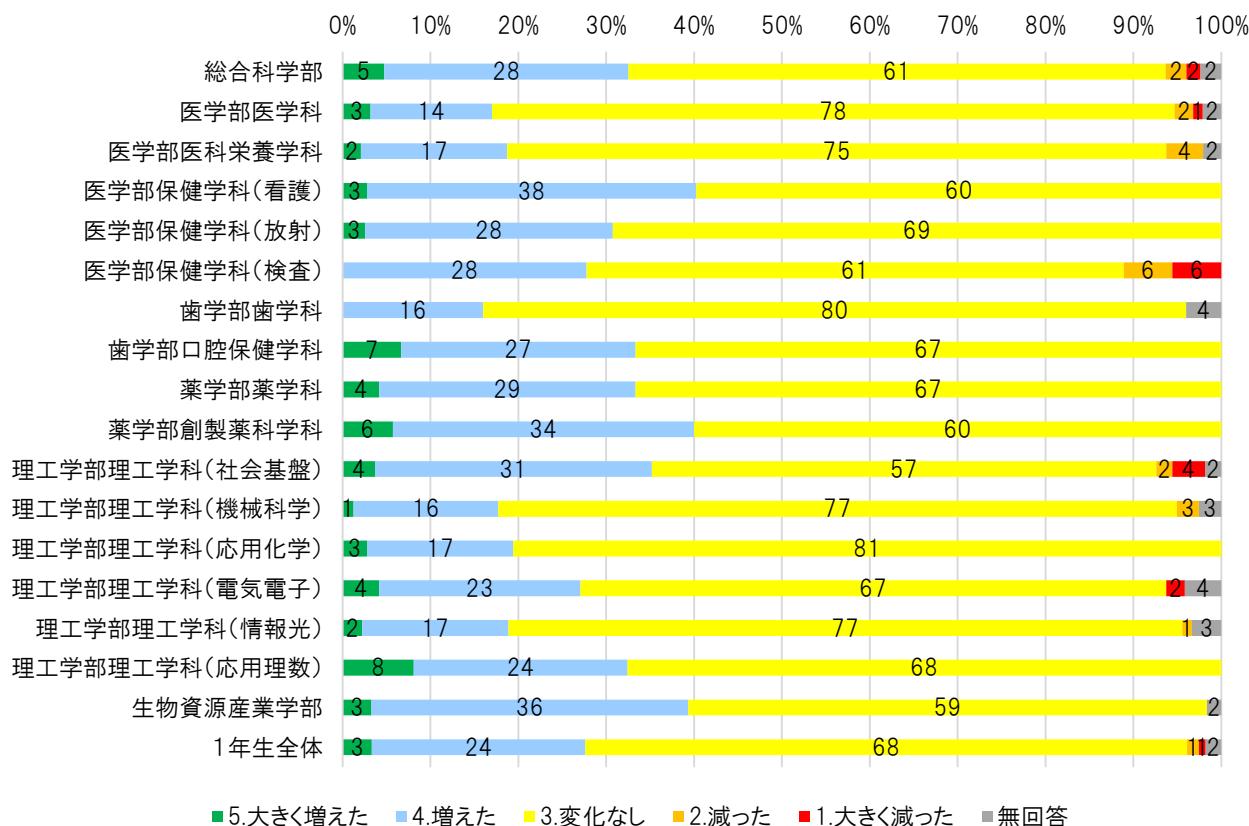


[60]グローバルな問題の理解



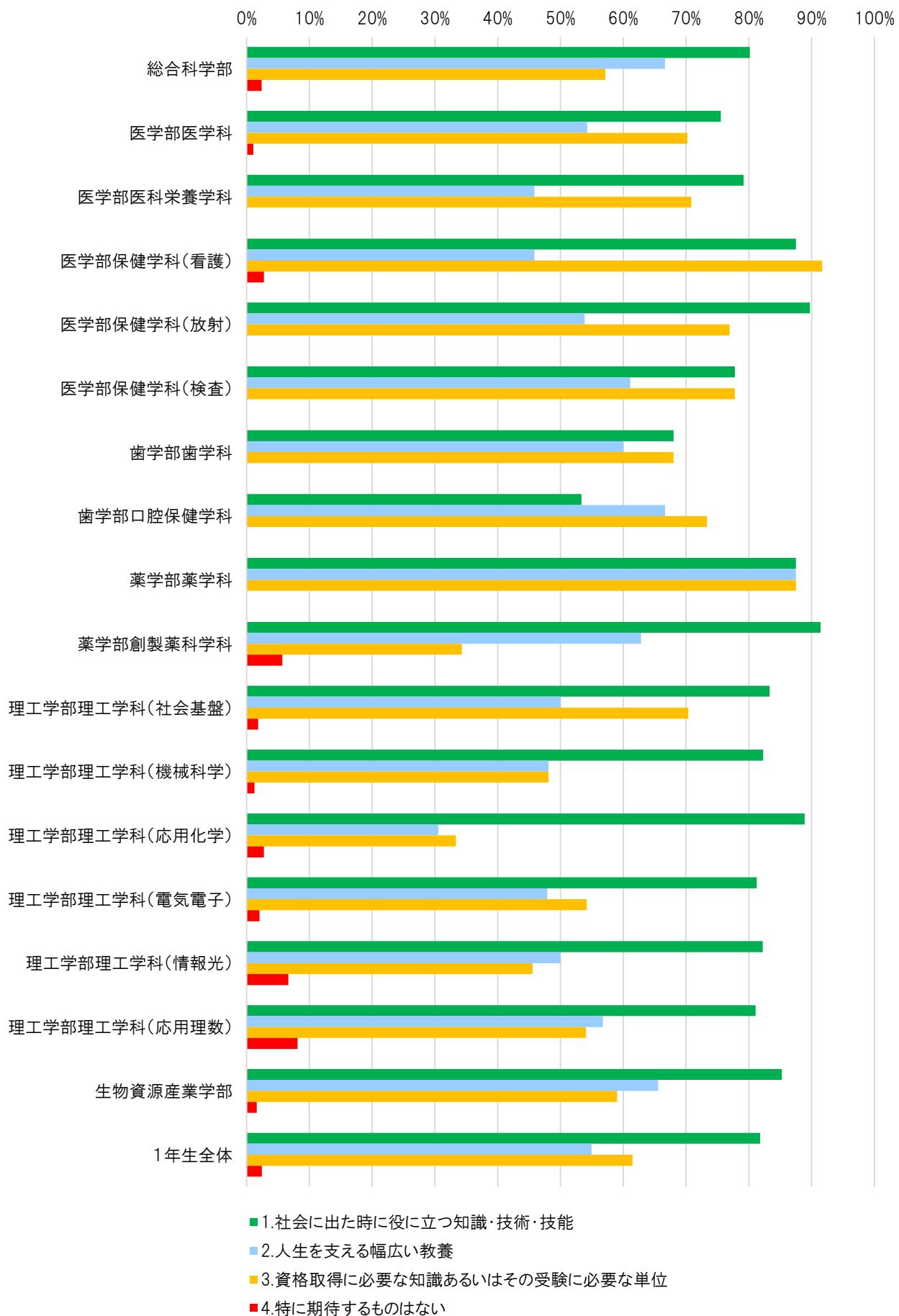
■5.大きくえた ■4.えた ■3.なし ■2.減った ■1.大きく減った ■無回答

[61]卒業後に就職するための準備の度合い

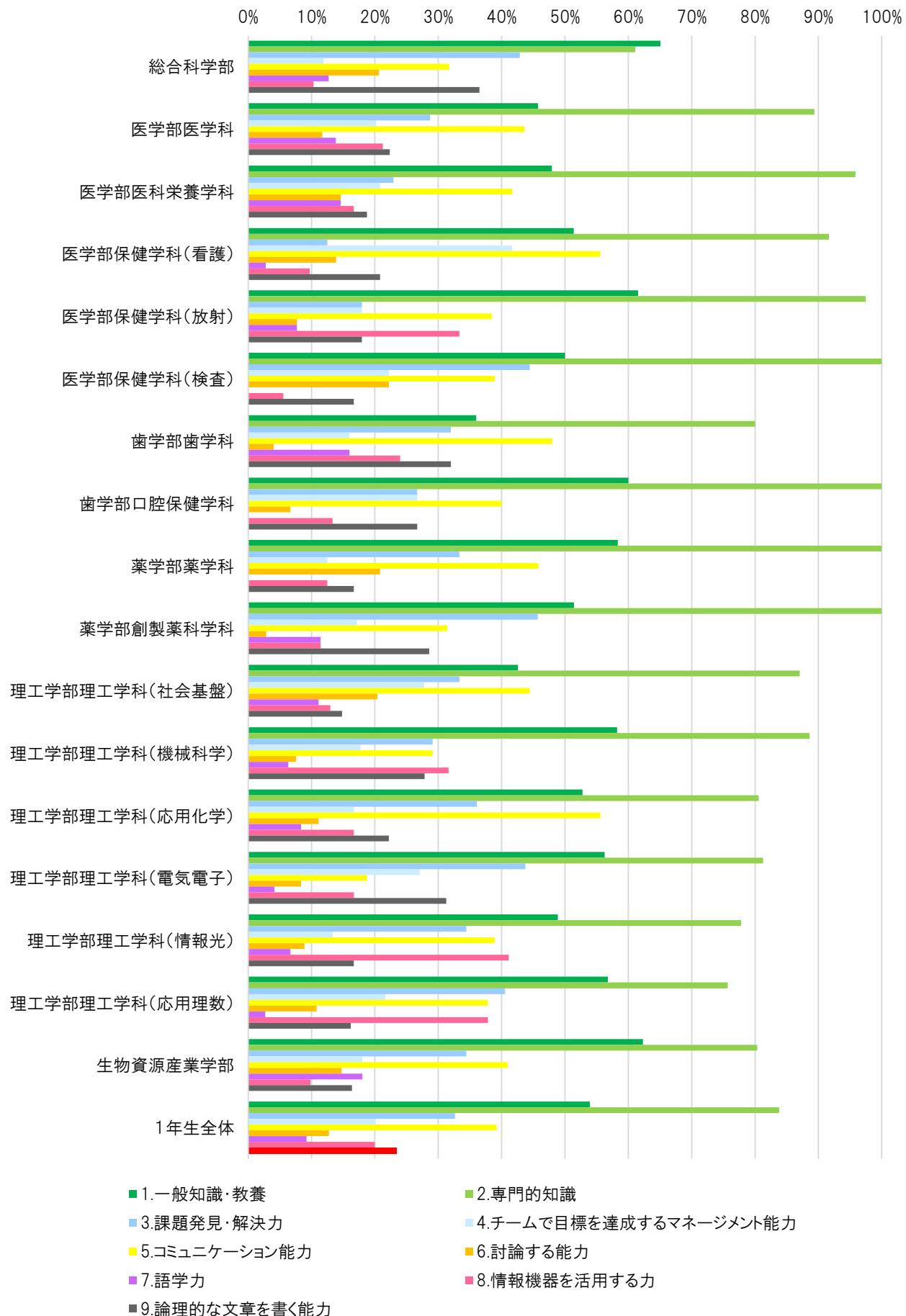


■5.大きくえた ■4.えた ■3.なし ■2.減った ■1.大きく減った ■無回答

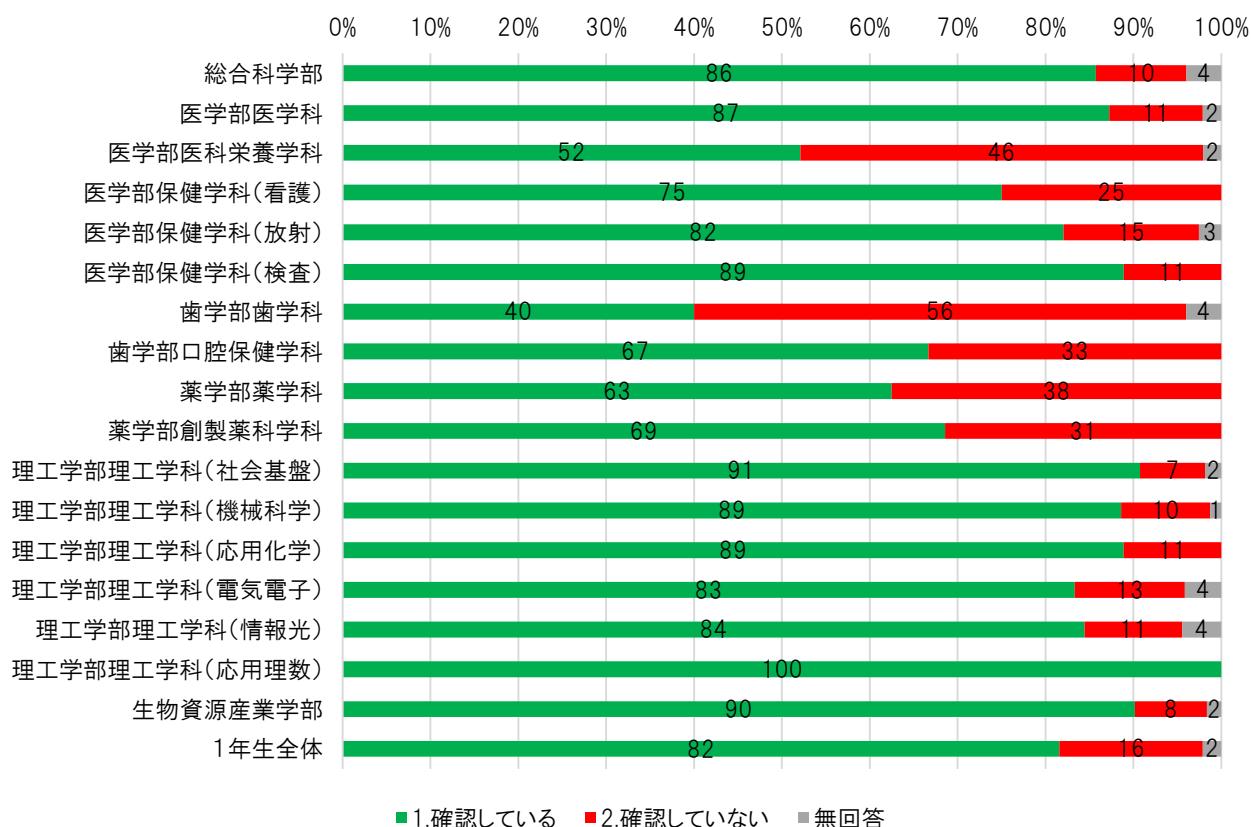
[62]大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)



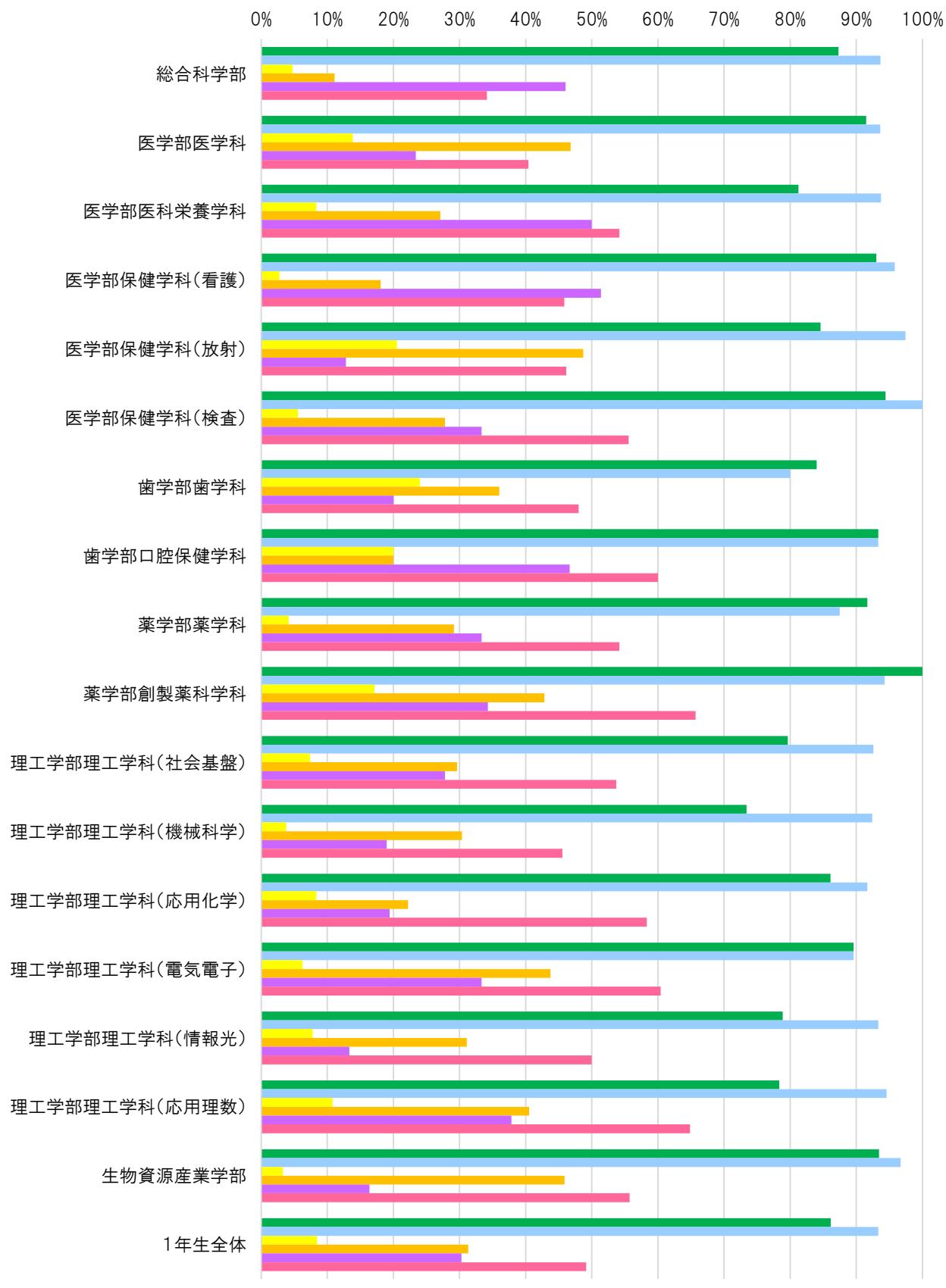
[63]大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。



[64]徳島大学では「GPA(自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値)」を成績表に記載しています。自身の「GPA」について確認していますか。

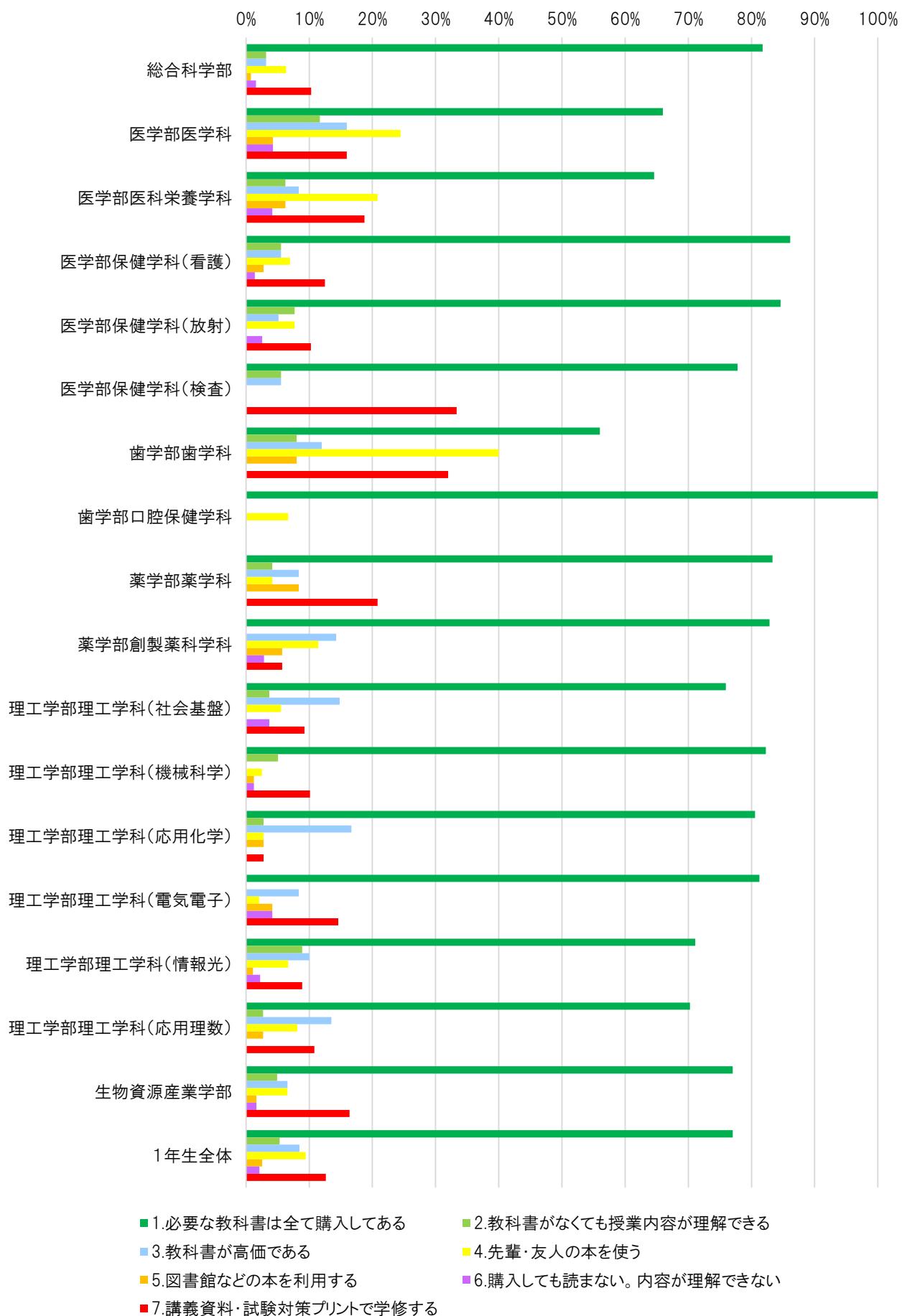


[65]レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)



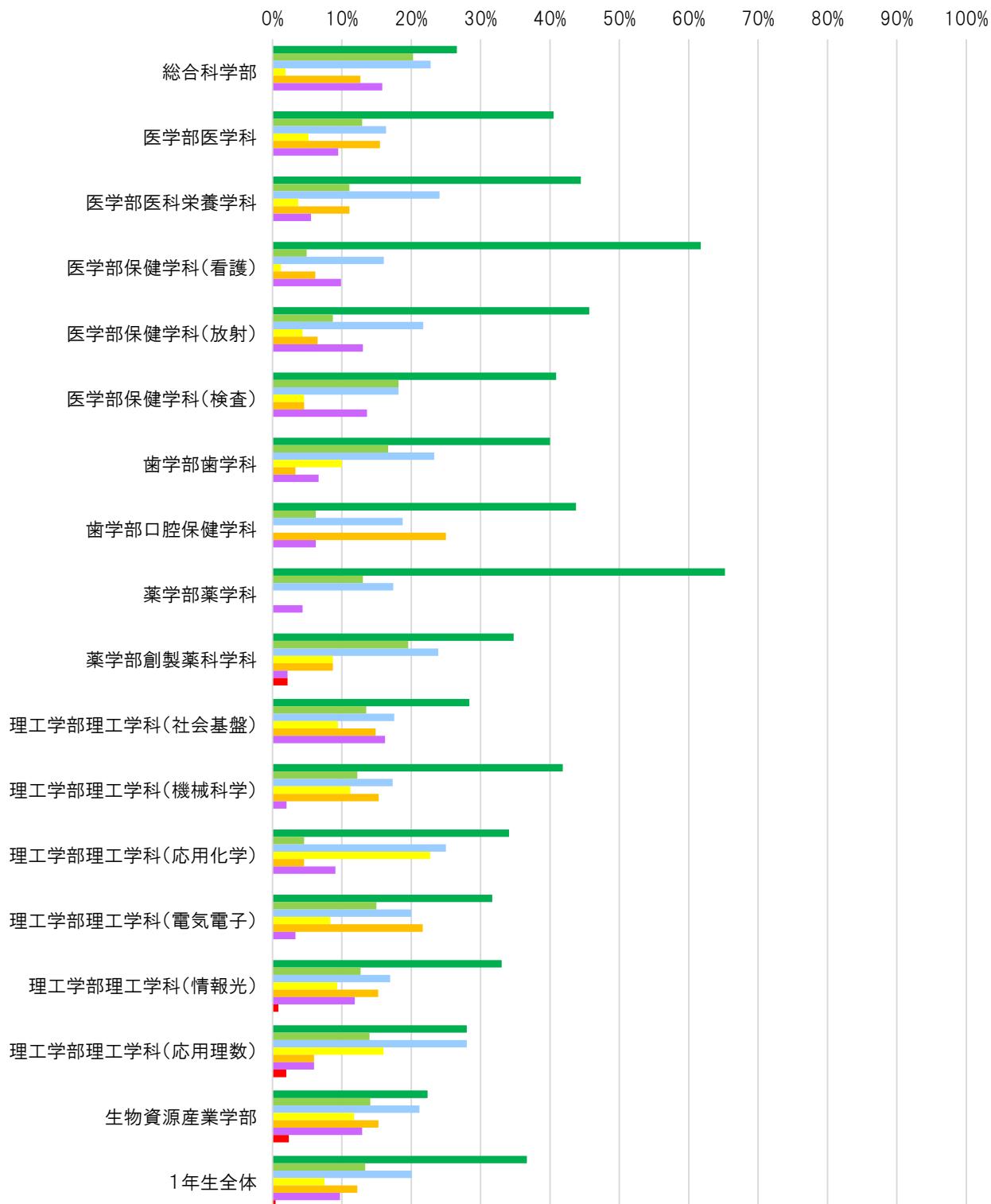
- 1.教科書・参考書・授業での配布資料
- 2.インターネット
- 3.教員
- 4.友人・先輩
- 5.図書館の書籍・文献(電子版を含む)
- 6.講義ノート

[66]教科書を購入していない場合の理由はなんですか。(複数回答可)



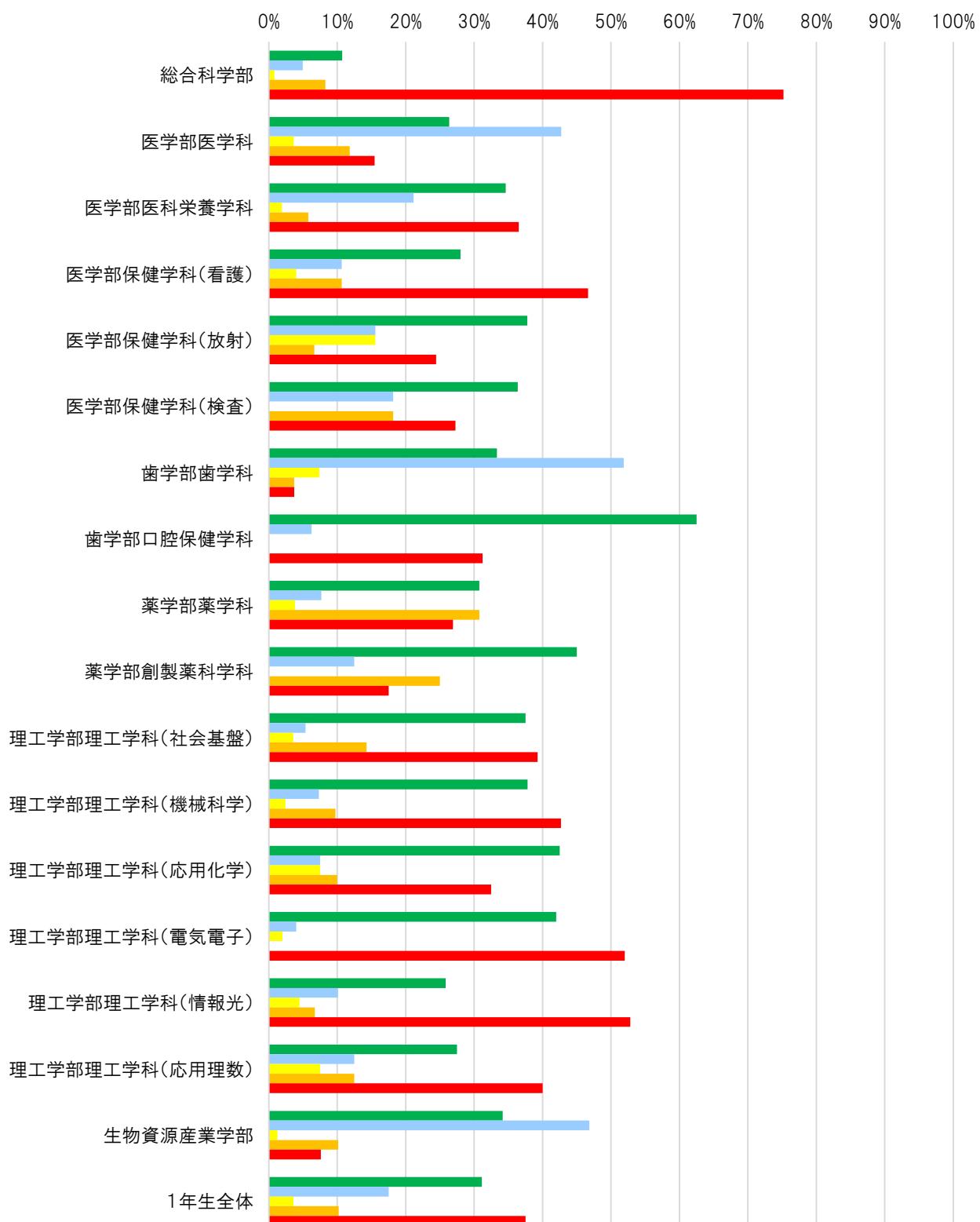
- 1.必要な教科書は全て購入してある
- 2.教科書がなくても授業内容が理解できる
- 3.教科書が高価である
- 4.先輩・友人の本を使う
- 5.図書館などの本を利用する
- 6.購入しても読まない。内容が理解できない
- 7.講義資料・試験対策プリントで学修する

[67]大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)



- 1.大学の授業以外で、実行や計画していることはない
- 2.教養や社会問題の理解に役立つ読書
- 3.語学など自分の将来を考えたスキルの修得
- 4.数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
- 5.自分の興味のあるテーマの研究
- 6.資格習得や受験に備えた学修
- 7.卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等

[68]高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)



- 1.高校の教科書、参考書を使い、勉強した
- 2.教養教育で開口されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
- 3.HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
- 4.勉強の必要性を感じたが、LMS(リメディアル教材)の存在を知らず何もしていない
- 5.支障を感じないので何もしていない

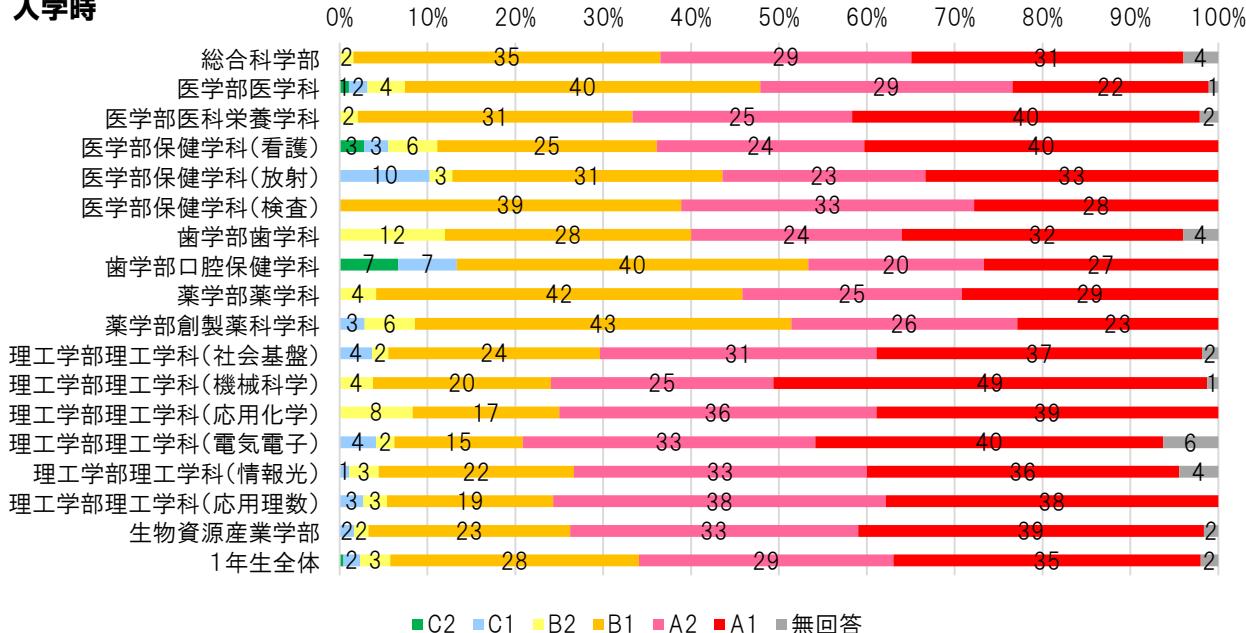
III. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、「①入学時」と「②現在」それぞれについて、到達していると思うレベルを、1つ答えてください。

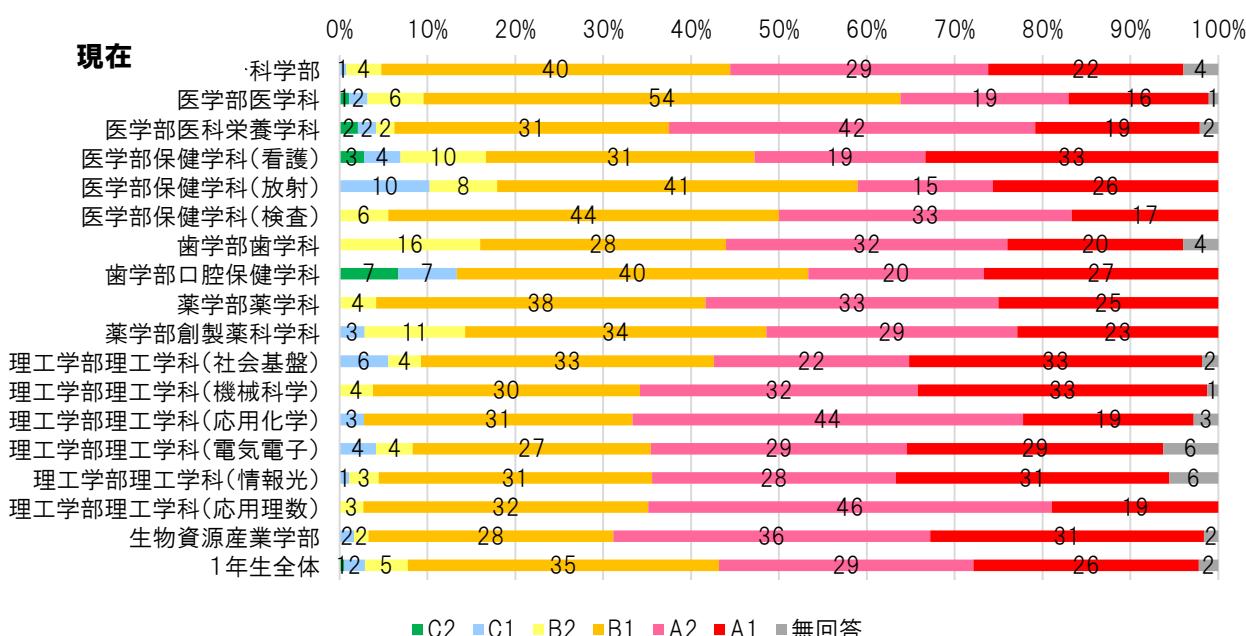
[69]聞く力

- A1 はつきりと、ゆっくり話してもらえば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
 A2 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。
 B1 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。
 B2 テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。
 C1 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。
 C2 母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。

入学時

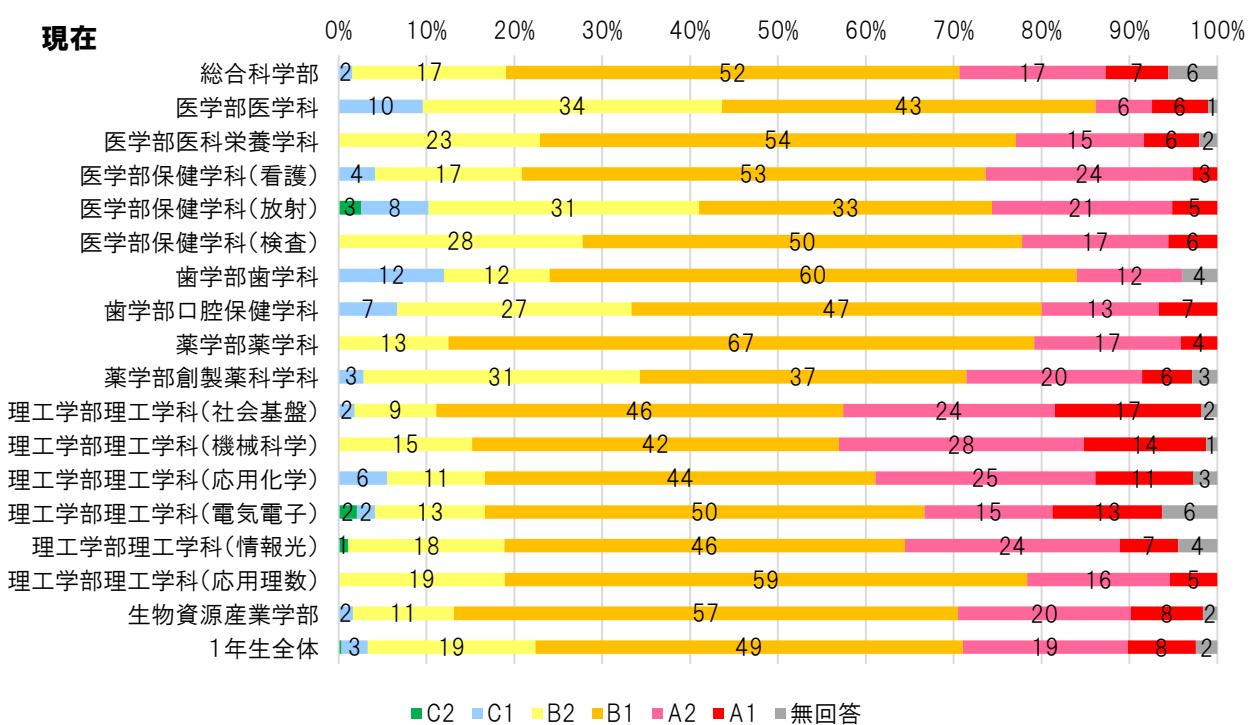
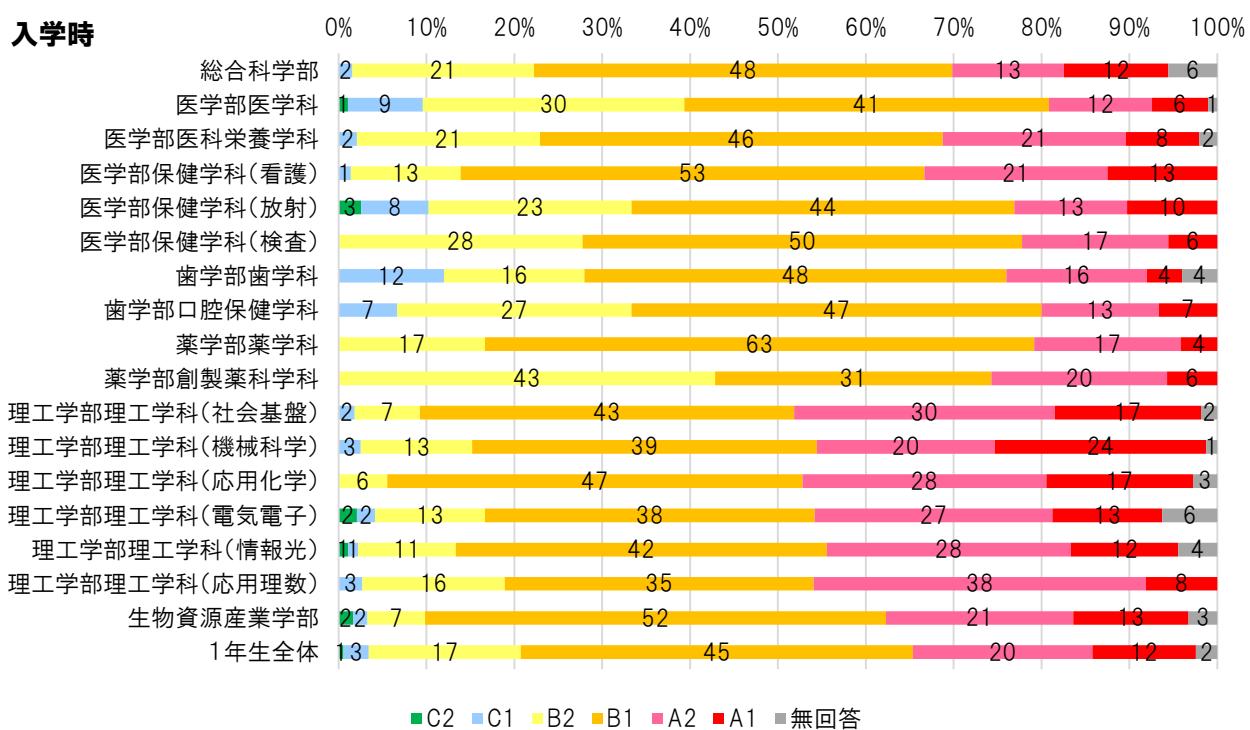


現在



[70]読む力

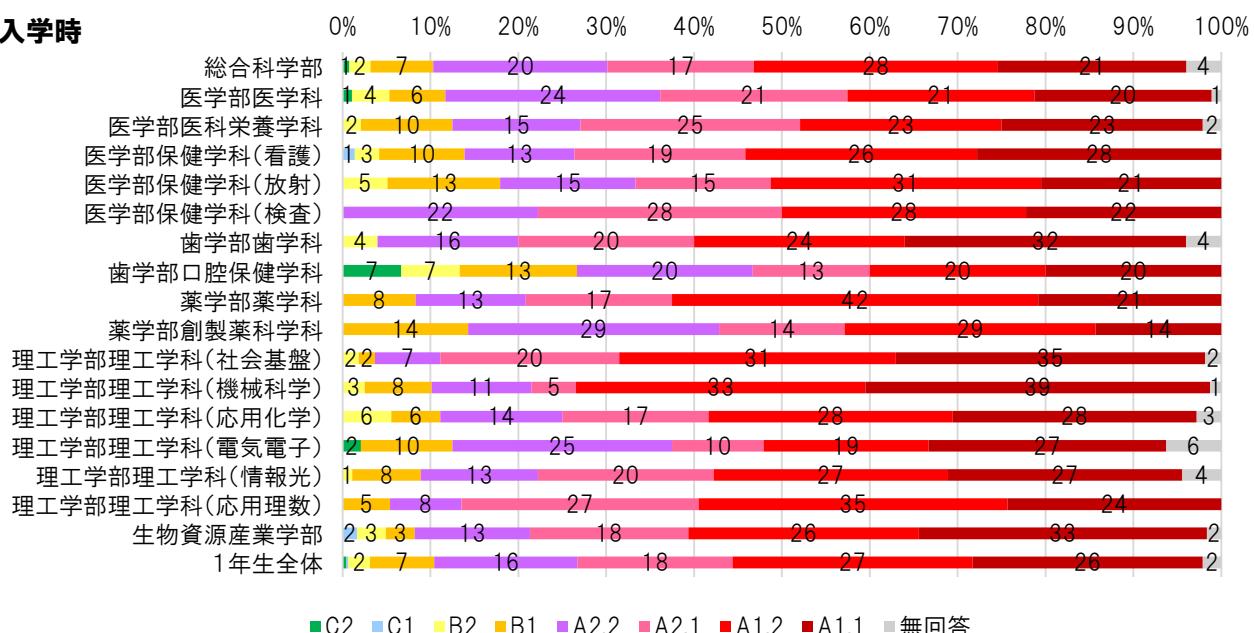
- A1 揭示やポスター、カタログなどの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
- A2 ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。
- B1 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。
- B2 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。
- C1 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的記事も理解できる。
- C2 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。



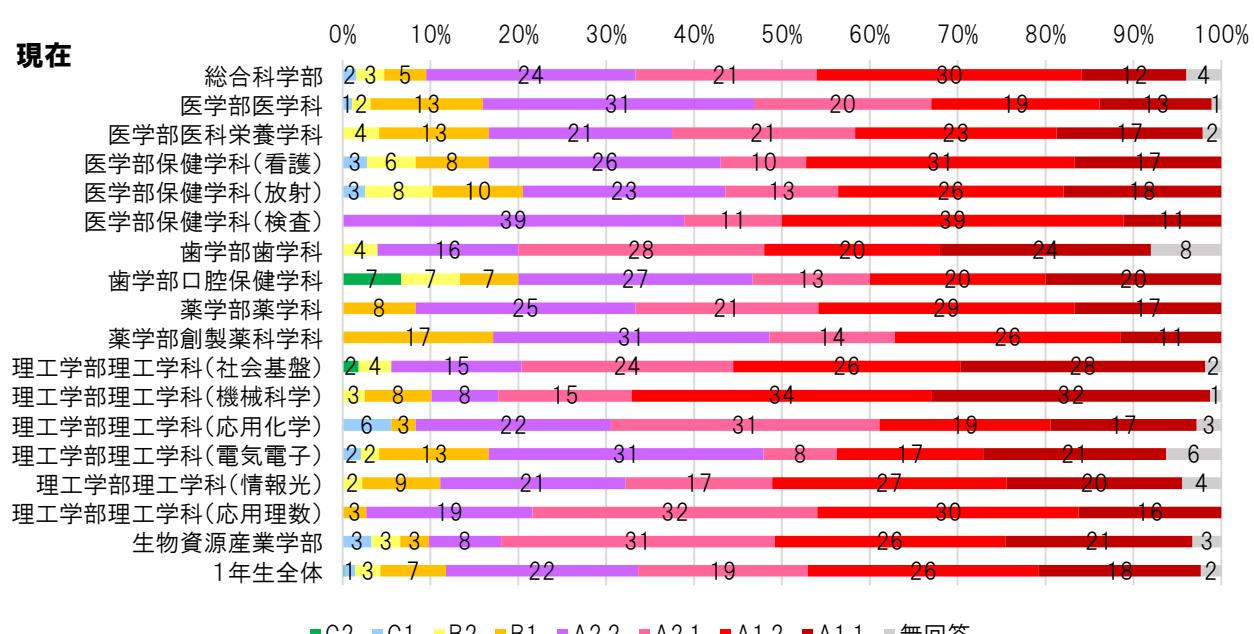
[71]会話力

- A1. 1 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。
- A1. 2 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。
- A2. 1 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくいが、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。
- A2. 2 準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。
- B1 日常生活に直接関係のあることや個人的な关心について、準備なしで会話ができる。
- B2 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。
- C1 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができる、自分の考えや意見を正確に表現できる。
- C2 いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。

入学時

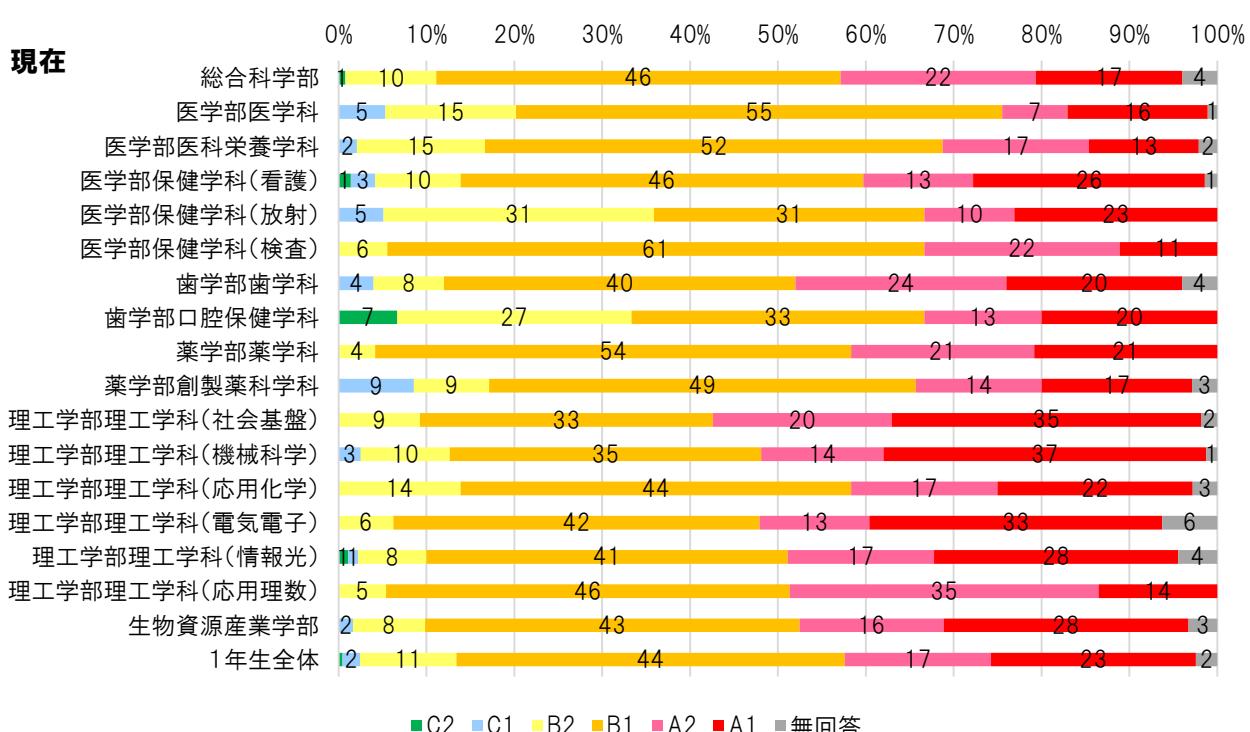
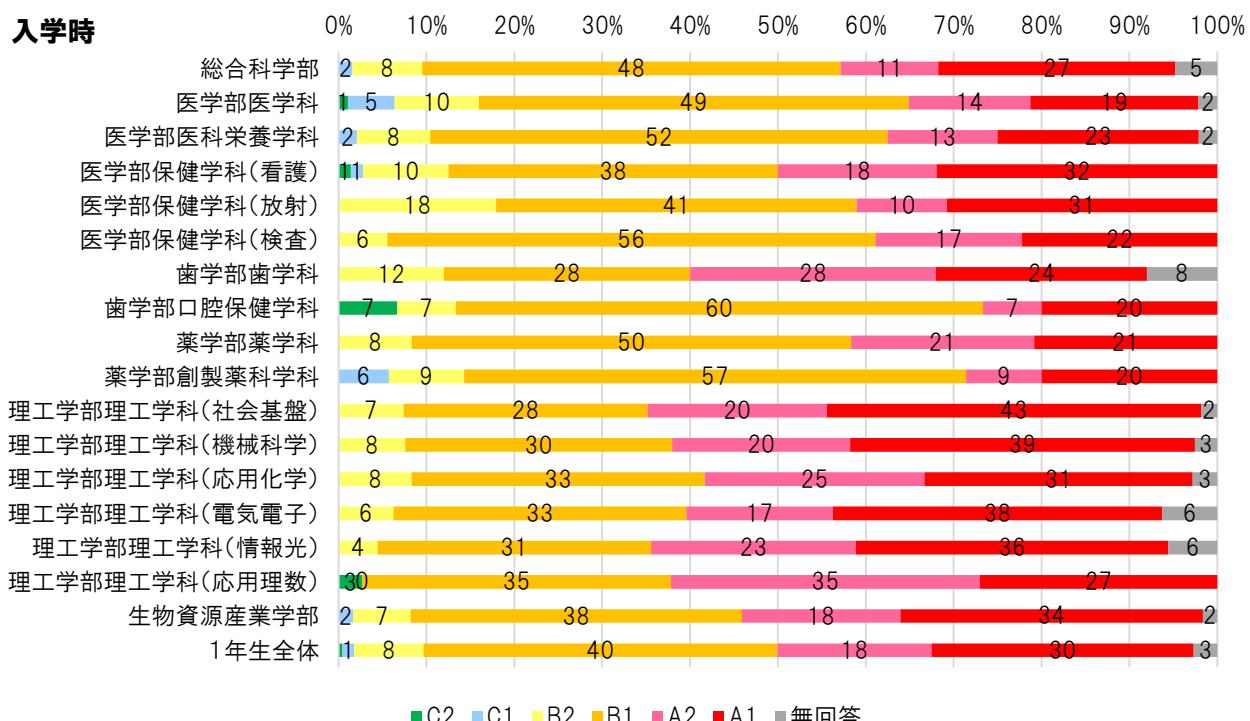


現在



[72] 表現力

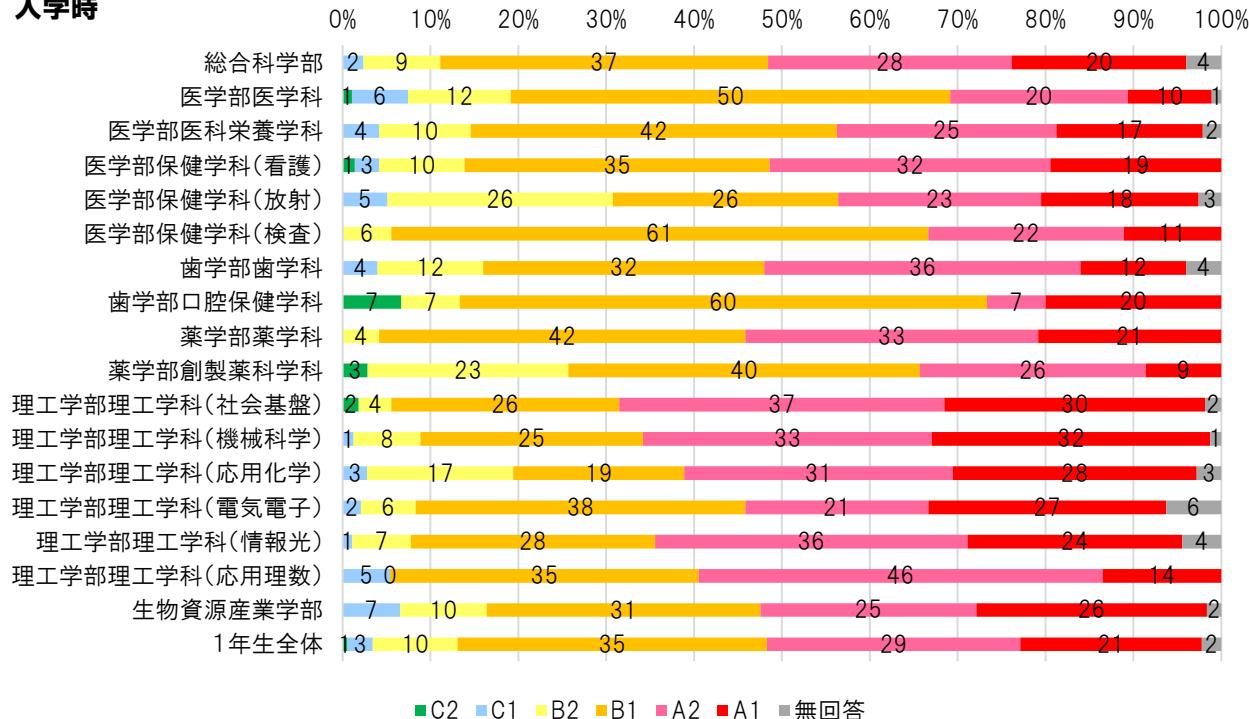
- A1 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
- A2 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。
- B1 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。
- C1 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。
- C2 論理的な会話で聞き手に重要な点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。



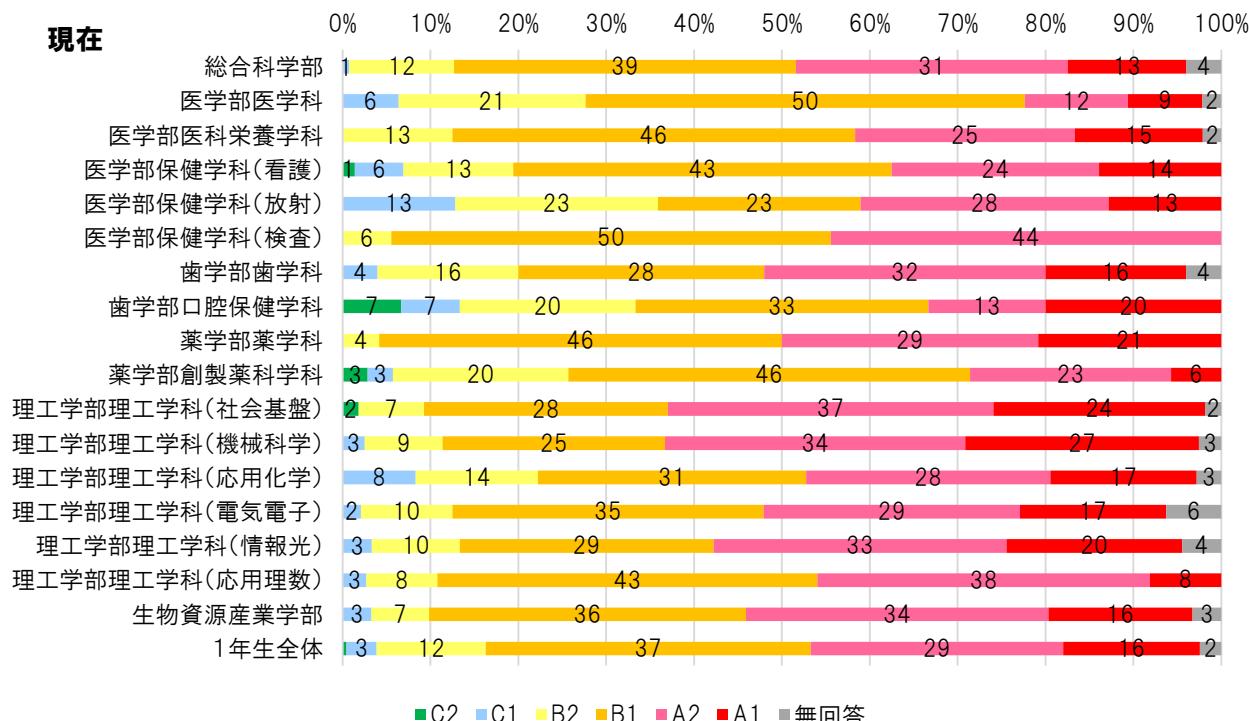
[73]書く力

- A1 お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。
- A2 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。
- B1 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。
- C1 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。
- C2 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。

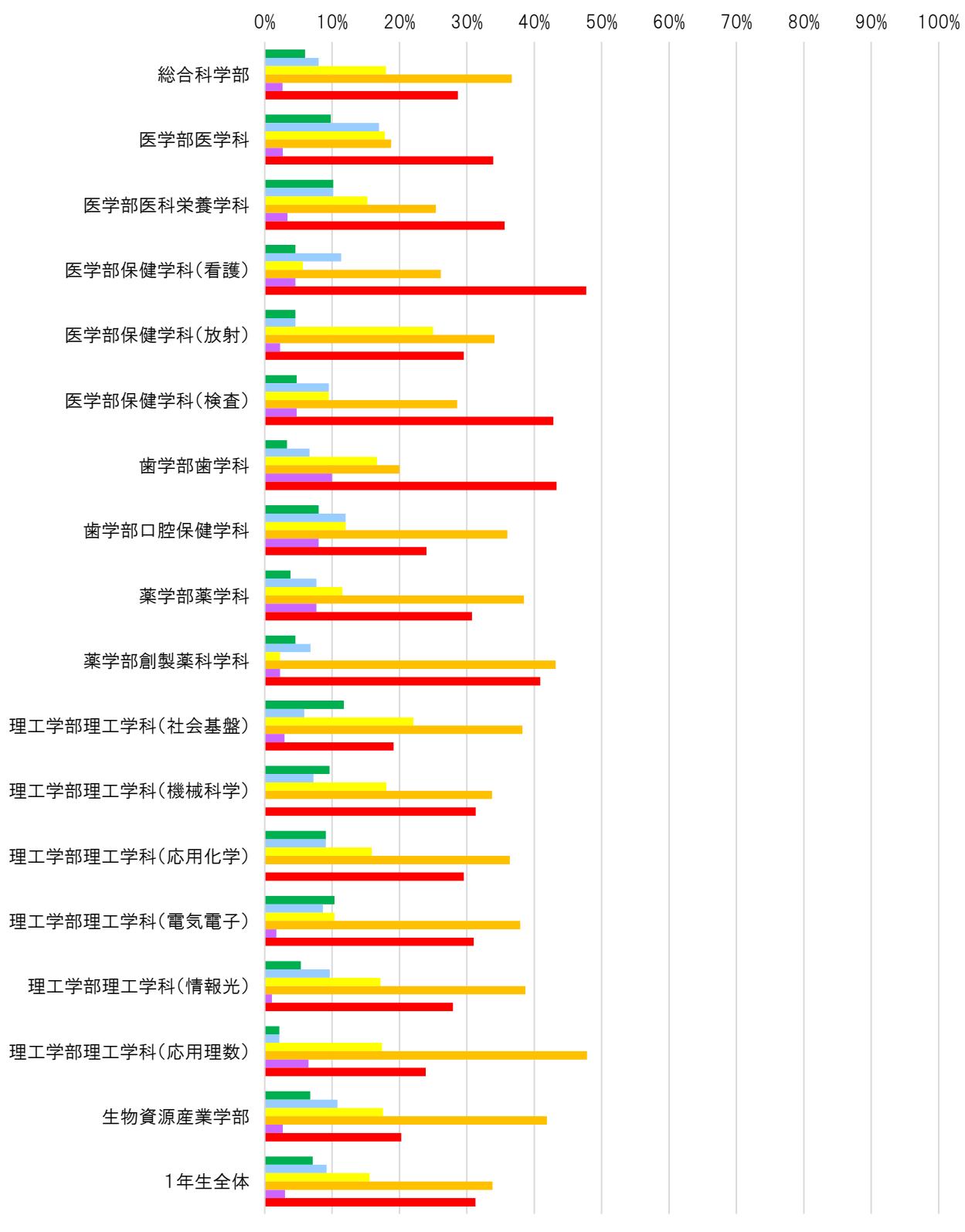
入学時



現在

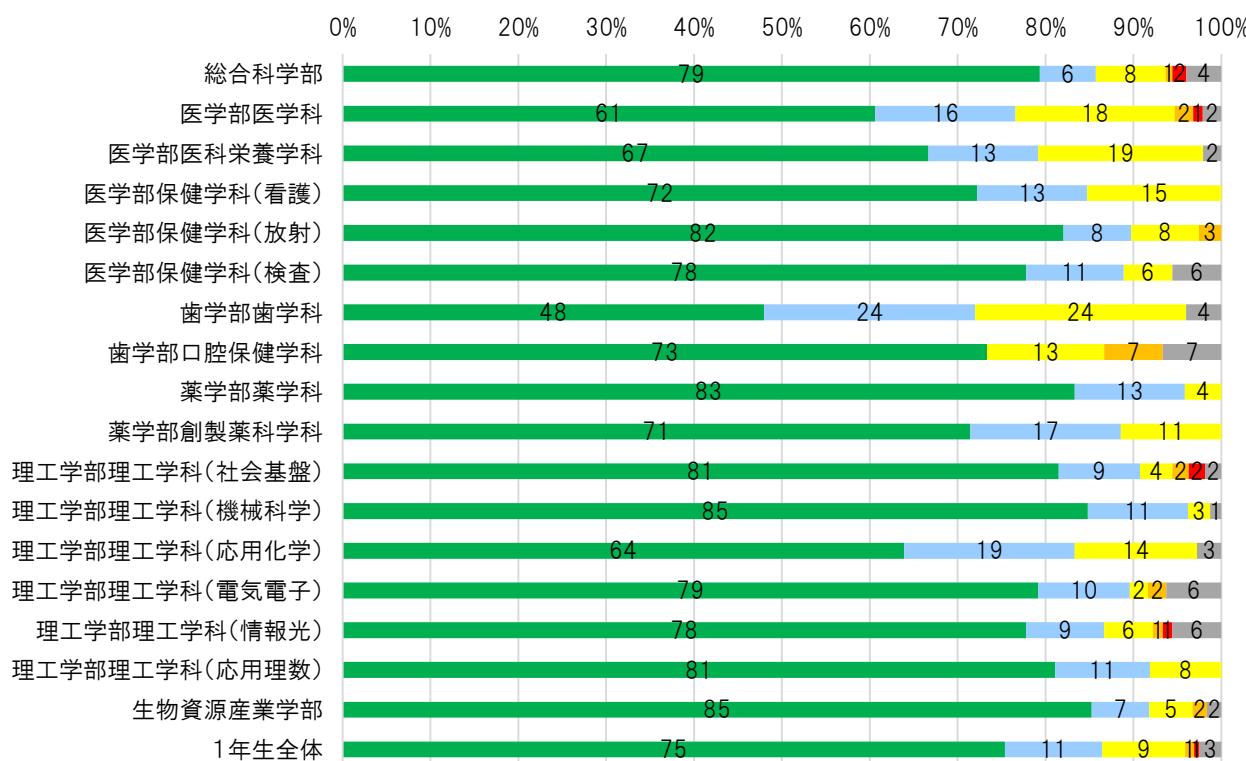


[74]どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)



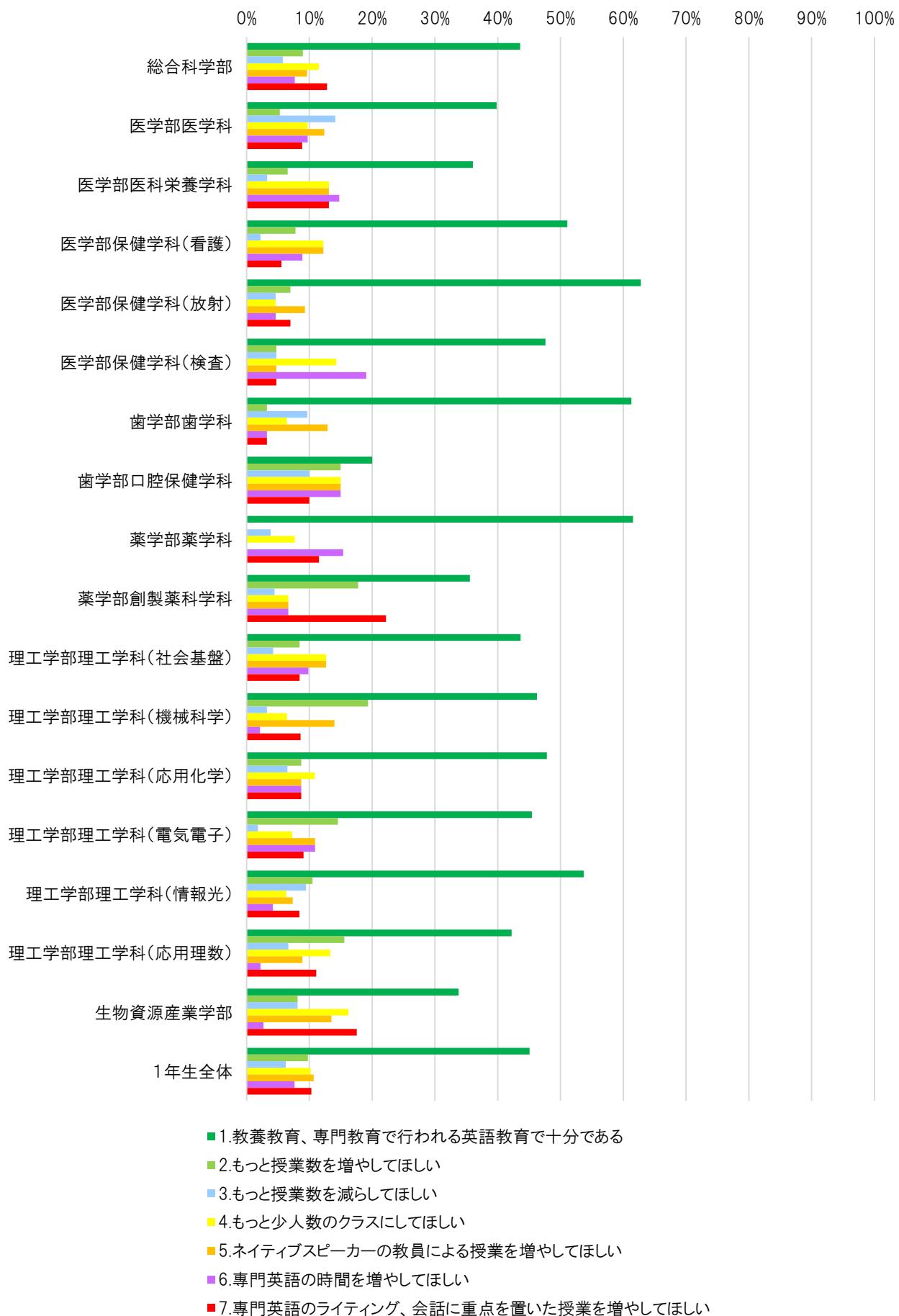
- 1.毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
- 2.英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
- 3.図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
- 4.TOEICなどの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
- 5.TOEIC, TOEFLや英検などの英語能力試験を定期的に受験している
- 6.授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している

[75]アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外(インド、シンガポール等)などへの渡航経験(期間)についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを目指した渡航経験があれば、その期間(複数回の経験がある場合は最長のもの)について1つ選んで回答してください。



■ 1. 渡航したことはない ■ 2. 10日未満 ■ 3. 10日以上1ヶ月未満 ■ 4. 1ヶ月以上6ヶ月未満 ■ 5. 6ヶ月以上 ■ 6. 無回答

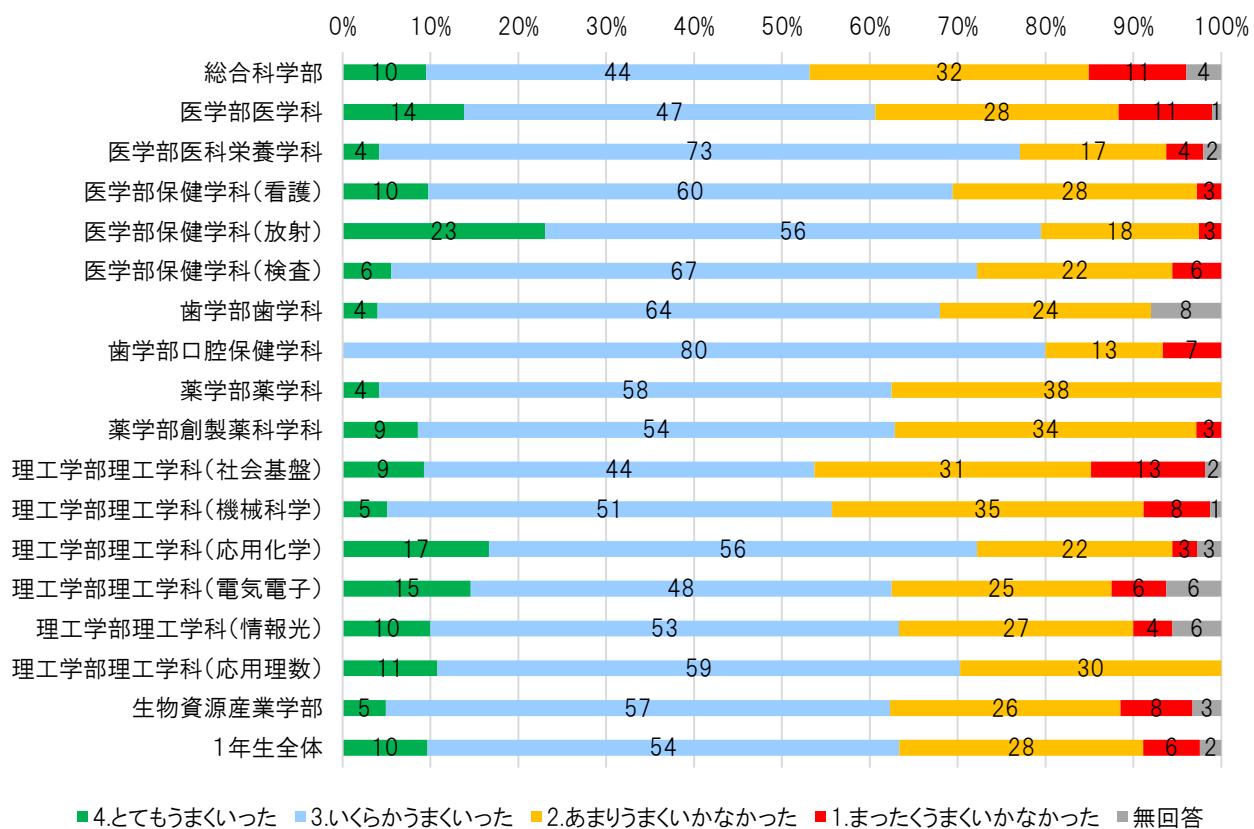
[76]徳島大学における英語教育についてどう思いますか。(複数回答可)



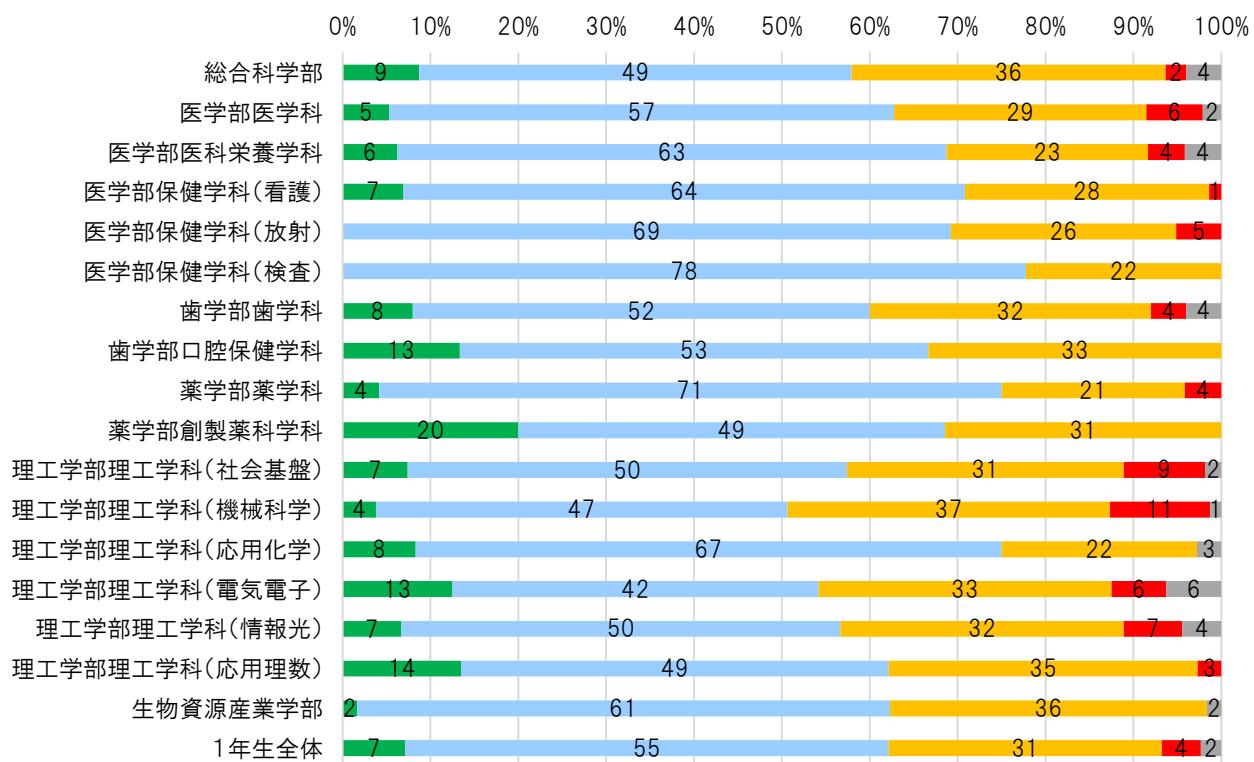
IV. 次に、大学生活に対するあなたの考え方や満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいうまくいきましたか。

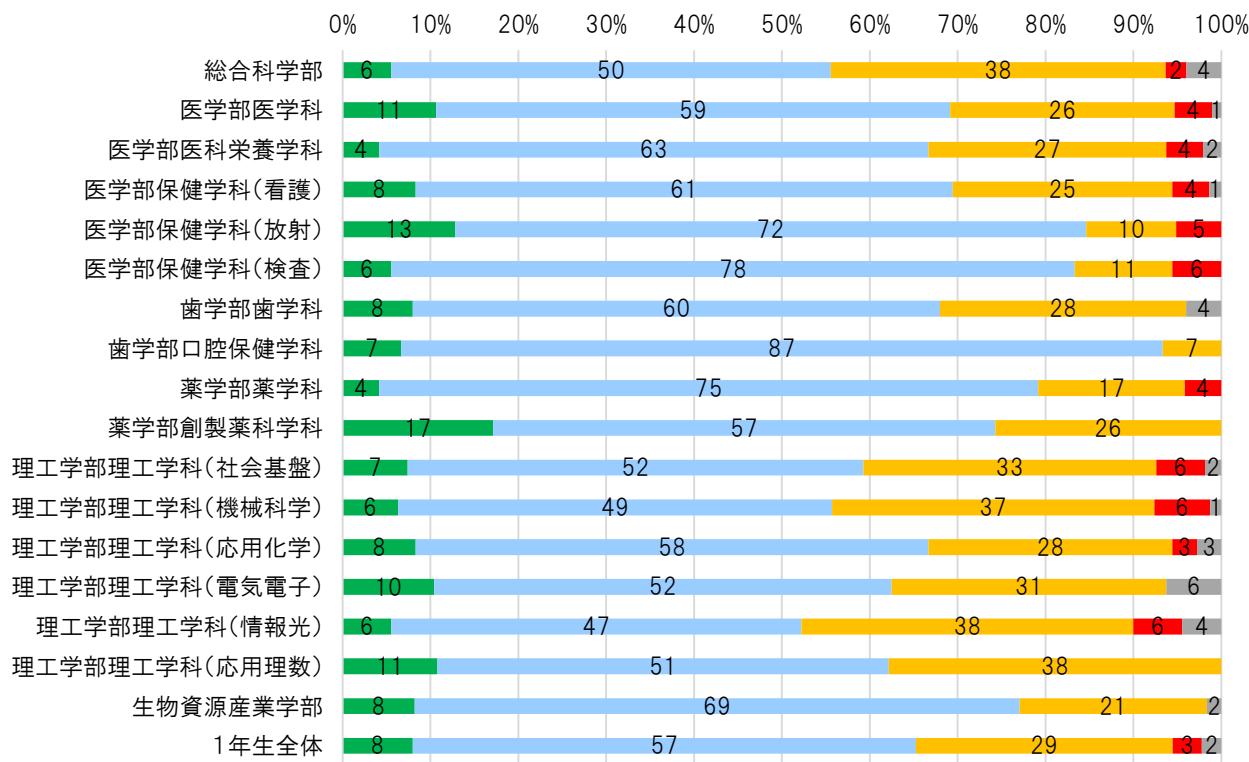
[77]大学の学生向けサービスを上手に利用する



[78]大学教員の学問的な期待を理解する

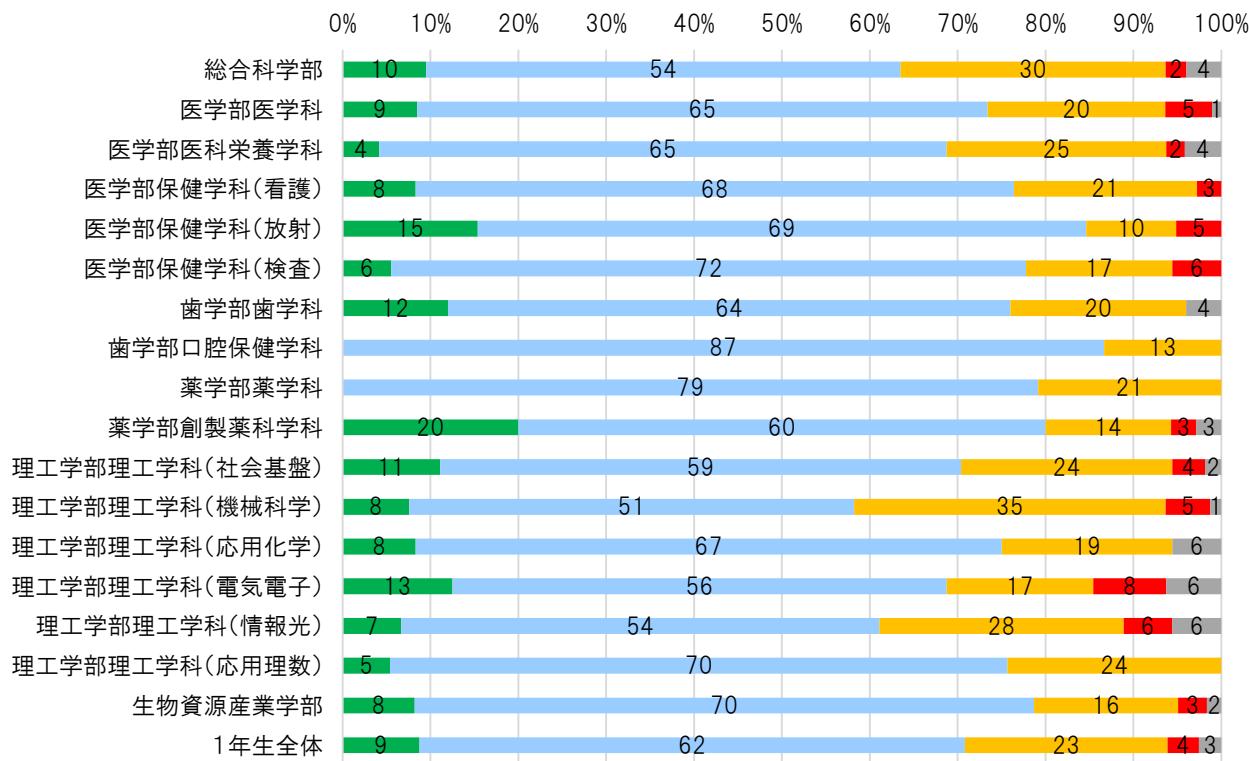


[79]効果的に学習する技能を修得する



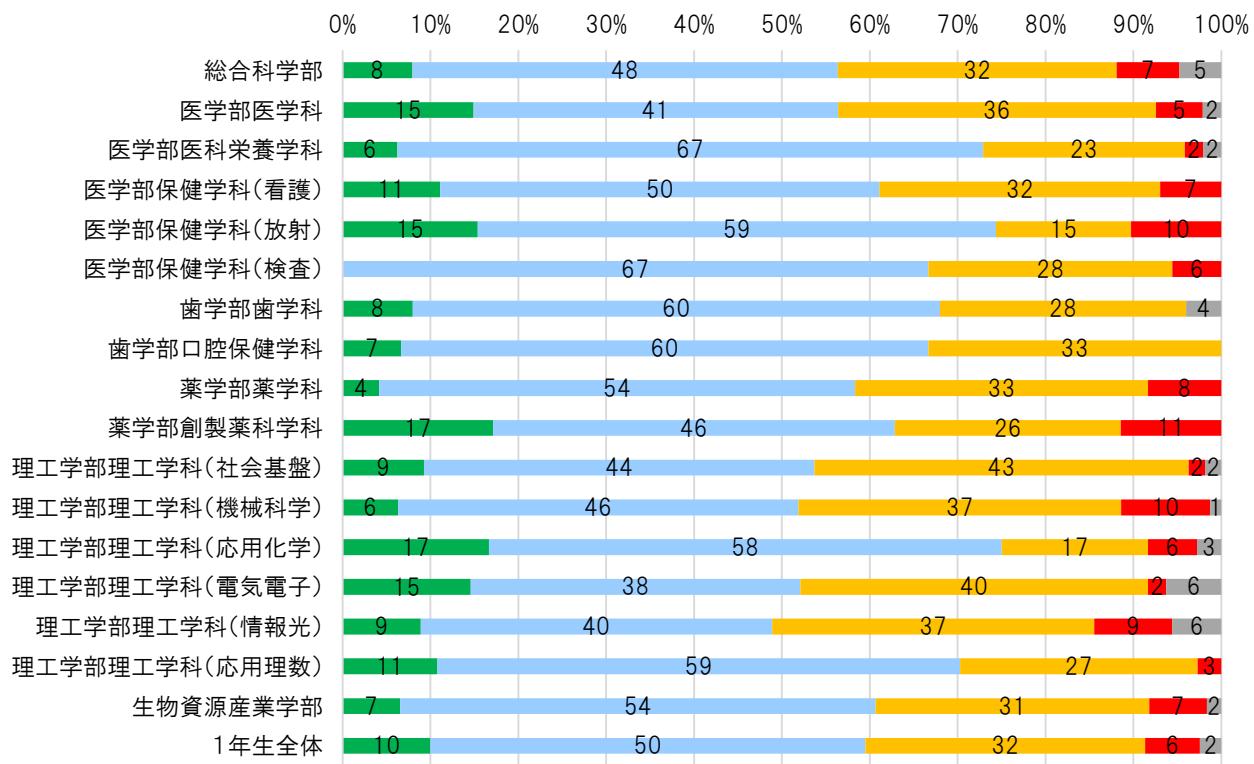
■4.とてもうまくいった ■3.いくらかうまくいった ■2.あまりうまくいかなかつた ■1.まったくうまくいかなかつた ■無回答

[80]大学が求める水準に応えて学習する



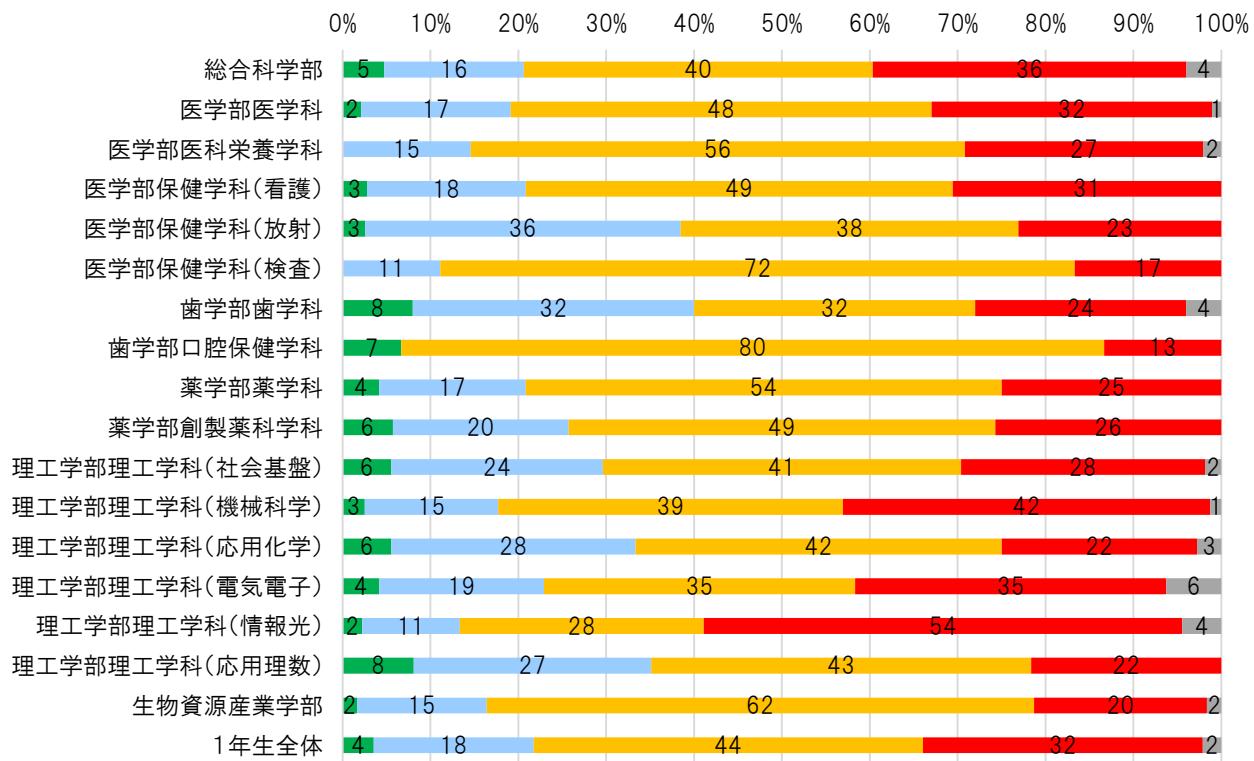
■4.とてもうまくいった ■3.いくらかうまくいった ■2.あまりうまくいかなかつた ■1.まったくうまくいかなかつた ■無回答

[81]時間を効果的に使う



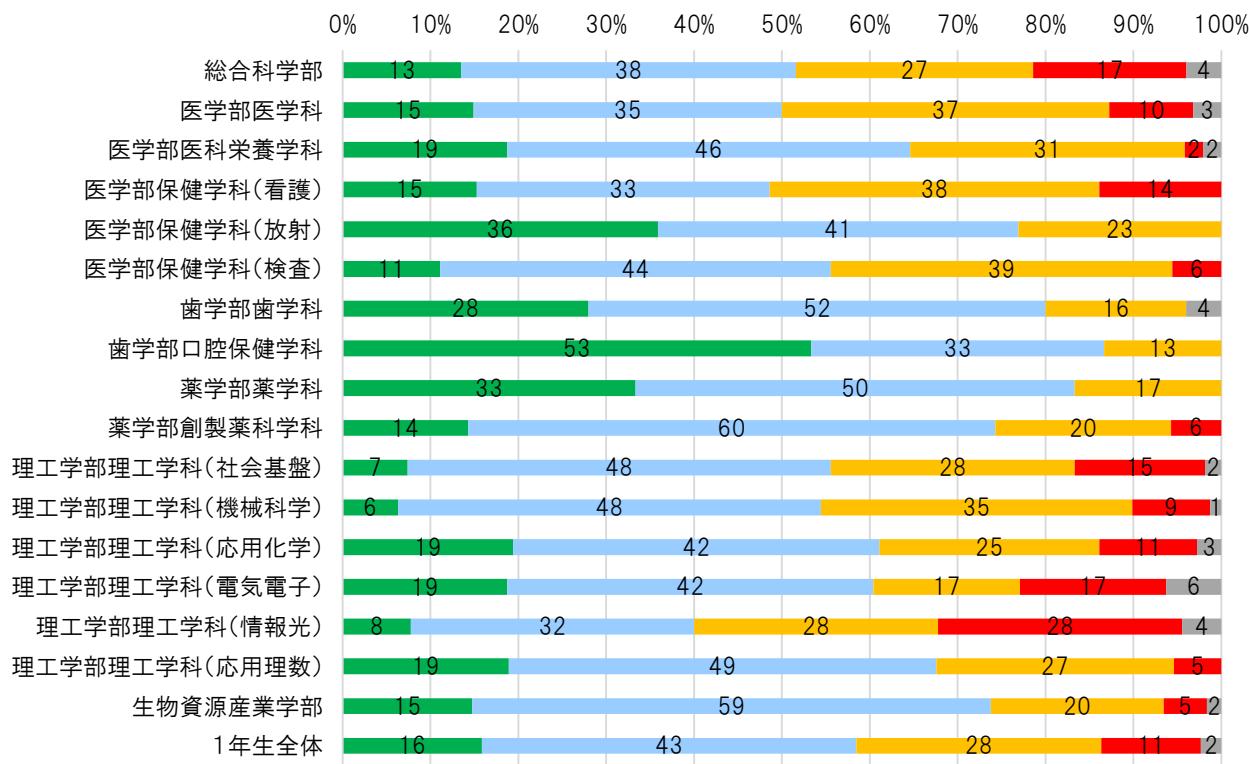
■4.とてもうまくいった ■3.いくらかうまくいった ■2.あまりうまくいかなかつた ■1.まったくうまくいかなかつた ■無回答

[82]大学教員と顔見知りになる



■4.とてもうまくいった ■3.いくらかうまくいった ■2.あまりうまくいかなかつた ■1.まったくうまくいかなかつた ■無回答

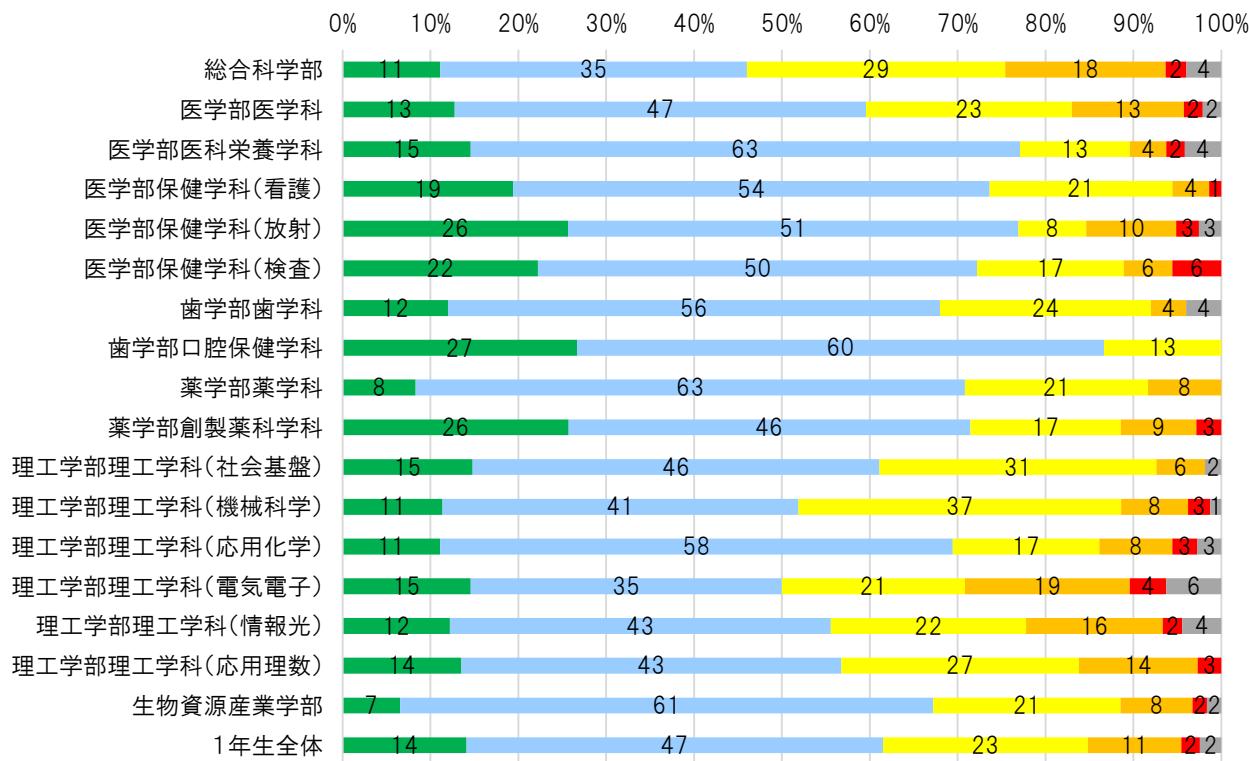
[83]他の学生との友情を深める



■4.とてもうまくいった ■3.いくらかうまくいった ■2.あまりうまくいかなかった ■1.まったくうまくいかなかった ■無回答

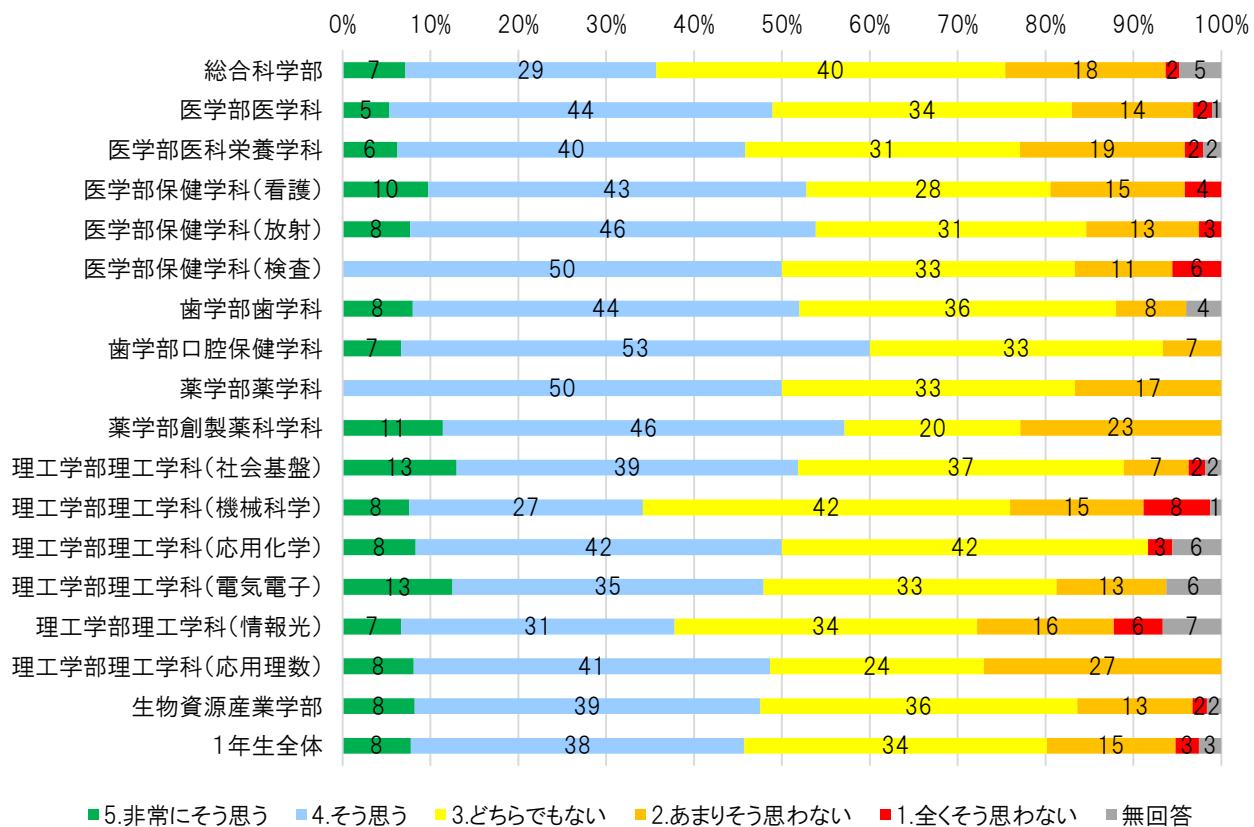
本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

[84]自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組めている



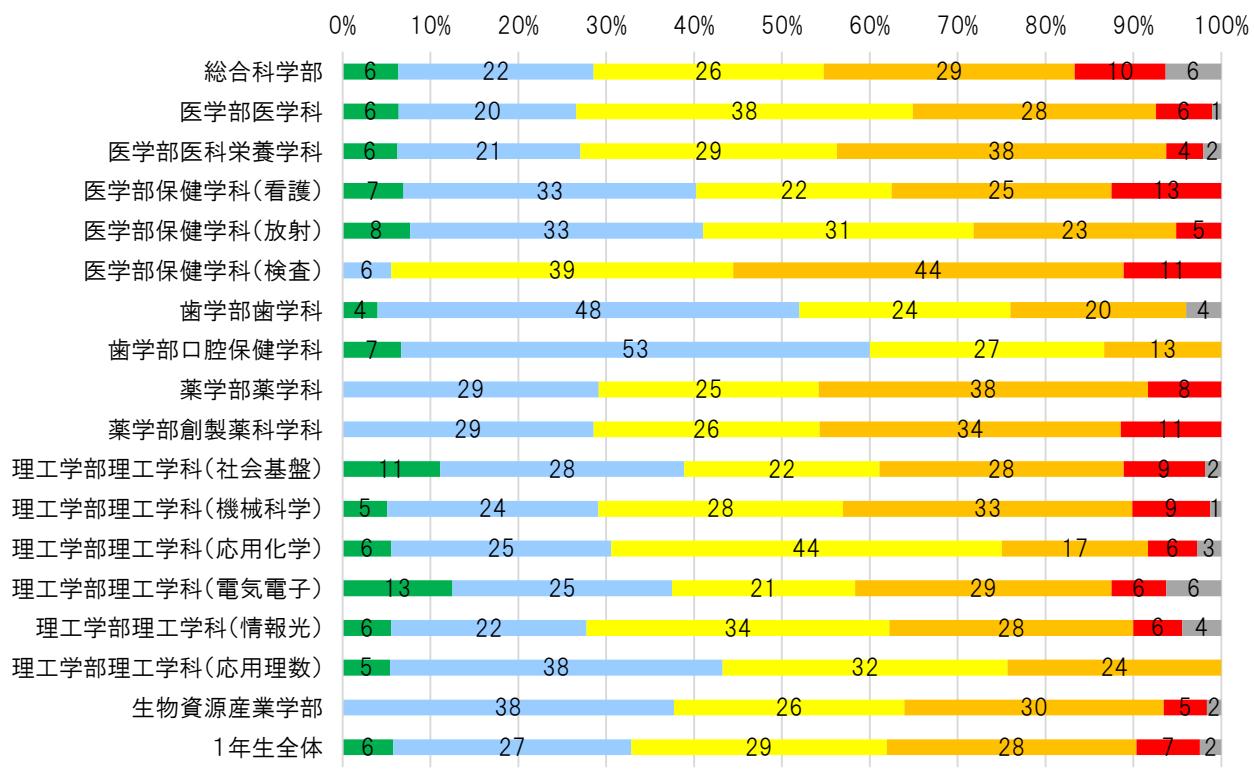
■5.非常にそう思う ■4.そう思う ■3.どちらでもない ■2.あまりそう思わない ■1.全くそう思わない ■無回答

[85]日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている



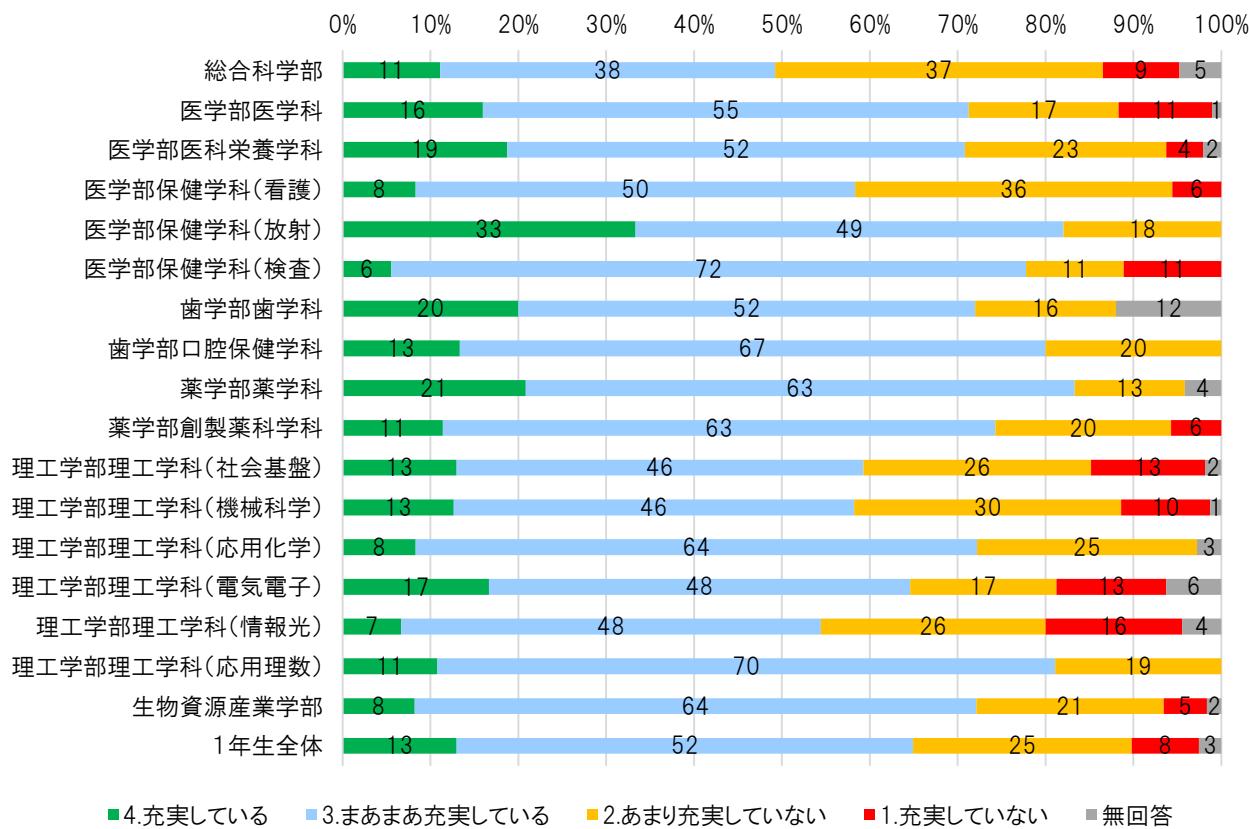
■5.非常にそう思う ■4.そう思う ■3.どちらでもない ■2.あまりそう思わない ■1.全くそう思わない ■無回答

[86]現在の自分の学修時間や学修態度に満足している



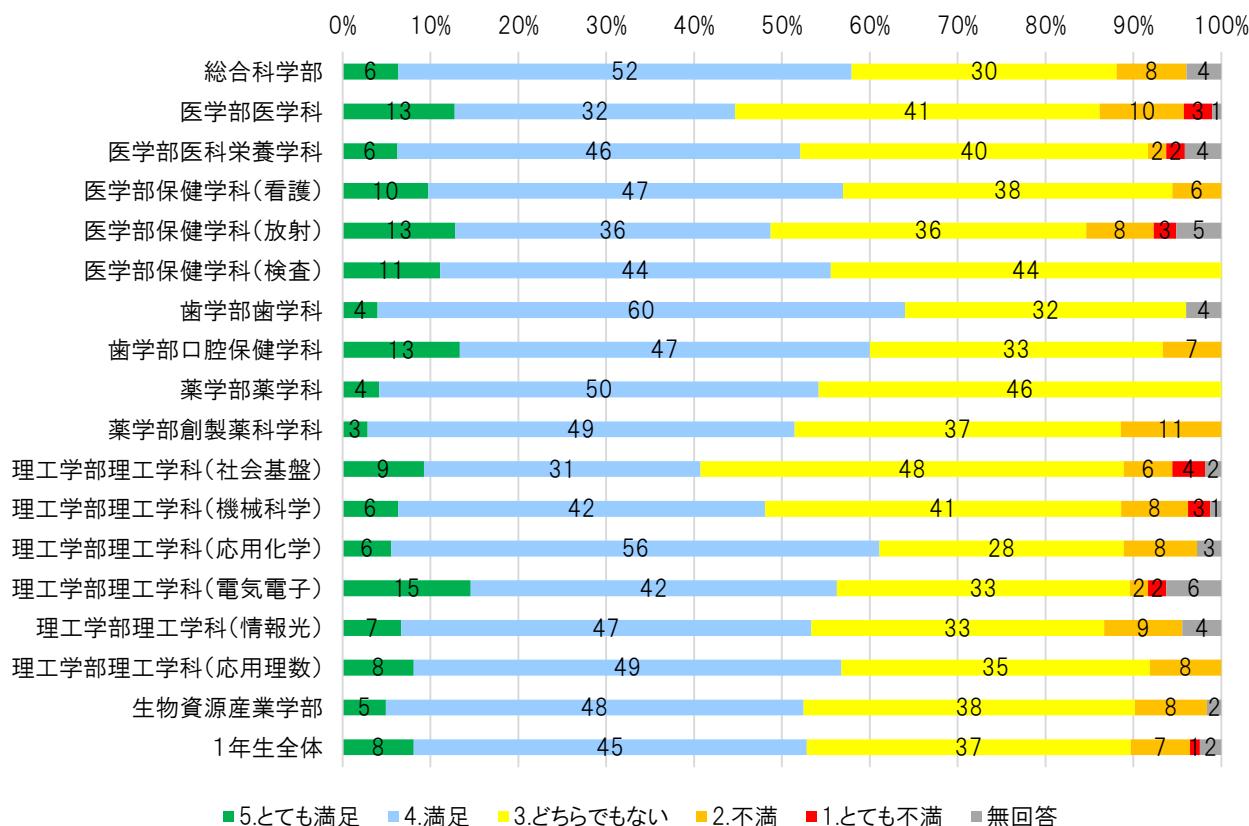
■5.非常にそう思う ■4.そう思う ■3.どちらでもない ■2.あまりそう思わない ■1.全くそう思わない ■無回答

[87]あなたの学生生活は充実していますか。

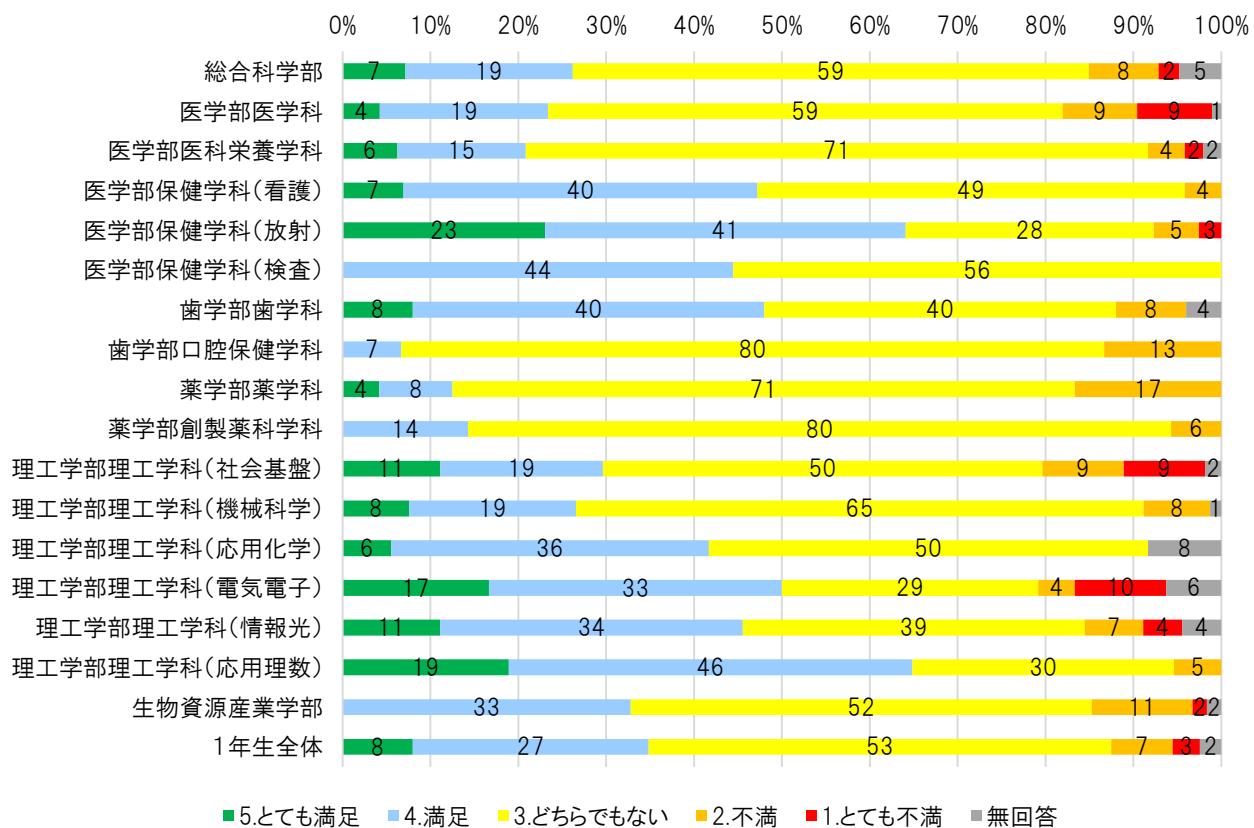


あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

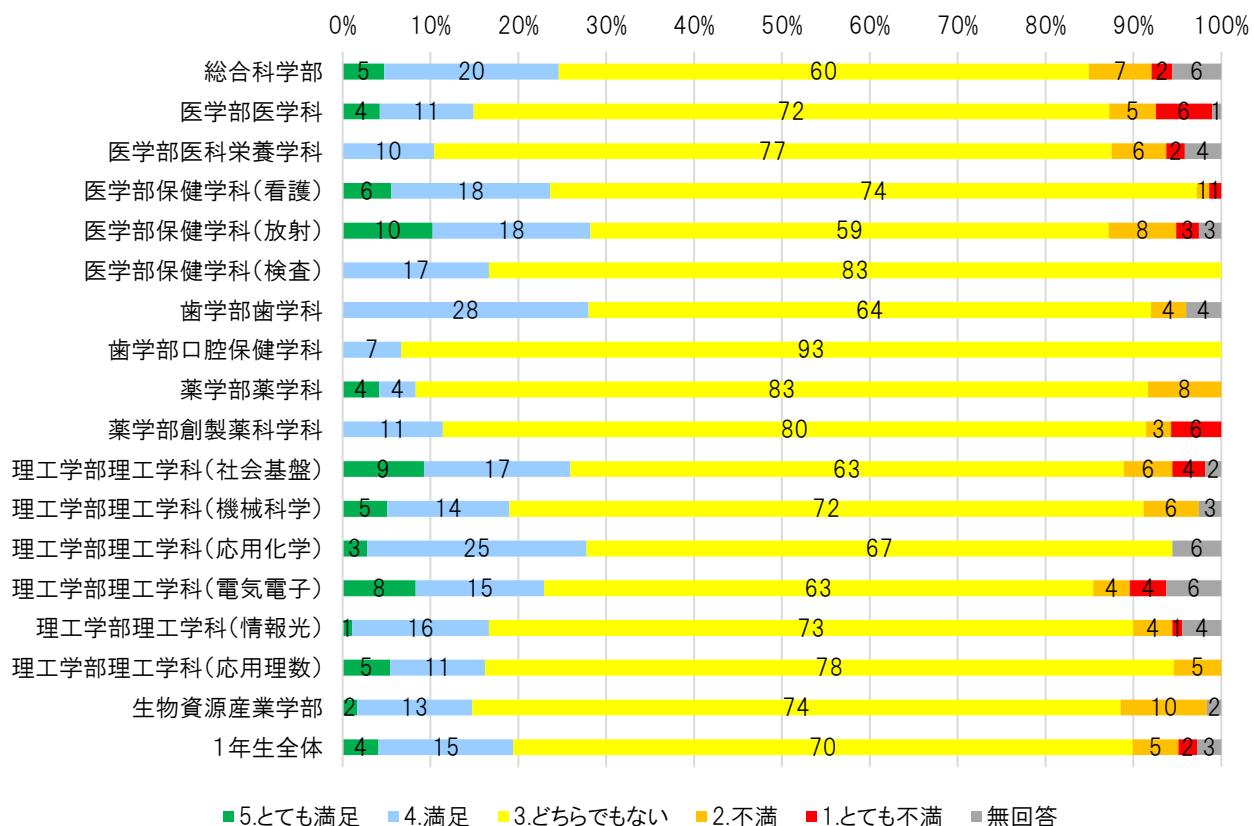
[88]共通教育あるいは教養教育の授業



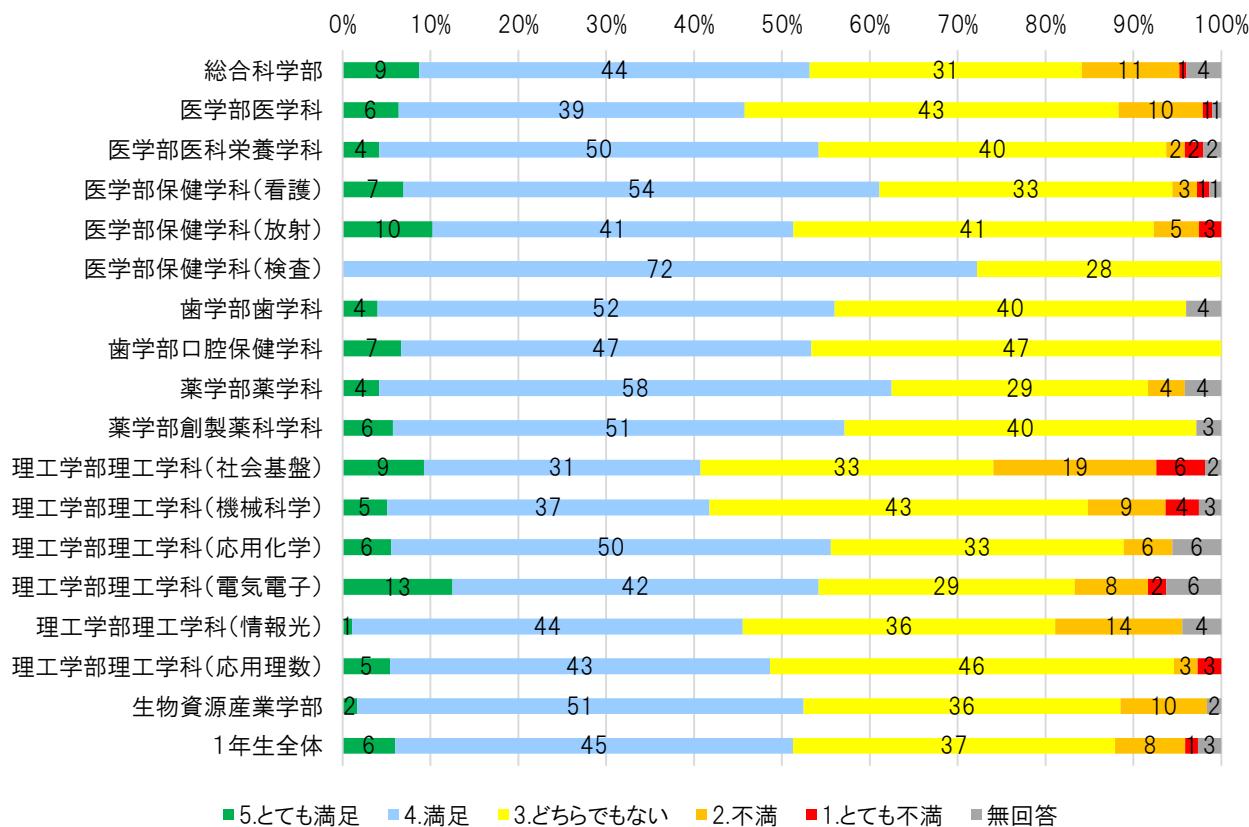
[89]SIH 道場～アクティブラーニング入門～の授業



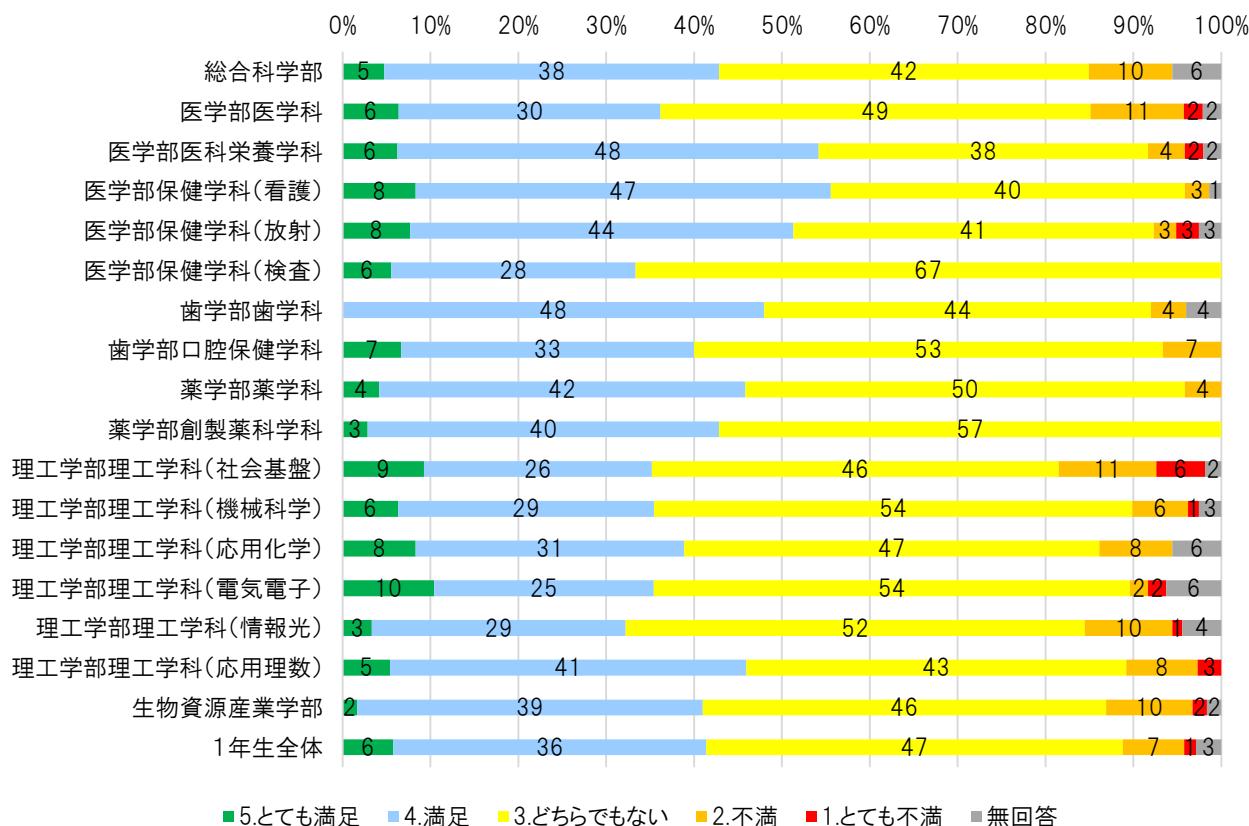
[90]初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)



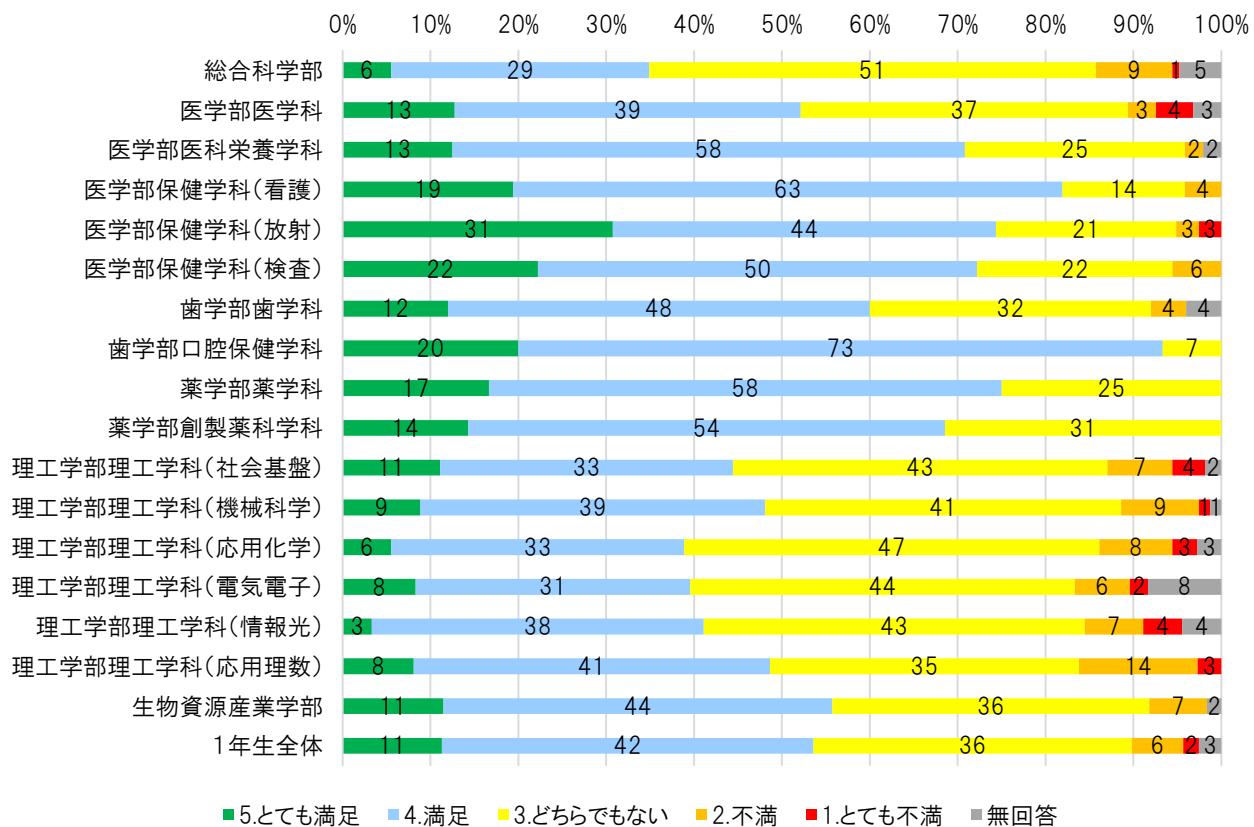
[91]授業の全体的な質



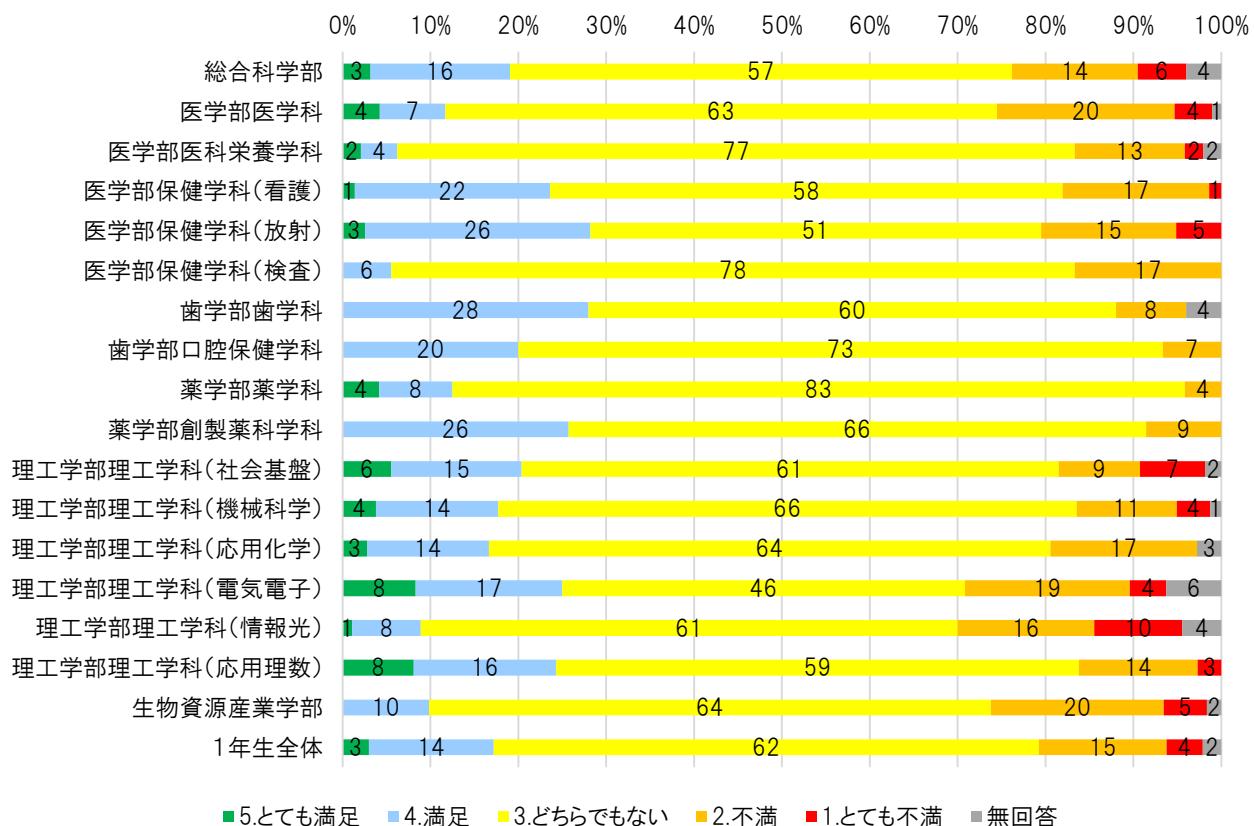
[92]日常生活と授業内容との関連



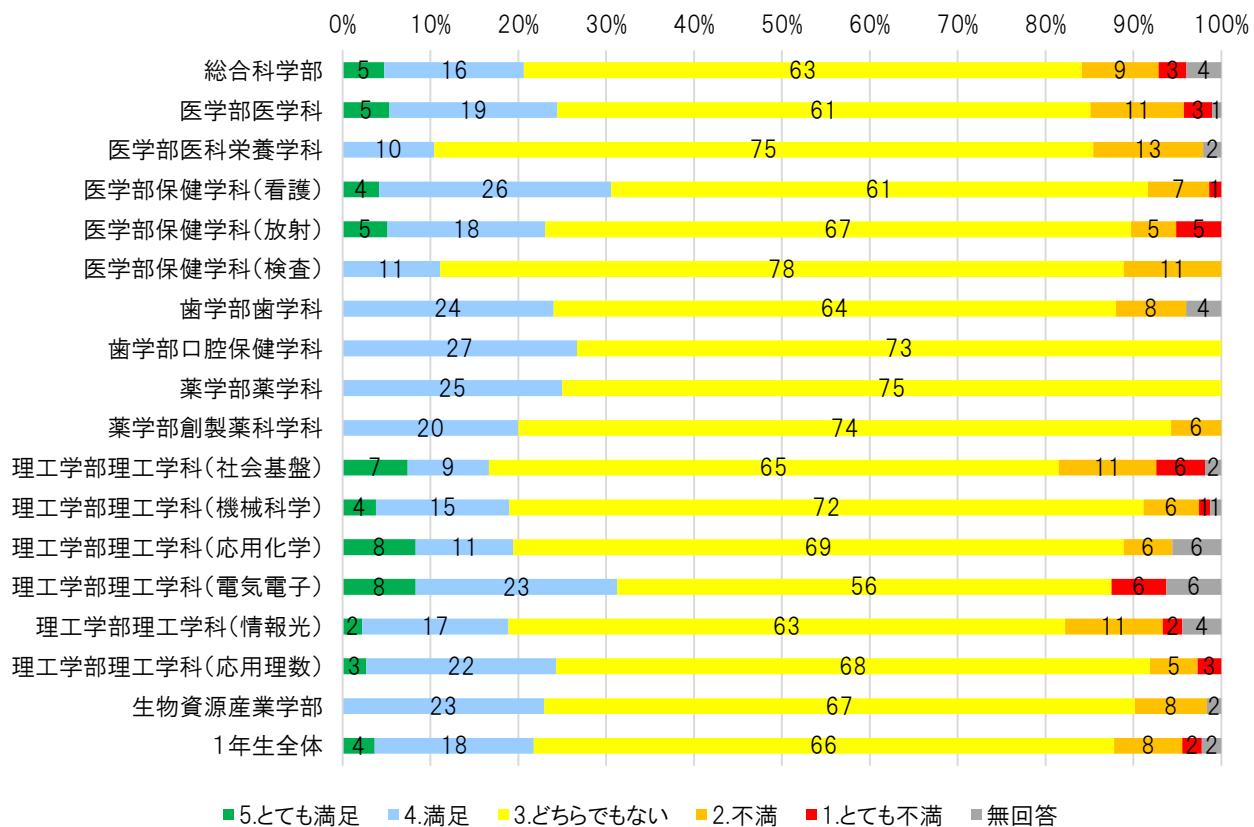
[93]将来の仕事と授業内容の結びつき



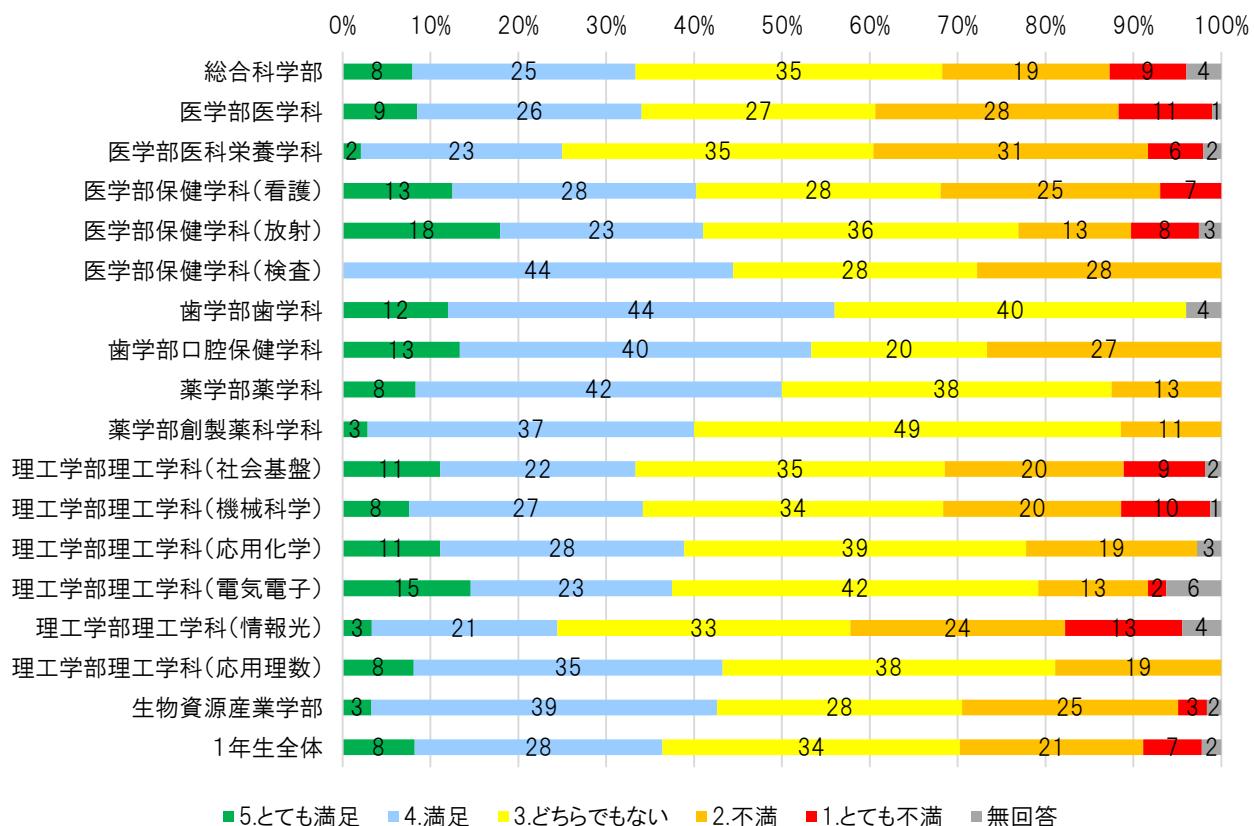
[94]教員と話をする機会



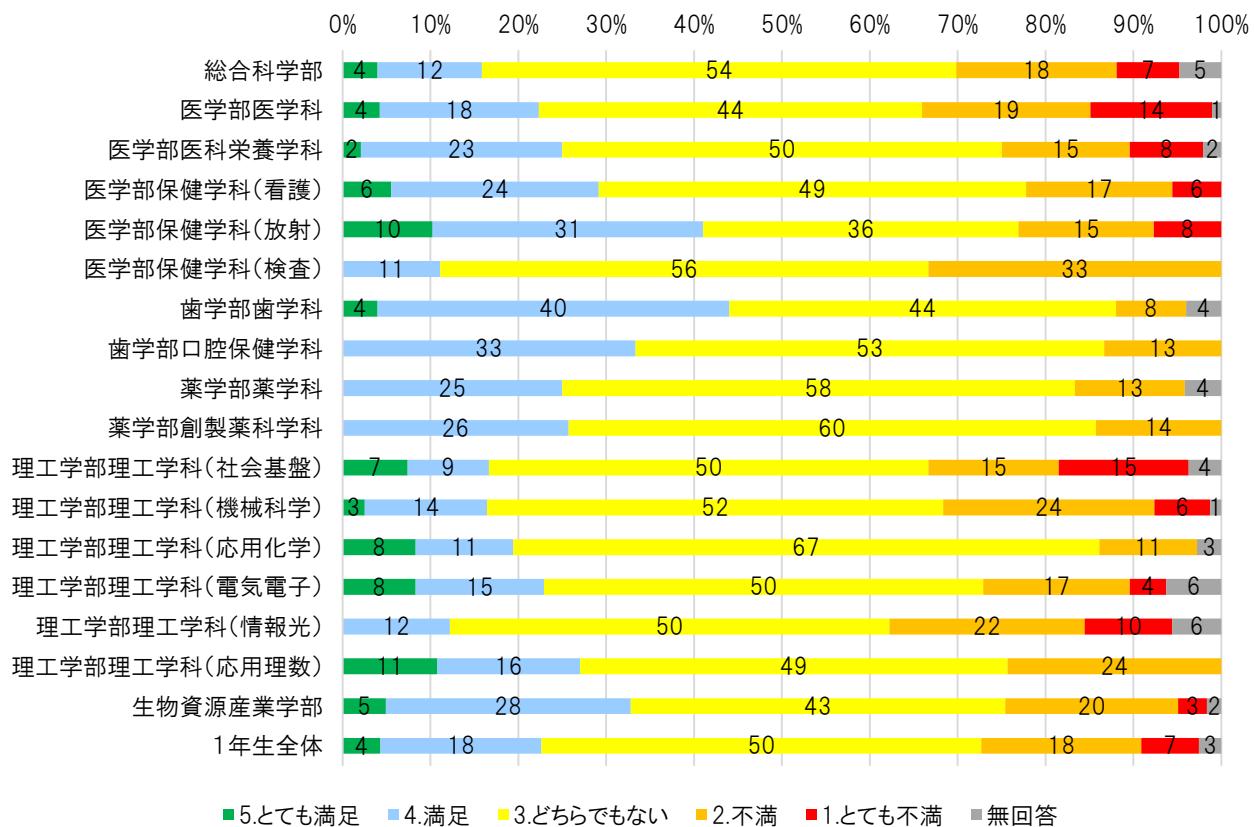
[95]学習支援や個別の学習指導



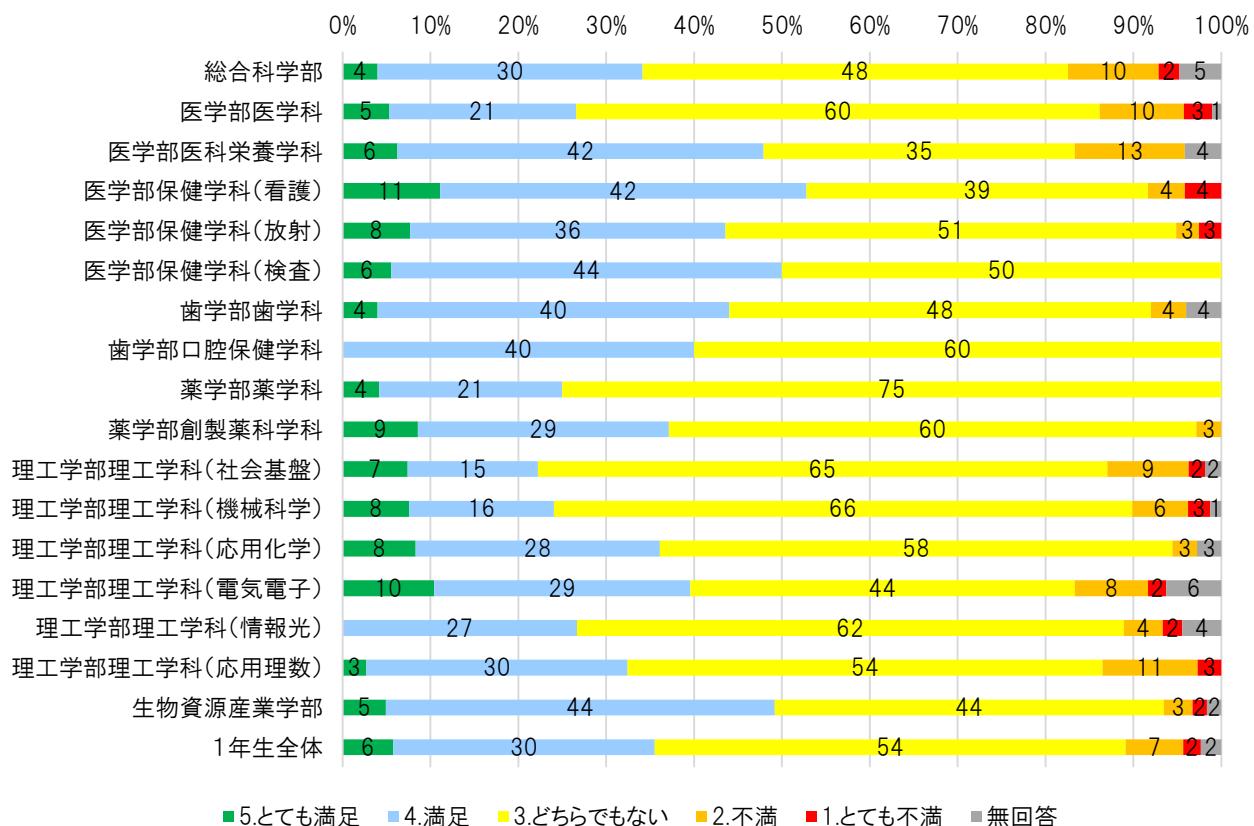
[96]他の学生と話をする機会



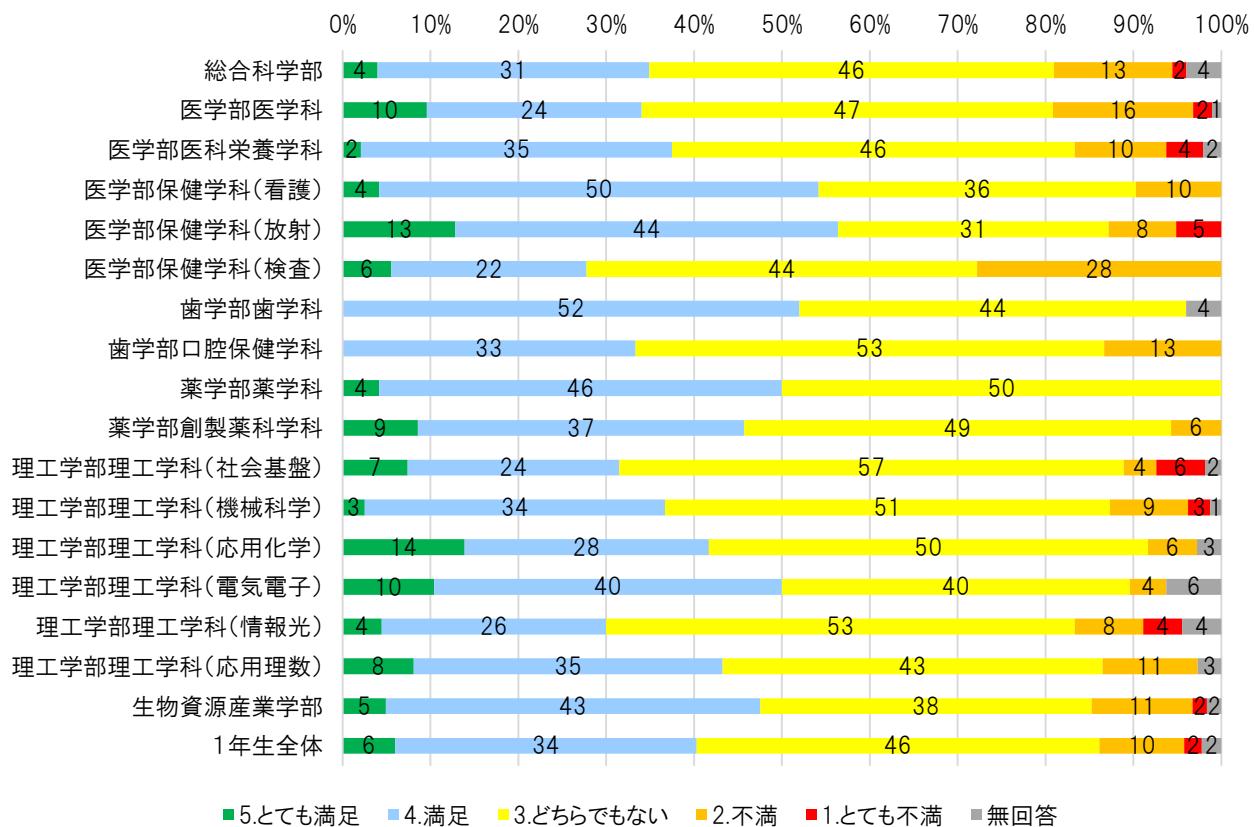
[97]大学のなかでの学生同士の一体感



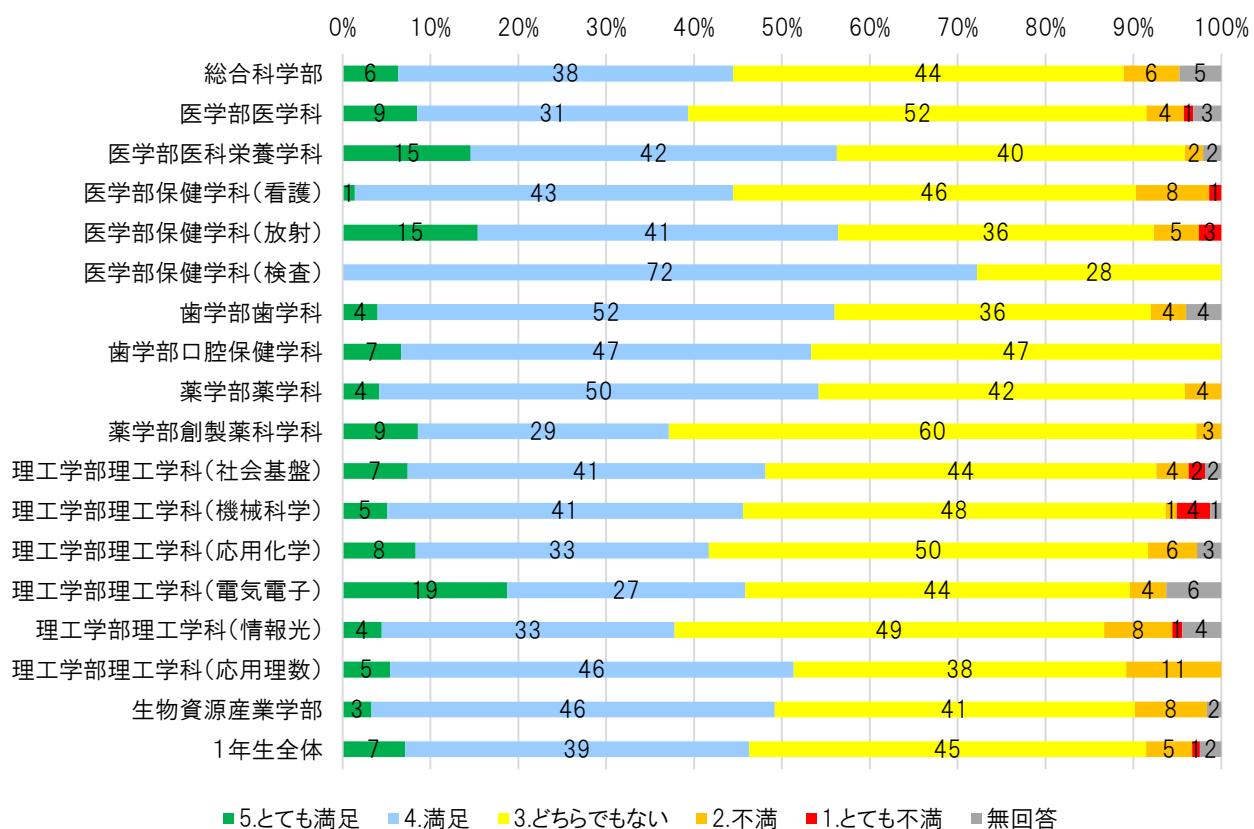
[98]多様な考え方を認め合う雰囲気



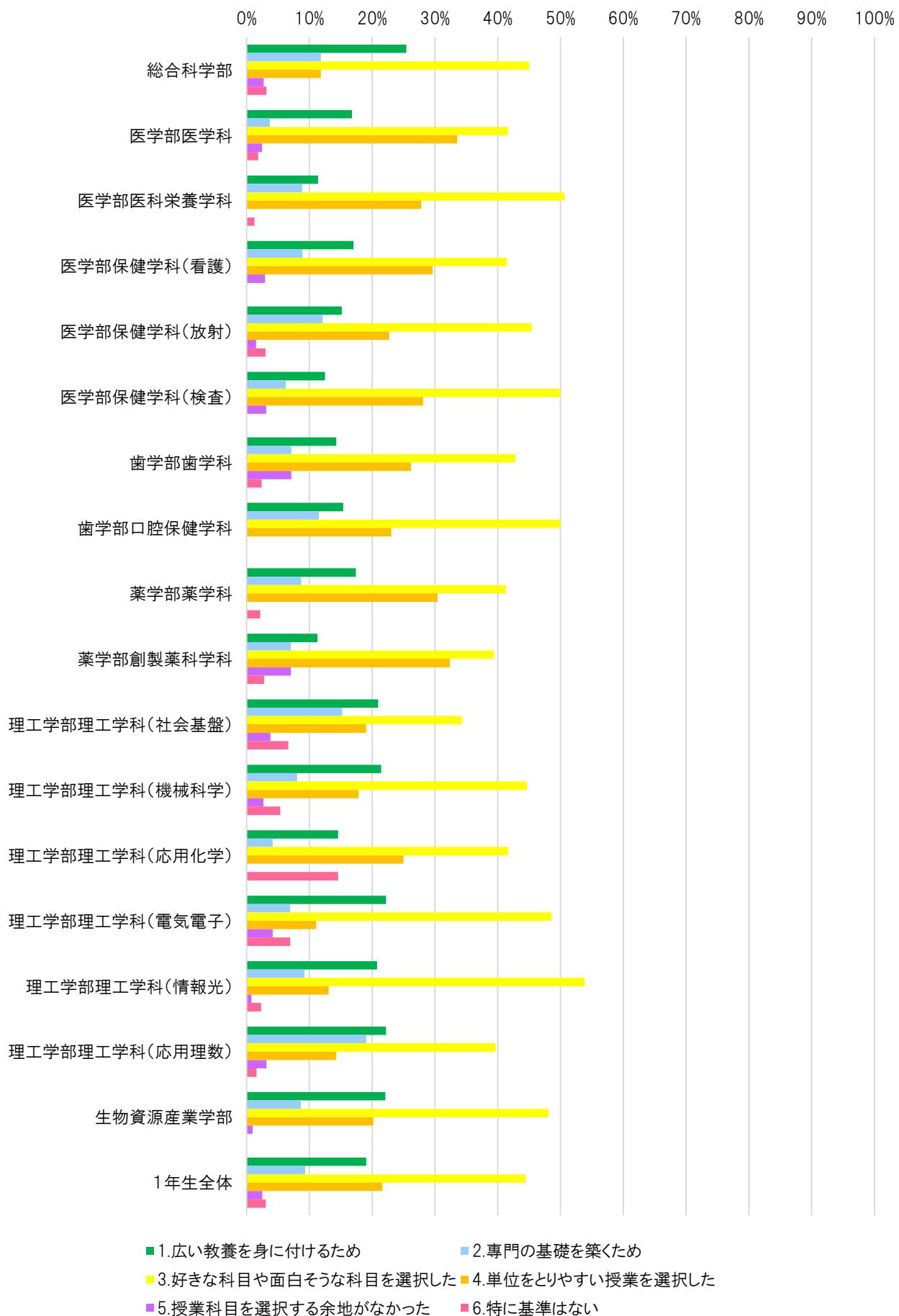
[99]大学での経験全般について



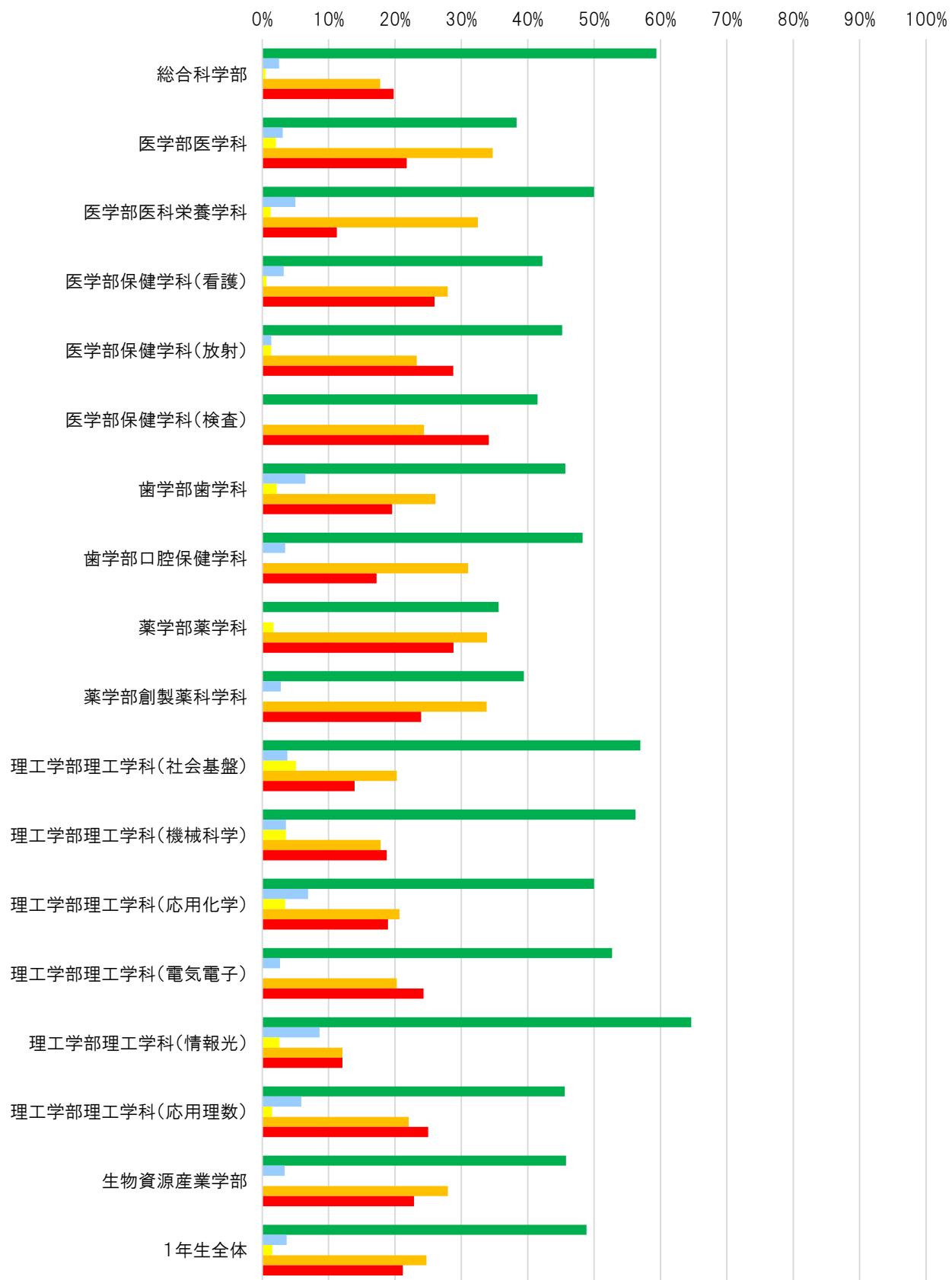
[100] 1つの授業を履修する学生数



[101] 教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)

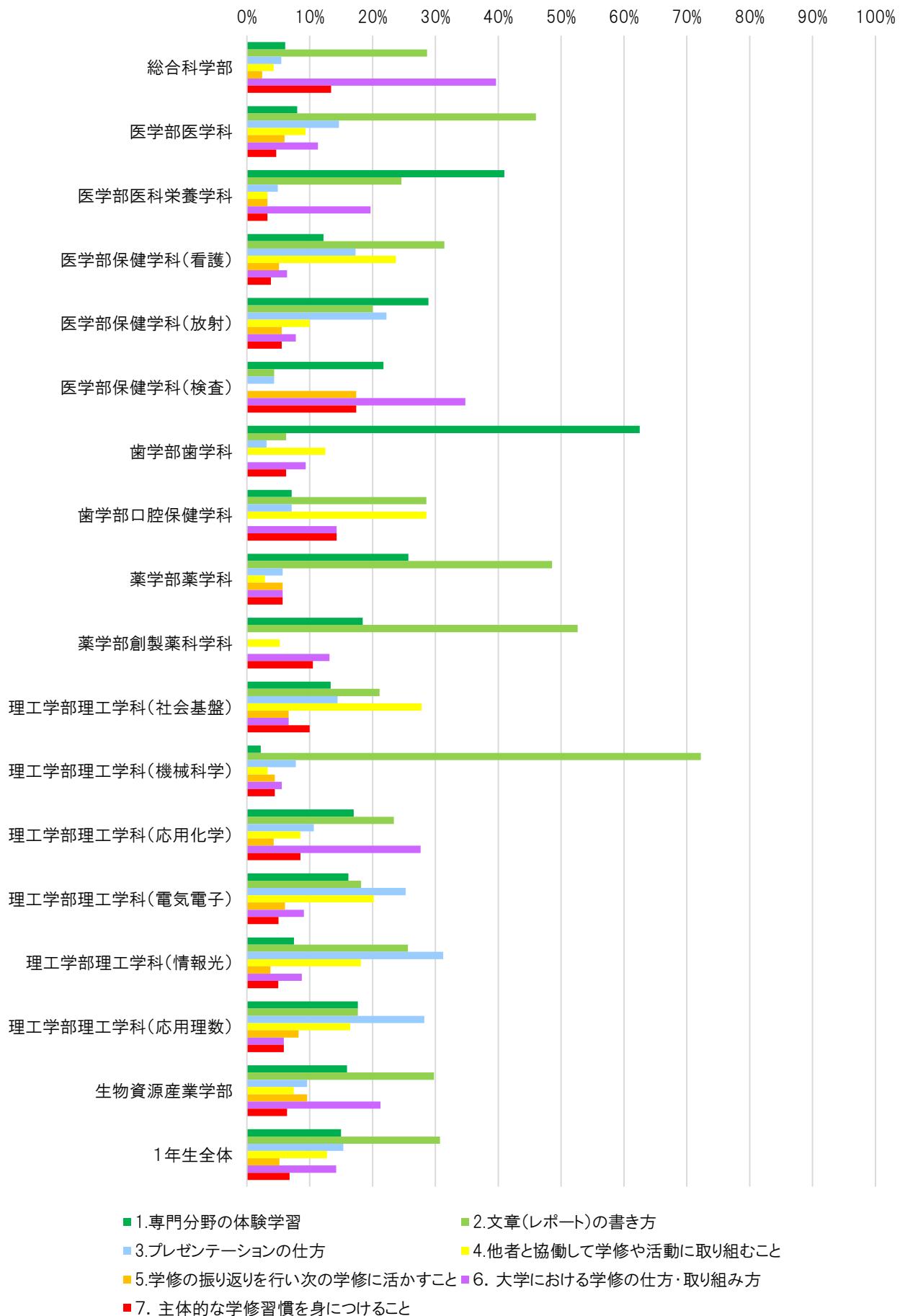


[102] 教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)



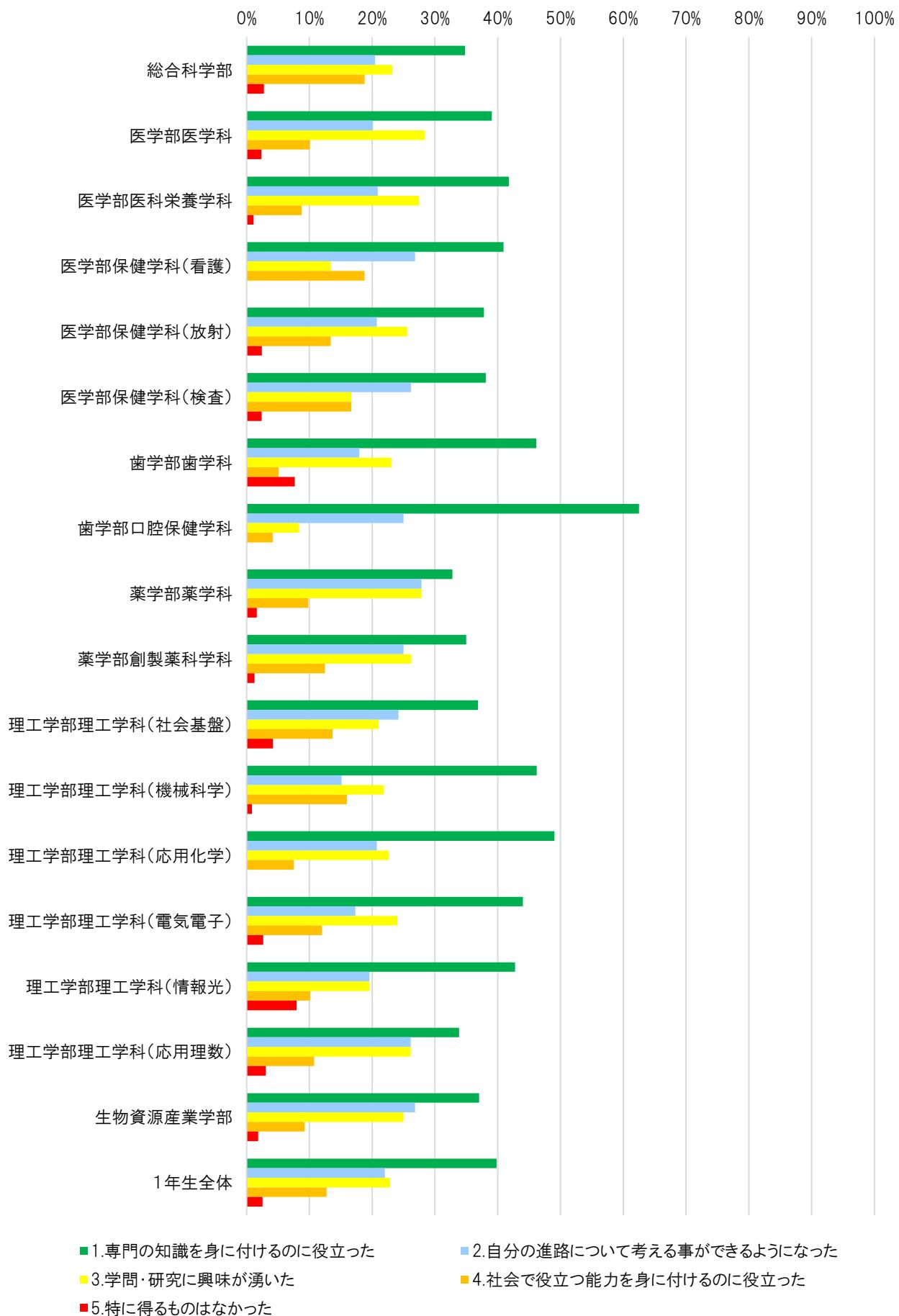
- 1.「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
- 2.教員からの助言や情報
- 3.事務職員からの助言や情報
- 4.先輩からの助言や情報
- 5.友人からの助言や情報

[103] 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)

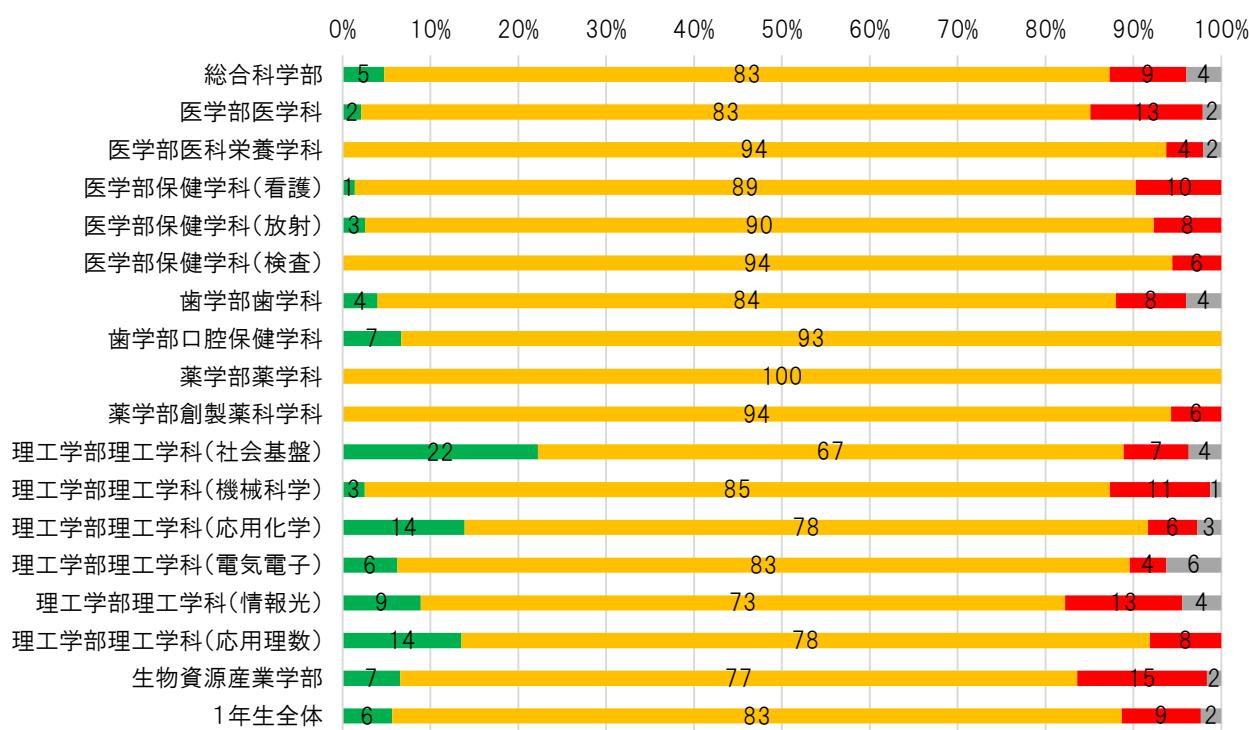


- 1. 専門分野の体験学習
- 2. 文章(レポート)の書き方
- 3. プレゼンテーションの仕方
- 4. 他者と協働して学修や活動に取り組むこと
- 5. 学修の振り返りを行い次の学修に活かすこと
- 6. 大学における学修の仕方・取り組み方
- 7. 主体的な学修習慣を身につけること

[104] 専門教育科目的授業を受けて何を学ぶことができると思いますか。(複数回答可)



[105] 授業内容の難易度についてどう思いますか。

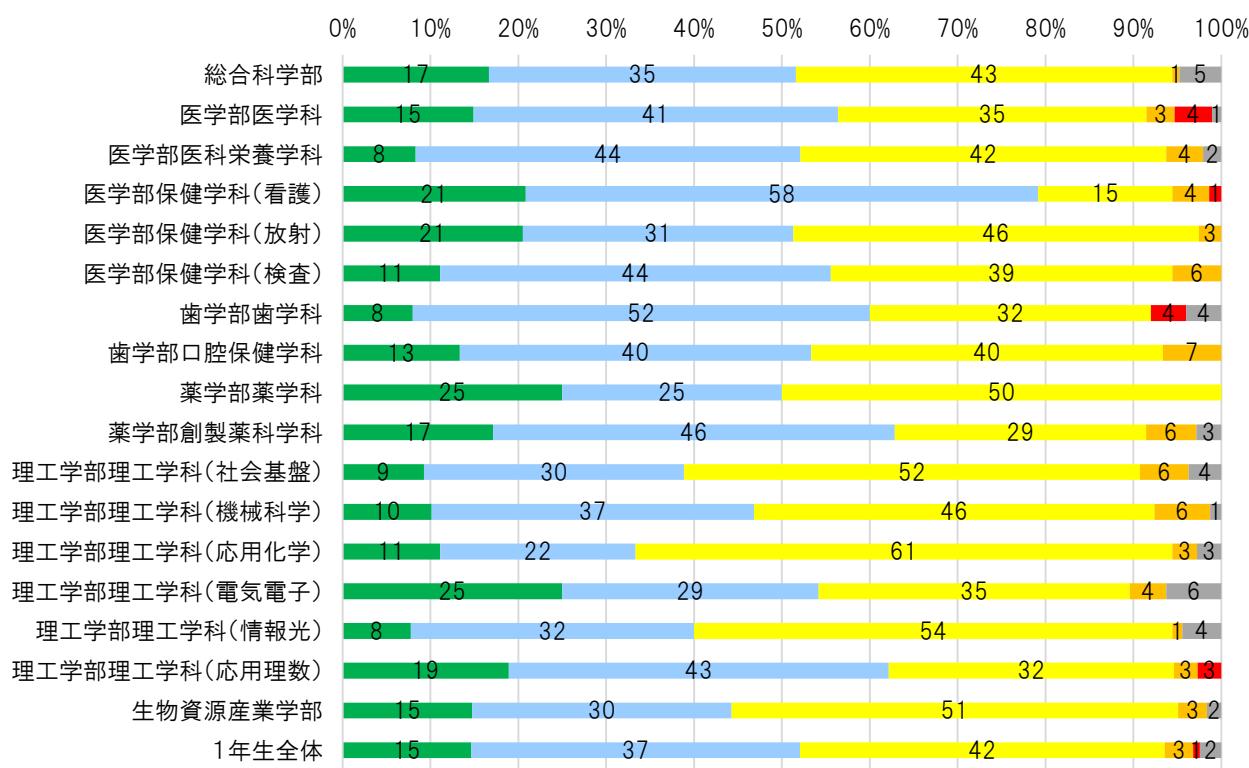


■1.授業内容の水準をもっと高度にすべきである ■2.授業内容の水準は適切である

■3.授業内容の水準をもっと易しくすべきである ■無回答

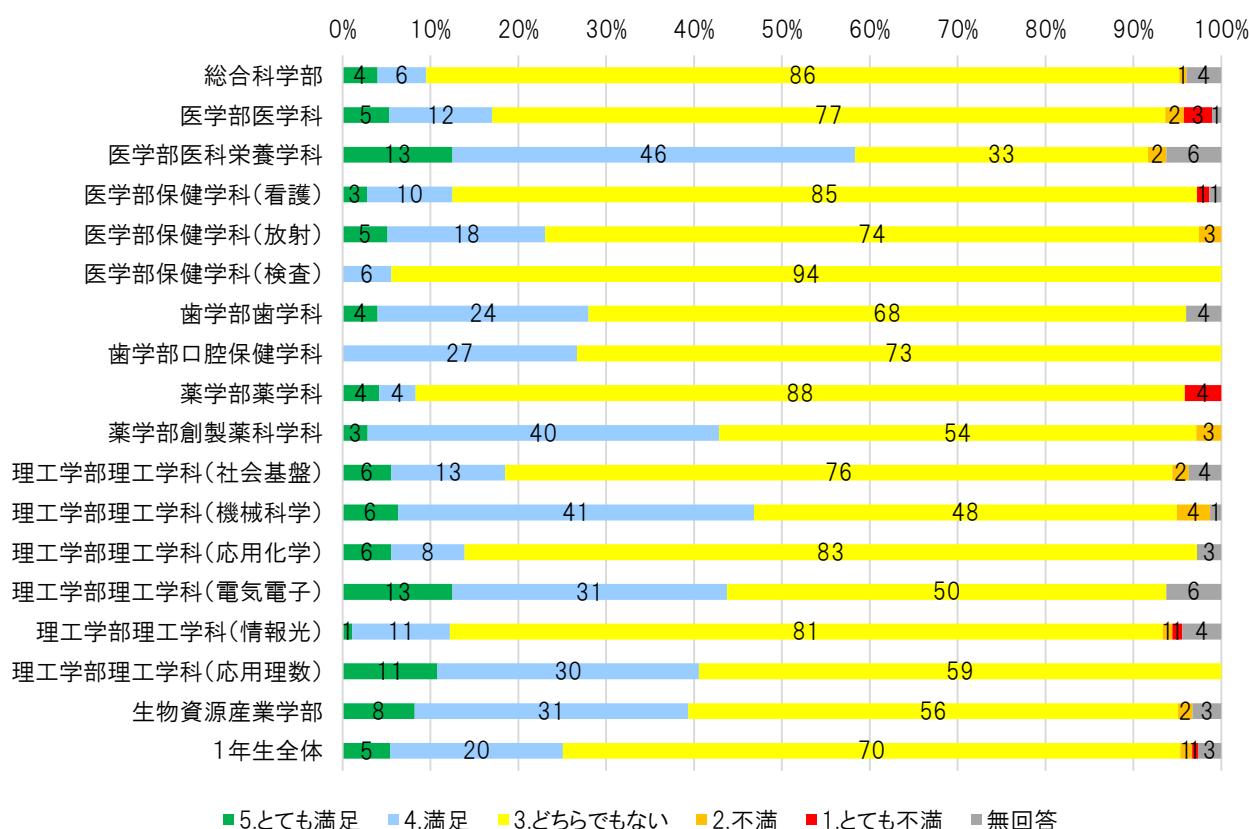
あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

[106] 図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)

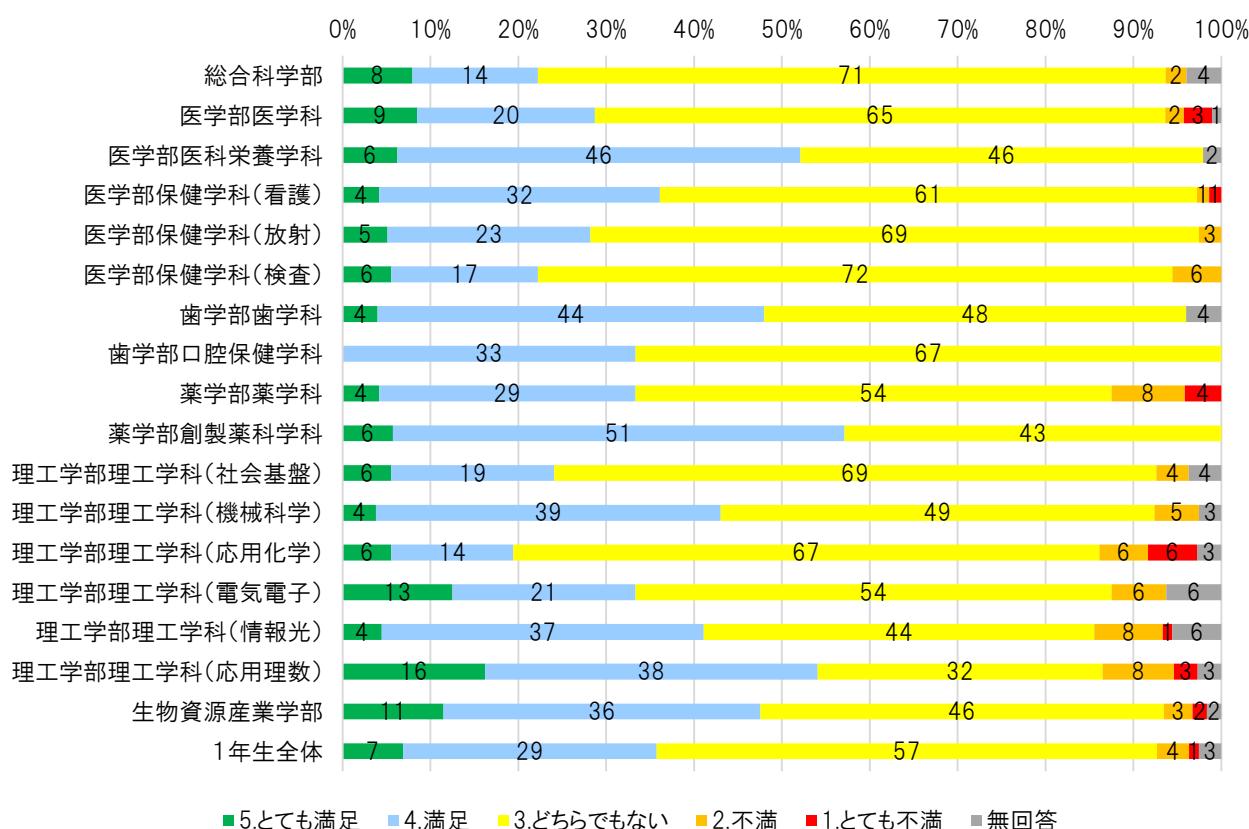


■5.とても満足 ■4.満足 ■3.どちらでもない ■2.不満 ■1.とても不満 ■無回答

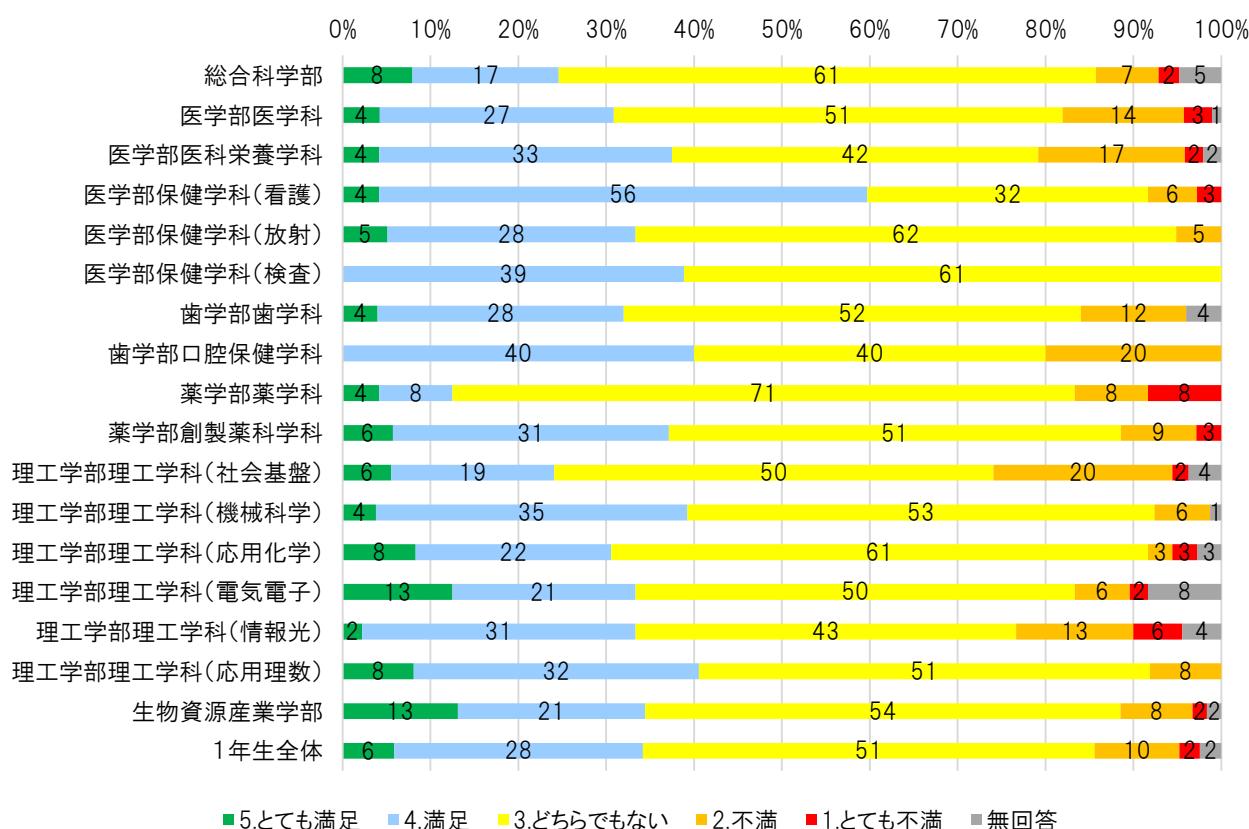
[107] 実験室の設備や器具



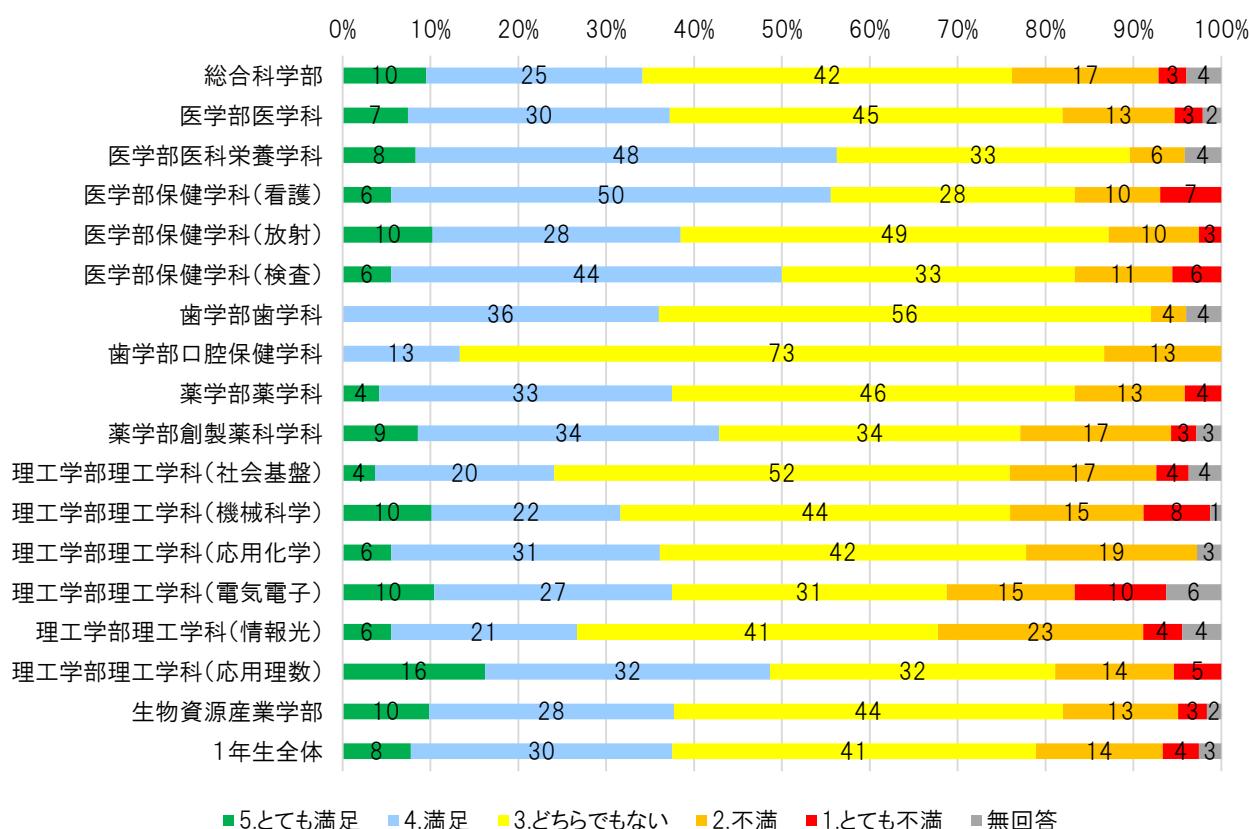
[108] コンピュータの施設や設備



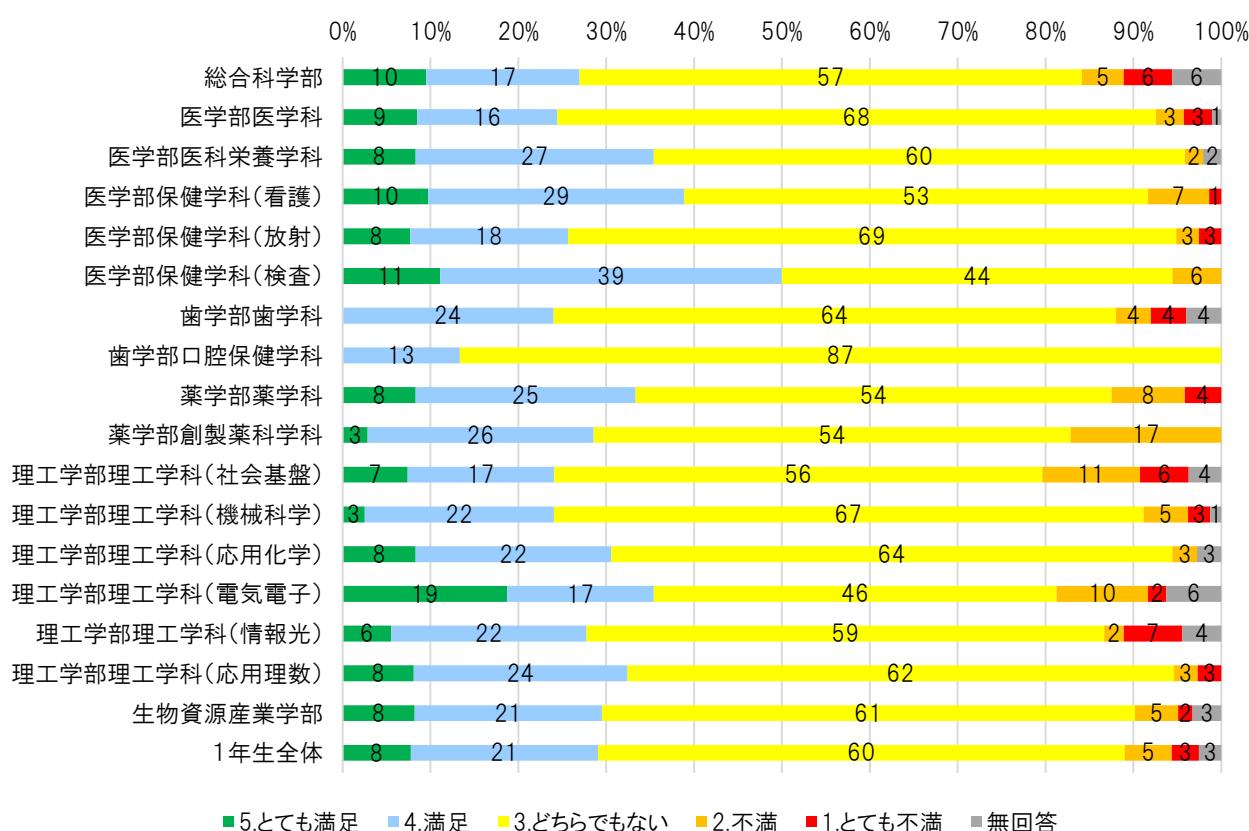
[109] コンピュータの訓練や援助



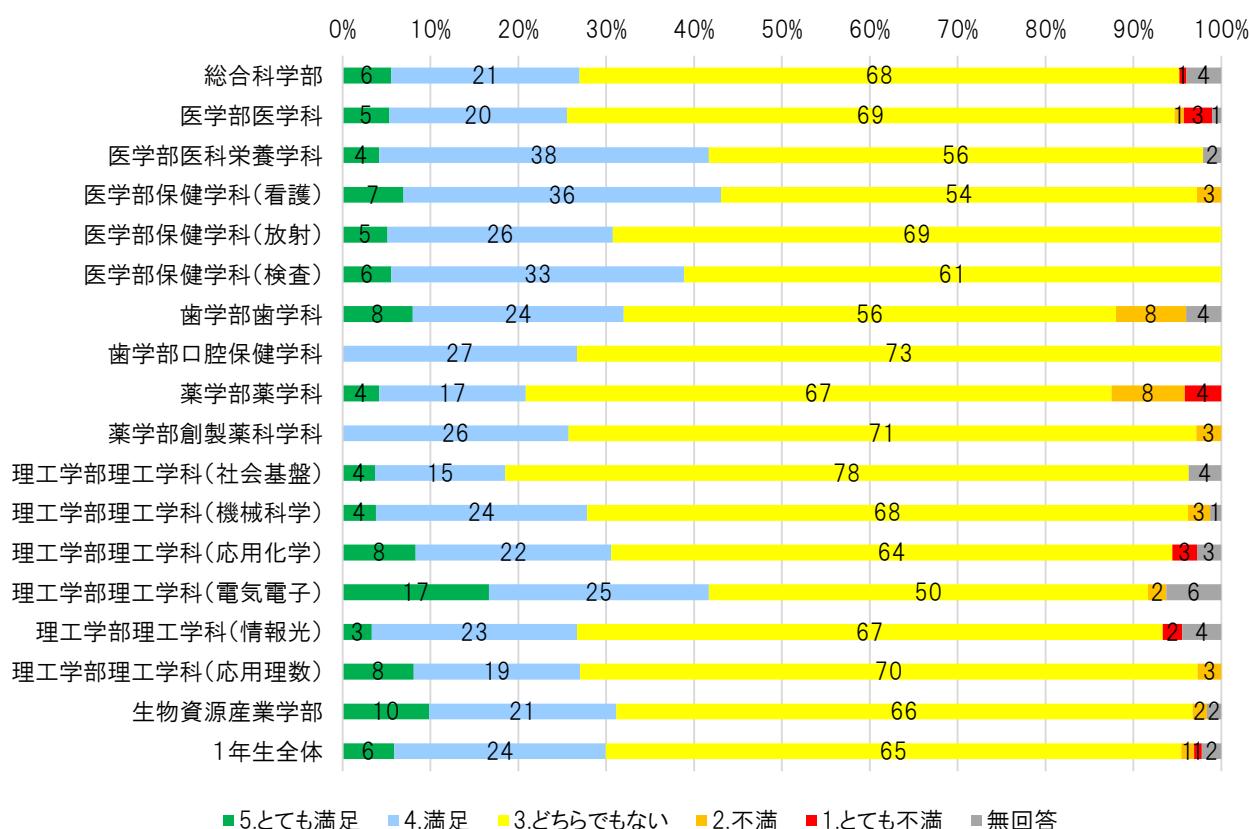
[110] インターネットの使いやすさ



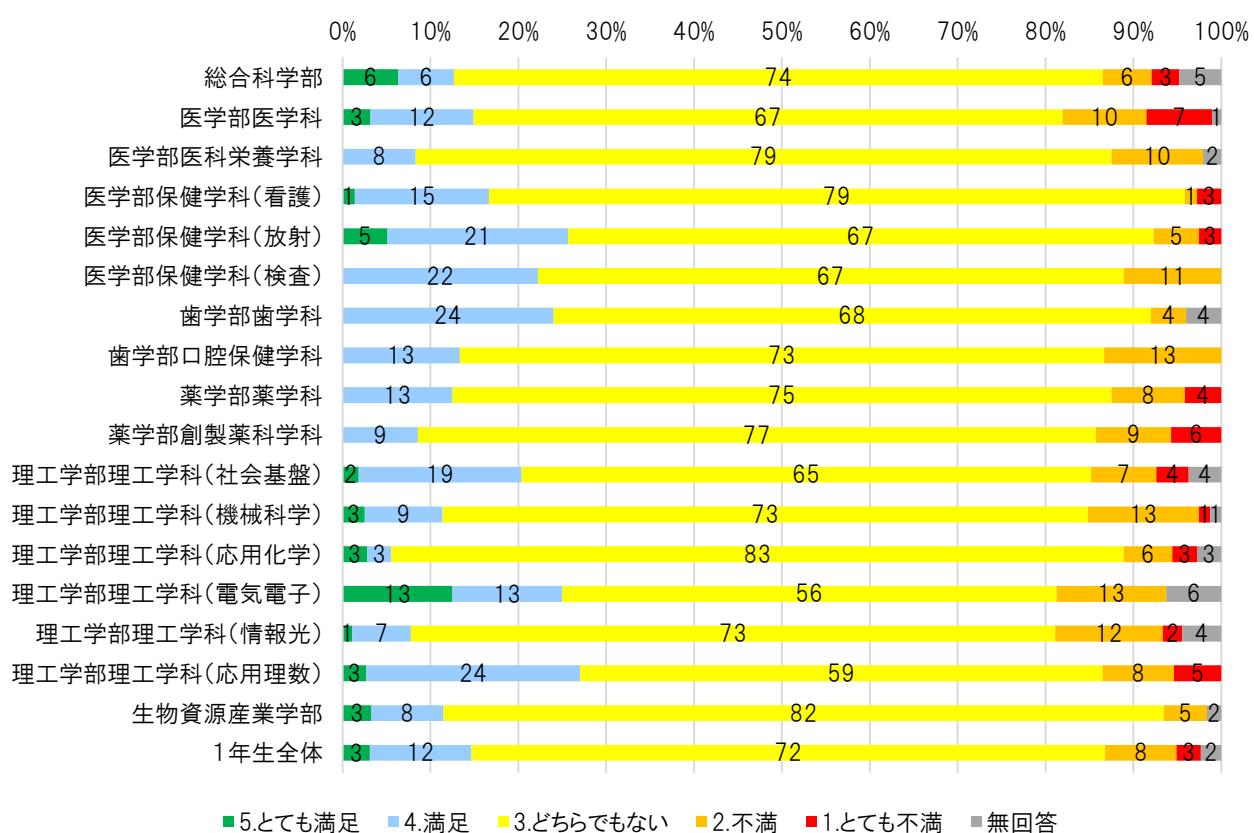
[111] 奨学金など学費援助の制度



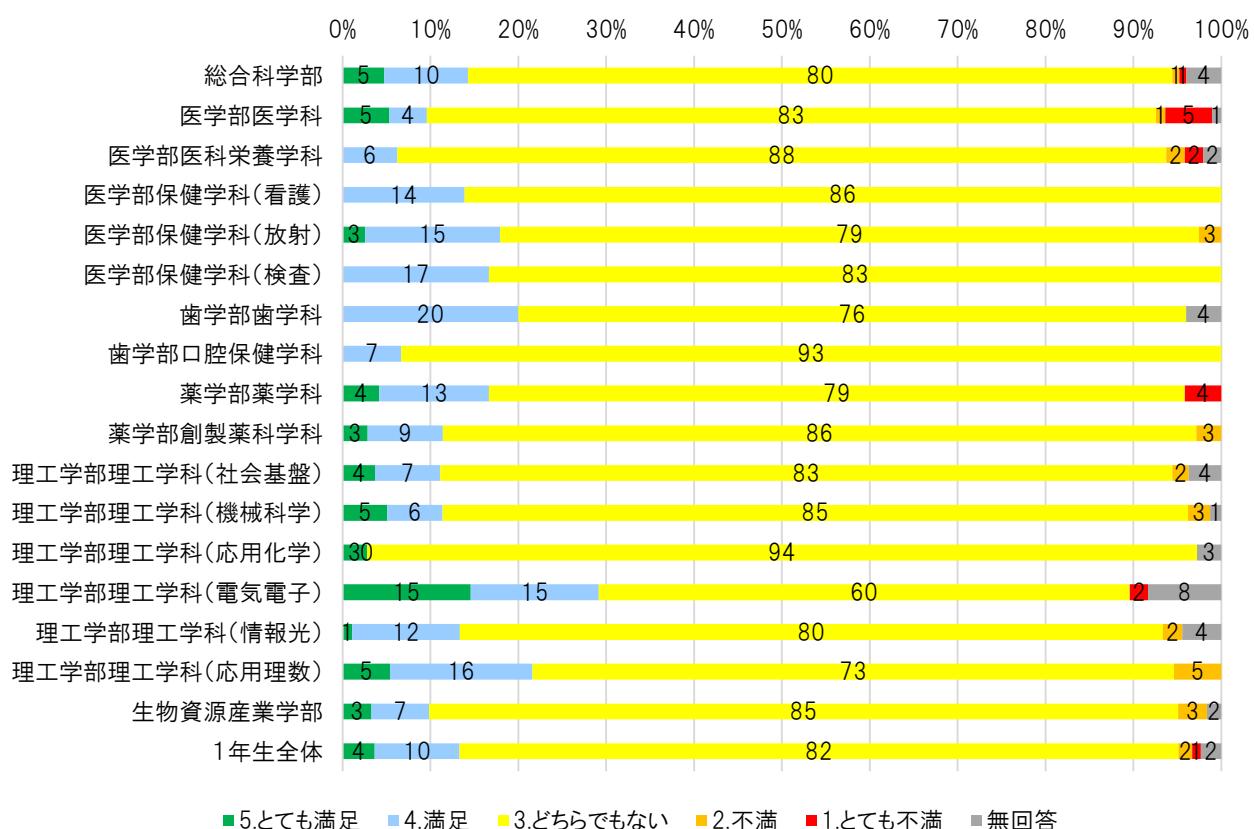
[112] 健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)



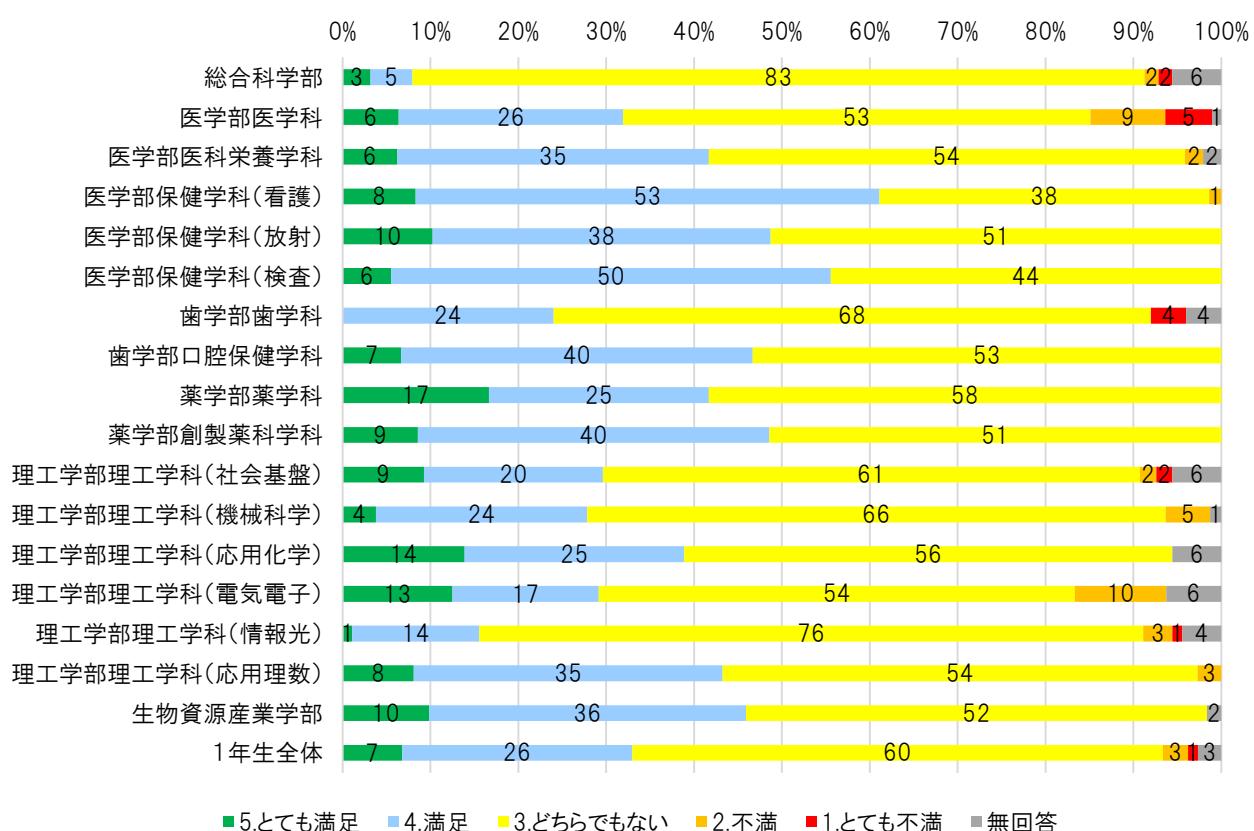
[113] レクリエーション施設(ジムの設備など)



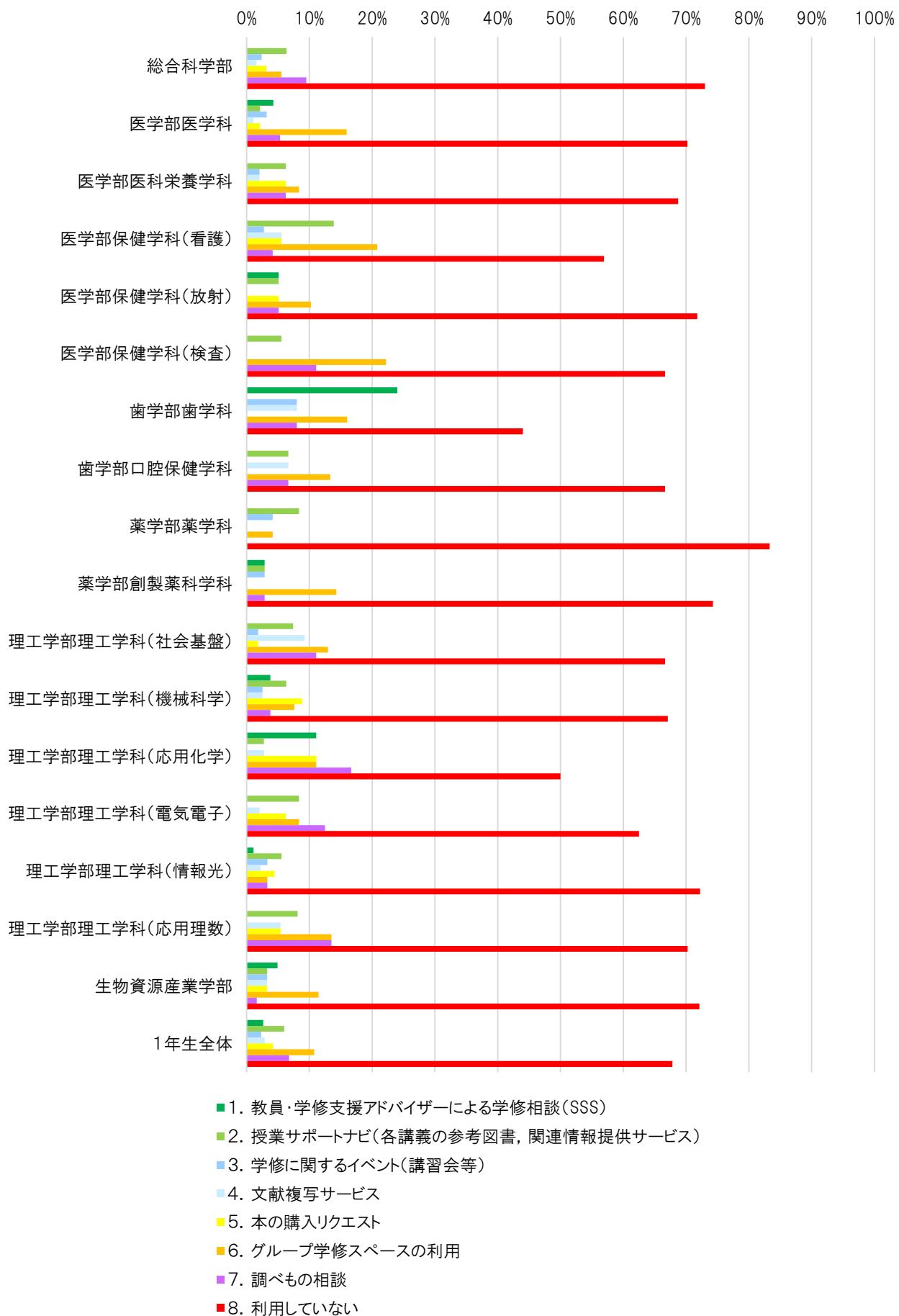
[114] キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)



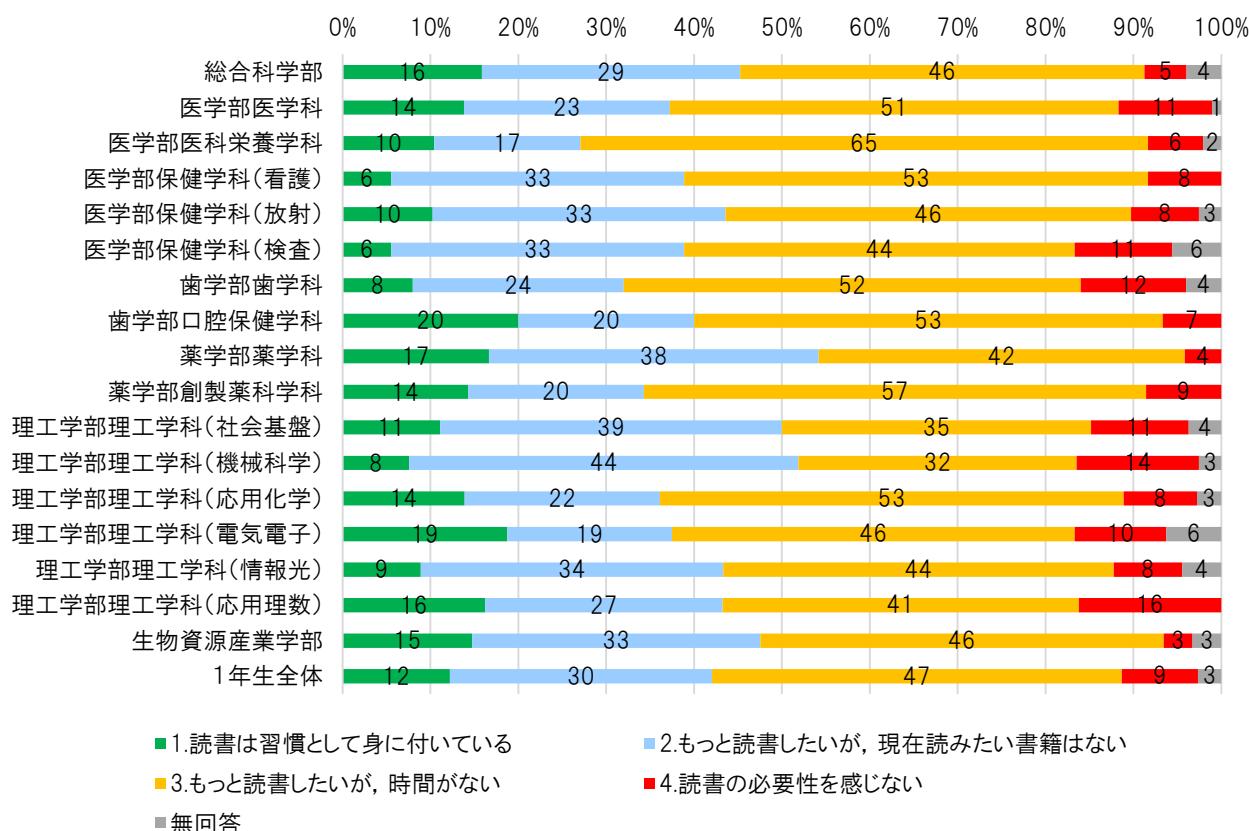
[115] クラス担任制度



[116] 図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。(複数回答可)



[117] あなたは、読書についてどのように考えていますか。

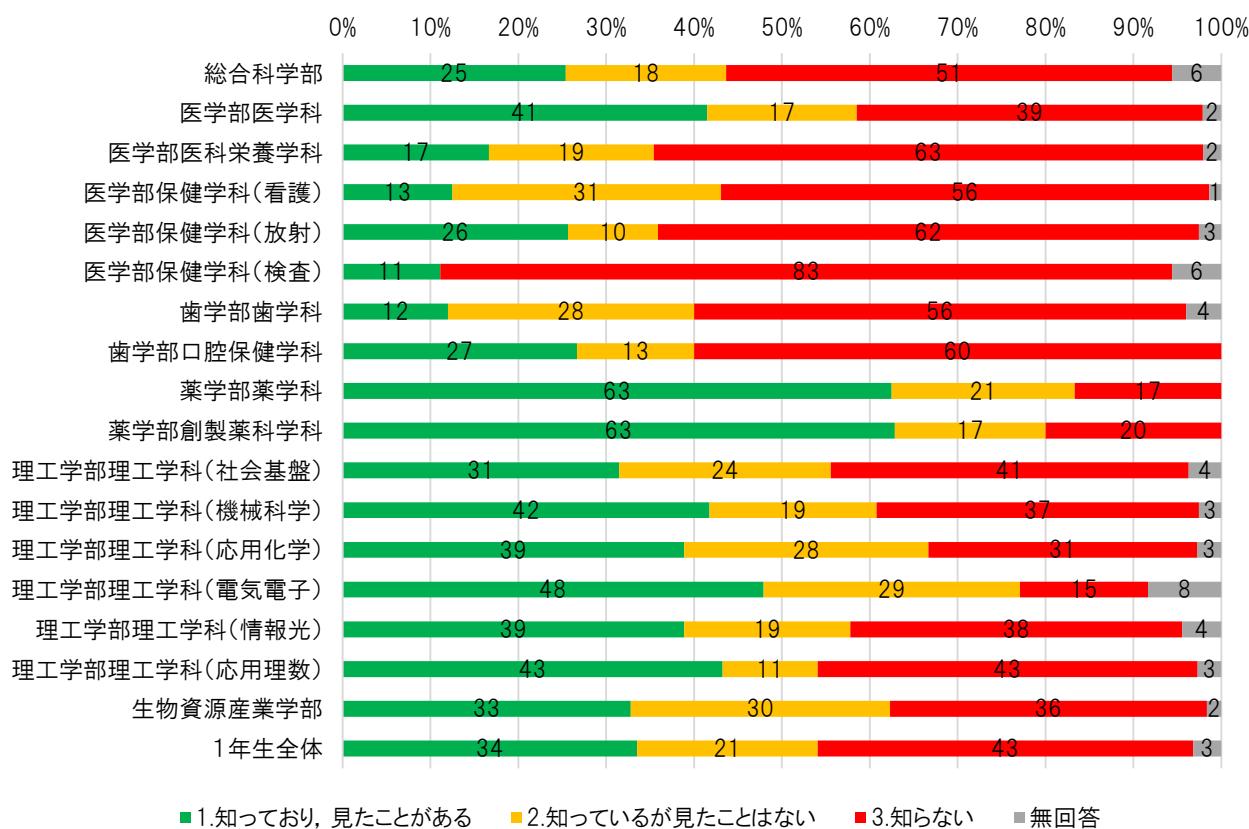


[118] 徳島大学では、履修者が 11 名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか

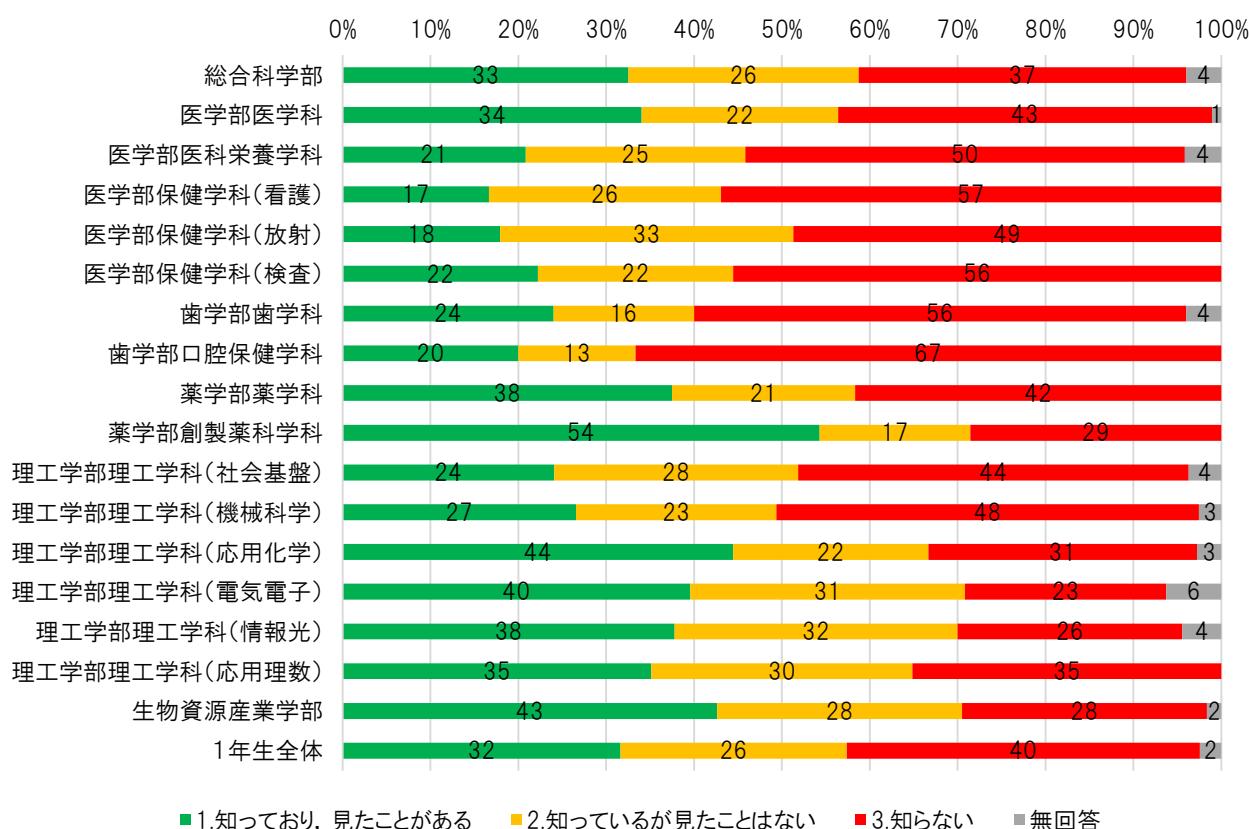


- 1.知っており、確認したことがある。また、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っている。
- 2.知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っていない。
- 3.知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っているかどうかわからない。
- 4.知っているが確認したことがない
- 5.知らない
- 無回答

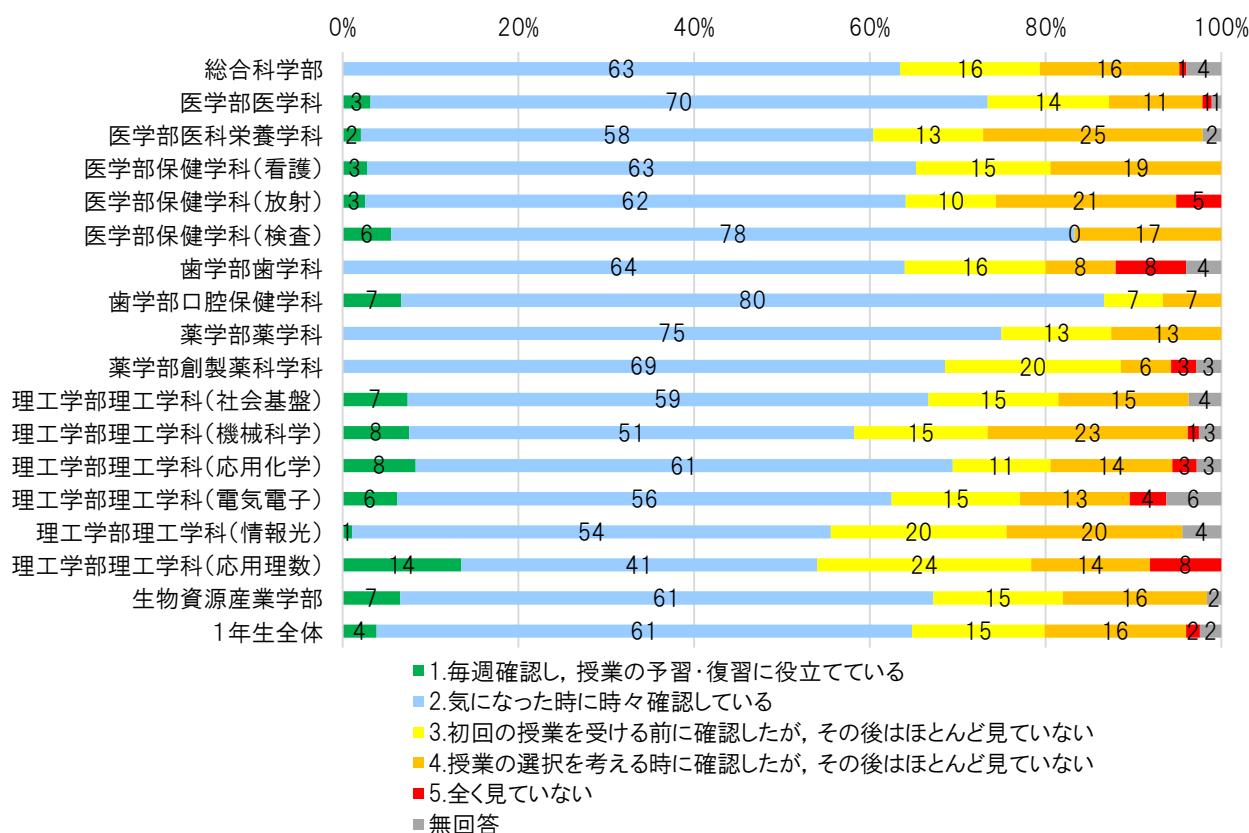
[119] 徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。



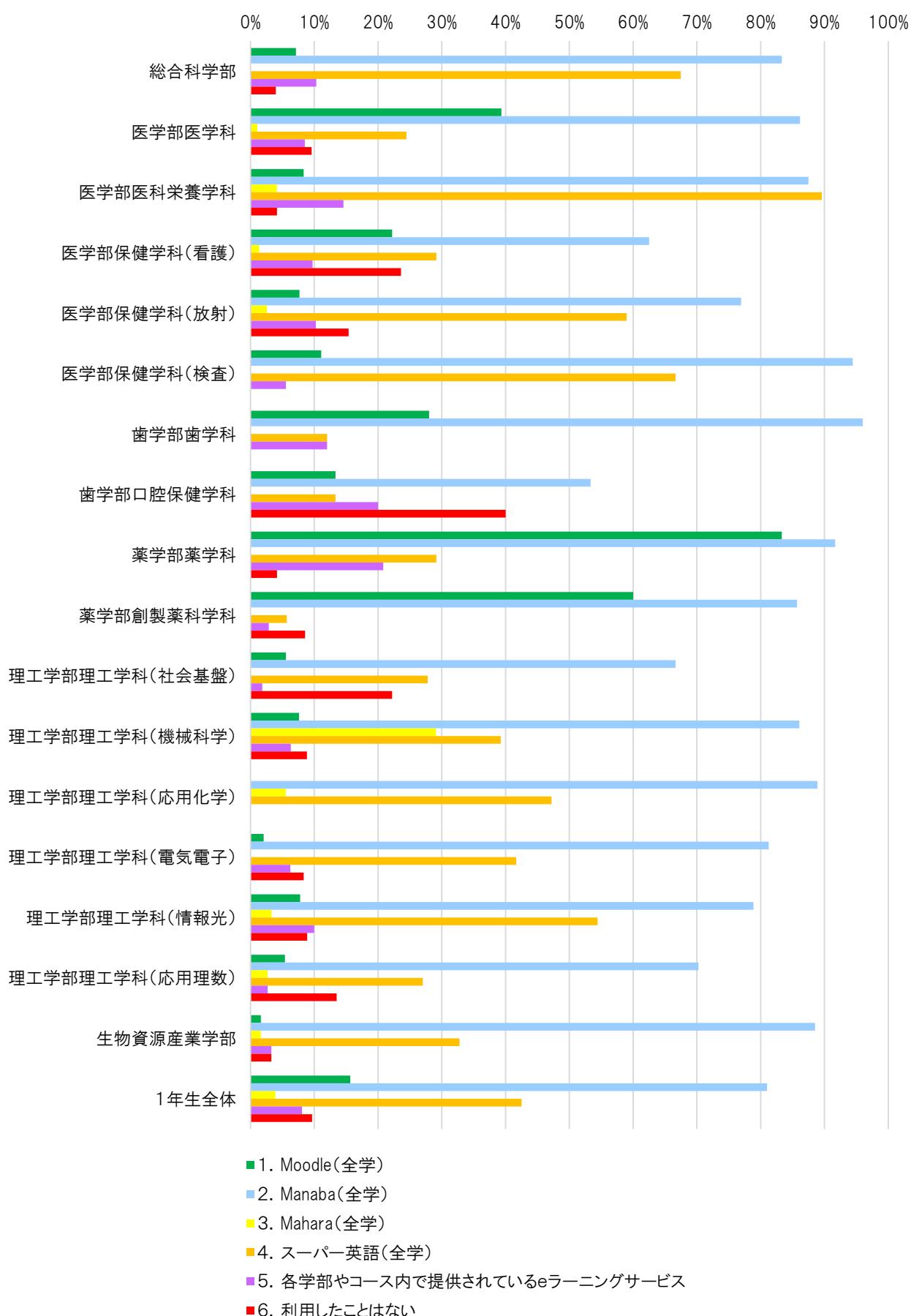
[120] 徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。



[121] シラバスはどのように利用していますか。

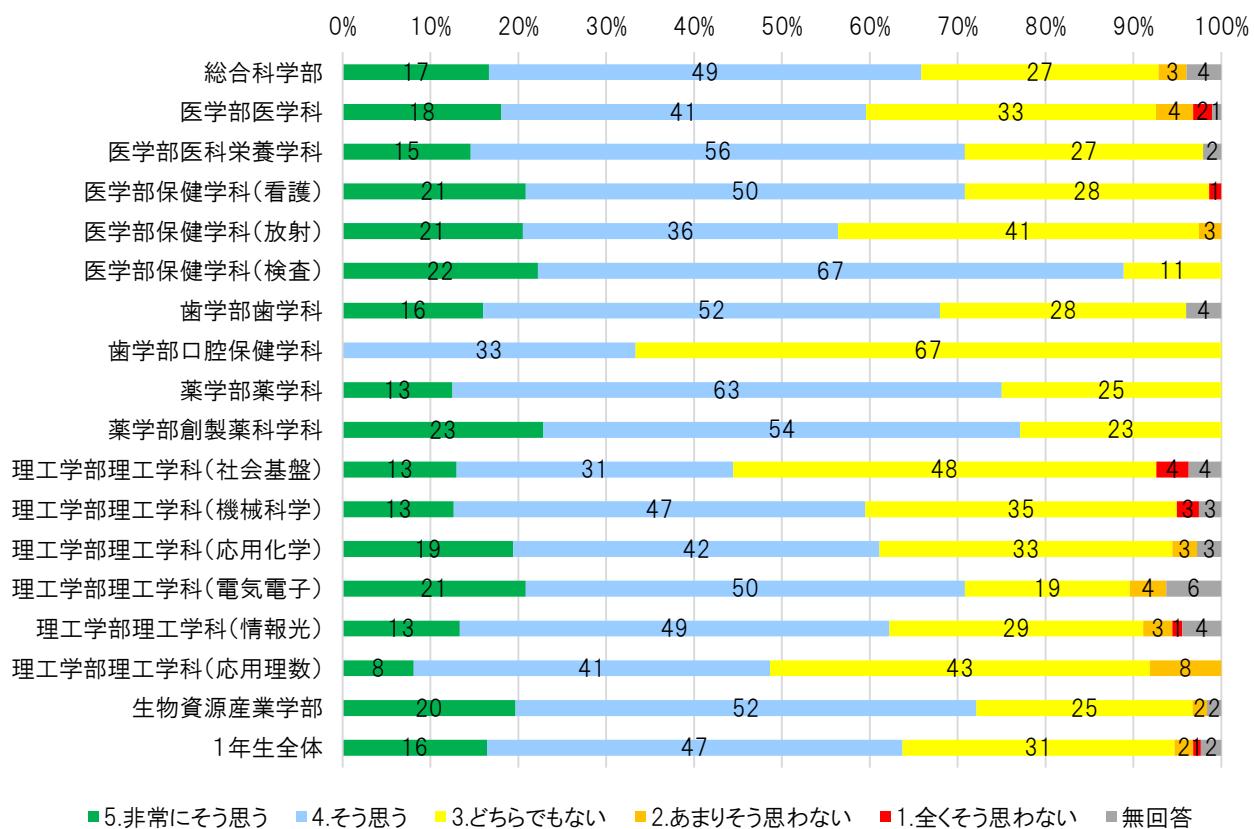


[122] 徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください(複数選択可)

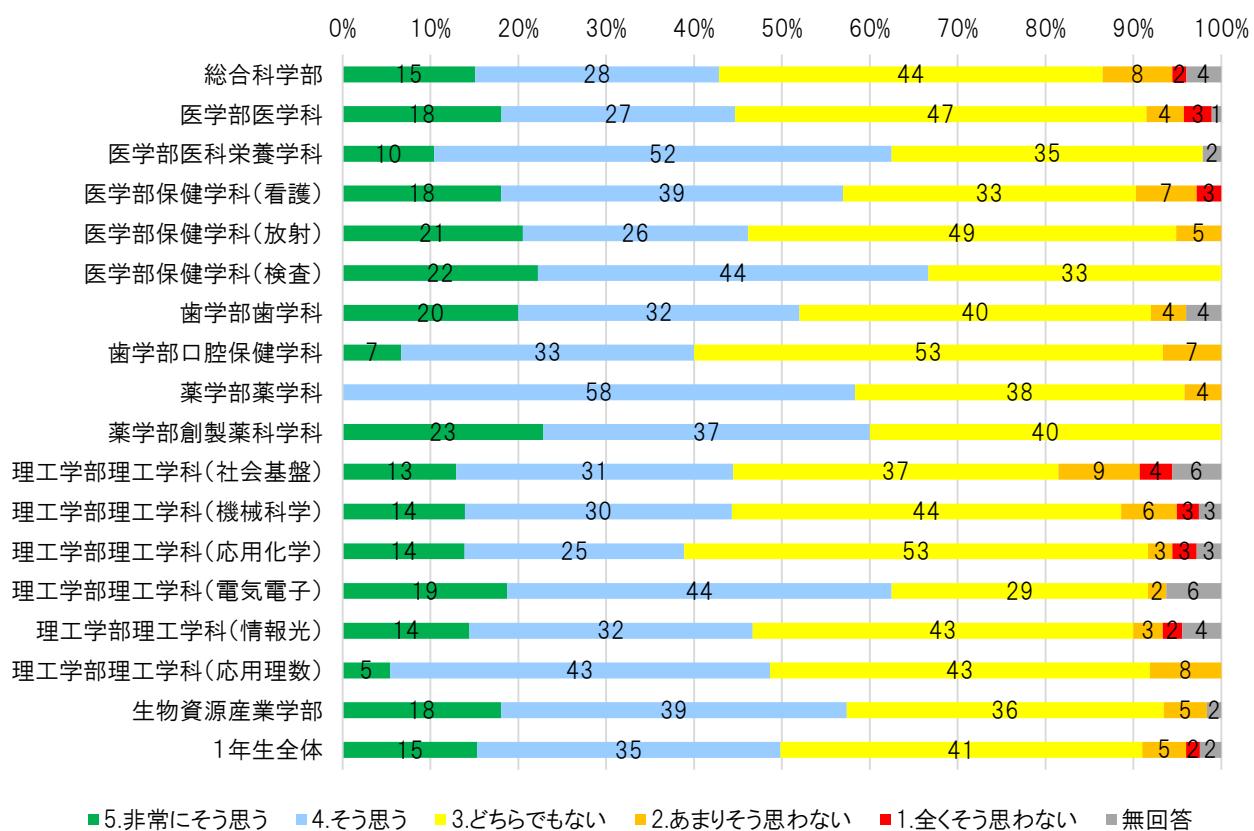


本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

[123] 本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ

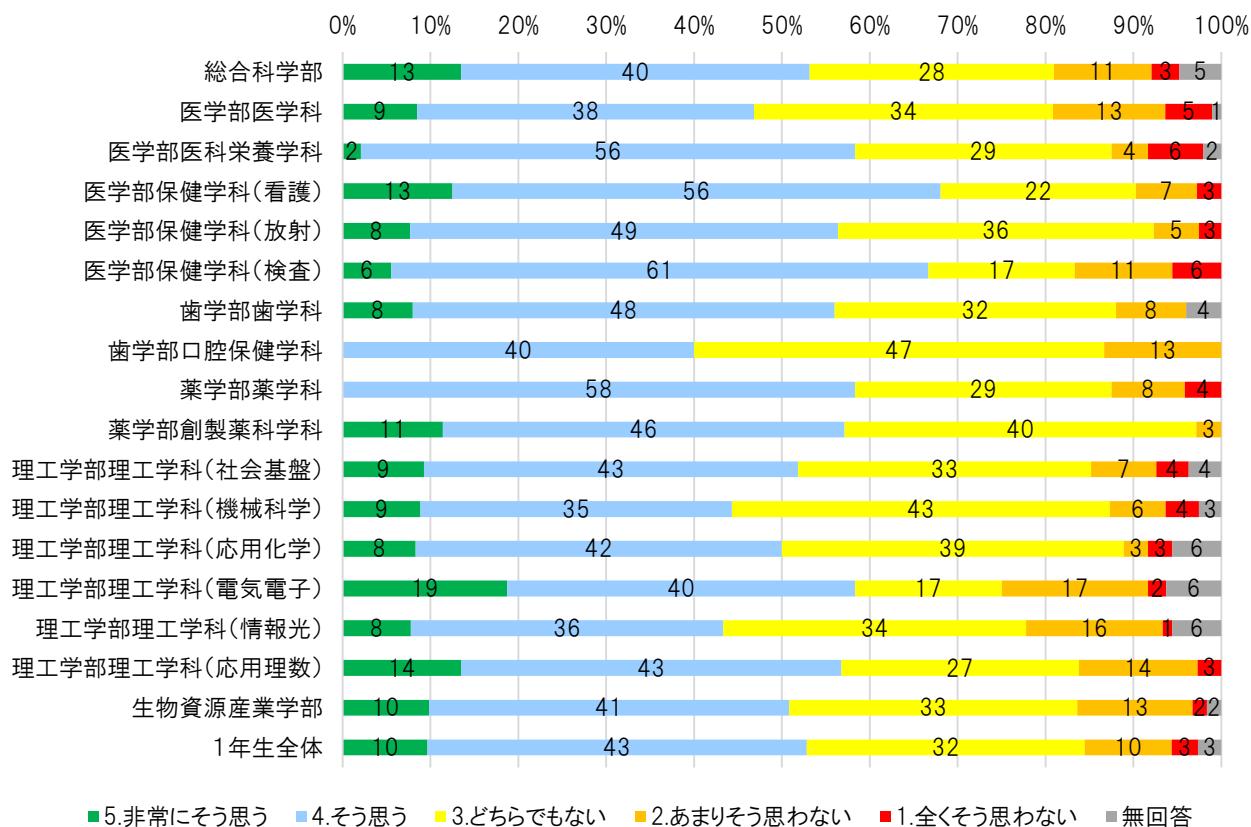


[124] 本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか

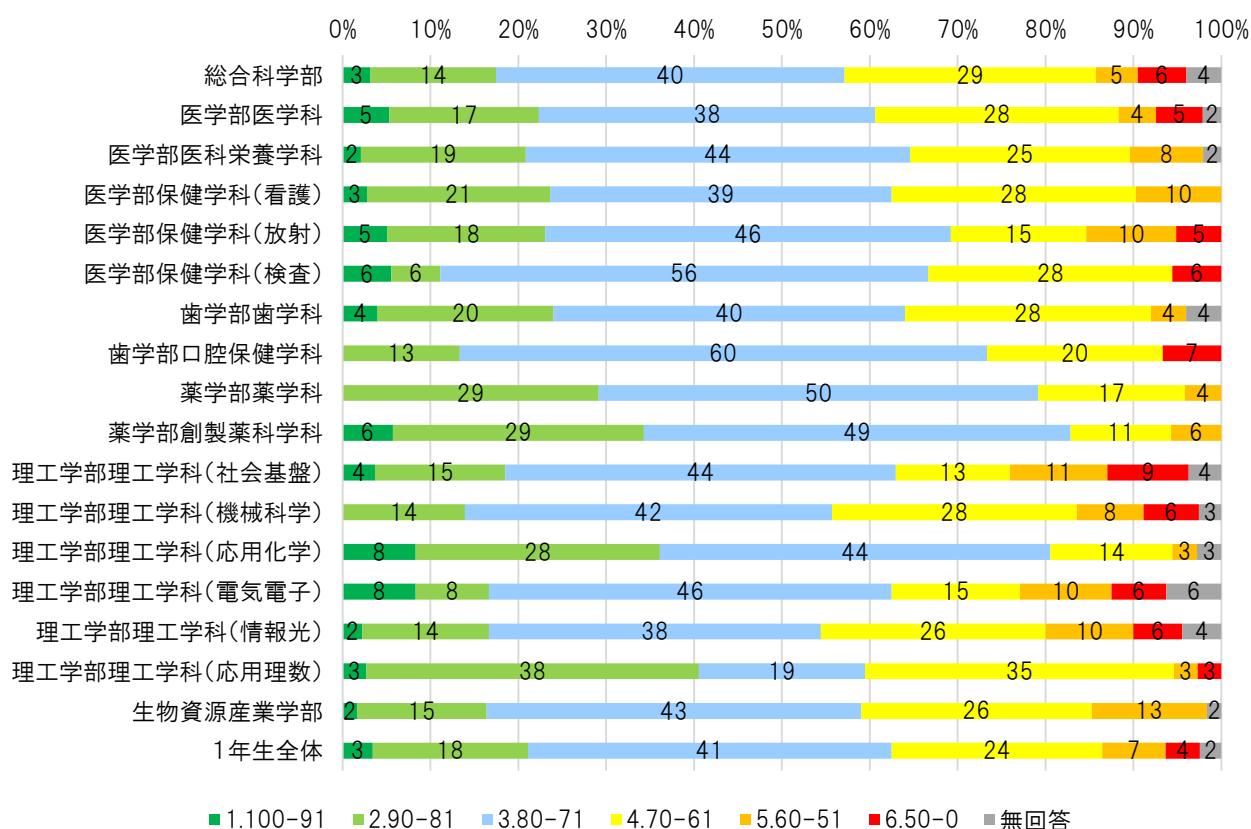


本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

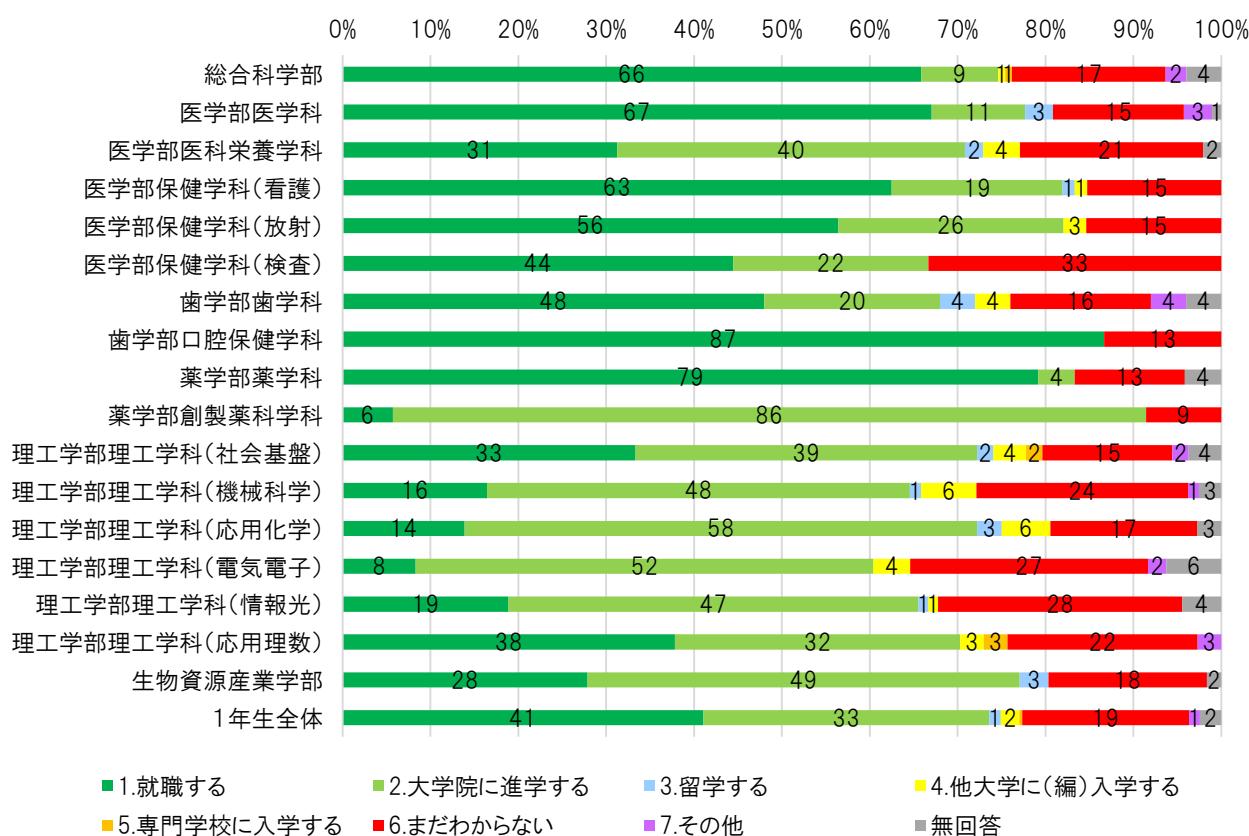
[125] 「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である



[126] 大学教育全体の満足度は 100 点満点で何点ぐらいですか。

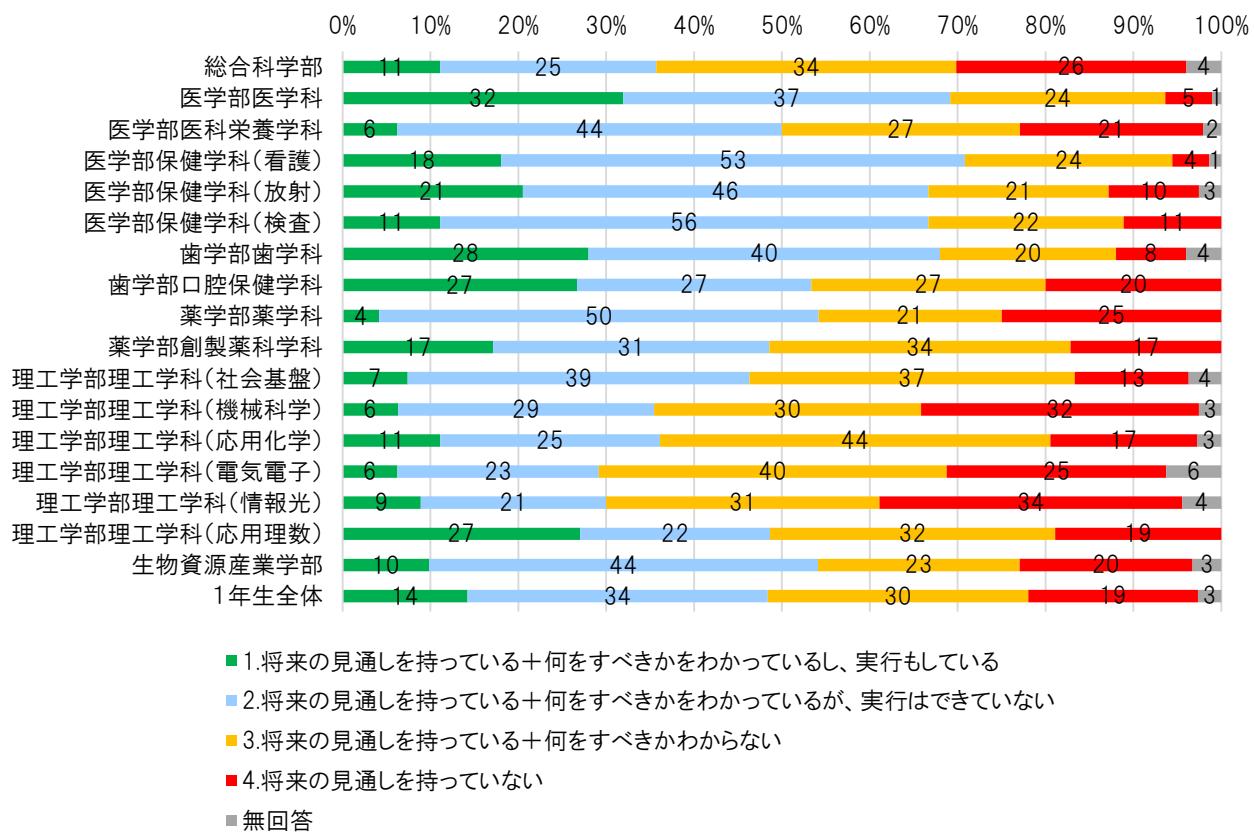


[127] あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。



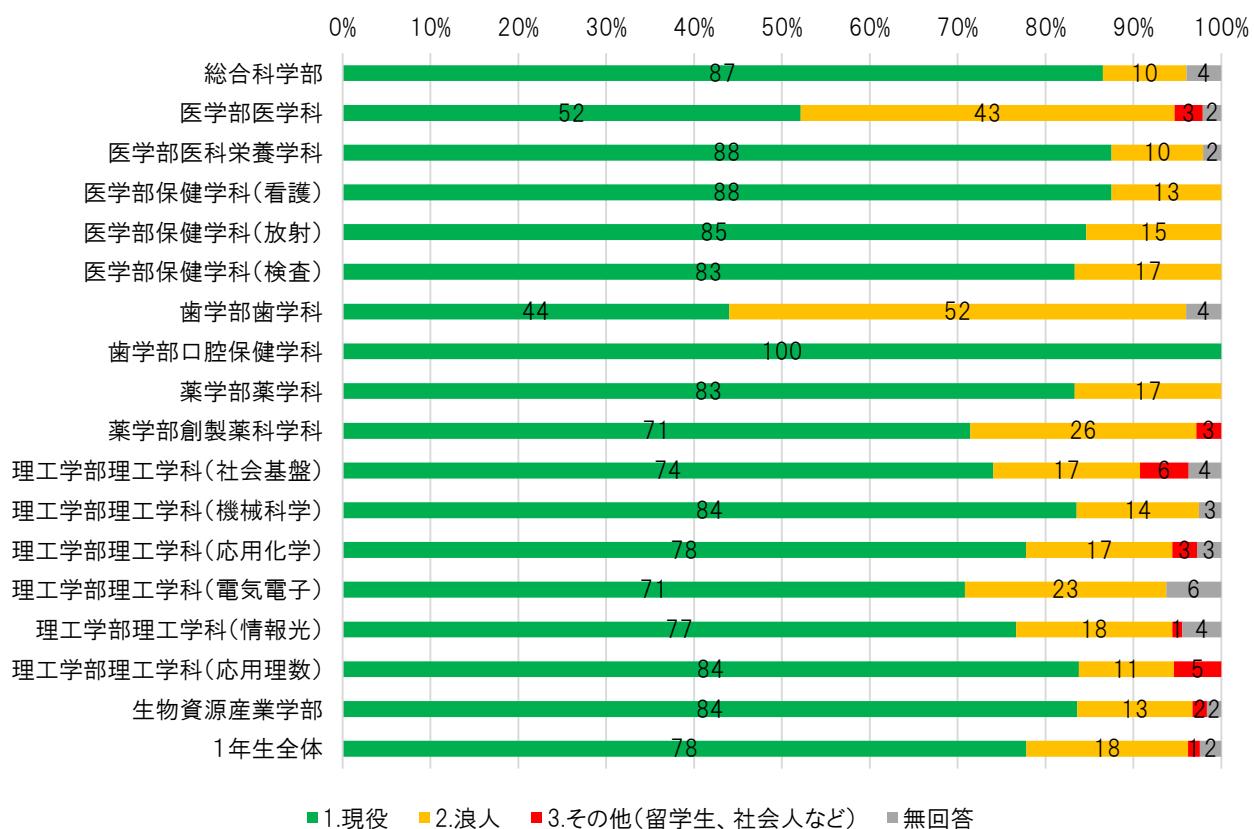
[128] 将来の見通しに関する以下の 2 つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

- ・あなたは、将来の見通し(将来こういう風でありたいという考え方)を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのがわかっていますか。また、それを実行していますか。

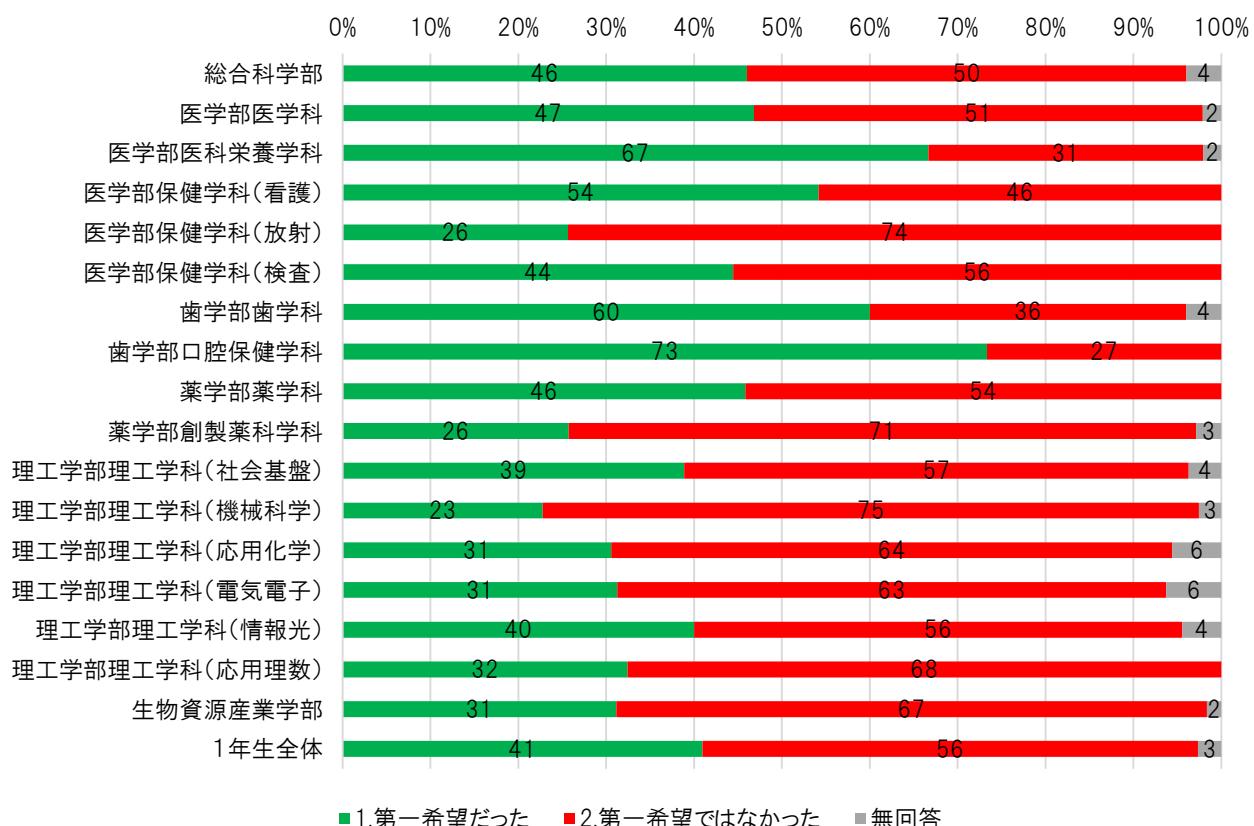


V. 最後に、大学に入学する前や高校時代のことについておうかがいします。

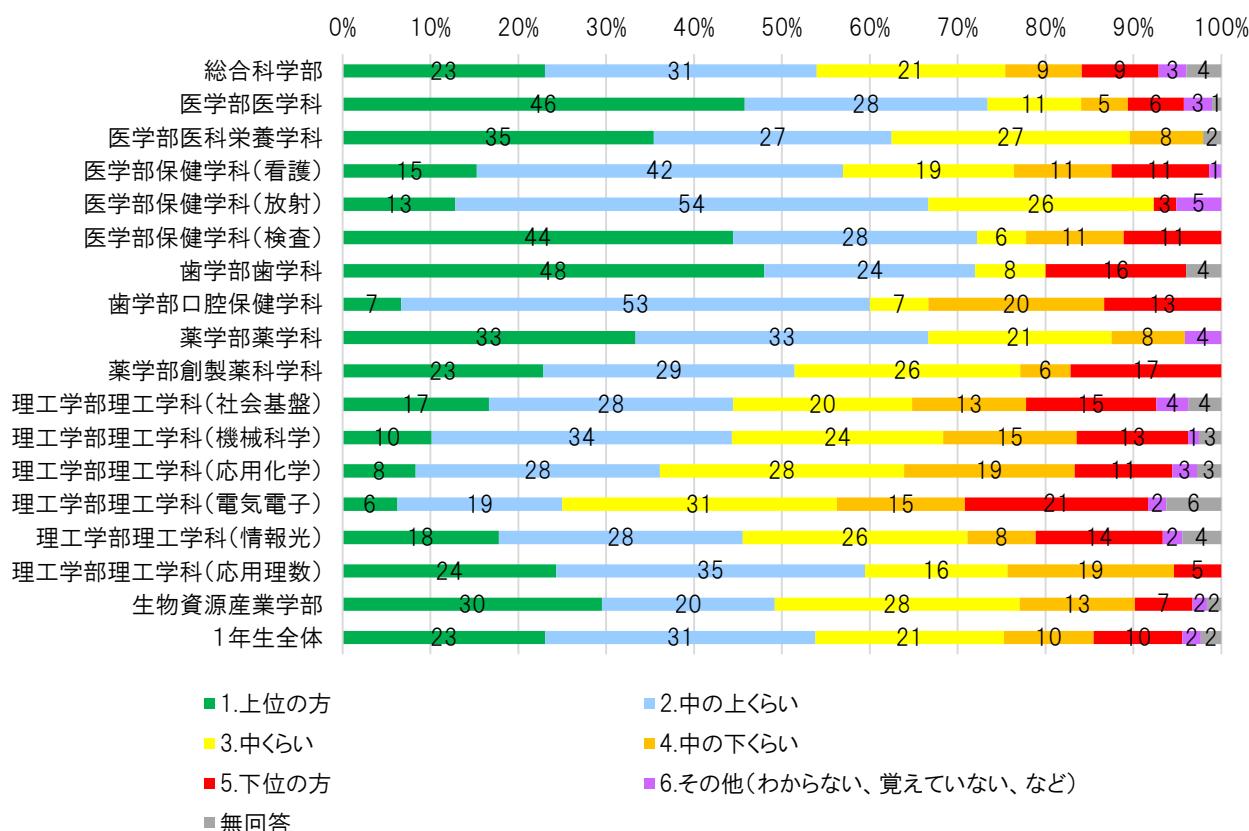
[129] あなたは現役で本学に入学しましたか、それとも浪人しましたか。



[130] あなたの志望大学の中で、本学は第1志望でしたか。

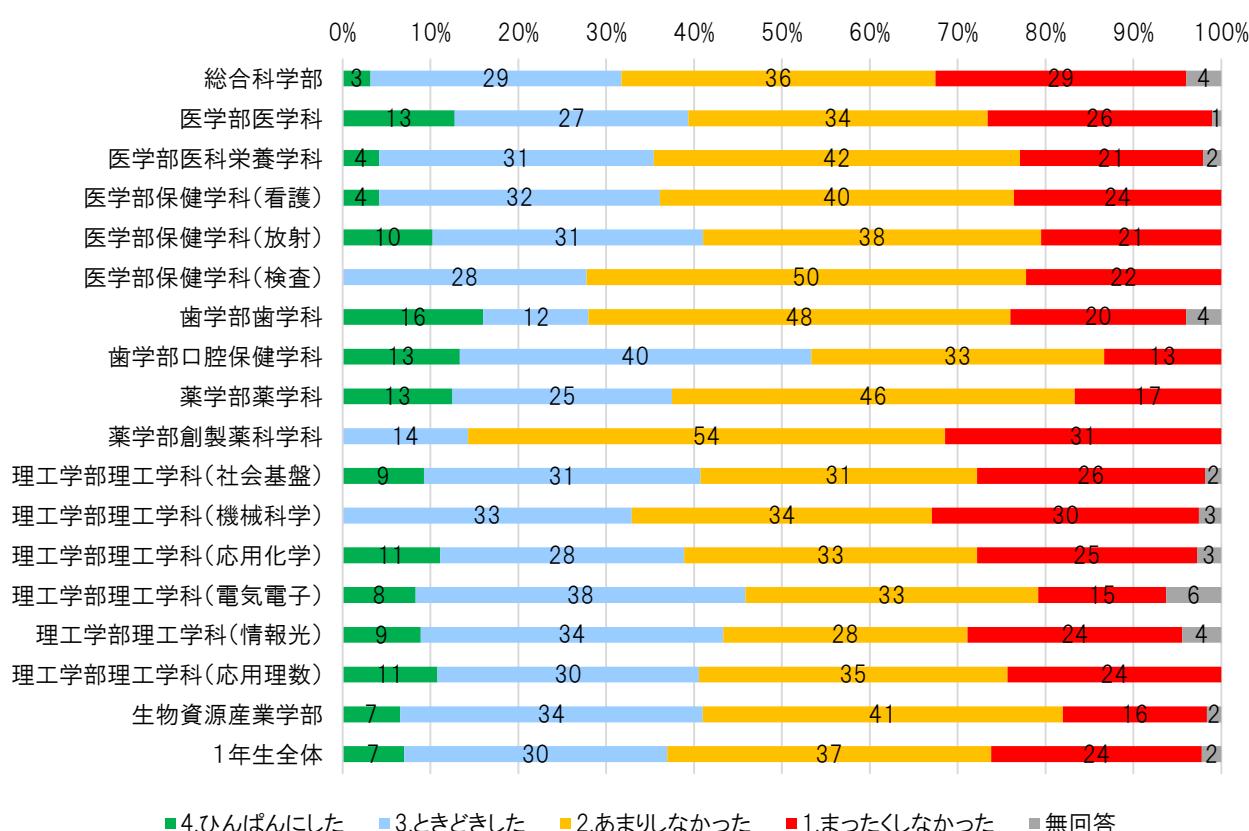


[131] あなたの高校での成績はどのあたりでしたか。

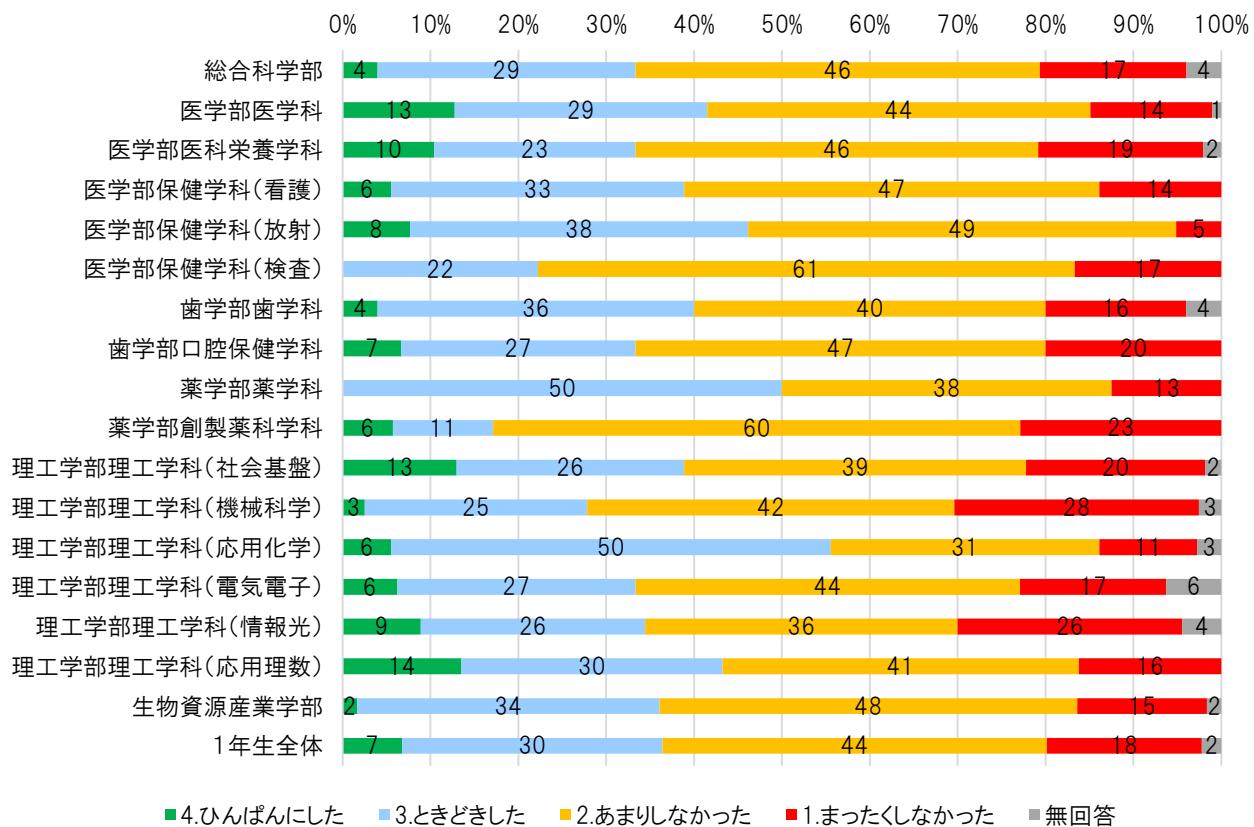


あなたが高校3年生だった時、次のことがらをどの程度しましたか。

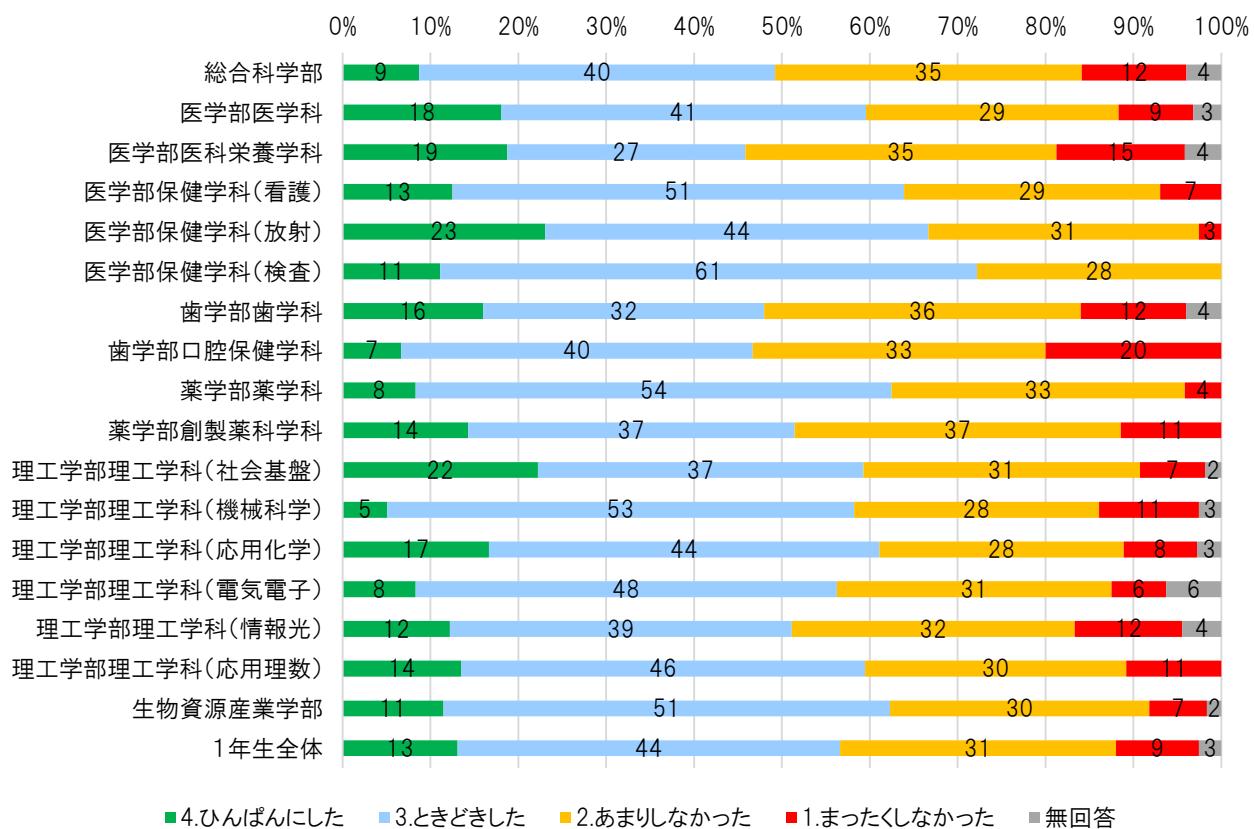
[132] 授業中に質問した



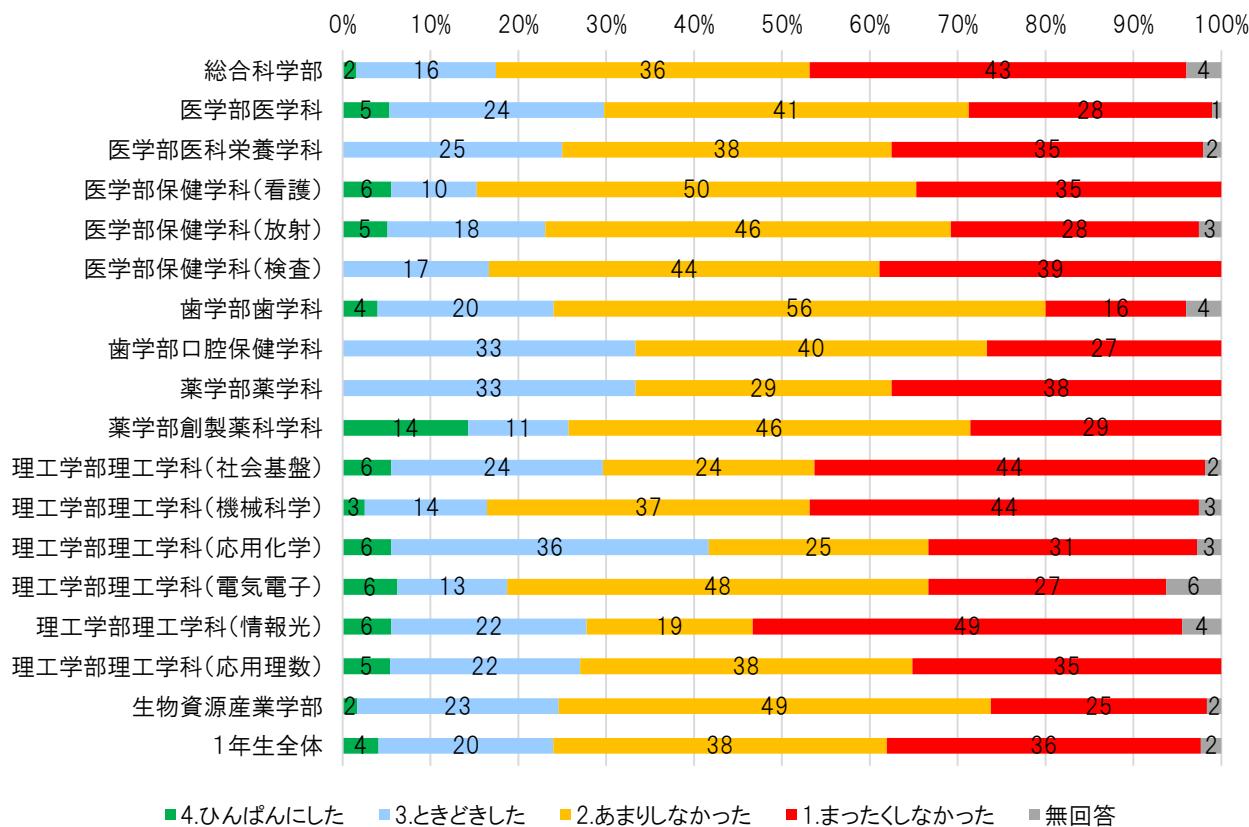
[133] 自分の意見を論理的に主張した



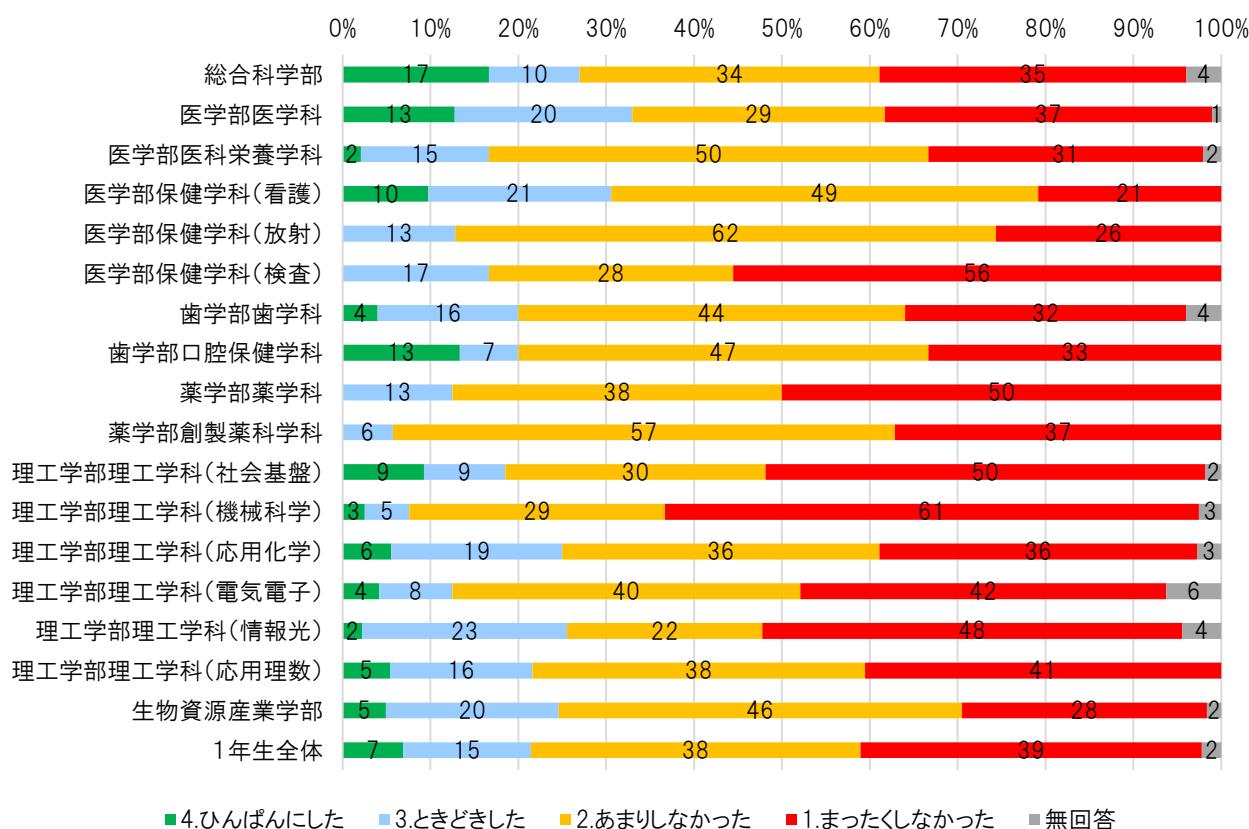
[134] 問題の解決方法を探し、それを他の人に説明した



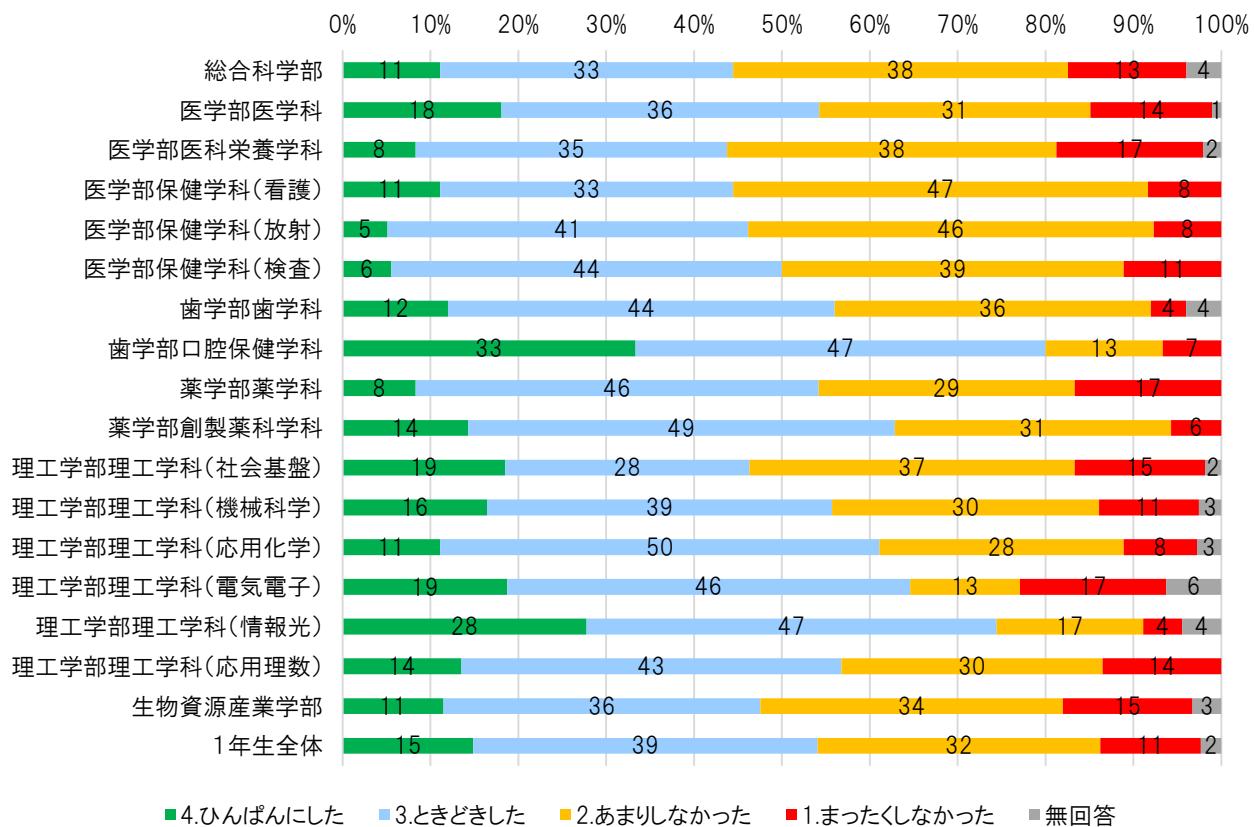
[135] 科学的研究の記事や論文を読んだ



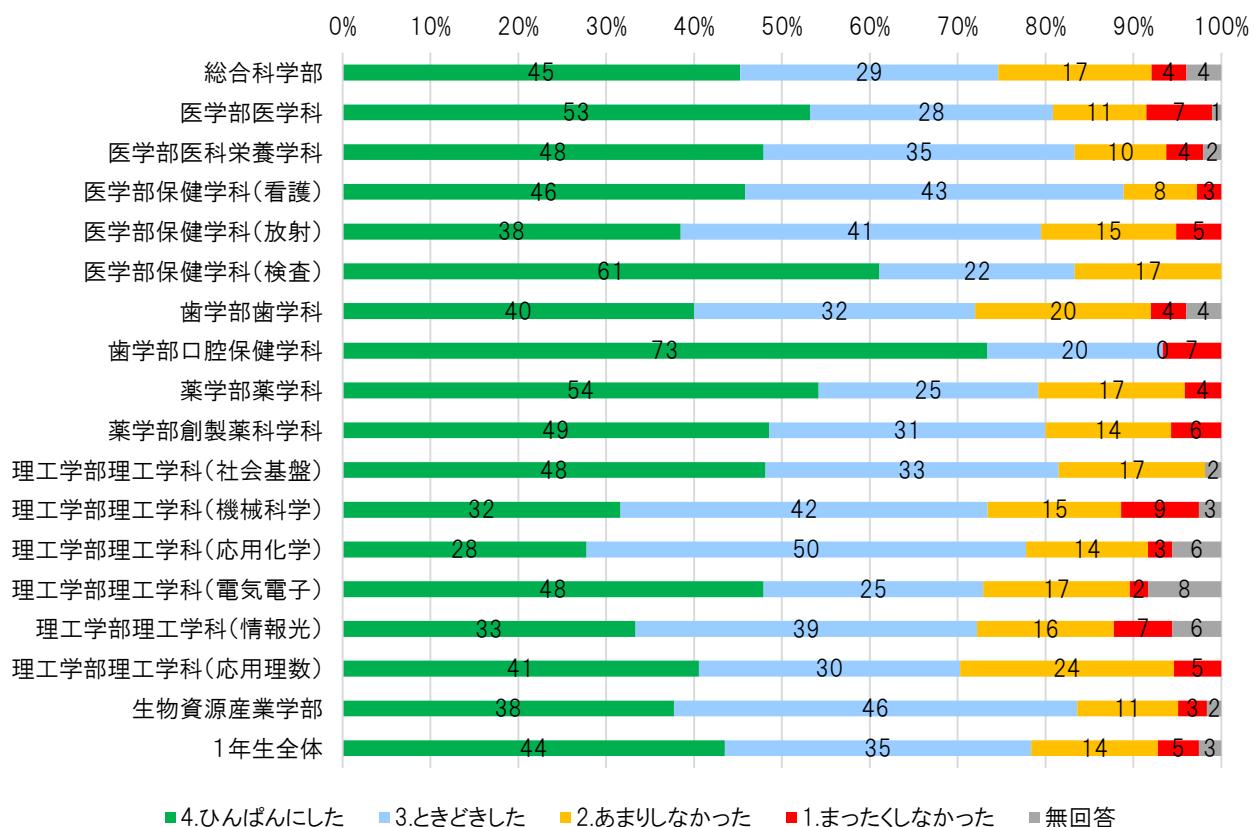
[136] 自発的に作文の練習をした



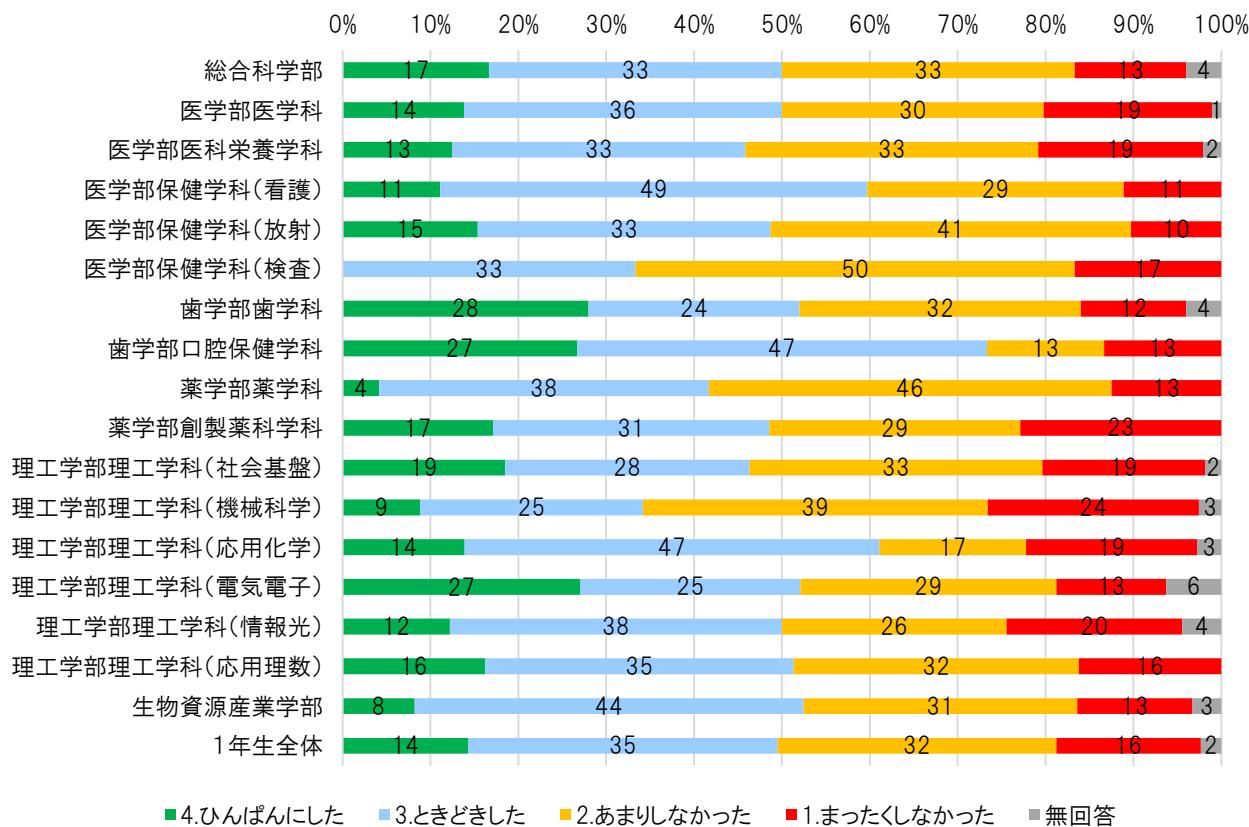
[137] インターネット上の情報が事実かどうか確認した



[138] 授業の予習や復習、宿題をした

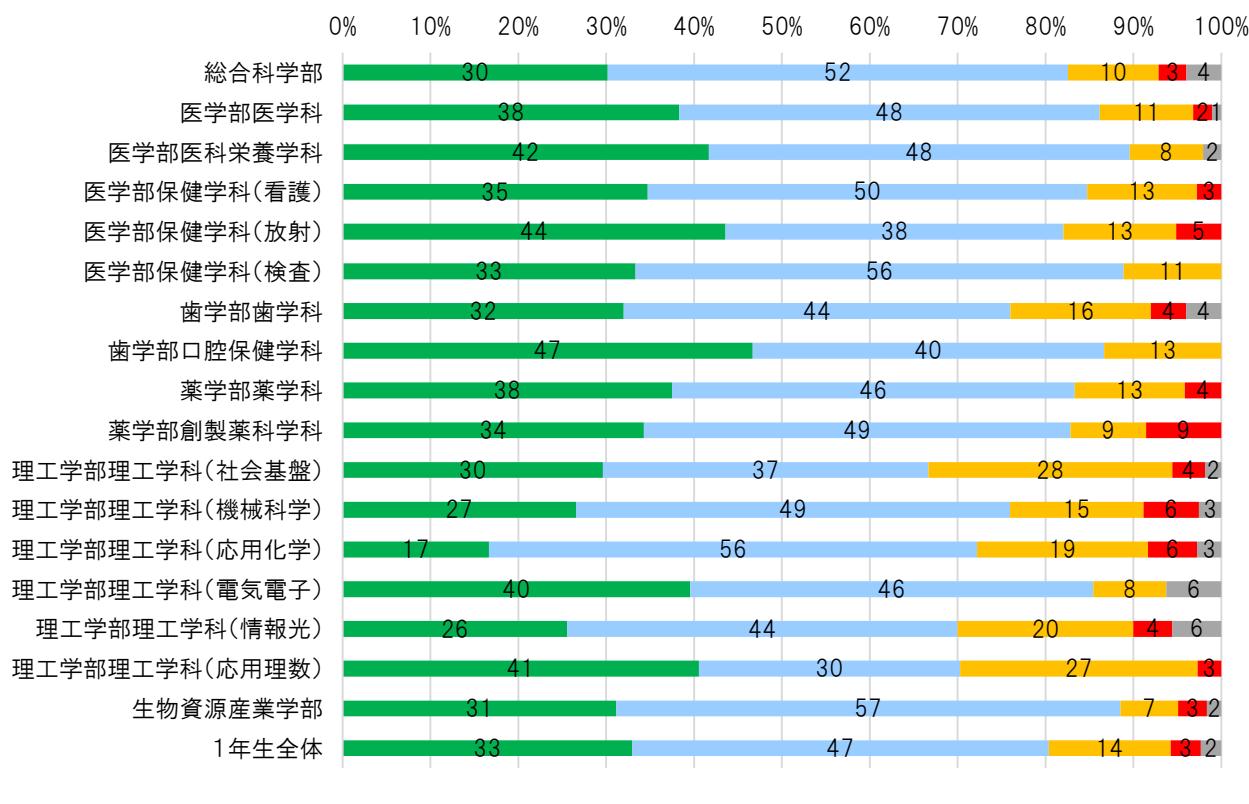


[139] 授業以外に興味のあることを自分で勉強した



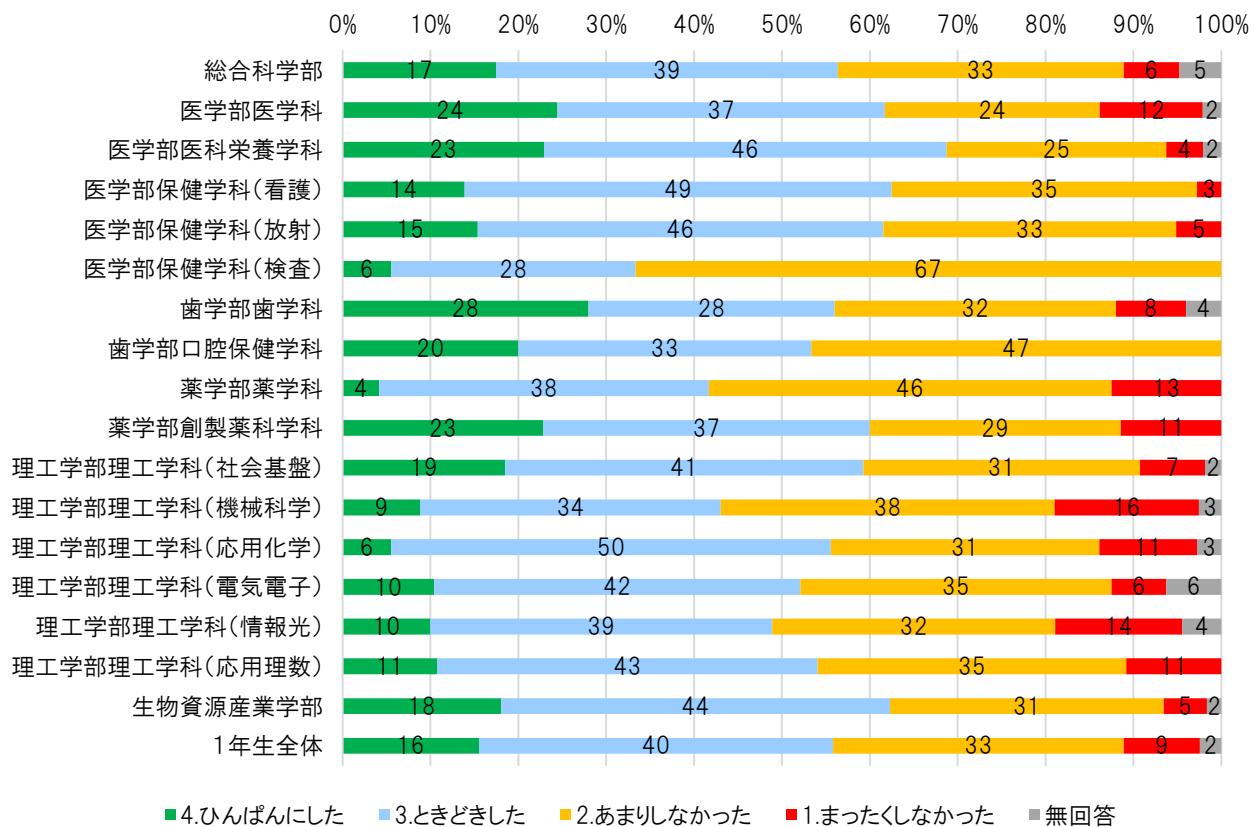
■4.ひんぱんにした ■3.ときどきした ■2.あまりしなかった ■1.まったくしなかった ■無回答

[140] 自分の失敗から学んだ

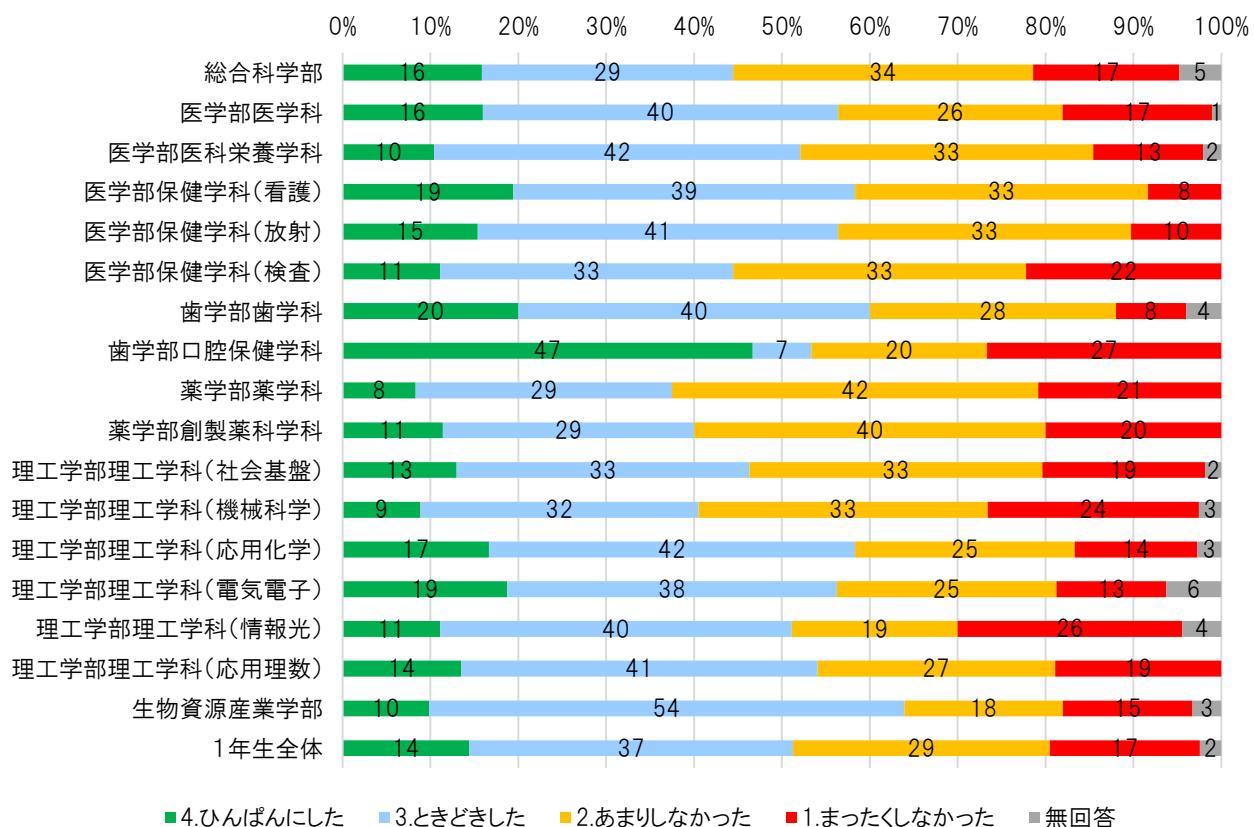


■4.ひんぱんにした ■3.ときどきした ■2.あまりしなかった ■1.まったくしなかった ■無回答

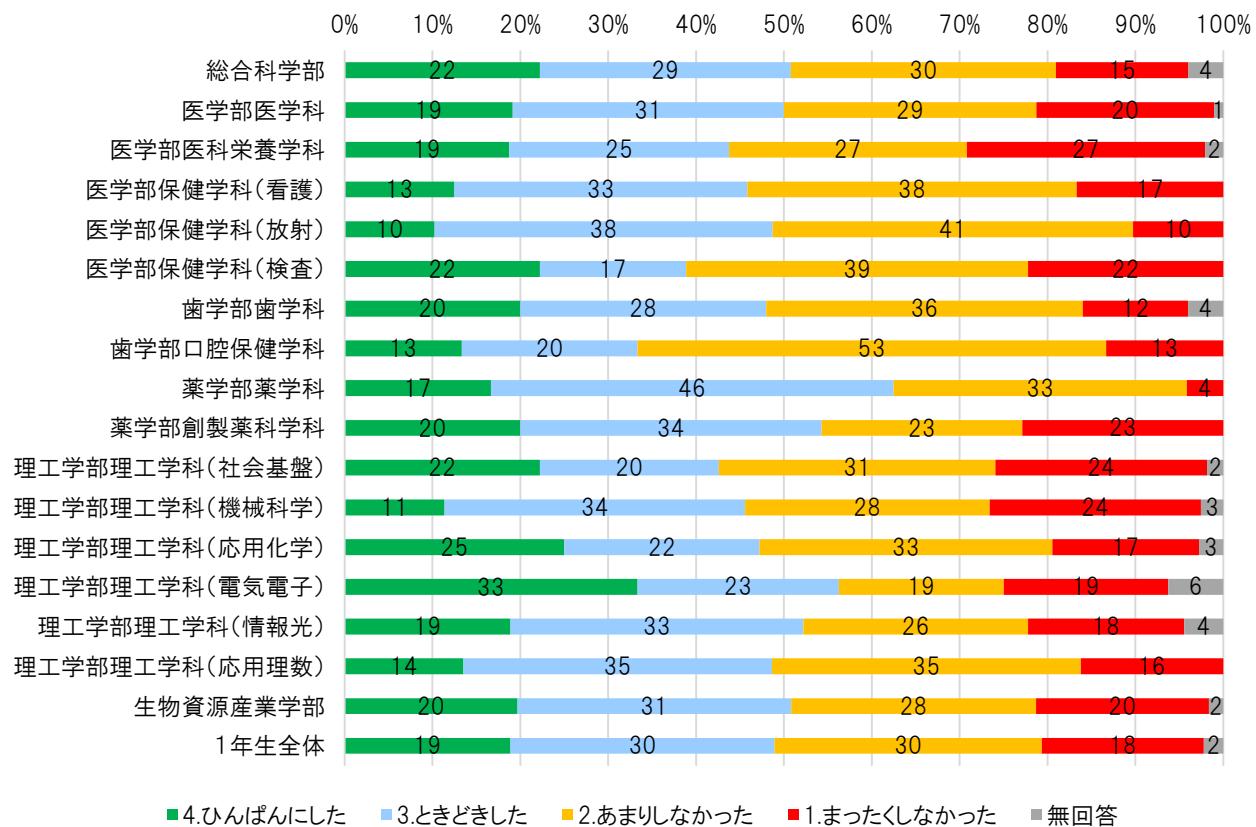
[141] 困難なことにあえて挑戦した



[142] 自分が取り組んだ課題について教師に意見を求めた



[143] 読書をした(マンガ・雑誌を除く)



3年生調査 設問

I. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

[1] 徳島大学学習に関する実態調査（大学 IR コンソーシアム調査）の主旨を確認し、データ利用について同意してください。

1. 同意する

※徳島大学学習に関する実態調査の主旨

「徳島大学学習に関する実態調査」は、学生の学習の実態を把握し、教育活動の効果を検証し、今後の改善に活かすために実施します。調査データは統計的に処理され、成績等のデータとともに分析を行うことがあります。個人を特定したり、成績に影響させることはありません。ただし、回答率が低い場合は、回答を促す連絡を個人にする場合があります。

また、複数の大学の状況と比較するために、調査データを本学が加盟している大学 IR コンソーシアムの学生調査にも使用し、他の加盟校（約 50 校）と集計結果を共有しますが、その場合も個人を特定したり、成績に影響させることはありません。

[2] あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。

1. 30 分未満
2. 30 分以上－1 時間未満
3. 1 時間以上－1 時間 30 分未満
4. 1 時間 30 分以上－2 時間未満
5. 2 時間以上

[3] あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。

1. 家族または親戚と暮らしている
2. アパート・学生マンションでひとり暮らし
3. 大学寮や合宿所
4. その他

II. 現在のあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

	ひんぱん にあった	ときどき あった	あまり なかつた	まったく なかつた
[4] 実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ	4	3	2	1
[5] 仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ	4	3	2	1
[6] 授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する	4	3	2	1
[7] 授業の一環でボランティア活動をする	4	3	2	1
[8] 学生自身が文献や資料を調べる	4	3	2	1

[9]	定期的に小テストやレポートが課される	4	3	2	1
[10]	教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する	4	3	2	1
[11]	学生が自分の考えや研究を発表する	4	3	2	1
[12]	授業中に学生同士が議論をする	4	3	2	1
[13]	授業で検討するテーマを学生が設定する	4	3	2	1
[14]	授業の進め方に学生の意見が取り入れられる	4	3	2	1
[15]	取りたい授業を履修登録できなかった	4	3	2	1
[16]	出席することが重視される	4	3	2	1
[17]	TA や SA などの授業補助者から補助を受ける	4	3	2	1

[18] 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

1. 80%以上 2. 70%以上 3. 60%以上 4. 60%未満

[19] あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答可)

1. 課題演習 2. 質疑応答 3. 振り返り※1 4. グループワーク
5. ディスカッション 6. 反転授業※2 7. ラーニング・ポートフォリオ※3

※1 学んだことについてまとめ、その内容を学生同士あるいは教員が確認しフィードバックを行う方法

※2 授業を受講する前に講義や説明の部分を事前に配付資料や動画で学修し、その内容に関する確認課題（簡単な復習テスト等）を行い、対面の授業時間内では講義以外の授業方法を取り入れて、学生の能動的な学修を促進する方法

※3 授業のある単元が終了した後で、学生が学修（実験、実習、演習等）に関する振り返りを行い、その内容を記述し、他者と共有できる形で蓄積し、フィードバックを受けることができるシステムまたは教材等を取り入れた方法

大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

		ひんぱんにした	ときどきした	あまりしなかった	まったくしなかった
[20]	授業課題のために図書館の資料を利用した	4	3	2	1
[21]	授業課題のために Web 上の情報を利用した	4	3	2	1
[22]	インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした	4	3	2	1
[23]	提出期限までに授業課題を完成できなかつた	4	3	2	1
[24]	授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした	4	3	2	1
[25]	授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた	4	3	2	1
[26]	授業を欠席した	4	3	2	1

[27] 授業に遅刻した	4	3	2	1
[28] 授業をつまらなく感じた	4	3	2	1
[29] 授業中に居眠りをした	4	3	2	1
[30] 学内での学習支援をうけた（教職員に学習に関する相談をした、学内の学習支援室を利用した等）	4	3	2	1
[31] 単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した	4	3	2	1
[32] 大学の教職員に将来のキャリアの相談をした（卒業後の進路や職業選択など）	4	3	2	1
[33] 教員に親近感を感じた	4	3	2	1

今年度になってから、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

	全然ない	1時間未満	1～2時間	3～5時間	6～10時間	11～15時間	16～20時間	20時間以上
[34] 授業や実験に出る	1	2	3	4	5	6	7	8
[35] 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[36] 授業時間外に、授業に関連しない勉強をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[37] オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する	1	2	3	4	5	6	7	8
[38] 部活動や同好会に参加する	1	2	3	4	5	6	7	8
[39] 大学外でアルバイトや仕事をする	1	2	3	4	5	6	7	8
[40] 読書をする（マンガ・雑誌を除く）	1	2	3	4	5	6	7	8
[41] 個人的な趣味活動をする（テレビやゲーム、映画鑑賞など）	1	2	3	4	5	6	7	8

入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

	大きく増えた	増えた	変化なし	減った	大きく減った
[42] 一般的な教養	5	4	3	2	1
[43] 分析力や問題解決能力	5	4	3	2	1
[44] 専門分野や学科の知識	5	4	3	2	1
[45] 批判的に考える能力	5	4	3	2	1
[46] 異文化の人々に関する知識	5	4	3	2	1
[47] リーダーシップの能力	5	4	3	2	1
[48] 人間関係を構築する能力	5	4	3	2	1
[49] 他の人と協力して物事を遂行する能力	5	4	3	2	1
[50] 異文化の人々と協力する能力	5	4	3	2	1

[51]	地域社会が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[52]	国民が直面する問題を理解する能力	5	4	3	2	1
[53]	文章表現の能力	5	4	3	2	1
[54]	外国語の運用能力	5	4	3	2	1
[55]	コミュニケーションの能力	5	4	3	2	1
[56]	プレゼンテーションの能力	5	4	3	2	1
[57]	数理的な能力	5	4	3	2	1
[58]	コンピュータの操作能力	5	4	3	2	1
[59]	時間を効果的に利用する能力	5	4	3	2	1
[60]	グローバルな問題の理解	5	4	3	2	1
[61]	卒業後に就職するための準備の度合い	5	4	3	2	1

[62] 大学における教育に対して、何を期待しますか。（複数回答可）

1. 社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能
2. 人生を支える幅広い教養
3. 資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位
4. 特に期待するものはない

[63] 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。

- | | |
|----------------|-------------------------|
| 1. 一般知識・教養 | 2. 専門的知識 |
| 3. 課題発見・解決力 | 4. チームで目標を達成するマネージメント能力 |
| 5. コミュニケーション能力 | 6. 討論する能力 |
| 7. 語学力 | 8. 情報機器を活用する力 |
| 9. 論理的な文章を書く能力 | |

[64] 徳島大学では「GPA（自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値）」を成績表に記載しています。自身の「GPA」について確認していますか。

1. 確認している
2. 確認していない

[65] レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。（複数回答可）

1. 教科書・参考書・授業での配付資料
2. インターネット
3. 教員
4. 友人・先輩
5. 図書館の書籍・文献（電子版含む）
6. 講義ノート

[66] 教科書を購入していない場合の理由は何ですか。（複数回答可）

1. 必要な教科書は全て購入している
2. 教科書がなくても授業内容が理解できる
3. 教科書が高価である
4. 先輩、友人の本を使う
5. 図書館などの本を利用する
6. 購入しても、読まない。内容が理解できない
7. 講義資料・試験対策プリントで学修する

[67] 大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)

1. 大学の授業以外で、実行や計画していることはない
2. 教養や社会問題の理解に役立つ読書
3. 語学など自分の将来を考えたスキルの修得
4. 数学や理科のような基礎的能力を強化するための学修
5. 自分の興味あるテーマの探究
6. 資格取得や受験に備えた学修
7. 卒業研究につながる実験・調査・研究レビュー等

[68] 高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)

1. 高校の教科書、参考書を使い、勉強した
2. 教養教育（全学共通教育）で開講されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
3. HP上の徳島大学LMS（リメディアル教材）を利用して勉強した
4. 勉強の必要性を感じたが、LMS（リメディアル教材）の存在を知らず何もしていない
5. 支障を感じないので何もしていない

III. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、現在、到達していると思うレベルを1つずつ答えてください。

レベル
低
↑
高

[69] 聞く力

- | A1 | はつきりと、ゆっくり話してもらえば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。 | 1 |
|----|--|---|
| A2 | 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。 | 2 |
| B1 | 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。 | 3 |
| B2 | テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。 | 4 |
| C1 | 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。 | 5 |
| C2 | 母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。 | 6 |

回答欄

↓

[70] 読む力

回答欄

レベル
低

		↓
A1	掲示やポスター、カタログなどの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。	1
A2	ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。	2
B1	日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。	3
B2	現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。	4
C1	複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的記事も理解できる。	5
C2	抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。	6

高

[71] 会話力

回答欄

↓

		↓
A1. 1	決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。	1
A1. 2	家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。	2
A2. 1	短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくいか、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。	3
A2. 2	準備をすれば、日常的でなじみのある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。	4
B1	日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。	5
B2	身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。	6
C1	社会上、目的・場面に合った言葉遣いができ、自分の考えや意見を正確に表現できる。	7
C2	いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。	8

高

		↓
A1	住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。	1
A2	家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。	2
B1	簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。	4
C1	複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。	5
C2	論理的な会話で聞き手に重要点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。	6

高

		↓
A1	お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。	1
A2	簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。	2
B1	身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。	3
B2	興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。	4
C1	手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。	5
C2	論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。	6

高

[74] どのように、英語の勉強を行っていますか。（複数回答可）

1. 毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
2. 英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
3. 図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
4. TOEIC、TOEFLや英検などの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
5. TOEIC、TOEFLや英検などの英語能力試験を定期的に受験している
6. 授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している
7. 留学生と交流している

[75] アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外（インド、シンガポール等）などへの渡航経験（期間）についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを目指した渡航経験があれば、その期間（複数回の経験がある場合は最長のもの）について1つ選んで回答してください。

1. 渡航したことない
2. 10日未満
3. 10日以上1ヶ月未満
4. 1ヶ月以上6ヶ月未満
5. 6ヶ月以上

[76] 徳島大学における英語教育についてどう思いますか。（複数回答可）

1. 教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である
2. もっと授業数を増やしてほしい
3. もっと授業数を減らしてほしい
4. もっと少人数のクラスにしてほしい
5. ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい
6. 専門英語の時間を増やしてほしい
7. 専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい

IV. 次に、大学生活に対するあなたの考え方や満足度についておうかがいします。

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいうまくいきましたか。

	とても うまく いった	いくらく か うまく いった	あまり うまくいか なかつた	まったく うまくいか なかつた
[77] 大学の学生向けサービスを上手に利用する	4	3	2	1
[78] 大学教員の学問的な期待を理解する	4	3	2	1
[79] 効果的に学習する技能を修得する	4	3	2	1
[80] 大学が求める水準に応えて学習する	4	3	2	1

[81] 時間を効果的に使う	4	3	2	1
[82] 大学教員と顔見知りになる	4	3	2	1
[83] 他の学生との友情を深める	4	3	2	1

本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

	非常にそ う思う	そう思う	どちらで もない	あまりそ う思わな い	全くそ う思わな い
[84] 自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組めている	5	4	3	2	1
[85] 日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている	5	4	3	2	1
[86] 現在の自分の学修時間や学修態度に満足している	5	4	3	2	1

[87] あなたの学生生活は充実していますか。

- | | |
|---------------|---------------|
| 4. 充実している | 3. まあまあ充実している |
| 2. あまり充実していない | 1. 充実していない |

あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

	とても 満足	満足	どちらで もない	不満	とても 不満
[88] 共通教育あるいは教養教育の授業	5	4	3	2	1
[89] 1年生の時に受講した「SHI道場～アクティブラーニング入門～」の授業	5	4	3	2	1
[90] 初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)	5	4	3	2	1
[91] 授業の全体的な質	5	4	3	2	1
[92] 日常生活と授業内容との関連	5	4	3	2	1
[93] 将来の仕事と授業内容の結びつき	5	4	3	2	1
[94] 教員と話をする機会	5	4	3	2	1
[95] 学習支援や個別の学習指導	5	4	3	2	1
[96] 他の学生と話をする機会	5	4	3	2	1
[97] 大学のなかでの学生同士の一体感	5	4	3	2	1
[98] 多様な考え方を認め合う雰囲気	5	4	3	2	1
[99] 大学での経験全般について	5	4	3	2	1
[100] 1つの授業を履修する学生数	5	4	3	2	1

[101] 教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1. 広い教養を身に付けるため | 2. 専門の基礎を築くため |
| 3. 好きな科目や面白そうな科目を選択した | 4. 単位をとりやすい授業を選択した |
| 5. 授業科目を選択する余地がなかった | 6. 特に基準はない |

〔102〕 教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。（複数回答可）

1. 「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
2. 教員からの助言や情報
3. 事務職員からの助言や情報
4. 先輩からの助言や情報
5. 友人からの助言や情報

〔103〕 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。（複数回答可）

1. 専門分野の体験学習
2. 文章（レポート）の書き方
3. プрезентーションの仕方
4. 他者と協働して学修や活動に取り組むこと
5. 学修の振り返りを行い次の学修に活かすこと
6. 大学における学修の仕方・取り組み方
7. 主体的な学修習慣を身につけること

〔104〕 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると思しますか。（複数回答可）

1. 専門の知識を身に付けるのに役立った
2. 自分の進路について考えることができるようになった
3. 学問・研究に興味が湧いた
4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
5. 特に得るものはないかった

〔105〕 授業内容の難易度についてどう思いますか。

1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである
2. 授業内容の水準は適切である
3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである

あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

	とても満足	満足	どちらでもない	不満	とても不満
〔106〕 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）	5	4	3	2	1
〔107〕 実験室の設備や器具	5	4	3	2	1
〔108〕 コンピュータの施設や設備	5	4	3	2	1
〔109〕 コンピュータの訓練や援助	5	4	3	2	1
〔110〕 インターネットの使いやすさ	5	4	3	2	1
〔111〕 奨学金など学費援助の制度	5	4	3	2	1
〔112〕 健康・保健サービス（心身の健康に関わる問題についての診療や相談）	5	4	3	2	1
〔113〕 レクリエーション施設（ジムの設備など）	5	4	3	2	1
〔114〕 キャリアカウンセリング（就職や進学に関する相談）	5	4	3	2	1
〔115〕 クラス担任制度	5	4	3	2	1

[116] 図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。（複数回答可）

1. 教員・学修支援アドバイザーによる学修相談（SSS）
2. 授業サポートナビ（各講義の参考図書、関連情報提供サービス）
3. 学修に関するイベント（講習会等）
4. 文献複写サービス
5. 本の購入リクエスト
6. グループ学修スペースの利用
7. 調べもの相談
8. 利用していない

[117] あなたは、読書についてどのように考えていますか。

1. 読書は習慣として身に付いている
2. もっと読書したいが、現在読みたい書籍はない
3. もっと読書したいが、時間がない
4. 読書の必要性を感じない

[118] 徳島大学では、履修者が11名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか。

1. 知っており、確認したことがある。また、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っている。
2. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っていない。
3. 知っており、確認したことがある。ただ、この情報は学修意欲の向上や学修計画の見直しに役立っているかどうかわからない。
4. 知っているが確認したことがない
5. 知らない

[119] 徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[120] 徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。

1. 知っており、見たことがある
2. 知っているが見たことはない
3. 知らない

[121] シラバスはどのように利用していますか。

1. 毎週確認し、授業の予習・復習に役立てている
2. 気になった時に時々確認している
3. 初回の授業を受ける前に確認したが、その後はほとんど見ていない
4. 授業の選択を考える時に確認したが、その後はほとんど見ていない
5. 全く見ていない

〔122〕 卒業研究、医学研究実習（医学科）、看護研究（保健学科看護学専攻）、研究基礎ゼミ（歯学科）の研究室をどういう基準で決めましたか。（複数回答可）

1. 関心の深い研究内容であったから
2. 将来のやりたい仕事や進路に必要と思ったから
3. 先輩や友人の勧めで
4. 教員の人柄に魅力を感じたから
5. 研究室の雰囲気で
6. やむを得ず入った
7. どこでもよかった

〔123〕 卒業研究、医学研究実習（医学科）、看護研究（保健学科看護学専攻）、研究基礎ゼミ（歯学科）によって何が得られると思いますか。（複数回答可）

1. 専門的知識や技術
2. 進路を考えるための広い視野
3. 学問・研究への興味や知的好奇心
4. コミュニケーション能力や対人関係能力
5. 課題発見能力や問題解決能力
6. プレゼンテーション能力
7. 文章作成能力
8. 大学院への進学意欲の向上
9. 特に得るものがない

〔124〕 研究を進めるための設備、スペースは確保されていますか。

1. 設備、スペースともに十分である
2. 設備は十分であるが、スペースがせまい
3. スペースは十分であるが、設備が足らない
4. 設備、スペースともに足らない

〔125〕 徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください（複数選択可）。

1. Moodle（全学）
2. Manaba（全学）
3. Mahara（全学）
4. スーパー英語（全学）
5. 各学部やコース内で提供されているeラーニングサービス
6. 利用したことない

本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常にそう思う	そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない
〔126〕 本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ	5	4	3	2	1
〔127〕 本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか	5	4	3	2	1

本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

	非常にそう思う	そう思う	どちらでもない	あまりそう思わない	全くそう思わない
[128] 「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である	5	4	3	2	1

[129] 大学教育全体の満足度は 100 点満点で何点ぐらいですか。

1. 100-91 2. 90-81 3. 80-71 4. 70-61 5. 60-51 6. 50-0

V. 最後に、将来のことについておうかがいします。

[130] あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。1つ選んで回答してください。

1. 就職する 2. 大学院に進学する 3. 留学する
4. 他大学に（編）入学する 5. 専門学校に入学する 6. まだわからない
7. その他

[131] 将来の見通しに関する以下の 2 つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

- ・あなたは、将来の見通し（将来こういう風でありたいという考え方）を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを 1 つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのかわかっていますか。また、それを実行していますか。

1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
4. 将來の見通しを持っていない

あなたが大学（学部）卒業後の進路の準備をしたり考えたりするために、次のようなことがらを大学在学中に経験したいと思いますか。

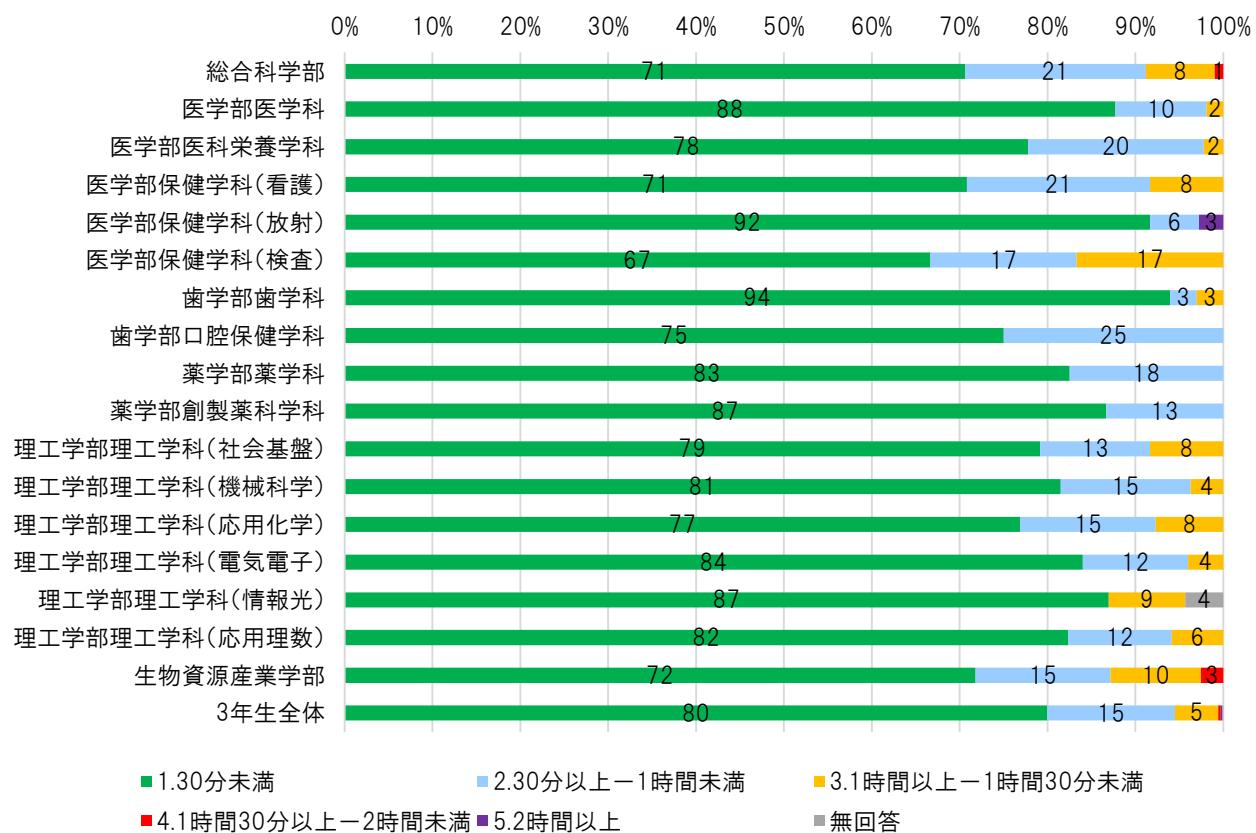
	そう思つ	う思つ	どちらかといえども	どう思わない	そう思わない
[132] 専門分野をしっかり身につける	4	3	2	1	
[133] 専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる	4	3	2	1	
[134] 職業意識の形成につながる教育を受ける	4	3	2	1	
[135] 企業での体験実習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ	4	3	2	1	
[136] 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける	4	3	2	1	
[137] 自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける	4	3	2	1	
[138] ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける	4	3	2	1	
[139] 実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける	4	3	2	1	
[140] レポートや論文指導により、文書作成能力を高める	4	3	2	1	
[141] 卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する	4	3	2	1	
[142] 卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする	4	3	2	1	
[143] 本学の教職員以外の大人と話をする	4	3	2	1	

質問は以上です。ご協力どうもありがとうございました。

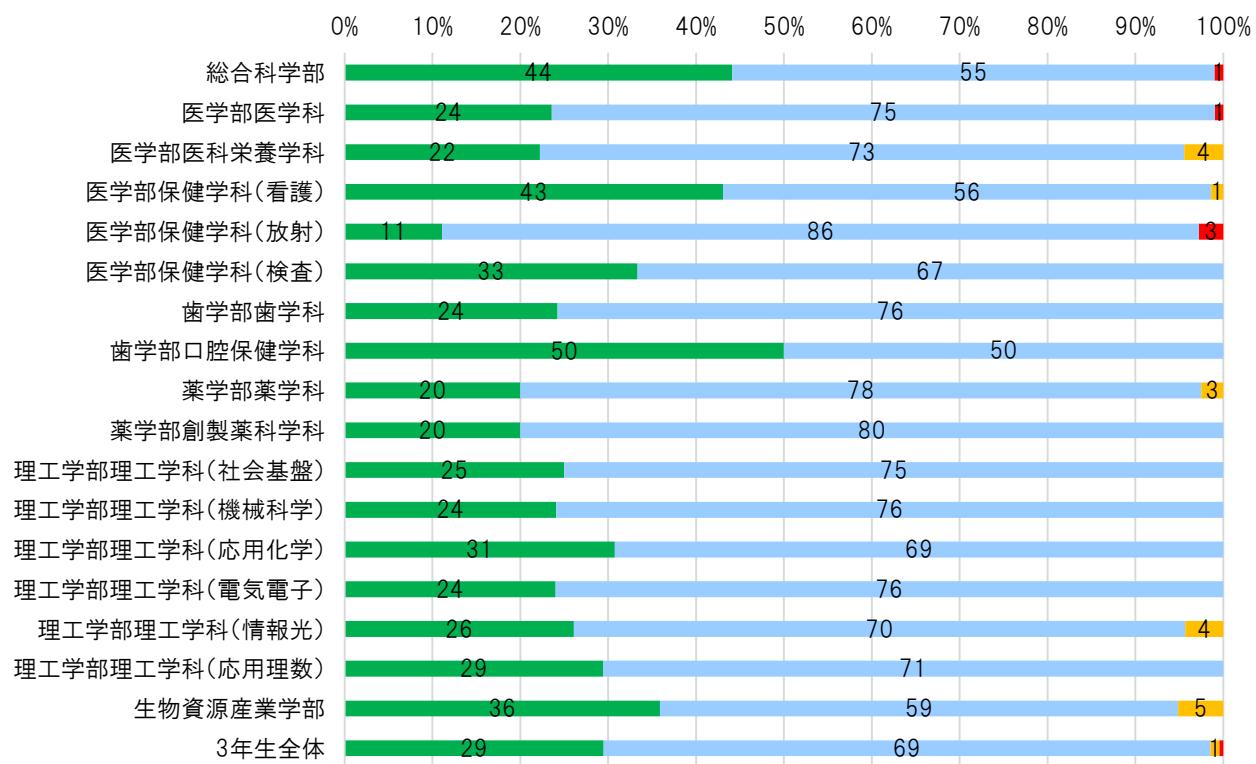
3年生調査結果

I. 最初にあなたご自身のことについておうかがいします。

[2]あなたの片道の通学時間はどれくらいですか。



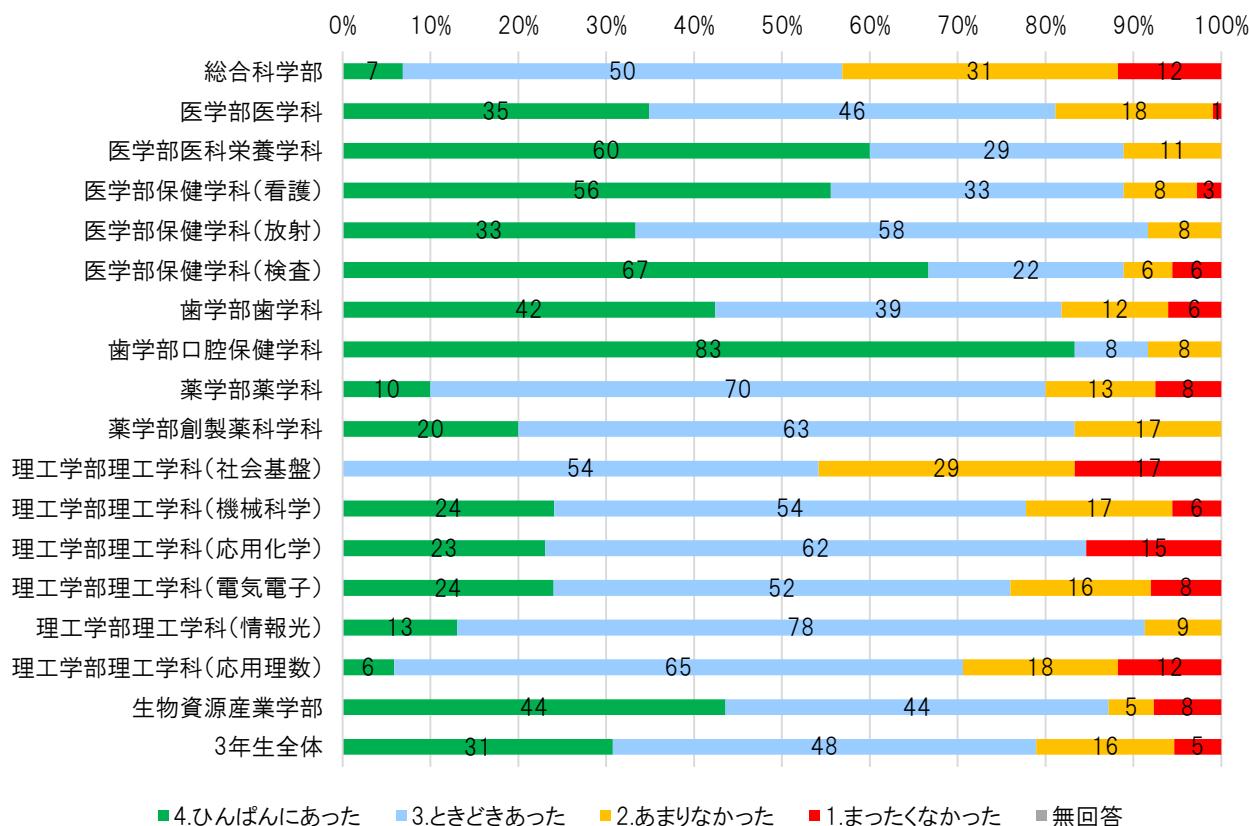
[3]あなたの現在の居住形態は次のうちどれですか。



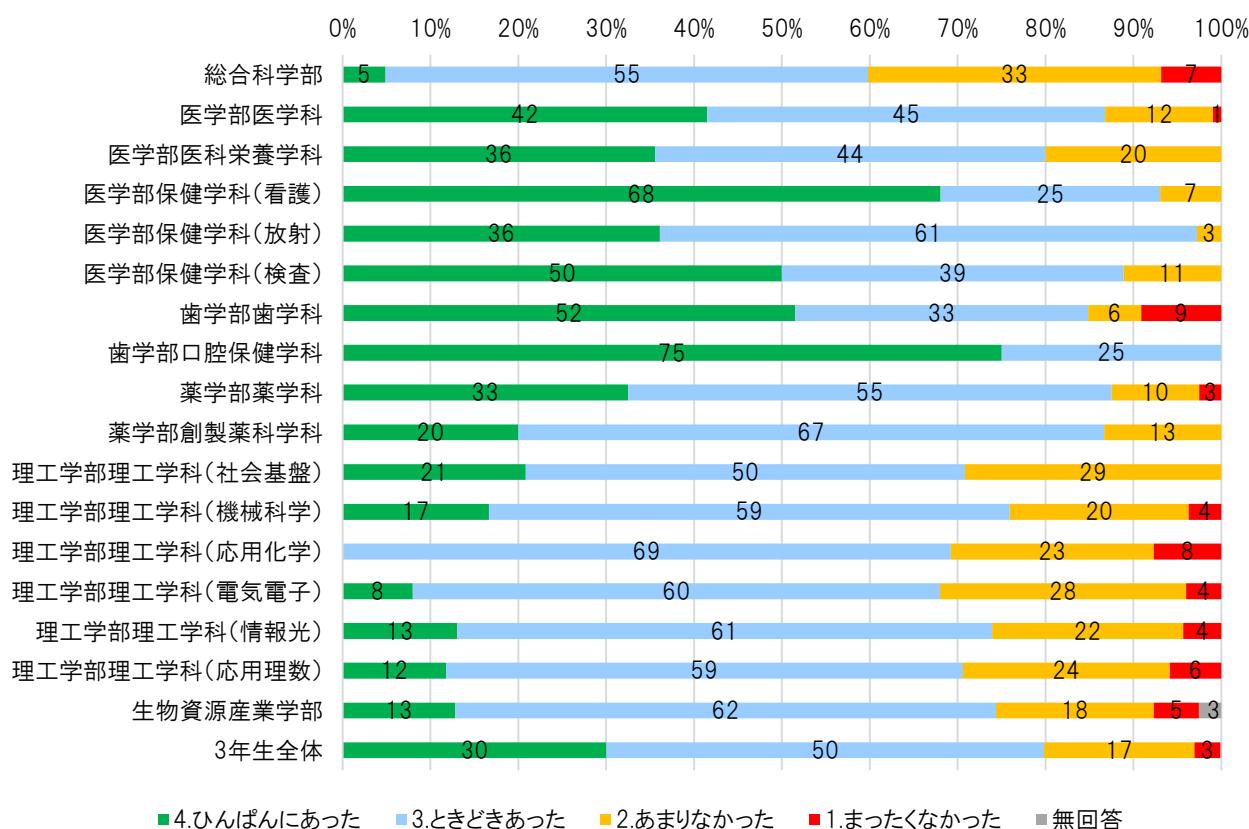
II. 現在のあなたの学習状況についておうかがいします。

あなたが受講した大学の授業で、次のようなことを経験する機会はどのくらいありましたか。

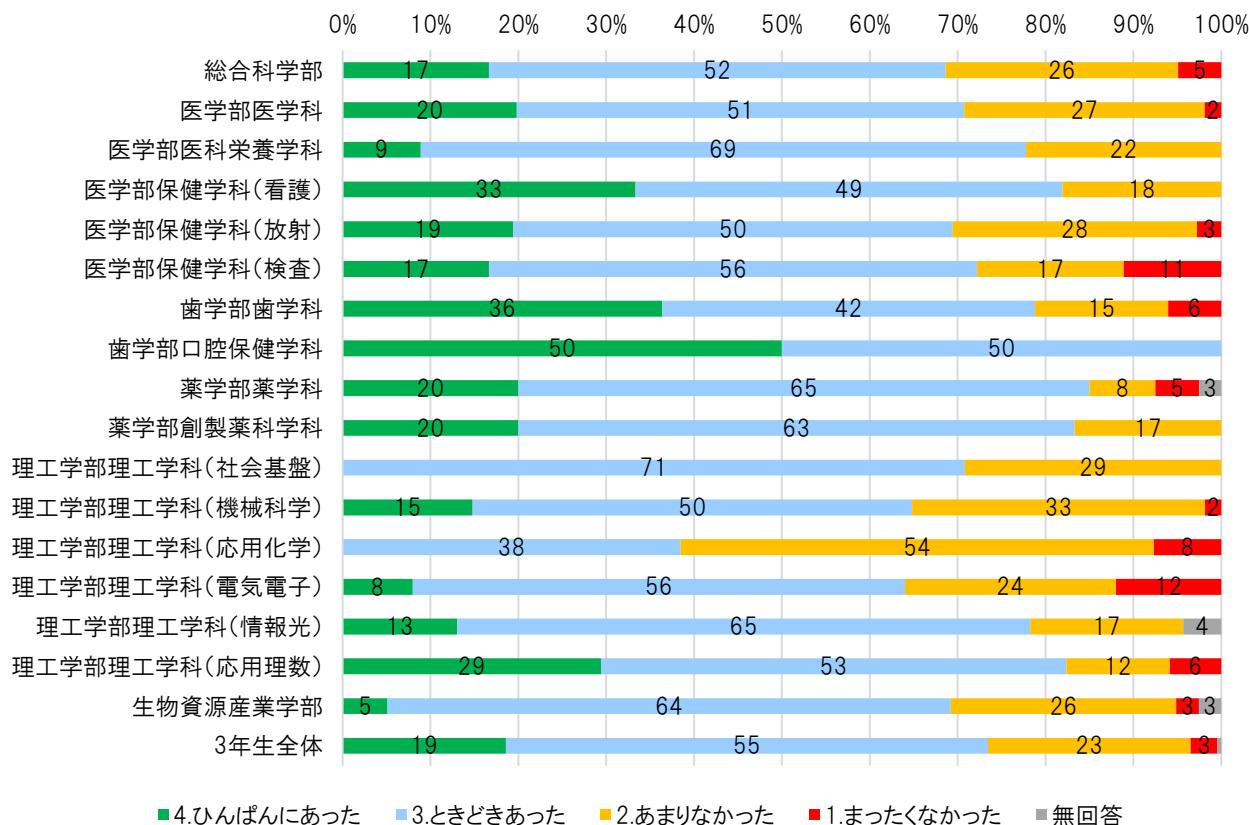
[4]実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ



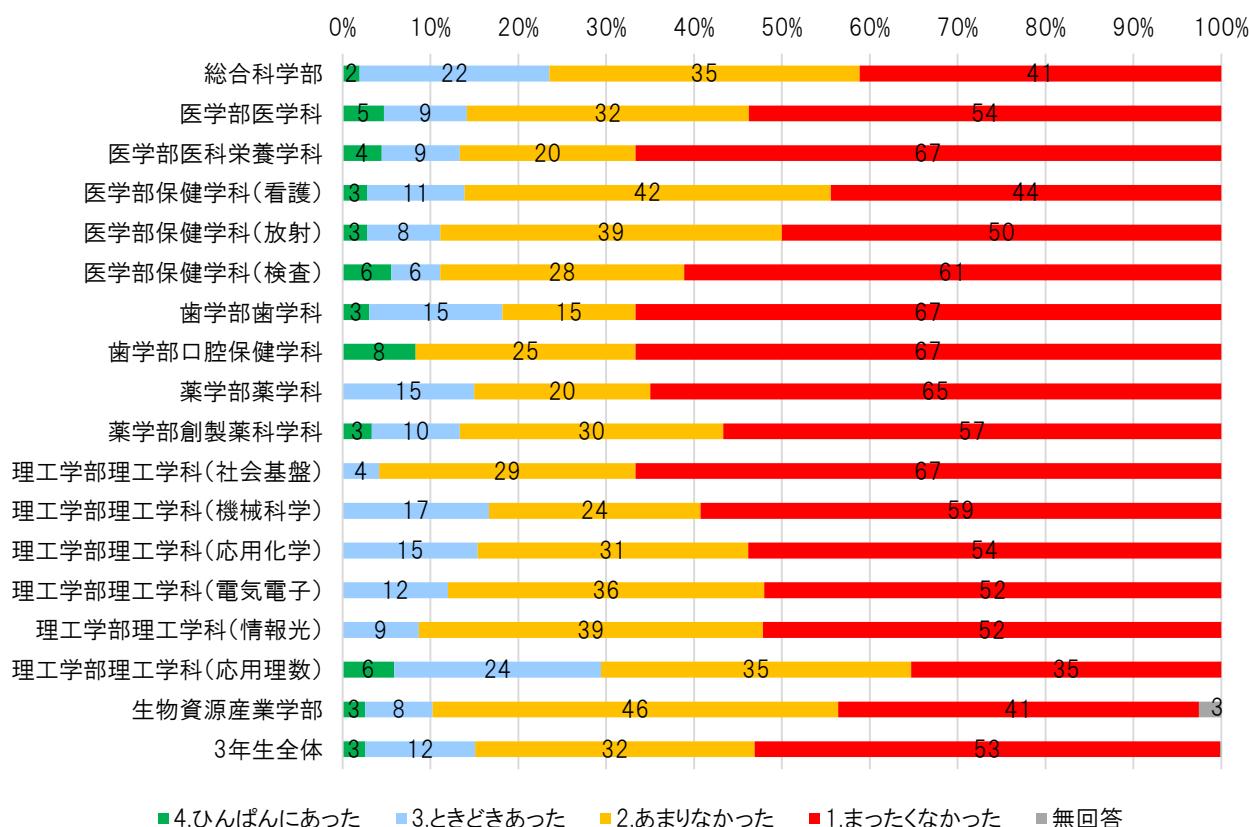
[5]仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ



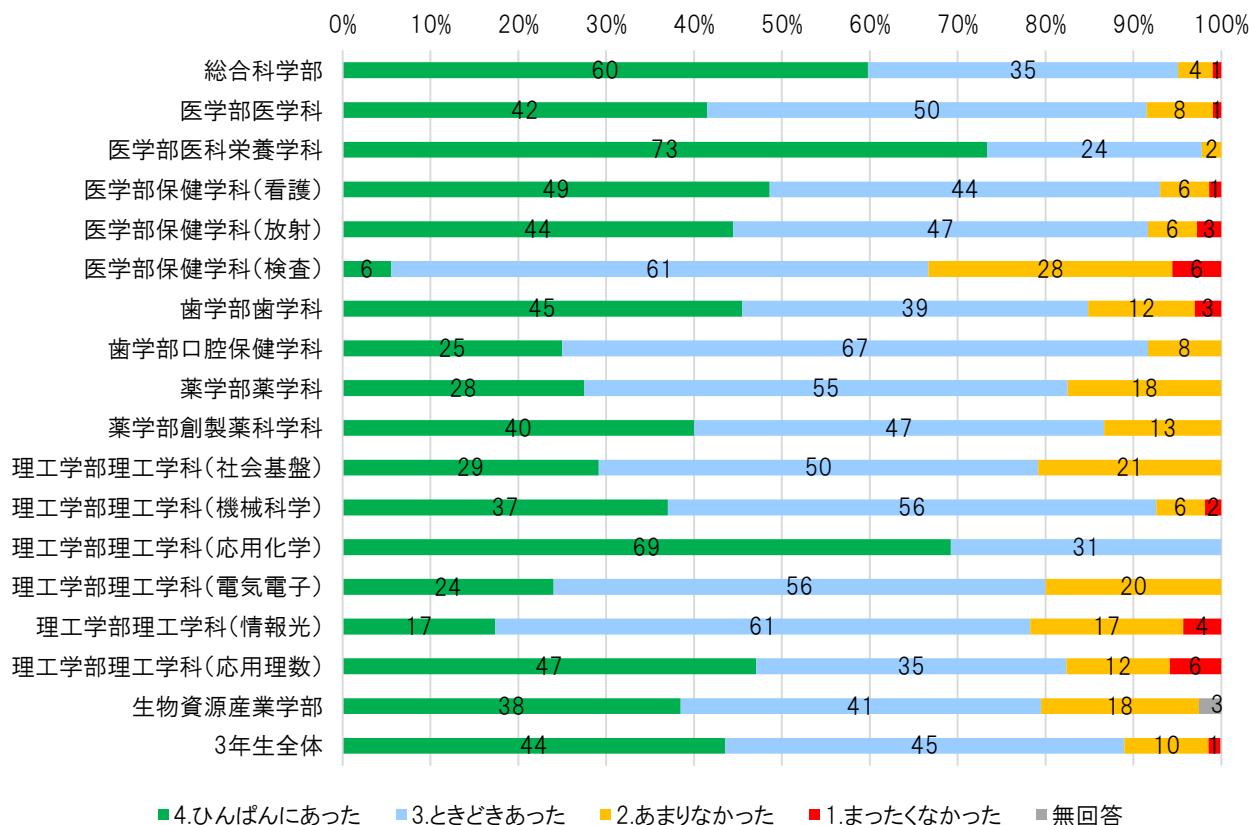
[6]授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する



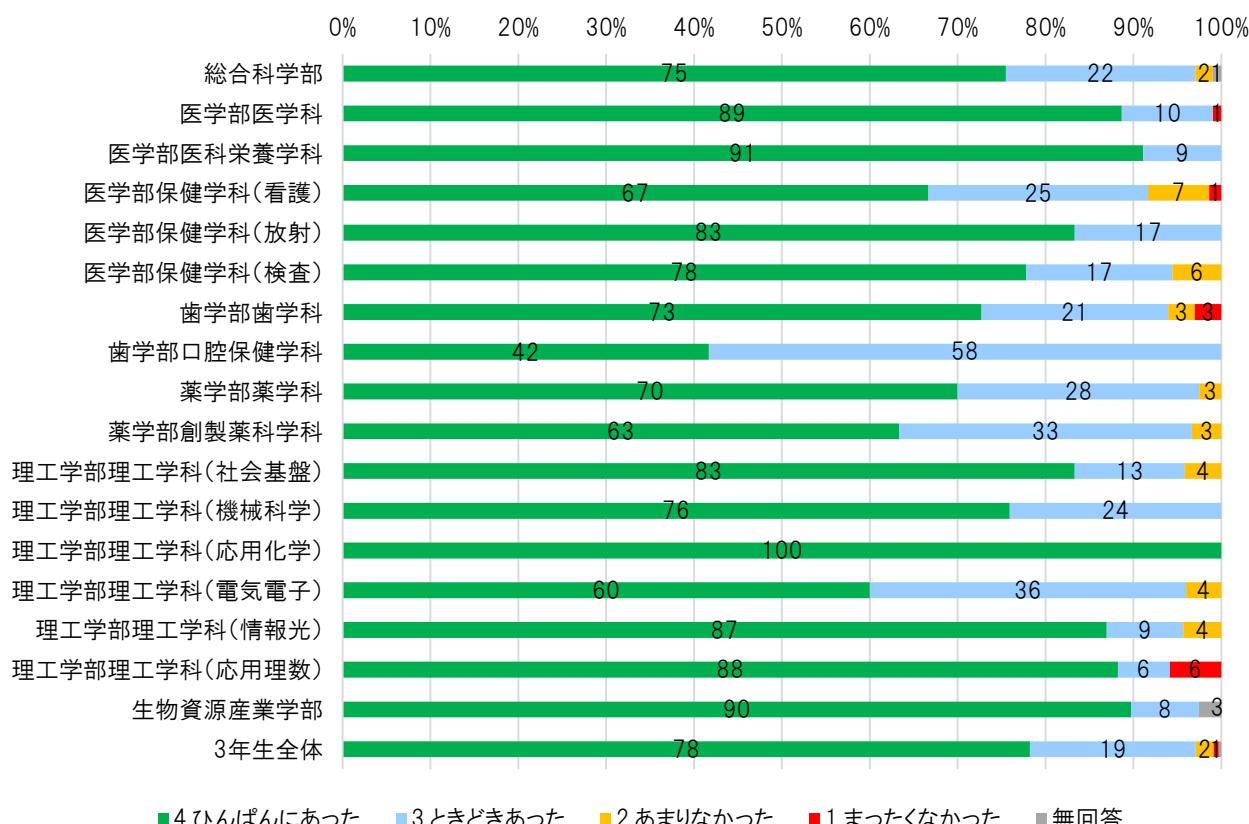
[7]授業の一環でボランティア活動をする



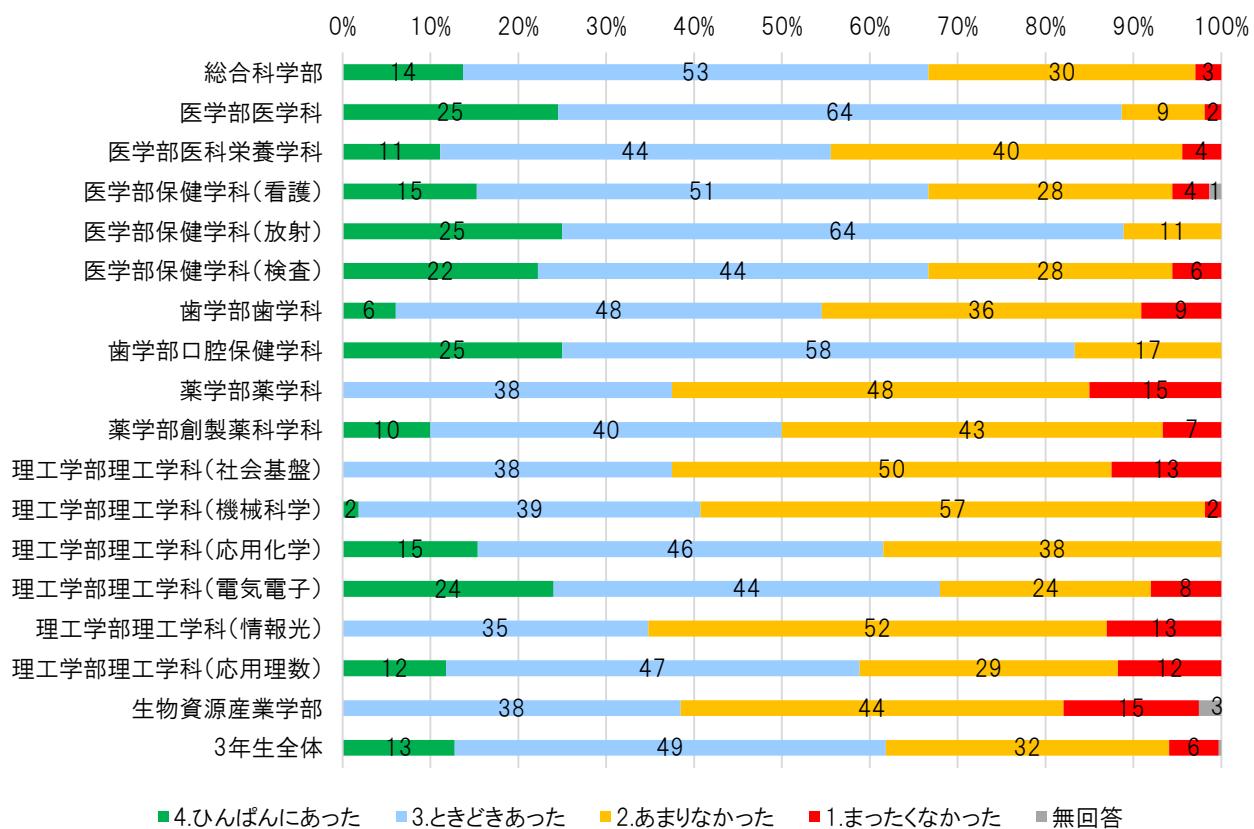
[8]学生自身が文献や資料を調べる



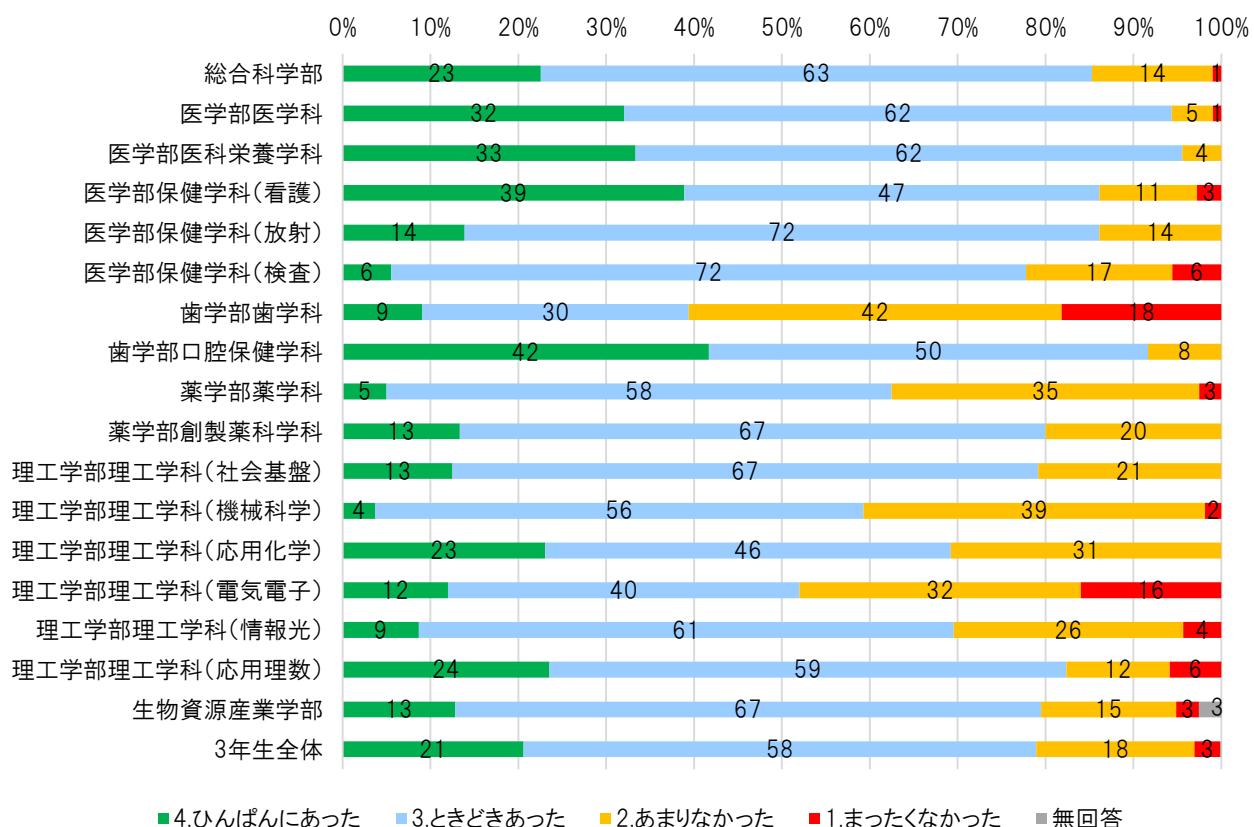
[9]定期的に小テストやレポートが課される



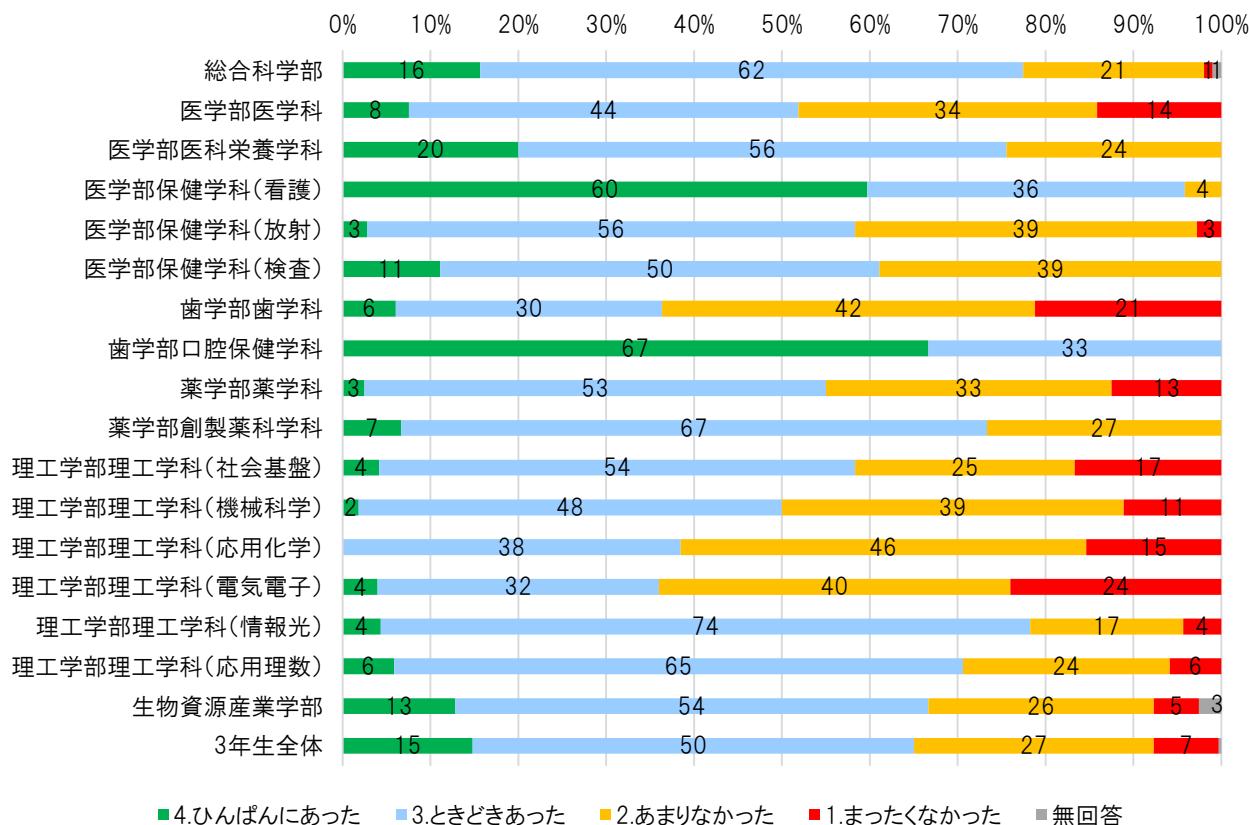
[10]教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する



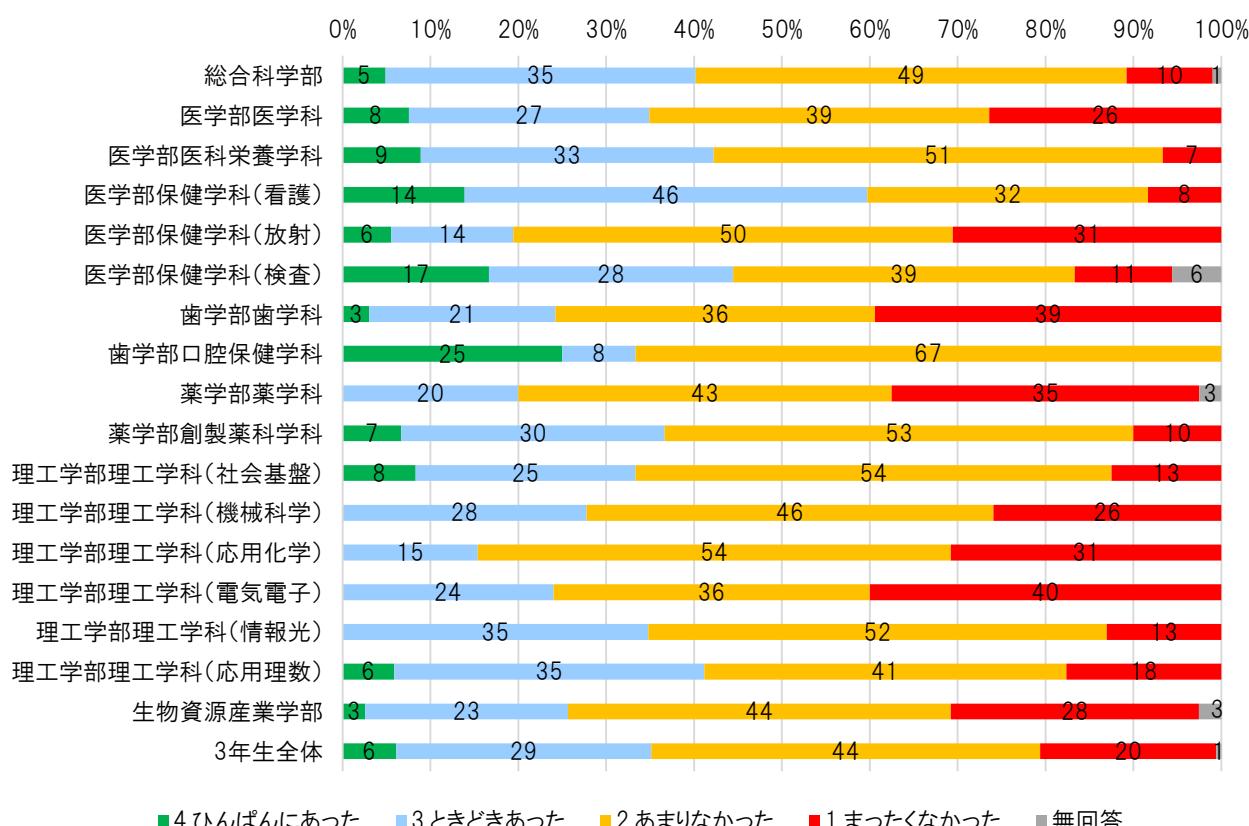
[11]学生が自分の考えや研究を発表する



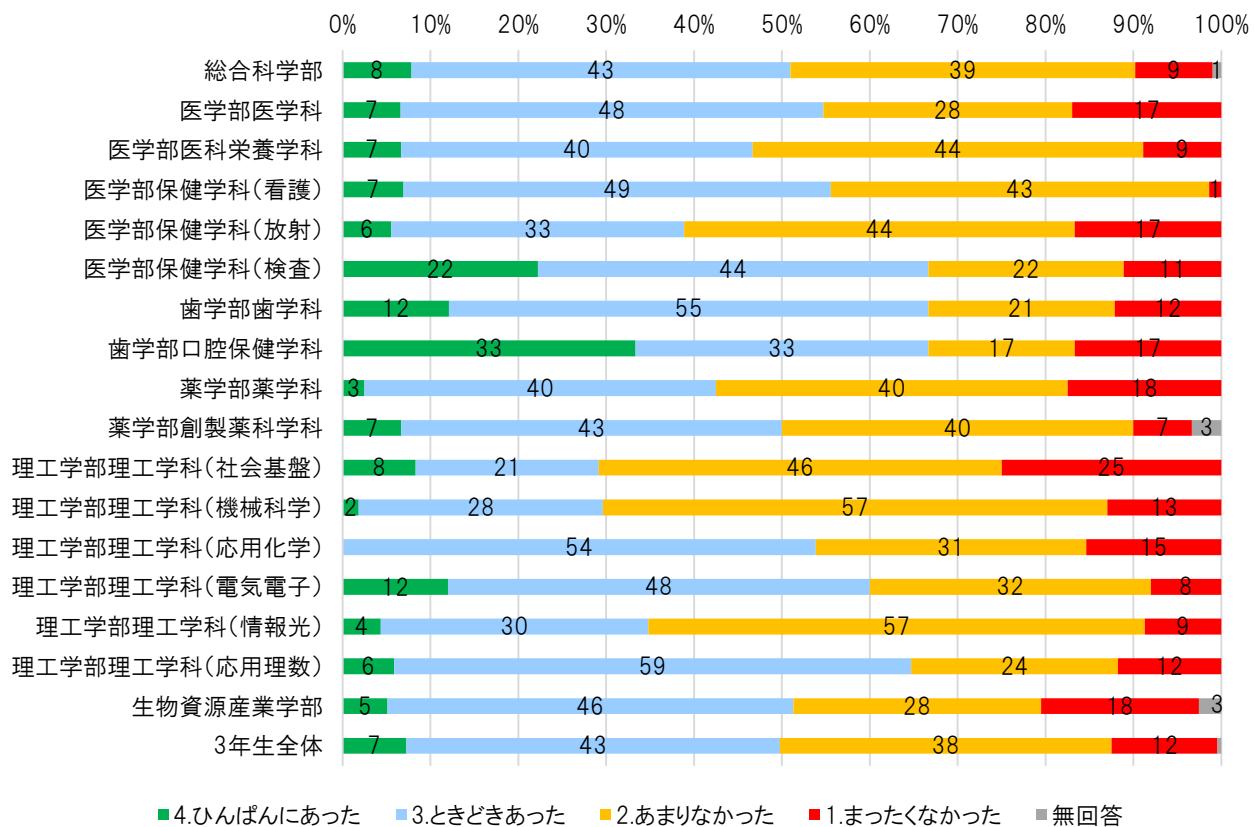
[12]授業中に学生同士が議論をする



[13]授業で検討するテーマを学生が設定する

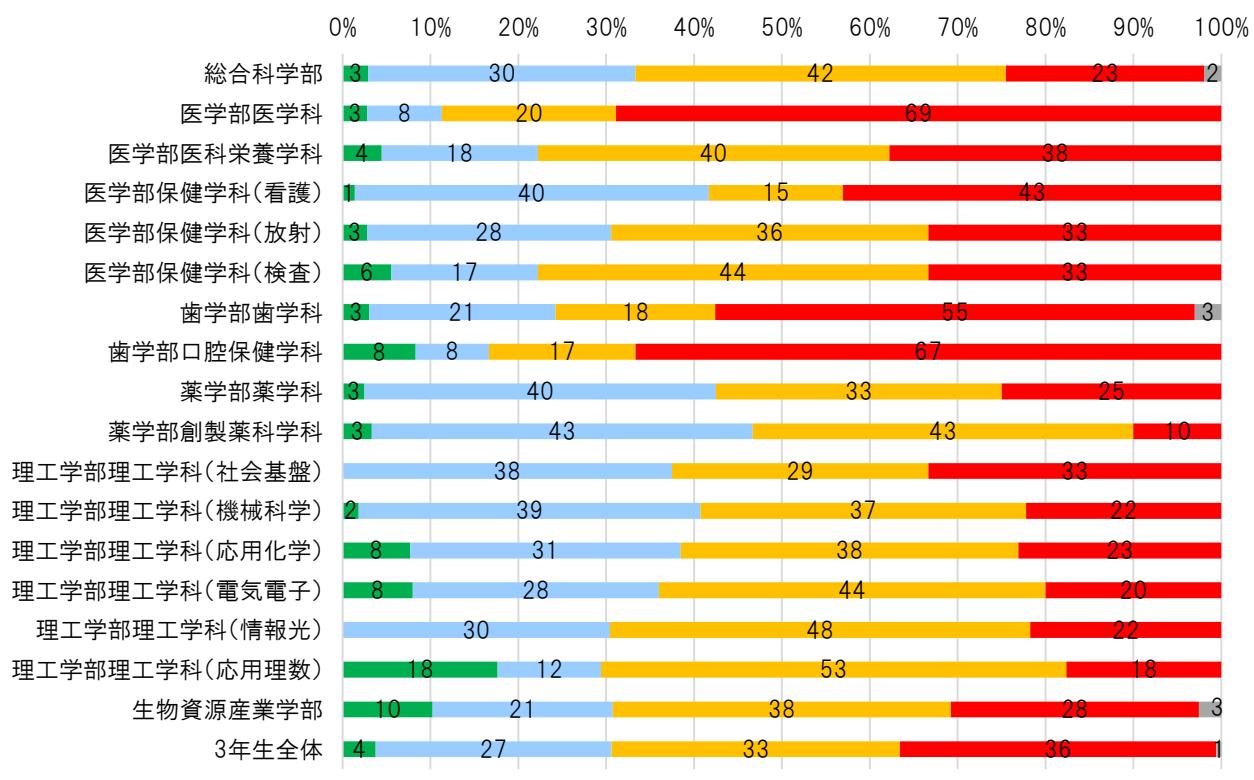


[14]授業の進め方に学生の意見が取り入れられる



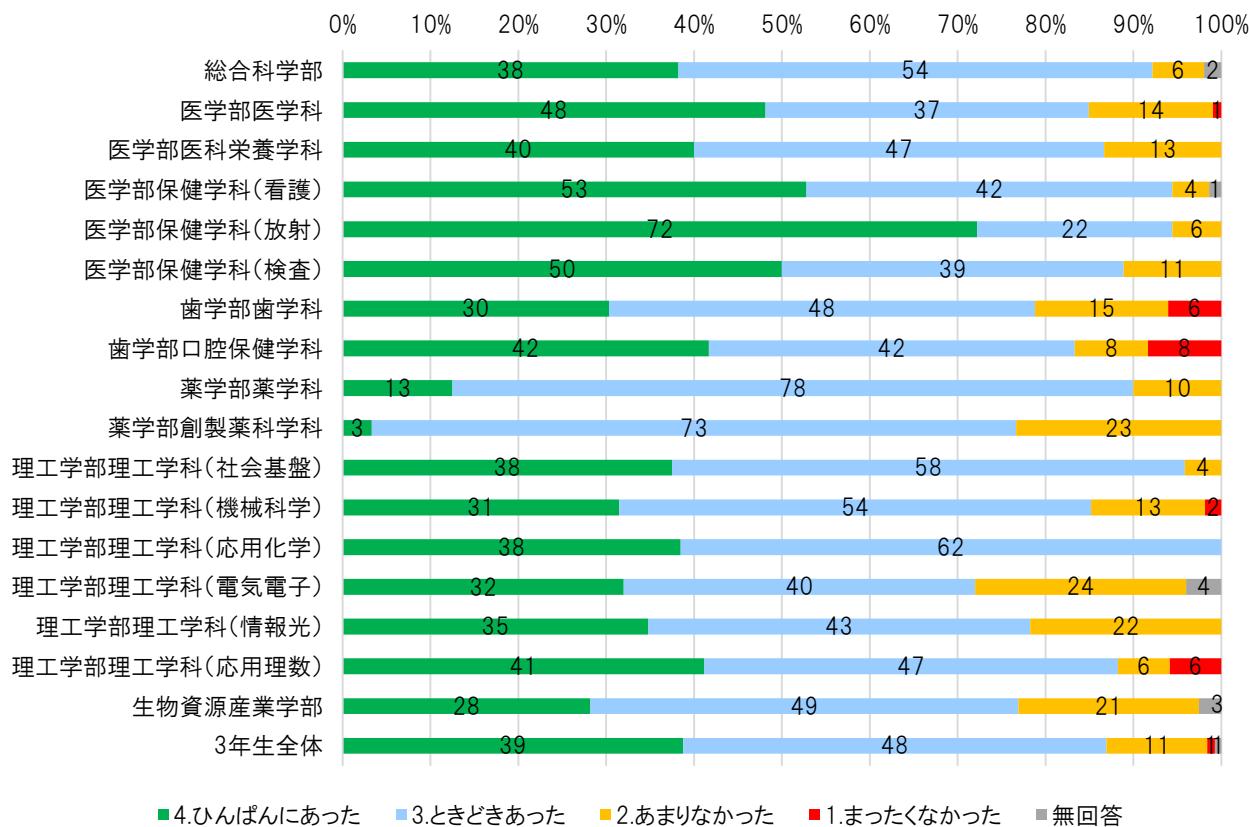
■4.ひんぱんにあった ■3.ときどきあった ■2.あまりなかった ■1.まったくなかった ■無回答

[15]取りたい授業を履修登録できなかつた

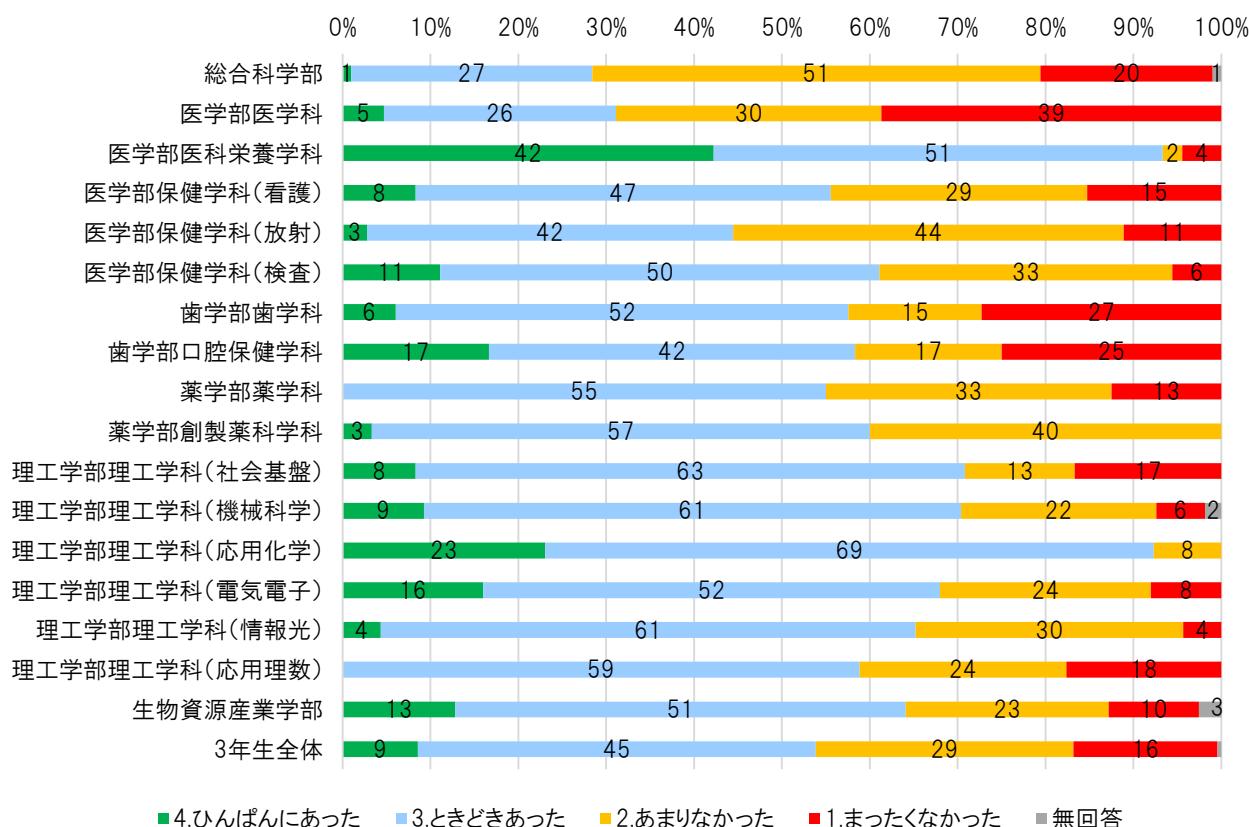


■4.ひんぱんにあった ■3.ときどきあった ■2.あまりなかった ■1.まったくなかった ■無回答

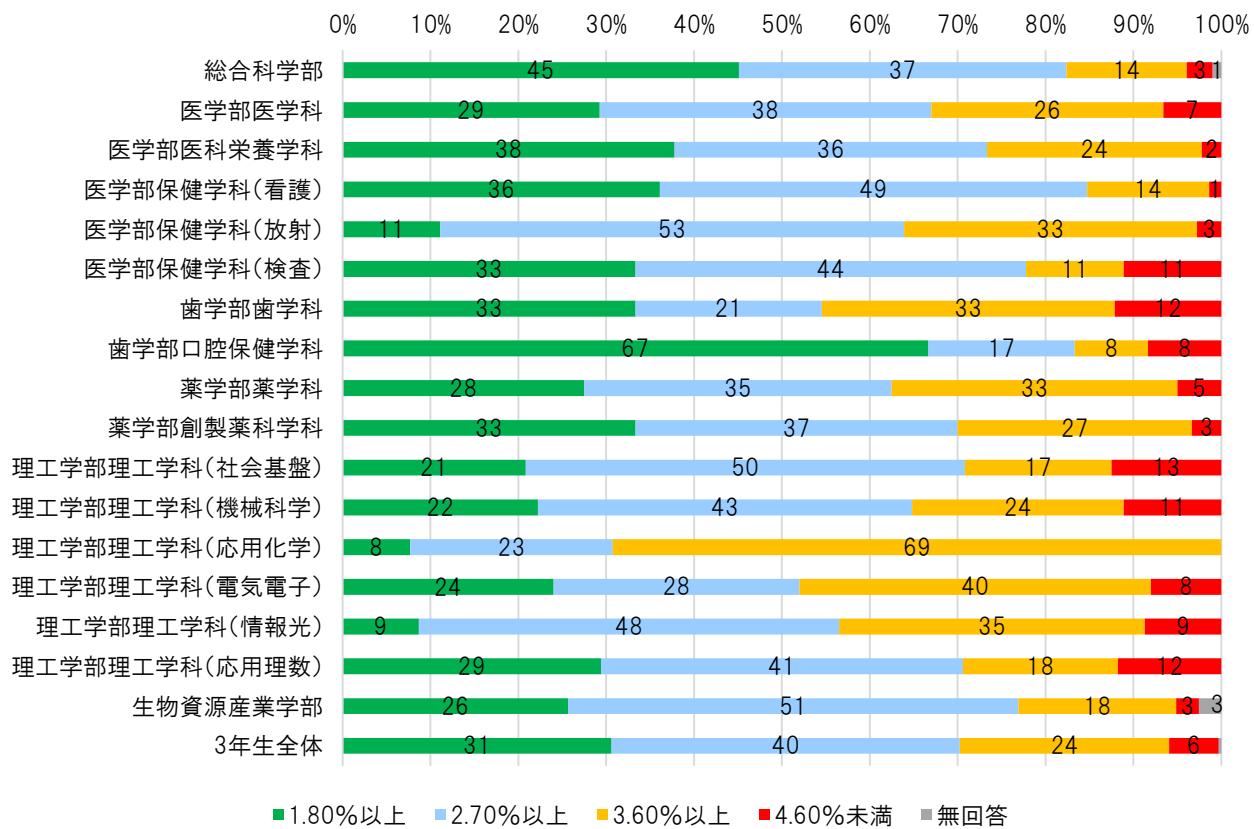
[16]出席することが重視される



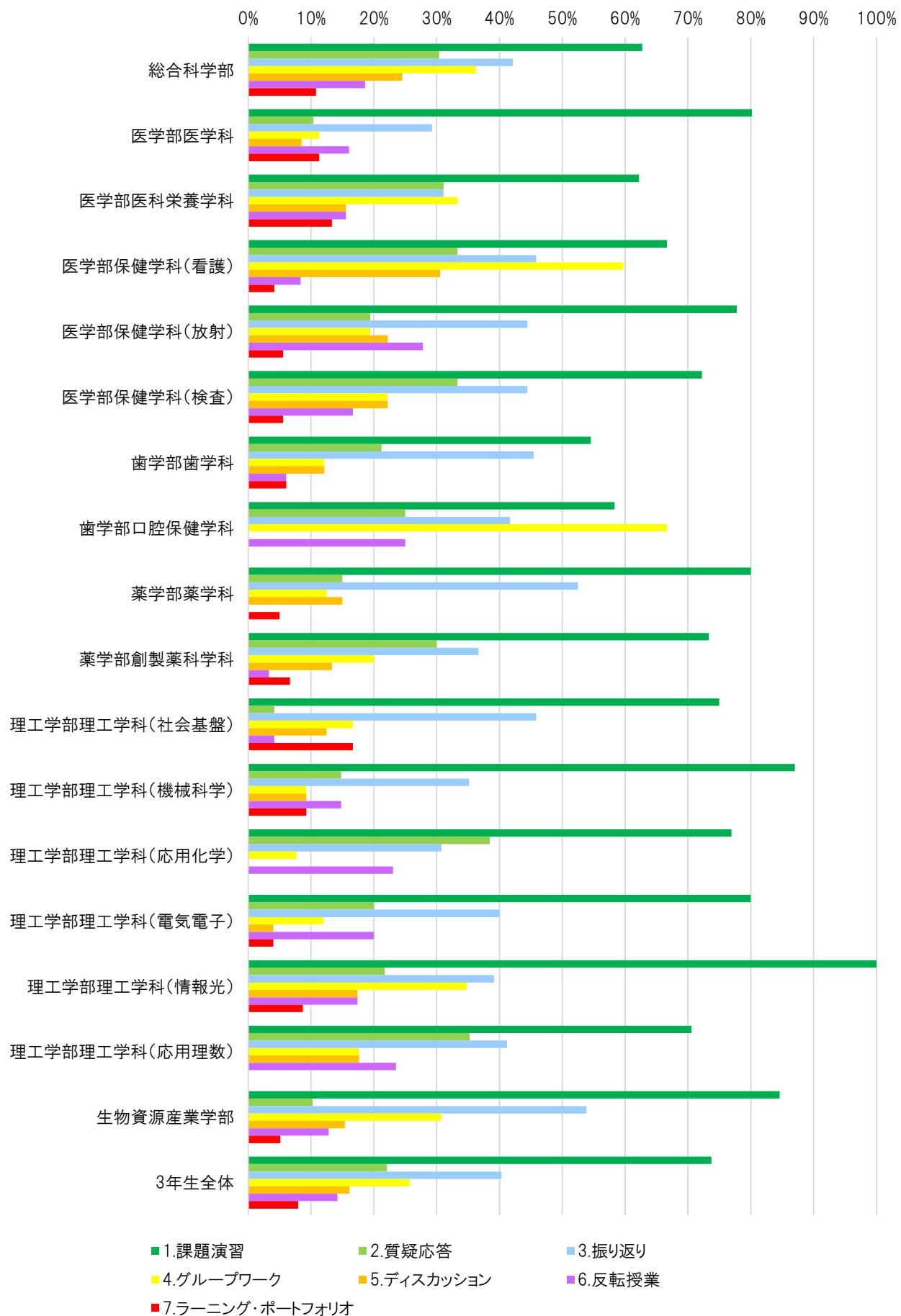
[17]TA や SAなどの授業補助者から補助を受ける



[18]授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか。

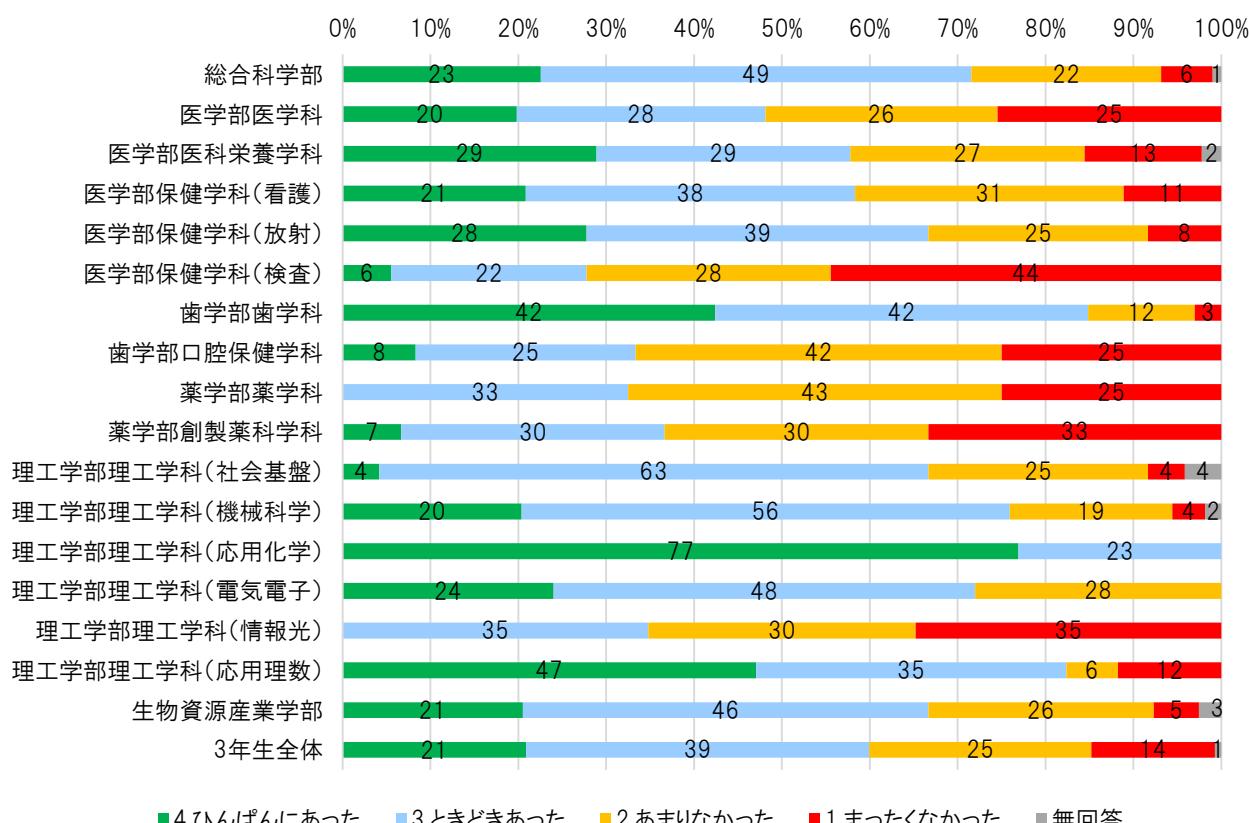


[19]あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。(複数回答)

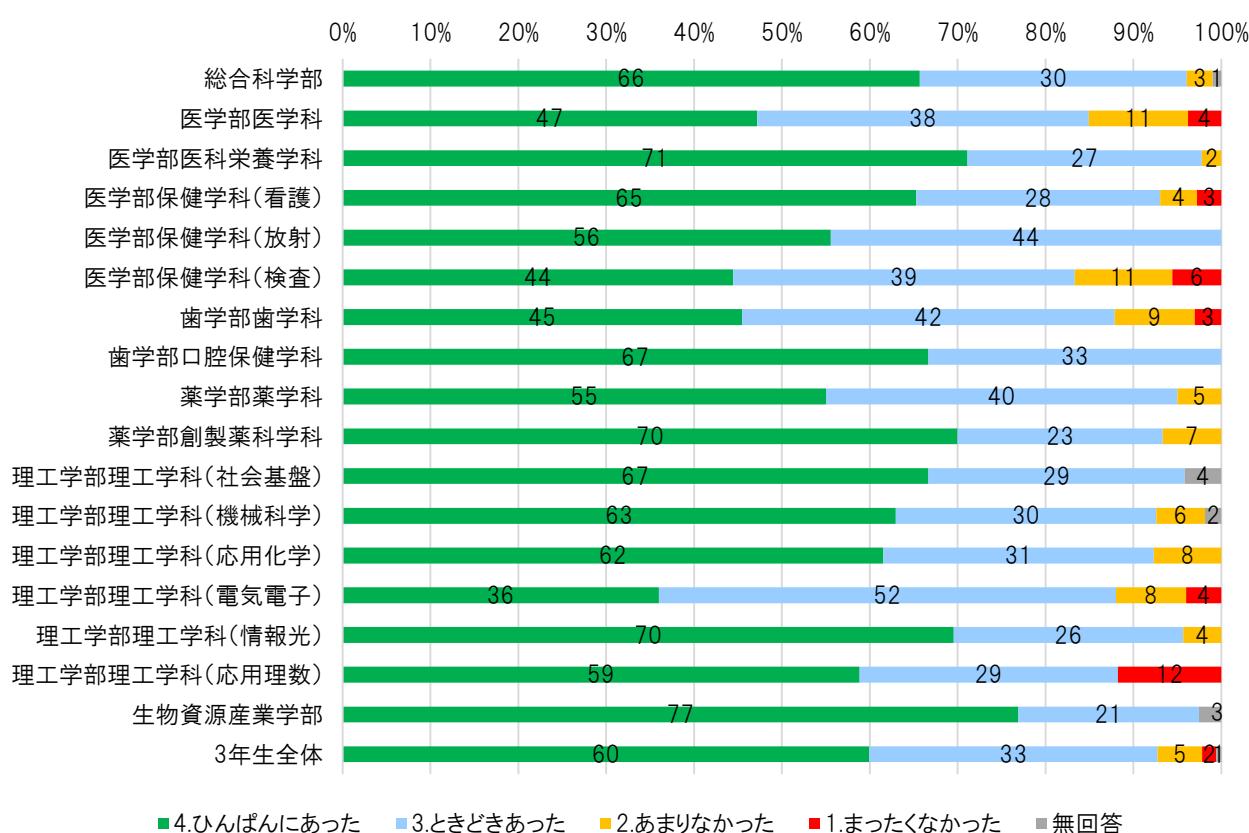


大学の授業や授業以外の学習に関して、あなたは次のようなことをどのくらい経験しましたか。

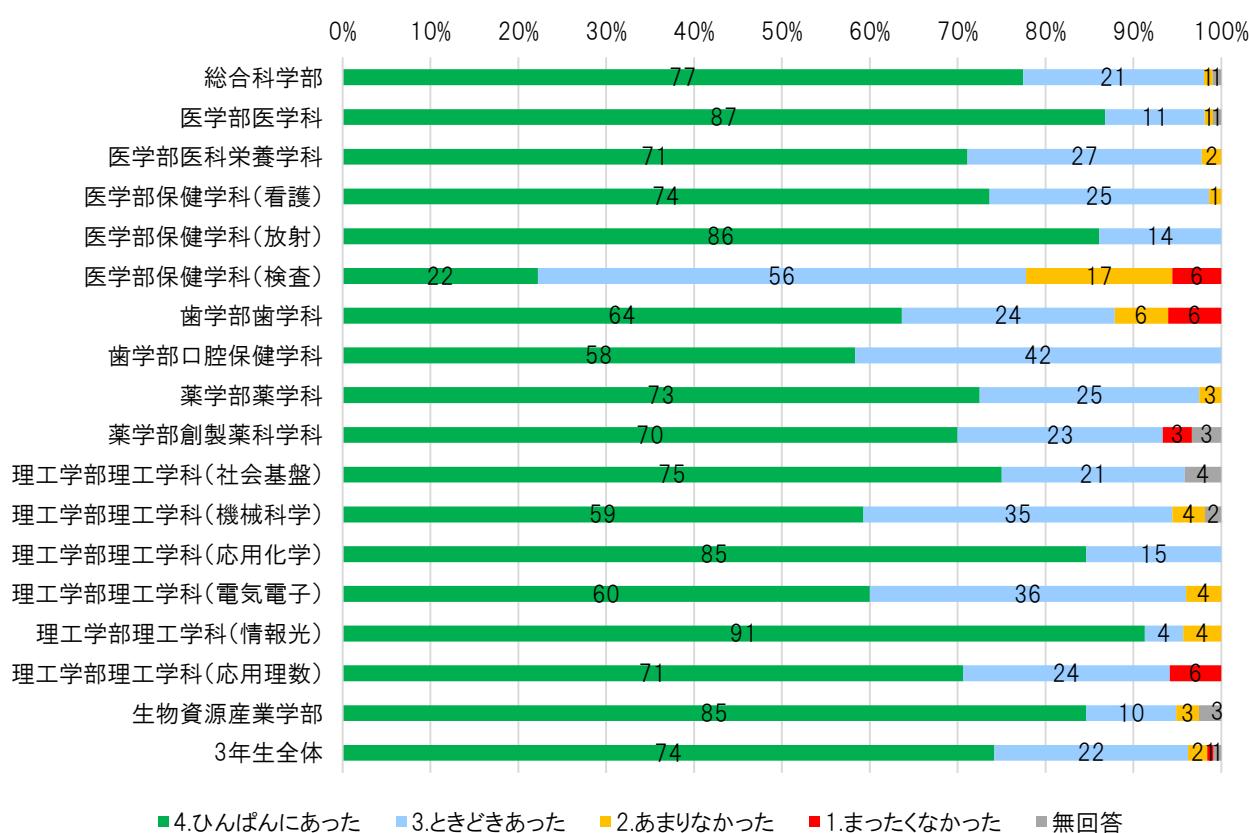
[20]授業課題のために図書館の資料を利用した



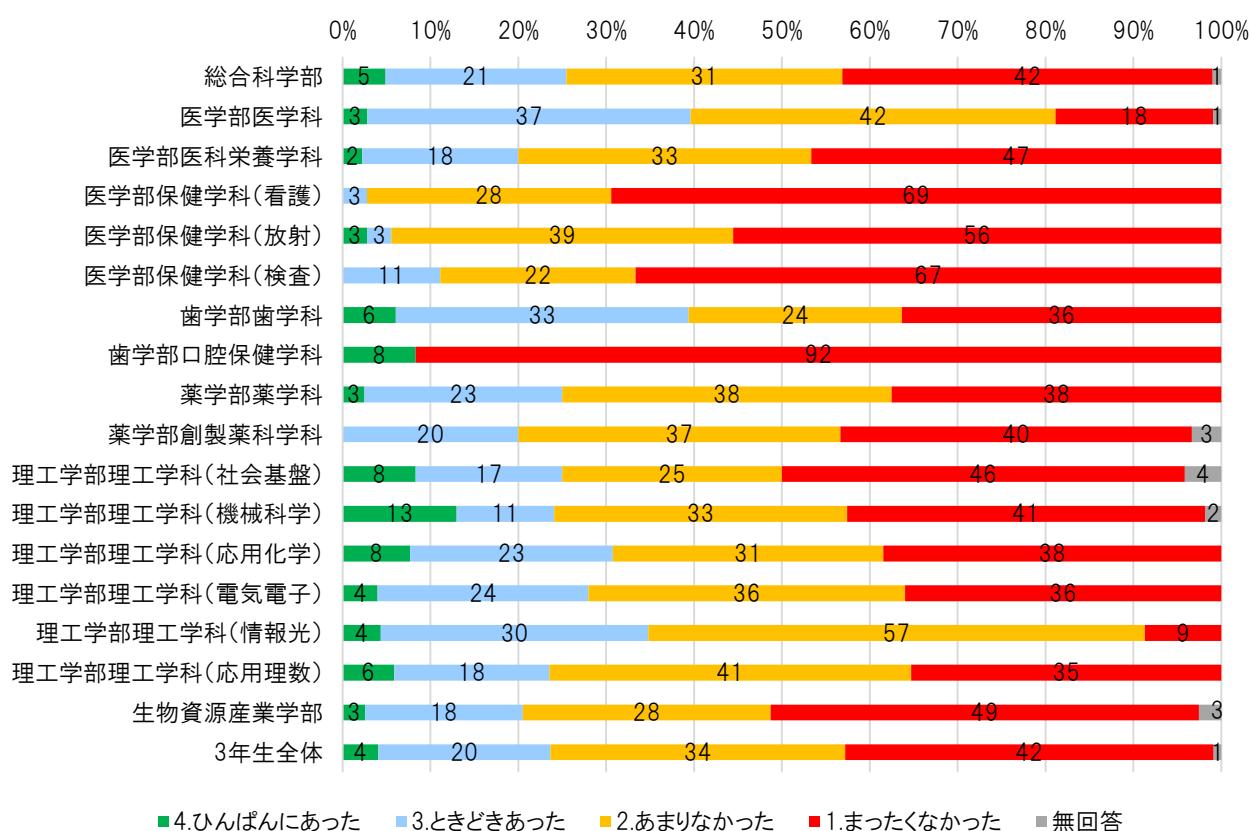
[21]授業課題のためにWeb上の情報を利用した



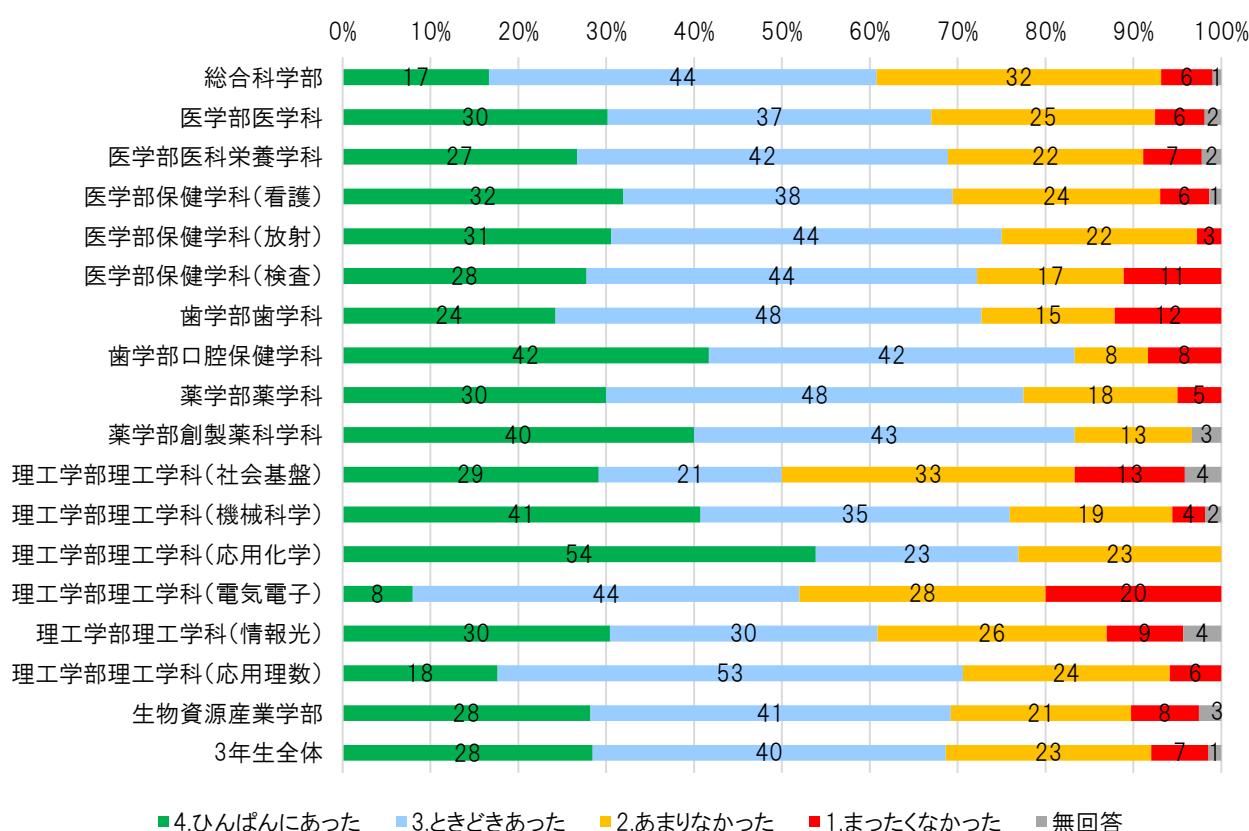
[22]インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした



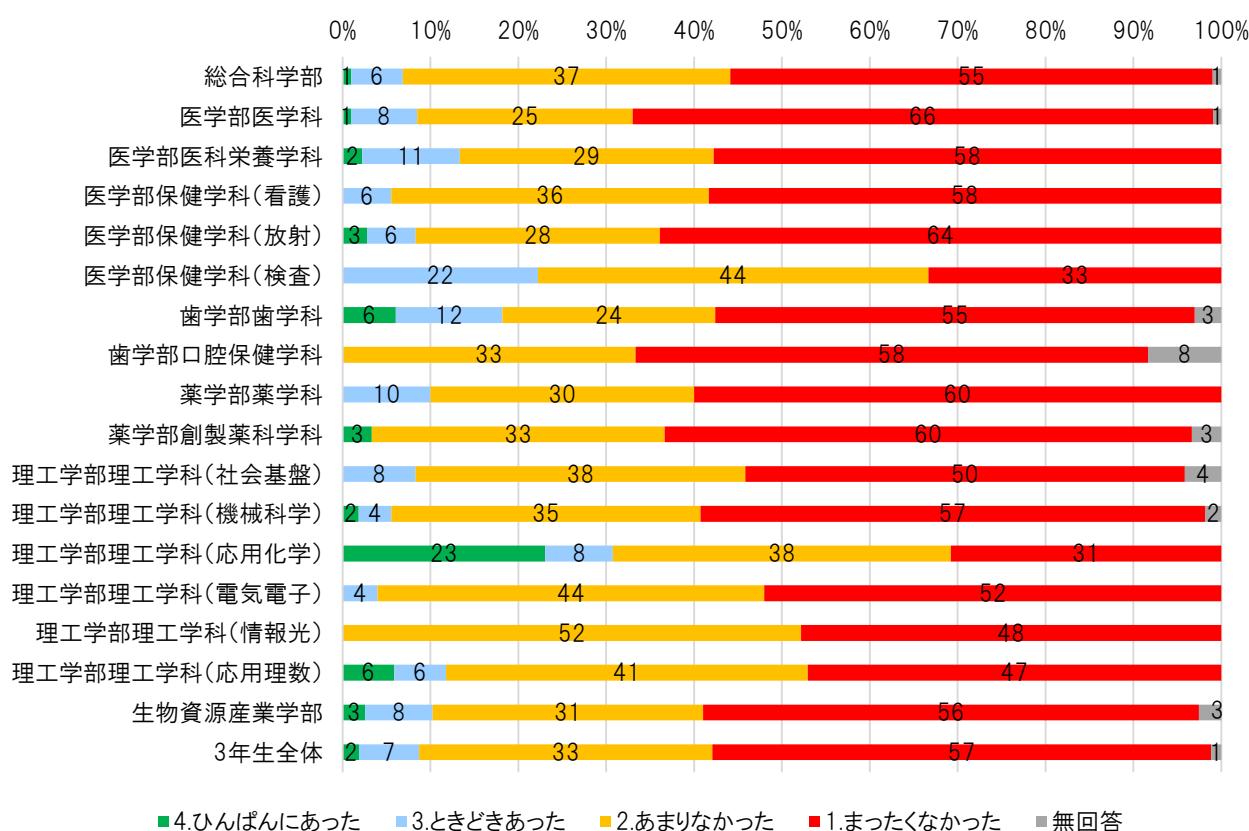
[23]提出期限までに授業課題を完成できなかつた



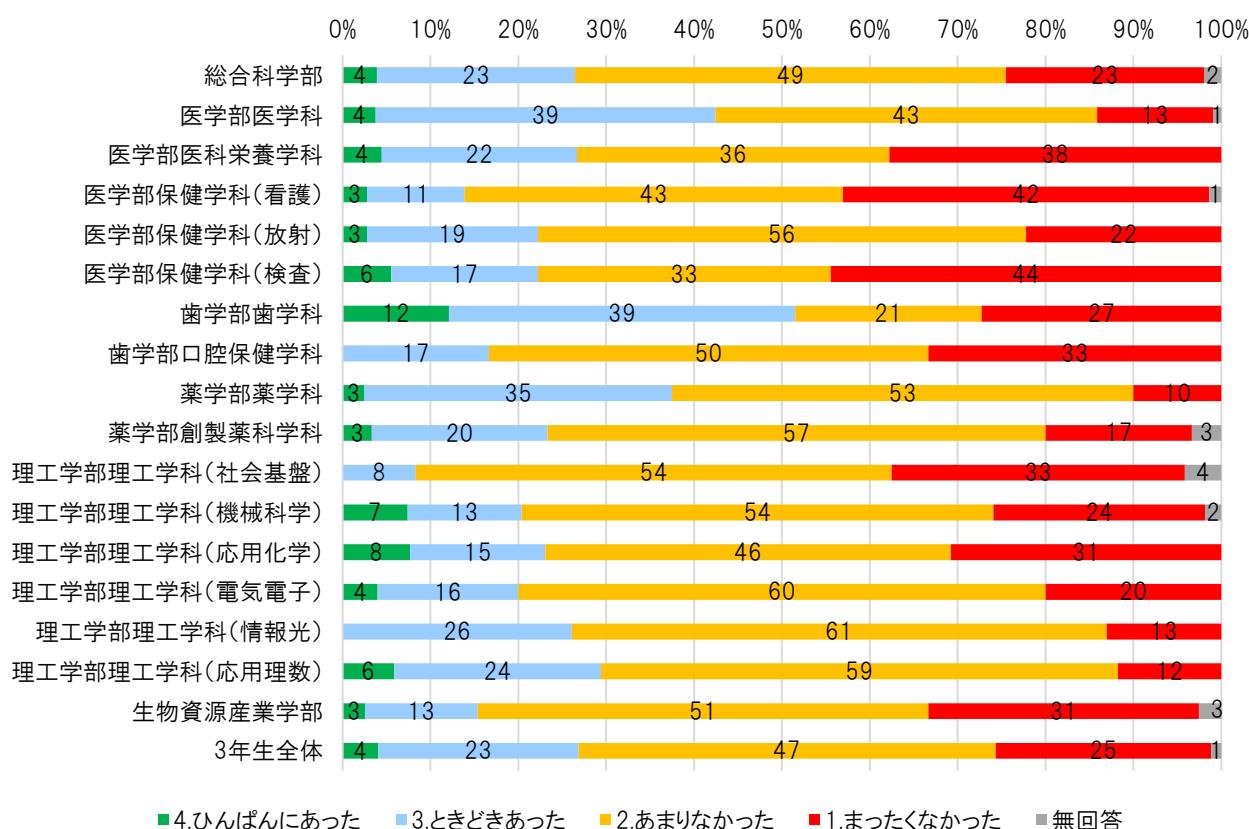
[24]授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした



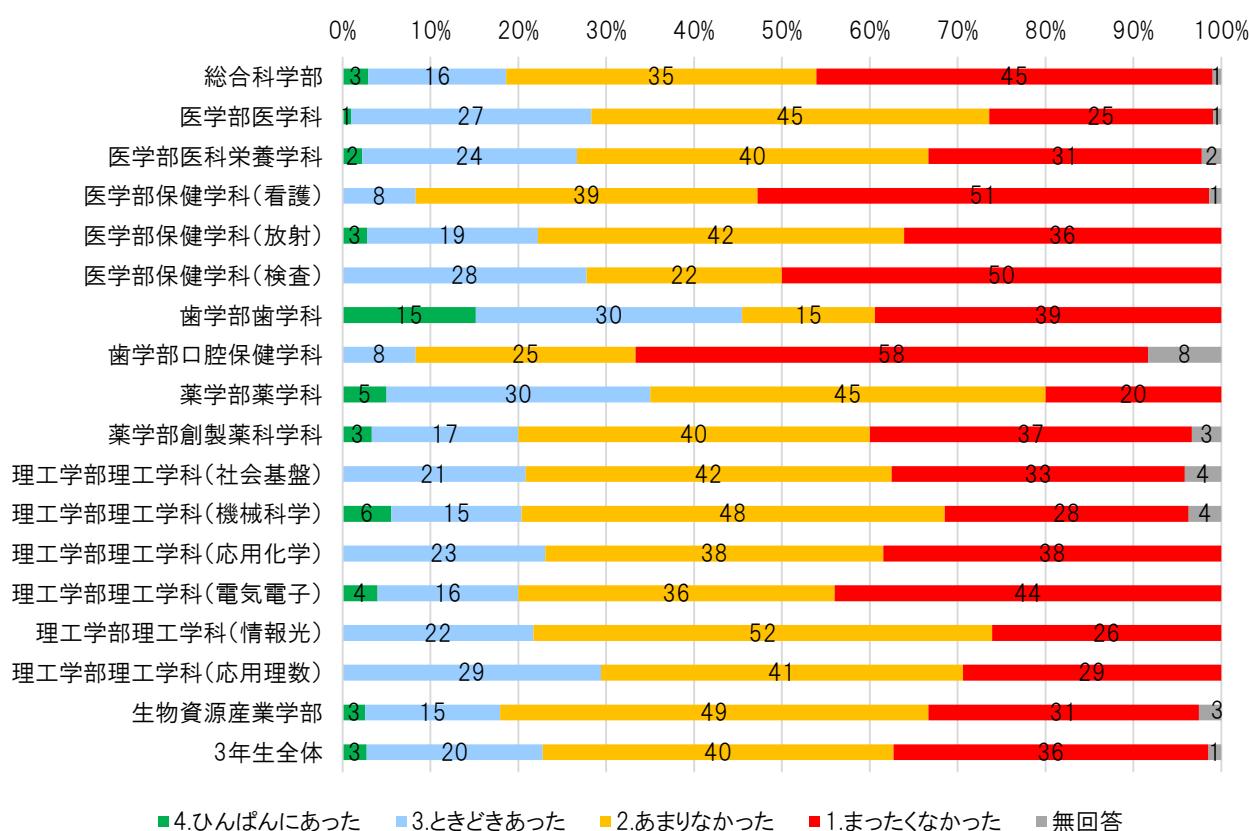
[25]授業中、教員の考え方や意見に異議を唱えた



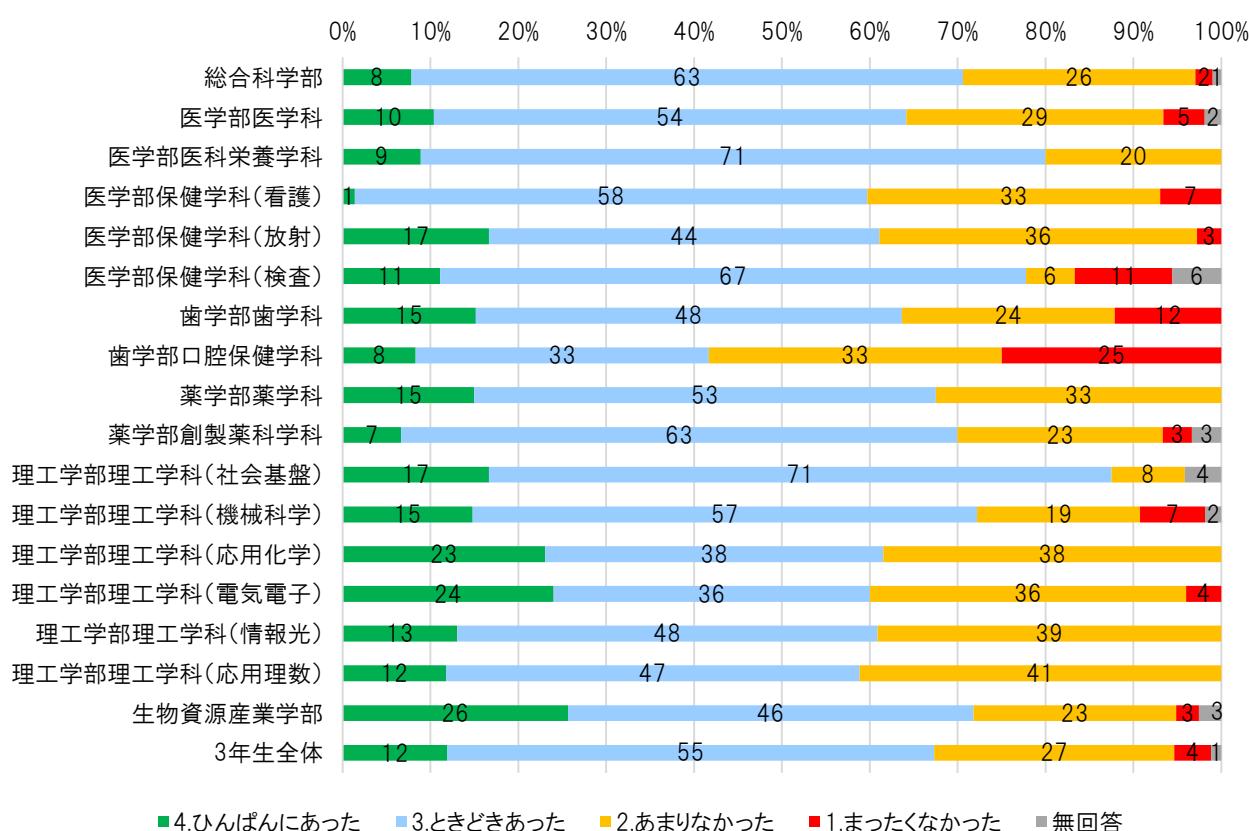
[26]授業を欠席した



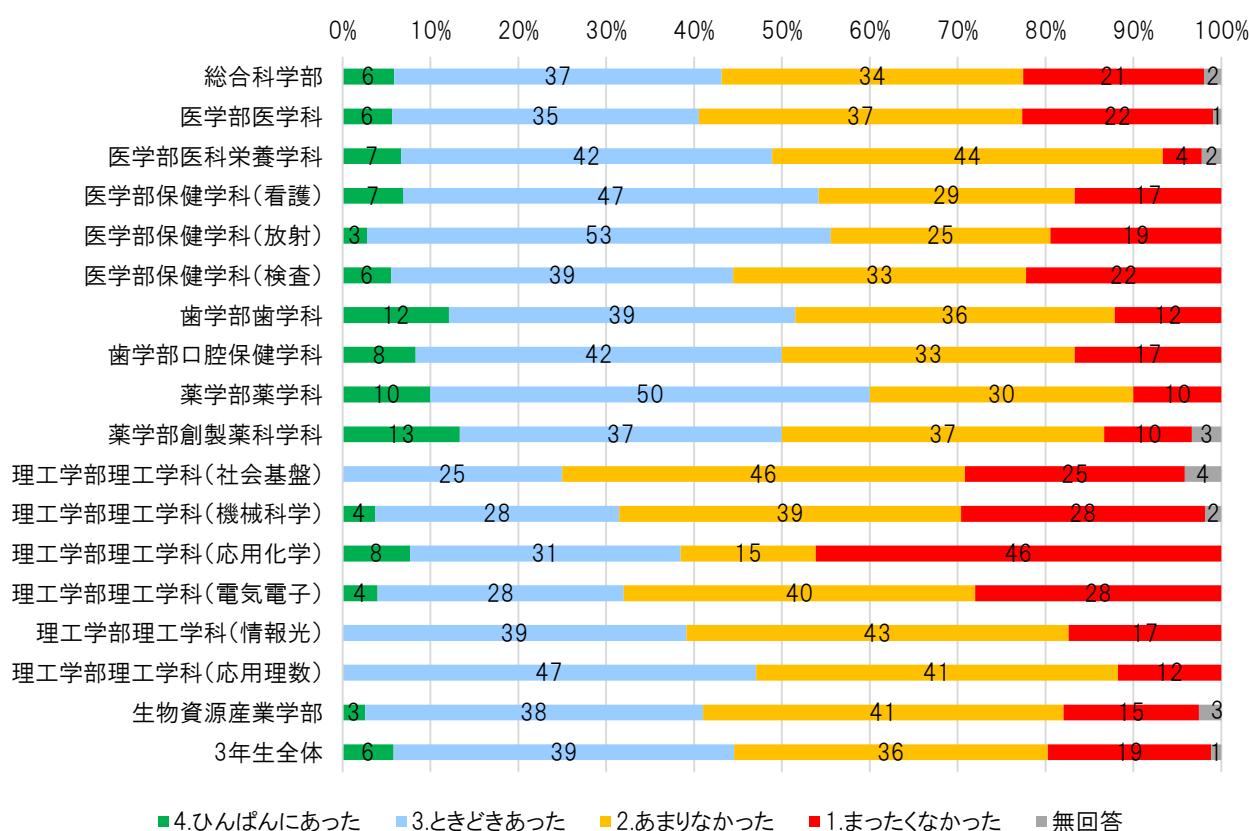
[27]授業に遅刻した



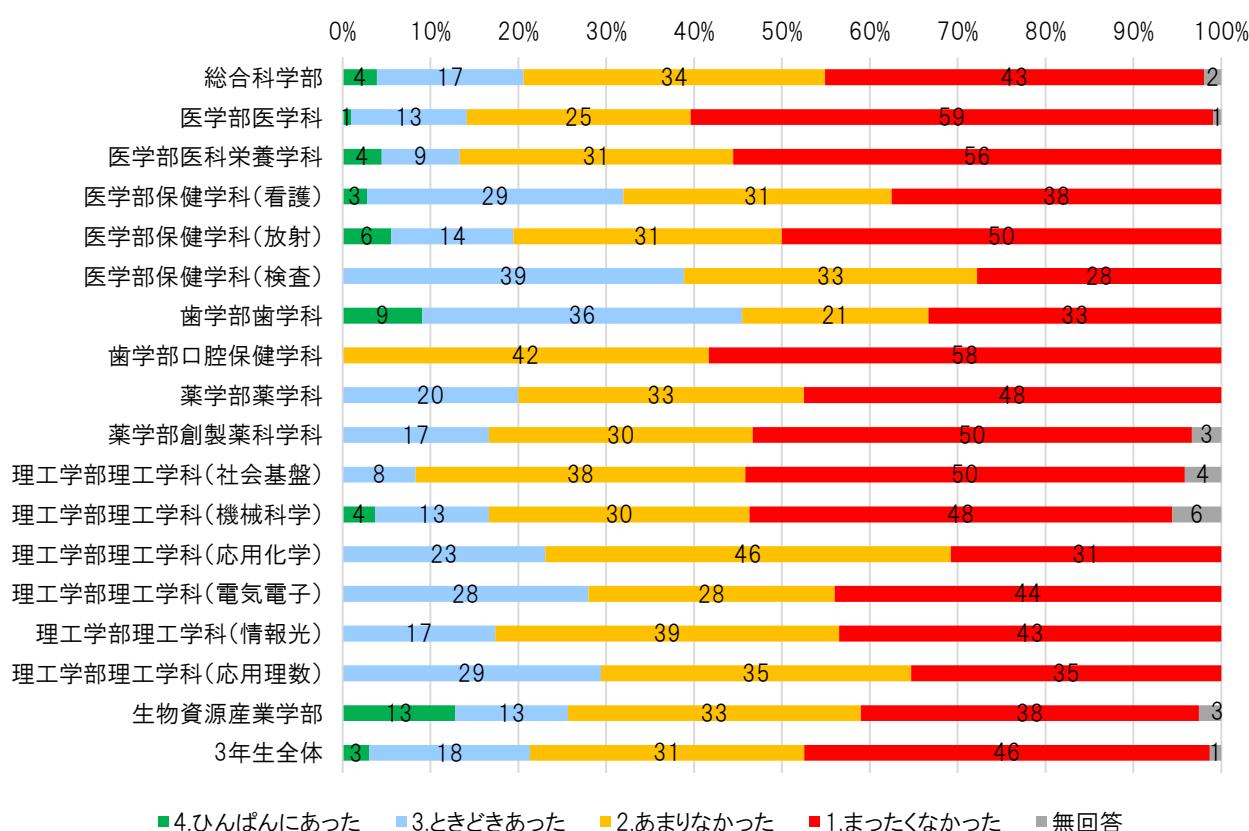
[28]授業をつまらなく感じた



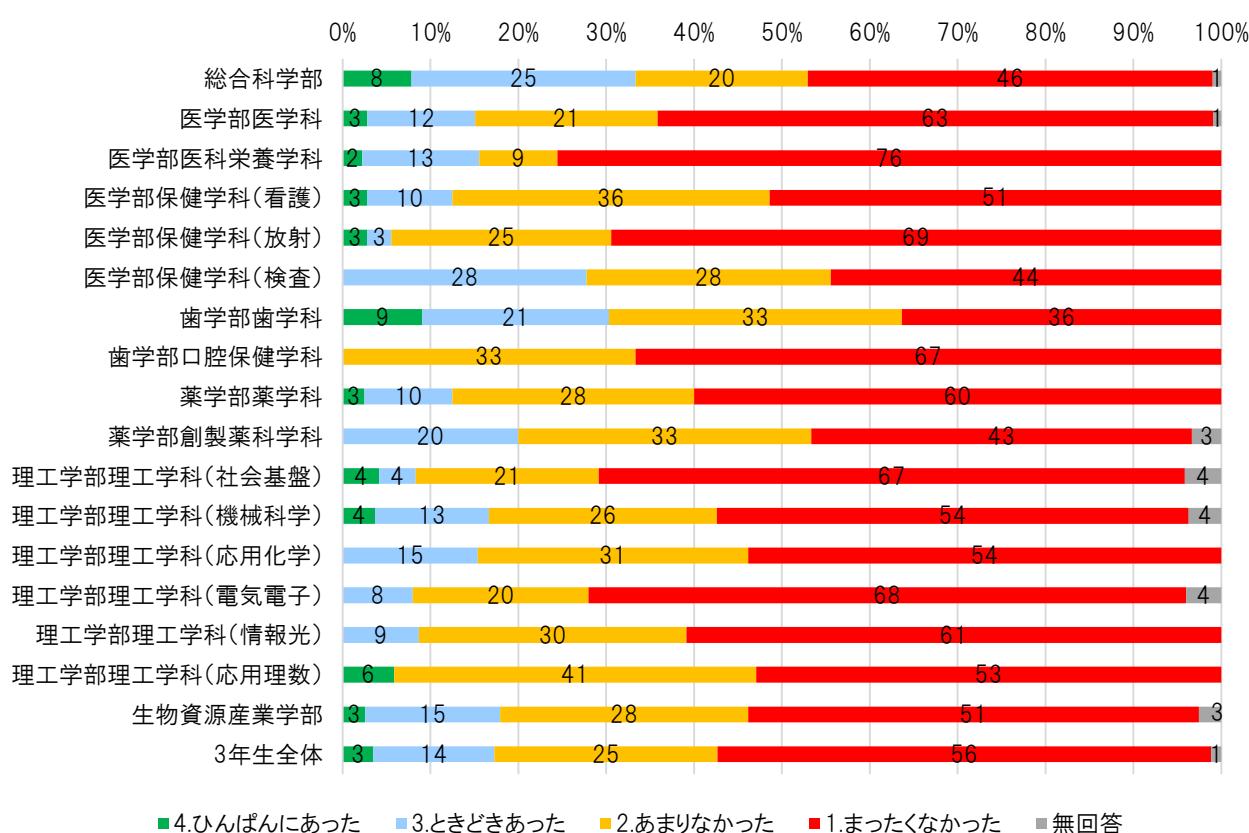
[29]授業中に居眠りをした



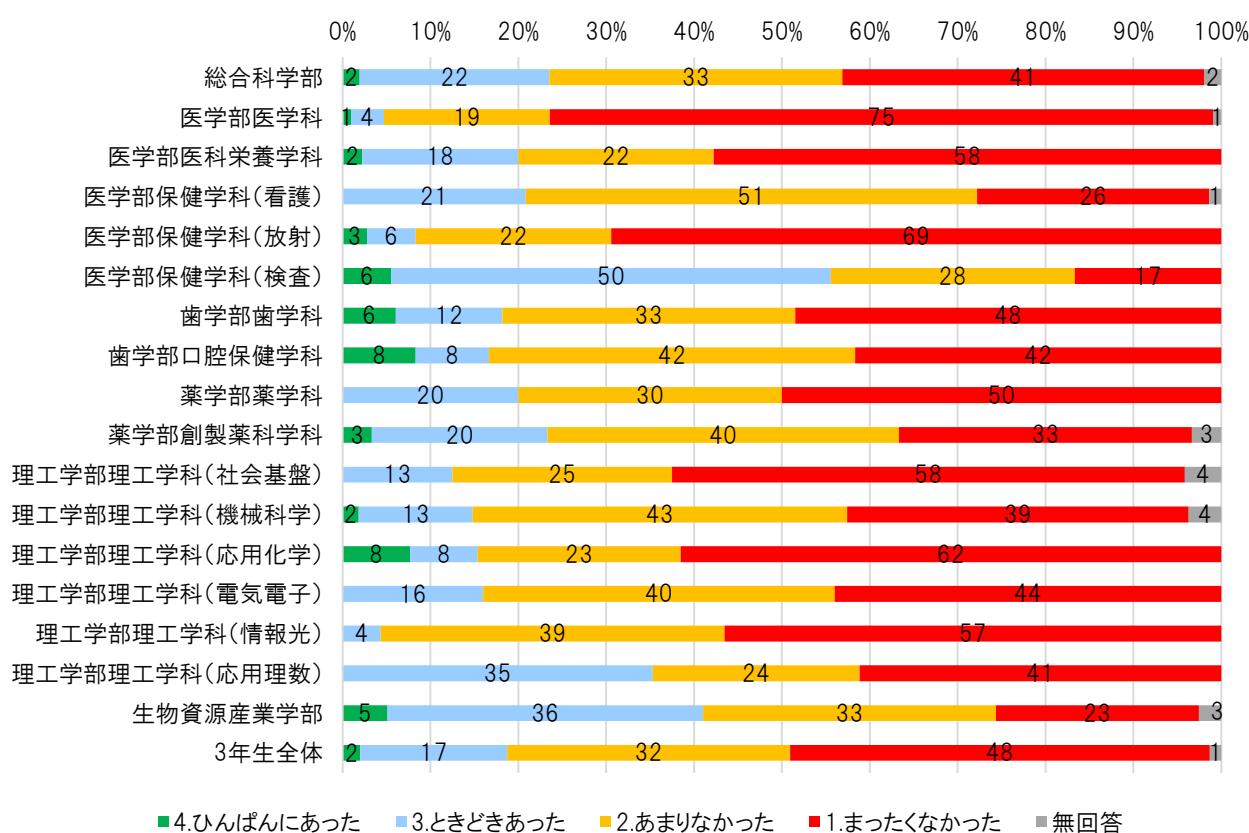
[30]教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした



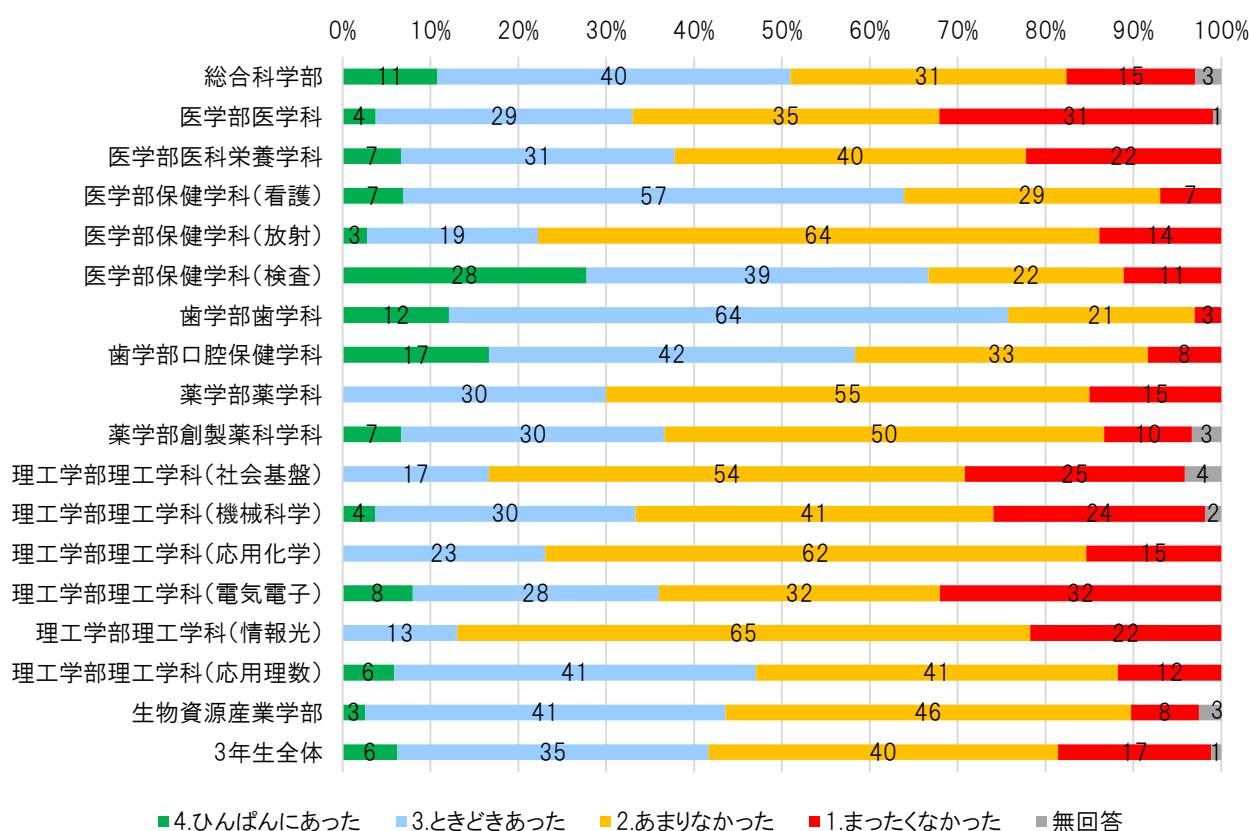
[31]単位とは関係のない教員あるいは学生による自主的な勉強会に参加した



[32]大学の教職員に将来のキャリアの相談をした(卒業後の進路や職業選択など)

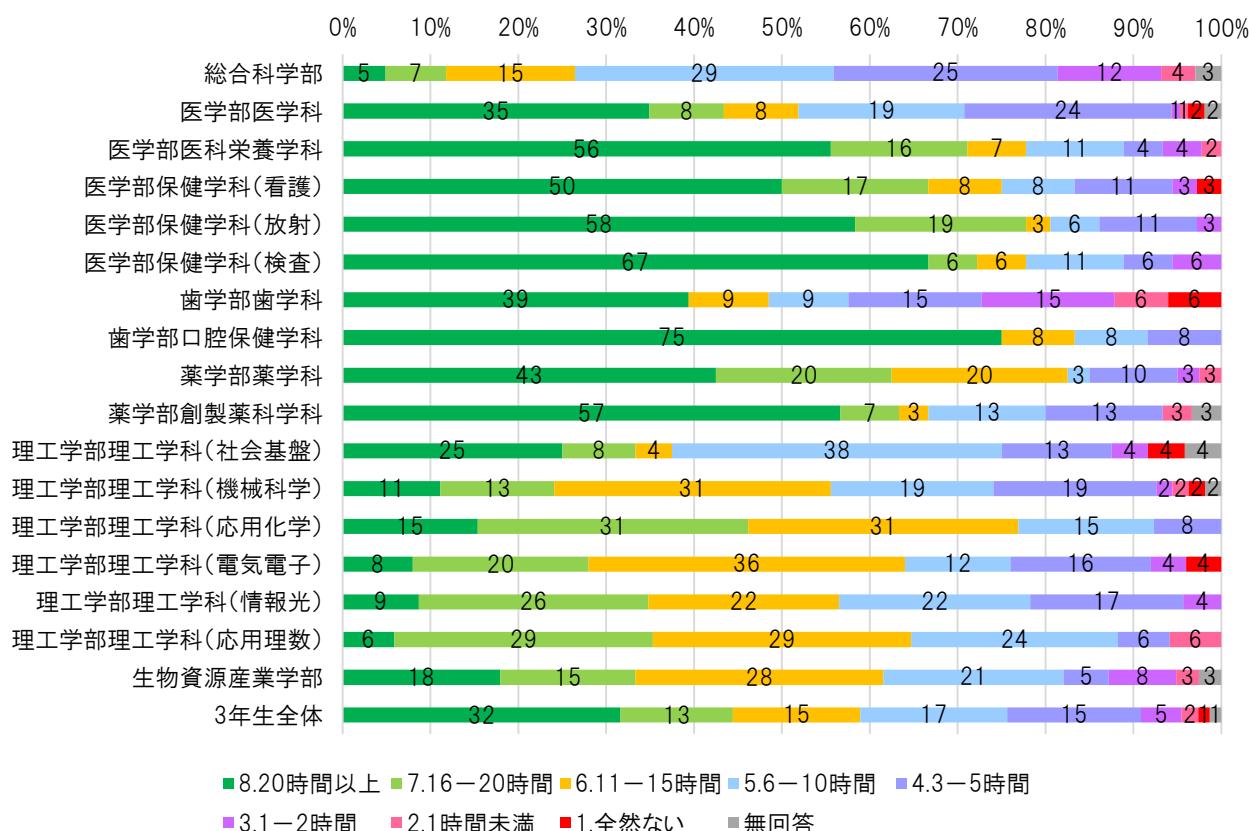


[33]教員に親近感を感じた

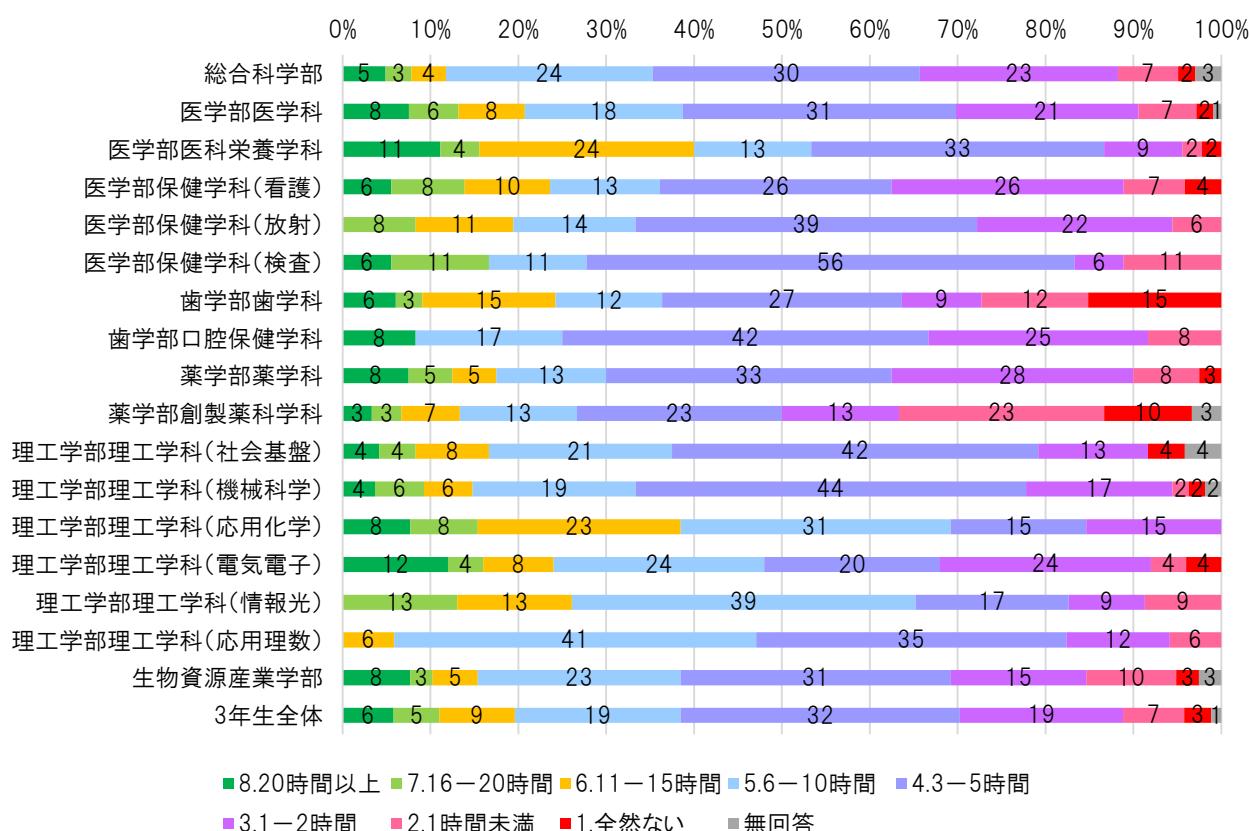


入学以来、あなたは次の活動に1週間あたりどのくらいの時間を費やしましたか。

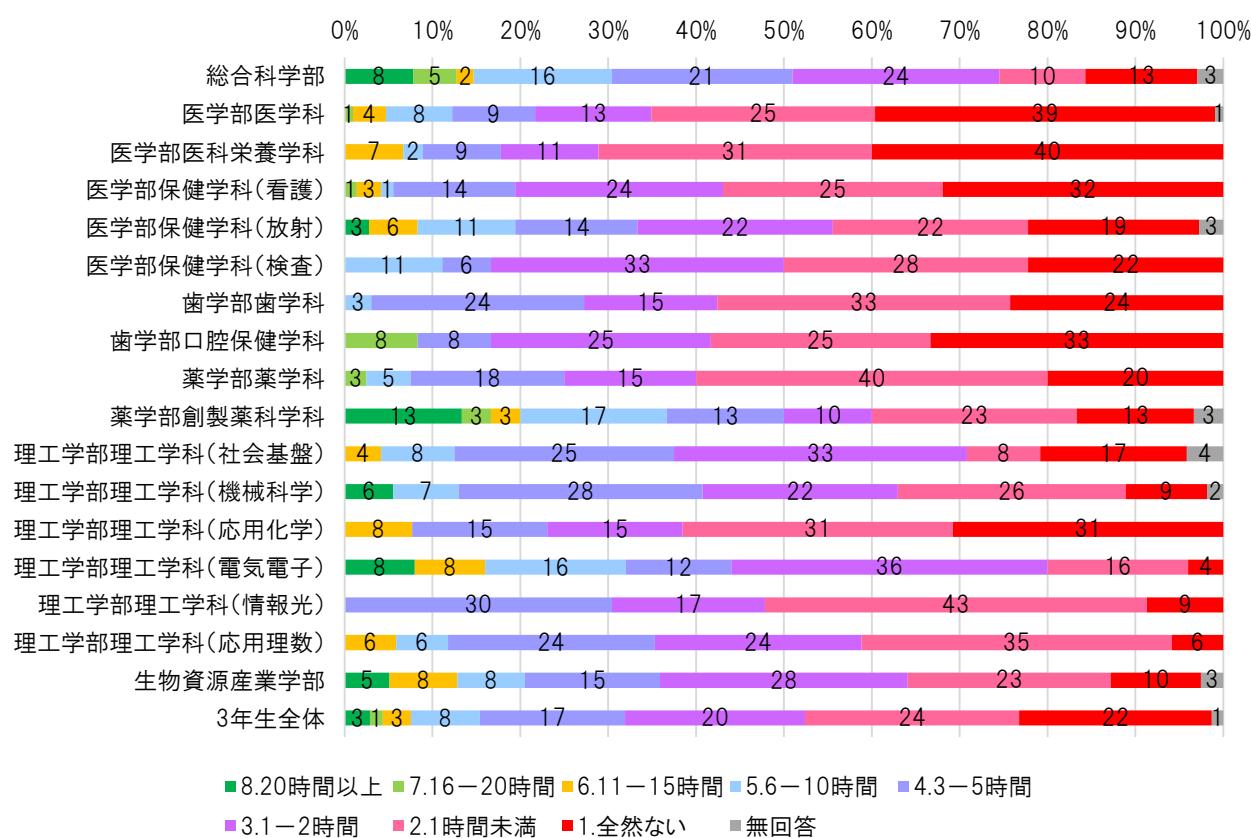
[34]授業や実験に出る



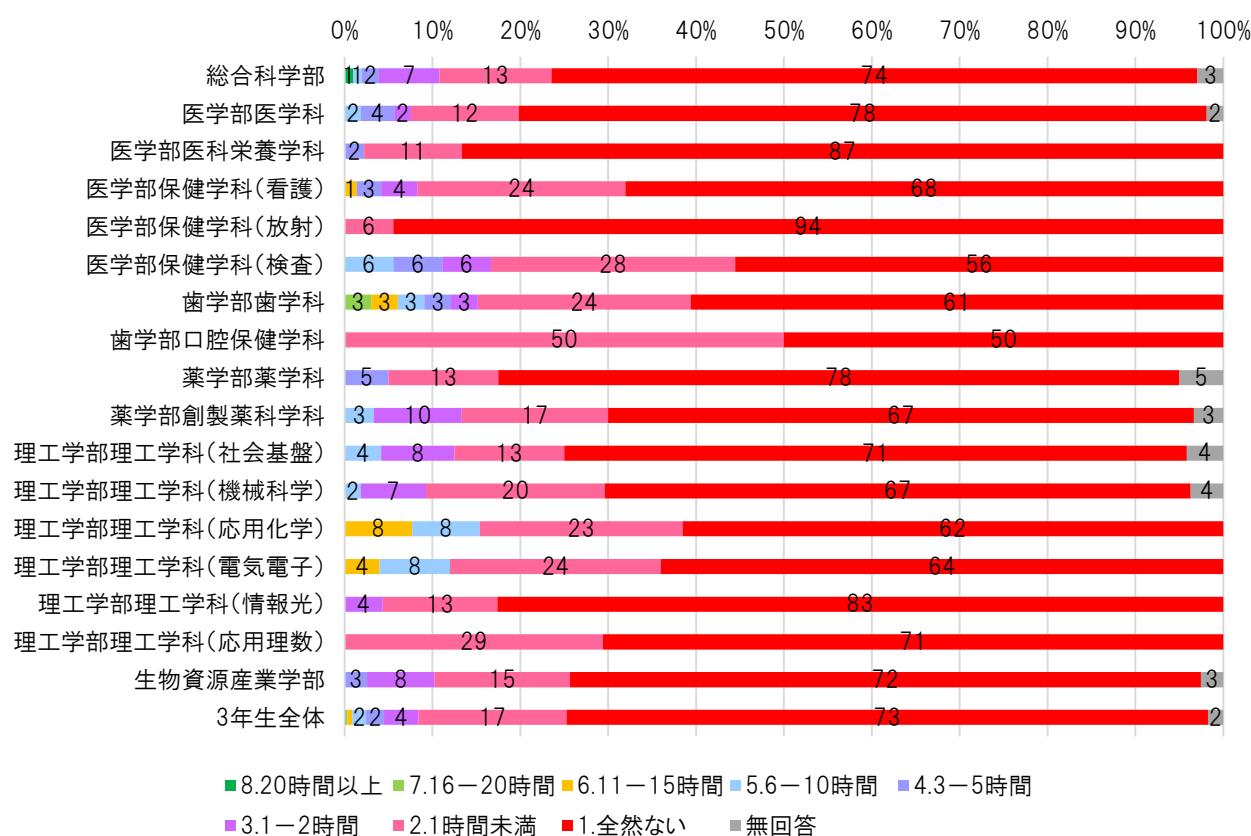
[35]授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする



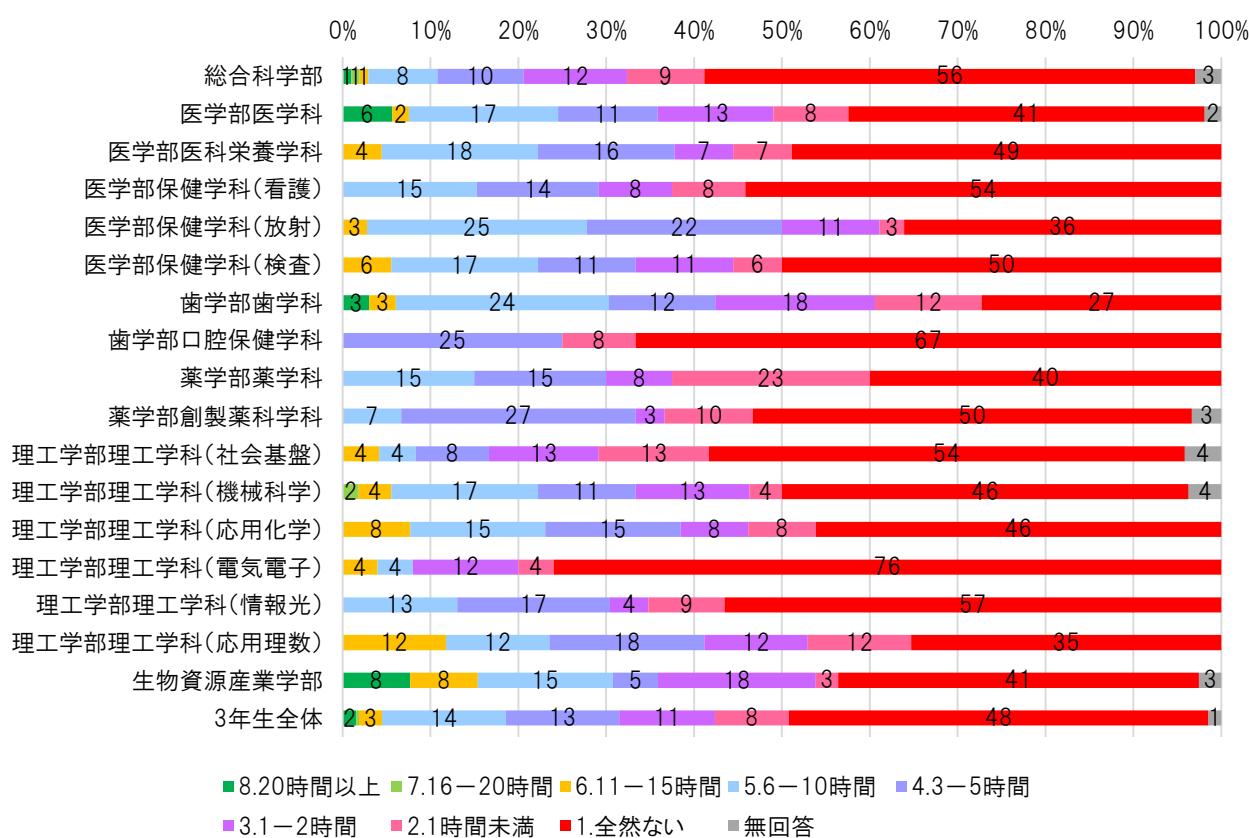
[36]授業時間外に、授業に関連しない勉強をする



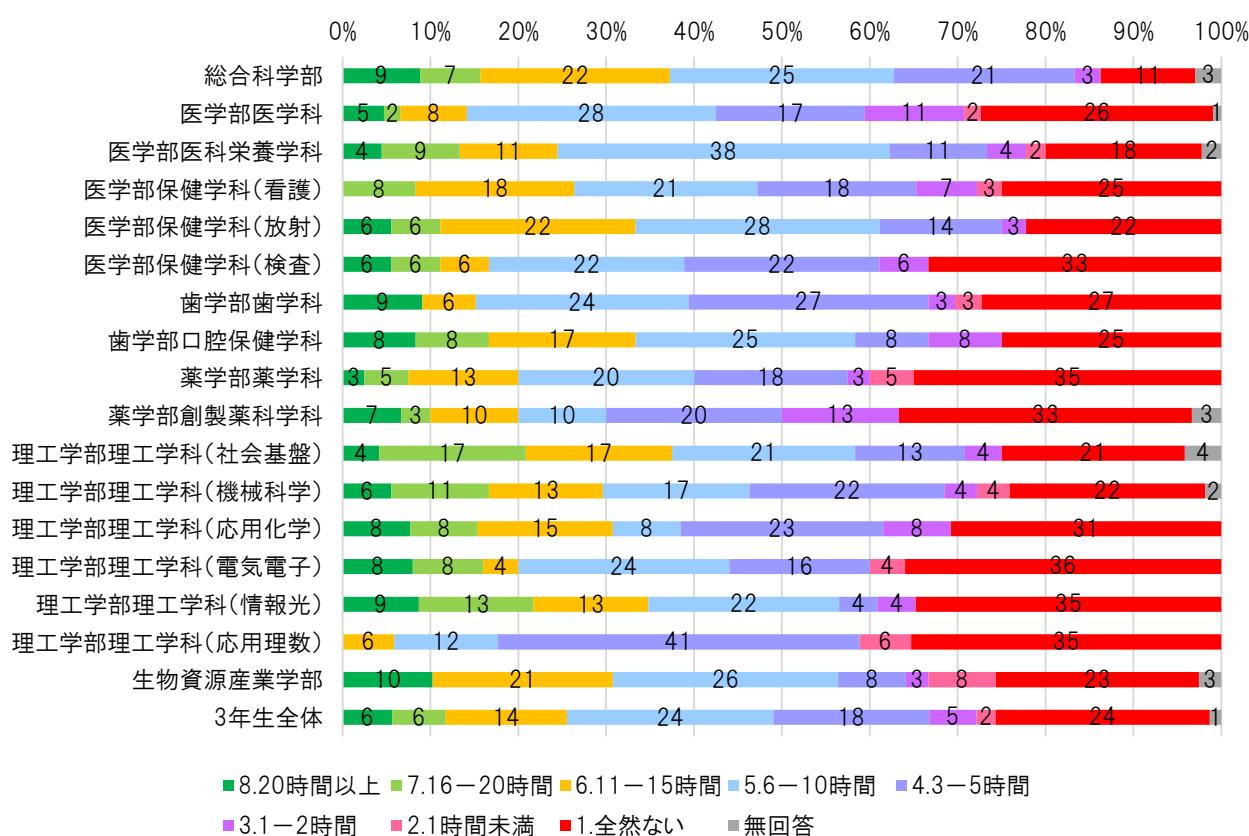
[37]オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する



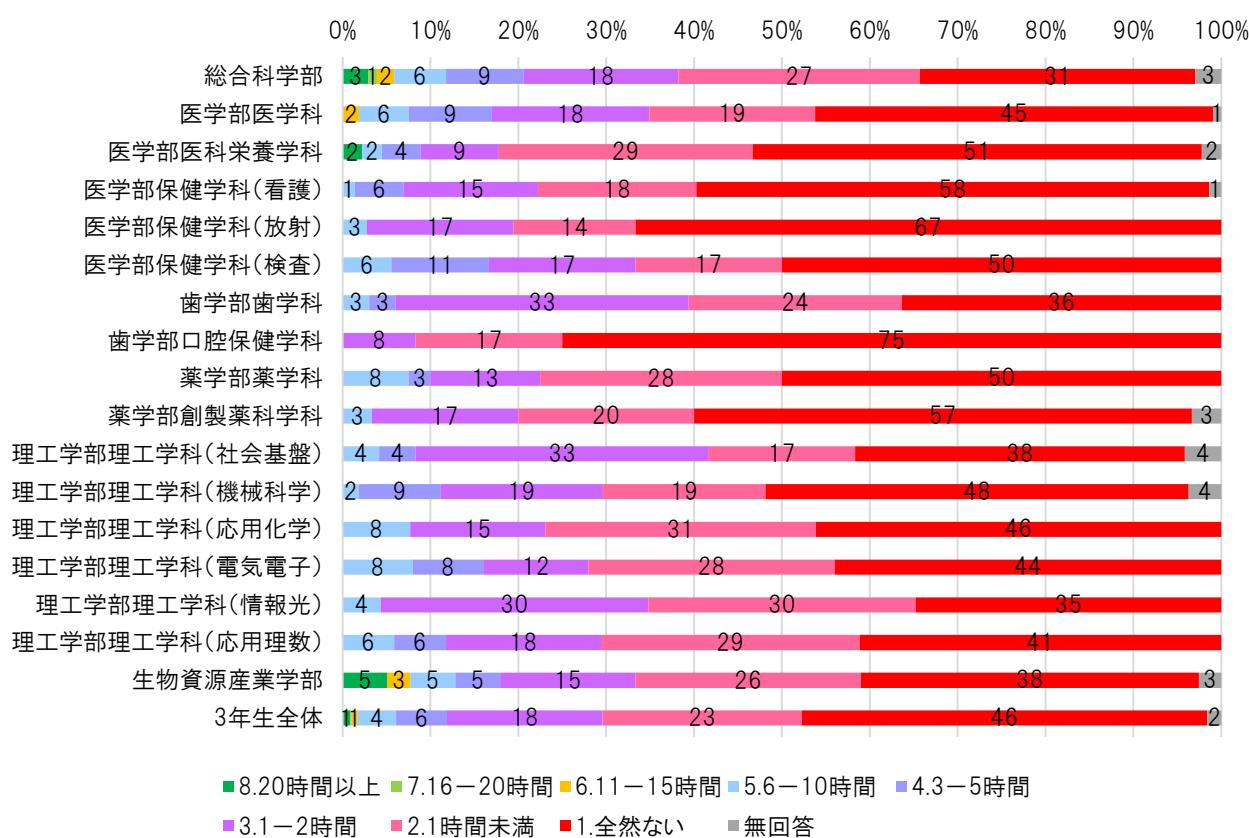
[38]部活動や同好会に参加する



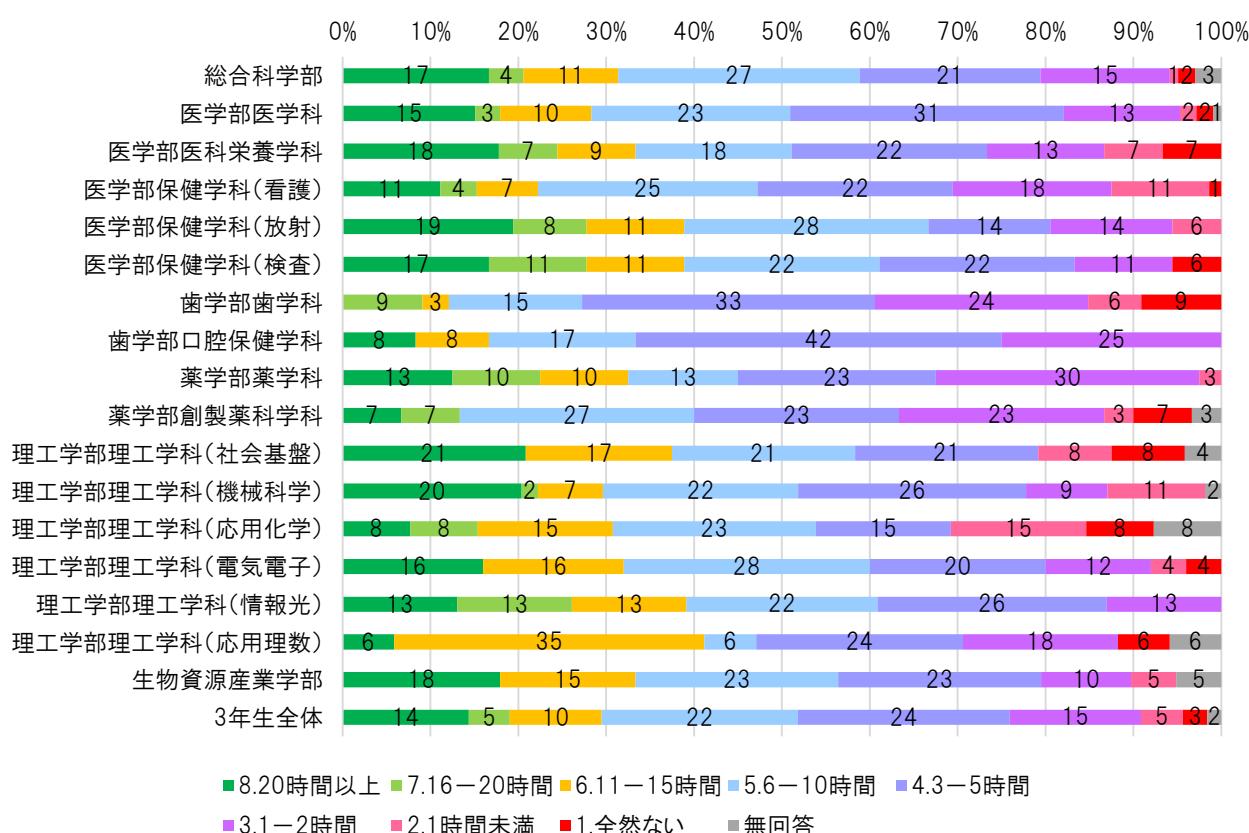
[39]大学外でアルバイトや仕事をする



[40]読書をする(マンガ・雑誌を除く)

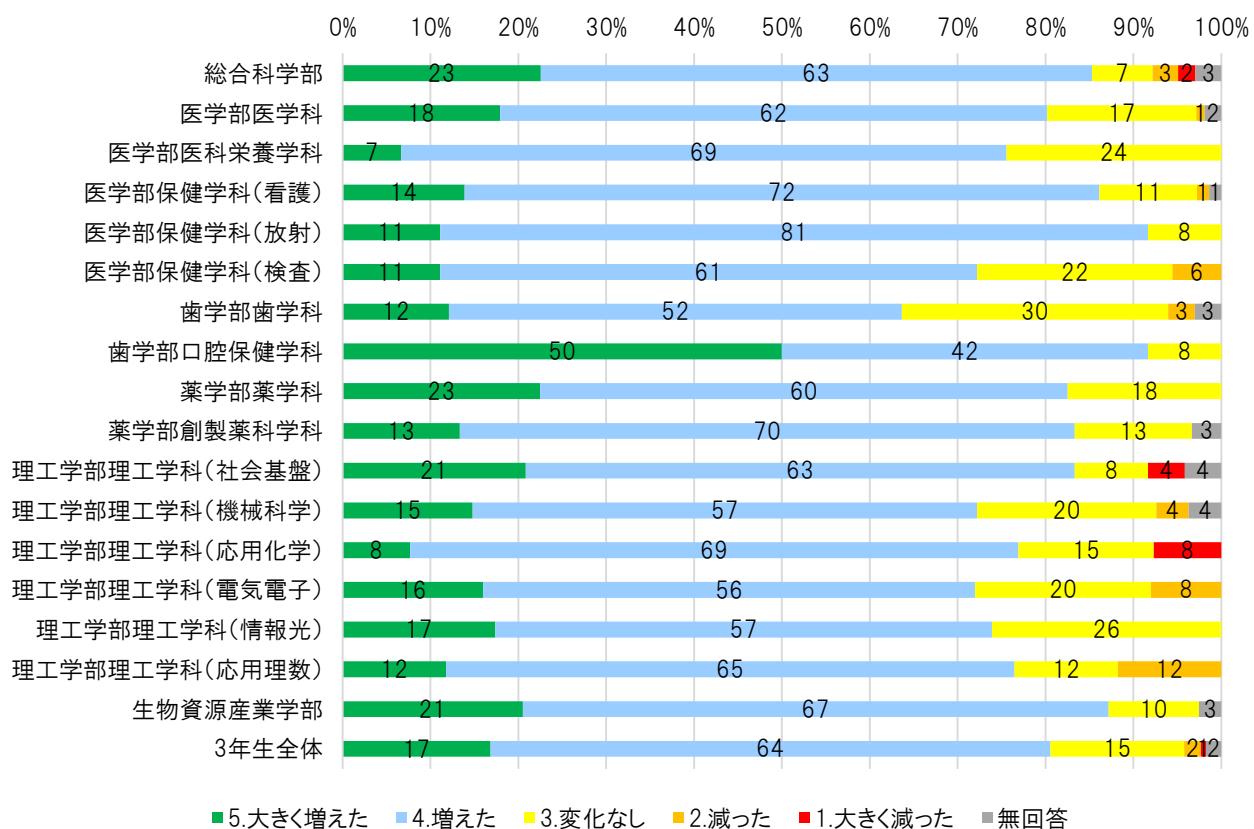


[41]個人的な趣味活動をする(テレビやゲーム、映画鑑賞など)

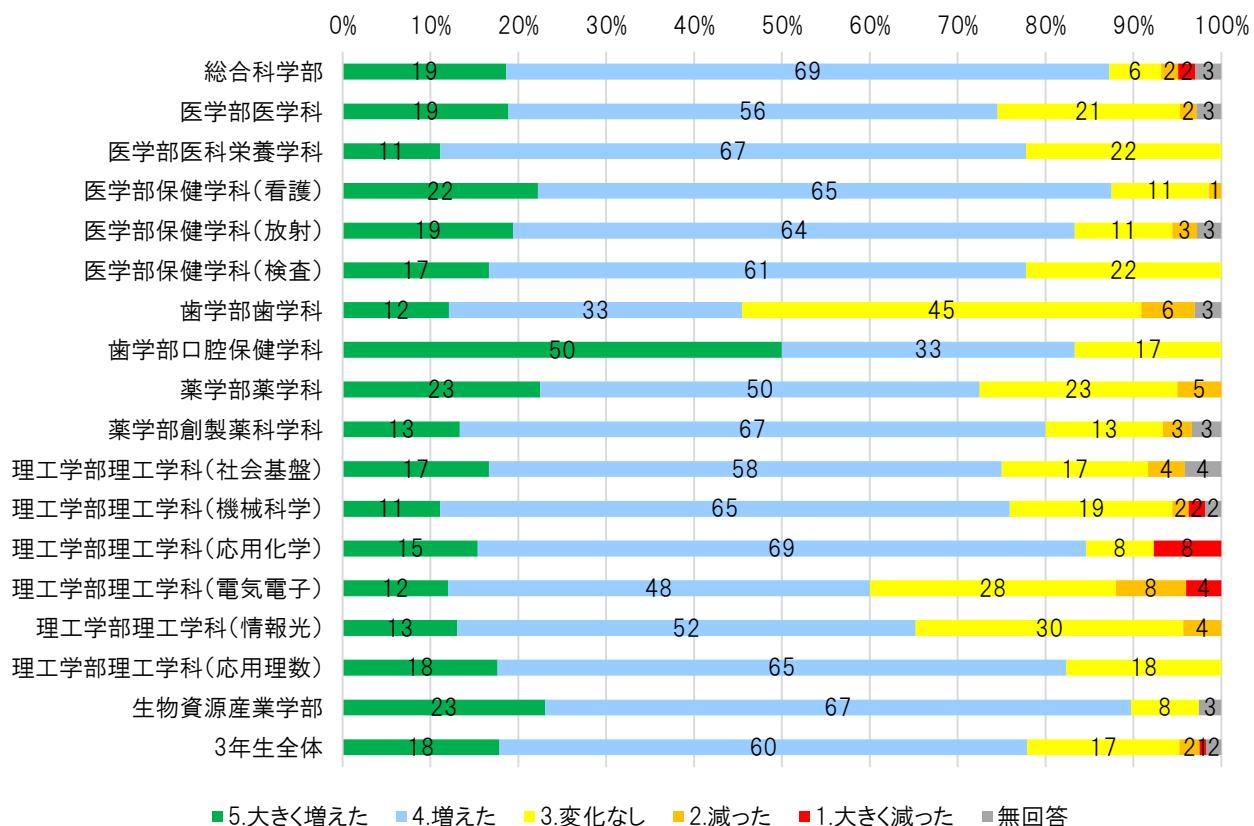


入学した時点と比べて、あなたの能力や知識はどのように変化しましたか。

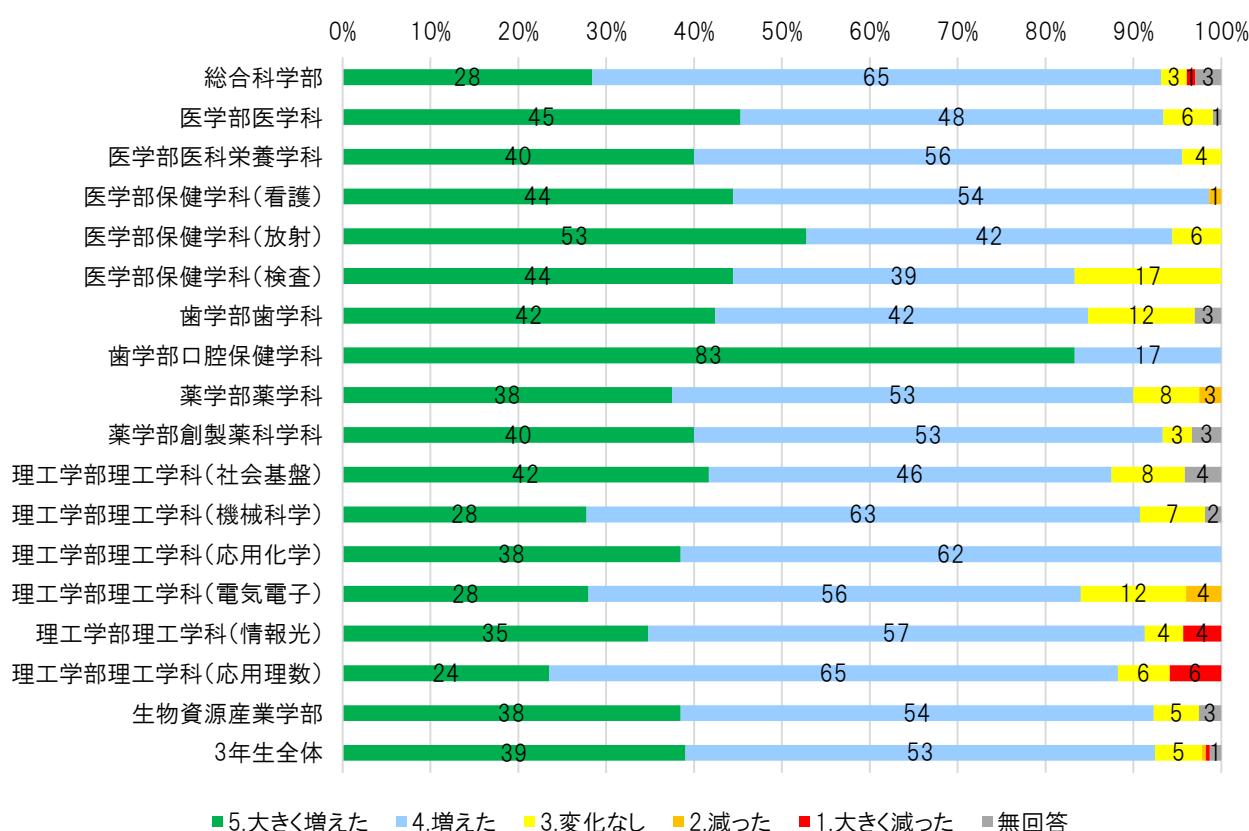
[42]一般的な教養



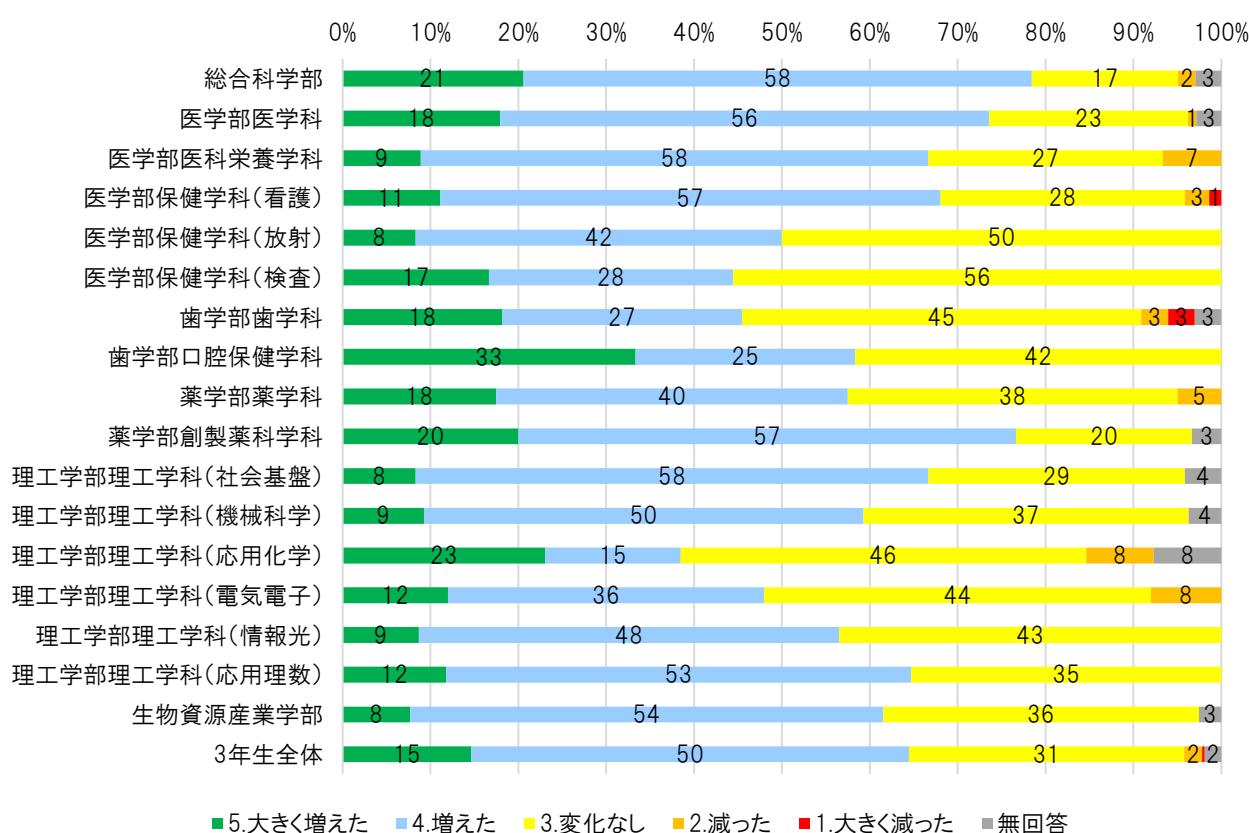
[43]分析力や問題解決能力



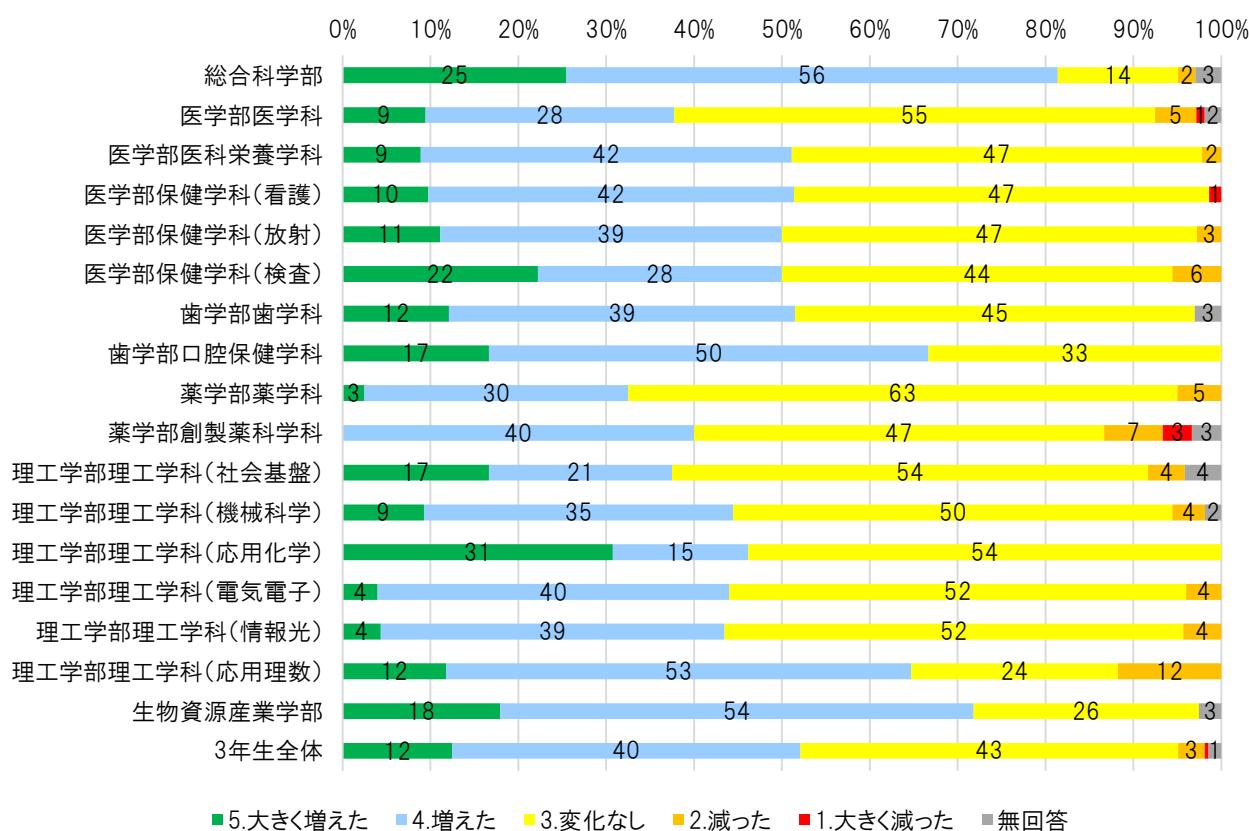
[44]専門分野や学科の知識



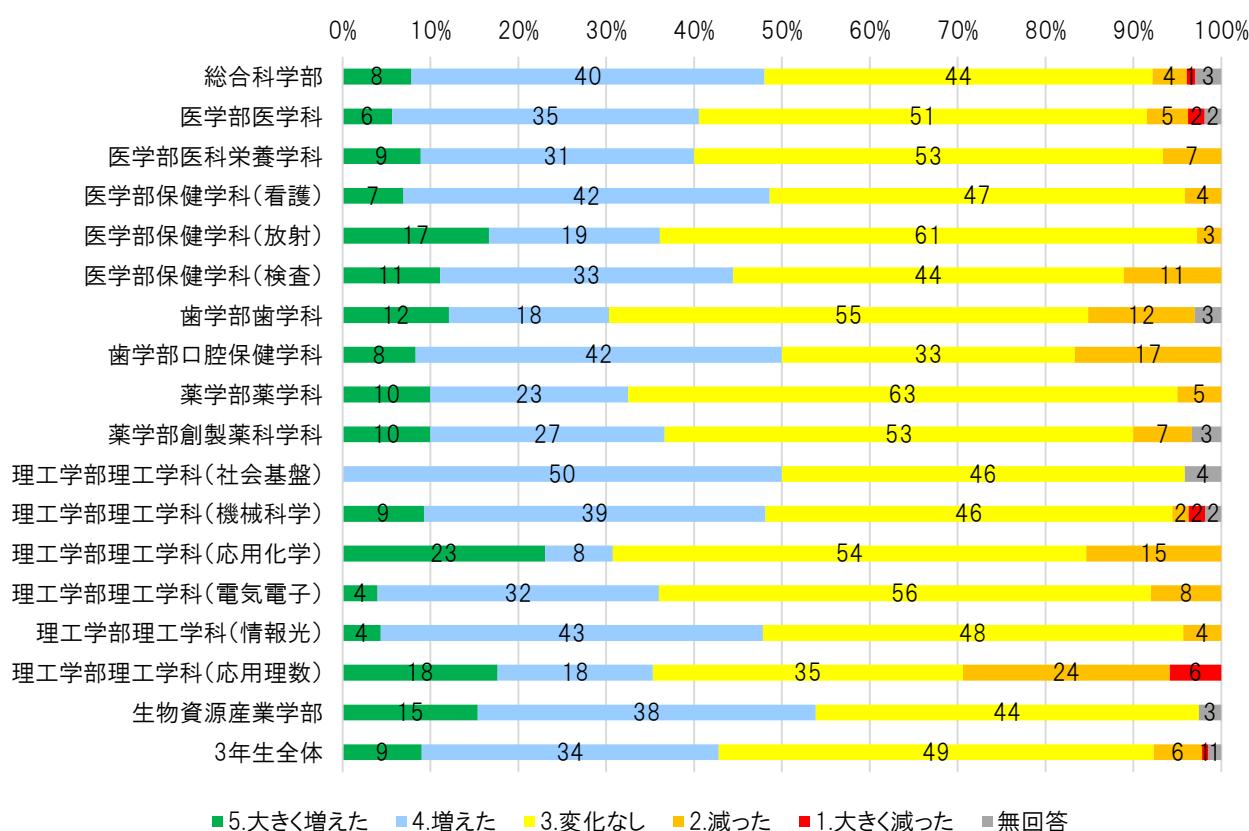
[45]批判的に考える能力



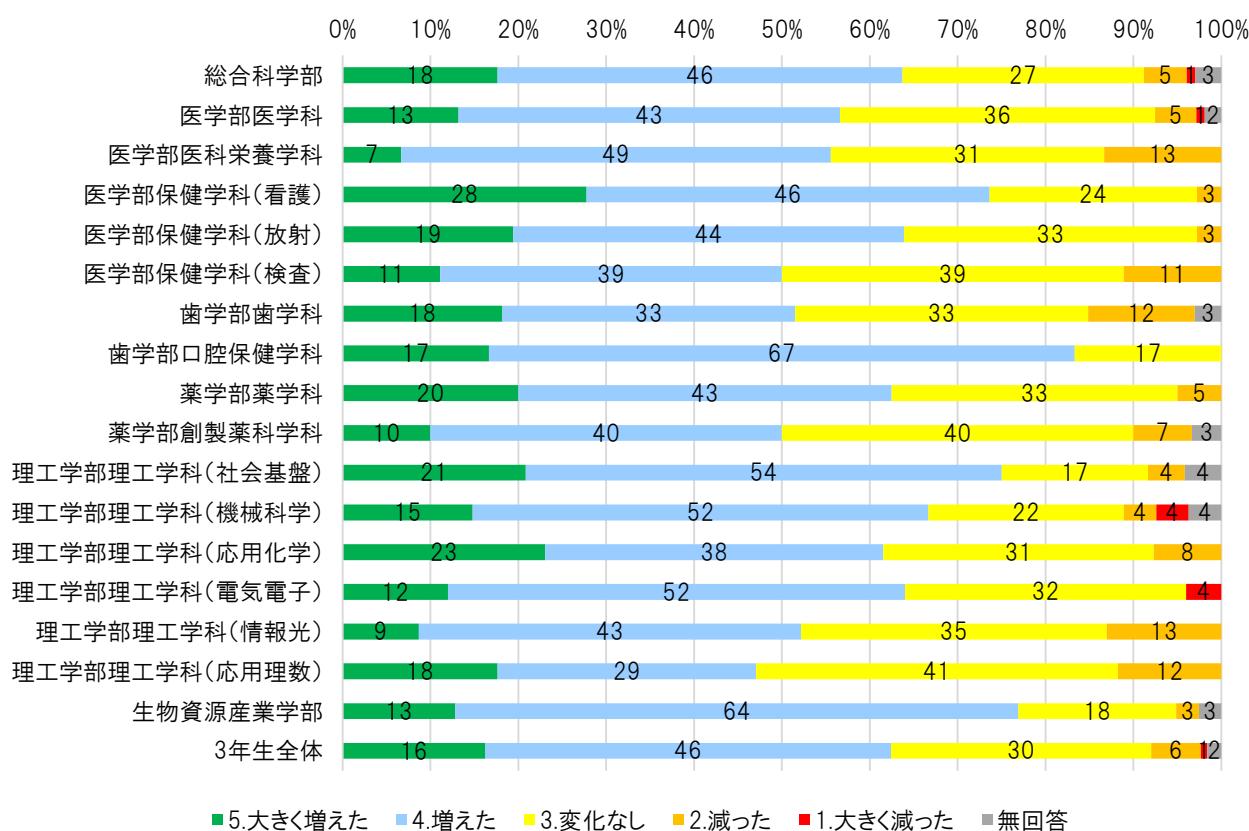
[46]異文化の人々に関する知識



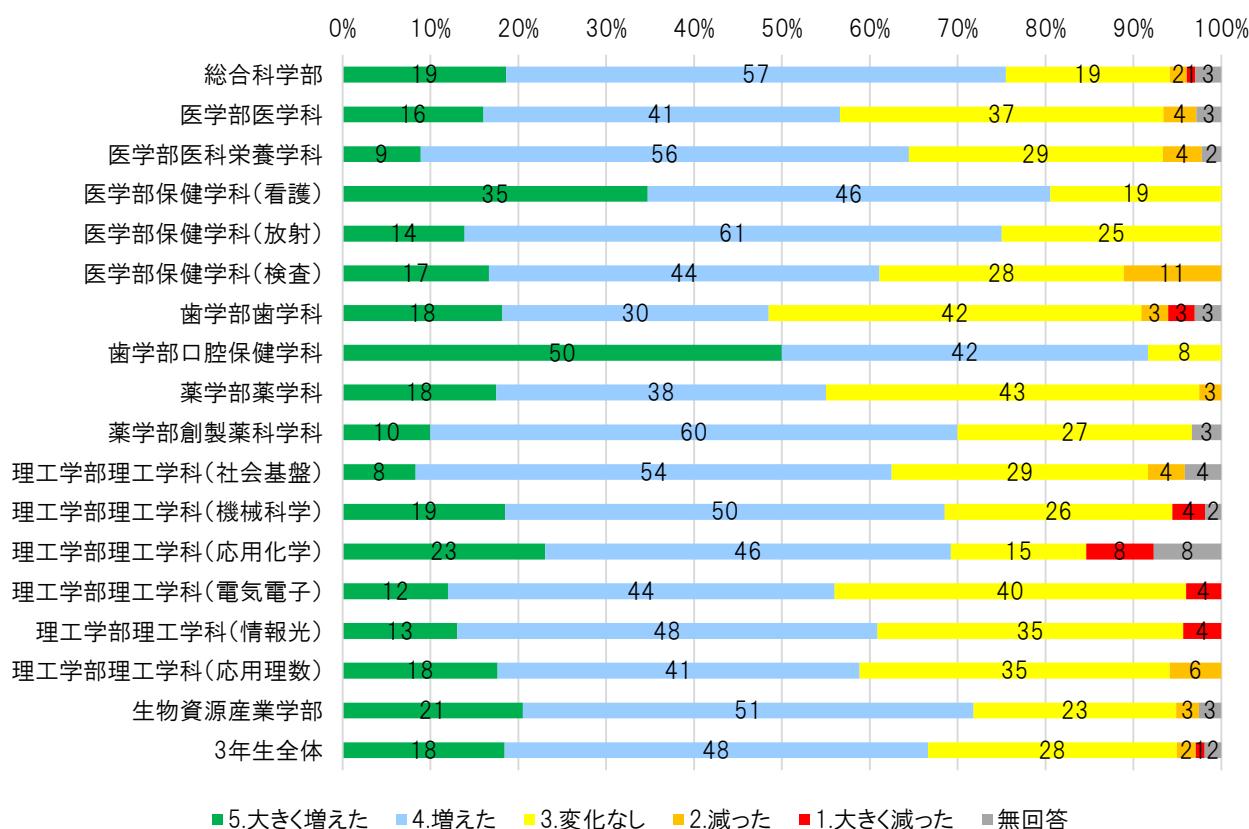
[47]リーダーシップの能力



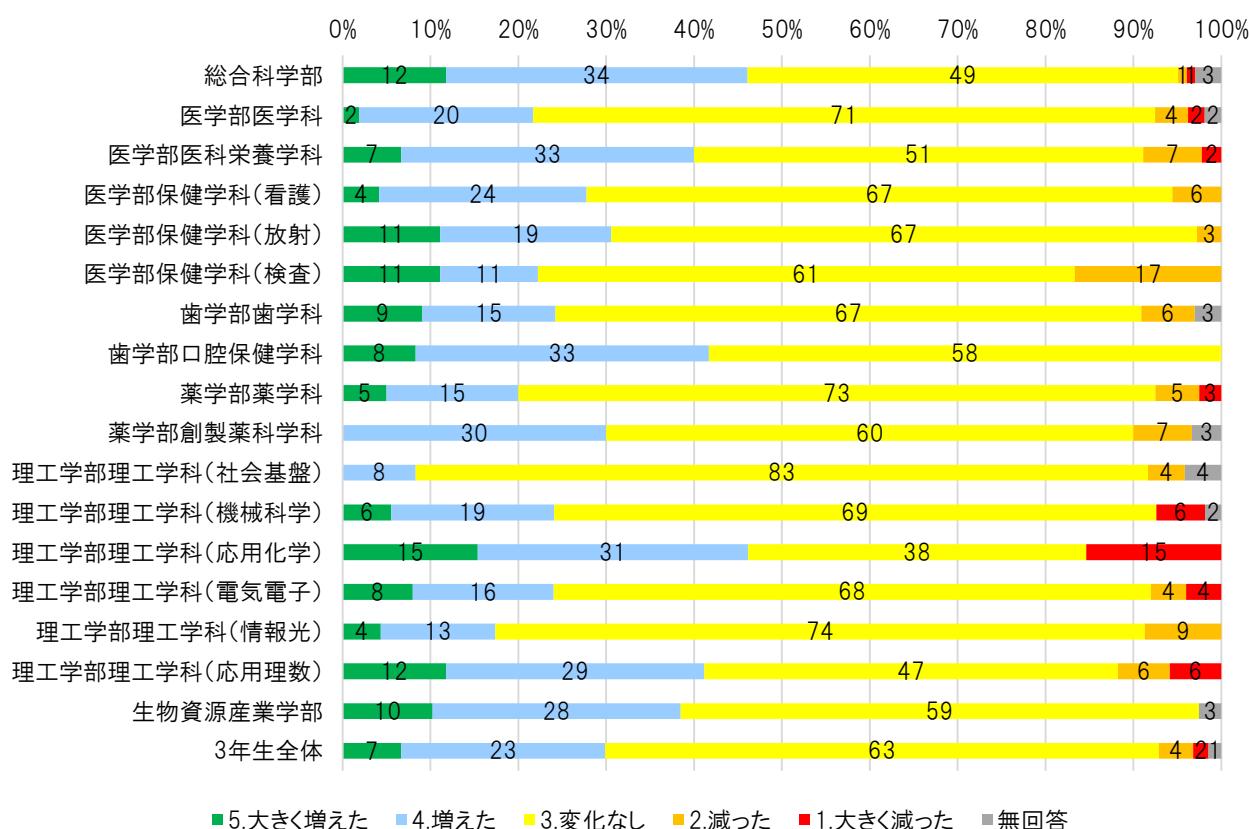
[48]人間関係を構築する能力



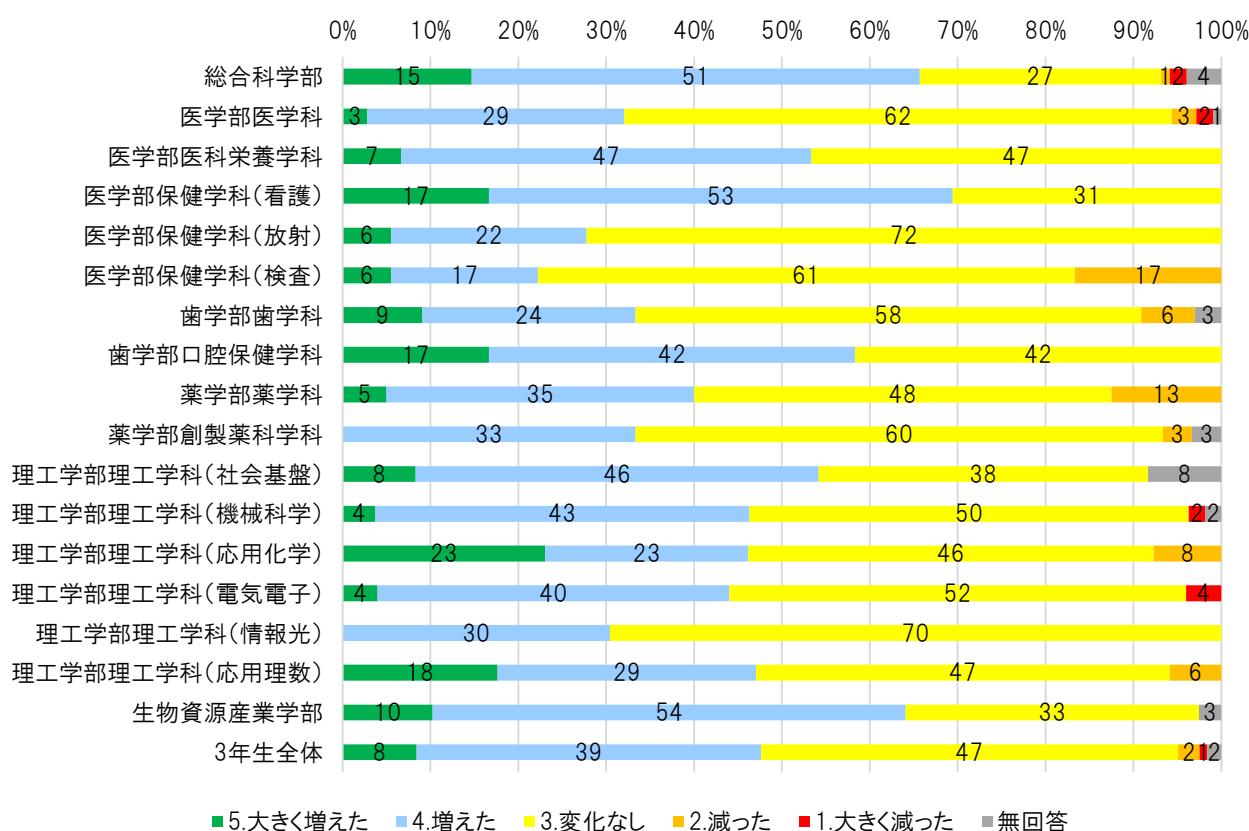
[49]他の人と協力して物事を遂行する能力



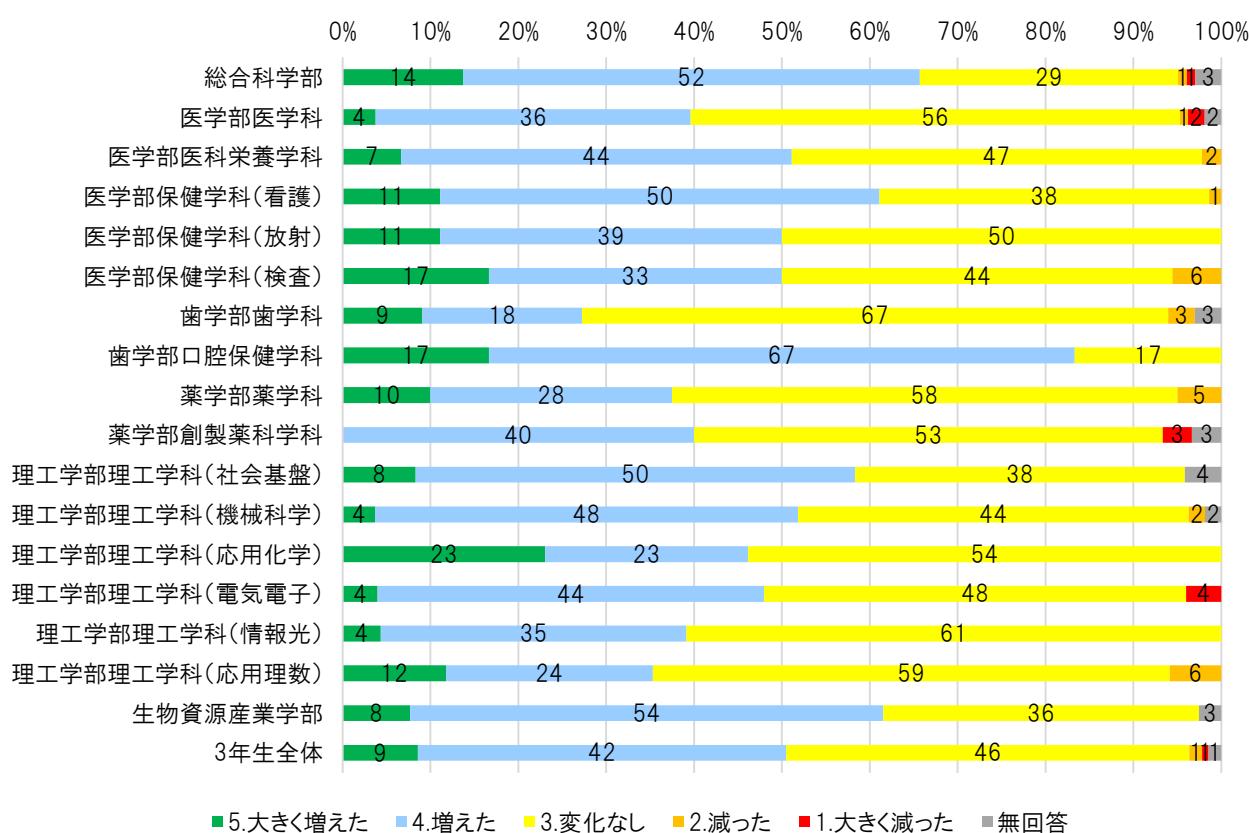
[50]異文化の人々と協力する能力



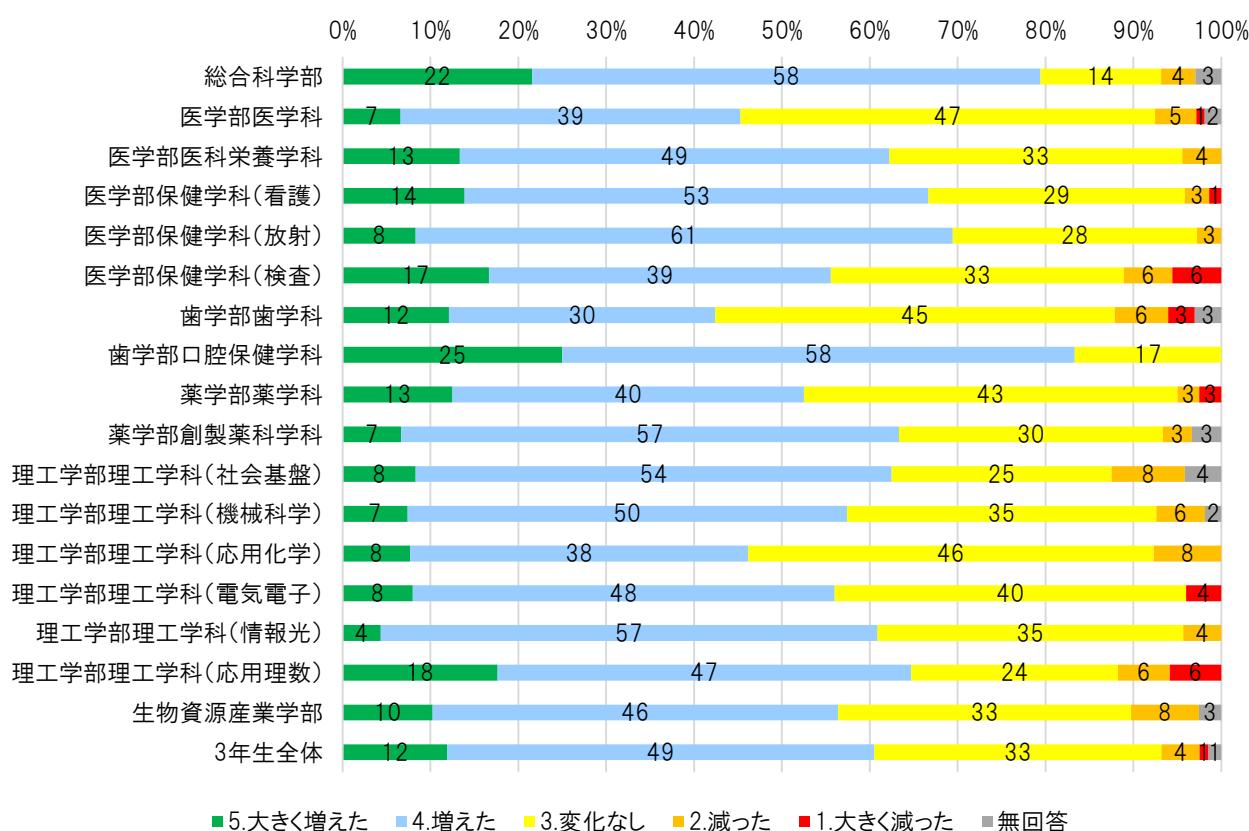
[51]地域社会が直面する問題を理解する能力



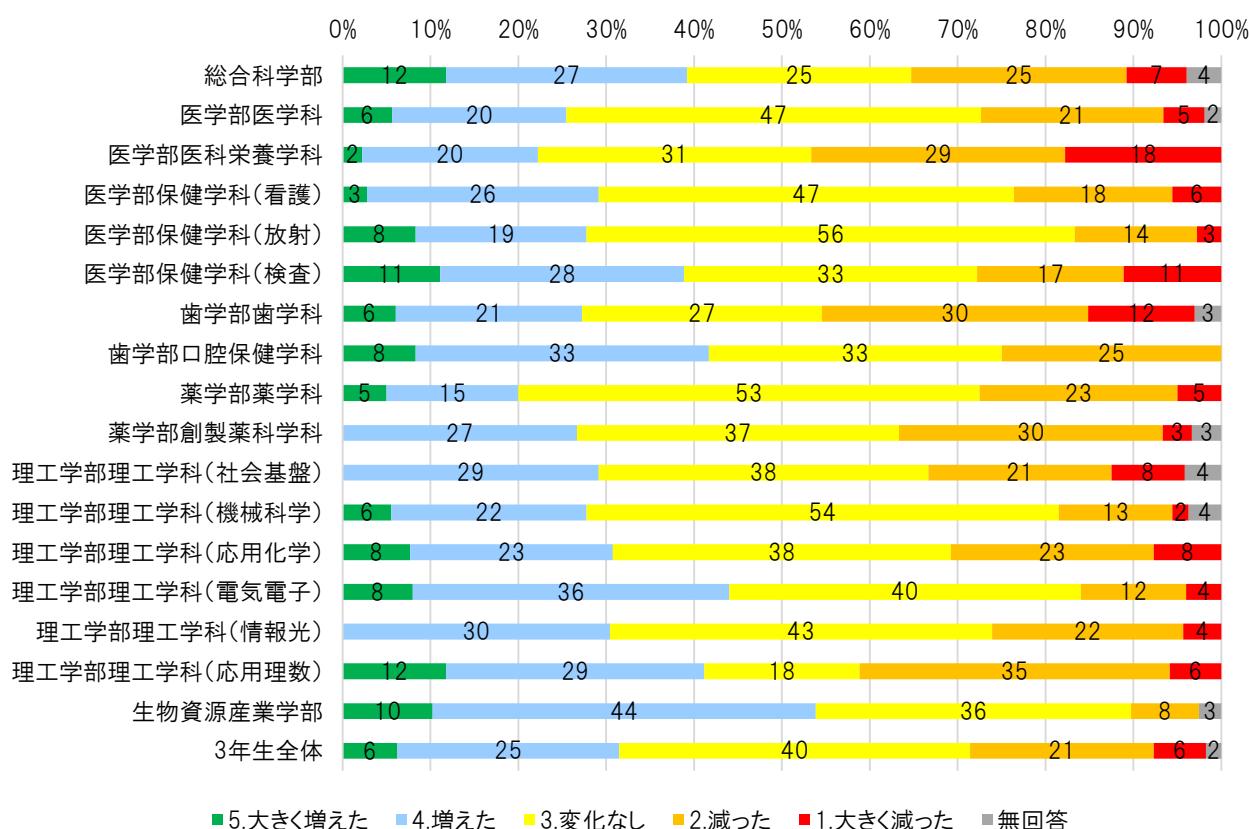
[52]国民が直面する問題を理解する能力



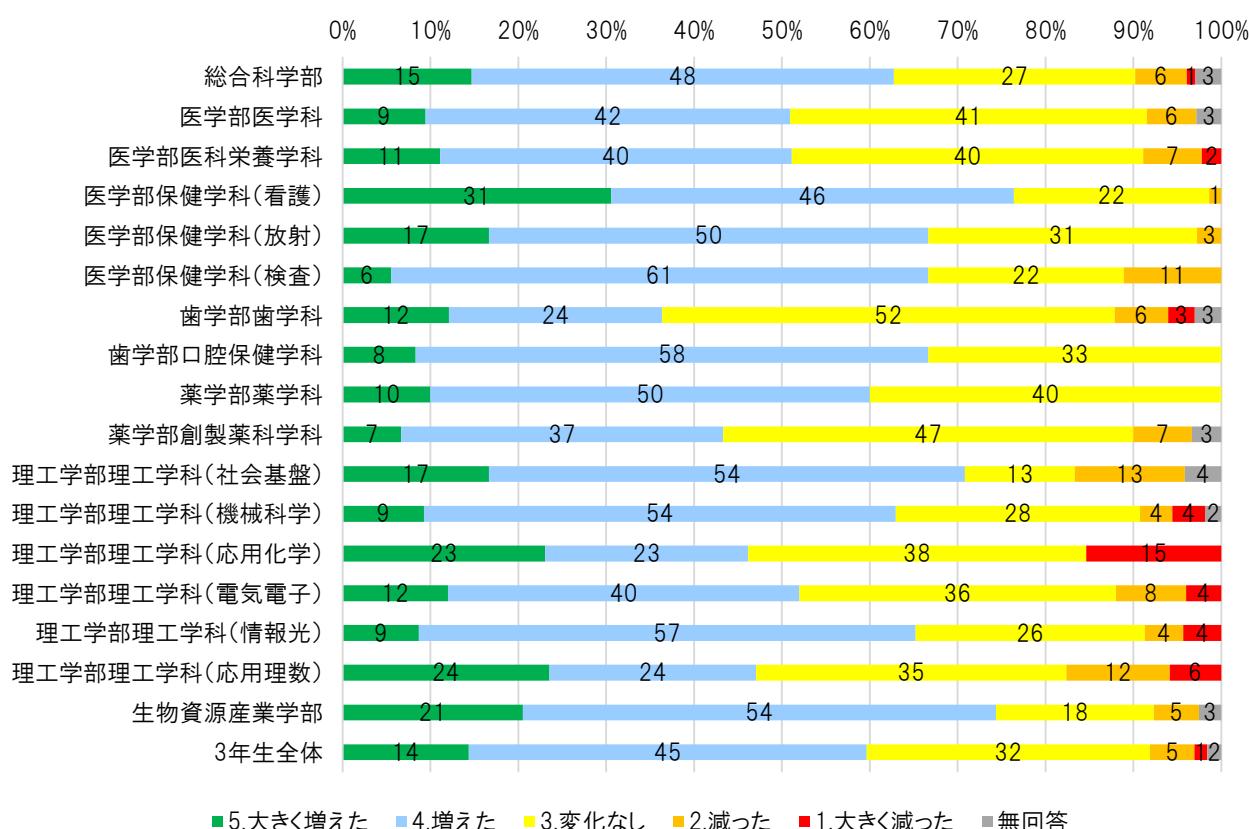
[53]文章表現の能力



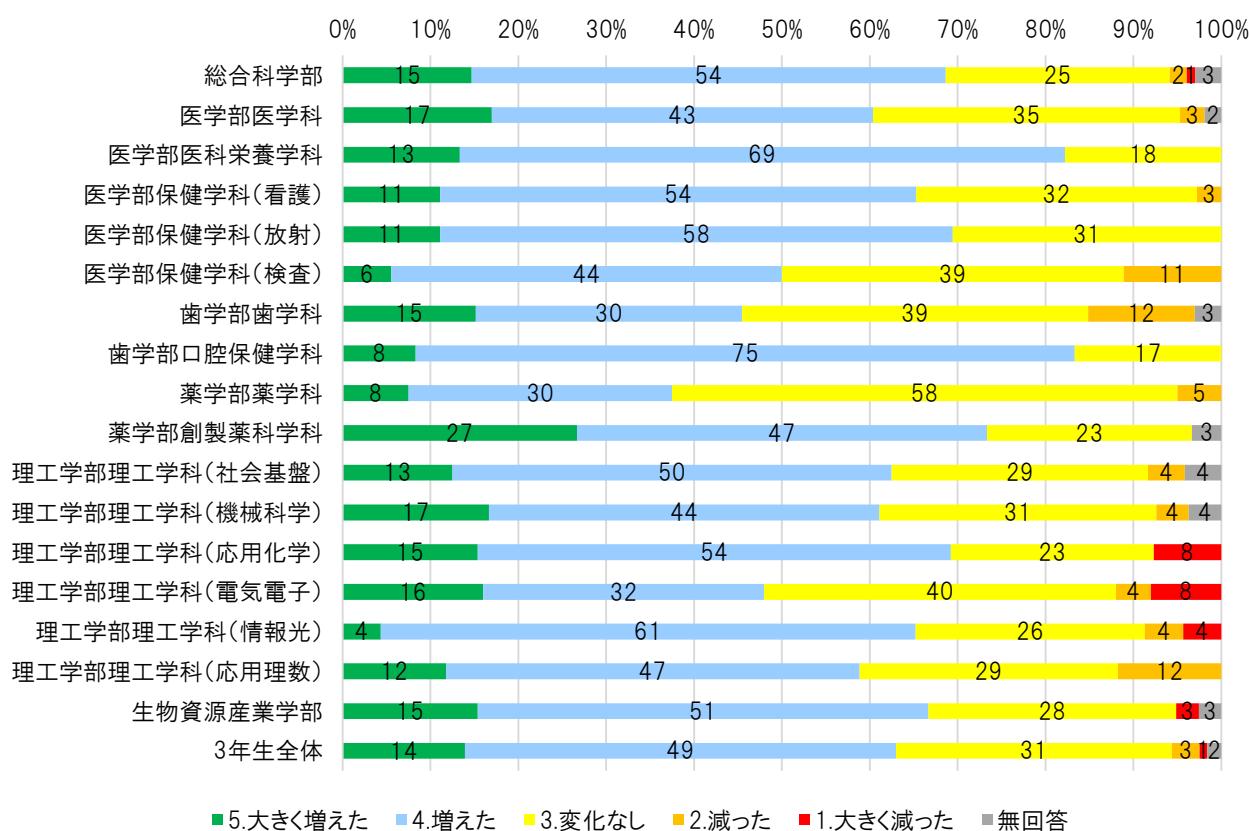
[54]外国語の運用能力



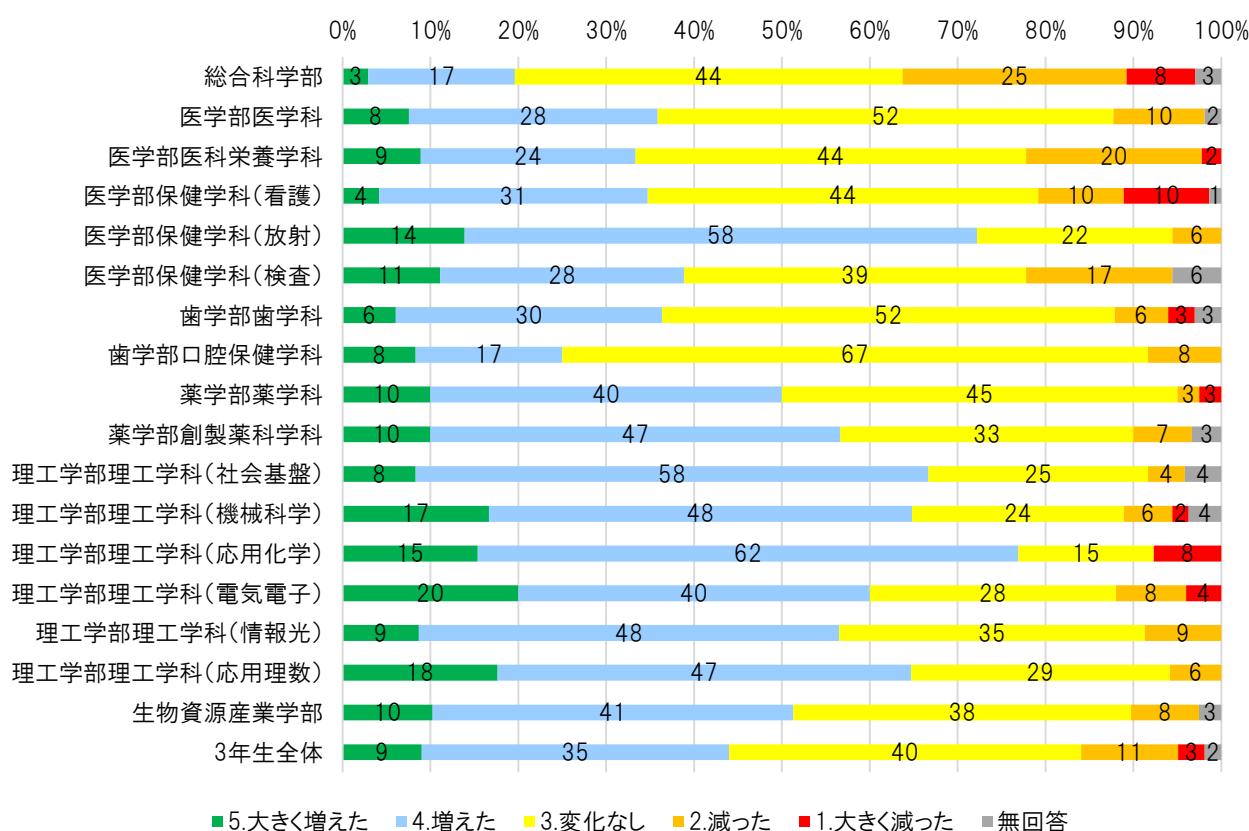
[55]コミュニケーションの能力



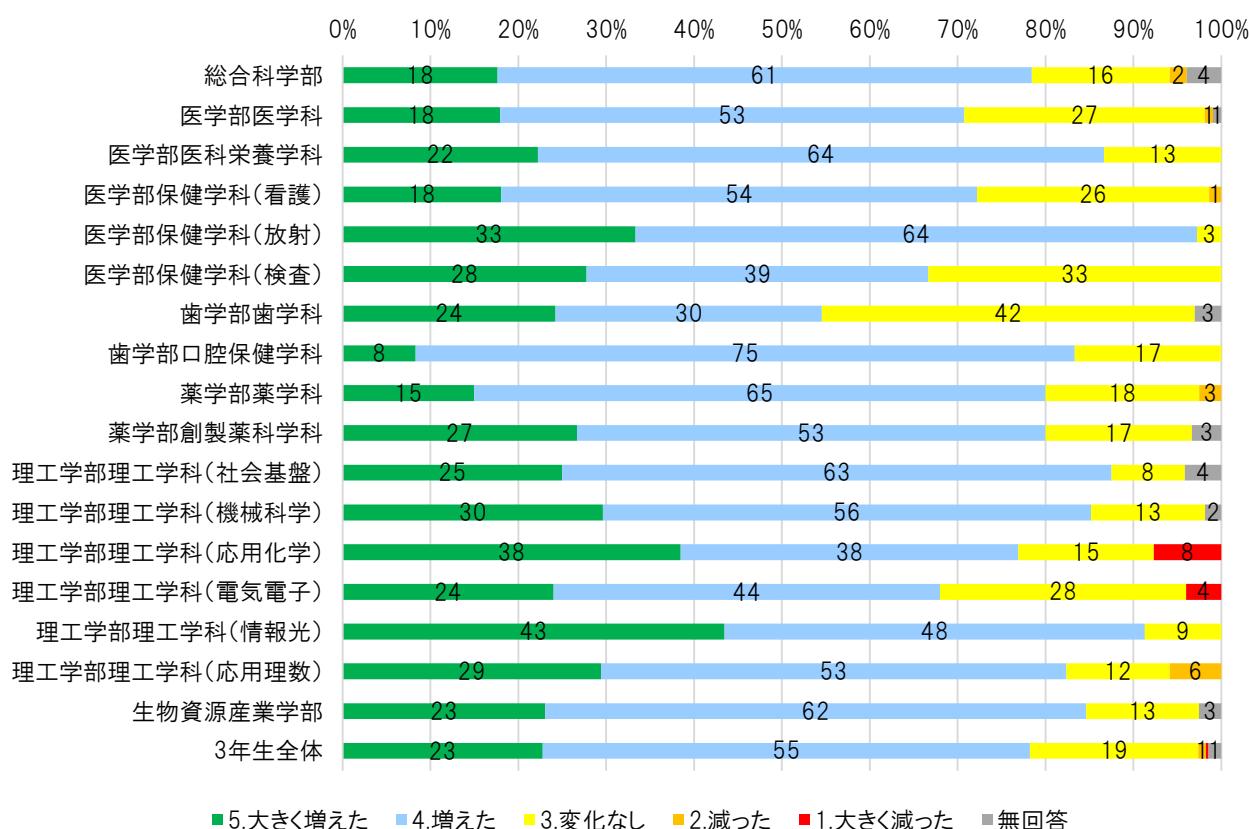
[56]プレゼンテーションの能力



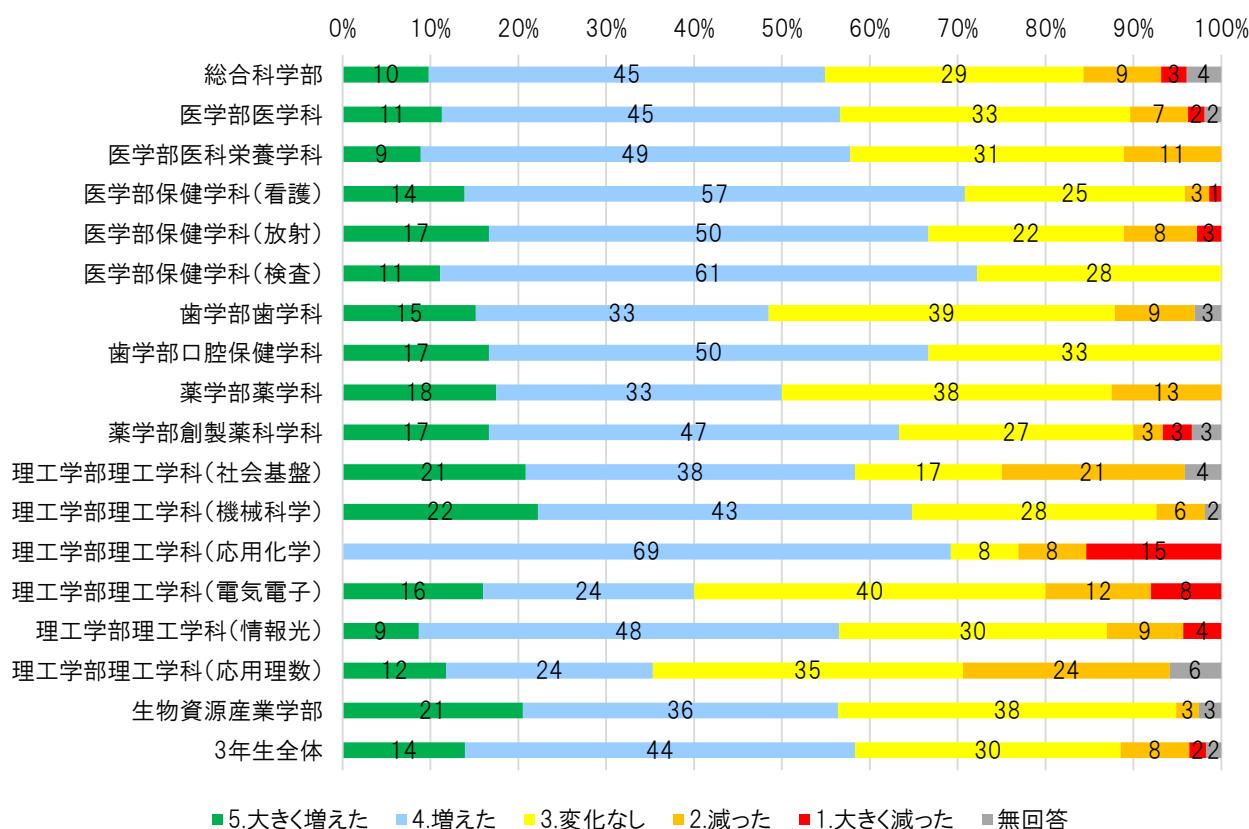
[57]数理的な能力



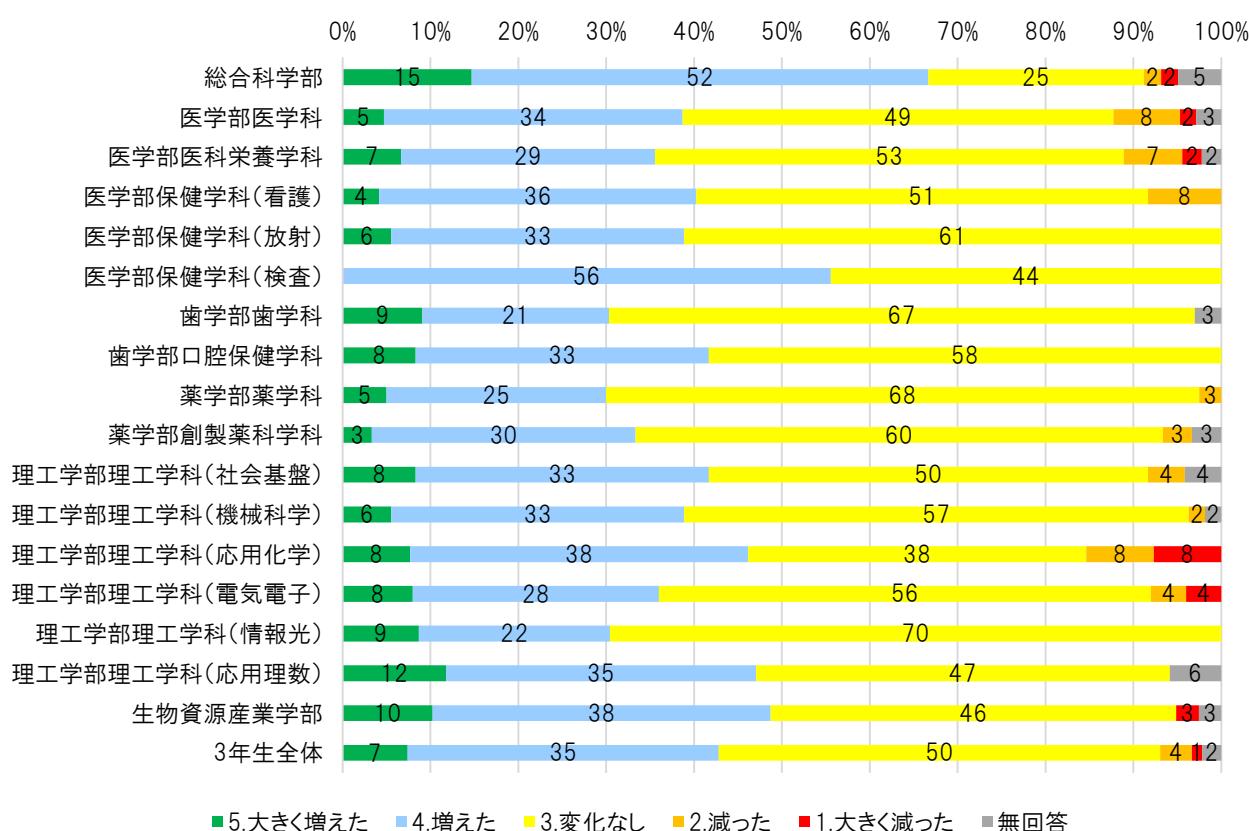
[58]コンピュータの操作能力



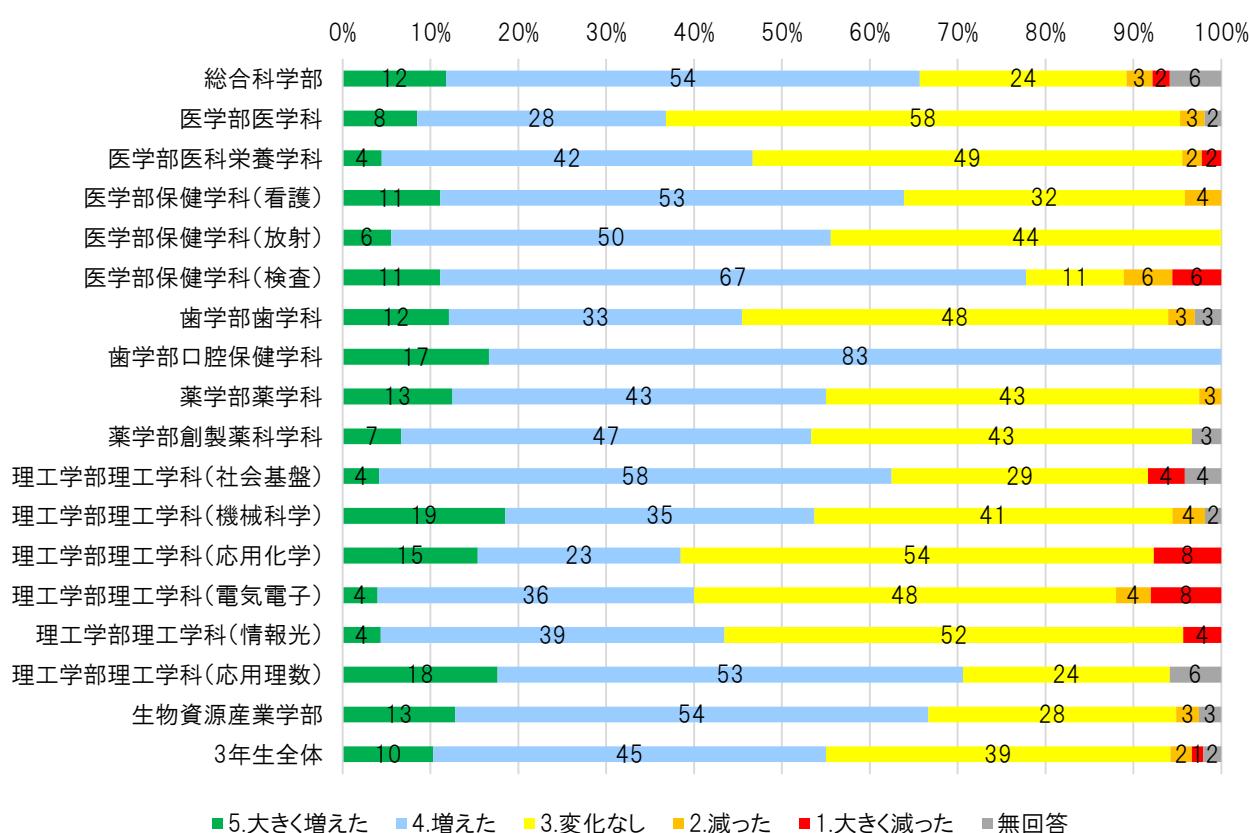
[59]時間を効果的に利用する能力



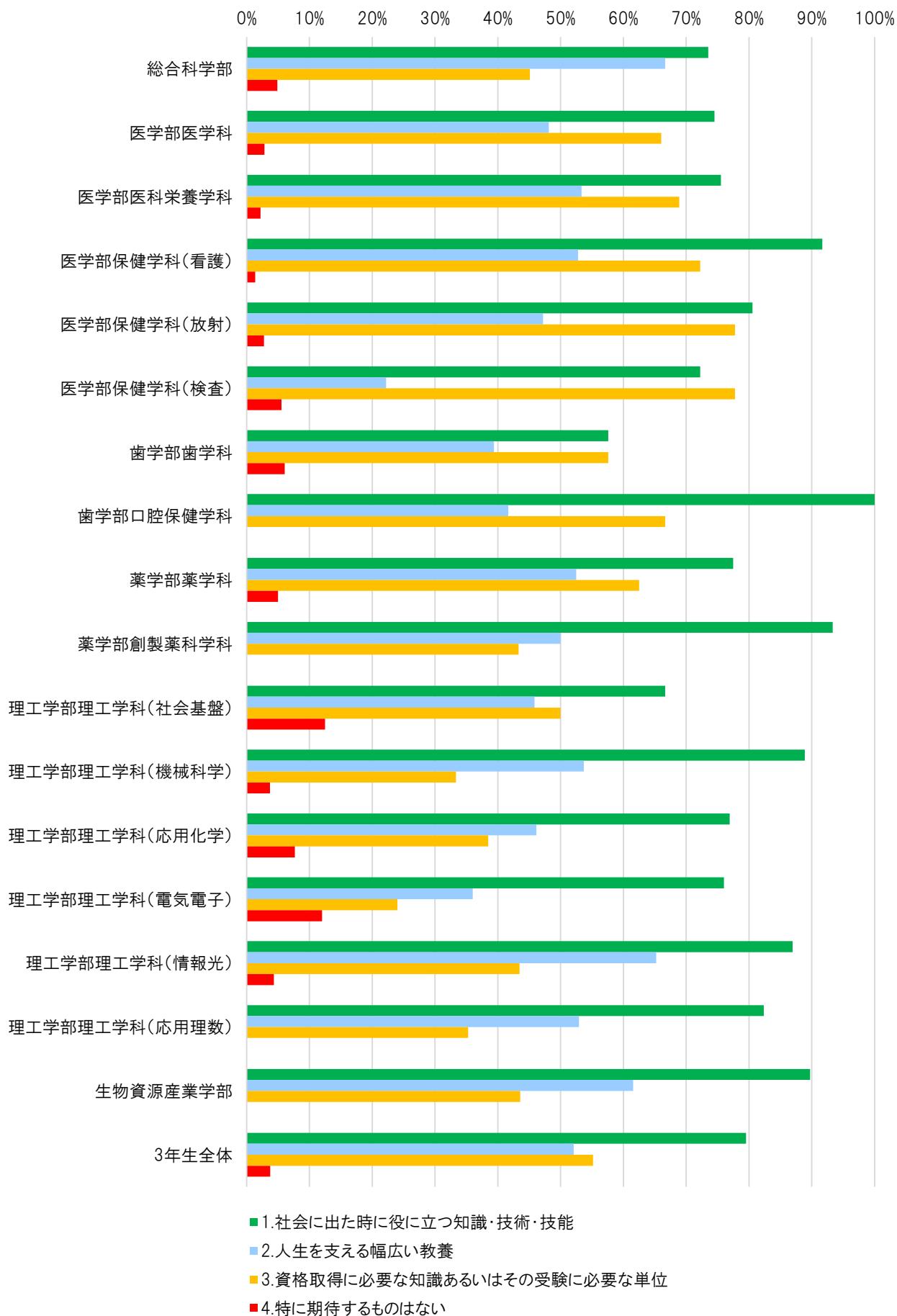
[60]グローバルな問題の理解



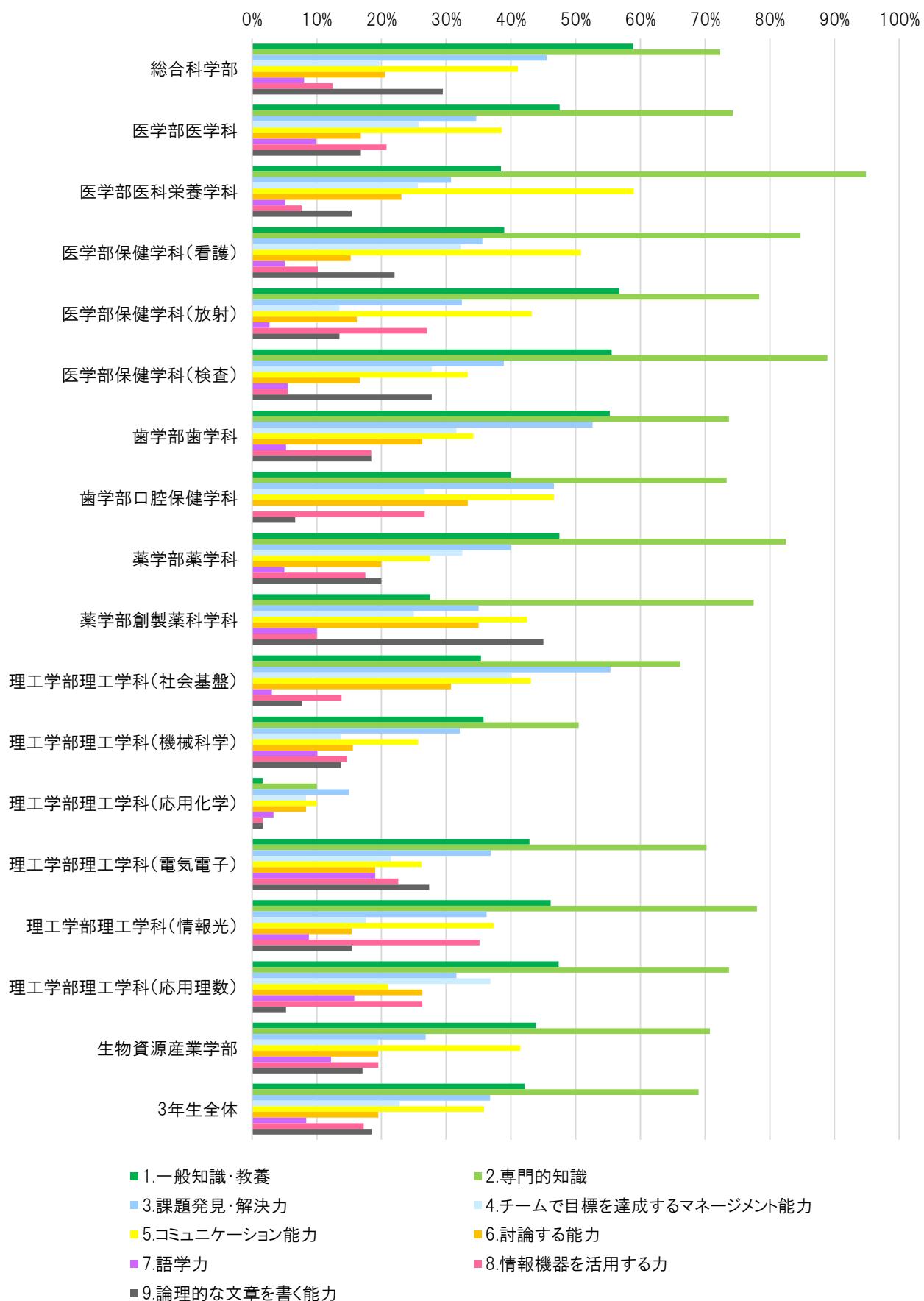
[61]卒業後に就職するための準備の度合い



[62] 大学における教育に対して、何を期待しますか。(複数回答可)

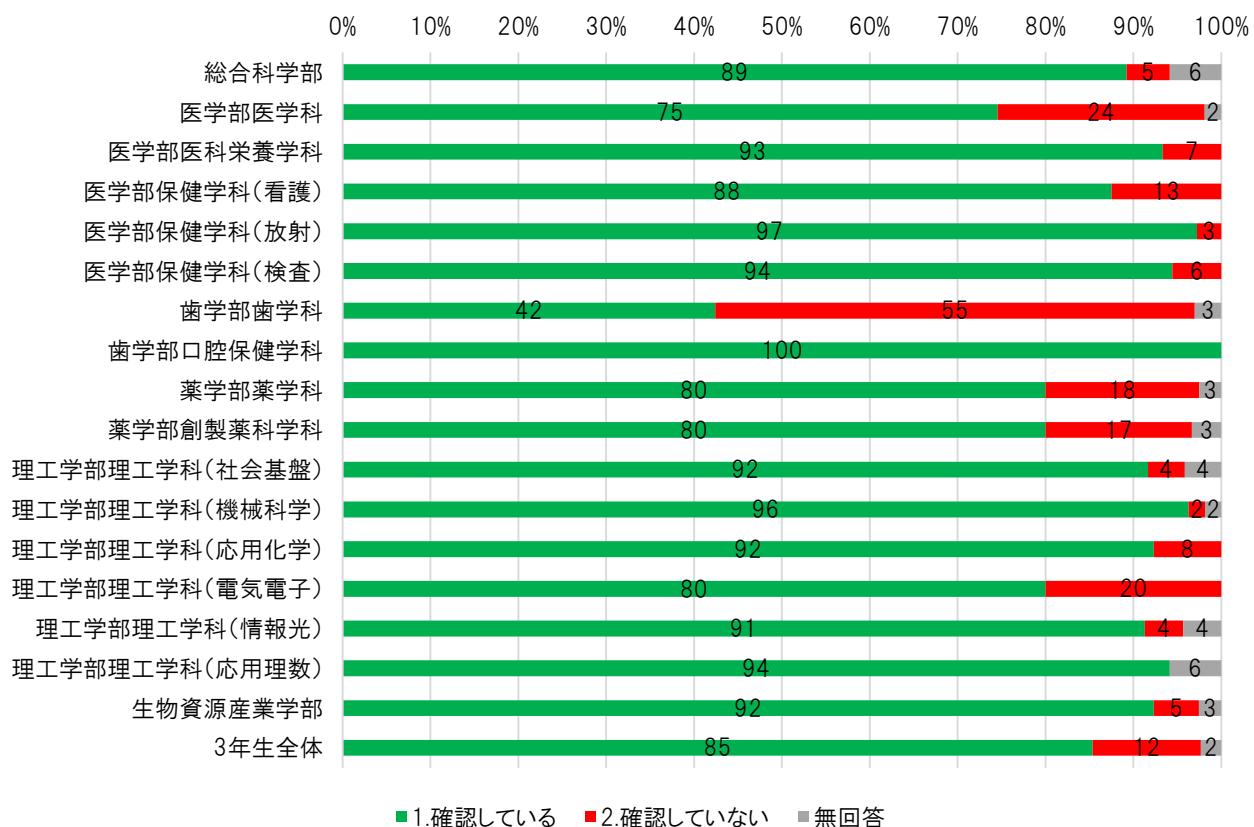


[63] 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力を3つ選んでください。

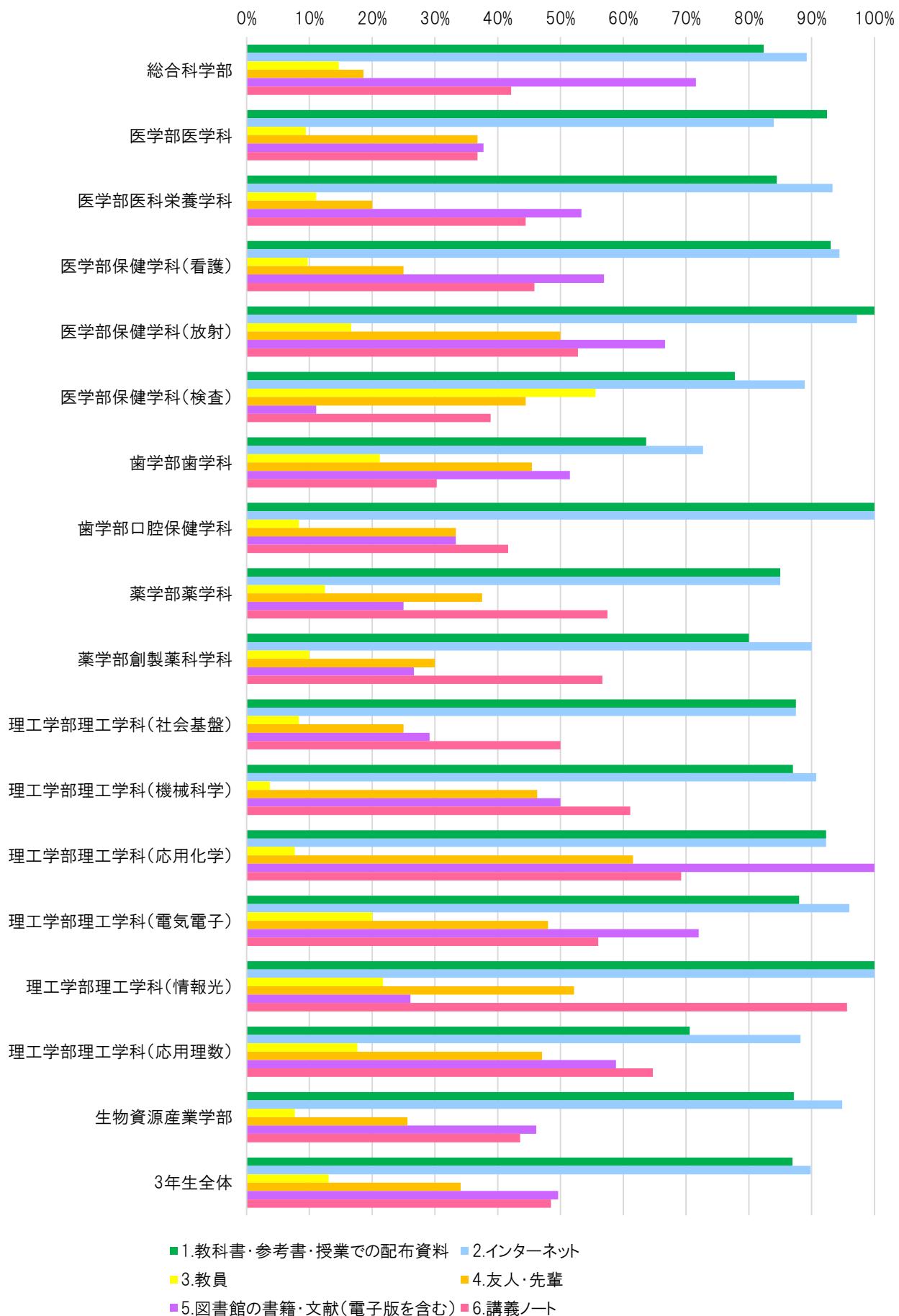


[64] 徳島大学では「GPA(自分が履修したすべての授業科目の成績評価の平均値)」を成績表に記載しています。

す。自身の「GPA」について確認していますか。

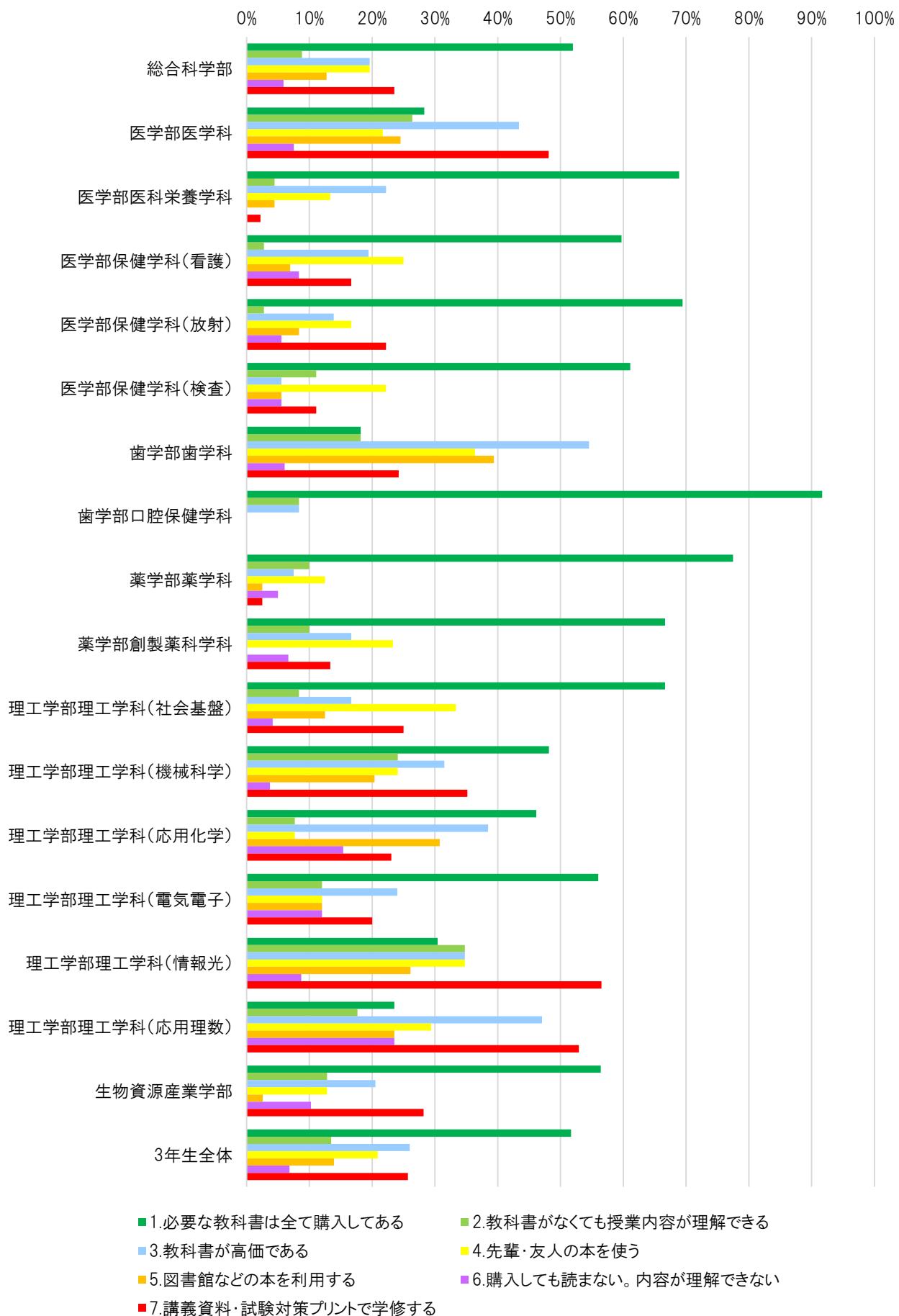


[65]レポートや宿題で、調べものをするときの情報源は何ですか。(複数回答可)

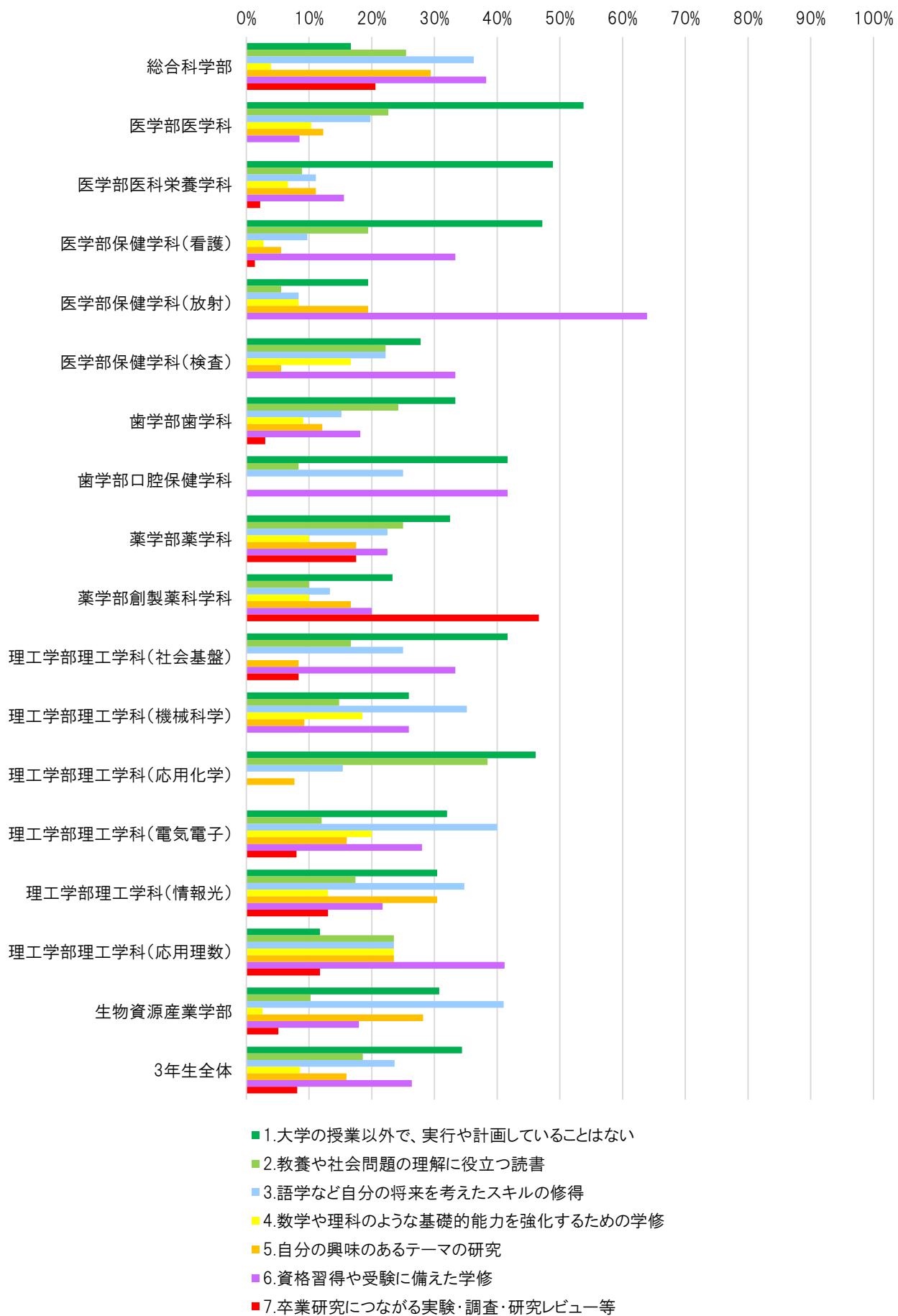


- 1.教科書・参考書・授業での配布資料 ■ 2.インターネット
- 3.教員 ■ 4.友人・先輩
- 5.図書館の書籍・文献(電子版を含む) ■ 6.講義ノート

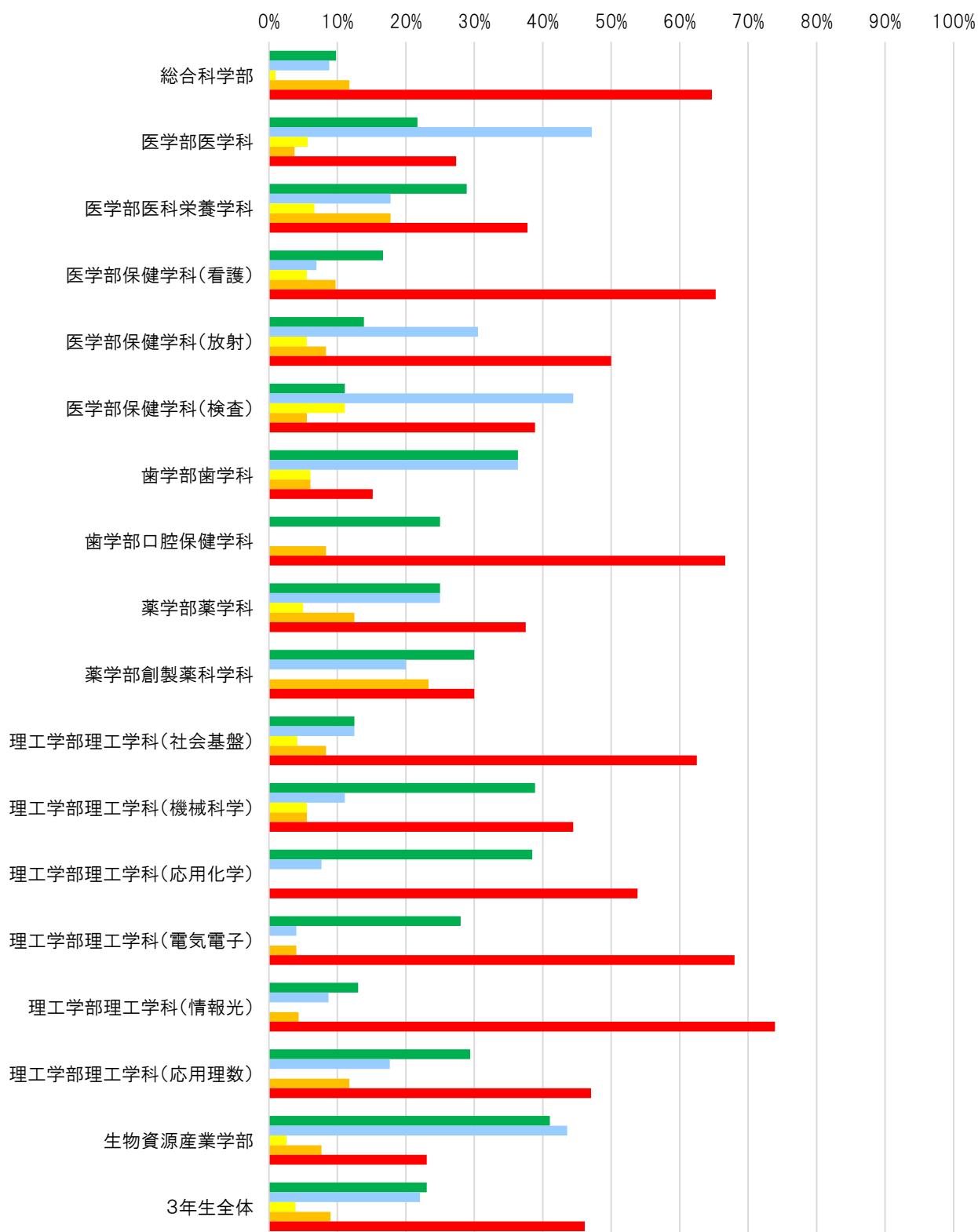
[66]教科書を購入していない場合の理由は何ですか。(複数回答可)



[67]大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。(複数回答可)



[68]高校で履修していない数学、物理、化学、生物について、大学入学後どのように勉強しましたか。(複数回答可)



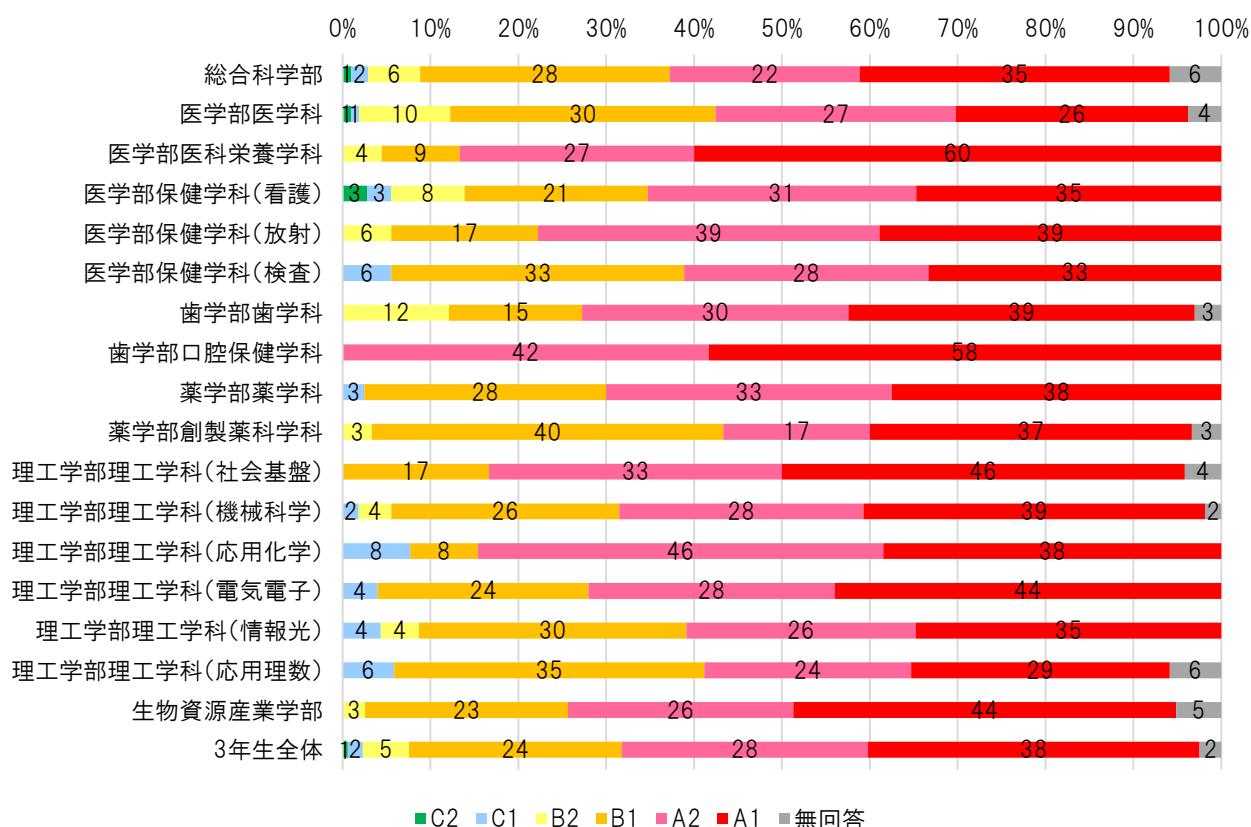
- 1.高校の教科書、参考書を使い、勉強した
- 2.教養教育で開口されている高大接続科目や自然科学入門又はその他の科目を受講した
- 3.HP上の徳島大学LMS(リメディアル教材)を利用して勉強した
- 4.勉強の必要性を感じたが、LMS(リメディアル教材)の存在を知らず何もしていない
- 5.支障を感じないので何もしていない

III. 続けて、英語の学習状況についておうかがいします。

あなたの英語能力を聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力の5つの観点から自己評価した場合に、現在、到達していると思うレベルを、1つ答えてください。

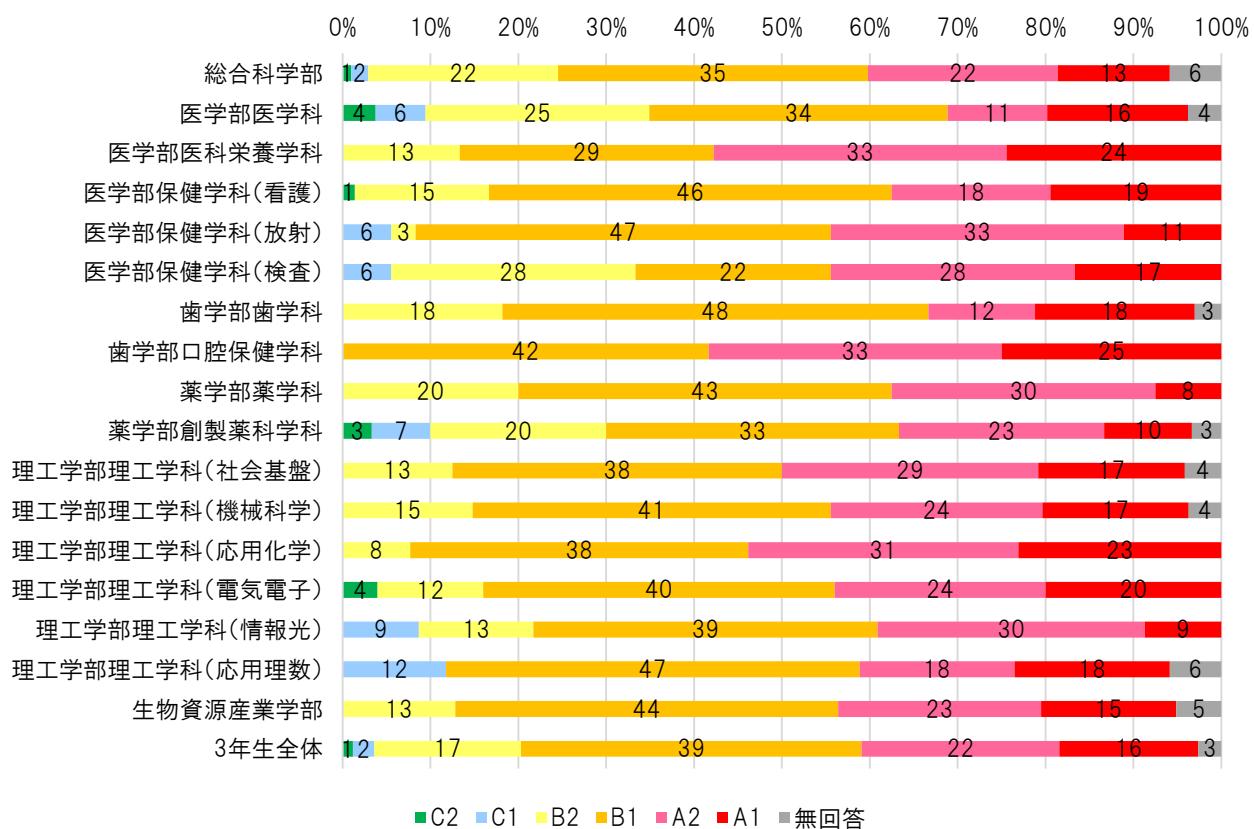
[69]聞く力

- A1 はつきりと、ゆっくり話してもらえば、聞き慣れた語やごく基本的な表現を聞き取れる。
A2 最も頻繁に使われる語彙や表現を理解することができる。
B1 身近な話題について、明瞭で標準的な話し方の会話なら要点を理解することができる。
B2 テレビのニュースや時事問題、標準語の映画ならほとんど理解できる。
C1 特別な努力なしにテレビ番組や映画を理解できる。
C2 母語話者の速いスピードで話されても、どんな種類の話し言葉も難無く理解できる。



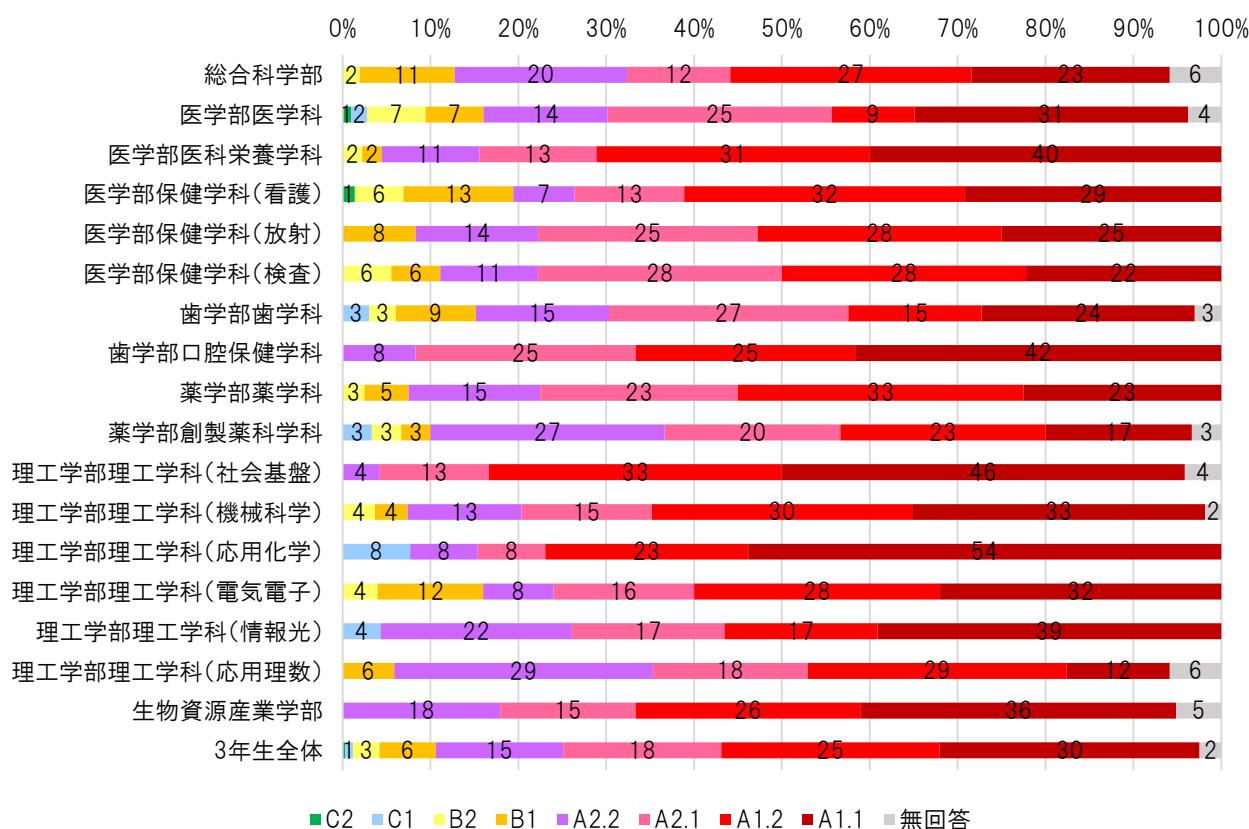
[70]読む力

- A1 揭示やポスター、カタログなどの中のよく知っている名前、単語、単純な文を理解できる。
- A2 ごく短い簡単な文章や、簡単で短い個人的な手紙は理解できる。
- B1 日常語や、自分の知っている分野の文章なら理解できる。簡単で個人的な手紙を理解できる。
- B2 現代の問題についての記事や報告が読める。現代文学の散文は読める。
- C1 複雑な文章を理解できる。自分の関連外の分野の専門的記事も理解できる。
- C2 抽象的で複雑な文章など、あらゆる形式で書かれた言葉を容易に読むことができる。



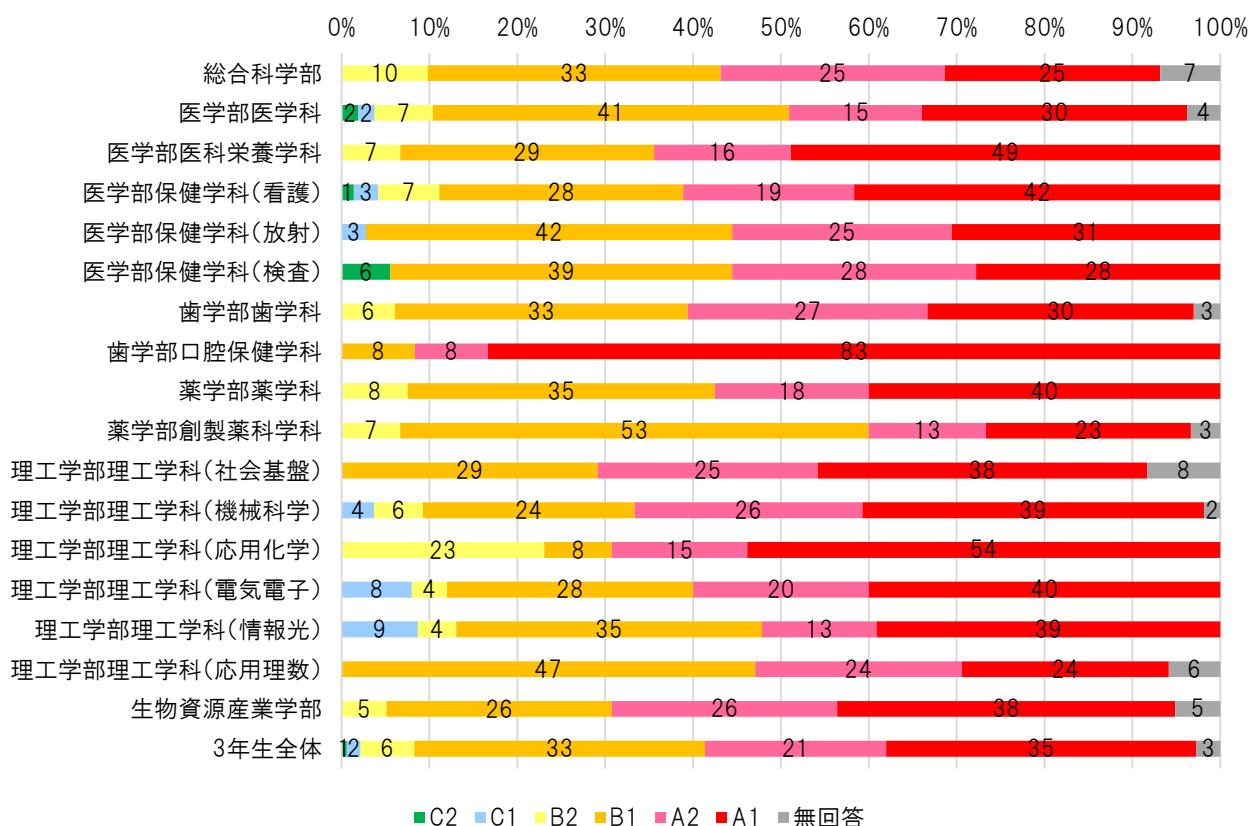
[71]会話力

- A1. 1 決まった言い回しを使って自己紹介をしたり、相手の趣味を尋ねたりできる。
- A1. 2 家族や身の回りのことについて、簡単な質問なら聞いたり答えたりできる。
- A2. 1 短い社交的なやり取りができる。ひとりで会話を続けにくいが、相手の助け舟で、身近な話題について話し続けられる。
- A2. 2 準備をすれば、日常的なある話題について、簡単な言葉を使ってまとまりのある会話ができる。
- B1 日常生活に直接関係のあることや個人的な関心について、準備なしで会話ができる。
- B2 身近な話題の議論に積極的に参加し、自分の意見を説明できる。
- C1 社会上、目的・場面に合った言葉遣いができる、自分の考え方や意見を正確に表現できる。
- C2 いかなる会話や議論でも努力しないで加わることができる。



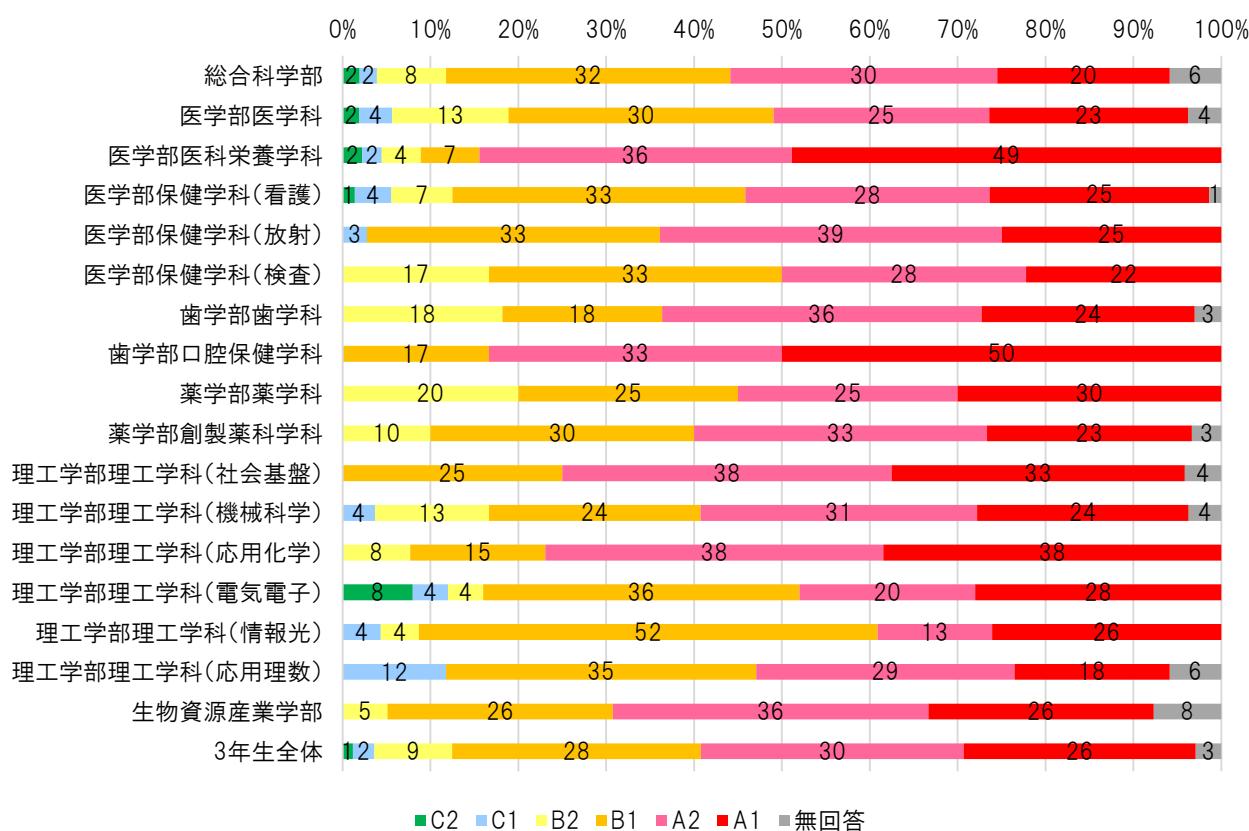
[72]表現力

- A1 住んでいるところ、また、知っている人たちについて、簡単な語句や文を使って表現できる。
- A2 家族、周囲の人々、居住条件を簡単な言葉で説明できる。
- B1 簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、目標を語ることができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明ができる。
- C1 複雑な話題を、一定の観点を展開しながら、適切な結論でまとめ上げることができる。
- C2 論理的な会話で聞き手に重要な点を把握させ、記憶にとどめさせることができる。

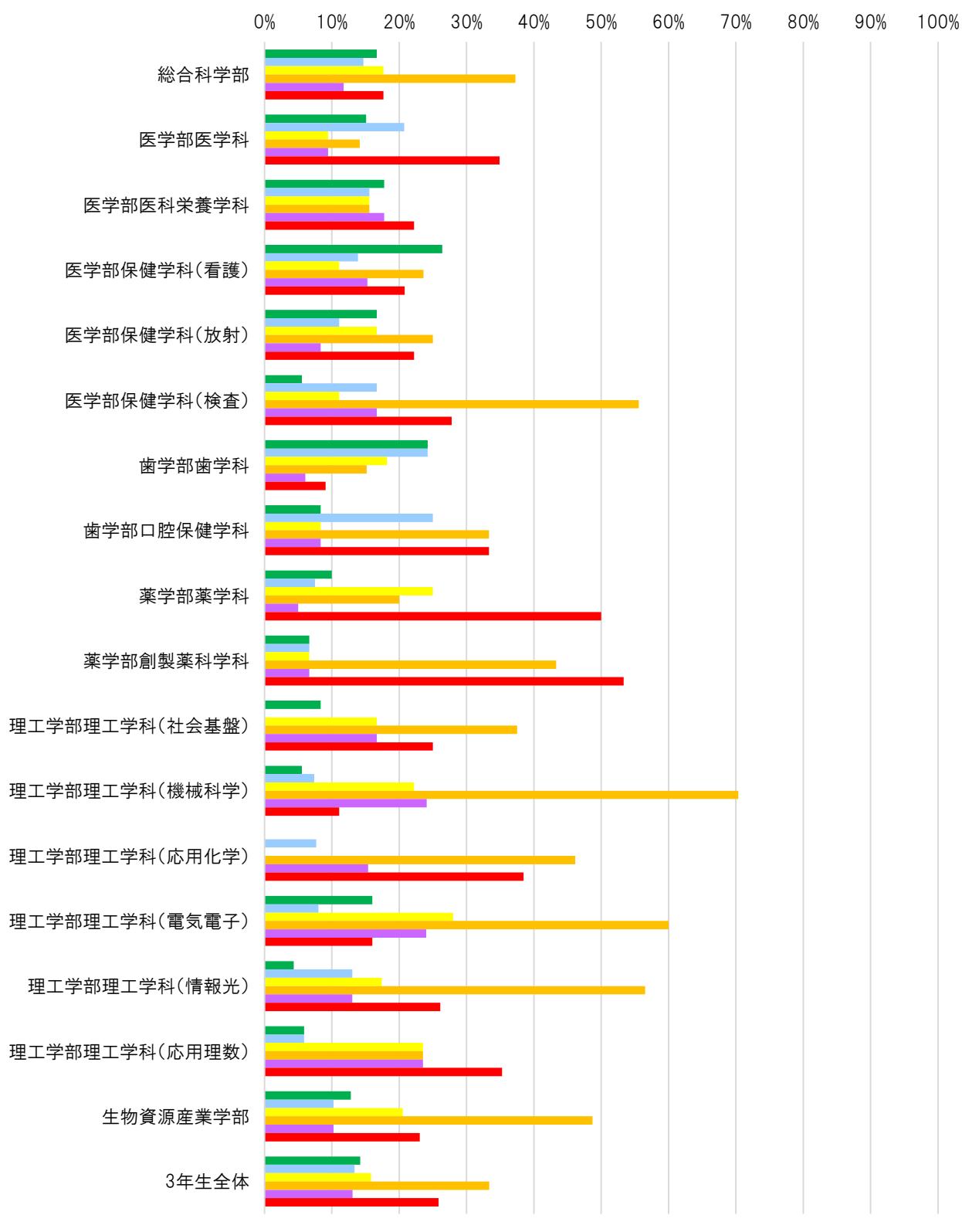


[73]書く力

- A1 お祝いのメッセージなど、短い簡単な葉書を書くことができる。
- A2 簡単に短いメモやメッセージ、短い個人的な手紙なら書くことができる。
- B1 身近で個人的に関心のある話題を書くことができる。個人的な手紙で経験や印象を書くことができる。
- B2 興味関心のある話題について、明瞭で詳細な説明文を書くことができる。
- C1 手紙やエッセイ、レポートで複雑な主題を扱うことができる。
- C2 論理的に事情を説明し、複雑な内容の手紙、レポート、記事を書くことができる。

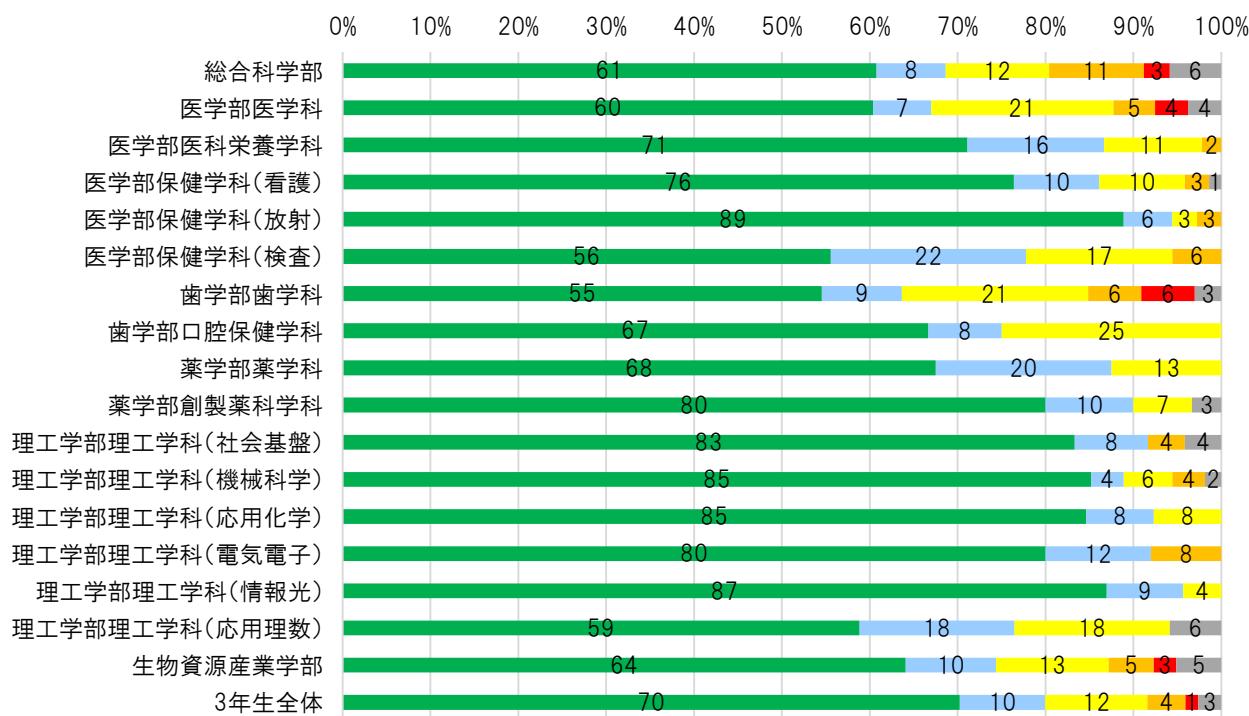


[74]どのように、英語の勉強を行っていますか。(複数回答可)



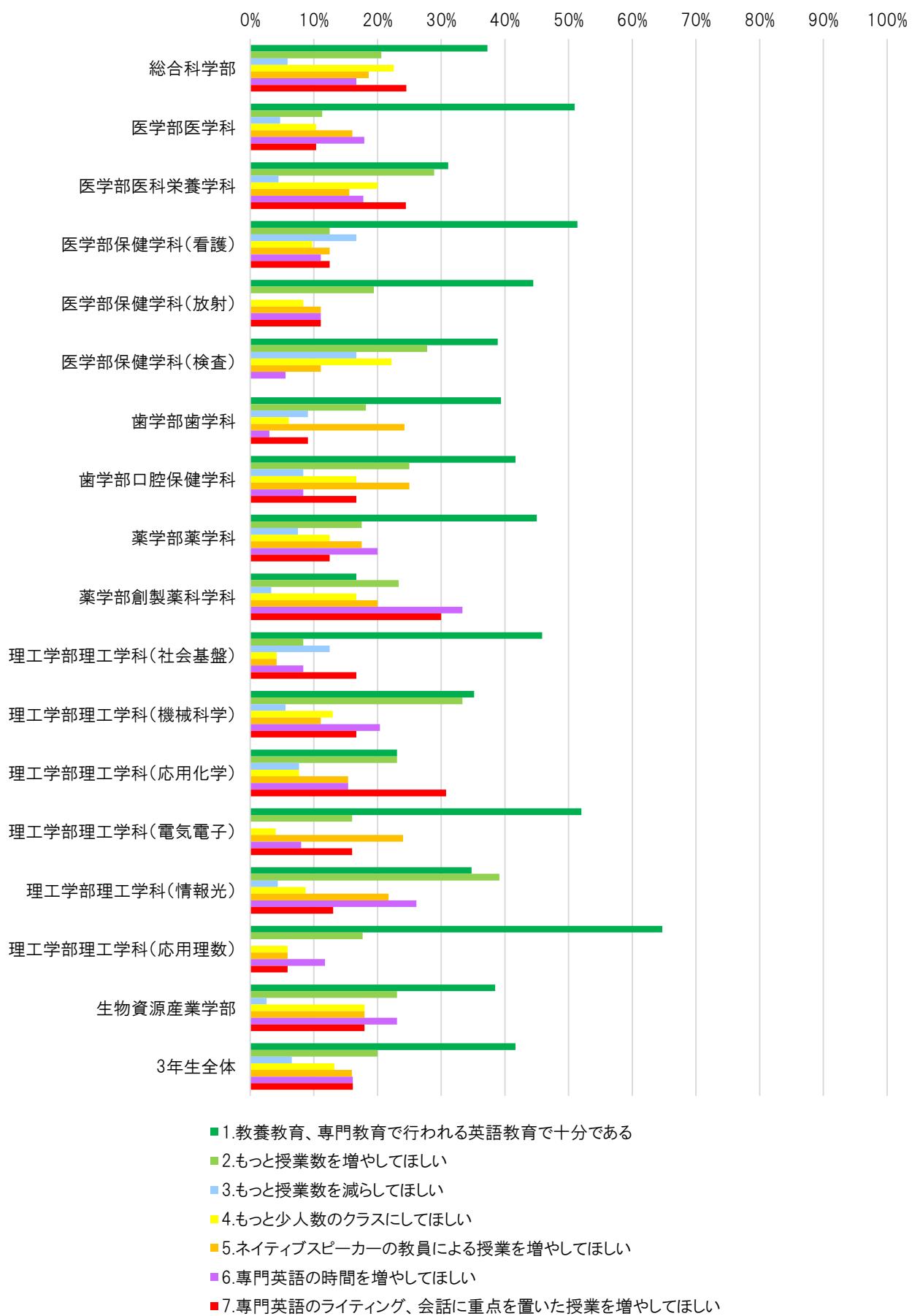
- 1.毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している
- 2.英会話スクールに行ったことがある。または現在通っている
- 3.図書館または大学の英語教材、施設を利用して定期的に英語を勉強している
- 4.TOEICなどの参考書、問題集を購入して定期的に勉強している
- 5.TOEIC, TOEFLや英検などの英語能力試験を定期的に受験している
- 6.授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強している

[75]アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドやこれらの国以外(インド、シンガポール等)などへの渡航経験(期間)についておうかがいします。英語でコミュニケーションをすることを目指した渡航経験があれば、その期間(複数回の経験がある場合は最長のもの)について1つ選んで回答してください。



■ 1. 渡航したことない ■ 2. 10日未満 ■ 3. 10日以上1ヶ月未満 ■ 4. 1ヶ月以上6ヶ月未満 ■ 5. 6ヶ月以上 ■ 6. 無回答

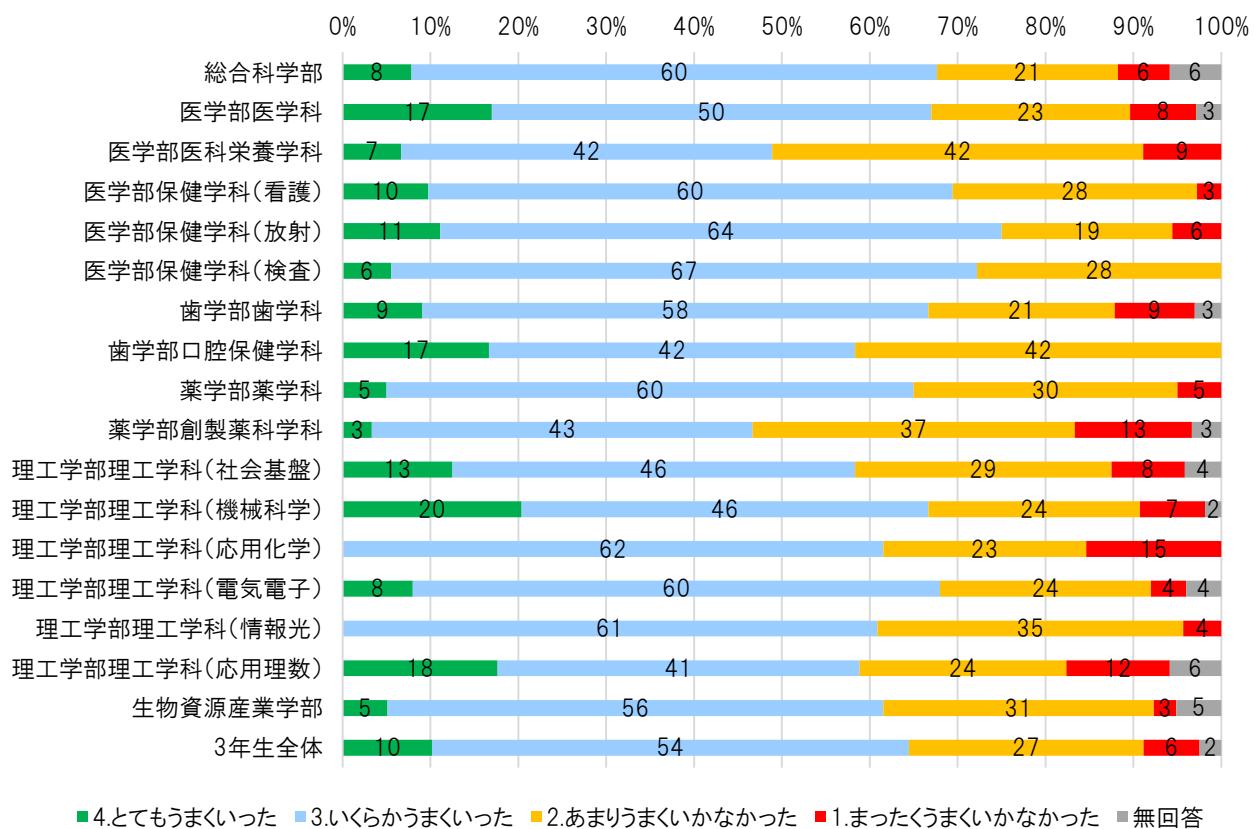
[76]徳島大学における英語教育についてどう思いますか。(複数回答可)



IV. 次に、大学生活に対するあなたの考え方や満足度についておうかがいします。

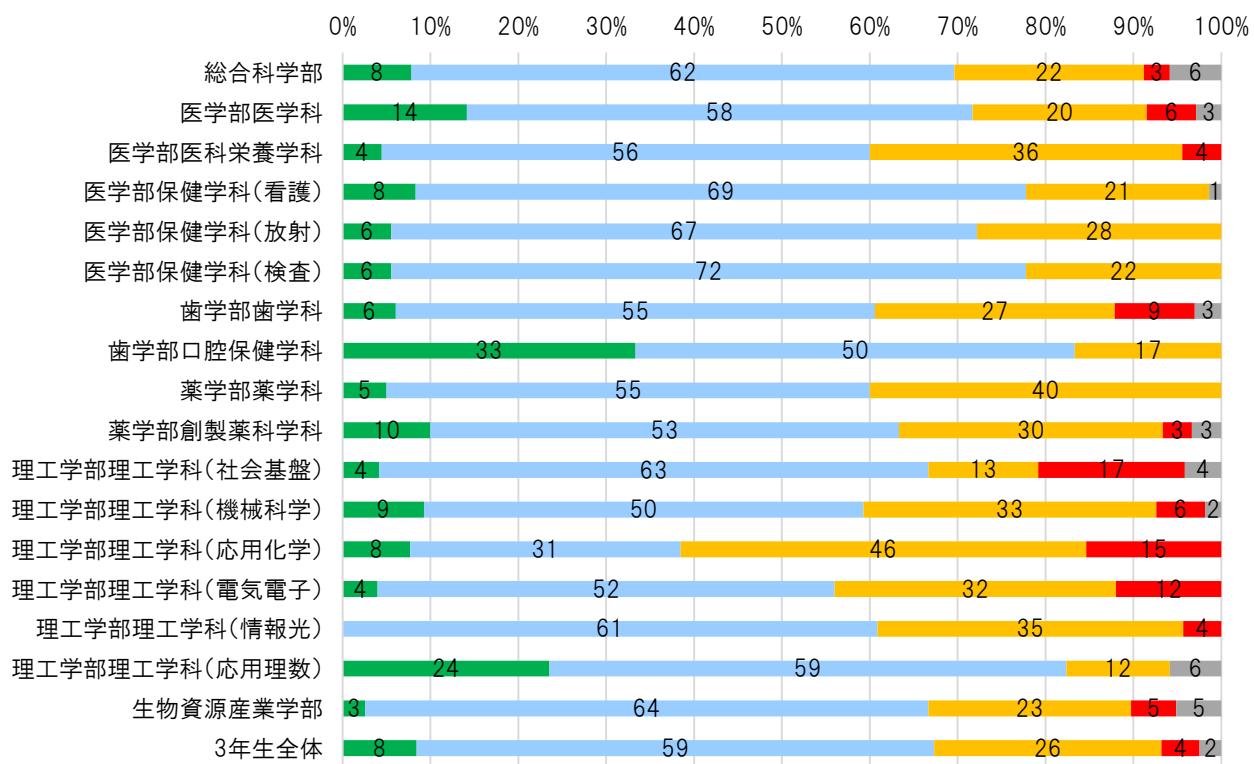
本学に入学してから、あなたにとって次のことがからはどれくらいうまくいきましたか

[77]大学の学生向けサービスを上手に利用する



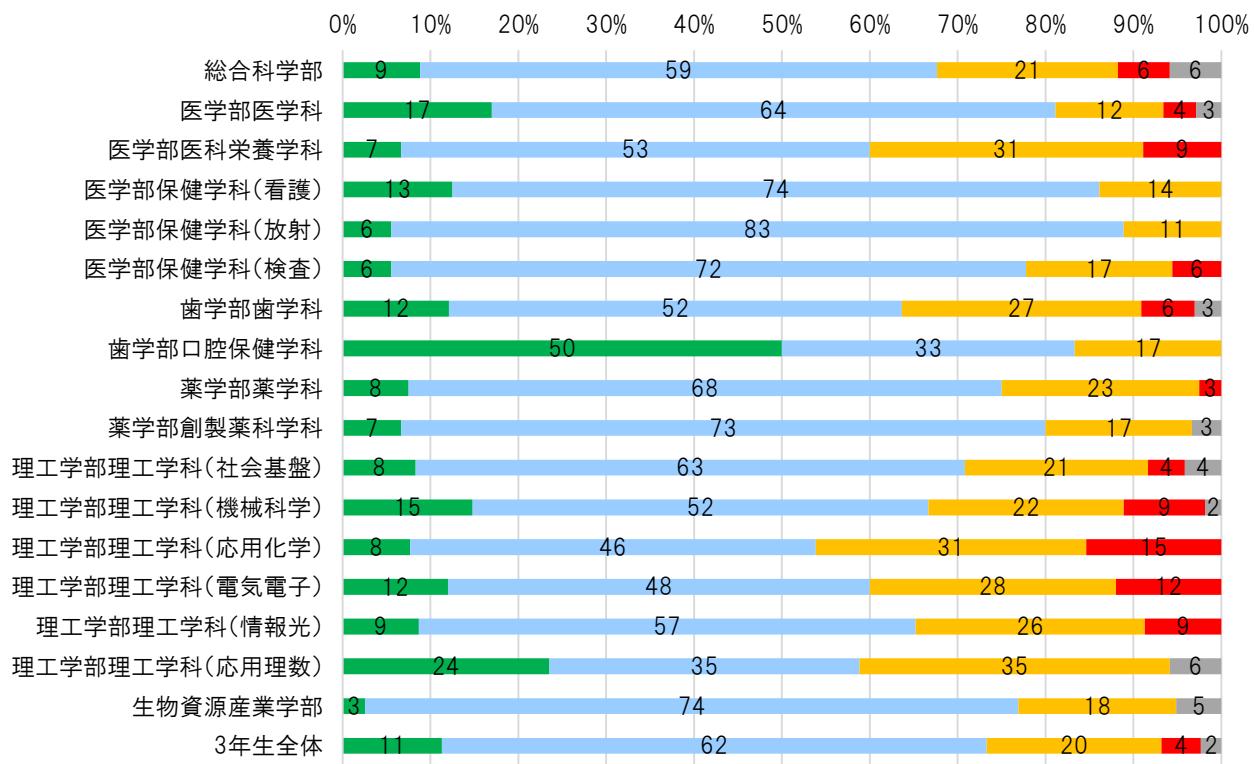
■4.とてもうまくいった ■3.いくらかうまくいった ■2.あまりうまくいかなかった ■1.まったくうまくいかなかった ■無回答

[78]大学教員の学問的な期待を理解する



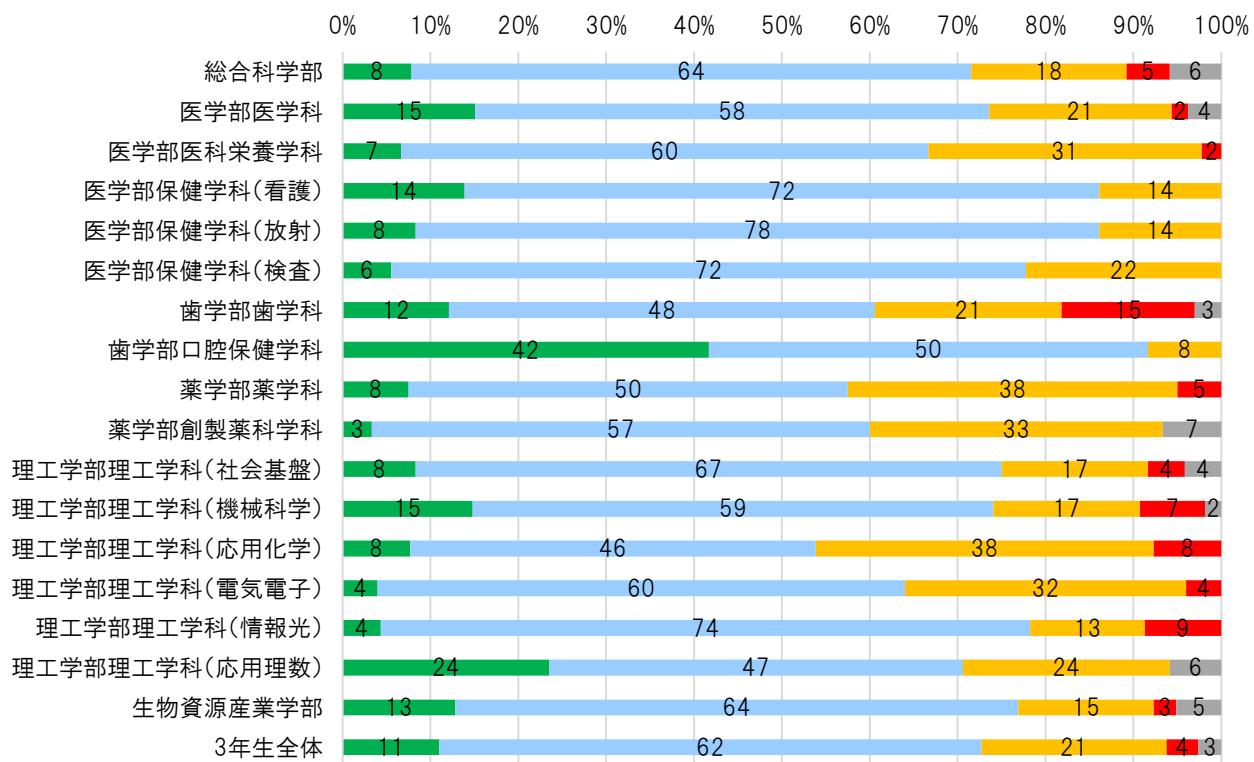
■4.とてもうまくいった ■3.いくらかうまくいった ■2.あまりうまくいかなかった ■1.まったくうまくいかなかった ■無回答

[79]効果的に学習する技能を修得する



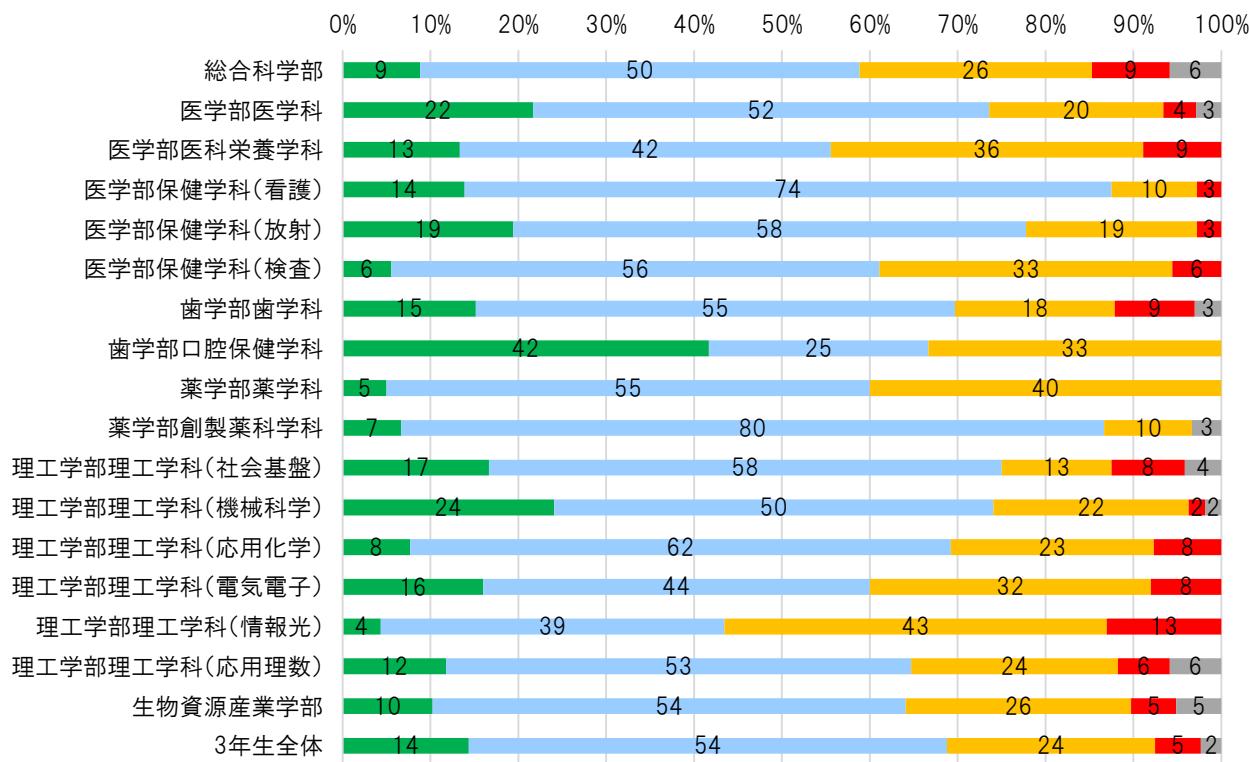
■4.とてもうまくいった ■3.いくらかうまくいった ■2.あまりうまくいかなかつた ■1.まったくうまくいかなかつた ■無回答

[80]大学が求める水準に応えて学習する



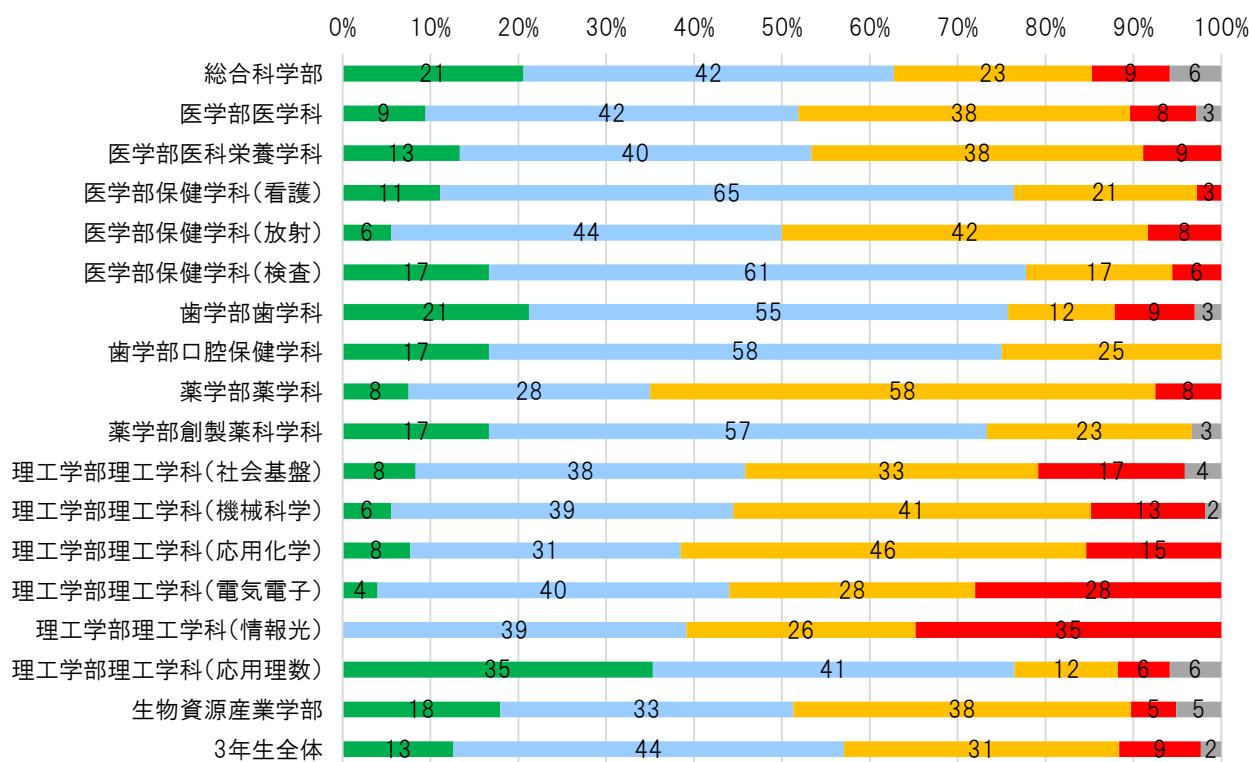
■4.とてもうまくいった ■3.いくらかうまくいった ■2.あまりうまくいかなかつた ■1.まったくうまくいかなかつた ■無回答

[81]時間を効果的に使う



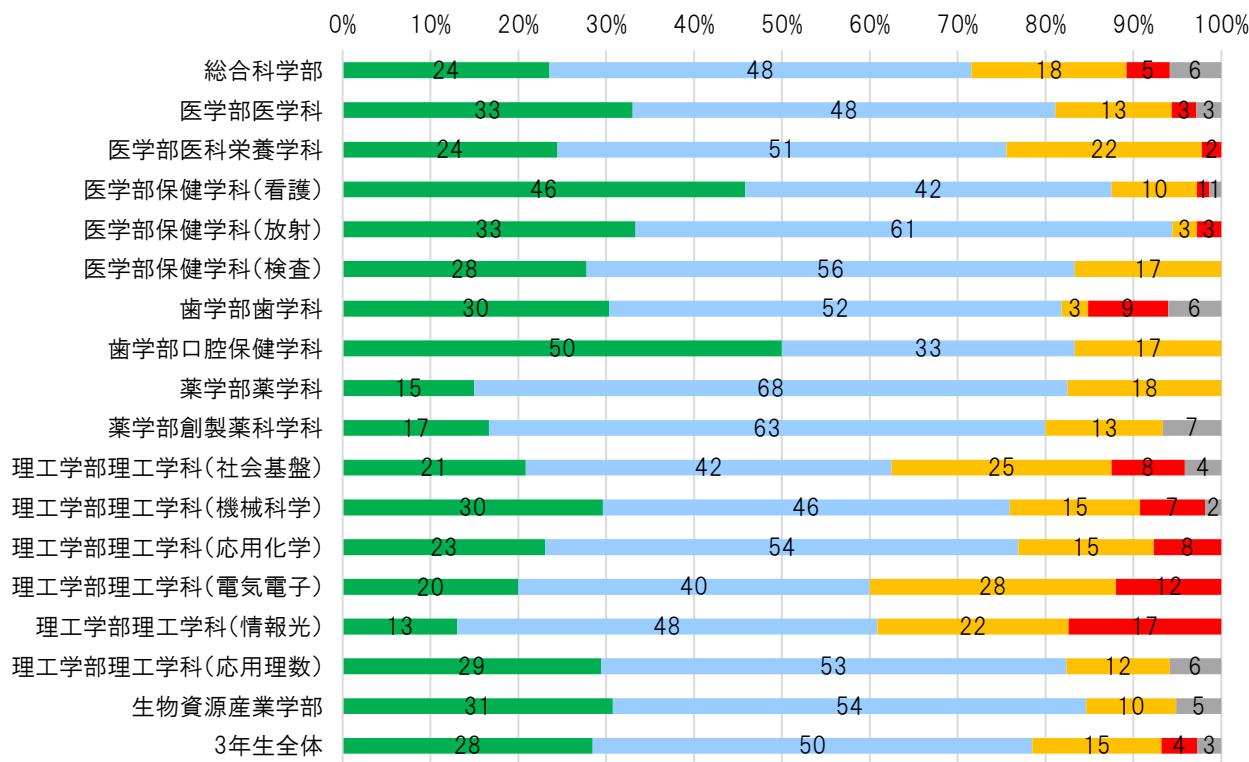
■4.とてもうまくいった ■3.いくらかうまくいった ■2.あまりうまくいかなかつた ■1.まったくうまくいかなかつた ■無回答

[82]大学教員と顔見知りになる



■4.とてもうまくいった ■3.いくらかうまくいった ■2.あまりうまくいかなかつた ■1.まったくうまくいかなかつた ■無回答

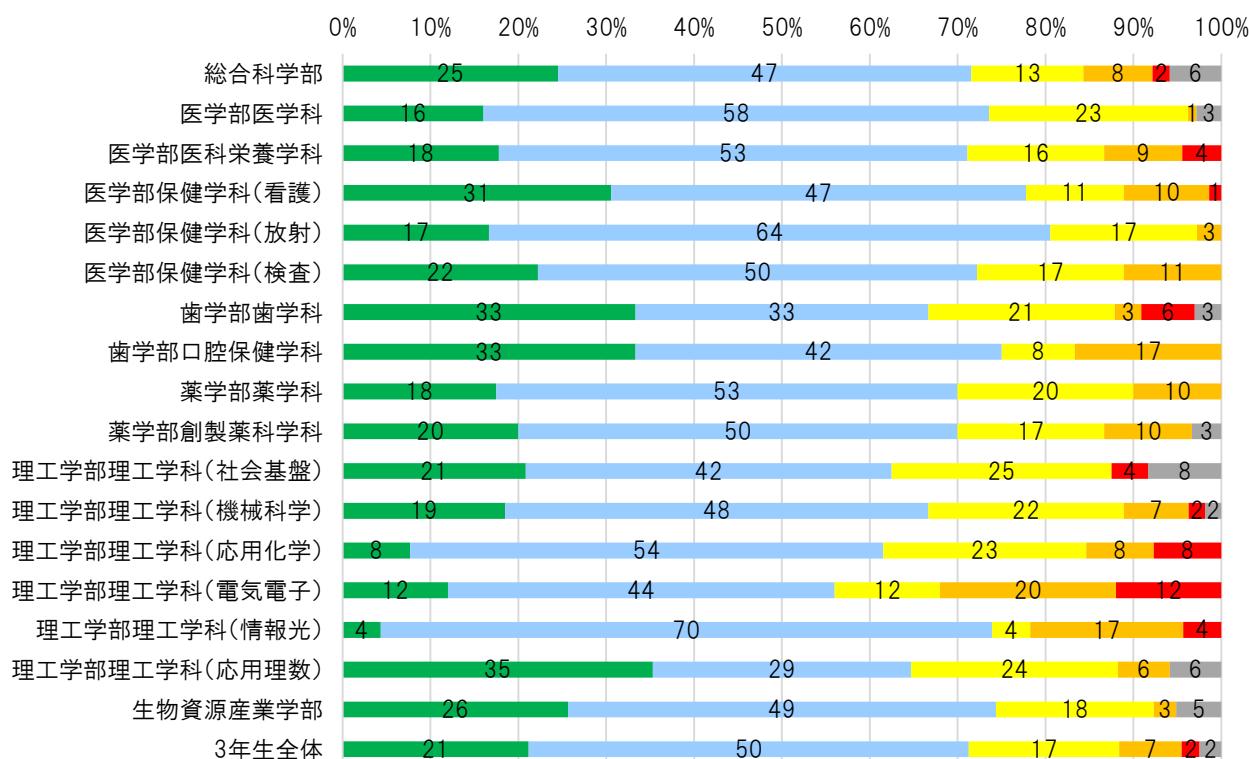
[83]他の学生との友情を深める



■4.とてもうまくいった ■3.いくらかうまくいった ■2.あまりうまくいかなかった ■1.まったくうまくいかなかった ■無回答

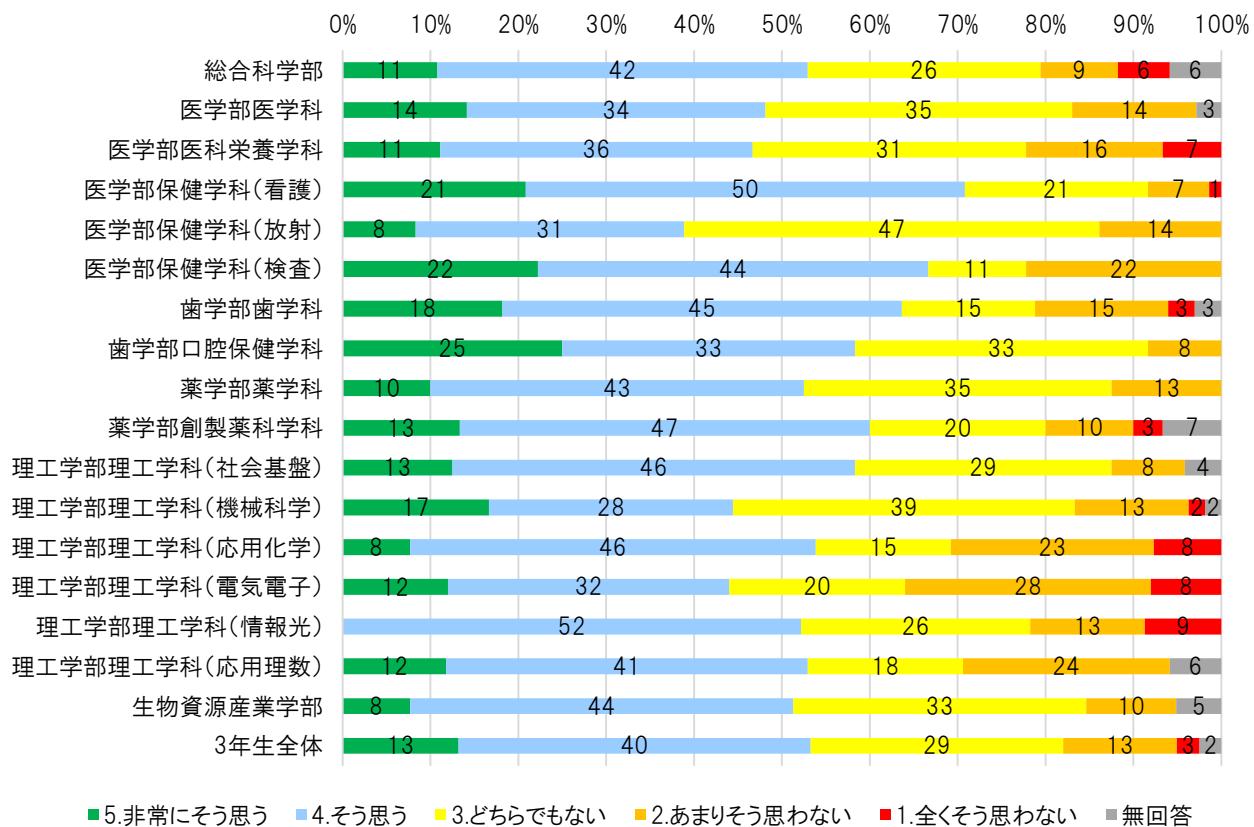
本学に入学してから、あなたにとって次のことがらはどれくらいあてはまりますか。

[84]自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組めている

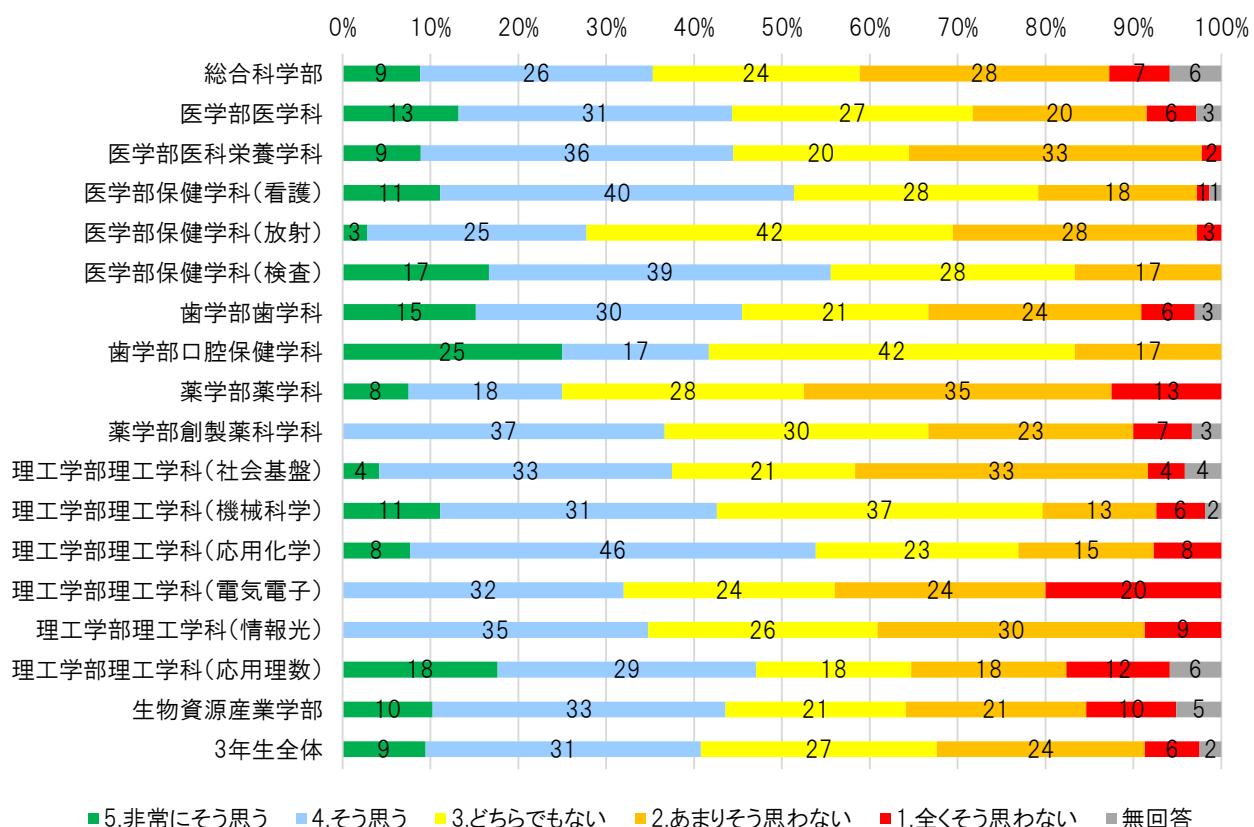


■5.非常にそう思う ■4.そう思う ■3.どちらでもない ■2.あまりそう思わない ■1.全くそう思わない ■無回答

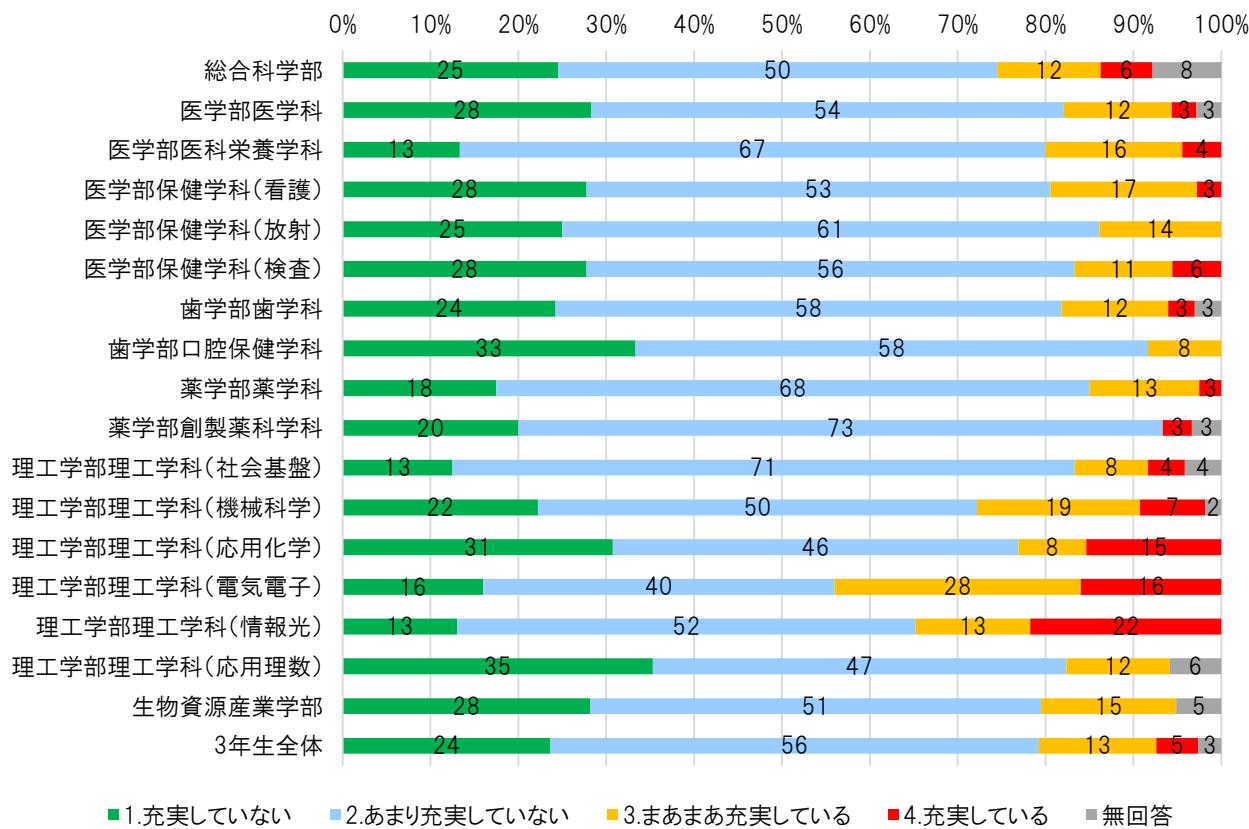
[85]日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し向上を図っている



[86]現在の自分の学修時間や学修態度に満足している

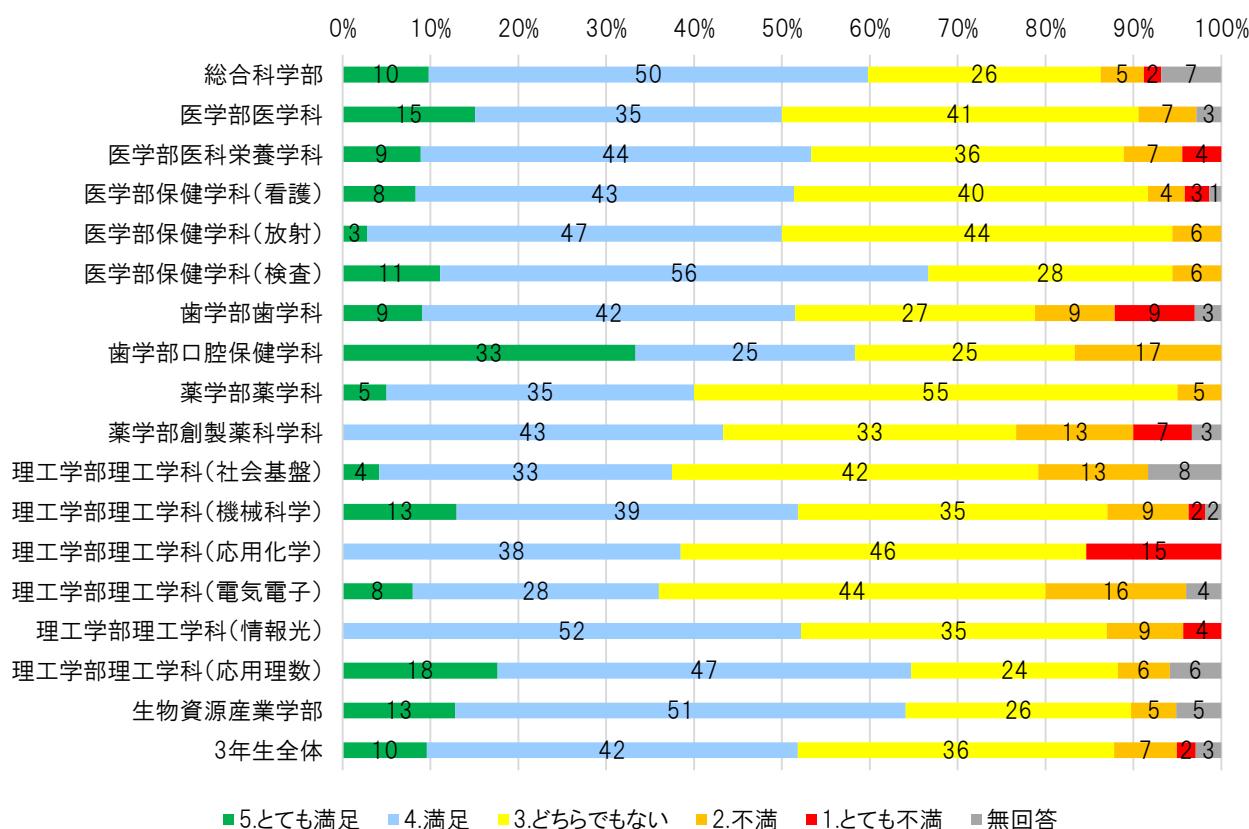


[87]あなたの学生生活は充実していますか。

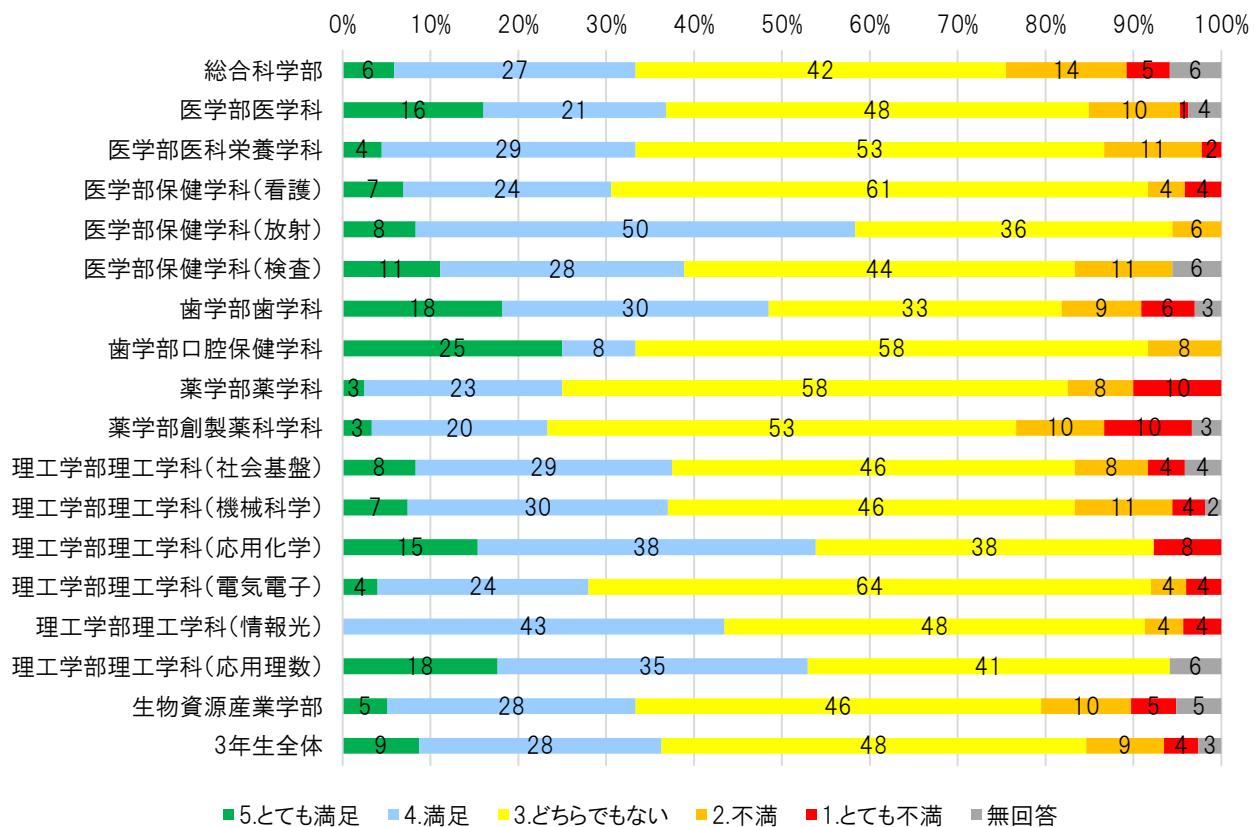


あなたは、本学の教育内容・環境にどれくらい満足していますか。

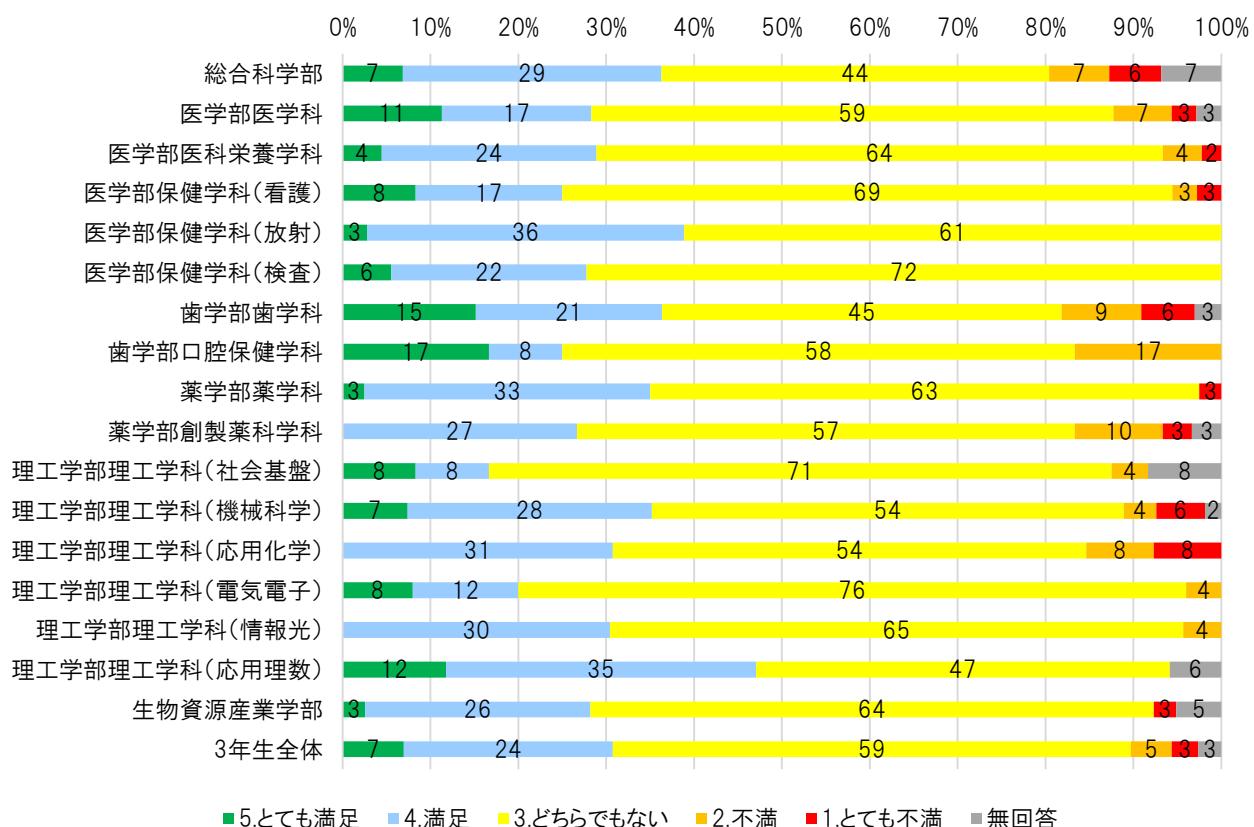
[88]共通教育あるいは教養教育の授業



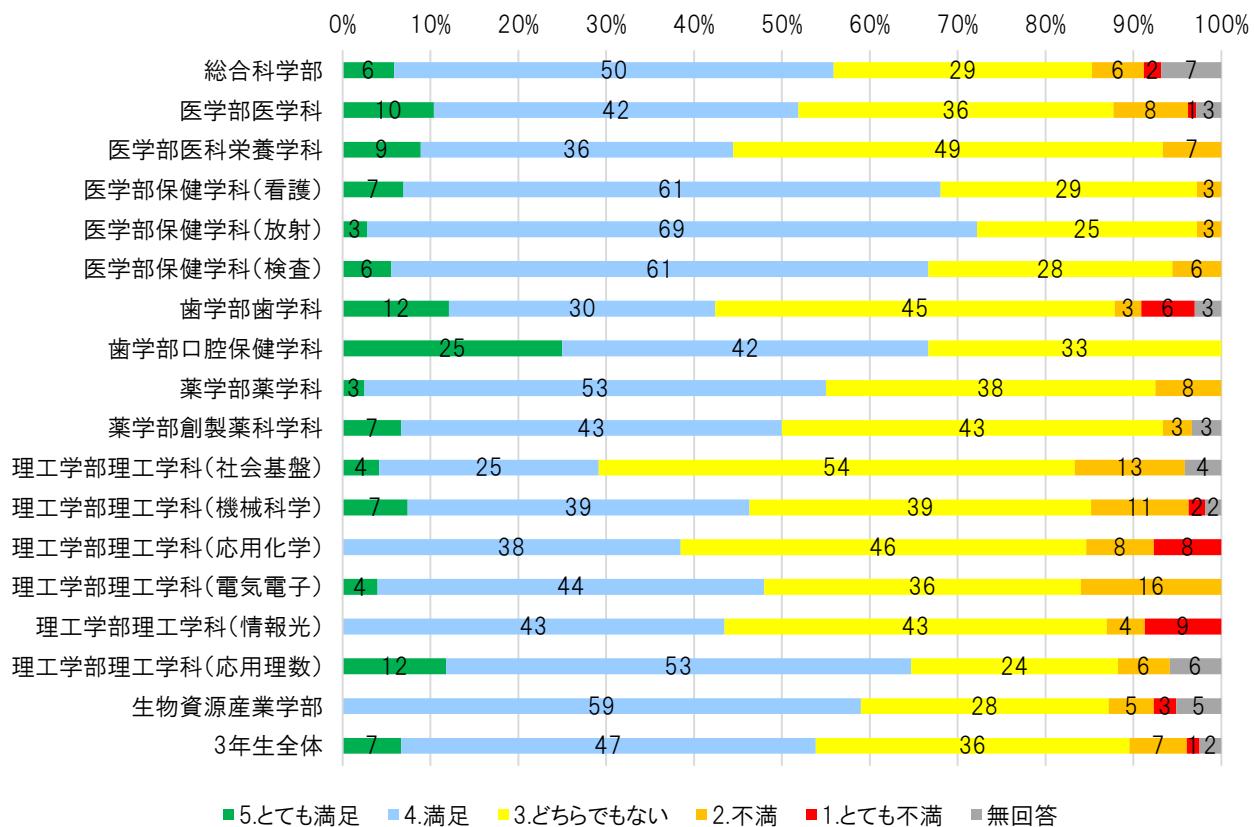
[89]1年生の時に受講した「SIH道場～アクティブラーニング入門～の授業」



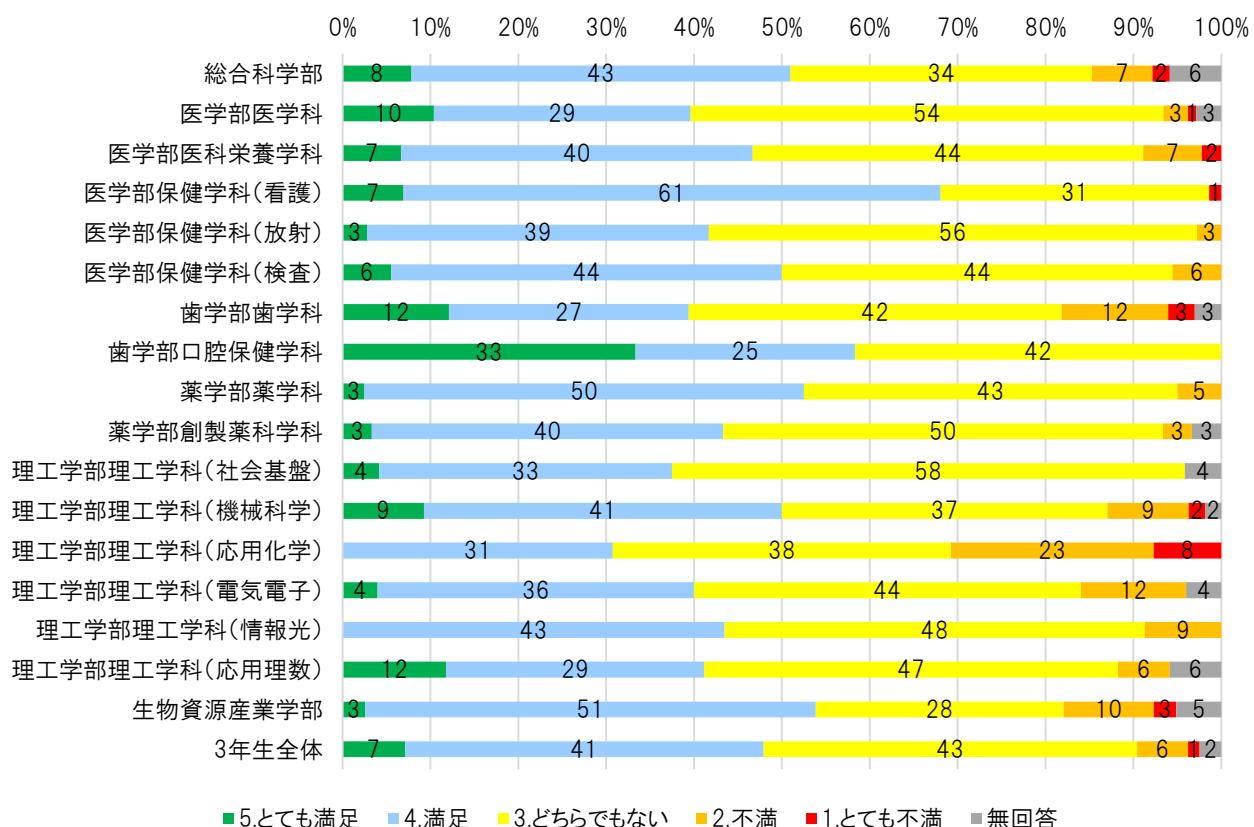
[90]初年次生を対象とした教育プログラム内容(フレッシュマンセミナー、基礎ゼミなど)



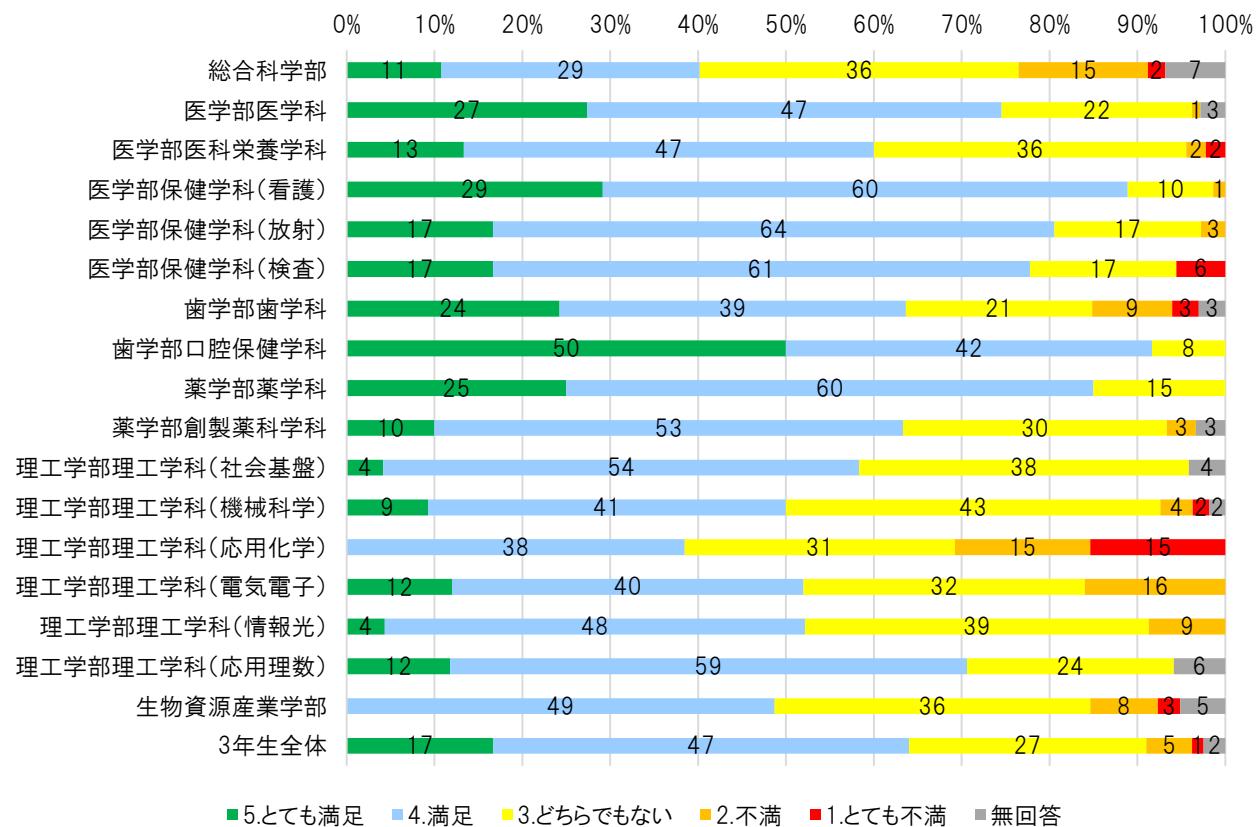
[91]授業の全体的な質



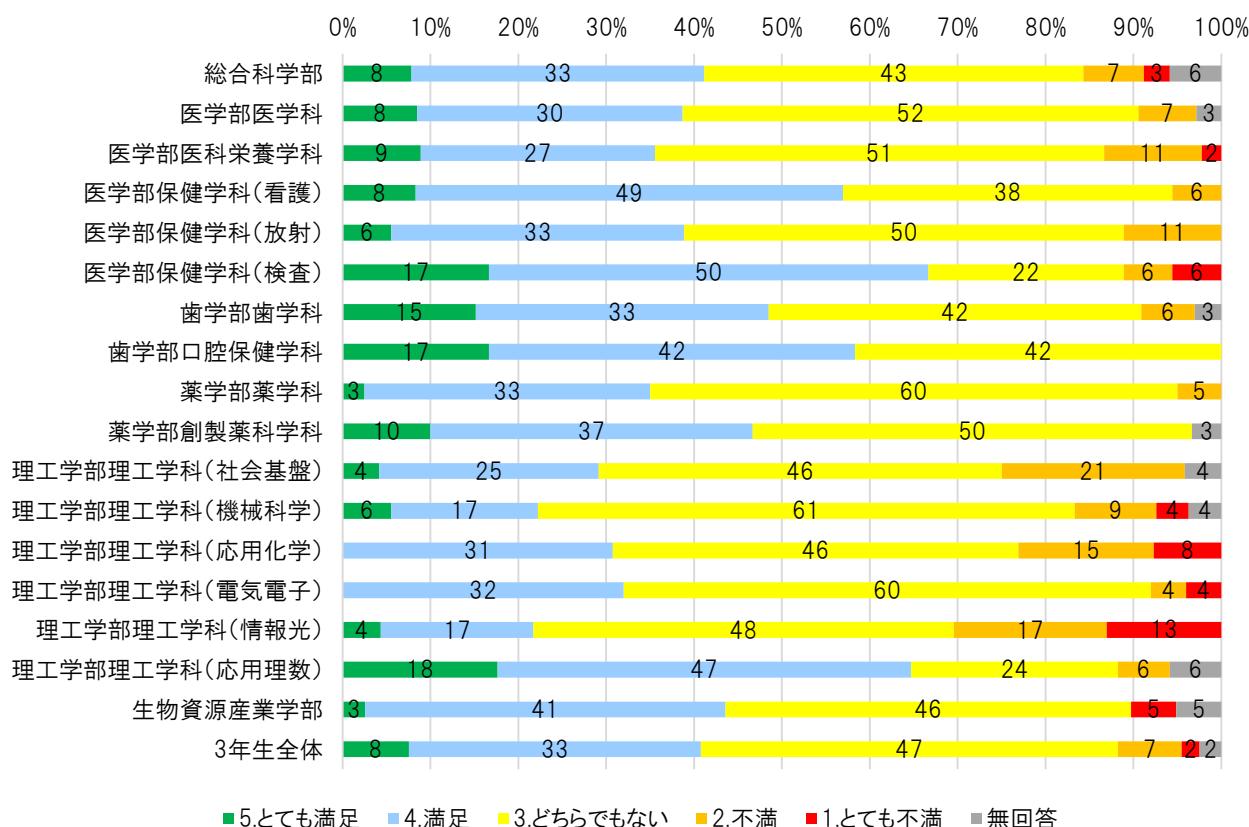
[92]日常生活と授業内容の関連



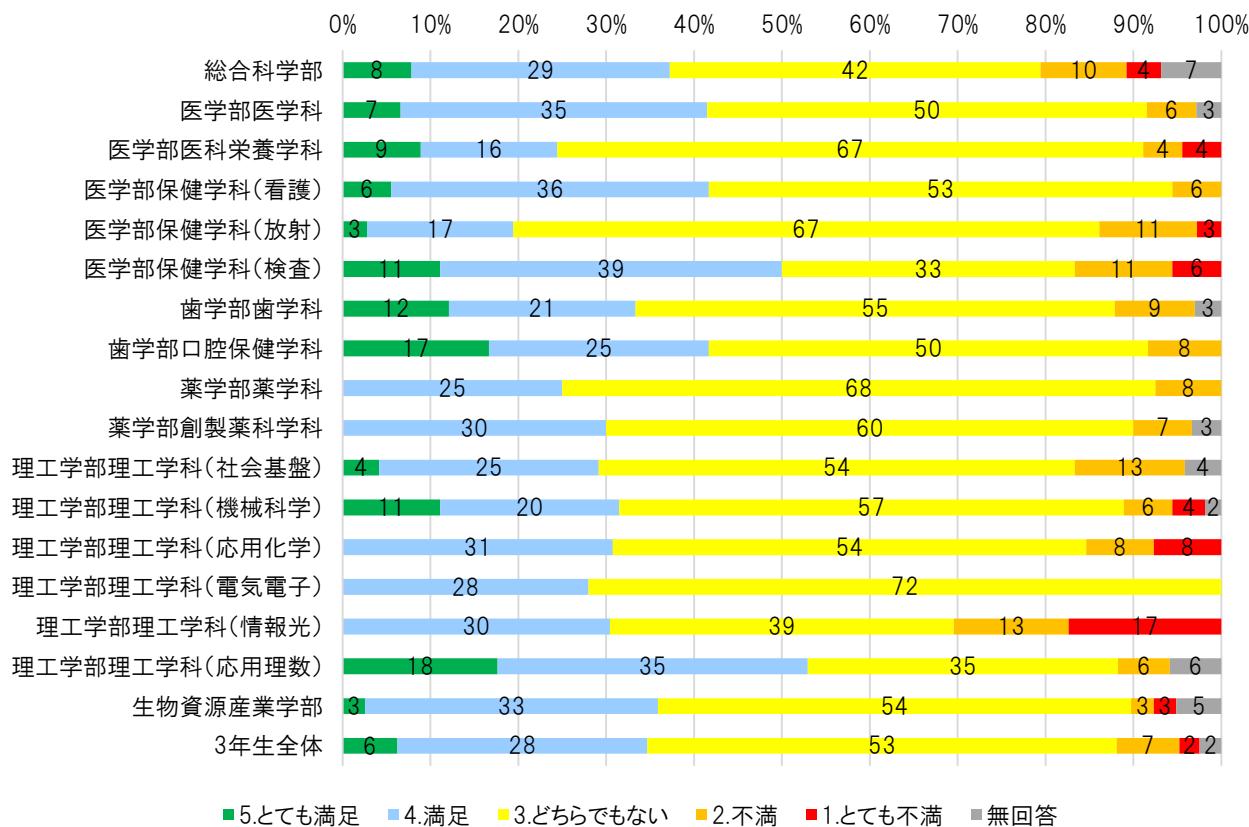
[93]将来の仕事と授業内容の結びつき



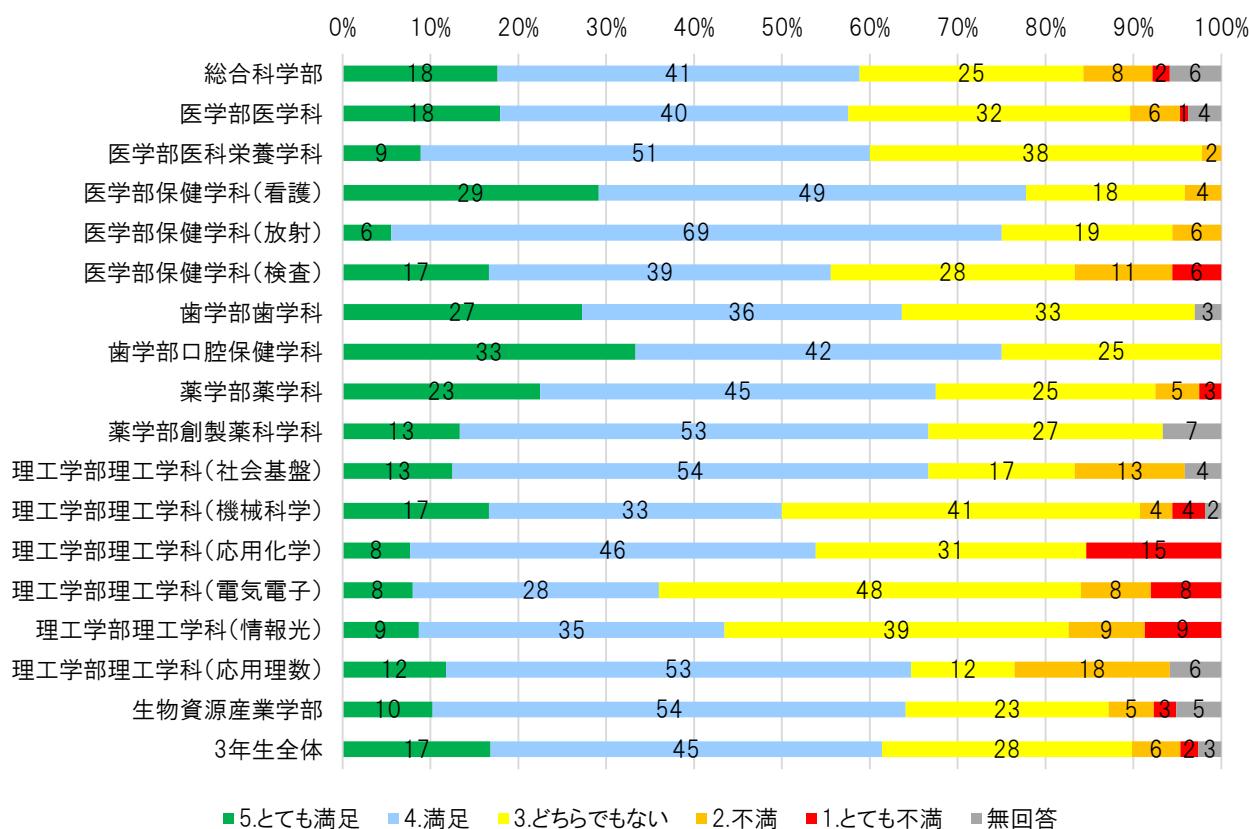
[94]教員と話をする機会



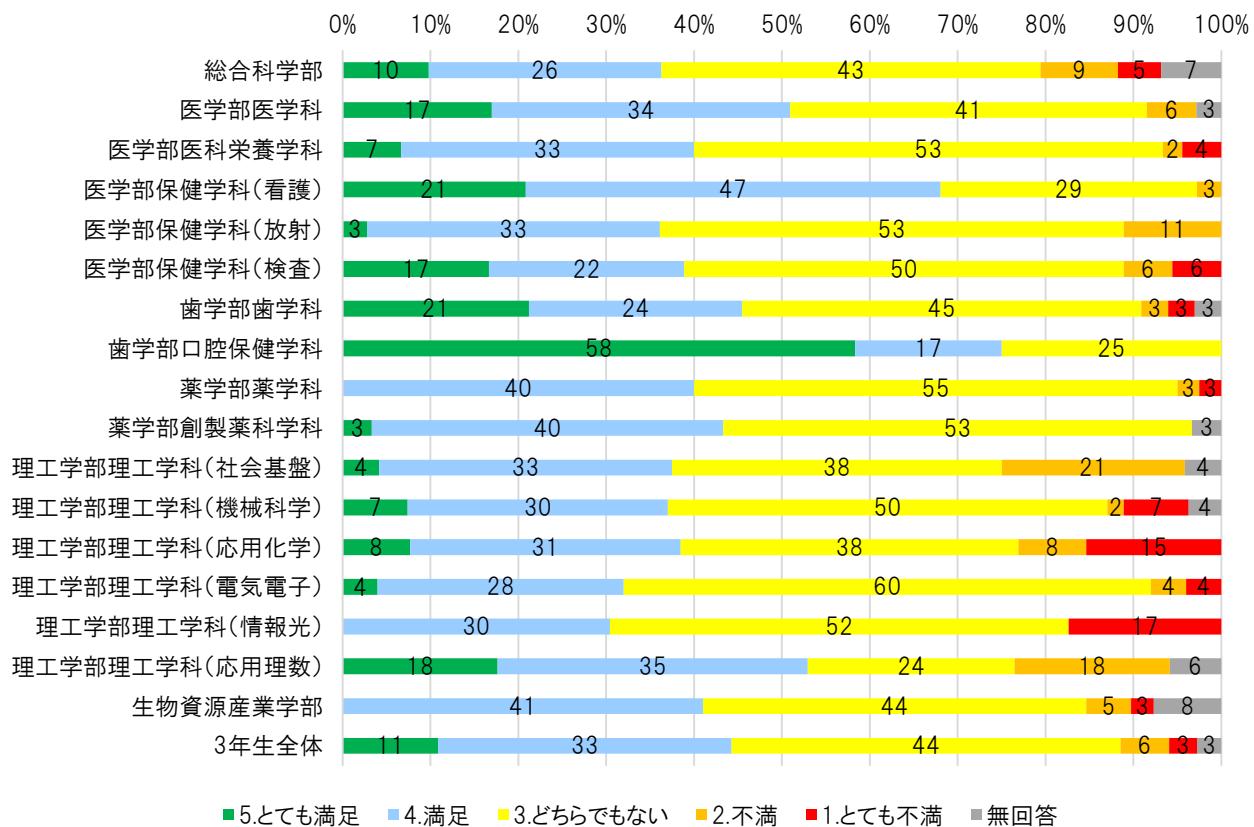
[95]学習支援や個別の学習指導



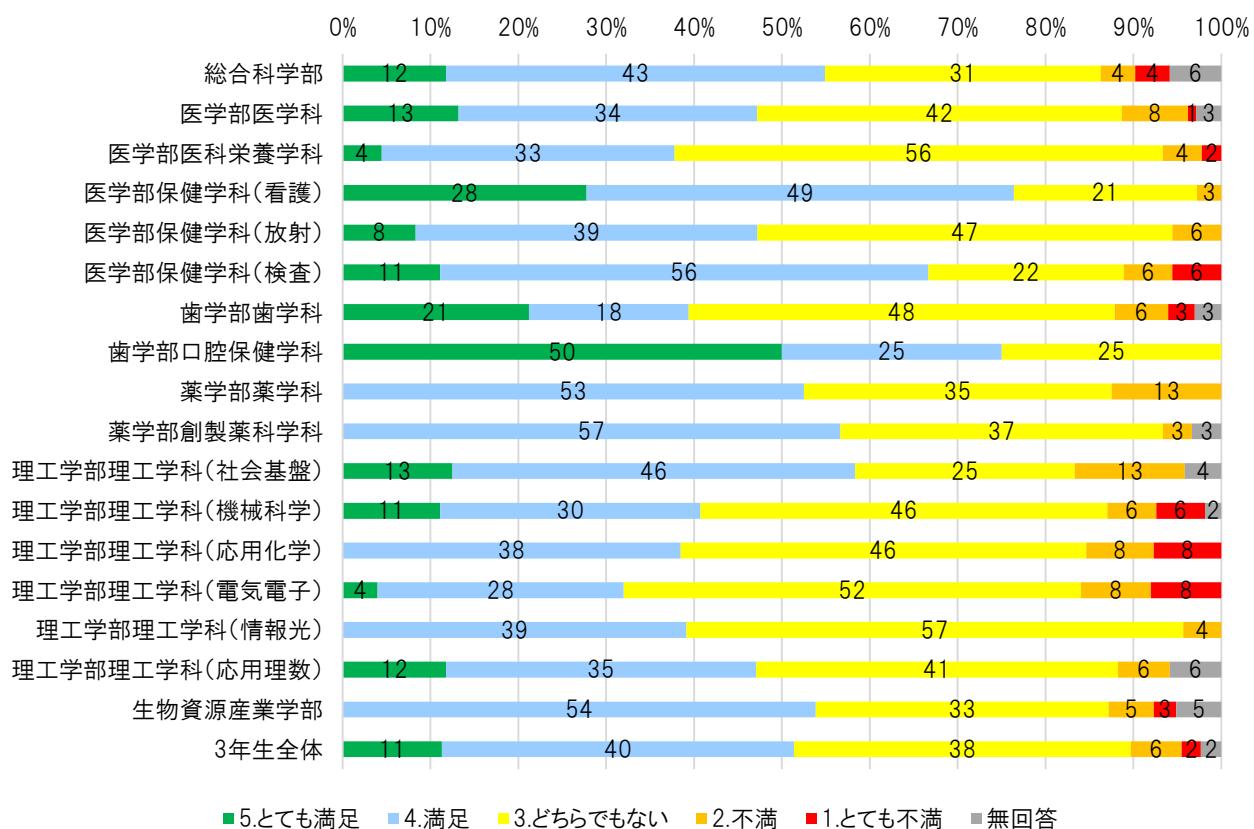
[96]他の学生と話をする機会



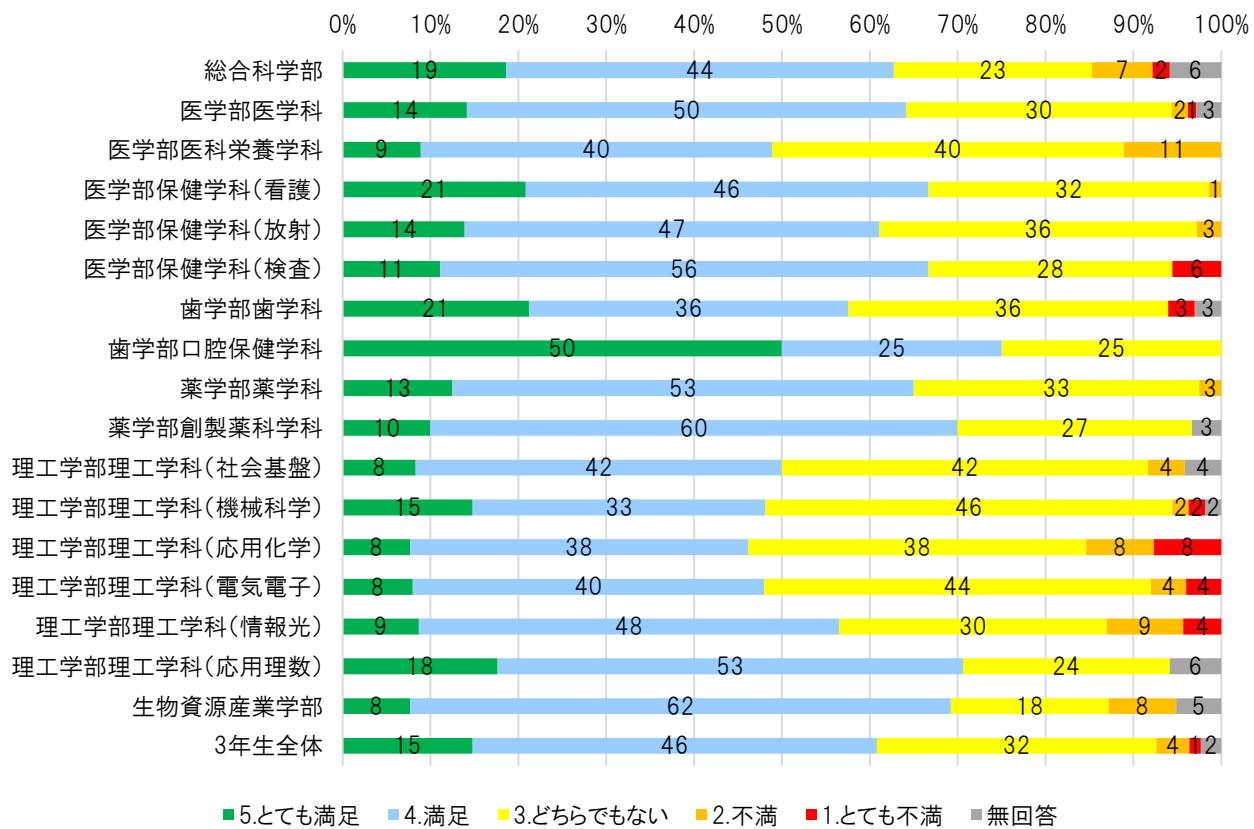
[97]大学のなかでの学生同士の一体感



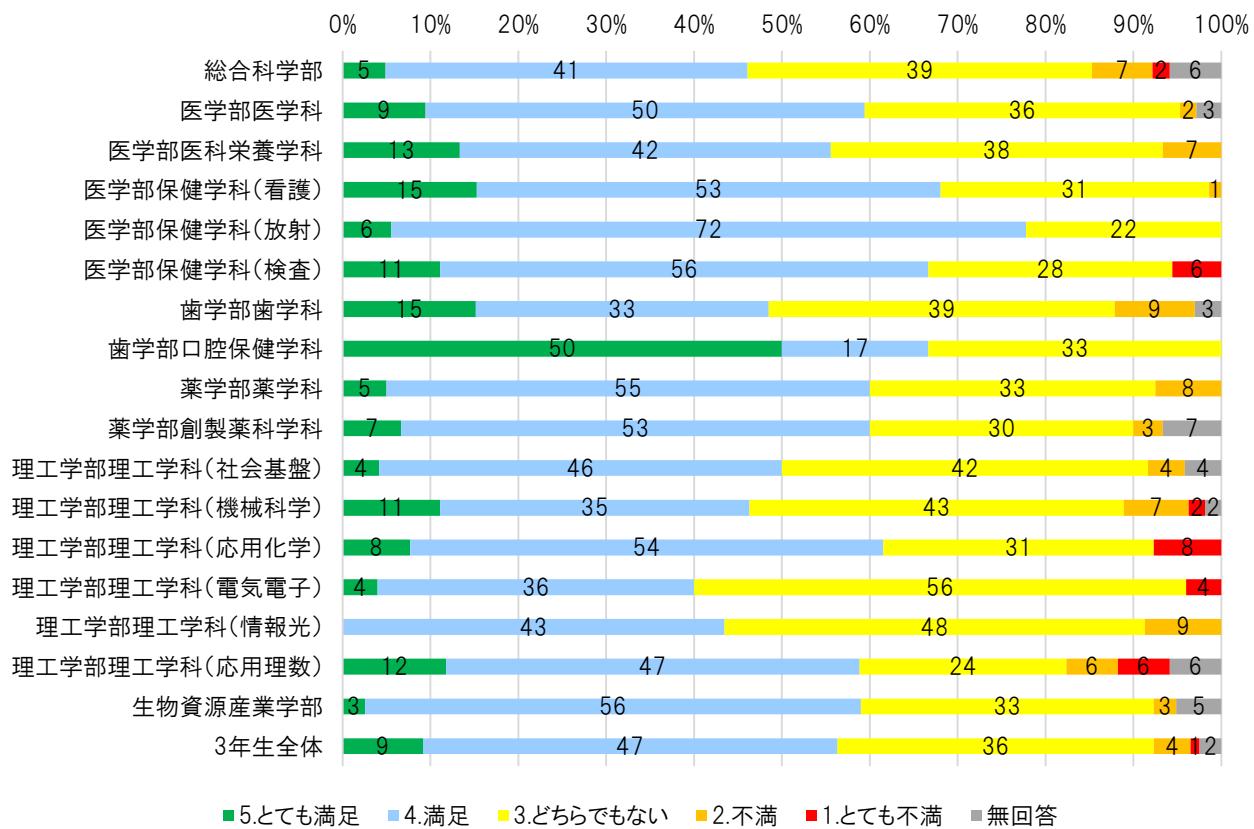
[98]多様な考え方を認め合う雰囲気



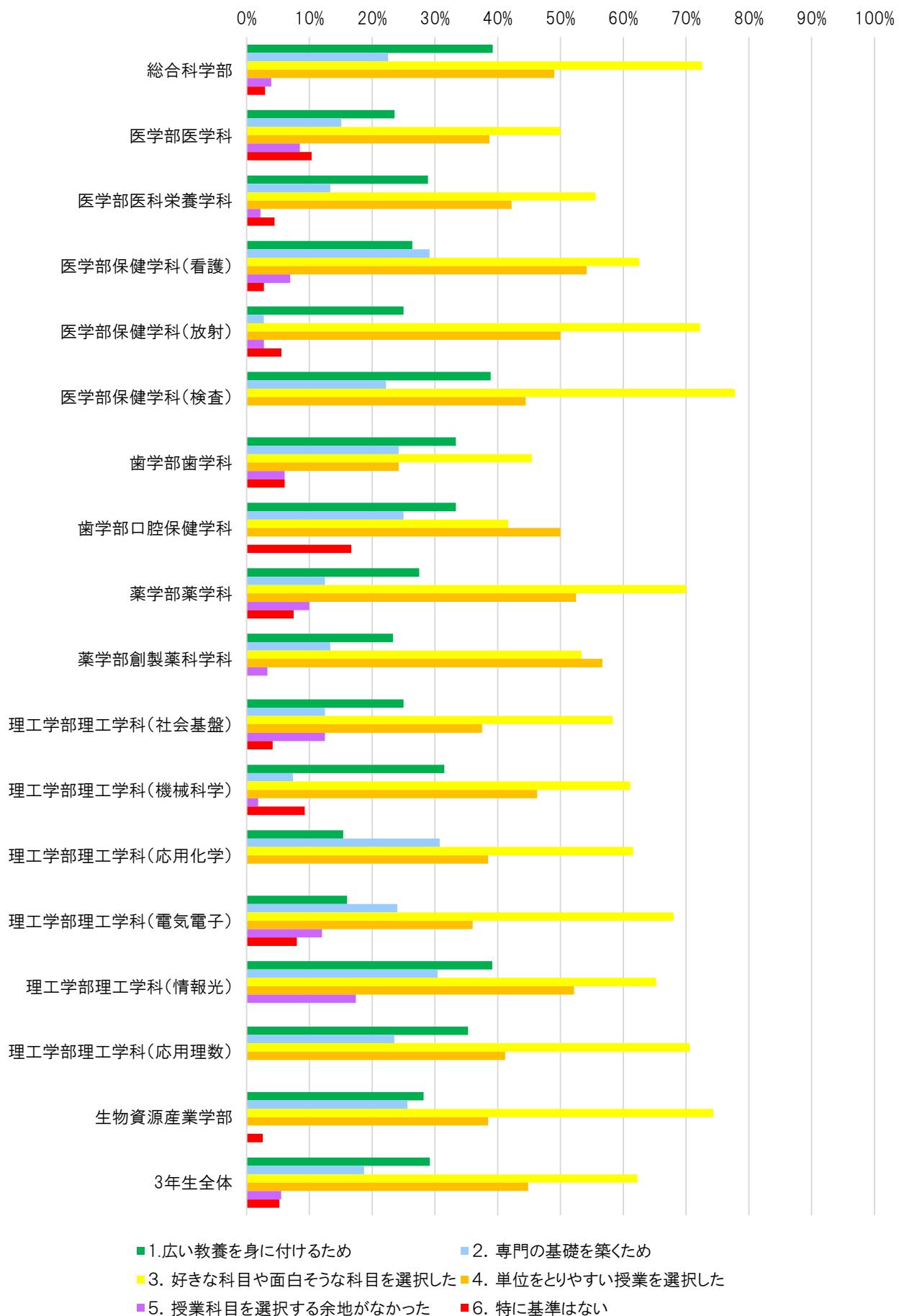
[99]大学での経験全般について



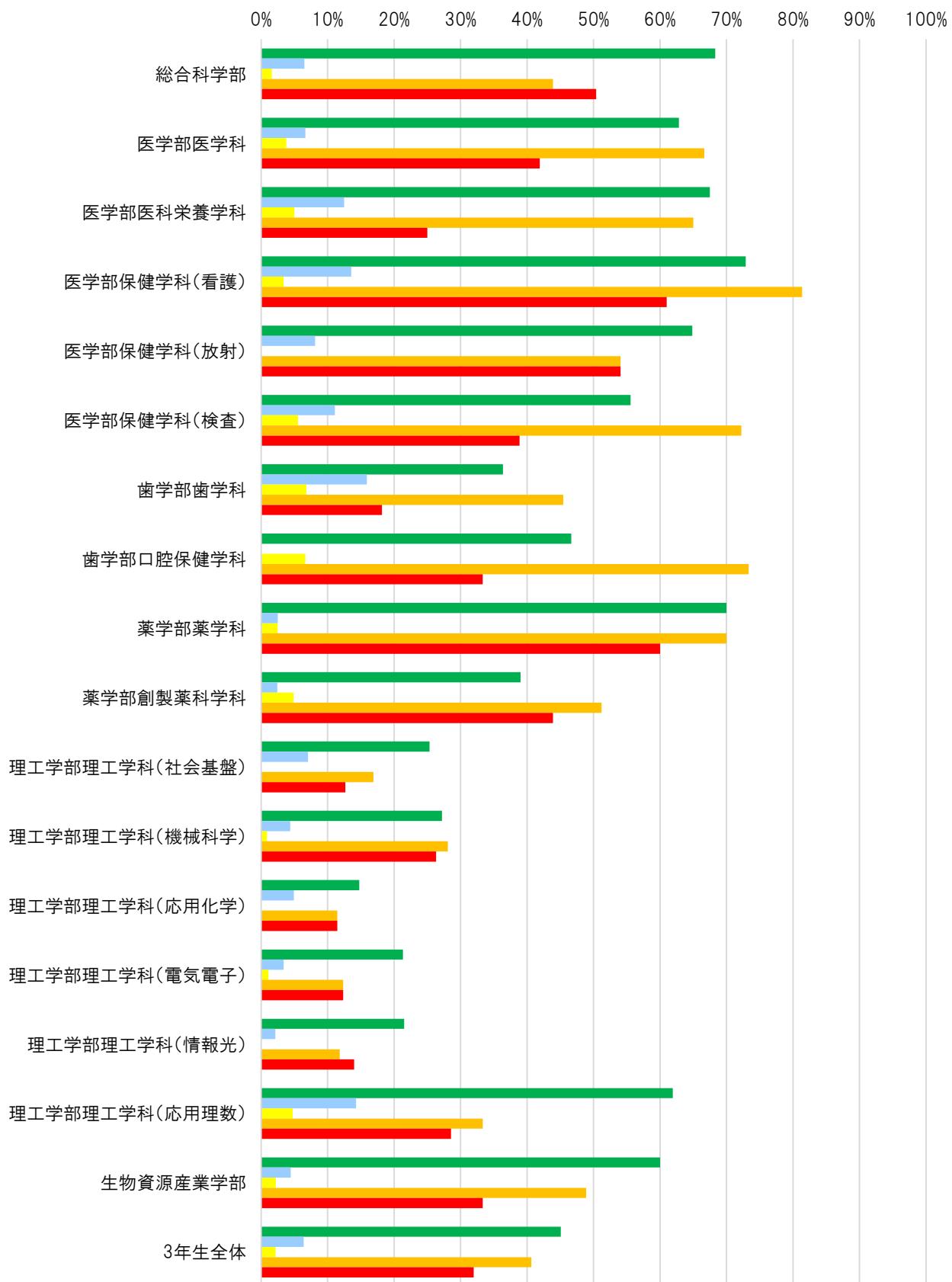
[100]1つの授業を履修する学生数



[101]教養教育科目の選択はどういう基準で行いましたか。(複数回答可)

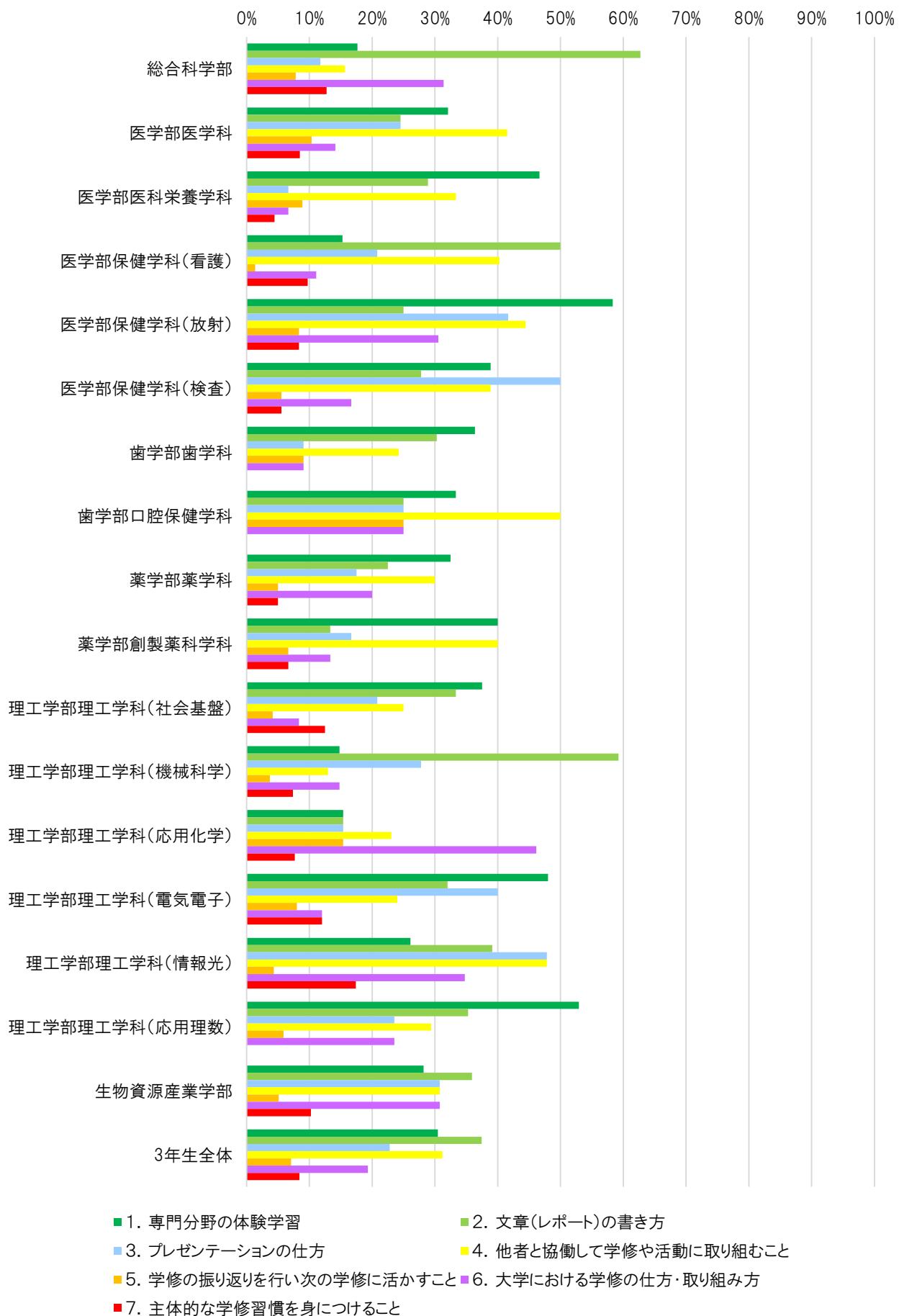


[102]教養教育科目の選択にあたって重視した情報源はなんですか。(複数回答可)



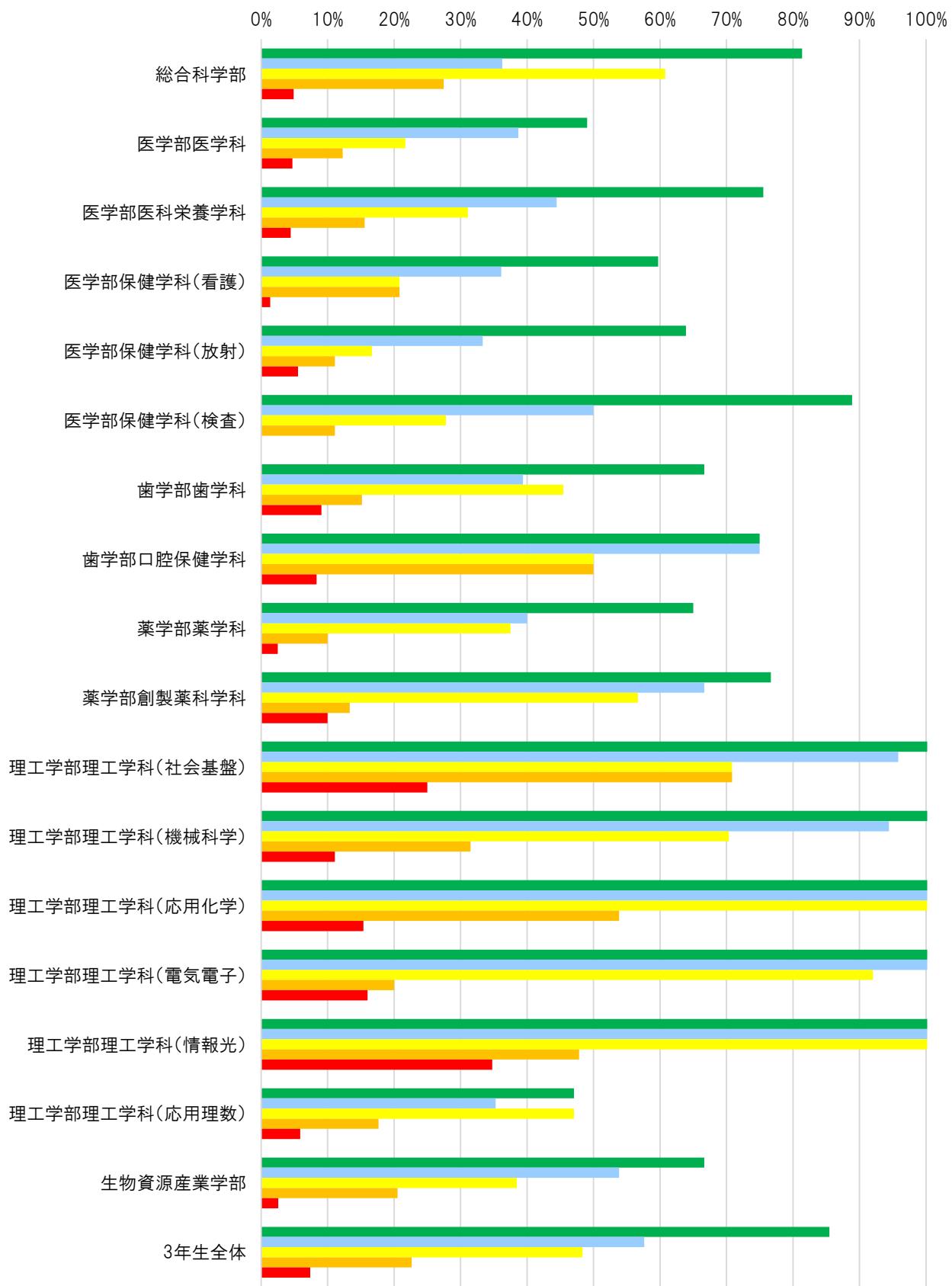
- 1. 「履修の手引き」やシラバスに記載された情報
- 2. 教員からの助言や情報
- 3. 事務職員からの助言や情報
- 4. 先輩からの助言や情報
- 5. 友人からの助言や情報

[103] 「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目をすべて選択してください。(複数回答可)



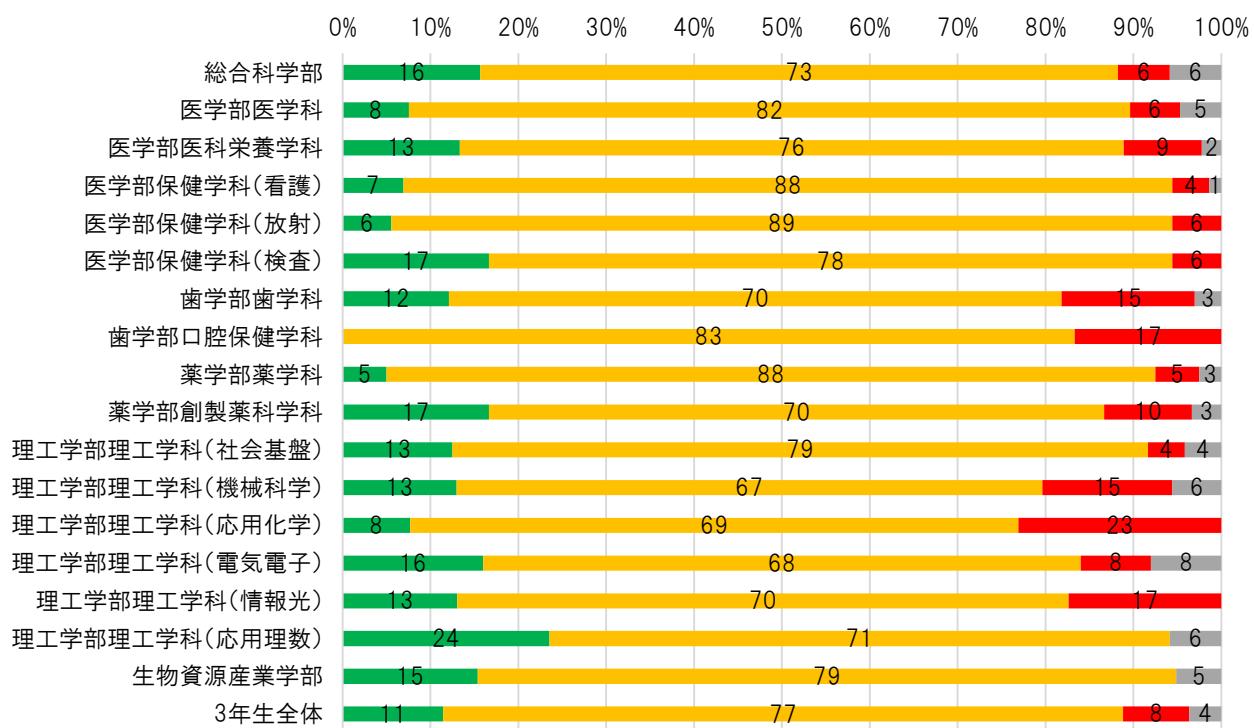
- 1. 専門分野の体験学習
- 2. 文章(レポート)の書き方
- 3. プレゼンテーションの仕方
- 4. 他者と協働して学修や活動に取り組むこと
- 5. 学修の振り返りを行い次の学修に活かすこと
- 6. 大学における学修の仕方・取り組み方
- 7. 主体的な学修習慣を身につけること

[104]専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると思いますか。(複数回答可)



- 1. 専門の知識を身に付けるのに役立った
- 2. 自分の進路について考えができるようになった
- 3. 学問・研究に興味が湧いた
- 4. 社会で役立つ能力を身に付けるのに役立った
- 5. 特に得るものはないなかつた

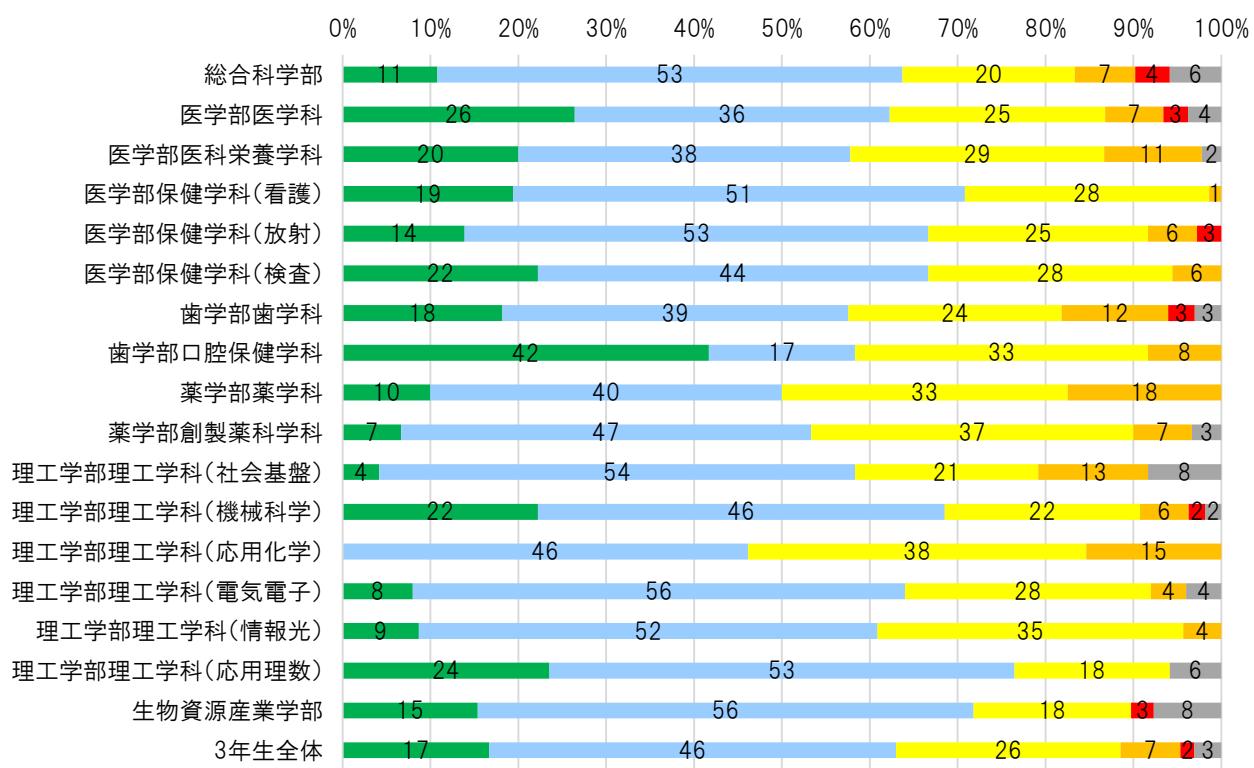
[105]授業内容の難易度についてどう思いますか。



- 1. 授業内容の水準をもっと高度にすべきである ■ 2. 授業内容の水準は適切である
- 3. 授業内容の水準をもっと易しくすべきである ■ 無回答

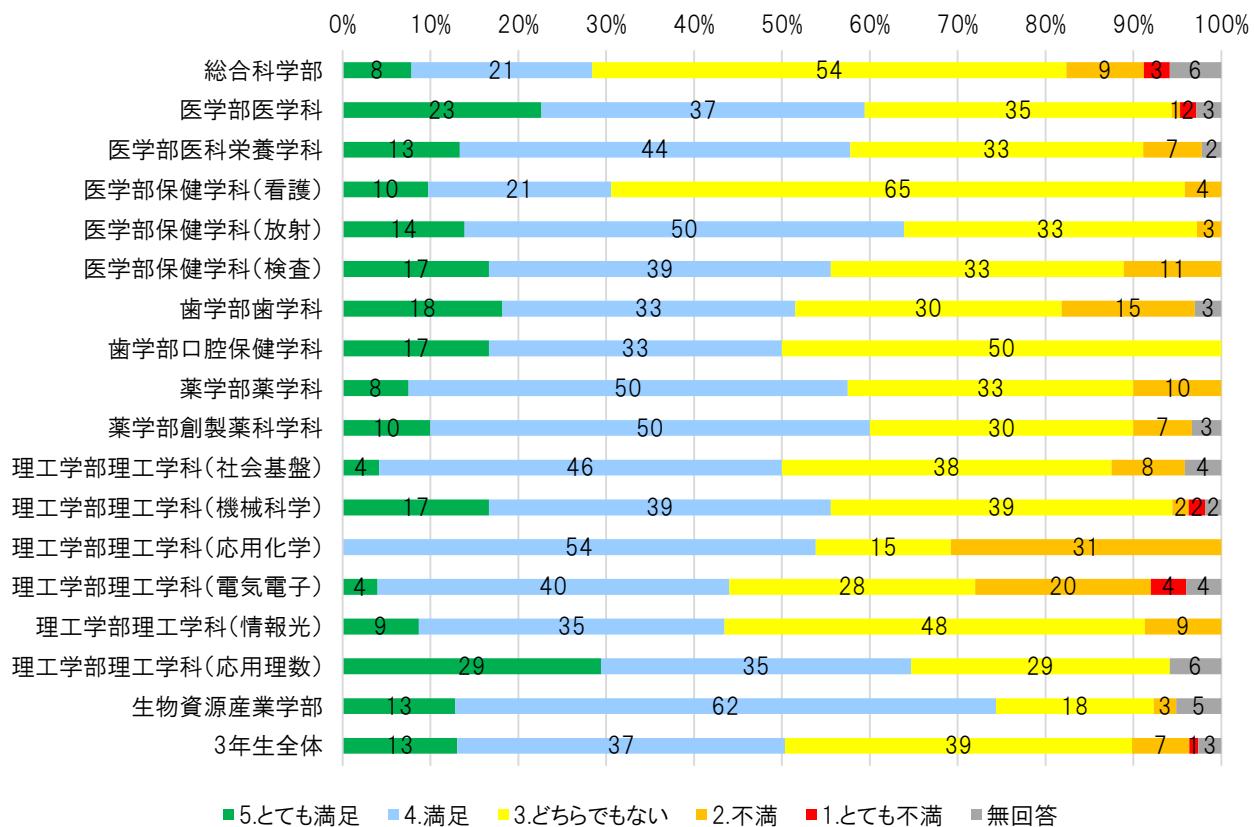
あなたは、本学の設備や学生支援制度にどの程度満足していますか。

[106]図書館の設備(蔵書やレファレンスサービス)

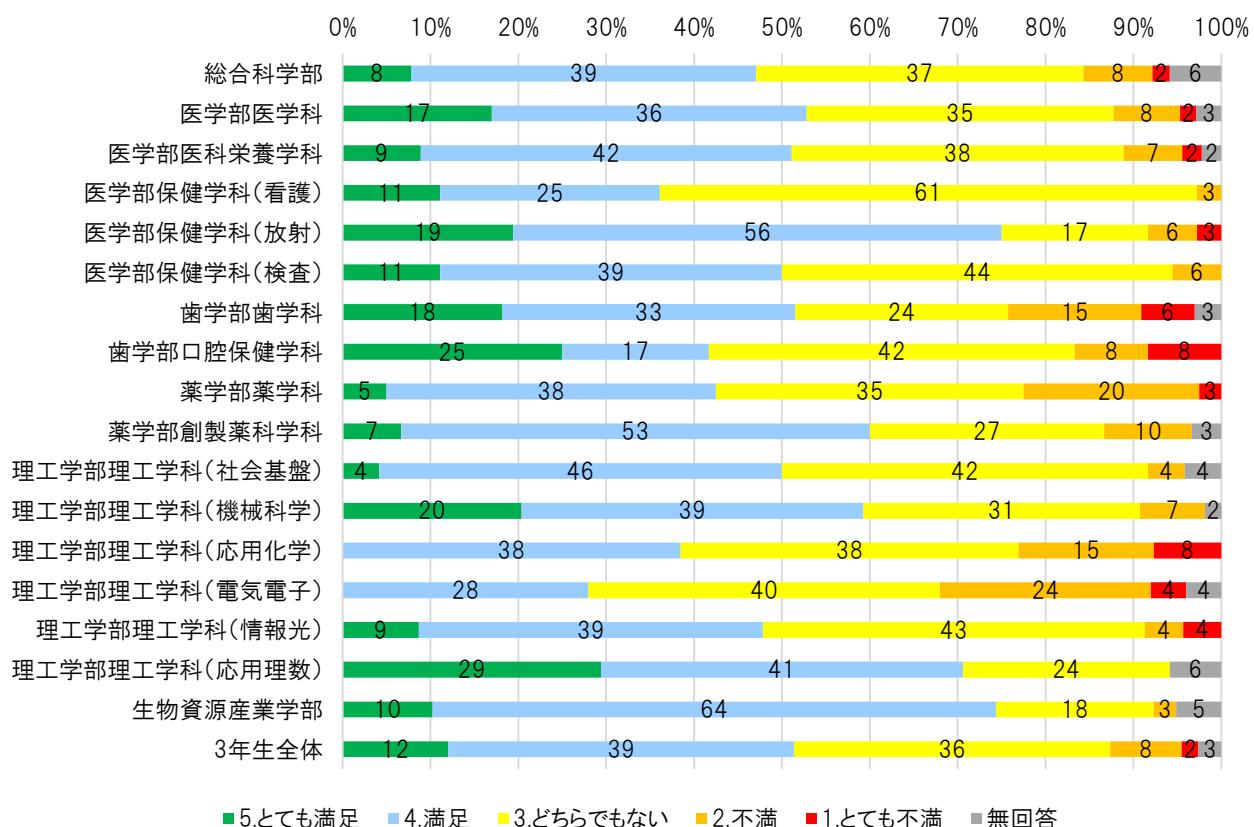


- 5.とても満足 ■ 4.満足 ■ 3.どちらでもない ■ 2.不満 ■ 1.とても不満 ■ 無回答

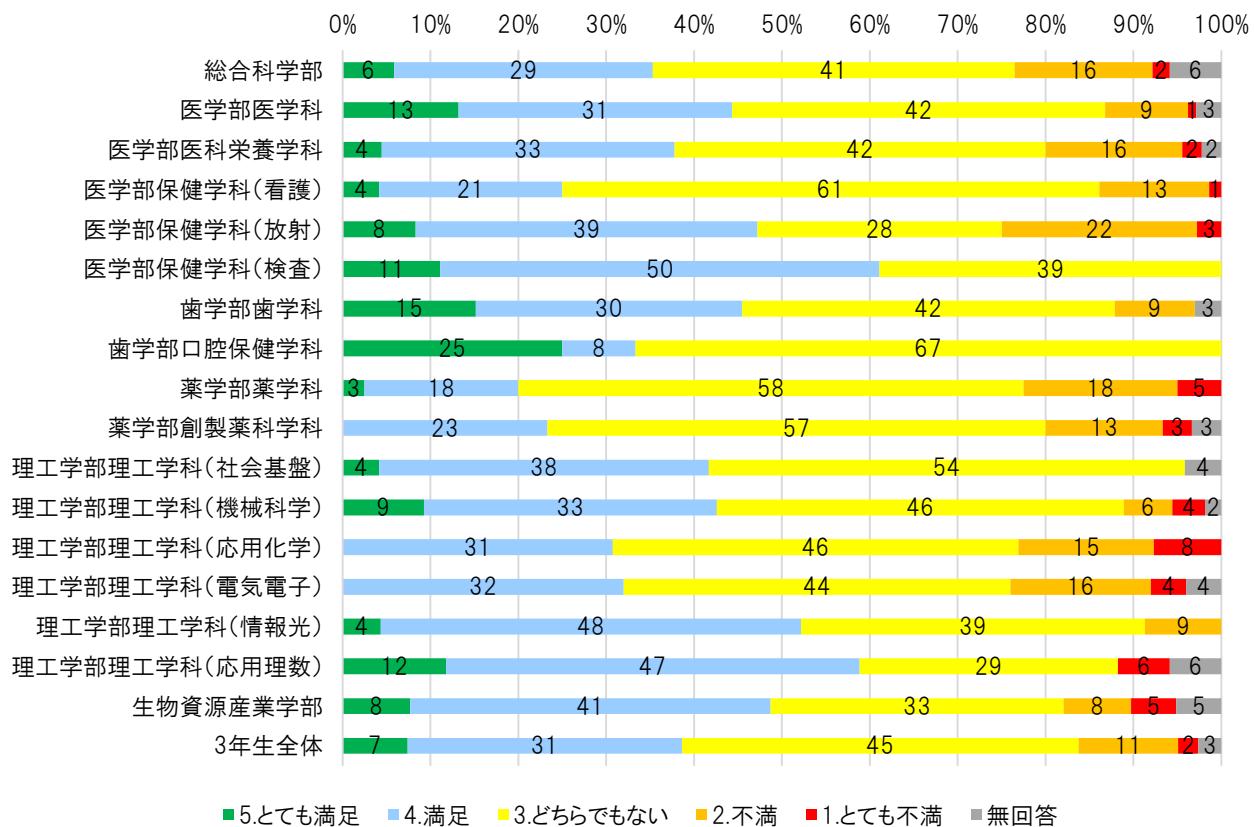
[107]実験室の設備や器具



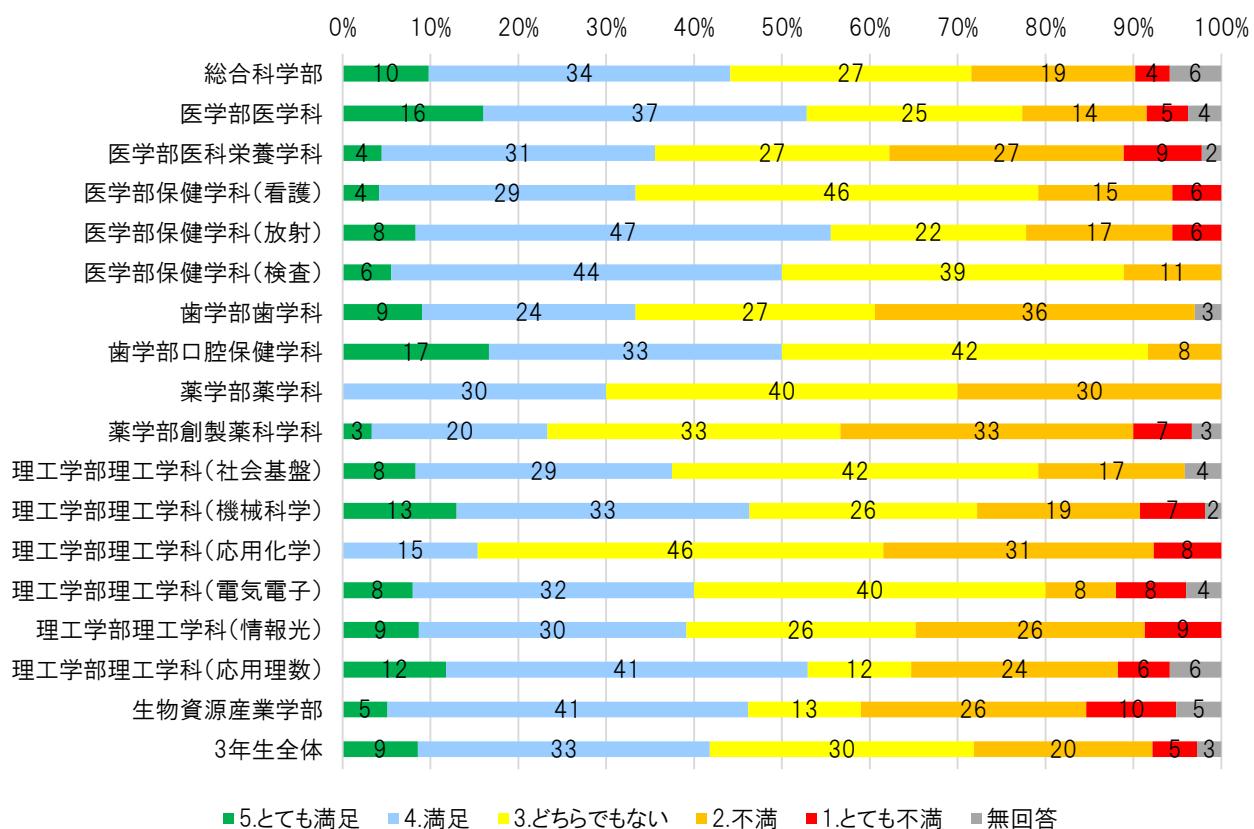
[108]コンピュータの施設や設備



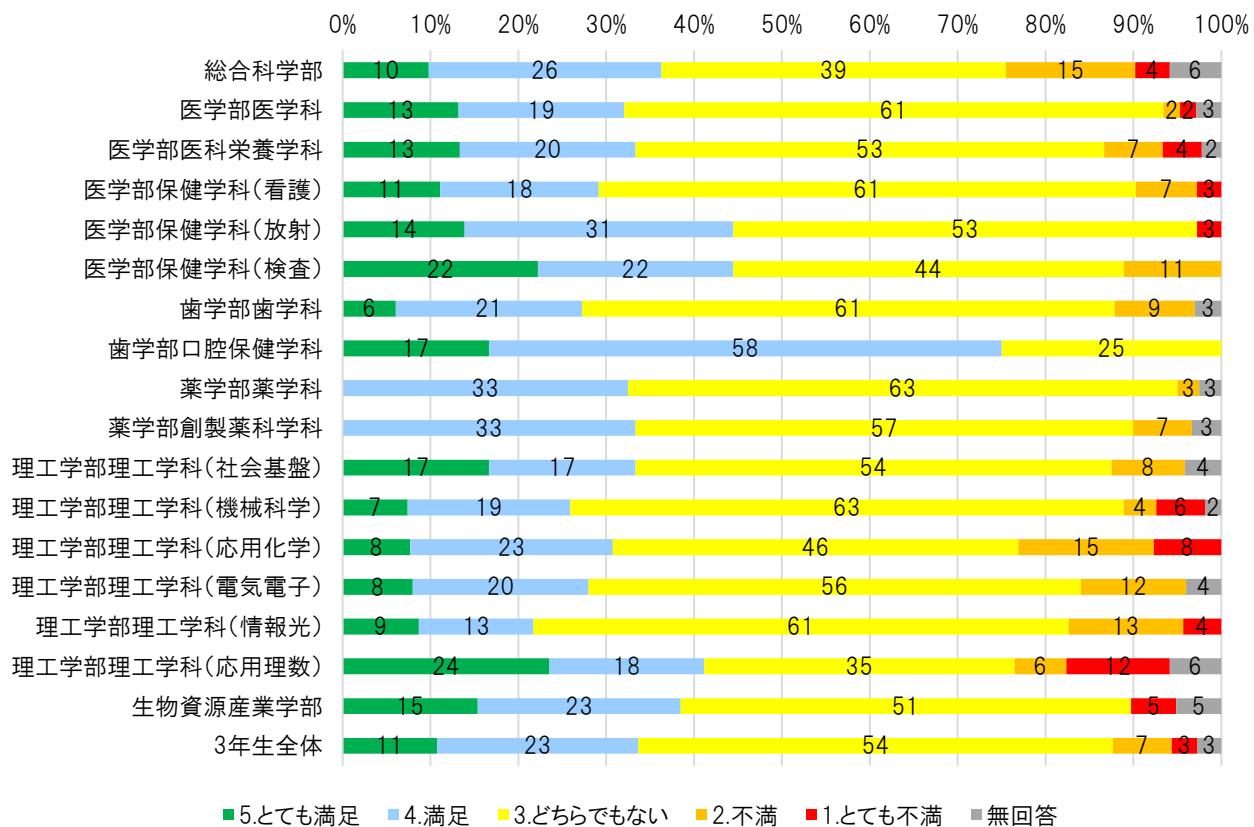
[109]コンピュータの訓練や援助



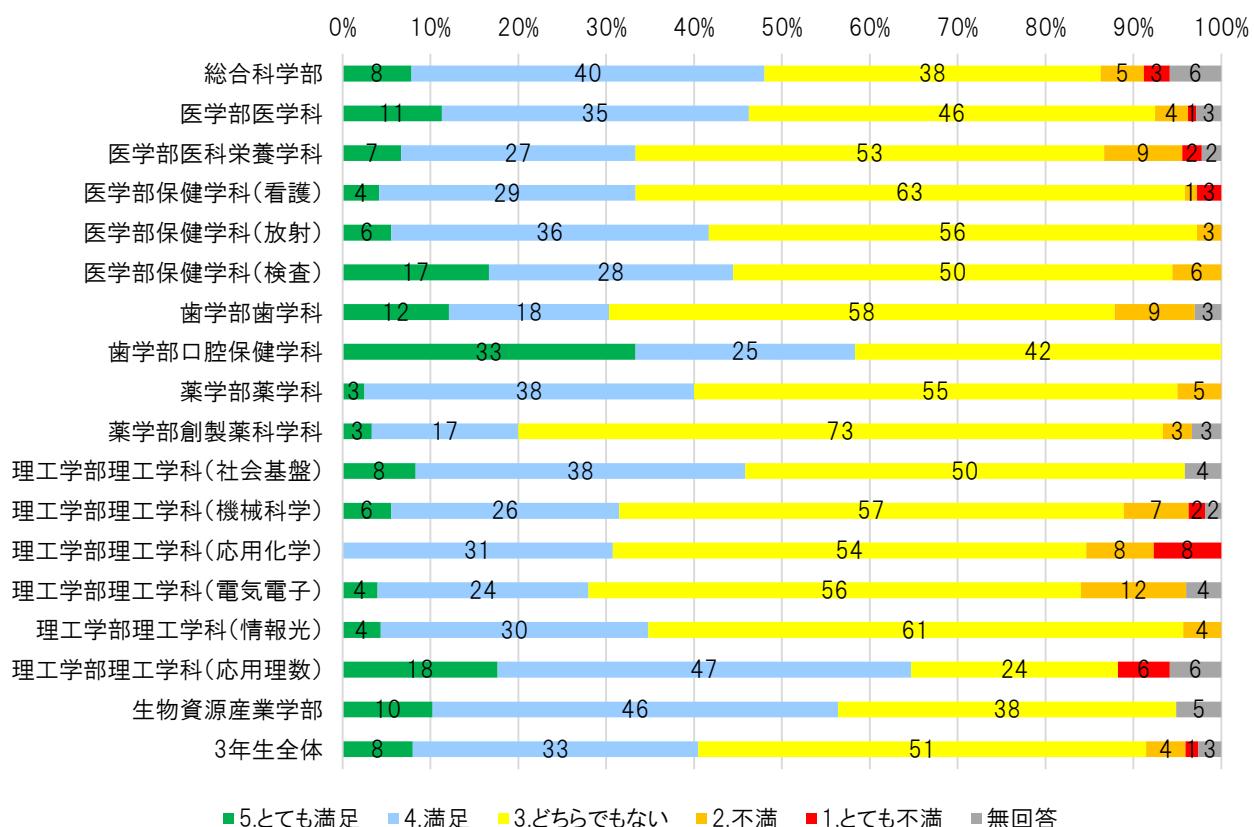
[110]インターネットの使いやすさ



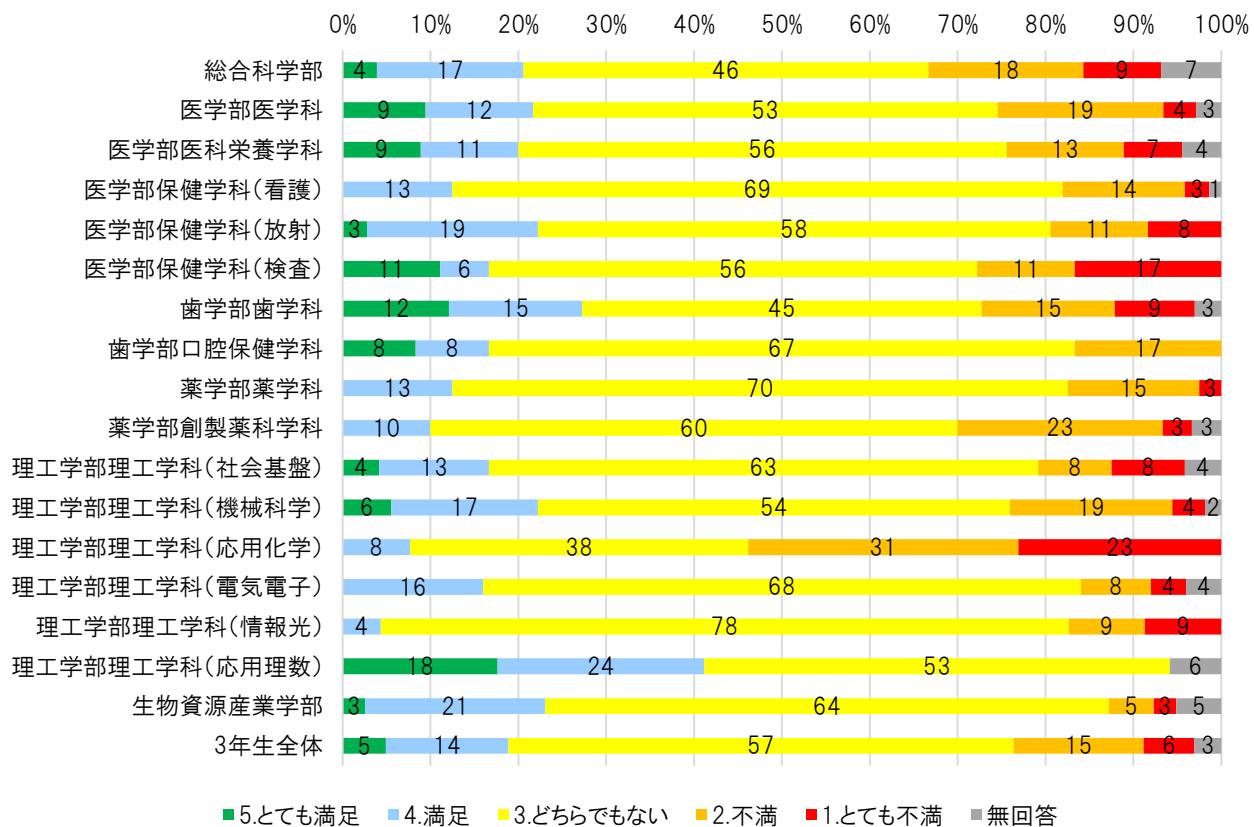
[111]奨学金など学費援助の制度



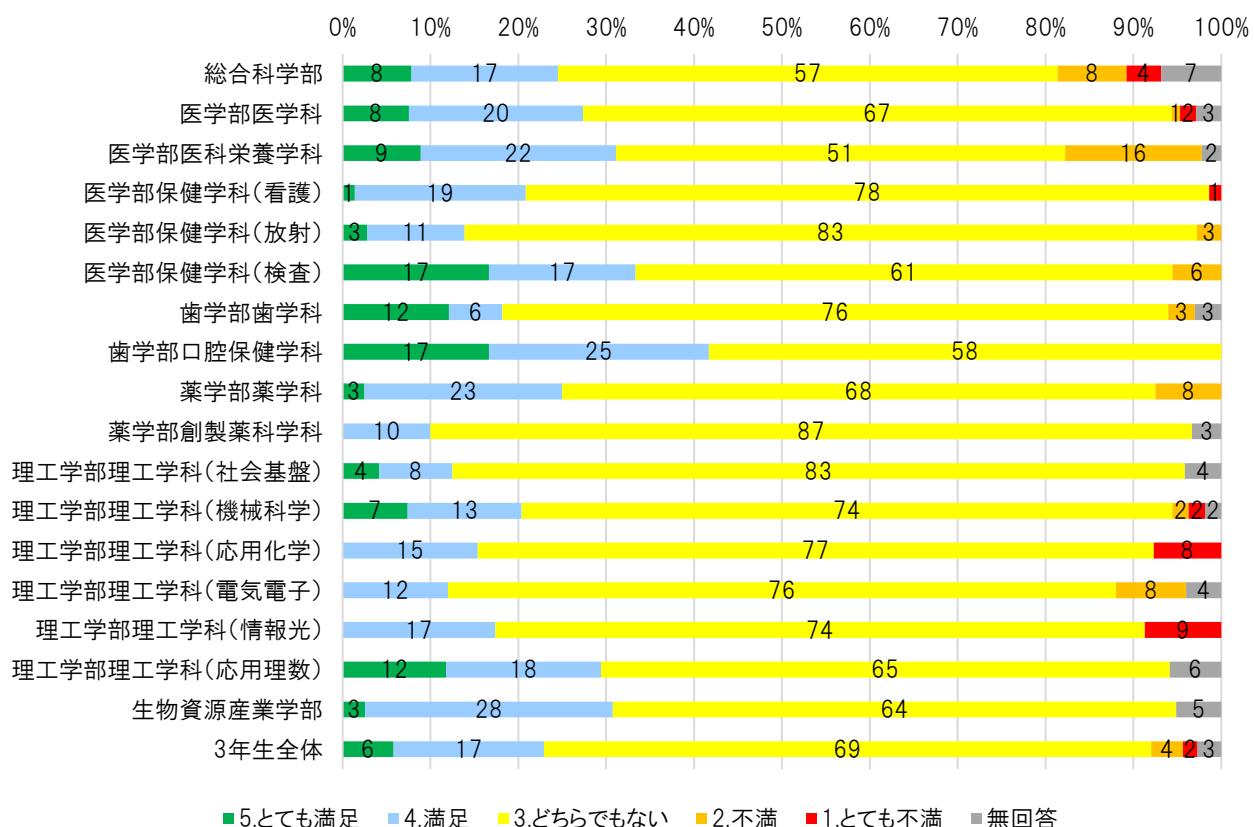
[112]健康・保健サービス(心身の健康に関わる問題についての診療や相談)



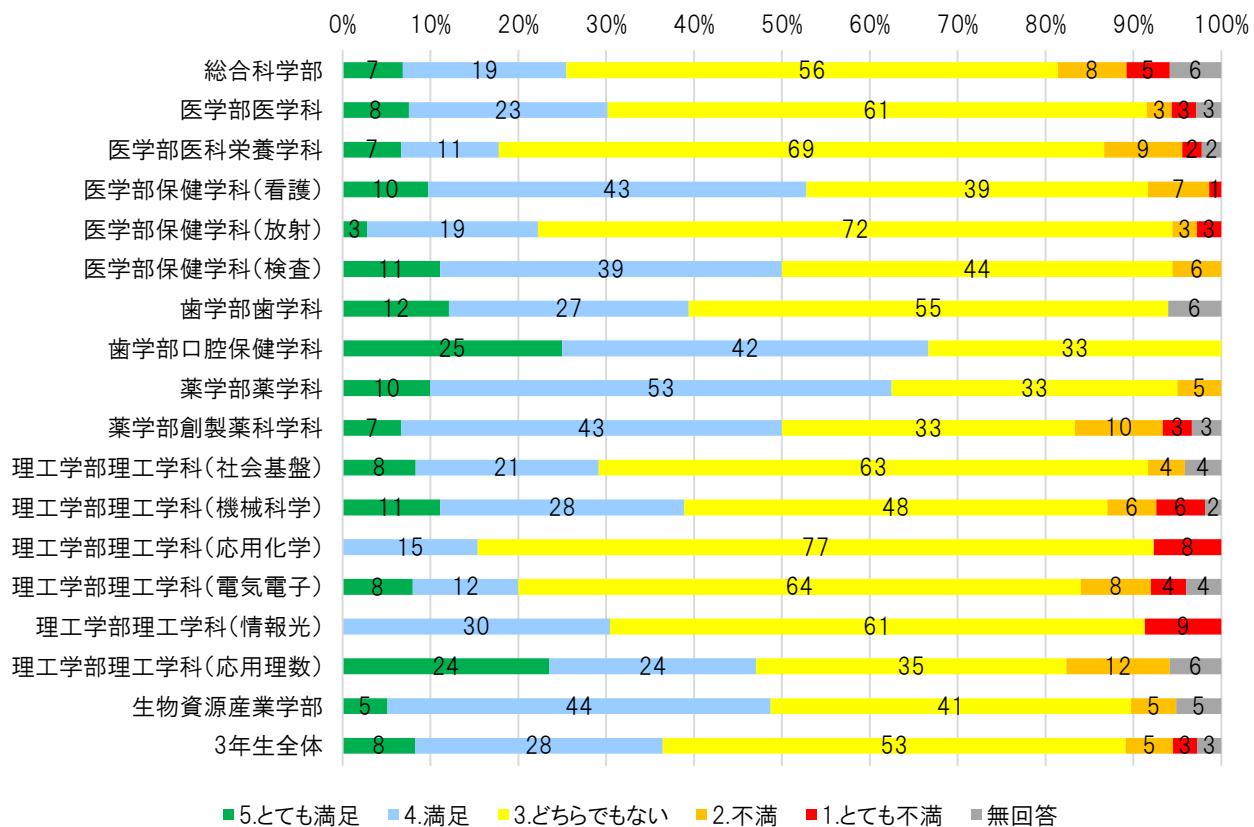
[113]レクリエーション施設(ジムの設備など)



[114]キャリアカウンセリング(就職や進学に関する相談)

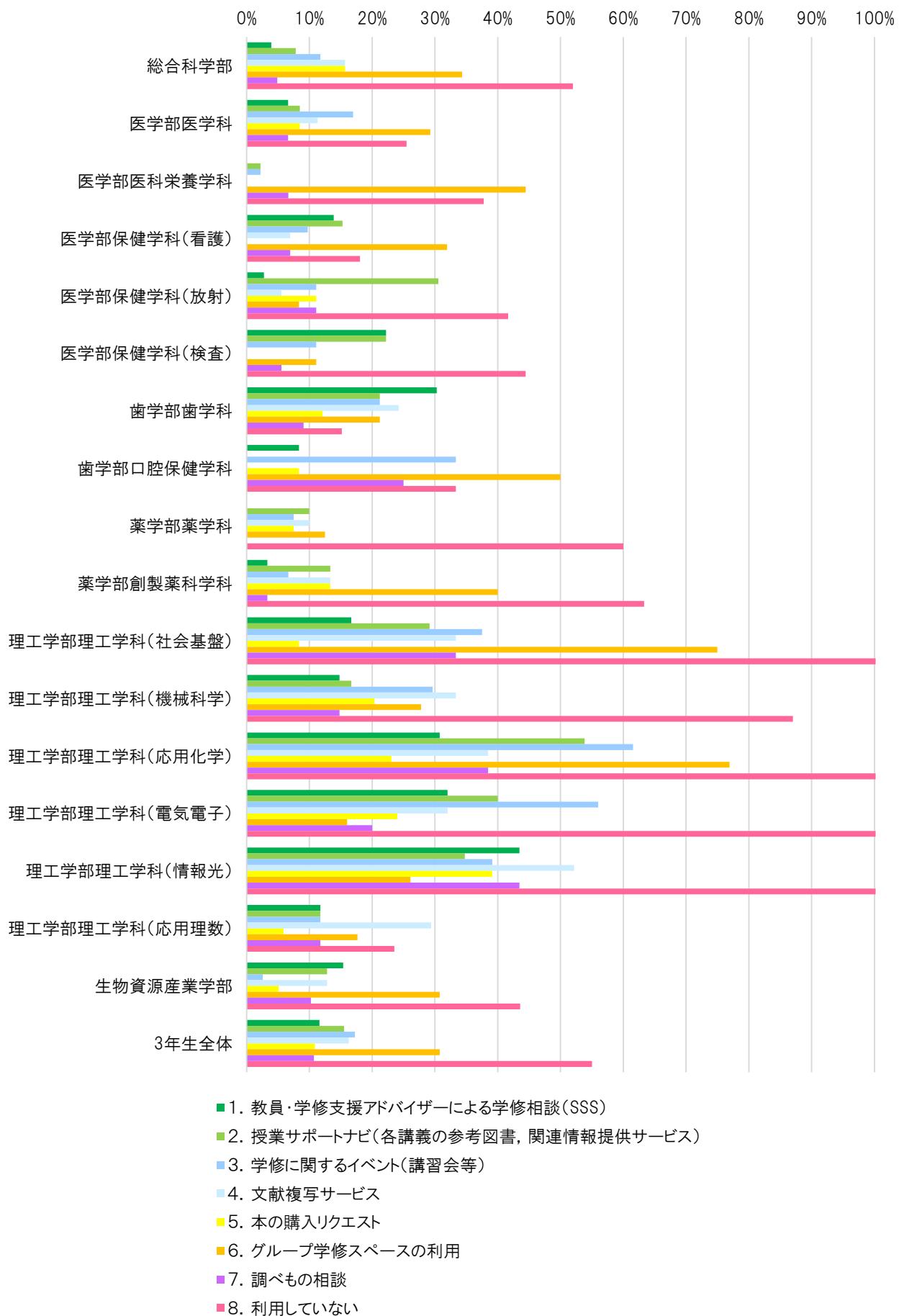


[115]クラス担任制度



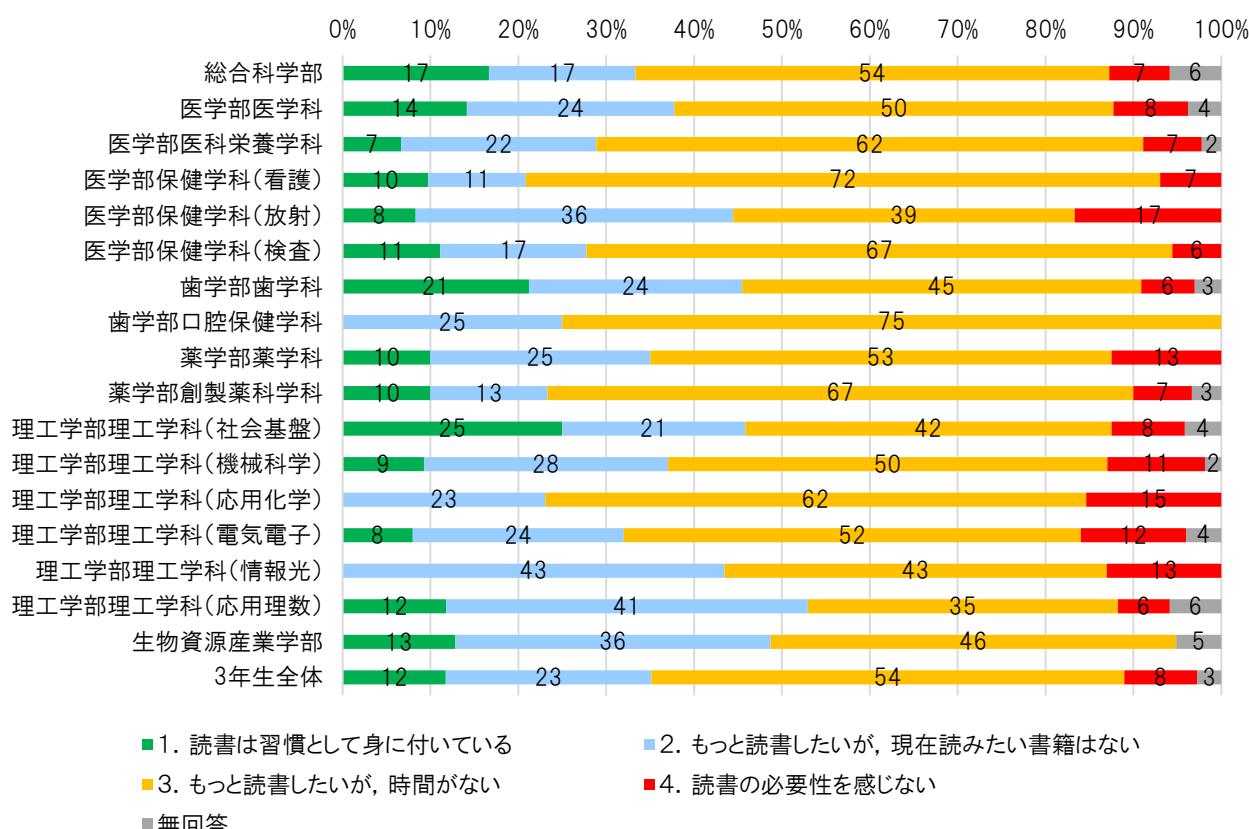
■5.とても満足 ■4.満足 ■3.どちらでもない ■2.不満 ■1.とても不満 ■無回答

[116]図書館のどんな学修支援サービスを利用していますか。(複数回答可)

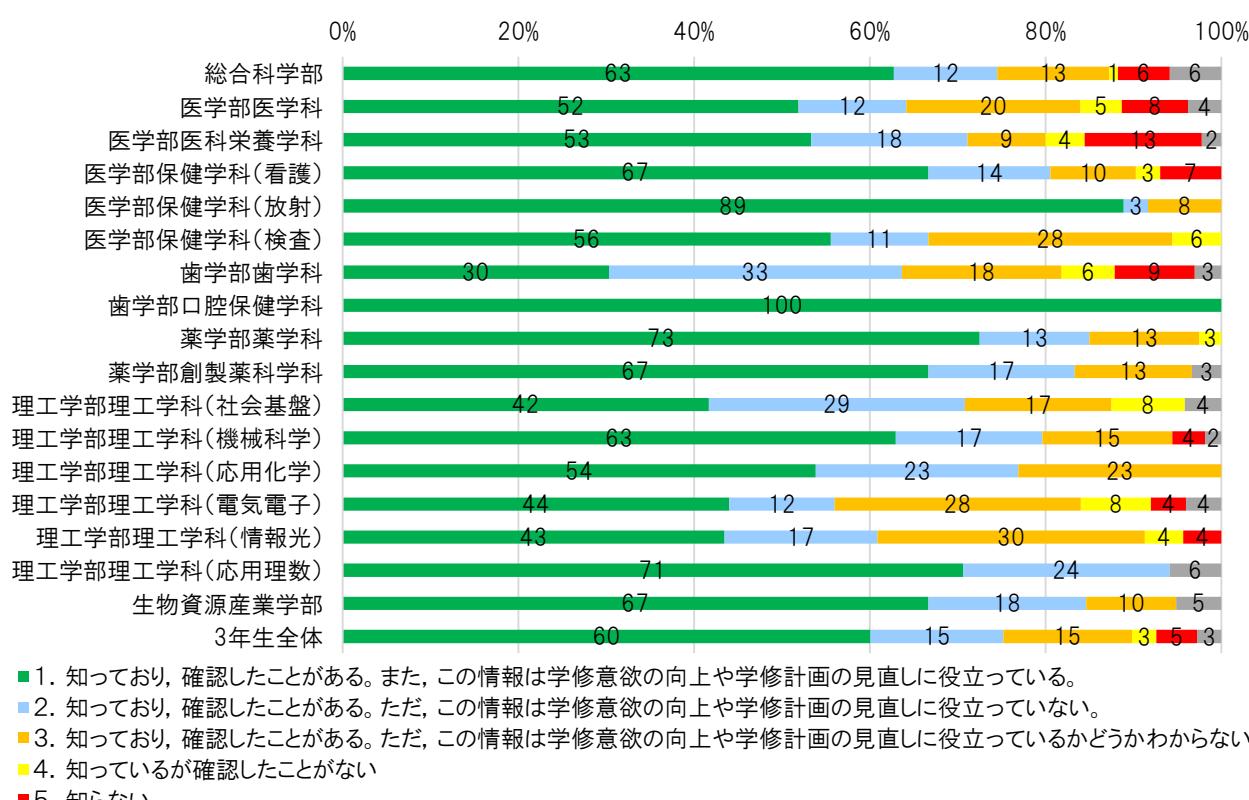


- 1. 教員・学修支援アドバイザーによる学修相談(SSS)
- 2. 授業サポートナビ(各講義の参考図書、関連情報提供サービス)
- 3. 学修に関するイベント(講習会等)
- 4. 文献複写サービス
- 5. 本の購入リクエスト
- 6. グループ学修スペースの利用
- 7. 調べもの相談
- 8. 利用していない

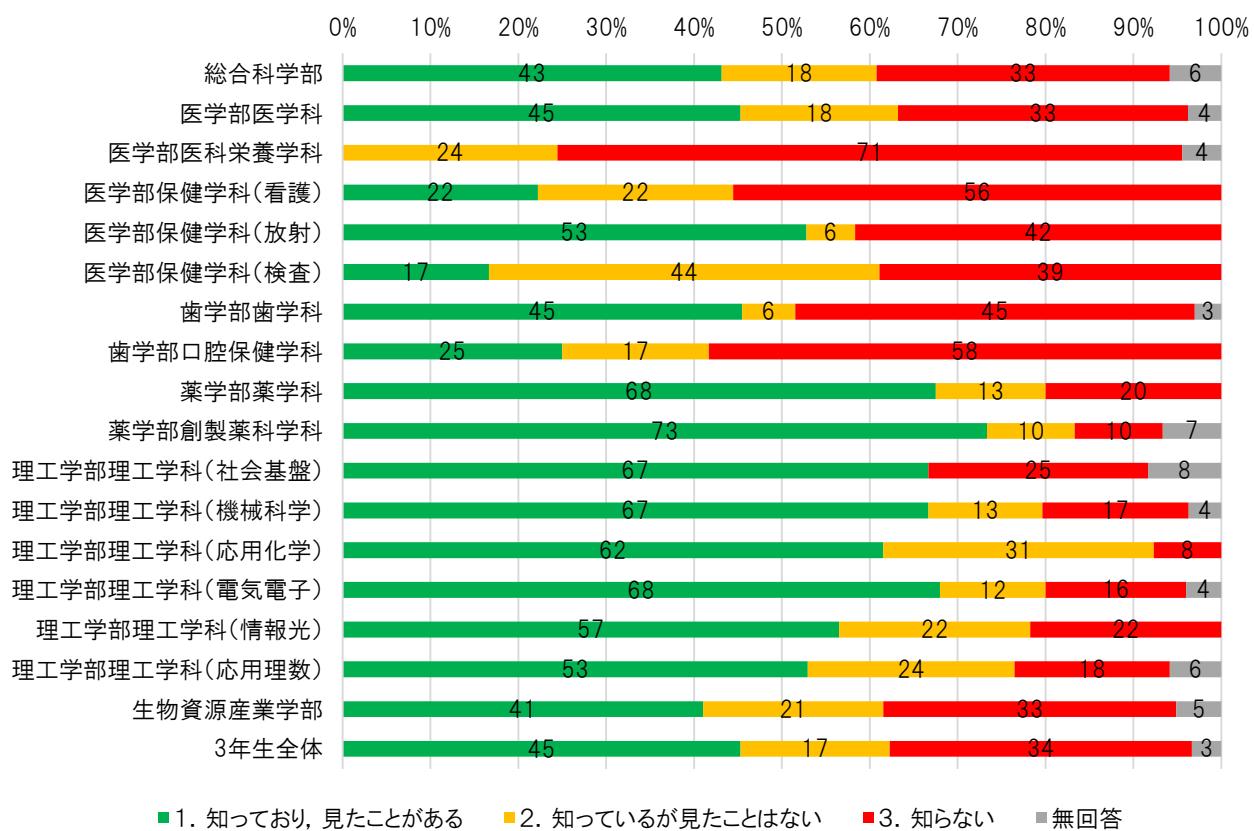
[117]あなたは、読書についてどのように考えていますか。



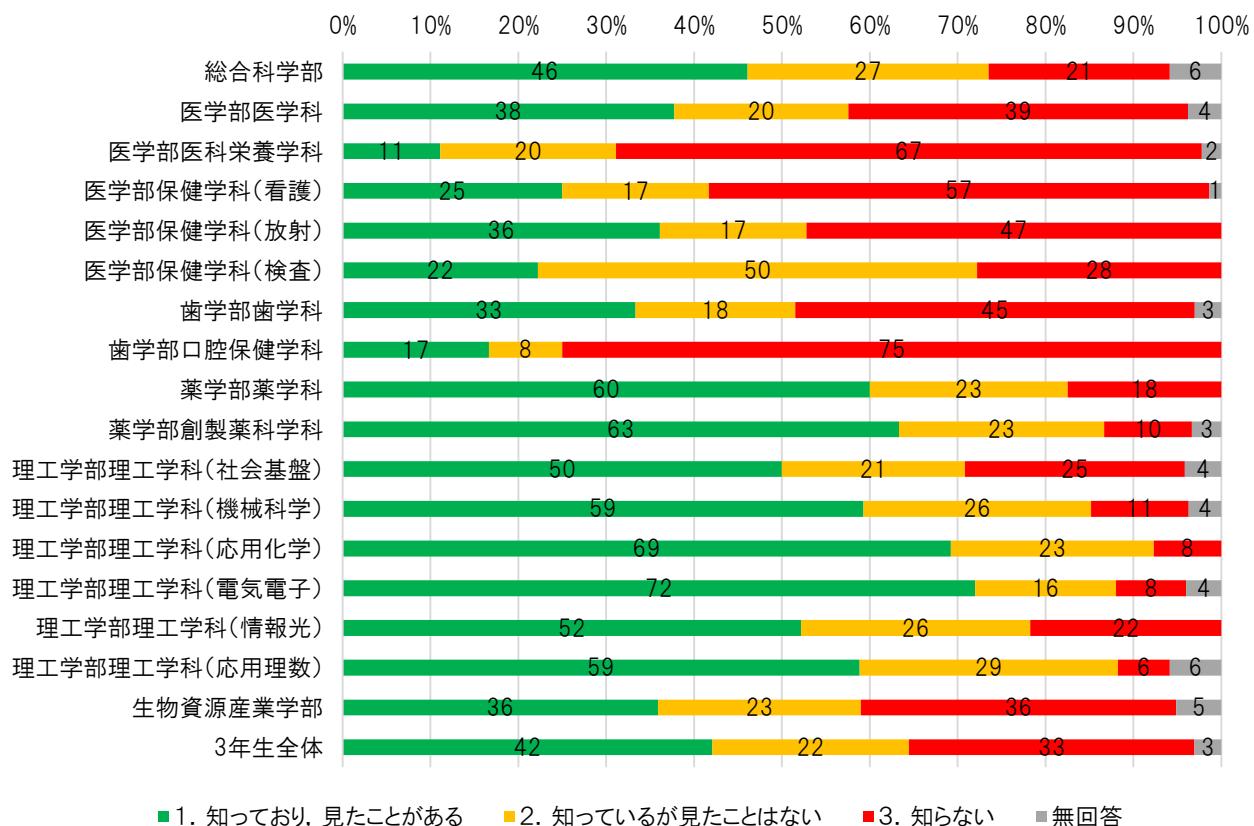
[118]徳島大学では、履修者が 11 名以上の授業では、自分の成績や成績の分布が確認できるようになっていることを知っていますか。また、役立っていますか。



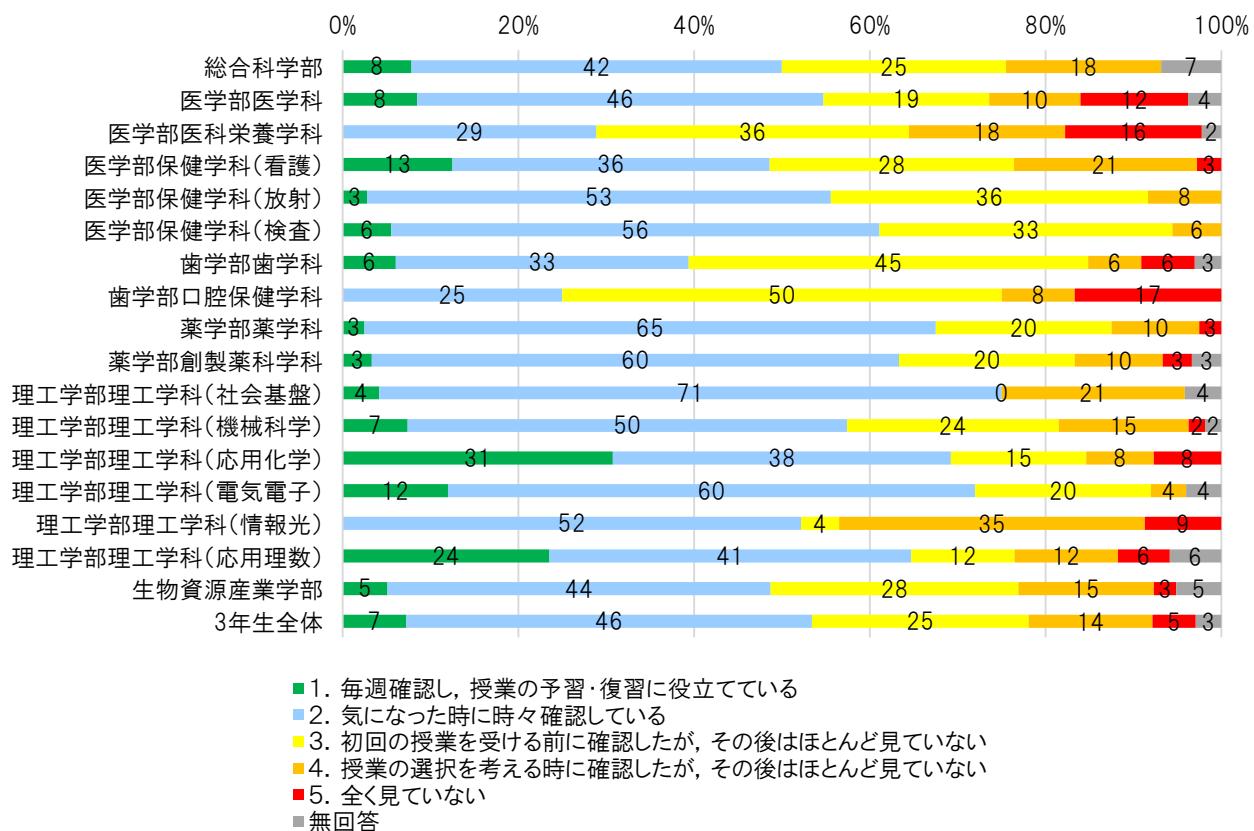
[119]徳島大学では、卒業に必要な履修科目やそれらの科目を学修していく順序等を一覧できる「カリキュラムマップ」を公開していることを知っていますか。



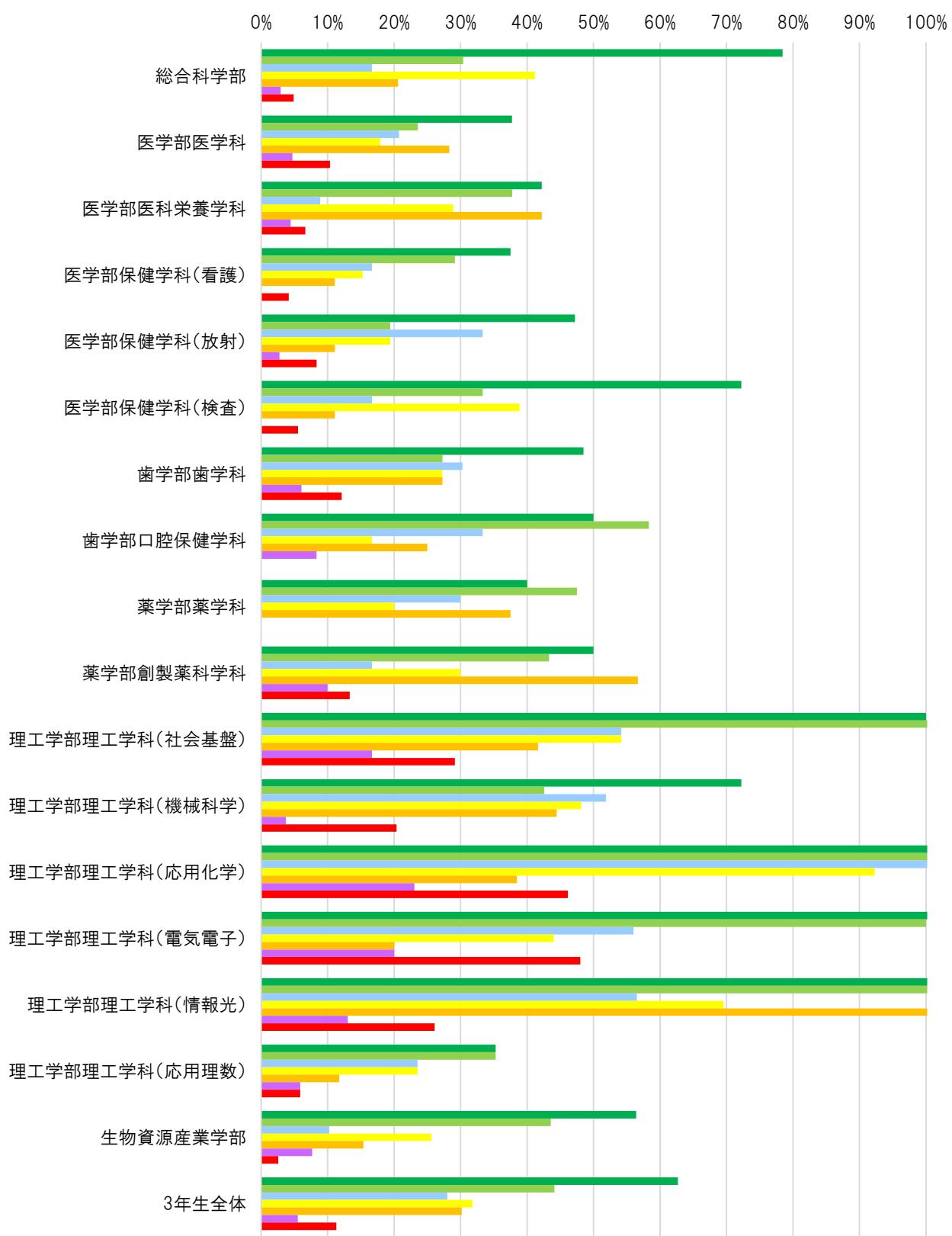
[120]徳島大学では、学部の授業科目のレベルに基づく学修の段階や順序を整理し適切な番号を付与した「科目ナンバリング」を公開していることを知っていますか。



[121]シラバスはどのように利用していますか。

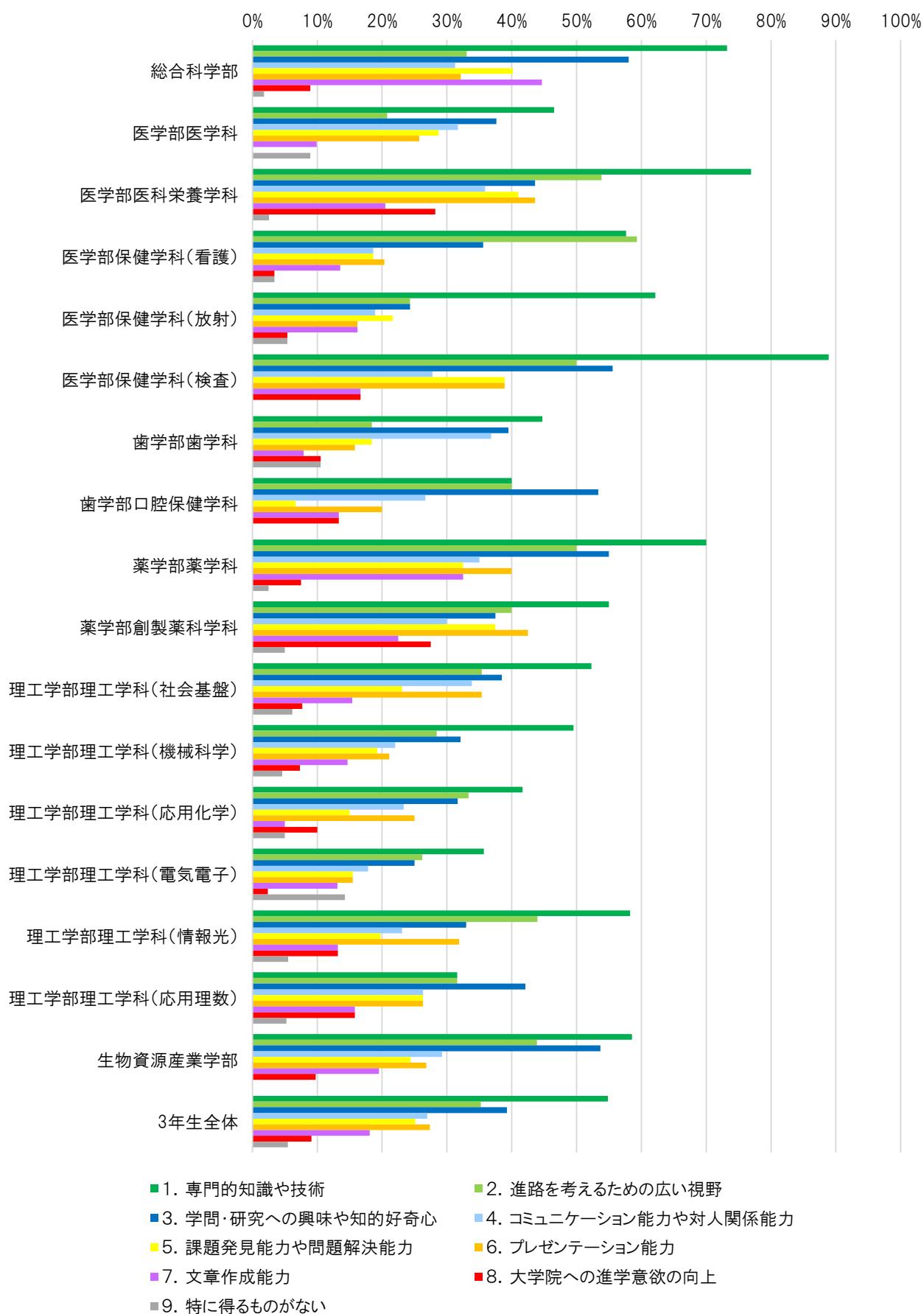


[122]卒業研究、医学研究実習(医学科)、看護研究(保健学科看護学専攻)、研究基礎ゼミ(歯学科)の研究室をどういう基準で決めましたか。(複数回答可)

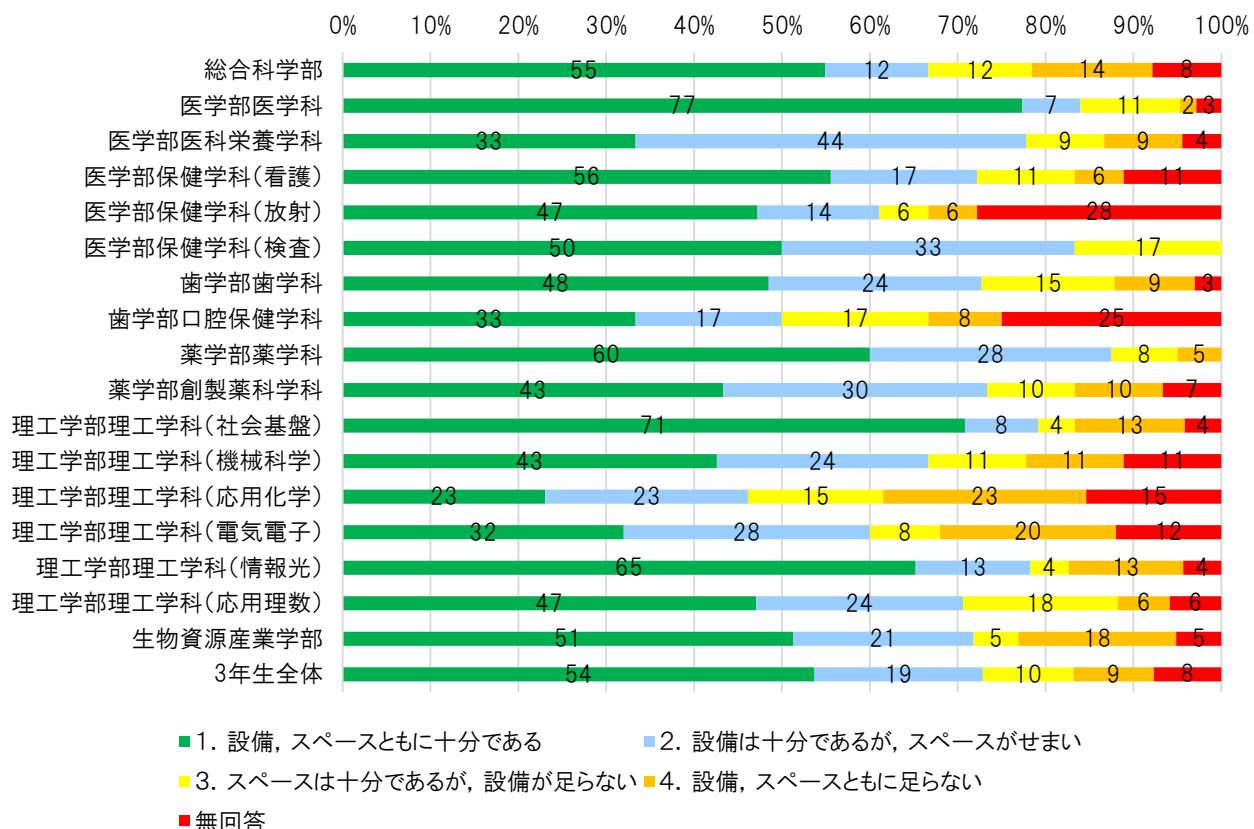


- 1. 関心の深い研究内容であったから
- 2. 将來のやりたい仕事や進路に必要と思ったから
- 3. 先輩や友人の勧めで
- 4. 教員の人柄に魅力を感じたから
- 5. 研究室の雰囲気で
- 6. やむを得ず入った
- 7. どこでもよかった

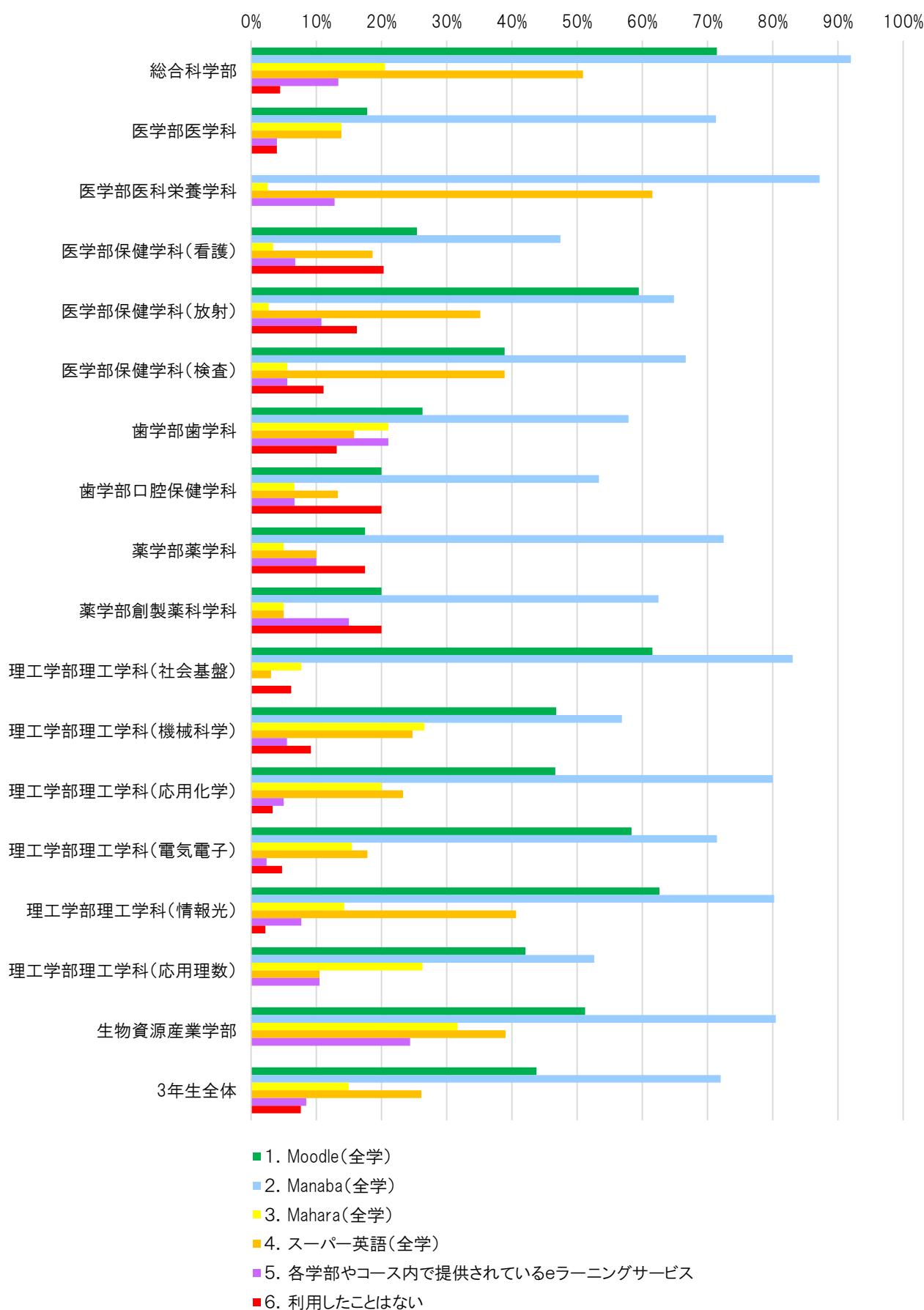
[123]卒業研究、医学研究実習(医学科)、看護研究(保健学科看護学専攻)、研究基礎ゼミ(歯学科)によって何が得られると思いますか。(複数回答可)



[124]研究を進めるための設備、スペースは確保されていますか。



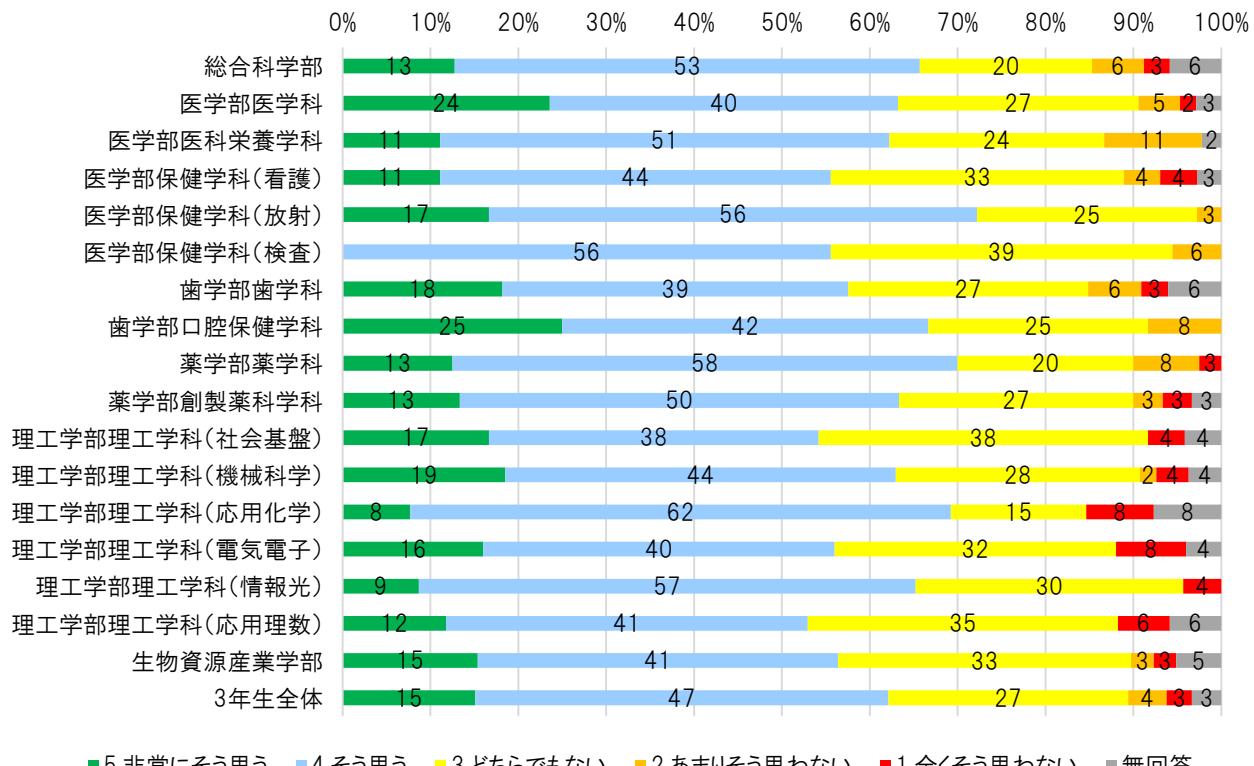
[125]徳島大学のeラーニングサービスを利用したことはありますか？利用したことのある人は以下の項目から利用したことのあるサービスを選んでください(複数選択可)。



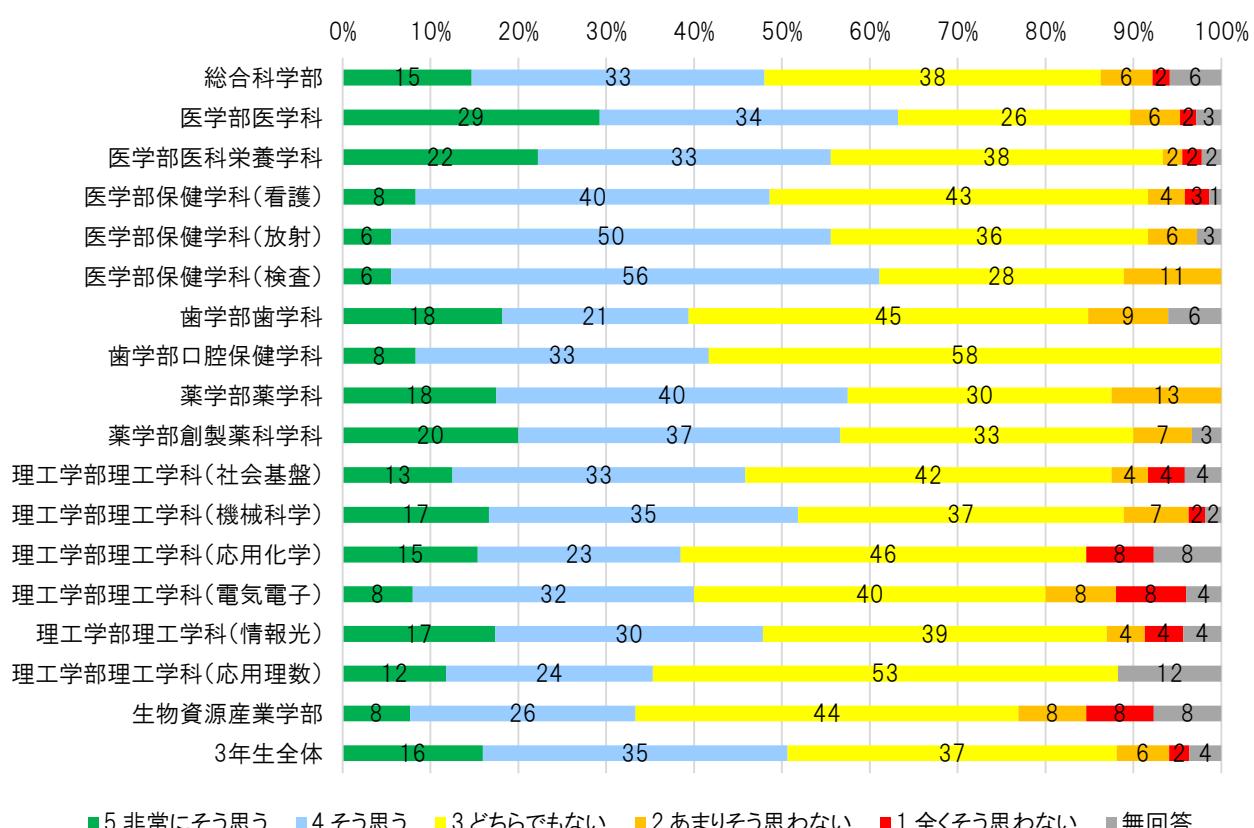
- 1. Moodle(全学)
- 2. Manaba(全学)
- 3. Mahara(全学)
- 4. スーパー英語(全学)
- 5. 各学部やコース内で提供されているeラーニングサービス
- 6. 利用したことない

本学では、学生のみなさんに対して、上記のようなeラーニングサービスを提供しています。Eラーニングサービスに関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

[126]本学のeラーニングサービスは、学修に役立つ

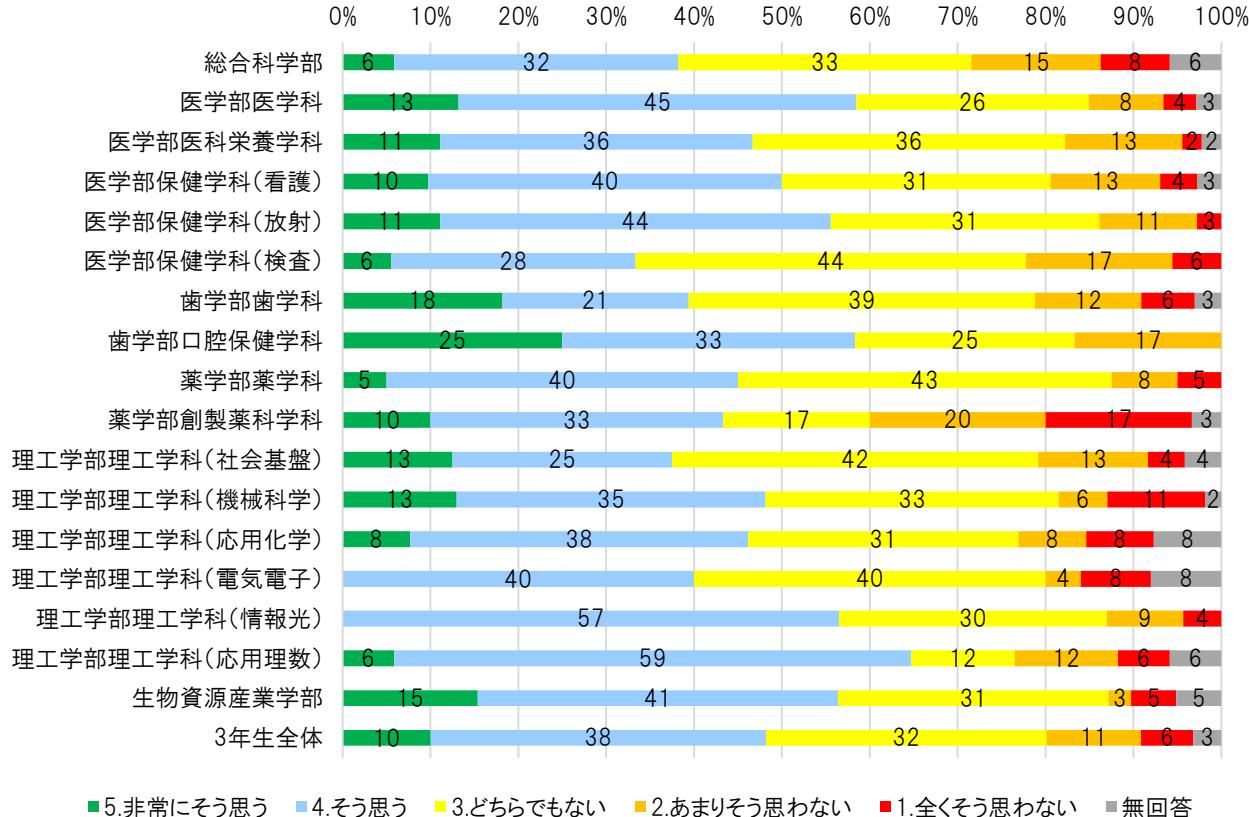


[127]本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか

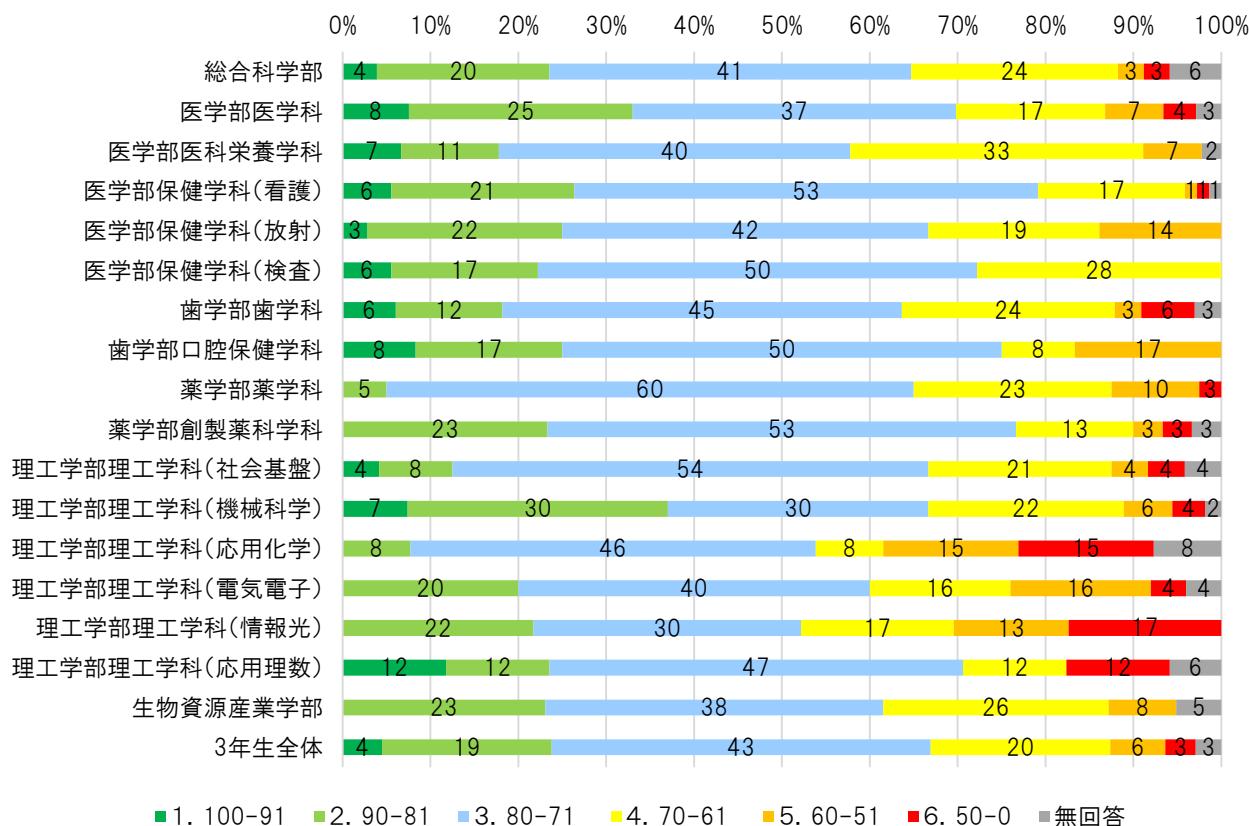


本学では、学生のみなさんに対して、授業の中間期および最後に「授業評価アンケート」をおこなっています。この「授業評価アンケート」に関して書かれている次の項目の内容は、あなたにどの程度当てはまりますか。

[128]「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である

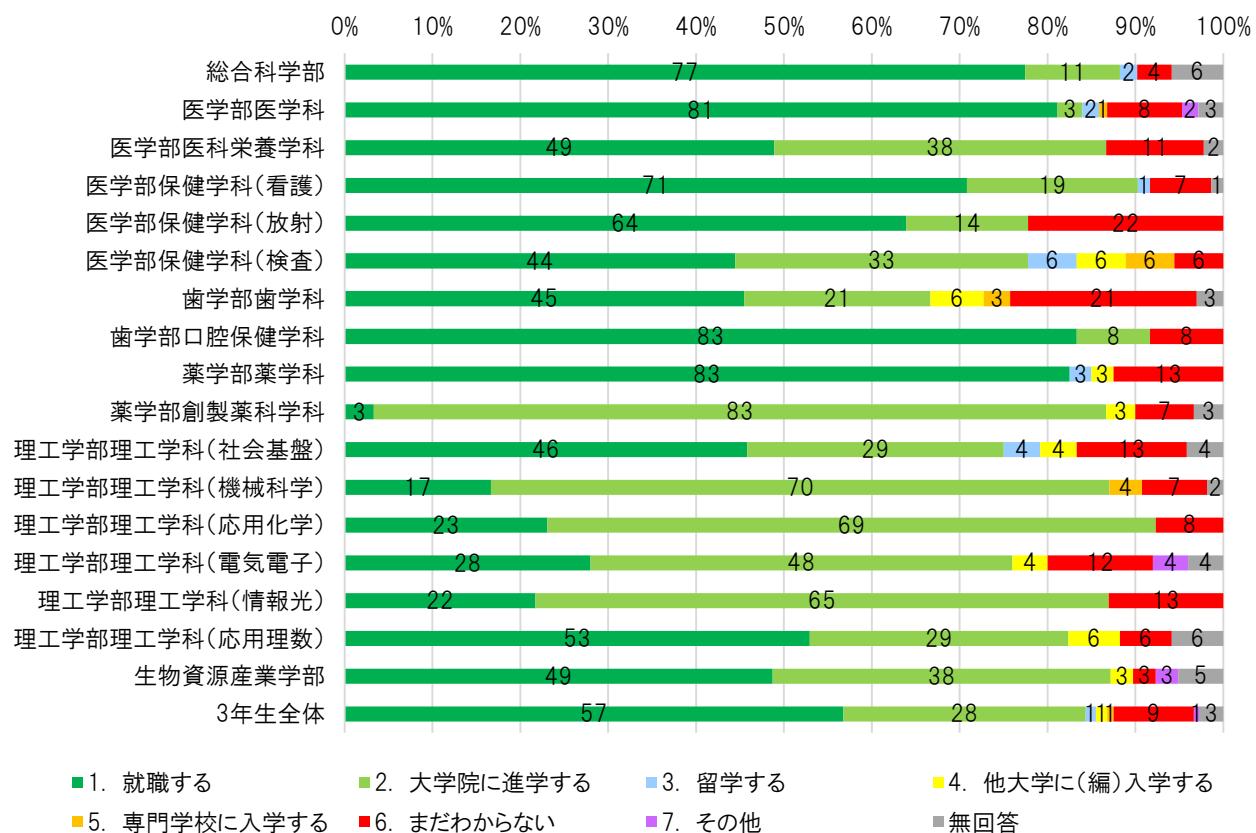


[129]大学教育全体の満足度は 100 点満点で何点ぐらいですか。



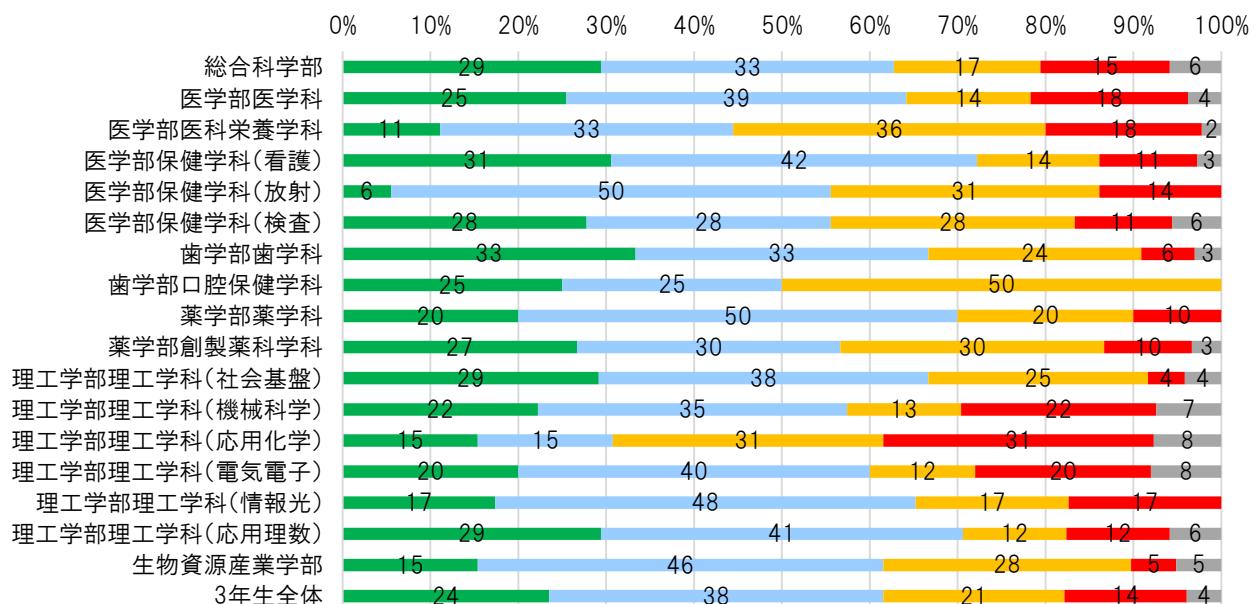
V. 最後に、将来のことについておうかがいします。

[130]あなたは学部卒業後、どのような進路を考えていますか。



[131]将来の見通しに関する以下の2つの文章を読んで、あなたのいまの状態にもっとも近い番号を選んでください。

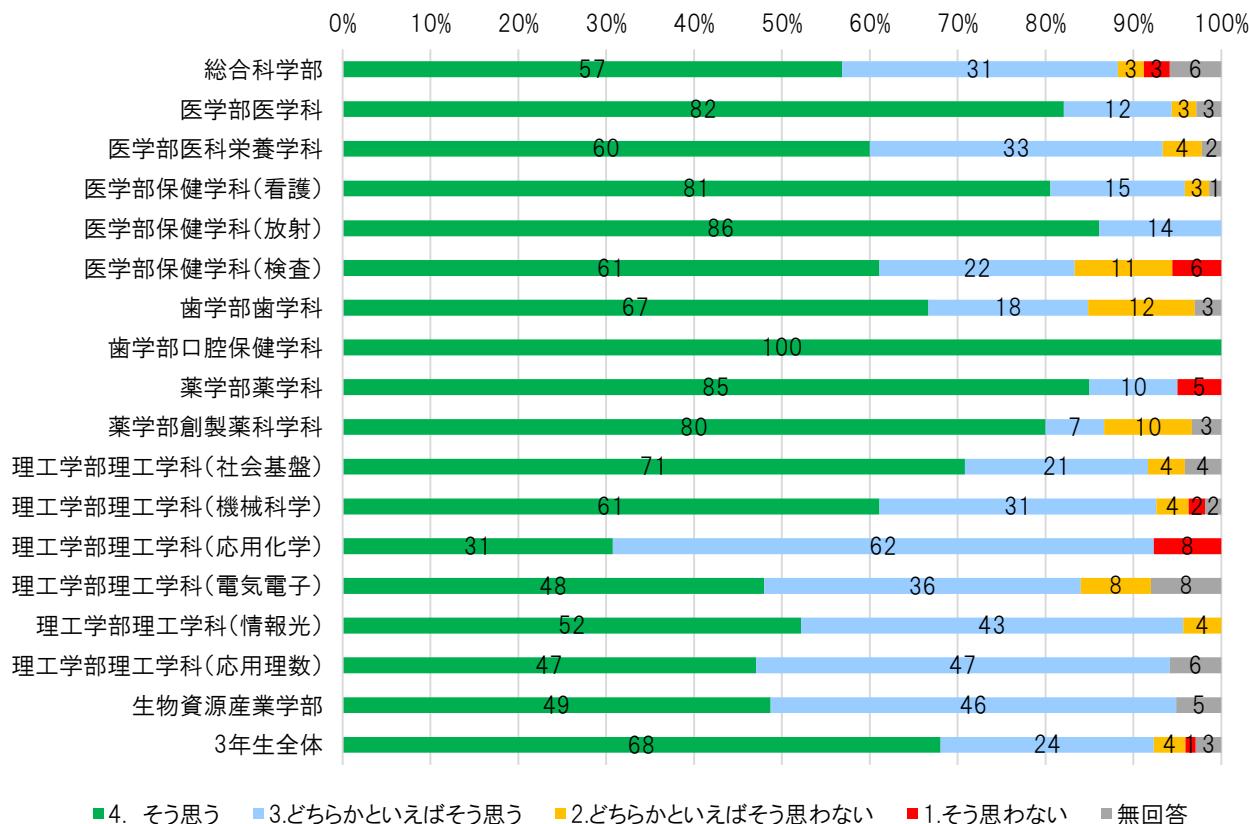
- ・あなたは、将来の見通し(将来こういう風でありたいという考え方)を持っていますか。
- ・その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべてください。あなたは、その見通しの実現に向かって、自分が何をすべきなのがわかっていますか。また、それを実行していますか。



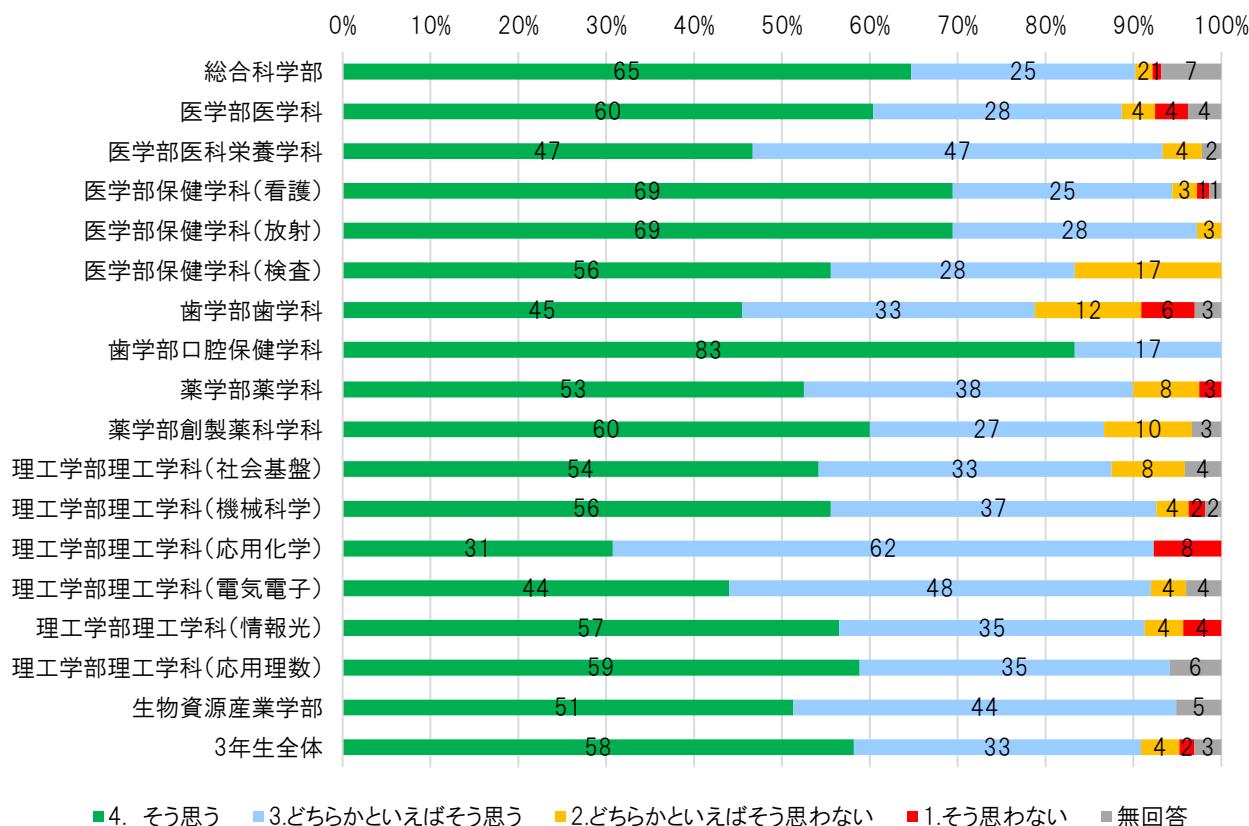
- 1. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているし、実行もしている
- 2. 将来の見通しを持っている+何をすべきかをわかっているが、実行はできていない
- 3. 将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない
- 4. 将來の見通しを持っていない
- 無回答

あなたが大学(学部)卒業後の進路の準備をしたり考えたりするために、次のようなことがらを大学在学中に経験したいと思いますか。

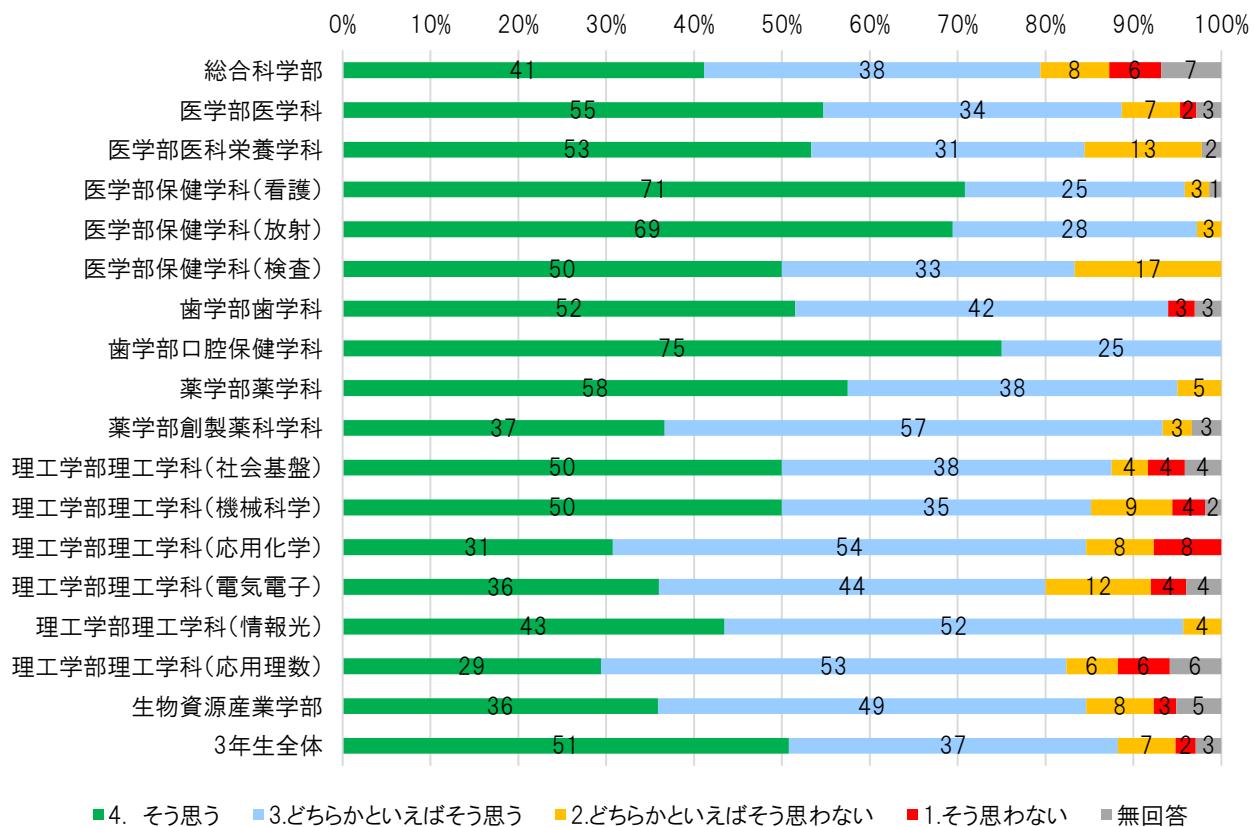
[132]専門分野をしっかり身につける



[133]専門分野だけでなく、幅広い知識を身につけ視野を広げる

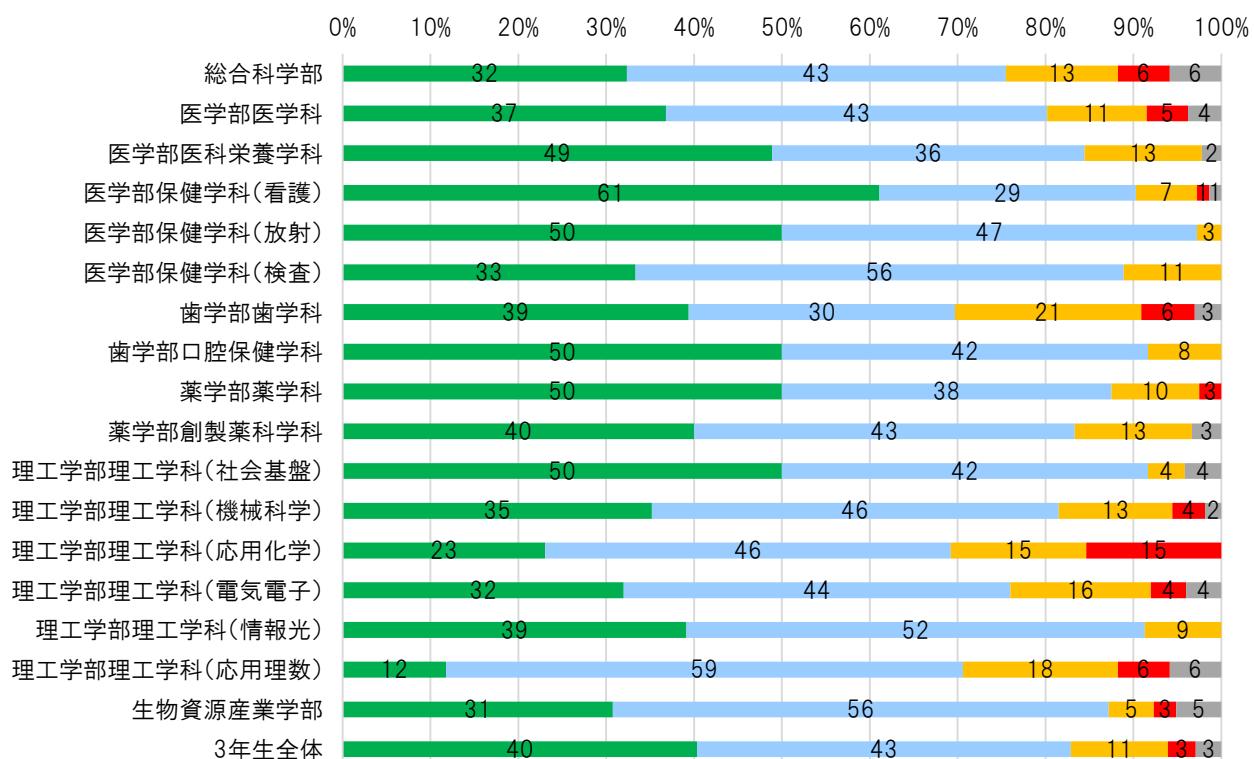


[134]就職意識の形成につながる教育を受ける



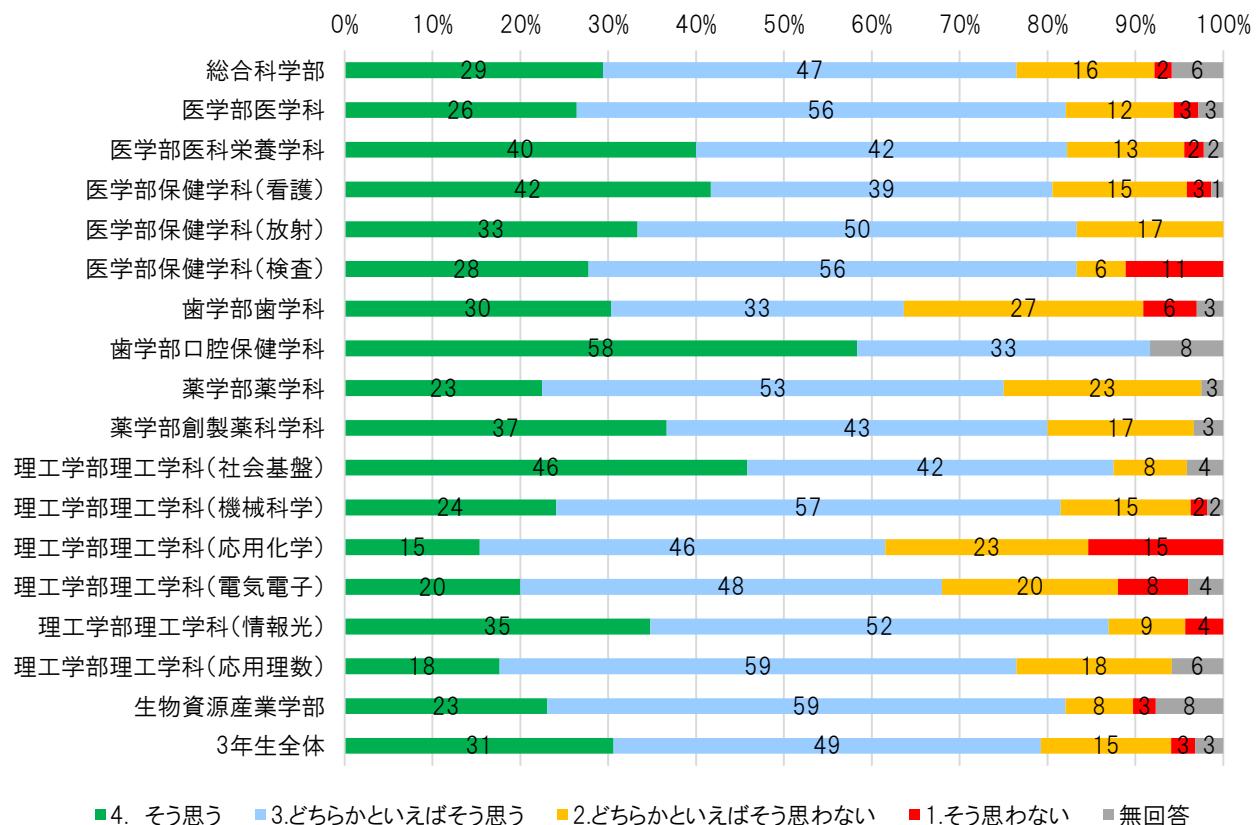
■4. そう思う ■3.どちらかといえばそう思う ■2.どちらかといえばそう思わない ■1.そう思わない ■無回答

[135]企業での体験学習等を踏まえた上で、専門知識を学ぶ

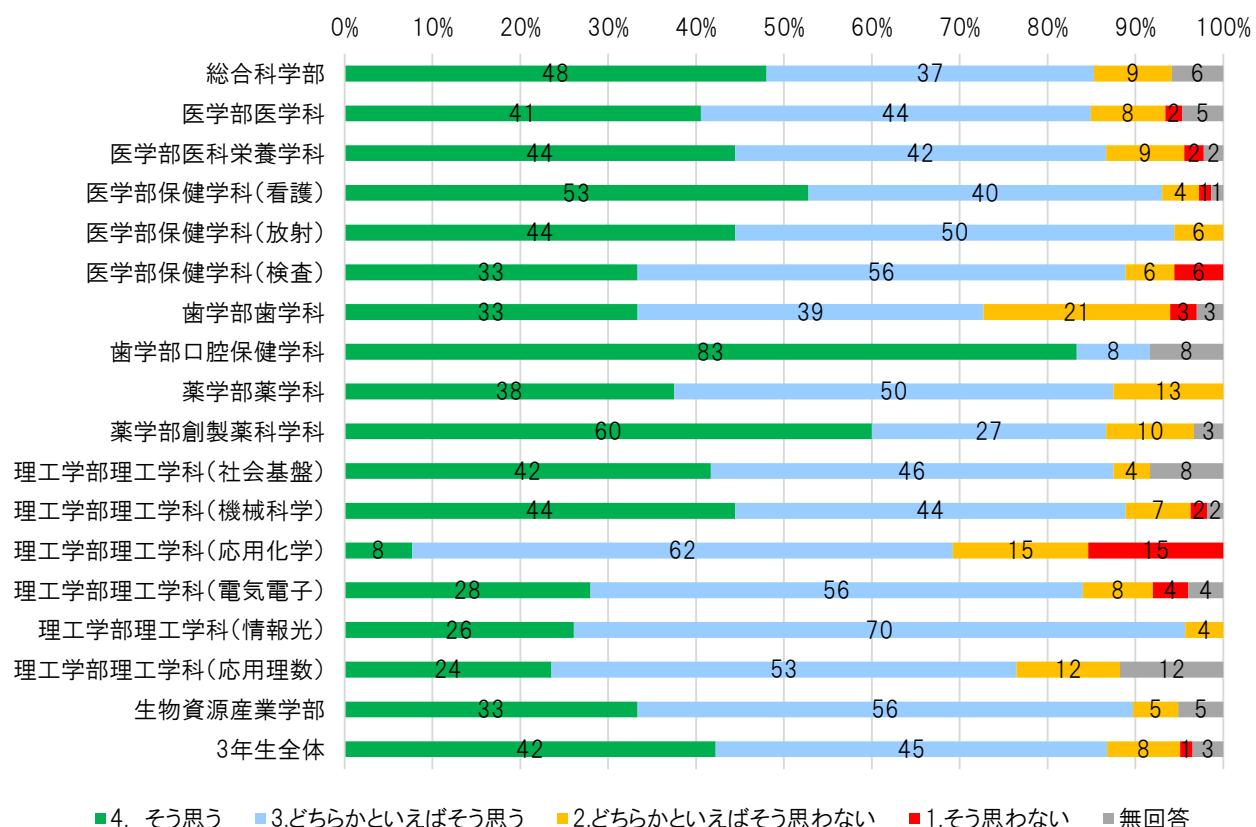


■4. そう思う ■3.どちらかといえばそう思う ■2.どちらかといえばそう思わない ■1.そう思わない ■無回答

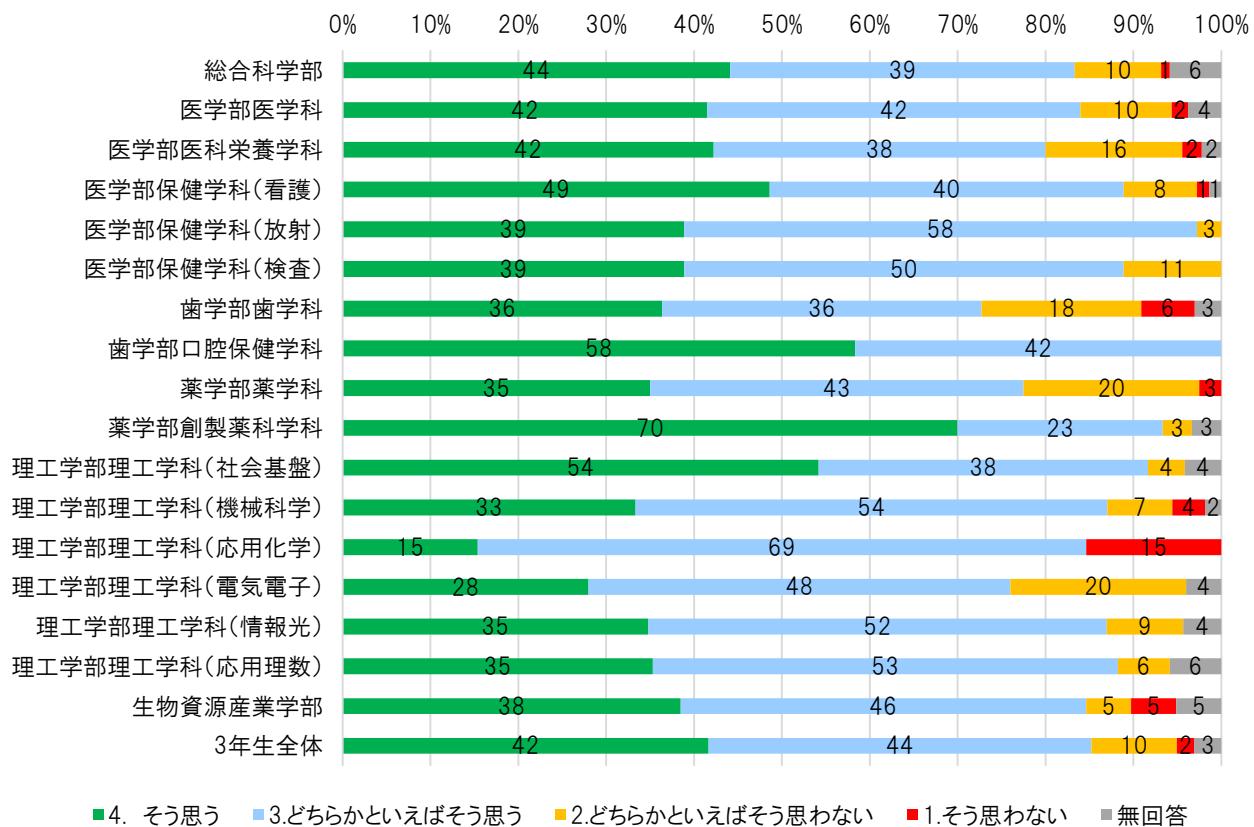
[136]教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける



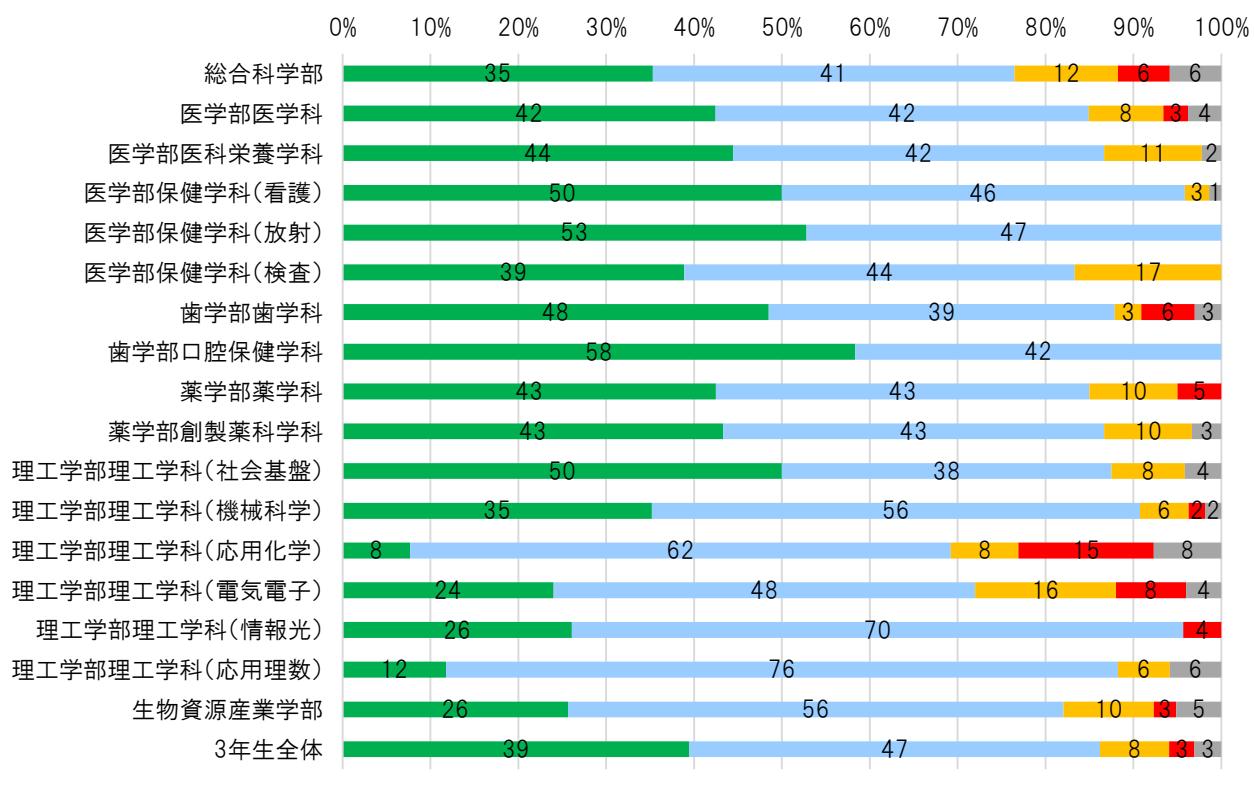
[137]自分で課題を見つけ、自分で解決していくような訓練を受ける



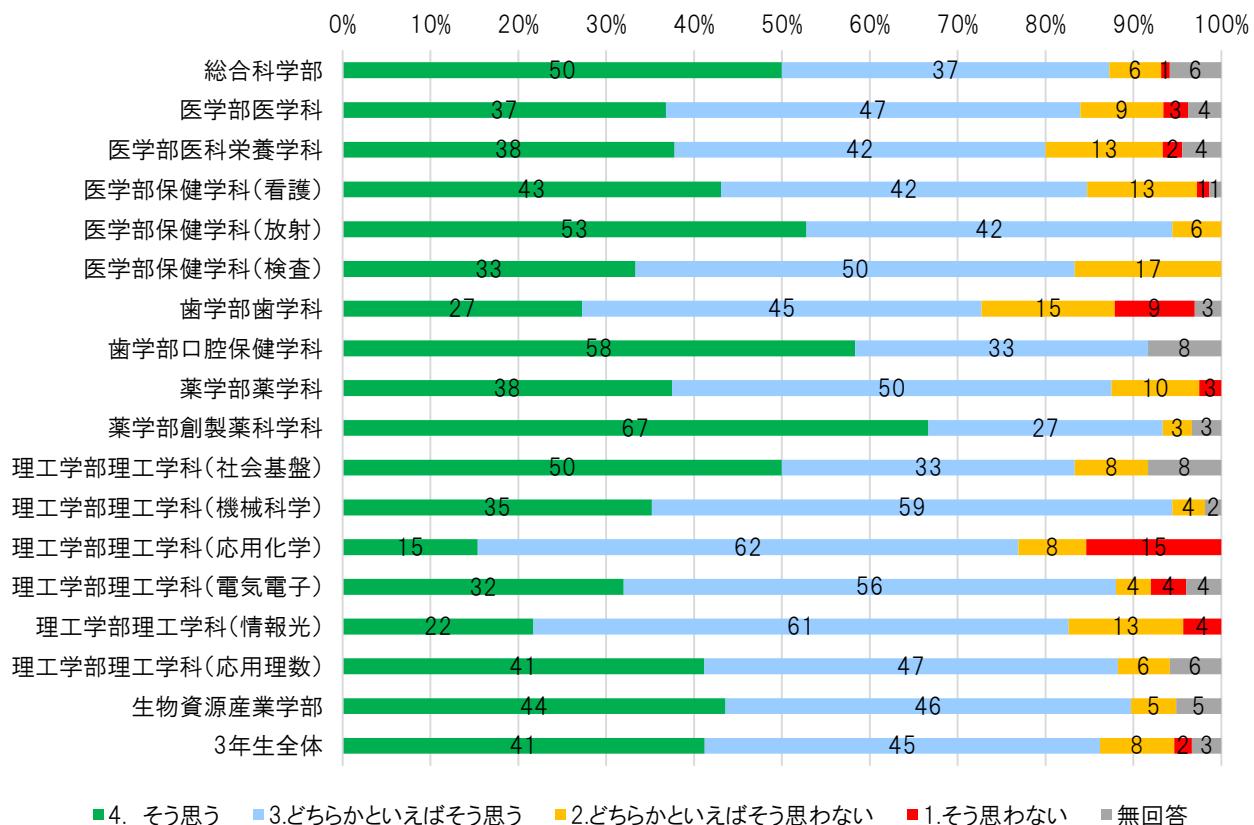
[138]ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける



[139]実践的で専門性のある資格を取得するためのプログラムを受ける

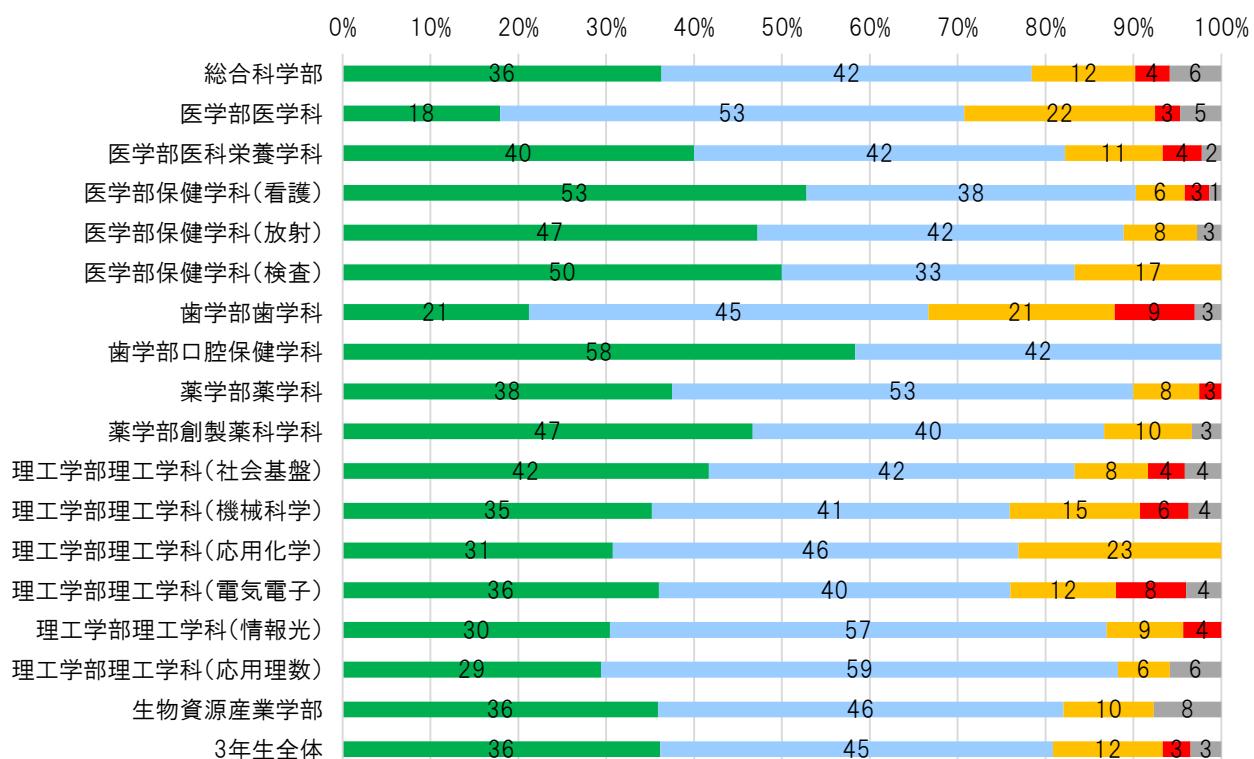


[140]レポートや論文指導により、文章作成能力を高める



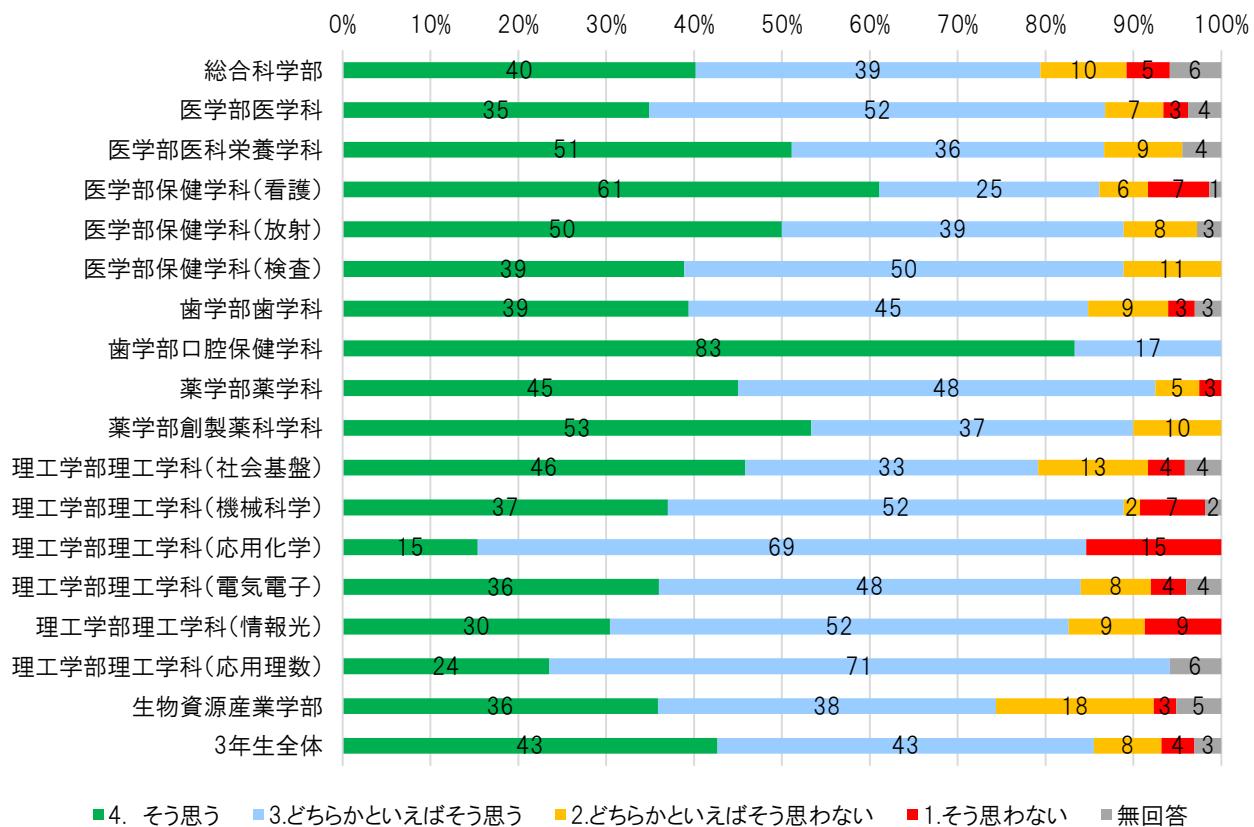
■4. そう思う ■3.どちらかといえばそう思う ■2.どちらかといえばそう思わない ■1.そう思わない ■無回答

[141]卒業後の進路について、教職員に対して個別に相談する

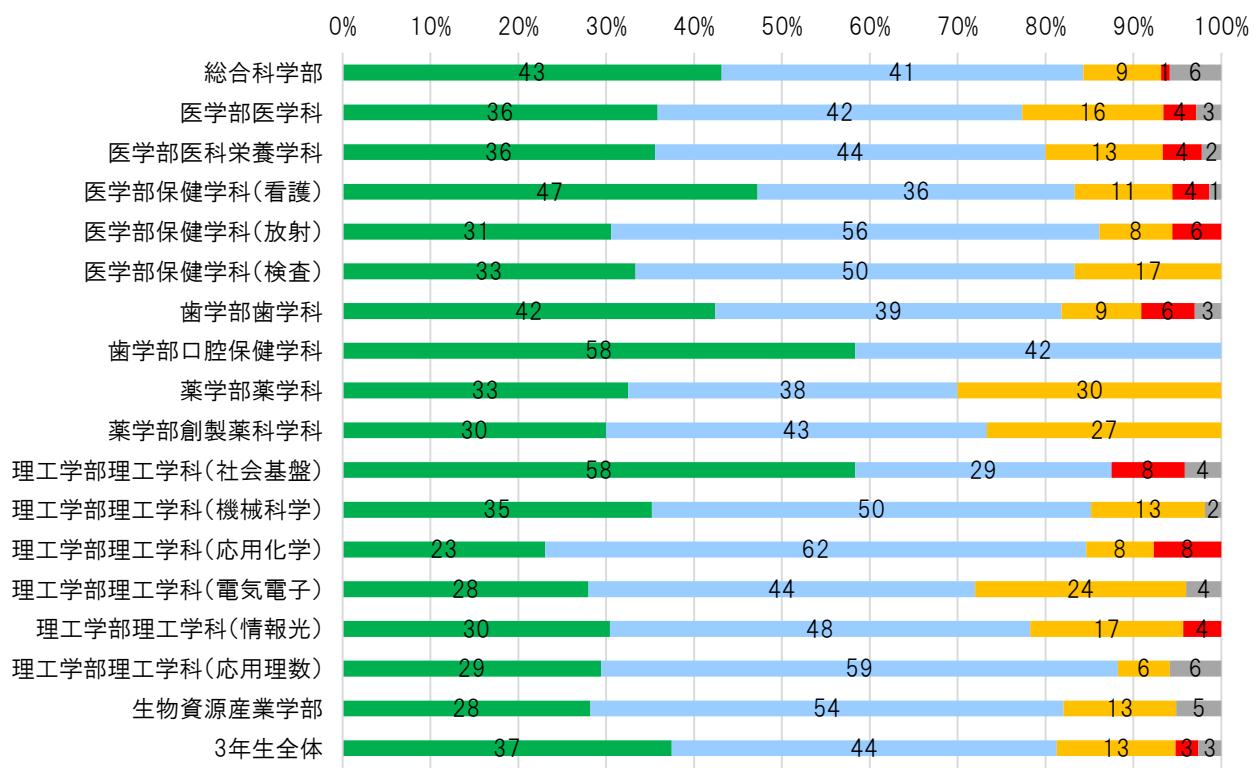


■4. そう思う ■3.どちらかといえばそう思う ■2.どちらかといえばそう思わない ■1.そう思わない ■無回答

[142]卒業後の進路について、本学の卒業生や先輩と話をする



[143]本学の教職員以外の大人と話をする



第2章 学部等の現状と課題

1 総合科学部

今回の調査も1、3年生を対象にしたものであり、設問もそれほど大きな違いはなかったが、例年と異なる結果をもたらした要因としてはまずは新型コロナウイルス感染症の影響を挙げなければならない。その点を踏まえて、前回調査（令和元年実施）との比較を交えて総合科学部の学修に関する現状と課題をまとめていくこととする。なお、総合科学部学生の本アンケートに対する回答率は、1年生で72.4%、3年生で55.1%であった。

今回の調査で浮き彫りとなったのは、遠隔授業の大幅な導入の影響である。感染症対策の一環として飛躍的に増加した遠隔授業の実施は、「実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ」機会がどれくらいあつたかを問うた設問（設問4）において、体験的な学びの経験が「あまりなかった」と「まったくなかった」を併せて88%に昇る結果をもたらした。総合科学部では近年、改組によるカリキュラム改変に伴って実践的な学びを展開させており、「ひんぱんにあった」や「ときどきあった」という回答の割合が増加してきた経緯があったにもかかわらず、こうした結果となった。一方で3年生の場合は同じ設問に対して「ひんぱんにあった」「ときどきあった」との回答の割合が57%（1年生では12%）と、一定程度の水準を保っている。また、学生自身による文献調査（設問8）や定期的な小テスト・レポートを体験したか（設問9）については、前回調査と比較しても増加している（たとえば設問8で「ひんぱんにあった」と回答した割合は、1年生で42%から64%、3年生で46%から60%）。このことなどからは、遠隔授業導入の影響とともに、新入生がイメージする“体験的な学び”と実際との齟齬が大きかったことも一因ではないかと考えられる。

同様に、1年生への質問項目で前回調査に比して大きく数字を下げたものとしては、この他に「大学教員と顔見知りになる」（設問82）、「他の学生との友情を深める」（設問83）などもある。いずれも「とてもうまくいった」「いくらかうまくいった」を併せて21%（前回31%）、51%（前回82%）となっている。こうした授業の在り方が「あなたの学生生活は充実していますか」（設問87）における「充実している」「まあまあ充実している」を併せた値の変化、すなわち前回の81%から49%への下落に繋がっているのか、また「授業をつまらなく感じた」（設問28）ことが「ひんぱんにあった」「ときどきあった」と回答した1年生の割合が64%（前回76%）、3年生で71%（前回84%）と、前回調査から若干の減少がみられることにどのような要因が考えられるのかといった点については、授業形態と学生の学びの質に関わる問題として今後も慎重に検討を重ねていく必要があるだろう。

感染症による入構制限の影響としては、図書館の利用（設問20）や部活動への参加（設問38）などにおいて、「まったくなかった」「全然ない」の割合（1年生では、図書館で今回33%，前回5%，部活動で今回44%，前回23%）となって明確に表れている。その一方、「授業課題のためにWeb上の情報を利用した」（設問21）、「インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした」（設問22）では、1、3年生ともに前回調査から大幅に増加している。また「授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」（設問35）では、2時間以下の割合が1年生で前回調査の約40%から約19%へ、3年生でも約50%から約30%へと大きく減少するなど、学びのかたちに変化をもたらす面もあった。このようにプラスに働いた側面を継続させる方向での検討もなされるだろうが、感染症の影響はこうした学修面に限定しても多岐にわたっており、学生の学修にとって何が重要か、長期的に見極めることも肝要ではないだろうか。

授業の在り方に関連した要素としては、以下も注意が必要である。「授業中に学生同士で議論する」（設問12）では「ひんぱんにあった」「ときどきあった」の回答が1年生で70%、3年生で86%であり、前回調査時と変わらず高い割合を示している。例年では1年生と3年生で差が大きくなる「授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、授業内容を話したりした」（設問24）に関しては、1年生は「ひんぱんにあった」「ときどきあった」の回答が52%（前回16%）と大幅に上昇した（3年生は61%、前回67%）。遠隔授業が主流となるなか、貴重なグループワークの機会を

有効に活用したものと評価すべきなのかについては後考を待ちたいが、ゼミ開始以前の学年の学びにも例年とは異なる傾向が伺える結果となった点は押さえておきたい。

授業時間外学修についての問い合わせ（設問 35）では、1年生では「週1時間～5時間」が38%を占め、3年生になると53%となる。学年を経るごとに授業時間外学修が減少していく結果となっており、1年生の段階から授業時間外学修時間を促す学修指導が重要である。ただし前回調査時と比較すると、その割合は1年生で70%，3年生で51%であり、特に1年生は遠隔授業にあたって出される課題が増加したこともある。多くの時間を費やしていたことが数字の上でも確認できる。

入学時点と比べて能力がどう変化したかを問う設問群では、1年生から3年生にかけて「大きくえた」「えた」を併せた割合に変化がみられるものがいくつか確認できた。「文章表現の能力」（設問 53）では69%から80%，「コミュニケーションの能力」（設問 55）では43%から63%，「プレゼンテーションの能力」（設問 56）では27%から69%，「数理的な能力」（設問 57）が9%から20%と増加している。特に文章力については、「SIH 道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目」を問うた設問 103において、「大学における学修の仕方・取り組み方」をトップに挙げていた1年生段階から、3年生の時点では「文章（レポート）の書き方」が群を抜いて高くなっている。学年が進むにつれて将来を見据えた能力・技能の修得を意識していることは、「時間を効率的に利用する能力」（設問 59）において43%から55%へ、「卒業後に就職するための準備の度合い」（設問 61）でも33%から66%へと伸びていることからも裏付けられる。文章力のみならず、他の能力についても汎用的技能の涵養を目的として掲げた SIH 道場での学びを経て、専門課程に至るまでの間に自ら活用できるスキルとしていかに身につけさせるかが肝要となる。

その一方で、「リーダーシップの能力」（設問 47），「人間関係を構築する能力」（設問 48），「他の人と協力して物事を遂行する能力」（設問 49），「異文化の人々と協力する能力」（設問 50）といった、他人との関係構築や協働に関する能力については、「大きくえた」「えた」を併せた割合について3年生ではほとんど変化がなかったものの、1年生では大きく数字を下げる結果となった。これも対面での授業実施と関係する今年の特徴的な傾向といえるだろう。

大学における教育に対する期待（設問 62）や、大学の教育によって獲得が期待できる知識や能力（設問 63）に関して複数回答可で問うた設問について、1年生では「社会で役立つ知識、教養」が多く、3年生では「専門的知識」が伸びる傾向が例年あり、今回の調査でもその傾向は確認できた。一方で「課題発見・解決力」や「コミュニケーション能力」については、前回調査に比べ1年生でも高い傾向がみられる。入学当初から既に卒業までの学修と将来を見据えた学びへの意識があり、それに応じた学びを提供することが求められている。

異文化理解につながる外国語の修得や留学については、総合科学部で特に重視している学修である。それに関連した一連の問い合わせ（設問 69～76）では、聞く、読む、話す、書く技能におけるそれぞれの到達レベルについて、1年生については入学後から後期までの間にわずかながらも概ね上昇をみせている。一方3年生では、到達したレベルの自己評価はそれほど高くはならず、低いままの傾向にある。高度な語学授業の実施や高いレベルの進級要件を課すことによって英語力の向上を果たしたコースでは、到達レベルのハードルが高めに設定されているため向上の実感に乏しくなっている可能性も想定されるが、コースによっては学年が上がるにつれて英語学習の機会が減少することも事実であり、いかに継続的な学びを実現するかが課題である。

新カリキュラム下の学生を送り出した総合科学部では、今後カリキュラムや学生が身につけた力を検証し、学修の質について検証する段階に入った。今回の調査には新型コロナウイルス感染症という要素が大きく影響し、例年のデータとは単純な比較が難しくなっている。しかしこれを新たな課題の把握のための奇貨とし、今後の学修の質につなげていく必要がある。

2 医学部医学科

医学部医学科生の学修に対する現状と課題は下記の通りである。

アンケートの回収率について：

医学科全体のアンケート回収率は 84.7%（1 年生 81.0%，3 年生 88.3%）と比較的高い回収率であった。回収率のさらなる向上のためには、学生が納得する形でフィードバックを行うことと、自らの意見が徳島大学の教育改善にむけた PDCA サイクルの一環となることを学生自身が理解するための工夫が必要と考えられる。

大学入学後の学修状況について：

コロナの影響で対面での実施が限定された影響が反映された結果と推測される。1 年生では実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ機会が「ひんぱんにあった」、「ときどきあった」と回答している学生が 17%にとどまっている（3 年生では 81%）。1 年生では学生自身が文献や資料を調べる機会が「あまりなかった」、「まったくなかった」と回答する学生も 25%と高く（3 年生は 9%），遠隔授業中心となつた影響で、1 年生での実験、実習環境が十分に確保できず、自分で調べて考えるといった機会も少なかつたことが伺われる。

1 年生では 49% の学生が授業時間以外に課題や予習、復習に 11 時間以上を費やしているのに対し、3 年生ではその割合が 22% に下がってしまっている。3 年生が授業や実験に費やす時間は必ずしも多くはないことから、このアンケートに表れない 2 年次の過密なカリキュラムが日々の予習・復習習慣の定着を妨げている可能性が推測される。

1 年生では分析力や問題解決能力、批判的に考える能力、プレゼンテーション能力がそれぞれ 56%，38%，33% であるが、3 年生では 75%，74%，60% といずれも増加しており、医学研究実習や社会医学領域などの学修効果として科学的探求力・研究力が向上していると考えられる。その一方で、異文化の人々と協力する能力において、「大きく増えた」、「増えた」と回答しているものは 1 年生 16%，3 年生 22%，地域社会が直面する問題を理解する能力では 1 年生 21%，3 年生 32% といずれも低いままであり、低学年の間から国際性を身につける機会や、地域について学修する機会を増やしていく必要があると考えられる。

医学科の卒業時コンピテンスであるコミュニケーション能力に関連しては、人間関係を構築する能力が「大きく増えた」「増えた」と回答したのは 1 年生 55%，3 年生 56%，他の人と協力して物事を遂行する能力が「大きく増えた」「増えた」と回答したのは 1 年生 49%，3 年生 57%，コミュニケーションの能力が「大きく増えた」「増えた」と回答したのは 1 年生 50%，3 年生 51% となっており、1 年生と 3 年生ではほとんど変化が見られていない。低学年の間にコミュニケーション能力を涵養するための十分な機会が確保できていないと推測されることから、早い段階から同僚や他の医療職メンバーと信頼関係を築くことができるような体験を増やしていく必要がある。

高校で履修していない科目に支障を感じた場合、大部分の学生が自習や教養教育で開講されている科目で対応しているが、約 1 割の学生が、勉強の必要性を感じながらも、LMS（リメディアル教材）の存在を知らず何もしていなかつた。入学時のオリエンテーションなどで LMS を周知したり、自然科学入門等の受講を勧めるなど、個別対応の継続が必要である。

英語の学習状況：

聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力のいずれの項目も入学後に向上しており、1 年生から 3 年生にかけても向上が伺われる。教養教育、専門教育で行われる英語教育では、現状では不十分と思っている学生が約 6 割おり、ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい、専門英語の時間を増やしてほしい、専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい、といった希望を持つ学生が 1 割程度みられる。医学研究実習や医学英語の拡充とともに、教養から専門、卒業まで一貫した英語教育のカリキュラム整備が必要である。

大学生活に対する満足度：

大学教員の学問的な期待を理解できないと感じている学生が1年生37%，3年生29%と一定数存在しており、教員の意図するところを学生が正しく理解できるような工夫が必要である。自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組めている、という問いに「非常にそう思う」、「そう思う」と回答したものは1年生では60%にとどまっており、将来の仕事と授業内容との結びつきに、「とても満足」、「満足」と回答しているものも52%と少ない。3年生ではこの数値がそれぞれ74%と増加していることから、専門教育にすすむことでより目的意識を高めて学修を進められていると考えられる。

日常的に自身の学修内容等を振り返り、改善点を見出し、向上を図っているという問いに、「非常にそう思う」「そう思う」と回答したのは1年生49%，3年生48%と半分に満たず、省察が十分に習慣づけられていない。SIH道場に始まり、年間を通じて省察の機会を何度も設けていくことが重要である。

クラス担任制度に「とても満足」、「満足」と応えている学生は1年生32%，3年生31%と約1/3にとどまっており、「とても不満」、「不満」と回答している学生が1年生に14%，3年生に6%みられる。クラス担任は1，2年生を基礎の教員が、3年生を研究室配属の教員が担当しているが、教員によって学生との対応や交流の頻度が異なっており、学生の希望を十分に汲み上げられない可能性が推測される。様々な悩みを抱えている学生が一定数おり、学生の状況を迅速かつ適切に把握できるような担任制度の見直しが必要と考えられる。

将来のことについて：

学部卒業後の進路では1年生は78%，3年生は84%が就職や大学院進学を希望しており、留学を考えているものは1年生3%，3年生2%とごく少数であった。大学院への進学希望は1年生では11%と比較的高いのに対し、3年生では3%と激減していることも課題である。学年が上がり専門医志向が強まる一方で、研究の魅力や大学院進学の意義が学生に十分に伝わっていないと考えられ、Student Lab活動や医学研究実習のさらなる充実が必要である。医学研究実習では理工学部など受け入れ先の選択肢を増やし、学生の希望に沿った研究が行えるよう環境整備がすすめられている。医学科では研究志向をもつ学生を将来の研究医枠として選抜しており、これらの学生が入学後にStudent Lab活動などで早期から集中して医学研究に携わる機会をもてるような制度整備も必要である。

13－3 医学部医科栄養学科

医学部医科栄養学科の学修に関する現状と課題は次の通りである。

1年次には「実験・実習・フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ」、「仕事に役立つ知識やスキルを学ぶ」、「学生が自分の考えや研究を発表する」、「授業中に学生同士が議論をする」について「ひんぱんにあった」と回答したものは、それぞれ2%，13%，0%，4%であったが、3年次では、60%，68%，33%，20%であった。授業内容の理解の促進につながる方法については、1年生では、課題演習、振り返り、反転授業を挙げており、3年生では、課題演習、グループワーク、質疑応答、振り返りを挙げている。1年次では、自分の考えや研究を発表したり、議論をする機会が少ないと感じたが、専門課程の教育では、演習や実習などが増えることが、そのような機会の増加に寄与している。授業時間外の授業課題や準備学習、復習をする時間についても、1週間あたり11時間以上と回答したものは1年次で16%に対し、3年次では39%であった。3年次の授業時間外学習時間については、全学的に見ても上位であり、これらが学習内容の理解促進につながっている。一方で、「提出期限までに授業課題を完成できなかった」、「授業をつまらなく感じた」ことが「ひんぱんにあった」とするものは、1年次で2%，6%，3年次では2%，9%であり、学習意欲が十分でないものが一定いることに留意すべきである。

教員との関係性については、「教職員に学習に関する相談をしたり、学内の学習支援室を利用したりした」、「大学の教職員に将来のキャリアの相談をした」、「オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する」といった項目に帶する頻度が少なく、「キャリアカウンセリング」や「クラス担任制度」について満足度が低い傾向にある。「クラス担任制度」については、1年次にくらべ3年次で満足度が低下している。もっとも、令和2年度については、COVID-19感染拡大のために、遠隔授業がほとんどであったことの影響を考慮する必要がある。

入学後に変化した能力や知識に関しては、「一般的な教養」「専門分野や学科の知識」、「コンピュータの操作能力」の項目で1年次および3年次の9割程度の学生が増えたと回答している。「分析力や問題解決能力」、「批判的に考える能力」、「リーダーシップの能力」、「異文化の人々と協力する能力」、「国民が直面する問題を理解する能力」、「プレゼンテーションの能力」、「卒業後に就職するための準備の度合い」については、1年次と比較して増えたと回答した者が大幅に増加している。これは、専門教育の効果によるものと考えられる。一方で、「外国語の運用能力」、「時間を効率的に利用する能力」は1年次よりも3年次で増えたと回答した者が半減しており、外国語に関する教育が課題である。

英語の学習状況に関しては、1年次では「聞く力」、「読む力」、「会話力」、「表現力」、「書く」のいずれも、入学前と現在で概ね自己評価は変わっていないが、3年次では1年次と比べて概ね大きく低下している。これが学年の特性であるのか、経年変化によるものかは不明であるが、3年次では「もっと授業数を増やしてほしい」、「専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」と回答しているものが1年次よりも多い。令和2年度入学者からは「栄養英語」が必修になっており、今後の推移をみたい。

大学生活に対する考え方や満足度に関しては、おおむねうまくいっているとの回答が多かった。しかしながら、「現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」、「SIH道場の授業」、「教員と話をする機会」、「学習支援や個別の学習指導」といった項目で満足度が低いのは今後の課題と思われる。特に、1年次でこれらの項目の満足度が低い。SIH道場で学んだ内容では、専門分野の体験学習がもっとも役に立つと回答しており、9月に実施している早期研究室体験は満足度が高いと評価されている。

本学の施設や学生支援制度に関しては、「レクリエーション施設」、「キャリアカウンセリング」といった項目で満足度が大きく過半数を割っていた。「カリキュラムマップ」や「ナンバリング」について「知っており、見たことがある」と回答した者は、1年次、3年次ともに極めて少数であった。今後、活用について周知する必要がある。卒業研究に関しては、研究を進めるための設備は十分だと評価している学生は77%であったが、「スペースがせまい」と感じているものが44%あった。Eラーニングサービスは、役立っているとするものが60~70%であった。

大学教育全体の満足度としては、約9割の学生が60点以上をつけていた。

学部卒業後の進路については、1年次の調査では31%が就職、40%が進学であったが、3年次の調査では49%が就職、38%が進学であった。前回調査と比較して、3年次の就職希望者が増え、進学希望者が減っている。今後の推移を注視したい。

2-4 医学部保健学科

医学部保健学科学生の学修に関する現状と課題は次の通りである。

「将来の見通しを持ち、何をすべきかわかっている」と答えた1年次学生は7割で、全学の5割と比べて割合が高い特徴を持つ（設問128）。幅広い学修の促進を目的として、専門性を志向した学修方法を入学直後に提示し、将来像をイメージした「学修設計」の立案を指導している。学修計画に沿った学修ができるよう継続的に指導と支援を行っており、取り組みの浸透結果が現れている。

授業時間外において、授業課題や準備学習・復習を6時間以上実施したのは、1年生では34~44%（前回は7~19%），

3年生では28～37%（前回35～47%）（設問35），授業に関連しない勉強を1時間以上行ったのは，1年生では20～44%（前回13～17%），3年生では43～56%（前回18～44%）（設問36）に留まっている。大学生としての必要な学習時間の確保はまだまだ不十分であるが，コロナ禍で在宅時間が長くなつたためか前回よりも学習時間が増加していた。一方で，現在の自分の学修時間や学修態度に満足していない学生の割合は，1年生で28～55%（前回は14～38%），3年生で17～31%（前回6～35%）（設問86）あり，学修意欲を高める適切な指導により自発的な学修が可能ともとれる。シラバスを毎週または気になったときに確認している3年次学生は5～6割のみであり，ほとんどまたは全く見ていない学生が多い（設問121）。毎回の授業の予習・復習や自学自習の指示などをシラバスに明示して，教育改善に活用する工夫が求められる。

「SIH道場」で学んだ内容のうち，在学中の学修に役立っている項目は，看護学専攻では「文章の書き方」，放射線技術科学専攻では「専門分野の体験学習」，検査技術科学専攻では「プレゼンテーションの仕方」が最も多く役立ったと回答している（設問103）。期待通りの項目が挙げられている。SIH道場で実施している取り組みについては在学中だけではなく卒業後調査を通じた効果の検証も必要であろう。

英語の学修では，大学で実施している英語教育で十分であると考えている保健学科学生が多い傾向にあるが，検査技術科学専攻では，専門英語の時間を増やしてほしいとの意見がある（設問76）。語学マイレージプログラムの導入による効果もあり，英語学習を習慣付けたり（設問74），スーパー英語などのeラーニングサービスを利用したりしている学生が以前よりは増えている（設問122）が，英語学習方法の周知や学習相談を促す対応も必要であろう。

卒業研究配属の選定に関し，「関心の深い研究内容」や「将来のやりたい仕事・進路」を基準に配属研究室を決めた学生がほとんどで，「やむを得ず入った」「どこでもよかった」を理由に挙げた学生は少数である（設問122）。自分の興味や将来の希望に繋がる研究室配属が概ね実現できているとみられる。卒業研究は，「専門知識や技術」「進路を考えるための広い視野」または「学問・研究への興味や知的好奇心」が得られると答えた学生が多い（設問123）。「特に得るものがない」と答えた学生は，検査技術科学専攻では0であるが，看護学専攻と放射線技術科学専攻においては若干の人数がみられる。全ての研究室において，魅力的かつ達成感のある研究課題を学生に与えられるよう組織的な検討と対応が必要である。

大学教育全体の満足度として，61点以上，71点以上と答えた3年生は，それぞれ，94%，75%であり，学生は教育に概ね満足していると考えられる（設問129）が，上述の個別の課題を解決させるなど，更なる学修活動の充実と教育課程・方法の改善を進める必要がある。

2-5 歯学部

はじめに：

昨年度と今年度の本調査において，2019年度の回答率は歯学科1年生30.2%，3年生100%，口腔保健学科はともに100%であり，2020年度の回答率は歯学科1年生61.0%，3年生75.0%，口腔保健学科歯学部1年生100%，3年生80.0%である。そこでまず歯学科1年次の回答率を上げることは一つの課題となっている。残念ながら本年度は，新型コロナ感染症の流行の影響により，特に1年次の学生に対面で話をする機会が少なく，この辺が十分に回答に導けなかつた一つ原因と考えられる。一方，昨年度のデータと比較すると，アンケート結果には，1年次→3年次という時間的変化より，それぞれのグループのもつ個性が強く反映されていると感じられた。この点を，今後1年生が3年生になつた際にさらに検討する必要がある。また，歯学部の学生にとって，歯学科は2年前期までが教養課程であり，3年前期までが基礎医学教育，5年前期までが臨床医学教育と基礎実習，そしてこれらが修了した時点で共用試験を受験し，5年後期から臨床実習，卒前に国家試験という流れである。したがって，本アンケートの時点では，まだ基礎医学教育が終わった段階で，将来的な展望がまだ見えていない段階にいる。一方，口腔保健学科は1年次に教養教育を終え

るが、すでに基礎医学教育も後期から始まっており、2年次からは臨床教育や基礎実習も本格的に始まり、3年後期には臨床実習に出ている。この両学科の課程の差は、今回のアンケートでも大きく影響していると感じられた。

学習状況：

「10. 教員が提出物に添削やコメントをつけて返却する」において、[1年次：歯学科 92%・口腔保健学科 87%，3年次：歯学科 54%・口腔保健学科 83%] と比較的高い値を示したが、これは定員が少ないことが有利に表れている例である。引き続きこれを維持していきたい。また、関連した事象として「14. 授業の進め方に学生の意見が取り入れられる」においても、[1年次：歯学科 68%・口腔保健学科 60%，3年次：歯学科 67%・口腔保健学科 66%] と比較的高い値を示している。そして、「18. 授業内容を理解できる科目の割合はどれくらいですか」については、その閾値を 60% とすれば、[1年次：歯学科 96%・口腔保健学科 100%，3年次：歯学科 88%・口腔保健学科 92%] と全学平均に比しても、高い値を示している。「19. あなたにとってどの方法が授業内容の理解の促進につながりましたか。」において、歯学科は [1年次：84%，3年次：54%] とともに最初に“課題演習”を上げており、口腔保健学科では [1年次：47%] が“反転授業”，[3年次：67%] が“グループワーク”を上げているのは、両学科の教育プログラムの特性を反映していると考えられる。

大学の授業や授業外での経験：

「20. 授業課題のための図書館利用」は [1年次：歯学科 36%・口腔保健学科 47%，3年次：歯学科 84%・口腔保健学科 33%] と歯学科3年次を除き低めである。「21. Web 上の情報の利用」については共に全学の結果同様に高い値を示した。「22. インターネットを使って授業課題を受けたり、提出したりした」に関しては、[1年次：歯学科 92%・口腔保健学科 100%，3年次：歯学科 88%・口腔保健学科 100%] と今年度は多くの講義がオンラインになったことが如実に反映されている。また、「33. 教員に親近感を感じた」についても [1年次：歯学科 36%・口腔保健学科 20%，3年次：歯学科 76%・口腔保健学科 59%]、専門課程で高い値を示し、歯学部の教育プログラムでは、少人数であることで教員と学生の距離が近く、うまく回っていると考えられる。そのような中で「28. 授業をつまらなく感じた」では [1年次：歯学科 56%・口腔保健学科 47%，3年次：歯学科 63%・口腔保健学科 41%] と専門課程においてもつまらなく感じている学生があり、学生のモチベーションの維持や授業の工夫について検討する必要がある。

1週間に費やす活動時間：

「35. 授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」に関しては 6 時間以上とした場合で、[1年次：歯学科 56%・口腔保健学科 60%，3年次：歯学科 36%・口腔保健学科 25%]、3時間以上とした場合で、[1年次：歯学科 88%・口腔保健学科 73%，3年次：歯学科 63%・口腔保健学科 67%] と、昨年度よりは高いがやや低い値を示している。特に専門課程において 1 年次と比べて低いことは、学生に改善を促すほかない。これは後述の「86. 現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」において [1年次：歯学科 52%・口腔保健学科 60%，3年次：歯学科 45%・口腔保健学科 42%] に反映されている。

「38. 部活動や同好会に参加する」は、3時間以上とすると [1年次：歯学科 84%・口腔保健学科 54%，3年次：歯学科 42%・口腔保健学科 25%] となっており学年が進むと、講義・実習が密になることの影響だと考えられる。アルバイト、読書や趣味の活動に関しては際立った特徴は認められない。

能力・知識の変化：

「42. 一般的な教養」について増えたと答えたのは [1年次：歯学科 84%・口腔保健学科 93%，3年次：歯学科 64%・口腔保健学科 92%]、「44. 専門分野や学科の知識」についても増えたと答えたのは [1年次：歯学科 82%・口腔保健学

科 93%, 3 年次 : 歯学科 84%・口腔保健学科 100%] となっており、昨年度より高い値を示している。「43. 分析力や問題解決能力」が増えたと答えた学生は、[1 年次 : 歯学科 48%・口腔保健学科 80%, 3 年次 : 歯学科 45%・口腔保健学科 83%] と歯学科が低く口腔保健学科は高い値が出ており、口腔保健学科が臨床実習に向けて着々と準備ができていることがわかる。歯学科においては 4 年次から 5 年次にかけ問題解決型の教育プログラムが組まれており、この時点では致し方ないが、全体のプログラムとして教育の機会は用意されている。また「45. 批判的に考える能力」が増えたという学生は [1 年次 : 歯学科 40%・口腔保健学科 33%, 3 年次 : 歯学科 45%・口腔保健学科 58%] と両学科とも低い傾向にあり、対応が必要と感じる。

「47. リーダーシップの能力」が増えたのは [1 年次 : 歯学科 20%・口腔保健学科 14%, 3 年次 : 歯学科 30%・口腔保健学科 50%] で歯学科は平均的であるが、3 年次口腔保健学科では高い値を示しており、教育プログラムがチーム医療として働くためにも良い方向に働いていることが示唆される。「48. 人間関係を構築する能力」でも [1 年次 : 歯学科 68%・口腔保健学科 40%, 3 年次 : 歯学科 51%・口腔保健学科 84%] と同様に 3 年次口腔保健学科で高い値を示し、「49. 他の人と協力して物事を遂行する能力」は [1 年次 : 歯学科 56%・口腔保健学科 27%, 3 年次 : 歯学科 48%・口腔保健学科 92%] と同様な傾向を示し、口腔保健学科のプログラムが将来の現場に出るための準備に有効であることが示されている。この 3 年次口腔保健学科が高い傾向は「50. 異文化の人々と協力する能力」[1 年次 : 歯学科 16%・口腔保健学科 20%, 3 年次 : 歯学科 24%・口腔保健学科 41%], 「51. 地域社会が直面する問題を理解する能力」[1 年次 : 歯学科 32%・口腔保健学科 60%, 3 年次 : 歯学科 33%・口腔保健学科 59%], 「52. 国民が直面する問題を理解する能力」[1 年次 : 歯学科 20%・口腔保健学科 40%, 3 年次 : 歯学科 27%・口腔保健学科 84%] でも認められる。

「53. 文章表現の能力」, 「54. 外国語の運用能力」, 「55. コミュニケーションの能力」, 「56. プрезентーションの能力」においても、増えたと答えた学生の割合が、歯学科は低め、口腔保健学科は平均より高く、やはり口腔保健学科 3 年生に顕著であった。但し「57. 数理的な能力」に関しては、[1 年次 : 歯学科 32%・口腔保健学科 7%, 3 年次 : 歯学科 36%・口腔保健学科 25%] が増えたとするのみであり、このあたりの能力については、今後対策を講じる必要があると感じる。「61. 卒業後に就職するための準備の度合い」に関しては [1 年次 : 歯学科 16%・口腔保健学科 34%, 3 年次 : 歯学科 45%・口腔保健学科 100%] となっており、前述のように教育プログラム中での学生の置かれた、卒業や就職までの残り時間の差が如実に反映されている。

「63. 大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力」に関しては、いずれにおいても、〔専門的知識〕であり、本学部において、学生たちは職能および資格獲得を目指していることが反映されている。これは「67 大学の授業以外に、自分自身のための学修として、実行や計画していることはありますか。」に対して、全てグループで〔大学の授業以外で、実行や計画していることはない〕と答えていることと無関係ではない。

英語の学習状況 :

英語能力に関しては、聞く力、読む力、会話力、表現力、書く力のいずれにおいても、ある一定の力（設問で B1 以上 : 留学などが困難でない程度かと考えるレベル）を有する学生の割合は、全学平均よりやや多いが、これが入学後、3 年次と顕著に変化する傾向はない。5 つの力のうち会話力に低い傾向がある。但し、3 年次の専門課程になつても「74. どのように、英語の勉強を行っていますか」に対して、〔毎日または定期的にテレビ、ラジオの英語教育番組を利用して勉強している : 歯学科 24%・口腔保健学科 8%〕を筆頭に学習している学生がいることは心強い。一方、75. の設問にある渡航経験では [1 年次 : 歯学科 48%・口腔保健学科 73%, 3 年次 : 歯学科 55%・口腔保健学科 67%] に経験がなく、これは語学能力と密接に関連している。そのためか、「76. 徳島大学における英語教育についてどう思いますか」の答えの筆頭には、〔教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である : 1 年次 : 歯学科 61%・口腔保健学科 20%, 3 年次 : 歯学科 39%・口腔保健学科 42%〕が来ている。これは後述のアンケート項目である卒後の進路ともリンクしているものと考える。このような状況に対しては、卒後に大学院進学から海外への進出など、歯学部教員の事例を示すなど、

留学や海外赴任などキャリアパスの多様さを提示することも必要と考える。

大学生活に対するあなたの考え方や満足度：

「77. 大学の学生向けサービスを上手に利用する」「78. 大学教員の学問的な期待を理解する」「79. 効果的に学習する技能を修得する」「80. 大学が求める水準に応えて学習する」「81. 時間を効果的に使う」においては、総じて全学平均的な値を示している。前述のとおり、歯学部の少人数のおかげもあり、「82. 大学教員と顔見知りになる」は〔1年次：歯学科40%・口腔保健学科7%，3年次：歯学科76%・口腔保健学科75%〕と特に専門課程に進んでから高い値を示している。

大学に入学してから：

「86. 現在の自分の学修時間や学修態度に満足している」において〔1年次：歯学科52%・口腔保健学科60%，3年次：歯学科45%・口腔保健学科42%〕は、全学的には1年次に高い傾向にあり3年次に平均並みになる。もちろんこれは前述の学修時間そのものとリンクしたものである。このためか、「84. 自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組めている」でも〔1年次：歯学科68%・口腔保健学科87%，3年次：歯学科66%・口腔保健学科75%〕となっている。但し、「87. あなたの学生生活は充実していますか」に対しては、〔1年次：歯学科72%・口腔保健学科80%，3年次：歯学科82%・口腔保健学科91%〕と比較的高い値を示している。

本学の教育内容・環境への満足度：

「88. 共通教育あるいは教養教育の授業」に対しては満足と答えたものが、〔1年次：歯学科64%・口腔保健学科60%，3年次：歯学科51%・口腔保健学科58%〕と全学の平均よりやや高いレベルである。また「89. 1年次SIH道場」〔1年次：歯学科48%・口腔保健学科7%，3年次：歯学科48%・口腔保健学科33%〕「90. 初年次生を対象とした教育プログラム内容」〔1年次：歯学科28%・口腔保健学科7%，3年次：歯学科36%・口腔保健学科25%〕の満足度も同様な傾向である。「91. 授業の全体的な質」〔1年次：歯学科56%・口腔保健学科54%，3年次：歯学科42%・口腔保健学科67%〕、「95. 学習支援や個別の学習指導」〔1年次：歯学科24%・口腔保健学科27%，3年次：歯学科33%・口腔保健学科42%〕となっているが、いずれも満足度において、どちらでもないという回答が多く、不満がある学生は少ない。これを如何に解釈するかによるが、満足度を向上させる工夫も必要と考える。

SIH道場に関しては、「103. 「SIH道場」で学んだ内容のうち、役に立っている項目」では、歯学科において〔専門分野の体験学習〕が、口腔保健学科においては〔他者と協働して学修や活動に取り組むこと〕が目立っている。一方「104. 専門教育科目の授業を受けて何を学ぶことができると思いますか」にはやはり〔専門の知識を身に付けるのに役立った〕が筆頭に来ている。

「105. 授業内容の難易度についてどう思いますか」では適切と答えたものが、〔1年次：歯学科84%・口腔保健学科93%，3年次：歯学科70%・口腔保健学科83%〕となっており、3年次では、両学科とも15%程度の学生がより易しいもの（昨年度と逆）を求めていた。

本学の設備や学生支援制度への満足度：

「106. 図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）」に対しては〔1年次：歯学科60%・口腔保健学科53%，3年次：歯学科57%・口腔保健学科59%〕の満足度であり、どちらでもないが多いことから、まずまずの評価をされていると考えられる。これは蔵本地区で最も図書館を利用しやすい位置に校舎が位置し利用も多いことが反映していると思われる。

「107. 実験室の設備や器具」においては、とても満足～どちらでもないが〔1年次：歯学科96%・口腔保健学科100%，

3年次：歯学科 97%・口腔保健学科 100%] となっており、現在改修も行われており問題ないと考える。「112. 健康・保健サービス（心身の健康に関する問題についての診療や相談）」において歯学科においては10%弱の学生が不満に思っている点は原因の究明が必要かもしれない。「120. シラバス」については、おおよそ個々の必要に応じて活用されていることが伺えた。3年次において全く見ていないものが一定数いるが、各教員によりかなり詳細な予定表が提示されているので必要としないとの解釈も成り立つ。「122. 123. 3年次の基礎ゼミ（歯学科）、卒業研究（口腔保健学科）」については、各学生が〔関心の深い研究内容であった〕、〔将来のやりたい仕事や進路に必要と思った〕といった理由で進路を選択しており、〔専門的知識や技術〕、〔学問・研究への興味や知的好奇心〕を得ることができると考えている。

授業評価アンケート・卒後進路：

「125. 授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容である」に対して、思わないと答えたのは、[1年次：歯学科8%・口腔保健学科13%，3年次：歯学科18%・口腔保健学科17%]であり、学年進行とともに疑問を持っていることが伺われた。尚「126. 大学教育全体の満足度に評点を付けた場合60点以上」とした割合は、[1年次：歯学科92%・口腔保健学科93%，3年次：歯学科88%・口腔保健学科83%]とまずまずであると感じる。

「130. 卒後の進路」として、「就職する」が[3年次：歯学科45%・口腔保健学科83%]であり、「大学院に進学する」は[3年次：歯学科21%・口腔保健学科8%]、「留学する」はおらず、将来の研究者になるような進路を目指すものは少ない。そのため学中に望む教育としては、「132. 専門分野をしっかりと身につける」、「134. 就職意識の形成につながる教育を受ける」といったところの割合が特に口腔保健学科で多い。また、この結果は前述の英語教育へのモチベーションの低さと関連するものと思われる。当学部でも、将来大学院に進学し、教育・研究を目指す人材を増やすことを検討する必要がある。尚、「136. 教員が設定した特定の課題に対して、チームで取り組むプロジェクト型の授業を受ける」に対して[3年次：歯学科63%・口腔保健学科91%]と口腔保健学科が高い傾向なのは、チーム医療教育を進めてきた成果だと思われる。

緒言にも記したが、3年次での歯学科と口腔保健学科の意識の違いは、歯学科では6年中の3年目、口腔保健学科は4年中の3年目ということが大きく反映されている。

6 薬学部

薬学部生の学修に関する現状と課題は以下のとおりである。

1) 対象学生

薬学部では、平成30年度より学科別募集となり、今回の調査対象である1年次生と3年次生は学科別入学の、それぞれ第3期生と第1期生となる。

2) 大学入学後の学修状況

1年次生において、「授業内容と社会や日常生活のかかわりについて、教員が説明する」機会が頻繁にあったと答えた学生は、薬学科（以下、薬という）8%，創製薬科学科（以下、創製という）11%であり、これは昨年度の1年次生の28%および29%よりも大幅に減少している〔問6〕。また、「定期的に小テストやレポートが課される」〔問9 薬83%，創製94%〕機会が頻繁にあったと回答している学生の割合については、昨年度の64%および65%よりも増加している。また「授業中に学生同士が議論する」〔問12 薬6%，創製4%〕は、昨年度42%と29%であり、「授業で検討するテーマを学生が設定する」〔問13 薬0%，創製4%〕は、6%と13%であったのと比べて極端に減少している。これは、2020年度のコロナウイルスによる大学閉鎖および遠隔授業の結果、教員との接触機会の減少、レポート

を中心とした評価へのシフト、そして学生同士の会話や授業への参加形態の変化に起因していると考えられる。また3年次生に関して上記の問12、問13そして問14の「授業の進め方に学生の意見が取り入れられる」の3項目についても、その頻度は極めて低かったことから、内容量が多い専門に特化した授業に関しては詰め込みに近い形式にならざるを得ず、学生の積極的な授業参加が難しい現実を反映している可能性がある。2021年度からスタートする新6年制でのカリキュラムにより、どのように変化するのかについて注意深く見ていく必要がある。

履修登録について、1年次生において、「取りたい授業を履修登録できなかった」と回答した学生は〔問15 薬21%、創製9%〕であり、非常に多かった昨年度の39%と42%に比べて改善している。これは教養教育科目を示しているため、教養教育院による履修方法の見直しなどが功を奏したのかもしれない。

授業内容の理解について特筆すべきは、薬学科1年生において「問18 授業内容を理解できる科目の割合」が80%以上であると答えた学生が50%であったことであり、これは全学の中でも突出して高い。また問19の授業内容の理解促進には、両学科1年次生、3年次生ともに課題演習を挙げているが、次に多かったのが振り返りであった。昨年度は創製1年次生のみグループワークが2番目に多く挙げられているのが特徴的であったことを鑑みると、今回の結果は創製1年次生に、これまで開講されていたグループワーク中心の授業である『研究体験演習I』、『学術論文作成法』が、中止あるいは制限されたことに起因しているのかもしれない。また、コロナウイルスの影響のためか、問38や問39の部活やアルバイトに費やす時間が減っている傾向も見られた。問35に関して創製1年次生は授業以外の学修については、1週間あたりの授業時間外の学修時間が5時間以上の割合が57%と比較的高く、昨年度や薬1年次生の4割以下であることに比較して高い傾向となっている。この傾向は問36の授業に関連しない勉強についても同様に見られた。

高校で履修していない科目に係る入学後の勉強方法について、両学科ともに約2～3割の学生が、勉強の必要性を感じながらも、LMS（リメディアル教材）の存在を知らず何もしていなかった〔問68〕。2021年度の新6年制過程から、LMS系の授業の単位化を予定しており、この部分の改善が期待される。

3) 入学後に身に付けた能力や知識

1年次生において、問42の「一般的な教養」において、入学後に大きく増えたと回答している項目が両学科とも0%であった。問45の「批判的に考える能力」に関しても「大きく増えた」の割合が薬学科では4%であり、創製では0%であった。問47の「リーダーシップの能力」は、両学科とも1年次生は「大きく増えた」が0%であるが、3年次生では両学科とも10%まで増加している。また問57の「数理的な能力」に関しても、薬1年生は0%，創製1年次生は6%だったのが、3年次生では両学科とも10%にまで改善している。3年次生での改善が特に顕著だった項目が問55「プレゼンテーションの能力」であるが、創製1年次生は「大きく増えた」の割合が0%であったのが、3年次生では27%と、全学中最も高い割合にまで増加している。この違いは、昨年度の3年次生は一括募集入学の最終年度の学生であることに起因している可能性も考えられる。すなわち、今回の結果は、コロナウイルスによる影響を受ける前に、昨年度3年次生では行われなかった『研究体験演習I』、『学術論文作成法』を受講したことによりプレゼンテーションの方法を身につけられたことを反映しているのかもしれない。

4) 英語の学習状況

英語に関しては例年と同様に、そのレベルは、学年があがるにつれて低くなる傾向が見られる。大学からの働きかけや、少人数での英語教育やネイティブスピーカーの教員による、継続的な授業を通じて改善していく必要性がある

ため、新課程でのプログラムの再編での改善を期待したい。また、両学科1年次生において、「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」〔問76〕との回答する学生が最も多いが、創製1年次生は「もっと授業数を増やしてほしい」や「専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」の割合が20%ほど存在し、全学の中でも極めて高い。この傾向は創製3年次生により強くなり、「ネイティブスピーカーの教員による授業を増やしてほしい」が20%近くに、「専門英語の時間を増やしてほしい」、そして「専門英語のライティング、会話に重点を置いた授業を増やしてほしい」の割合が30%近くにまで増加し、「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分である」と回答する学生が全学の中でも最も低く、2割を切るところまで減少している。これは薬学部の専門授業の中で、あるいは卒業研究に向けての学術論文を読み解く中で必要性を痛感した結果である可能性が考えられる。

5) 大学生活に対する考え方や満足度

1年次生では、効果的に学習する技能を修得すること〔問79〕、大学が求める水準に応えて学習すること〔問80〕が「とてもうまくいった」、又は「いくらかうまくいった」と回答した学生が一部を除いて7割を越えており〔問79 薬79%，創製74%，問80 薬79%，創製80%〕、自分の学習状況について満足している学生が多くた。これは昨年度の、〔薬75%，創製68%，問80 薬75%，創製71%〕とほぼ同様であり、コロナウイルスによる遠隔授業の影響は少なかつたことが考えられる。3年次生では、問79は1年次生と、ほぼ同等で〔薬76%，創製80%〕であったが、問80では、〔薬58%，創製60%〕であり、学年が上がるにつれ薬学部の求める水準に追いつかない学生が増えてきている可能性が考えられる。

また現在の自分の学修時間や学修態度に満足している〔問86〕であるが、1年生は両学科とも「非常にそう思う」が0%であり、「そう思う」と回答した学生も29%に留まった。昨年度の1年次生は、両学科とも「非常にそう思う」、「そう思う」が5割程度であったことから考えると、かなりの減少がみられた。3年次生では、上記と同様に、肯定的な回答をした学生が、薬26%に対して、創製では37%であった。これは昨年度の61%と15%から大きく変わっている、薬学科は減少、創製は増加した。また昨年度の創製3年次生は、学生生活は充実しているか〔問87〕に「充実している」と回答した学生が3%で、これは、全学の3年次生の中で最も低い率となっていたが、今回は20%にまで改善していることと連動していることが考えられる。薬学科の「充実している」は18%であったことも踏まえると、薬学科への、学習に対する満足度の低下が、大学生活へのモチベーションの低下にもつながった可能性が考えられ、その原因を追求したのち、何らかの対策が必要となるだろう。さらに1年次生において、自分の専門分野について興味関心を持ち、意欲的に取り組めている〔問84〕に「非常にそう思う」と回答した学生は、創製で26%であったが、薬学科は8%に留まることからも、コロナウイルスによる環境変化状態においてもモチベーション高め、それを卒業時まで維持するためのカリキュラムの変更・見直しが早急に求められる。

教養教育の授業の満足度については、概ね半数の学生が満足しているとの回答であった〔問88 1年次生;薬54%，創製52%，3年次生；薬40%，創製43%〕。昨年度は、1年次生の教養教育科目の選択は、両学科ともに「単位の取りやすい授業を選択した」と回答した率が最も高く、「好きな科目や面白そうな科目を選択した」が、2番目であったが、今回はそれが逆転し、「好きな科目や面白そうな科目を選択した」がトップとなった。前述の履修登録の改善と同様に、教養教育院による履修方法の見直しなどが功を奏した可能性が高い。また、問101の教養教育科目の選択にあたり重視した情報源について、1年次では両学科ともに、「履修の手引きやシラバスに記載された情報」とほぼ同じ割合で、「先輩からの助言や情報」が重視されていた。教員・事務職員からの助言や情報がほとんど重視されていない状況は、例年通りであり、引き続き新入生オリエンテーションなどでの説明内容・方法やクラス担任による履修指導等を見直す必要があるとともに、履修の手引きやシラバスの充実を図るなどの改善が求められている。

問103のSIH道場で学んだ内容のうち、「他者と協働して学修や活動に取り組むこと」が役に立ったと感じている学生は、両学科とも昨年までの高かった比率から一気、5%以下程度にまで落ち込んだ。その反面「文章（レポート）の書き方」についての回答比率は両学科とも50%近くにまで増加した。コロナウイルスの影響を踏まえたSIH道場への取組方法を考えていく必要があると思われる。

問105の授業内容の難易度が適切と答えた学生は、〔1年次生；薬100% 創製94%，3年次生；薬80% 創製70%〕であり高い傾向にある。特筆すべき点として、創製1年次生において、「授業内容の水準をもっと易しくすべき」と答えた学生が6%に留まるなど、昨年度の22%から大きく減少している。これは関係委員会において、成績評価の分布状況の確認・検証、学生の成績評価結果の状況を学期ごとに分析し、学生の学修改善につながる対応を検討・実施してきた成果かもしれない。

問126の大学教育全体に対する満足度については、〔1年次生；薬79% 創製84%，3年次生；薬71% 創製63%〕であり、コロナウイルスによる環境変化にも関わらず、昨年度とほぼ同様であった。薬学部では、令和3年度入学者から、新6年制教育課程が開始された。次回の結果は今回の結果とどう変わるのか、上述の課題等を踏まえたうえで、学修改善に繋がる情報を得たい。また単年度終了ではなく複数年度にまたがる複合的・階層的な、薬学部独自の新しいカリキュラムを構築しており、学生の教育に対する満足度を高め、学習意欲の向上が見られるかどうかについても今後検証して行きたい。

7 理工学部

理工学部は、工学部および総合科学部の改組によって1学科6コース（社会基盤デザイン、機械科学、応用化学システム、電気電子システム、情報光システム、応用理数）の体制で、2016年度にスタートした。アンケート実施時点で、アンケート対象となった理工学部の3年生は第3期生、1年生は第5期生となる。理工学部全体のアンケート回答率は、3年生が24%、1年生が55%であった。昨年度はそれぞれ63%、65%であったため、昨年度より大幅に低下している。旧工学部の学生もアンケートには含まれているが、それぞれ対応する理工学部のコースに算入されている。以下では、主な結果について述べる。なお〔 〕内の数字はアンケートの質問項目の番号を示す。

＜項目I・通学時間＞1年生について通学時間30分未満が8割程度[2]、居住形態は実家から通学が20%程度[3]、残りが一人暮らしまたは寮であった。3年生でもどちらも同程度であった。

＜項目II・学習状況＞昨年度、内容を理解できる科目の割合[18]は、1年生、3年生とも80%以上と70%以上と答えた学生の合計がおよそ65%となっていた。しかし、今年度の3年生においては、コースによっては80%以上と70%以上と答えた学生の割合が明らかに低下している。コロナ禍の影響で、従来どおりの授業ができなかつたことが原因かもしれない。「理解の助けになった方法」[19]については、7割の学生が演習を挙げており、理科系であるから当然のことだが、やはり演習を通じた理解の促進が重要である事を示している。また、この設問の結果から、振り返りの重要性も読み取れる。授業課題のための図書館の利用[20]は1年生より3年生のほうが明らかに増えている。授業課題のためのWebの利用[21]は1年生より3年生のほうが増えているものの、図書館の利用ほど顕著な増加ではない。

「授業時間外に他の学生と一緒に勉強した」[24]は、昨年度の1年生では「頻繁」と「時々」を合わせて25%程度だったが、今年度の1年生に対する調査では「頻繁」と「時々」を合わせて60%程度に増加した。原因は不明だが、オンライン授業で伝わりきらなかった内容を学生間で相互補完していたのかもしれない。講義時間外の1週間あたり学習時間[35]については、昨年度は11時間以上の合計が1年生で7~8%，3年生でも応用化学を除くコースは10%程度

未満であったが、今年度は、11時間以上の合計が1年生でおよそ15%，3年生でおよそ20%であった。また、講義時間外の学習時間が十分とは言えないが、増加傾向が見られた。「オフィスアワーなど、授業時間外に教員と面談する」[37]は3年生の実施率が1年生に比べて高いものの、全体としてはまだ低い。一方、大学外でアルバイトに費やす1週間あたりの時間[39]については、11時間以上と答えた学生の割合が、1年生で10%程度、3年生で30~40%程度となっている。特に3年生は勉強よりアルバイトにより多くの時間を割いている実情が見える。一般教養や専門知識に関する問い合わせ[42~49]からは、1年生から3年生になるにつれてその能力が向上している実感を得ている割合が増えるが、問題外決能力[50~52]や文章表現能力[53]、外国語[54]では1年生と3年生の間で向上が見られない。コミュニケーション能力[55]、プレゼン能力[56]の向上は3年生の方が実感している。自分のGPAを確認している学生の割合[64]については、理工学部1年生が85~90%となっており、全学の平均よりかなり高い。これは理工学部では2年生でのコース配属基準にGPAが含まれる事を反映していると考えられる。3年生でも80%以上の学生がGPAを確認している。以上の結果は、成績に対するGPAという尺度が理工学部の学生にもよく認識されていることを示している。

<項目 III・英語の学習状況> 授業の英語科目以外で積極的に英語を学習している学生の割合[74]は、コースによって差はあるが、全体の5~10%程度に留まっている。

<項目 VI・大学生活に対する満足度> 大学生活に対する充実度[87]について、「充実している」と「まあまあ充実している」を合わせた割合は、1年生、3年生ともほとんどのコースで75%程度となっており、大部分の学生は満足していると考えられる。他部局との大きな差も認められない。本学の設備や学生にどの程度満足しているかという質問に対して、[105]~[114]の各項目で、とても満足と満足を合わせた割合が概ね20~30%程度であり、1年生と3年生で大差はない。e-learningサービスの利用度[1年生:122, 3年生:125]については、オンライン授業の影響でManabaをはじめとして高い割合になっている。e-learningサービスの満足度[1年生:123~124, 3年生:126~127]も比較的高い。3年生の項目「大学教育全体の満足度」[129]では、70%以上の合計が60~70%となっている。卒業後の進路の予定[129]については、コースに依って大きな違いがある。就職希望は機械科学の17%が最も低く、社会基盤の46%が最も高い。これは各コースの専門分野の違いを反映している。

8 生物資源産業学部

平成28年度に新入生を迎えた生物資源産業学部は、工学部生物工学科、総合科学部社会創生学科環境共生コース、医学部医科栄養学科、歯学部、薬学部、の各教員を集結して新たに設置された新学部であり、一次産業、食料、生命科学に関する幅広い知識と、生物資源の製品化、産業化に応用できる知識と技術を有し、国際的視野に立って、生物資源を活用した新たな産業の創出に貢献できる人材を育成することを基本理念としている。令和元年度で完成年度を迎え、令和2年度に教育カリキュラムの検証および見直しを行い、令和3年度より新カリキュラムのもとで学習指導を行う。

1年生の調査では、新型コロナウィルスの影響によりインターネットを利用して課題提出を期限内に提出している者が80%以上と大変多く(問22)、図書館の利用も限られたものであった(問20)。一方、授業時間外に、他の学生と一緒に勉強したり、課題を解決することが思った以上に多かった(60%以上)ことは学生同士が交流したいとの意思の表れと思われるが(問24)、対面ではなくオンライン授業が多かったため、授業自体をつまらなく感じる者は多い(問28)。そして、分析力や問題解決能力、そして批判的に考える能力が大きく増えたと感じる者が少ない(問43, 45)。これらからは、授業とその課題に追われ、深く考え他者と討論する時間が持てない様子が見てとれる。また、リーダーシップ、コミュニケーション、プレゼンテーションの能力が増えたと感じる学生が少ないと(問47, 55, 56)、グループワークで課題を解決して発表するような参加体験型の学習機会を増やすことが必要と思える。特に新型コロナウィルスの影響により、学生が集まって行動する機会が激減し、学生同士の一体感が低いことや(問96)、実

験室の設備や器具への満足度が低い（問 106）等は、学部専用棟が無いことや、常三島、石井、鳴門、新野の 4 つのキャンパスに実験室が分散しており、学内での学生の居所が小さく分散していることの影響も強いと考える。将来の見通しについては定まっていない者も多いが（問 127）、これは 2 年進級時にコース選択をすることや、理系の科目だけでなく起業や経営に係る文系の科目などが多く必修となっている当学部の特徴から、将来の選択肢が多岐に渡ることとも関係していると考える。この点については新カリキュラムでは必修科目数の削減や文系科目の選択化などで対応する。

3 年生の調査では、新型コロナウィルスの影響によるオンライン授業等の実施により、学生自身による文献などの調査や学生が自分の考えを発表する機会が増えており（問 8, 11）、授業中の学生間の議論もある程度多い（問 12）。また、授業内容の理解も進んでいることが判る（問 18）。一方で、オンライン授業が多く、また、対面による教員との面接等を実施できなかったため、授業へ異議をとなえたり学習相談をすることは少なく（問 25, 30）、また親近感も低い（問 33）。この結果は、新型コロナウィルスの影響によるものとも思われるが、学年が上がるに連れて、学生の自立が進み、仲間内でのコミュニケーションがとれて、その中である程度の問題が解決されていることが影響していると考えるが、いわゆる詰め込み過ぎの授業が多いのかもしれない。本年度は留学などの語学研修が制限されたため、異文化の人々と協力をする能力の向上はあまり見られず（問 50）、グローバルな視点の涵養が必要であるが、地域社会や国民が直面する問題の理解力についても十分に伸びてはおらず（問 51）、これらについては 4 年生になって卒論研究や学会参加などを経験することを通して培われることに期待したい。一方、新型コロナウィルスの影響によるオンライン授業等の充実により、e-learning への満足度は高い（問 125）。また、大学教育全体への満足度がある程度高いものとなっているのは（問 129）、コース選択がうまく行われている結果だと思われる。卒業後の進路については卒業生や先輩との対話を望む声も多いので（問 142）、次年度には新型コロナウィルスの状況にもよるが、卒業生たちと、在学生が対面で対話できる機会を積極的に設けるべきであろう。今後は、各方面に就職した卒業生から、教育内容の改善について意見を求めて行くことが必要となる。

令和 3 年度からの新カリキュラムによって、学生の学習に関する実態調査結果がどのように改善されるかを今後検討し、学部の教育改革に繋げていく。

9 教養教育

平成 28 年に徳島大学の教養教育を担う部局として教養教育院が設立され、4 年が過ぎた。教養教育院の現状と課題を「令和 2 年度 学生の学修に関する実態調査」の結果をもとに、以下の項目について考察する。

1. 徳島大学における教養教育

「大学入学時点と比べて一般的な教養が身に付いた（問 42）」という問い合わせでは、「大きく増えた」と回答した 1 年生が 9% のに対し、3 年生では 17% だった。異なる集団に対するアンケートのため簡単に比較することはできないが、学年進行とともに教養が身についていると考えることができる。他方、「専門的な知識（問 44）」が「とても増えた」という回答が、1 年生で 22%、3 年生で 30% だった。また「大学の教育で獲得できる知識・能力（問 63）」という問い合わせでは、「一般知識・教養」と回答した 1 年生が 54%、3 年生が 50% であったのに対し、「専門的な知識」という回答が、それぞれ 85%、84% だった。これらの結果から、学生は大学で一般的な教養よりも、専門的な知識を身につけたいと考えていると思われる。教養教育院としては、学生に魅力的な教養の授業を提供することが重要である。

「大学の教育内容・環境に対する満足度（問 88）」では、教養教育に対する回答として、「とても満足」、「満足」と答えた割合の合計が、1 年生で 53%、3 年生で 52% だった（昨年度はそれぞれ 49%, 50%）。今年度は新型コロナウィルス感染症対策で教養教育の授業の多くがオンラインで行われたが、学生の満足度でみると昨年と大きな違いは見ら

れなかった。今後も学生が意義を感じることができる授業を展開していくことが重要である。

2. 教養教育科目の選択

教養教育の授業にはクラスが指定されている授業もあるが、自分で所属する学部や学科の履修要件に合わせて自由に選択ができる授業も多い。その場合の「選択基準」を尋ねた問101では、「好きな科目や面白そうな科目」と回答した1年生が45%、3年生が63%であるのに対し、「単位のとりやすい授業」という回答が1年生で22%、3年生で45%だった。また「教養教育科目の選択に当たって重視した情報源」では、「履修の手引きやシラバス」が1年生で48%、3年生で45%であり、「先輩からの助言や情報」が1年生で25%、3年生で41%だった。今年度の1年生は3年生に比べ、単位の取りやすい授業よりも自分の興味で授業を選んだ傾向がある。そのための情報源として、先輩からの助言よりシラバスがずいぶん優先されている。これは新型コロナウイルス感染症対策のため、先輩からの助言を得る機会が少なかつたことが原因とも考えられるが、教養教育院が推進しているシラバス内容の充実の成果かもしれない。今後も履修の手引きやシラバスを充実させて、学生の授業選択をサポートしていくことが重要である。

3. リメディアル教育

徳島大学の教養教育では、高校で数学や理科の科目で未履修、あるいは大学での学修に不安のある学生のために、リメディアル科目（数学、物理学、化学、生物学）を基礎基盤教育科目として開講している。「高校で未履修の数学、物理、化学、生物について大学入学後にどのように勉強したか（問68）」という質問に対し、1年生、3年生とも同じ選択肢の順の回答となった。最も多かったのは、「支障を感じないので何もしていない」で、1年生、3年生でそれぞれ37%、56%だった。次いで多かったのが「高校の教科書、参考書を使い、勉強した」でそれぞれ32%、23%、「リメディアル授業等を履修した」は17%、22%だった。学生自身の努力、あるいはリメディアル授業を利用することにより何らかの対応をしていることがわかる反面、「必要性を感じたが、何もしなかった」という学生もそれぞれ10%、9%存在した。これらの学生は専門での学修に困難をきたす可能性もあり、教養教育院としてこれらの学生に適切な働きかけを行う必要がある。

4. 語学教育

教養教育院では語学教育として、英語と初修外国語の授業を提供している。「入学時と比較した外国語の運用能力（問54）」では、「大きく増えた」、「増えた」と回答した学生が、1年生34%、3年生31%であるのに対し、逆に「減った」、「大きく減った」がそれぞれの学年で16%、27%だった。大学入学試験対策としての英語学習から、大学での英語の学修へ切り替えが上手くできていない学生がいることに加え、学年進行とともに語学力が低下した感じる学生が少なからず存在することは大きな問題である。徳島大学は語学マイレージ・プログラムを実施して、学生の語学（英語）力の向上を図っているが、さらなる働きかけが必要である。

英語の「聞く、話す、会話、表現、書く」という技能についての問69-73では、1年生は最低のレベル（A1）を選択した学生が、入学時と比べてすべての技能で減少したものの、高いレベルを選択した学生の割合にはほとんど変化が見られなかった。3年生では、A1を選択した学生の割合がすべての技能で1年生よりも多く、1年生で向上した英語の技能が3年生では低下したことが感じられる。「英語の学習方法（問74）」では、1、3年生とも「TOEICなどの参考書・問題集を購入して定期的に勉強」を選択した学生が最も多く（33%、34%）ついで「授業で使用している教科書、英語論文をよく勉強」（31%、26%）となっていた。徳島大学の語学マイレージ・プログラムでは、TOEICなどの外国語技能検定試験や英語の授業の点数が大きなウェートを占める。したがって、学生は大学のプログラムや授業に沿った英語の学習方法を選択していると考えられる。今後の課題としては、高学年での語学教育が挙げられ、教養教育と専門教育の英語の連続性を強化する必要がある。

「徳島大学における英語教育についての質問（問76）」では、1, 3年生とも「教養教育、専門教育で行われる英語教育で十分」という回答が最も多く（45%, 42%）、学生は現在の大学の英語教育に満足していることがうかがえる。「もっと授業数を増やして欲しい」という回答は、1, 3年生でそれぞれ10%, 20%であり、「ネイティブスピーカーの授業を増やして欲しい」はそれぞれ、11%, 16%だった。

全体として、学生は大学で提供されている語学教育に満足をしているが、語学力が入学後に低下したと感じる学生も多い。教養教育院としては、語学の授業内容の見直しや、語学マイレージ・プログラムの充実等を図る必要があると考えられる。

10 FD (Faculty Development) の観点から

FDは教員や組織の教育力向上を目的として実施しているが、その成果は学生の学習効果や学習への取組に反映されてこそ意味を成すものである。本調査を踏まえ、FDの観点から次の4点について、現状と課題を述べる。

1. アクティブラーニング

近年の大学教育においてはアクティブラーニングの導入が強く求められている。本学においても平成26年度から令和元年度にかけて、大学教育再生加速プログラム（テーマI アクティブラーニング）を採択し、学内のアクティブラーニングの推進に取組んできた。令和2年度は、コロナ禍で多くの授業がオンラインで実施されたにもかかわらず約73%の授業がアクティブラーニングを取り入れていたことがわかっている（本学KPIより）。これは、令和元年度の約78%と同程度の数値である。これらの結果から、コロナ禍であっても本学のアクティブラーニングは実践されており、教員に取組が浸透している結果だと言える。一方、学生の授業経験の面からみると、問4「学生が体験的に学ぶ」、問11「学生が意見を発表する」、問12「学生同士が議論する」などは、令和元年度調査と比較して、1年、3年ともに減少している。また、問19「理解の促進につながった授業方法（複数選択）」においては、課題演習を除いて選択率は40%を下回り、グループワーク、ディスカッション、また近年注目される反転授業などは、1年、3年ともに20%以下である。これらの結果から、アクティブラーニングを実施はしているものの、学生の実感として学習内容の理解につながっていないことが一部で起きているとも考えられる。今後は、アクティブラーニングの手法だけでなく、授業設計全体を考えることやオンラインで実施できるアクティブラーニングをテーマとしたFDが必要になると言える。

2. 授業外学習時間

我が国の大学生の授業外学習時間が短いことはよく知られているが、本学でも同様の傾向にある。上述した大学教育再生加速プログラムにおいても、必須指標に学生の授業外学習時間（平均値）が数値目標とされていたが、この項目だけは6年間で微増であり、大幅に目標値を下回った（令和元年度最終目標10時間／週に対し、実際6.5時間／週）。令和2年度については、令和元年度調査と比較して、1年、3年ともに問35「授業の課題・準備・復習」、問36「授業に関連しない勉強」の時間数が増加している。これは、コロナ禍の状況で全国的に言われている傾向と同じであり、多くの教員が授業学習を課したことによると推察できる。一方で、課題が多すぎて課題に追われるという学生の声を全国的によく聞く。この要因としては、課題の意図が明確でないこと、つまり出席確認代わりに負担のある課題を課し、フィードバックなどを行っている事例が多発していると推察する。問9「定期的に小テストやレポートが課される」について、1年、3年ともに「頻繁にあった」という回答が令和元年度に比べて大幅に増加している。一方、問10「教員が提出物に添削やコメントを付けて返却する」では、「頻繁にあった」という回答が1年、3年ともに13%であり、肯定的な回答も約60%と、令和元年度と同じ数値であった。これらの結果から、オンライン授業における課題の出し方、評価の仕方などのFDが必要であり、効果的かつ容易にできるフィードバックの仕方も共有することも必要である。

3. 初年次教育科目 (SIH 道場)

本学では、平成 27 年度より、全学的な初年次教育科目 SIH 道場を実施している。問 89 「SIH 道場の満足度」について、肯定的な回答は 1 年生で 35%、3 年生で 37% である。問 103 「SIH 道場の内容の役立ち度（複数選択）」においても 1 年生においてはレポートの書き方を除いて 20% を下回っており、3 年生で選択率が上昇するものの約 30% 程度であり、20% を下回る項目も複数存在する。一方、知識や能力の変化を問う設問において、SIH 道場の 3 つの力（文章、プレゼン、他者との協働）に関連する問 49、53、56 について、3 年生はすべてにおいて 60% 以上が増えたと回答しているが、1 年生で知識や能力が増えたと回答した学生は、文章力は 60%、プレゼン力、協働力は 40% である。これは学年による回答の違いやコロナ禍におけるプログラムの違いも考えられるが、いずれにしても学生が実感している知識や能力の変化と比べて、SIH 道場の満足度や役立ち度が低いように見える。SIH 道場で掲げる 3 つのスキルは学習を行う上で基礎になるラーニングスキルであり、SIH 道場の改善が進めば、知識や能力の変化もさらに見込めるのではないかと考える。令和 2 年度から SIH 道場を各学部・学科単位でそれぞれが責任を持ち進めており、全学的な情報交換や効果検証が行われていない。教育プログラムの検証を行うためにも、全学的に統一された科目は有効な指標となることから、何らかの対応も必要であると考える。

4. 学生の意見を取り入れる

授業を評価し、改善するためには、学生の意見を取り入れることも重要である。1 年生調査の問 125 及び 3 年生調査の問 128 「授業評価アンケートの内容は授業改善に必要であるか」という設問では、肯定的な回答が約半数程度であり、3 年生調査では過半数を下回っている。授業評価アンケートは、多くの授業で実施されており、学生は毎学期末には多い学生は履修科目数分のアンケートに回答している。しかし、回答する学生が必要性を感じていないようであれば、アンケートが負担になっていると考えられる。学生による授業評価アンケートは、授業の評価、改善をするための重要な指標の 1 つとなりうるが、その活用方法や設問の妥当性を検証することも必要ではないかと考える。現在、本学では自己点検評価委員会において授業評価アンケートを実施しているが、FD の観点からも設問を見直し、結果の活用ができるように、実施体制を再検討することが必要であると考える。

11 e ラーニング

本学において ICT を活用した学修が学生にどの程度浸透し、実質化しているのかについて、e ラーニングの活用という観点から、アンケート結果を概観し、併せて今後の課題について考える。

本学の学修の質についての俯瞰を、e ラーニングという観点から、大きくは e ラーニング利用実態、e ラーニングへの印象、e ラーニングへの期待から見ていく。また、e ラーニングに関する質問についても参考する。結果を見る前に、今回の調査は 1 年生と 3 年生を対象におこなわれている。1 年生の結果からは、主に、教養教育の学修の実態が浮かび上がり、3 年生の結果からは専門教育の学修の実態が浮かび上がるのではないかと考えられる。2020 年度は本学も COVID-19 感染拡大の影響を受けた。特に、1 年生は大きな影響を受けたものと想像される。前期を中心に授業がオンライン授業となったことは、学修へ変化があったと想像される。今回の調査から、こうした COVID-19 による影響がうかがえるかもしれない。また、2019 年度より本学で導入された BYOD による学修への影響が、反映されている可能性がある。3 年生以上は、BYOD 実施の前に入学しており、1 年生と 3 年生の間に BYOD 実施の影響が反映している可能性がある。なお、1 年生の回答率は高いものの、3 年生においては一部の学科・コースで回答率が低いものがあり、以下では、基本的に全体の傾向に基づき述べることにする。ただし、特徴的な点がある場合は、個別の事例について触れることとする。

まず、本学の e ラーニングの利用が普及しているのか、また学修へ何らかの影響を及ぼしているのかを見てみる。問い合わせ 122（3 年生は問い合わせ 125）は、本学が提供する e ラーニングサービスの利用の傾向についての質問である。1 年生

と3年生の間に傾向の違いはみられない。本学が提供する全学LMSサービスであるmanabaに関して、1年生、3年生ともほぼ全員が利用したと答えている。2020年度はCOVID-19感染拡大の影響を受け、前期の授業が全面的にオンライン形式となり、結果的に全ての授業でmanabaが利用されたことを表していると考えられる。また、知プラe科目用LMSであるmoodleも一定数の学生が利用している。特に、1年生において、特定の学科・コースで利用者が多く見られる。知プラeの科目的利用が、本学において徐々に浸透しているものと理解される。さらに、スーパー英語の利用は、1年生、3年生ともに三割程度であり、語学マイレージの理解や活用が進んでいることがうかがえる。20%程度にくらべてやや多い。まず、eラーニングのインフラとしてのLMSの利用は学内全体に普及していることが分かる。なお、eポートフォリオ(mahara)に関して、2020年度からSITH道場の実施形態が変更されたこともあり、3年生に比べると1年生は利用がやや減っており、1年生は全体的に利用されたというよりも特定の学科・コースで利用されたものと考えられる。eポートフォリオについて、次年度以降の利用を目指し、maharaから新しいサービスへの切り替えの準備を進めている。問い合わせ122の結果から、本学においてeラーニングは、教育活動のインフラとなっていることが分かる。

問い合わせ122以外からeラーニングの利用の様子を補足的に捉えることとする。授業の課題作成にWebを利用したかを調べた問い合わせ21、および資料配付やレポート提出にインターネットが利用されたかを調べた問い合わせ22では、1年生と3年生は、ほぼ同じ傾向を示している。資料の配付、課題の提出や授業の調べ物にWebが広く活用されていることが分かる。調べ物としてのWebの活用は、1年生、3年生どちらも9割以上の学生がおこなっている。資料の配付や課題の提出にも、1年生、3年生とも9割以上の学生がインターネットを利用している。さらに、学修の情報源について調べた問い合わせ65では、1年生と3年生ともに9割以上の学生がインターネットを情報源としていることが分かる。1年生と3年生間では、3年生になるとやや授業の資料や、図書館の文献等を情報源とする割合が高くなるものの、インターネットからの割合は1位である。インターネットが学修の主な情報源として活用されていることが分かる。インターネットは学修の有益なツールであるものの、フェイクニュースを見極める能力や、安易なコピペによる剽窃を行わない倫理観等、ネットに対する相互的なリテラシーの重要性は今後ますます高まると考えられる。さらに、コンピュータの操作能力の向上について調べた問い合わせ58について見ておく。この質問も1年生と3年生の間で差は見られない。8割前後の学生は操作能力が増えたと答えている。2020年度はCOVID-19の影響により、日常的に情報機器を操作する必要に迫られたことから、操作能力の向上を意識した学生の割合が高かったと考えられる。以上のようなことから、本学のeラーニングの活用は、LMSの利用を中心に、普段の授業で利用されていることが分かる。日常の修学にeラーニングは位置づけられており、授業の調べもの、資料の配付、課題の提出に広く活用されている。

次に、学生はeラーニングを用いた学習をどのように捉えているかを見てみる。問い合わせ123(3年生は問い合わせ126)のeラーニングが学修に役立つかという問い合わせに対し、1年生と3年生の間に傾向に変化はなく、6割以上の学生が役立つと答え、eラーニングを肯定的に捉えていることが分かる。問い合わせ124(3年生は問い合わせ127)の今後eラーニングを増やした方が良いかどうかの質問についても、1年生と3年生に大きな差はなく、5割程度の学生が増やした方が良いと答えている。また、大学での教育において獲得を期待する能力について質問した問い合わせ63では、1年生と3年生の間で傾向に差は見られない。2割程度の学生が情報機器活用能力の獲得を挙げている。教養や専門知識、コミュニケーション能力や問題解決能力と並んで、情報活用能力の必要性を意識していることが分かる。問い合わせ123、問い合わせ124、問い合わせ63等から、本学の学生はeラーニングのサービスに満足と期待していることが分かる。また、情報活用能力の必要性を理解し、修学に臨んでいることも分かる。

さらに、本学の提供するeラーニングを環境的な面から、学生がどのように受け止めているのかを見てみる。問い合わせ108の本学コンピュータ施設や設備の満足についての質問で、3年生は51%の学生が満足していると答え、1年生は36%の学生が満足と答えており、1年生と3年生にやや違いが見られる。もっとも、不満と答える学生は1年生、3年生に

差は見られない。COVID-19 の感染拡大の影響で、本年度前半において 1 年生は登校できない期間が続いたことから、大学の基本的な設備やサービスへの理解が広がらなかつたことが推測される。問い合わせ 109 のコンピュータ利用の支援についての質問では、1 年生と 3 年生の間で大きな違いは見られなかつた。4 割弱の学生が満足と答えている。問い合わせ 108 のインターネットの使いやすさについての質問でも、1 年生、3 年生のどちらの学生も 4 割前後の学生が満足と答えている。本学の情報機器の環境整備や支援体制に対して、4 割程度の学生が肯定的に答えていることから、多くの学生はおおむね現状に満足していることが分かる。3 年生は BYOD が導入される前に入学した学生である。本学の設備やサービス、また、支援体制への満足度について、1 年生と 3 年生の間に傾向等に差は見られなかつた。このことは、3 年生や 4 年生においても、既に自分用のノート PC を持ち、実質的に BYOD が進んでいたのではないかと推測される。

今回の調査から、e ラーニングの活用という点からものではあるが、ICT を活用した学修が日常的に行われていることが分かる。本学において e ラーニングは授業のインフラとなっていると考えられ、学生は現状に対し一定の満足を示していることも分かる。2020 年度は COVID-19 の影響を受け、本学の授業実施で LMS の活用は、ほぼ必須となつたことが分かる。e ラーニングの利用が広がった結果、全体の傾向と同じ傾向を示している。もはや、教養教育や専門教育等の部局による差や、学年による差は見られなくなつたと言える。全体的に活用が進んでいることが分かる。ただし、e ラーニングの活用は、情報通信技術の進化を背景に、今後もますます活発になる。情報通信技術は、IoT の普及や、5G の導入と技術革新は続くことから、本学においても学修の情報環境の整備に今後も努めなければならぬ。

e ラーニングの活用において、今回の調査からその普及を認めることができる。一方で、学修の質という点から、有用性について明確な実感を持てない（どちらでもない、あまりそう思わない、全くそう思わない回答した）との学生が一部いることも事実である。このことは、教育活動における ICT 利用が一般化する中で、情報機器を使いこなしている学生と、なじめない学生の二分化が進んでいることを示していると考えられる。今後、活用能力に不安を感じる学生へのサポートの充実が必要になる。

12 附属図書館

読書傾向を見ると 1 週間に 1 時間以上読書をすると答えた学生が、1、3 年生共に 30% となっている（問 40）。読書についての考え方（問 117）では、「もっと読書をしたいが、時間がない」とした学生が 1 年生 47% に対し、3 年生で 54% に達し、学年が進むにつれて、読書のための時間が少なくなっていく傾向がうかがえる。また読書の必要性を感じていない学生が、1、3 年生共に 10% 近くいて、忙しい学年、無関心な層への読書推進の働きかけが課題となってくる。

図書館の資料の利用（問 20）については、授業課題のために図書館の資料を利用したことが「ひんぱんにあった」「ときどきあった」と回答している学生が 1 年生 37% に対し、3 年生では 68% に達している。調べ物をするときの情報源（問 65）として図書館の書籍・文献をあげている学生の割合も、1 年生 30% 強に対し、3 年生では 50% 近くに上昇している。また、附属図書館の設備（蔵書やレファレンスサービス）への満足度（問 106）を見ると、1 年生 52% が「とても満足」もしくは「満足」と回答しているのに対し、3 年生では 63% と高い値を示している。

学年が進むにつれ、インターネットだけでなく信頼性の高い図書や文献データベース等を利用するようになる傾向は昨年度と同様だが、令和 2 年度はコロナ禍により、図書館の利用が制限されてきたことへの影響が、特に新入生に対し顕著となっている傾向もみられる。この年度に 1 年生であった学生に対する長期的な支援が必要である。

学修支援サービスの利用（問 116）については、昨年と同様 1、3 年生共にグループ学修スペースの利用が最も多いが、どのサービスも利用していないという学生が 1 年生では 60% 後半、3 年生では 50% 半ばに達している。本設問には自学自習などを目的とした利用は含まれず、図書館の利用動向全体を示すものではないが、コロナ禍をきっかけ

とした図書館離れが起こらぬよう、感染拡大防止対策のための「新しい生活様式」に対応した学習支援サービスの充実、広報体制の強化が課題となる。

第3章 まとめと提言

「学生の学修に関する実態調査」（平成 28 年度までは「学生の学習に関する実態調査」の名称で実施）は、今回で 6 回を数えることとなった。令和元年度に行われた前回調査（第 5 回）以降、大学 IR コンソーシアムの学生調査と合同で、1 年生と 3 年生を対象に毎年実施している本調査により、学生生活全般にわたる状況とともに、学生の学修意識や学修に関する実態について、経年変化を含むより詳細な情報を把握できるようになっている。この章では、今回の調査結果を項目ごとにまとめ、若干の提言を付しているが、その際には前回調査での「まとめと提言」についても視野に入れている。

本調査は本学に在学する 1 年生（1,338 人）及び 3 年生（1,373 人）を対象とし、令和 2 年 10 月 1 日から 11 月 30 日までの間に、教務システム上（Web）で実施したものである。アンケート回収率は 1 年生で 67.3% と、過去の回収率とほぼ同様の値であったが、3 年生では 50.2% に留まり、前回調査の 69.1% を大きく下回っている。なお、設問の番号については「（設問〇〇）」と表記し、学年で書き分ける場合には、その後に「：1 年生」「：3 年生」と付記することとした。よって特に記載のない場合は、両学年で共通して同じ設問の番号であったことを示している。

1. 新型コロナウイルス感染症の影響について

徳島大学では、令和 2 年 2 月 20 日に徳島大学危機対策本部が設置され、新型コロナウイルスに関連した感染症対策に当たることになった。これ以降、授業の実施に関わる基本方針について、感染症の状況に応じて更新を繰り返しながら対策が講じられることになった。この間、感染防止措置を徹底するために対面授業の実施を認めない期間が生じたが、学生の勉学機会を確保する方策として Web 環境を用いた遠隔授業が積極的に導入されるに至った。

このような状況の下、学修を進めなければならなかった学生が受けた影響は、負の側面も含め多大なものだったと想像する。その一端は今回の調査結果からも如実に表れているが、その影響を本調査のみで分析することは拙速の誇りを免れない。たとえば常三島地区と蔵本地区では、学生の入構禁止期間が異なっているケースもあるなど学部学科を越えた安易な一概は避けるべきであろう。本章でも新型コロナウイルス感染症については適宜触れることになるが、本学学生の学修が受けた影響の全体像を検証することは、残念ながら後考を期さなければならない。

2. 将来、及び、将来と関係する教育について

学生は将来のことについてどのように考えているのか。前回調査の「まとめと提言」では、いずれの学部学科においても早い段階である程度の進路を見定めていると評価しつつも、進路選択が現実味を帯びる 3 年生後半の時期でも進路未定の学生が一定数存在することを指摘し、キャリア教育の充実が継続的な課題であると提言している。この点について、今回の調査からはどのような特徴が見て取れるだろうか。

学生がどのような進路を考えているか（設問 127：1 年生、設問 130：3 年生）について、1 年生の段階で「就職する」「大学院に進学する」と回答した割合は、いずれの学部学科においても 60～90% 近くにのぼっており、前回調査同様、早い時期から進路を見定めていることがわかる。同じ設問に対し「まだわからない」と答えた割合は、ほとんどの学部学科の 1 年生でおよそ 15～30% 程度、それが 3 年生になるとおおよそ 10% 前後、多くても 20 数 % となっており、この時点で進路はほぼ定まりつつあることが示唆される。ただし、「将来の見通し（将来こういう風でありたいという考え方）」を持っているか、またその「見通しの実現に向かって」何をすべきかという自覚があるか、さらには具体的に行動しているかを問うと（設問 128：1 年生、設問 131：3 年生）、3 年生後半の段階でも 10～20% が見通しを持っておらず、さらに「将来の見通しを持っている+何をすべきかわからない」との回答では、10 数 % から 50% に及ぶ学部学科も存在する。

また3年生に対しては、「卒業後の進路の準備をしたり考えたりするため」に何を経験したいかとの項目（設問130～143）を立て、「専門分野をしっかりと身につける」「就職意識の形成につながる教育を受ける」「企業での体験学習等を踏ました上で、専門知識を学ぶ」「ディベートやプレゼンテーションの訓練を受ける」「レポートや論文指導により、文章作成能力を高める」などに対する考え方を問うている。ここに挙げられた各種能力・技能を必要と考える割合は、前回調査に比して全体的に上昇している。その要因は不明だが、各学部学科の学生が何を求めているかを知る貴重なデータであり、キャリア教育充実の重要性はもちろん認識した上で、学年進行に伴ったきめ細やかな教育が必要と考えられる。

3. 大学教育について

大学での教育で必要なのは専門的知識だけではなく、社会的な使命として基礎的・汎用的能力も求められている。前回の「まとめと提言」ではこの点を重視し、いかに意識させ、継続的な学びに繋げていくかについて述べており、その一つとして双方向教育を施すアクティブラーニング等の導入を評価している。

大学での学びについて、学生の観点からはどうとらえられているのか。この点について、「大学における教育に対して、何を期待するか」について複数回答可で尋ねたところ（設問62）、1年生全体では「社会に出た時に役に立つ知識・技術・技能」が群を抜いて多く、次いで「資格取得に必要な知識あるいはその受験に必要な単位」、「人生を支える幅広い教養」と続いている。学部学科別にみれば、「資格取得」と「幅広い教養」の順序が入れ替わる総合科学部や理工学部の一部学科、「役に立つ知識・技術・技能」に「資格取得」が匹敵ないし逆転肩を並べる医学部・歯学部・薬学部という特徴は例年見て取れる特徴であり、3年生でもほぼ同様の結果となっている。

「大学の教育によって獲得が期待できる知識・能力」を選択する設問（設問63）において、1年生全体では「専門的知識」が群を抜いて多く、この傾向は前回調査と同様であった。社会から求められる能力・技能が多様化するなか、専門的知識だけではなく基礎的・汎用的能力も必要であることを今一度再認識する必要と考えられるが、「一般知識・教養」「コミュニケーション能力」「課題発見・解決力」といった項目も全般的に高く、学生も入学直後からの導入教育やキャリア教育等を通じて基礎的・汎用的能力の重要性を十分に認識しているものと考えられる。

4. 学生の学びについて

前項とも関連する大学での学びについて、アクティブラーニングやグループワークの導入など、幅広いアンケート結果をまとめて具体的に提言していた前回調査だが、今回それと大きく異なる要素、すなわち新型コロナウイルス感染症の影響が、例年とは異なる調査結果をもたらすことになった。それは今年度から大幅に導入された遠隔授業をはじめとして、学修の面でも大きな変化となって表れた。

その影響を大きく受けたのが、体験的な学びであろう。「実験、実習、フィールドワークなどを実施し、学生が体験的に学ぶ」機会がどのくらいあったかという問い合わせ（設問4）では、「あまりなかった」「まったくなかった」を併せる1年生全体で66%に上り、前回調査の33%から倍増することになった。ただし、医科栄養学科・理工学科（機械科学）・生物資源産業学部など、学部学科によっては「ときどきあった」の割合が5割を超えたところもある点は留意しておきたい。一方の3年生では、「ひんぱんにあった」「ときどきあった」を併せた割合が、前回調査と変わらず8割を占めており、遠隔授業の急増という状況下でも初年度教育と専門教育との違いが現れる結果となった。

「授業内容を理解できる科目的割合」を問う設問（設問18）では、「80%以上」が1年生・3年生ともに全体で3割前後、「70%以上」では4割程度にのぼった。また、授業内容の理解促進につながる方法を複数回答で尋ねたところでは（設問19）、課題演習が多くを占め、次いで振り返り、少し差があつて質疑応答とグループワークが続き、1年生の一部学科で回答が多かった反転授業が、例年に比して高い割合となった。この結果からは、課題演習による振り返りによって学びを定着させることの重要性や、グループワークやディスカッション等を取り入れることが、授業に

よっては理解促進に大きく寄与することが伺える。

大学で身につけた能力や知識について、入学時と比較する設問（設問42～61）では、1年生と3年生で異なる傾向を示した。まず1年生では、汎用的技能については入学後に能力が伸びたとする一方、社会性や人間関係に関する能力では前回調査よりも低い評価に終わった。たとえば、アカデミック・スキルに関わる「文章表現の能力」「プレゼンテーションの能力」「コンピュータの操作能力」は前回調査よりも「大きく増えた」ないし「増えた」の割合が増加している。しかし、「リーダーシップの能力」や「人間関係を構築する能力」、「他の人と協力して物事を遂行する能力」については全体として「大きく増えた」「増えた」がともに減少、「コミュニケーション能力」が「減った」と答えた割合は、わずかながらも2%から8%に上昇している。

同じ設問について、3年生では多くの項目で前回調査とほぼ同じ結果がでたなか、「専門分野や学科の知識」や「批判的に考える能力」では、全体として「大きく増えた」ないし「増えた」の割合が増加している。逆に、「一般的な教養」や「数理的な能力」では「大きく増えた」「増えた」の割合が下がっている。

これらについては継続的な分析が必要と考えられるが、やはり新型コロナウイルス感染症の影響による学修の在り方の変化を排除するわけにはいかないだろう。いかに社会性を涵養するかについては、遠隔授業の導入後の初年次教育において特に喫緊の課題である。さらにいえば、全体として以前と「変化なし」と回答する学生も項目によっては目についた。入学後の学修によりこれらの能力を伸ばすことができる学生とそうでない学生の混在が垣間見える。今後、教育効果を高めるためには両者の見極めや多様な教育方法を模索すべきかもしれない。

「授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」（設問35）では、1週間で「全然ない」と答えた学生の割合が両学年で2～3%に留まっているが、1週間で10時間以下とした場合には、その割合はともに7割を超てしまう。8割前後にのぼった前回調査からわずかに低下しているものの、時間外学習をいかに促すかは大きな課題として残っている。この問題については、単位の実質化問題として議論されているところであり、本学もその例に漏れない。遠隔授業が増加し、それに伴って学生が課題学習に追われる一方で、1週間のトータルでみると時間外学習ではそれほど変化がないとも言え、授業科目により課題の質・量に差があることが考えられる。今年度は出欠確認として毎授業で課題が出されるケースが増えたが、教員側でも単なる確認で終わらせない工夫に取り組むべきであり、またそこから自主学習全般にいかに繋げていくかを今後の課題として全学的に共有し、検討していく必要があろう。

「レポートや宿題で、調べものをするときの情報源」を複数回答で尋ねたところでは（設問65）、「教科書・参考書・授業での配布資料」と「インターネット」が高く、ほとんどの学部学科でこの2項目が競り合う結果となった。これに続いたのが「講義ノート」で、一部の学部学科で「図書館の書籍・文献（電子版を含む）」がそれを上回るところもあった。インターネットによる情報収集が、従来型ともいいくべき教科書やノートに並ぶに至ったことは、BYOD化の導入も一役買っている可能性があるが、やはり今年度においては大学施設等が使えない期間があったこともあって、自主学習におけるインターネットの比重が多くの場面で増えたと推量される。だからこそ、情報リテラシーの教育の徹底に今一度取り組む必要があるだろう。

クラス担任制度（設問115）に関しては、「とても満足+満足」、「どちらでもない」、「不満+とても不満」の割合がそれぞれ3割強、5割強、1割弱となっており、前回調査との比較でも学年によってもほとんど変化がなかった。学修面のみならず、学生生活全般の相談窓口ともなり得るクラス担任の制度だからこそ、その満足度を高める努力が必要となるが、同時に学生の抱える問題を担任教員に負わせるようなかたちではなく、それをサポートするような学部学科ないし全学的な仕組みの整備・充実も求められるのではないだろうか。

シラバスの活用（設問121）については、「気になった時に時々確認している」が1年生で6割にのぼった。3年生では前回調査とほぼ変わらなかつたが、1年生では「毎週確認し、授業の予習・復習に役立てている」が減少している。この点は、オンライン（あるいはオンデマンド）で実施された新入生オリエンテーションのなかで、十分に説明できなかつたことケースもあったと考えられ、加えてシラバスの内容自体についても、引き続き予習・復習に役立て

られるようなものにする努力を行うべきである。

カリキュラムマップ（設問 119）や科目ナンバリング（設問 120）の認知度については、「知っており、見たことがある」割合が 1 年生で 3 割、3 年生で 4 割を超える程度であった。前回調査と比較すると若干下がっており、この点もオンラインで実施された新入生オリエンテーションでの説明不足に起因する可能性がある。ただし、3 年生でも「知っており、見たことがある」割合が 4 割を超える程度であり、「知らない」との回答が 3 割存在していた点は、注意する必要があるだろう。学年を問わず、長期的な学修の方向性を確認する上で、また年度ごとの履修計画を立てる上で有益であることを理解させながら、さらなる周知に努めることが求められる。

5. 教養教育の授業について

前回提言では、履修科目の選択における情報源について、選択の幅を広げる方向での改善が求められていた。この点につき、今回調査の「教養教育科目的選択」については（設問 101）、「好きな科目や面白そうな科目を選択」との回答が最も多く、次いで「単位をとりやすい授業を選択」および「広い教養を身に付けるため」が続いた。他方、1 年生で拮抗していた両項目が、3 年生では「単位をとりやすい授業」が伸びて「広い教養」に差をつける結果となっている。

この結果に関連して、「教養教育科目的選択にあたって重視した情報源」を尋ねたところ（設問 102）、1 年生全体では「「履修の手引き」やシラバスに記載された情報」が他を大きく引き離している。また先輩や友人からの助言・情報が前回調査よりやや数字を下げていて、既に情報網を構築している 3 年生では目立った変化はなかった。これも新型コロナウイルス感染症による影響とみられるが、特に新入生にとっては、先輩からのアドバイスや友人との情報交換が履修にとって貴重な情報源となっていることが、改めて認められる結果となった。なお、「教員からの助言や情報」は前回調査と同様に低い割合となっている。教員が「単位をとりやすい授業」について助言することは論外であるが、「広い教養」や「専門の基礎を築くため」といった点では、教員によるアドバイスももっと求められてよいはずである。教養としての教育の面白さやその意義を伝える機会が履修の選択以前に設けられれば、さらに選択の幅が広がるのではないだろうか。

6. 専門教育の授業、研究室配属（卒業研究、医学研究実習、看護研究、研究基礎ゼミ）について

専門教育に関連した前回調査時の主な提言は、専門に関して深い学びが実現していることを踏まえ、よりよい学修・研究の環境を整備することであった。「コロナ禍」にあった今回調査からはどうのような問題が浮かんできただろうか。

まず、専門教育科目全般について複数回答で尋ねた「専門教育科目的授業を受けて何を学ぶことができると思いますか」（設問 104）では、1 年生全体で「専門の知識を身に付けるのに役立った」が多く、「学問・研究に興味が湧いた」と「自分の進路について考える事ができるようになった」がほぼ同じ割合となった。これが 3 年生全体となると、「自分の進路」が逆転し「学問・研究」にわずかに差をついている。

「授業内容の難易度」については（設問 105）、1 年生全体では「もっと高度にすべき」が 6%（前回 10%）、「適切である」が 83%（前回 71%）、「もっと易しくすべき」が 9%（前回 13%）であった。同じく 3 年生では「もっと高度にすべき」が 11%（前回 15%）、「適切である」が 77%（前回 69%）、「もっと易しくすべき」が 8%（前回 11%）という結果となった。若干ながら、1 年生では難易度を上げるべきだという声が多く、逆に 3 年生では適切との評価が増えているようである。1 年生での意見が教養教育での授業を、3 年生が専門教育での内容を示すものとしてよいならば、専門的かつ高度な教育内容に入る前段階の、幅広い教養を多様な学生に提供することの難しさを表しているのかもしれない。一例として、語学などの能力別クラス編成を検討することも含め、高度な内容に適応できない学生の存在には当然ながら配慮しつつ、向上心を持ちながらより高度な内容を求める学生の学修意欲をいかに満たすかについても心を配る必要があろう。

3年生に対して研究室配属の決め手を複数回答で問うたところ（設問122），全体では「関心の深い研究内容であつたから」「将来のやりたい仕事や進路に必要と思ったから」が多くを占める結果となった。この設問を学部学科ごとにみてみると、「先輩や友人の勧めで」「教員の人柄に魅力を感じたから」「研究室の雰囲気で」といった回答が高い割合でみられるところもあり，前回調査と変わらず自分の関心や将来を見据えた選択をしていることがわかる。また，卒業研究やゼミにおいて何が得られると思うかを尋ねると（設問123），「専門的知識や技術」「学問・研究への興味や知的好奇心」「進路を考えるための広い視野」との回答が並んだ。選択時の意識が継続し，学修の成果として結実している学生が多いと評価してよいだろう。一方で少ないながら「やむを得ず入った」や「どこでもよかった」という回答もあり，特に今年度は「どこでもよかった」を選ぶ学生が前回よりわずかに増加して1割を超えている点について注視しておく必要がある。その点，「授業をつまらなく感じた」（設問28）や「あなたの学生生活は充実していますか」（設問87）のほか，大学教育に対する期待や満足度についての回答結果に関連する可能性も想定しながら，慎重に分析を継続しなければならないだろう。

1年生に尋ねた「本学の設備や学生支援制度」の満足度（設問106～115）では，前回調査とほぼ同じか，「どちらでもない」の割合に増加がみられる結果となった。これは遠隔授業の急増により，登校して施設を利用する機会が減少したことを如実に示すものであろう。なお，3年生への研究を進めるための環境に関する設問（設問124）では，3年生全体で「設備，スペースともに十分である」が5割を超えた。ただし，学部部学科によっては3割程度に留まるところもあり，設備もしくはスペースが十分でないと回答になると，多くの学部学科で4割に迫っている。限りある予算・スペースのなかで，いかにも十分な研究環境を確保するかは学修の充実に欠かせない要素であり，速やかな改善が望まれる。

7. 英語学修・教育と海外留学について

外国语，特に英語の修得と海外留学については，聞く，読む，話す，書く技能におけるそれぞれの到達レベルや学習状況についての質問項目を並べ，集中的に調査した（設問69～76）。なお，1年生には入学時と1年生後期（調査時）での到達レベルを尋ねており，サンプルは異なるものの，3年生での調査と併せると入学時から3年生に至るまでの経時的变化を見ることが可能となる。ただし，この点は前回調査と同様に，こうした能力における到達度について明らかな変化は確認できない。学年進行と英語能力の関係は，語学検定試験の結果等のデータと併せて慎重に検討していく必要があるだろう。

また，どのように英語の勉強を行っているかを複数回答可で尋ねると（設問74），1年生・3年生ともに全体では「TOEICなどの参考書，問題集を購入して定期的に勉強している」が多く，「授業で使用している教科書，英語論文をよく勉強している」が続いた。前回調査では1年生で最も多かったのは「授業で使用する教科書」であり，今年度は入学時からTOEIC対策が意識付けされている可能性もある。なお，次年度からは語学マイレージポイント制の卒業要件適用学年が卒業年度を迎えることになり，前回の提言でも英語力の伸びに繋がるものと期待されている。こうした経年的な調査結果の蓄積を分析し，それを踏まえて英語教育に取り組むことが重要になってくる。

8. e ラーニングについて

学修におけるe ラーニングサービスの利用については従来から高い値であったが，今回の調査では1年生の利用サービスに多少の変化がみられた（設問122）。学部学科による違いはあるものの，Manaba，スーパーエンジニアリングに続いて一定程度の利用がみられたMoodleおよびMaharaについては，大幅に減少している。一方の3年生では，全体的な利用率に上昇がみられた（設問125）。「学修に役立つ」かどうかを問うと，何れの学年でも「非常にそう思う」「そう思う」との回答が10数ポイント増加し6割を超えており（1年生：設問123，3年生：設問126）。

新型コロナウイルス感染症の影響がオンライン学修科目以外の授業科目にも遠隔授業の導入を促し，その結果とし

てeラーニングサービスの利用頻度を高めたと考えられる。この状況にあって、「本学が提供しているようなオンライン学修科目を、今後も増やした方が良いと思うか」(設問127)との問い合わせに対し、「非常にそう思う」「そう思う」との回答が、4割前後であった前回調査から微増して5割に達している(1年生:設問124, 3年生:設問127)。急遽導入された遠隔授業を受け入れて順応したかにみえるが、よりよい学修に継続的に結びつけていくためには、システムと授業内容の双方から改良が求められるのではないか。

9. 授業評価アンケートおよび大学教育全体の満足度について

「授業評価アンケート」の設問は、授業改善に必要な内容であるかどうかを尋ねたところ(設問125:1年生、設問128:3年生)、「非常にそう思う」「そう思う」と答えた割合は、1年生全体で53%, 3年生全体では48%であった。150問に迫る本アンケートに協力を求める以上、回答した内容が将来の授業改善に結びつくと実感できるものでなければならないが、それが5割に留まっている点は反省すべきであろう。前回の提言にもあるように、設問内容の精査を継続するとともに、全学的な取り組みとして学生の声を反映した教育改革を目指すこと、またそれに直結するよう設問内容の精査を継続すること、そしてそれを学生にも丁寧に説明して引き続き積極的に協力を求めていくことが重要である。

大学教育全体の満足度(設問126:1年生、設問129:3年生)は、1年生・3年生とともに『秀・優』(81~100点)が2割程度、『良・可』(61~80点)が6割程度であり、前回調査とほぼ同じ結果となった。この結果を合格点に到達していると評価するか、将又優秀とはいえないと反省すべきなのかについては、「授業評価アンケート」が授業改善に必要かどうかを問うた上記設問と同様、解釈に苦慮するところである。しかしながら、「コロナ禍」に見舞われた今年度の教育に関しても、前回調査とほぼ変わらなかった点は一定の評価をしてよいのかもしれない。次年度に向けてよりよい学修の提供を目指すことは当然として、今後もこうした学生の「満足」を一つの指標として観察を続け、大学教育の改善に役立てることが必要である。

10. むすびに

最後に、この調査における調査項目の選定や調査の実施、また報告書の発行に際しては、ご支援、ご協力いただきました河村副学長はじめ事務局および大学教育委員会の方々、また企画・執筆・編集にご尽力いただきました「教育の質に関する専門委員会」の先生方に厚く御礼申し上げます。さらにアンケートの集計・編集等の作業にお骨折りをいただいた教育支援課・学務関係職員の皆様、またTAの皆様にも深く感謝申し上げます。今回の調査では新型コロナウイルス感染症の影響により大学への入構が制限され、アンケートの集計にも困難が生じました。そんななかで完成までこぎ着けることができたのは、皆様のご尽力の賜物です。有り難うございました。そしてなによりも、アンケートにご協力いただいた学生諸君に御礼申し上げたく思います。本調査が教育や学生支援の充実に反映されるよう、努力を続けて参りたいと思います。

なお、前回調査以降、経年変化観察や他大学との比較が可能となっておりますので、是非とも調査結果をご活用いただきますようお願い申し上げます。本調査が、本学のみならず大学教育全体の質向上に寄与することができれば幸甚です。

教育の質に関する専門委員会委員長 衣川 仁